別記様式第２号（その１の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

基　本　計　画　書

基　本　計　画		
事　項	記　入　欄	備　考
計画の区分	学部の学科の設置	
フリガナ 設置者	ガッコウホウジン　ムサシノダイガク 学校法人　武蔵野大学	
フリガナ 大学の名称	ムサシノダイガク 武蔵野大学（Musashino University）	
大学本部の位置	東京都江東区有明三丁目３番３号	
大学の目的	本学は、教育基本法及び学校教育法に準拠し、かつ、仏教精神を根幹として学識、情操、品性ともにすぐれた人格を育成するとともに、学問の研究を深め、世界の平和と人類の幸福に寄与することをもって目的とする。	
新設学部等の目的	【工学部】 仏教精神を根幹として学識、情操、品性にすぐれた人格を育成するとともに、専門的な知識を養い、持続可能な社会構築に向けて主体的に参画し、工学的手法により課題解決のできる人材を養成する。 【工学部サステナビリティ学科】 人類社会や地球環境のサステナビリティに対する深い理解に基づき、ソーシャルデザイン及び環境エンジニアリングの知識・方法・技術によって、サステナブルな世界の実現に貢献できる人材を養成する。	

新設学部等の概要

新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	年	人	年次 人	人		年　月 第　年次	
工学部 [Faculty of Engineering] サステナビリティ学科 [Department of Sustainability Studies]	4	70	－	280	学士 （サステナビリティ学） 【Bachelor of Sustainability Studies】	令和5年4月 第1年次	東京都江東区有明三丁目３番３号 東京都西東京市新町一丁目1番20号
計		70	－	280			

同一設置者内における変更状況（定員の移行，名称の変更等）	工学部環境システム学科（廃止）　（△70） ※令和5年4月学生募集停止

教育課程

新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数
	講義	演習	実験・実習	計	
工学部 サステナビリティ学科	49科目	121科目	0科目	170科目	124単位

教員組

	学部等の名称	専任教員等 教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員等
新設分	工学部 サステナビリティ学科	5人 (6)	3 人 (3)	2 人 (2)	0 人 (0)	10 人 (11)	0 人 (0)	120 人 (99)
新設分	計	5人 (6)	3 人 (3)	2 人 (2)	0 人 (0)	10 人 (11)	0 人 (0)	－ 人 (-)
既	文学部 日本文学文化学科	11 (11)	2 (2)	3 (3)	1 (1)	17 (17)	0 (0)	122 (122)
既	グローバル学部 グローバルコミュニケーション学科	7 (7)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	101 (101)
既	日本語コミュニケーション学科	3 (3)	4 (4)	1 (1)	1 (1)	9 (9)	0 (0)	99 (99)
既	グローバルビジネス学科	5 (5)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	91 (91)
既	法学部 法律学科	10 (10)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	144 (144)
既	政治学科	6 (6)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	126 (126)
既	経済学部 経済学科	7 (7)	5 (5)	1 (1)	1 (1)	14 (14)	0 (0)	117 (117)
既	経営学部 経営学科	10 (10)	4 (4)	3 (3)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	108 (108)
既	会計ガバナンス学科	6 (6)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	11 (11)	0 (0)	112 (112)

織の概要									
設分	アントレプレナーシップ学部 アントレプレナーシップ学科	19 (19)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	20 (20)	0 (0)	106 (106)	
	データサイエンス学部 データサイエンス学科	8 (8)	7 (7)	2 (2)	2 (2)	19 (19)	1 (1)	91 (91)	
	人間科学部 人間科学科	12 (12)	4 (4)	1 (1)	6 (6)	23 (23)	0 (0)	116 (116)	
	社会福祉学科	11 (11)	1 (1)	2 (2)	2 (2)	16 (16)	0 (0)	114 (114)	
	工学部 数理工学科	8 (8)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	11 (11)	0 (0)	105 (105)	
	建築デザイン学科	5 (5)	2 (2)	1 (1)	1 (1)	9 (9)	2 (2)	123 (123)	
	教育学部 教育学科	10 (10)	7 (7)	5 (5)	0 (0)	22 (22)	0 (0)	117 (117)	
	幼児教育学科	4 (4)	5 (5)	1 (1)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	113 (113)	
	薬学部 薬学科（6年制）	16 (16)	1 (1)	26 (26)	12 (12)	55 (55)	1 (1)	87 (87)	
	看護学部 看護学科	9 (9)	6 (6)	9 (9)	7 (7)	31 (31)	5 (0)	119 (119)	
	通信教育部 人間科学部人間科学科	4 (4)	1 (1)	2 (2)	1 (1)	8 (8)	0 (0)	104 (104)	※通学課程を兼ねる
	通信教育部 教育学部教育学科	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	68 (68)	※通学課程を兼ねる
	計	171 (171)	65 (65)	64 (64)	36 (36)	336 (336)	9 (4)	－ (－)	
合計		176 (177)	68 (68)	66 (66)	36 (36)	346 (347)	9 (4)	－ (－)	

教員以外の職員の概要	職種	専任	兼任	計
	事務職員	237人 (237)	15人 (15)	252人 (252)
	技術職員	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	図書館専門職員	2 (2)	0 (0)	2 (2)
	その他の職員	2 (2)	0 (0)	2 (2)
	計	241 (241)	15 (15)	256 (256)

校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
	校舎敷地	82,698.59㎡	1,352.00㎡	15,977.44㎡	100,028.03㎡	武蔵野大学高等学校（収容定員1,200人、運動場必要面積8,400㎡、校地必要面積は基準なし） 武蔵野大学中学校（収容定員750人、運動場必要面積8,400㎡、校地必要面積は基準なし）
	運動場用地	30,383.01㎡	0.00㎡	4,759.00㎡	35,142.01㎡	
	小計	113,081.60㎡	1,352.00㎡	20,736.44㎡	135,170.04㎡	
	その他	5,482.84㎡	0.00㎡	0.00㎡	5,482.84㎡	
	合計	118,564.44㎡	1,352.00㎡	20,736.44㎡	140,652.88㎡	

校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
	86,841.40㎡ (86,841.40㎡)	624.78㎡ (624.78㎡)	15,890.59㎡ (15,890.59㎡)	103,356.77㎡ (103,356.77㎡)	武蔵野大学高等学校（収容定員1,200人、校舎必要面積6,240㎡） 武蔵野大学中学校（収容定員750人、校舎必要面積4,320㎡） ・借用面積 有明4号館 4,735.4㎡ 借用期間：20年6か月

教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	
	135室	39室	85室	4室 （補助職員 7人）	0室 （補助職員 0人）	大学全体

専任教員研究室	新設学部等の名称	室数	
	工学部 サステナビリティ学科	11室	

図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	
	工学部 サステナビリティ学科	26,418〔2,169〕 (24,414〔2,094〕)	66〔35〕 (66〔35〕)	25〔25〕 (25〔25〕)	209 (185)	316 (316)	65 (65)	
	計	26,418〔2,169〕 (24,414〔2,094〕)	66〔35〕 (66〔35〕)	25〔25〕 (25〔25〕)	209 (185)	316 (316)	65 (65)	

図書館	面積	閲覧座席数	収納可能冊数	大学全体
	5,934.14㎡	896	560,600	
体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要		大学全体
	4,159.11㎡	テニスコート3面		

経費の見積り及び維持方法の概要										
経費の見積り	区分	開設前年度	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次	共同研究費は大学全体 図書購入費には電子ジャーナル・データベースの整備費(運用コスト含む)を含む
	教員１人当り研究費等		450千円	450千円	450千円	450千円	― 千円	― 千円	
	共同研究費等		21,760千円	21,760千円	21,760千円	21,760千円	― 千円	― 千円	
	図書購入費	0千円	1,151千円	2,138千円	3,290千円	4,277千円	― 千円	― 千円	
	設備購入費	0千円	2,753千円	5,112千円	7,865千円	10,224千円	― 千円	― 千円	
学生１人当り納付金	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次			
	1,475千円	1,295千円	1,295千円	1,295千円	― 千円	― 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要	私立大学等経常費補助金、資産運用収入、手数料　等								

既設大学等の状況	大学の名称	武蔵野大学								備考
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
		年	人	年次 人	人		倍			
	文学部						0.97			
	日本文学文化学科	4	200	2年次 5	855	学士(文学)	0.97	平成23年度	東京都西東京市新町一丁目１番２０号	※平成30年度入学定員増（19人） ※平成31年度2年次編入学定員（5人） ※令和3年度入学定員減（△20人）
	ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ学部						0.91			
	ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	4	165	3年次 3	666	学士(ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ)	0.86	平成28年度	東京都江東区有明三丁目３番３号	※令和2年度3年次編入学定員（3人）
	日本語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	4	80	3年次 5	330	学士(日本語ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ)	0.94	平成28年度	東京都江東区有明三丁目３番３号	※令和2年度3年次編入学定員（5人）
	ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙﾋﾞｼﾞﾈｽ学科	4	55	3年次 7	234	学士(ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙﾋﾞｼﾞﾈｽ)	1.05	平成28年度	東京都江東区有明三丁目３番３号	※令和2年度3年次編入学定員（7人）
	ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学部						－			
	ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	4	－	－	－	学士（文学）	－	平成23年度	東京都江東区有明三丁目３番３号	※平成28年度より学生募集停止(ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ･ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科)
	法学部						0.97			
	法律学科	4	190	2年次 3	769	学士（法律学）	0.95	平成26年度	東京都江東区有明三丁目３番３号	※平成30年度入学定員増（50人） ※平成31年度2年次編入学定員（5人） ※平成31年度入学定員減（△10人） ※令和2年度2年次編入学定員（△2人）
	政治学科	4	100	2年次 3	409	学士（政治学）	1.00	平成26年度	東京都江東区有明三丁目３番３号	※平成30年度入学定員増（20人） ※平成31年度2年次編入学定員（5人） ※平成31年度入学定員減（△20人） ※令和2年度2年次編入学定員（△2人）
	経済学部						1.03			
	経済学科	4	175	2年次 3	709	学士（経済学）	1.03	平成26年度	東京都江東区有明三丁目３番３号	※平成30年度入学定員増（85人） ※平成31年度2年次編入学定員（5人） ※平成31年度入学定員減（△10人） ※令和2年度2年次編入学定員（△2人）
	経営学科	4	－	－	－	学士（経営学）	－	平成26年度	東京都江東区有明三丁目３番３号	※平成31年度より学生募集停止（経営学科）
	会計ガバナンス学科	4	－	－	－	学士（会計学）	－	平成30年度	東京都江東区有明三丁目３番３号	※平成31年度より学生募集停止（会計ガバナンス学科）
	経営学部						0.99			
	経営学科	4	220	2年次 3	889	学士（経営学）	0.99	平成31年度	東京都江東区有明三丁目３番３号	※令和2年度2年次編入学定員（3人）
	会計ガバナンス学科	4	90	－	360	学士（会計学）	0.99	平成31年度	東京都江東区有明三丁目３番３号	
	政治経済学部						－			
	政治経済学科	4	－	－	－	学士（政治経済学）	－	平成10年度	東京都江東区有明三丁目３番３号	※平成26年度より学生募集停止（政治経済学科）
	アントレプレナーシップ学部						1.07			
	アントレプレナーシップ学科	4	60	－	120	学士（ビジネス）	1.07	令和3年度	東京都西東京市新町一丁目１番２０号	
	データサイエンス学部						1.01			
	データサイエンス学科	4	90	－	320	学士（データサイエンス学）	1.01	平成31年度	東京都江東区有明三丁目３番３号	※令和3年度入学定員増（20人）
	人間科学部						0.98			
	人間科学科	4	215	2年次 2	866	学士(人間学)	1.03	平成11年度	東京都江東区有明三丁目３番３号	※平成30年度入学定員増（37人） ※平成31年度入学定員減(△20人) ※令和2年度2年次編入学定員（△2人）
	社会福祉学科	4	145	2年次 4	616	学士（社会福祉学）	0.91	平成20年度	東京都西東京市新町一丁目１番２０号	※平成30年度入学定員増（14人） ※令和3年度入学定員減(△12人)
	工学部						1.03			
	環境システム学科	4	70	－	280	学士(環境システム学)	1.01	平成27年度	東京都江東区有明三丁目３番３号	
	数理工学科	4	60	－	240	学士（工学）	1.06	平成27年度	東京都江東区有明三丁目３番３号	
	建築デザイン学科	4	70	－	280	学士（工学）	1.03	平成27年度	東京都西東京市新町一丁目１番２０号	
	教育学部						0.99			
	教育学科	4	120	－	480	学士（教育学）	0.99	平成23年度	東京都西東京市新町一丁目１番２０号	※平成30年度入学定員減（△100人）
	幼児教育学科	4	100	－	400	学士（幼児教育学）	0.98	平成30年度	東京都西東京市新町一丁目１番２０号	※令和2年度こども発達学科より名称変更
	薬学部						0.92			
	薬学科	6	145	－	915	学士(薬学)	0.92	平成16年度	東京都西東京市新町一丁目１番２０号	※平成30年度入学定員増（15人） ※令和3年度入学定員減(△15人)
	看護学部						0.96			
	看護学科	4	125	－	540	学士(看護学)	0.96	平成18年度	東京都江東区有明三丁目３番３号	※平成30年度入学定員増（25人） ※令和3年度入学定員減(△20人)
	通信教育部									
	人間科学部			3年次			0.82			
	人間科学科	4	250	700	2,400	学士（人間学）	0.82	平成14年度	東京都西東京市新町一丁目１番２０号	
	教育学部			2年次			0.81			
	教育学科	4	15	55	174	学士（教育学）	0.81	平成25年度	東京都西東京市新町一丁目１番２０号	※令和3年度入学定員減（△2人） ※令和3年度2年次編入学定員（55人） ※令和3年度3年次編入学定員減（△85人）

大学の名称	武蔵野大学大学院								備考
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
既設大学等の状況									
文学研究科 日本文学専攻	2	7	－	14	修士（文学）	0.49	平成26年度	東京都西東京市新町一丁目１番２０号	
日本文学専攻	3	2	－	6	博士（文学）	0.16	平成29年度	東京都西東京市新町一丁目１番２０号	
言語文化研究科 言語文化専攻	2	55	－	110	修士（人文科学、日本語）	0.70	平成22年度	東京都江東区有明三丁目３番３号	
言語文化専攻	3	2	－	6	博士（人文科学）	0.50	平成29年度	東京都江東区有明三丁目３番３号	
法学研究科 ビジネス法務専攻	2	10	－	20	修士（法学）	0.15	平成30年度	東京都江東区有明三丁目３番３号	
ビジネス法務専攻	3	3	－	6	博士（法学）	0.49	令和3年度	東京都江東区有明三丁目３番３号	
政治経済学研究科 政治経済学専攻	2	10	－	20	修士（政治経済学）	0.15	平成22年度	東京都江東区有明三丁目３番３号	
政治経済学専攻	3	3	－	9	博士（政治学、経済学）	0.00	平成25年度	東京都江東区有明三丁目３番３号	
経営学研究科 会計学専攻	2	10	－	20	修士（会計学）	1.10	平成31年度	東京都江東区有明三丁目３番３号	
データサイエンス研究科 データサイエンス専攻	2	10	－	20	修士（データサイエンス学）	0.50	令和3年度	東京都江東区有明三丁目３番３号	
データサイエンス専攻	3	3	－	3	博士（データサイエンス学）	1.00	令和4年度	東京都江東区有明三丁目３番３号	
人間社会研究科 人間学専攻	2	30	－	60	修士（臨床心理学、人間行動学、言語聴覚学）	0.88	平成11年度	（臨床心理学、人間行動学）東京都江東区有明三丁目３番３号 （言語聴覚学）東京都西東京市新町一丁目１番２０号	
人間学専攻	3	3	－	9	博士（人間学）	0.44	平成14年度	東京都江東区有明三丁目３番３号	
実践福祉学専攻	2	7	－	14	修士（社会福祉学）	0.28	平成24年度	東京都西東京市新町一丁目１番２０号	
仏教学研究科 仏教学専攻	2	5	－	10	修士（仏教学）	0.10	平成28年度	東京都西東京市新町一丁目１番２０号	
仏教学専攻	3	2	－	6	博士（仏教学）	0.33	平成25年度	東京都西東京市新町一丁目１番２０号	
工学研究科 数理工学専攻	2	15	－	30	修士（工学）	0.26	平成31年度	東京都江東区有明三丁目３番３号	
数理工学専攻	3	2	－	4	博士（工学）	0.00	令和3年度	東京都江東区有明三丁目３番３号	
建築デザイン専攻	2	15	－	30	修士（工学）	0.26	平成31年度	東京都西東京市新町一丁目１番２０号	
環境学研究科 環境マネジメント専攻	2	10	－	20	修士（環境学）	0.40	平成22年度	東京都江東区有明三丁目３番３号	
環境システム専攻	3	2	－	6	博士（環境学）	0.16	平成30年度	東京都江東区有明三丁目３番３号	
教育学研究科 教育学専攻	2	10	－	20	修士（教育学）	0.55	平成26年度	東京都西東京市新町一丁目１番２０号	
薬科学研究科 薬科学専攻	2	5	－	10	修士（薬科学）	0.00	平成24年度	東京都西東京市新町一丁目１番２０号	
薬科学専攻	3	5	－	15	博士（薬科学）	0.60	平成21年度	東京都西東京市新町一丁目１番２０号	
看護学研究科 看護学専攻	2	10	－	20	修士（看護学）	0.25	平成22年度	東京都江東区有明三丁目３番３号	
看護学専攻	3	3	－	9	博士（看護学）	0.33	平成25年度	東京都江東区有明三丁目３番３号	
通信教育部 人間社会研究科 人間学専攻	2	60	－	120	修士（人間学）	1.05	平成21年度	東京都江東区有明三丁目３番３号	
実践福祉学専攻	2	10	－	20	修士（社会福祉学）	0.95	平成30年度	東京都西東京市新町一丁目１番２０号	
仏教学研究科 仏教学専攻	2	20	－	40	修士（仏教学）	0.77	平成28年度	東京都江東区有明三丁目３番３号	
環境学研究科 環境マネジメント専攻	2	10	－	20	修士（環境学）	1.30	平成26年度	東京都江東区有明三丁目３番３号	
附属施設の概要	名　　称：薬用植物園 目　　的：薬学に関する教育研究 所 在 地：東京都西東京市新町一丁目1番20号 設置年月：平成16年4月 規 模 等：土地992㎡、保有植物は67科187種								

別記様式第2号（その2の1）

（用紙　日本産業規格A4縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（工学部サステナビリティ学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
共通科目	建学	仏教（生き方を考える）基礎	1③～④	2			○								兼1	メディア
		仏教（生き方を考える）発展	3①～②	2			○								兼1	
		小計（2科目）	—	4	0	0	—			0	0	0	0	0	兼2	—
	スポーツ・身体	スポーツと身体科学	1①～②		1			○							兼7	オムニバス
		フィールド・スポーツ	2①～④		1			○							兼1	
		小計（2科目）	—	0	2	0	—			0	0	0	0	0	兼7	—
	情報	データサイエンス基礎	1①	1				○							兼1	メディア
		人工知能基礎	1②	1				○							兼1	メディア
		メディアリテラシー	1③・④		1			○							兼2	メディア
		情報技法基礎	1③・④		1			○							兼4	メディア
		情報技法発展A	2①・②		1			○							兼1	メディア
		情報技法発展B	2②～③		1			○							兼1	メディア
		情報技法発展C	2②～③		1			○							兼1	メディア
		プログラミング基礎	1③・④		1			○							兼3	メディア
		プログラミング発展A	2①・②		1			○							兼2	メディア
		プログラミング発展B	2②～③		1			○							兼1	メディア
		人工知能技術と社会	2③～④		1			○							兼1	メディア
		機械学習活用1	2④		1			○							兼1	メディア
		機械学習活用2	2④		1			○							兼1	メディア
		データサイエンス活用1	2④		1			○							兼1	メディア
		データサイエンス活用2	2④		1			○							兼1	メディア
		メディアデザイン	2④		1			○							兼1	メディア
		サービスデザイン	2④		1			○							兼1	
		人工知能実践プロジェクト	3①～②		2			○							兼1	
		小計（18科目）	—	2	17	0	—			0	0	0	0	0	兼10	—
	外国語	英語基礎A	1①～②	2				○							兼10	
		英語基礎B	1①～②		1			○							兼4	
		英語基礎C	1③～④	2				○							兼10	
		英語基礎D	1③～④		1			○							兼4	
		英語発展A	2①～②		1			○							兼2	
		英語発展B	2①～②		1			○							兼2	
		英語発展C	2③～④		1			○							兼2	
		英語発展D	2③～④		1			○							兼2	
		英語綜合A	3①～②		1			○							兼2	
		英語綜合B	3③～④		1			○							兼2	
		中国語基礎1	1①～②		1			○							兼4	メディア
		中国語基礎2	1③～④		1			○							兼4	メディア
		中国語発展1	2①～②		1			○							兼1	メディア
		中国語発展2	2①～②		1			○							兼1	メディア
		フランス語基礎1	1①～②		1			○							兼1	メディア
		フランス語基礎2	1③～④		1			○							兼1	メディア
		フランス語発展1	2①～②		1			○							兼1	メディア
		フランス語発展2	2①～②		1			○							兼1	メディア
		ドイツ語基礎1	1①～②		1			○							兼1	メディア
		ドイツ語基礎2	1③～④		1			○							兼1	メディア
		ドイツ語発展1	2①～②		1			○							兼1	メディア
		ドイツ語発展2	2①～②		1			○							兼1	メディア
		スペイン語基礎1	1①～②		1			○							兼2	メディア
		スペイン語基礎2	1③～④		1			○							兼2	メディア
		スペイン語発展1	2①～②		1			○							兼1	メディア
		スペイン語発展2	2①～②		1			○							兼1	メディア
		韓国語基礎1	1①～②		1			○							兼3	メディア
		韓国語基礎2	1③～④		1			○							兼3	メディア
		韓国語発展1	2①～②		1			○							兼1	メディア
		韓国語発展2	2①～②		1			○							兼1	メディア
		留学準備1	1①～②		1			○							兼1	
		留学準備2	1①～②		1			○							兼1	
		英語資格・検定試験対策1	1①・②		1			○							兼1	
		英語資格・検定試験対策2	1①・②・③		1			○							兼1	
		小計（34科目）	—	4	32	0	—			0	0	0	0	0	兼29	—
	教養日本語	日本語リテラシー	1②	1			○								兼2	メディア
		日本語基礎A	1①		1			○							兼5	
		日本語基礎B	1②		1			○							兼6	
		日本語基礎C	1③		1			○							兼6	
		日本語基礎D	1④		1			○							兼6	
		日本語発展A	2①		1			○							兼1	
		日本語発展B	2②		1			○							兼1	
		日本語発展C	2③		1			○							兼1	
		日本語発展D	2④		1			○							兼1	
		日本事情	1③～④		2		○								兼1	
		小計（10科目）	—	1	10	0	—			0	0	0	0	0	兼9	—

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	CHP	SDGs基礎	1①	1			○								兼5	メディア
		SDGs発展1	1②	1			○								兼6	メディア
		SDGs発展2	1③	1			○								兼7	メディア
		SDGs発展3	1④	1			○								兼8	メディア
		SDGs特講	3①～②		2			○							兼1	
		小計(5科目)	—	4	2	0		—		0	0	0	0	0	兼22	—
	フィールド・スタディーズ	フィールド・スタディーズ	1休	1			○								兼1	集中
		フィールド・スタディーズ1	1休		1			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ2	1休		2			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ3	1休		3			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ4	1休		4			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展1A	1休		1			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展1B	1休		2			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展1C	1休		3			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展1D	1休		4			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展2A	2休		1			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展2B	2休		2			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展2C	2休		3			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展2D	2休		4			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展2E	2休		5			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展3A	3休		1			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展3B	3休		2			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展3C	3休		3			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展3D	3休		4			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展3E	3休		5			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展4A	4休		1			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展4B	4休		2			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展4C	4休		3			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展4D	4休		4			○							兼1	集中
		小計(23科目)	—	1	60	0		—		0	0	0	0	0	兼1	—
	インターンシップ	インターンシップ	2②～④		1		○								兼1	
		企業協働プロジェクト	2①～④		2			○							兼1	
		小計(2科目)	—	0	3	0		—		0	0	0	0	0	兼1	—
	全学教養ゼミナール	全学教養ゼミナール1	1①～②		2		○								兼8	メディア
		全学教養ゼミナール2	1③～④		2		○								兼3	メディア
		小計(2科目)	—	0	4	0		—		0	0	0	0	0	兼10	—
	寄付講座	武蔵野市自由講座	1③～④		2		○								兼13	オムニバス
		証券ビジネス論	2③～④		2		○								兼1	
		小計(2科目)	—	0	4	0		—		0	0	0	0	0	兼14	—
学科科目	サステナビリティ基幹科目	サステナビリティ学と創造的学び	1①	1				○		2	2					共同
		アカデミックスキル入門	1②	2				○							兼1	
		サステナビリティ学基礎A	1①	2			○				1					
		サステナビリティ学基礎B	1①	2			○			2						オムニバス
		環境倫理・環境正義	1②	2			○								兼1	
		環境エネルギー論	1③	2			○								兼1	
		資源循環論	1④	2			○					1				
		サステナビリティ思考入門	2①	2			○			1	2					オムニバス
		環境福祉学	2②	2			○			1						
		環境政策論	2③	2			○			1						
		環境経済学	2・3③		2		○								兼1	
		サステナブルライフスタイル論	2・3④		2		○								兼1	
		環境保全生態学	2①	2			○					1				
		環境地球化学	2②	2			○				1					
		水とサステナビリティ	2・3①		2		○								兼1	
		食とサステナビリティ	2・3②		2		○								兼1	
		小計(16科目)	—	23	8	0		—		5	3	2	0	0	兼7	—
	ソーシャルデザイン科目	ソーシャルデザイン事例研究	2・3①		2		○				1					
		サステナブルデザイン思考	2・3②		2			○			1					
		システム思考と学習する組織	2・3③		2		○								兼1	
		共創型リーダーシップ論	2・3休		2			○							兼1	集中
		シビックアクション論	2・3③		2			○							兼1	
		ファシリテーション演習	2・3①		2			○							兼1	
		メディア表現演習	2・3②		2			○							兼1	
		社会調査法	2・3①		2			○							兼1	
		ソーシャルビジネス論	2・3④		2		○				1					
		サステナブル経営論	2・3①		2		○			1						
		サステナビリティ戦略演習	2・3②		2			○		1					兼1	オムニバス
		コミュニティデザイン論	2・3③		2		○				1					
		持続可能な地域づくり論	2・3④		2		○			1						
		交渉と合意形成	2・3③		2			○							兼1	
		環境心理学	2・3②		2		○			1						
		ESD論	2・3④		2		○			1					兼1	オムニバス
		小計(16科目)	—	0	32	0		—		3	1	0	0	0	兼9	—

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
学科科目	環境エンジニアリング科目	環境統計学	2①		2			○				1			兼1	オムニバス
		環境材料学	2・3③		2		○			1						
		環境気象学	2・3③		2		○			1						
		生物多様性保全特論	3②		2		○					1			兼1	オムニバス
		環境分析化学	2・3②		2		○				1					
		CAD演習	2・3①		2			○				1				
		GIS・測量演習	2・3①		2			○				1				
		環境調査演習A	3①		2			○			1					
		環境調査演習B	2・3②		2			○				1			兼1	オムニバス
		環境調査演習C	3②		2			○		1						
		サステナビリティリスク学	2・3④		2		○				1					
		ライフサイクルアセスメント論	2・3③		2		○			1						
		カーボンマネジメント演習	2・3④		2			○		1					兼1	
		資源循環マネジメント演習	2・3③		2			○				1				
		持続可能技術特論1	2・3④		2		○								兼1	
		持続可能技術特論2	2・3②		2		○			1						
		小計(16科目)	—	0	32	0		—		3	1	2	0	0	兼5	—
	プロジェクト科目	サステナビリティプロジェクト入門	1②	2				○			1				兼1	オムニバス
		サステナビリティプロジェクト1	1後	4				○		5	3	2			兼1	
		サステナビリティプロジェクト2	2前	4				○		5	3	2			兼1	
		サステナビリティプロジェクト3	2後	4				○		5	3	2			兼1	
		サステナビリティプロジェクト4	3前	4				○		5	3	2			兼1	
		サステナビリティ研究1	3後	4				○		5	3	2				
		サステナビリティ研究2	4前	4				○		5	3	2				
		卒業論文	4後		4			○		5	3	2				
		小計(8科目)	—	26	4	0		—		5	3	2	0	0	兼2	—
	社会連携科目	サステナビリティ学社会実践演習A	1・2・3・4通		1			○		5	3	2				
		サステナビリティ学社会実践演習B	1・2・3・4通		1			○		5	3	2				
		サステナビリティ学社会実践演習C	1・2・3・4通		2			○		5	3	2				
		サステナビリティ学社会実践演習D	1・2・3・4通		2			○		5	3	2				
		サステナビリティ学社会実践演習E	1・2・3・4通		4			○		5	3	2				
		サステナビリティ学総合演習	1・2・3・4通		1			○		1	1	1				
		小計(6科目)	—	0	11	0		—		5	3	2	0	0	0	—
	サステナビリティ先端科目	サステナビリティ学特殊授業A	1・2・3・4通		2		○								兼1	
		サステナビリティ学特殊授業B	1・2・3・4通		2		○								兼1	
		サステナビリティ学特殊授業C	1・2・3・4通		2		○								兼1	
		サステナビリティ学特殊授業D	1・2・3・4通		1		○								兼1	
		サステナビリティ学特殊授業E	1・2・3・4通		1		○								兼1	
		小計(5科目)	—	0	8	0		—		0	0	0	0	0	兼5	—
	総合研究	総合研究A	1・2・3・4通		1			○		5	3	2				
		総合研究B	1・2・3・4通		2			○		5	3	2				
		総合研究C	1・2・3・4通		4			○		5	3	2				
		小計(3科目)	—	0	7	0		—		5	3	2	0	0	0	—
合計 (170科目)			—	65	236	0		—		6	3	2	0	0	兼120	—

学位又は称号	学士(サステナビリティ学)	学位又は学科の分野	工学関係、社会学・社会福祉学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
共通科目は、必修16単位。学科科目は、必修49単位を含めて87単位。自由選択単位は21単位以上。自由選択単位は、共通科目、学科科目、5大学単位認定科目、他学部・他学科の学科科目の単位、学校教育法施行規則第143条の2に定める教育関係共同利用拠点として認定された他大学の公開授業及び成果に基づき単位認定される科目をあてることができる。	1学年の学期区分	4学期
	1学期の授業期間	7週
	1時限の授業時間	100分

有明キャンパス

別記様式第2号（その2の1）

（用紙　日本産業規格A4縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（工学部サステナビリティ学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
共通科目	建学	仏教（生き方を考える）基礎	1③～④	2			○								兼1	メディア
		仏教（生き方を考える）発展	3①～②	2			○								兼1	
		小計（2科目）	—	4	0	0		—		0	0	0	0	0	兼2	—
	身体・スポーツ	フィールド・スポーツ	2①～④		1			○							兼1	
		小計（1科目）	—	0	1	0		—		0	0	0	0	0	兼1	—
	情報	データサイエンス基礎	1①	1				○							兼1	メディア
		人工知能基礎	1②	1				○							兼1	メディア
		メディアリテラシー	1③・④		1			○							兼2	メディア
		情報技法基礎	1③・④		1			○							兼4	メディア
		情報技法発展A	2①・②		1			○							兼1	メディア
		情報技法発展B	2②～③		1			○							兼1	メディア
		情報技法発展C	2②～③		1			○							兼1	メディア
		プログラミング基礎	1③・④		1			○							兼3	メディア
		プログラミング発展A	2①・②		1			○							兼2	メディア
		プログラミング発展B	2②～③		1			○							兼1	メディア
		人工知能技術と社会	2③～④		1			○							兼1	メディア
		機械学習活用1	2④		1			○							兼1	メディア
		機械学習活用2	2④		1			○							兼1	メディア
		データサイエンス活用1	2④		1			○							兼1	メディア
		データサイエンス活用2	2④		1			○							兼1	メディア
		メディアデザイン	2④		1			○							兼1	メディア
		サービスデザイン	2④		1			○							兼1	
		人工知能実践プロジェクト	3①～②		2			○							兼1	
		小計（18科目）	—	2	17	0		—		0	0	0	0	0	兼10	—
	外国語	英語基礎A	1①～②	2				○							兼10	
		英語基礎B	1①～②		1			○							兼4	
		英語基礎C	1③～④	2				○							兼10	
		英語基礎D	1③～④		1			○							兼4	
		英語発展A	2①～②		1			○							兼2	
		英語発展B	2①～②		1			○							兼2	
		英語発展C	2③～④		1			○							兼2	
		英語発展D	2③～④		1			○							兼2	
		英語綜合A	3①～②		1			○							兼2	
		英語綜合B	3③～④		1			○							兼2	
		中国語基礎1	1①～②		1			○							兼4	メディア
		中国語基礎2	1③～④		1			○							兼4	メディア
		中国語発展1	2①～②		1			○							兼1	メディア
		中国語発展2	2①～②		1			○							兼1	メディア
		フランス語基礎1	1①～②		1			○							兼1	メディア
		フランス語基礎2	1③～④		1			○							兼1	メディア
		フランス語発展1	2①～②		1			○							兼1	メディア
		フランス語発展2	2①～②		1			○							兼1	メディア
		ドイツ語基礎1	1①～②		1			○							兼1	メディア
		ドイツ語基礎2	1③～④		1			○							兼1	メディア
		ドイツ語発展1	2①～②		1			○							兼1	メディア
		ドイツ語発展2	2①～②		1			○							兼1	メディア
		スペイン語基礎1	1①～②		1			○							兼2	メディア
		スペイン語基礎2	1③～④		1			○							兼2	メディア
		スペイン語発展1	2①～②		1			○							兼1	メディア
		スペイン語発展2	2①～②		1			○							兼1	メディア
		韓国語基礎1	1①～②		1			○							兼3	メディア
		韓国語基礎2	1③～④		1			○							兼3	メディア
		韓国語発展1	2①～②		1			○							兼1	メディア
		韓国語発展2	2①～②		1			○							兼1	メディア
		留学準備1	1①～②		1			○							兼1	
		留学準備2	1①～②		1			○							兼1	
		英語資格・検定試験対策1	1①・②		1			○							兼1	
		英語資格・検定試験対策2	1①・②・③		1			○							兼1	
		小計（34科目）	—	4	32	0		—		0	0	0	0	0	兼29	—
	教養日本語	日本語リテラシー	1②	1			○								兼2	メディア
		日本語基礎A	1①		1			○							兼5	
		日本語基礎B	1②		1			○							兼6	
		日本語基礎C	1③		1			○							兼6	
		日本語基礎D	1④		1			○							兼6	
		日本語発展A	2①		1			○							兼1	
		日本語発展B	2②		1			○							兼1	
		日本語発展C	2③		1			○							兼1	
		日本語発展D	2④		1			○							兼1	
		日本事情	1③～④		2		○								兼1	
		小計（10科目）	—	1	10	0		—		0	0	0	0	0	兼9	—

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	CHP	SDGs基礎	1①	1			○								兼5	メディア
		SDGs発展1	1②	1			○								兼6	メディア
		SDGs発展2	1③	1			○								兼7	メディア
		SDGs発展3	1④	1			○								兼8	メディア
		SDGs特講	3①～②		2			○							兼1	
		小計(5科目)	—	4	2	0		—		0	0	0	0	0	兼22	—
	フィールド・スタディーズ	フィールド・スタディーズ	1休	1			○								兼1	集中
		フィールド・スタディーズ1	1休		1			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ2	1休		2			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ3	1休		3			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ4	1休		4			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展1A	1休		1			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展1B	1休		2			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展1C	1休		3			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展1D	1休		4			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展2A	2休		1			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展2B	2休		2			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展2C	2休		3			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展2D	2休		4			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展2E	2休		5			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展3A	3休		1			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展3B	3休		2			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展3C	3休		3			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展3D	3休		4			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展3E	3休		5			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展4A	4休		1			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展4B	4休		2			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展4C	4休		3			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展4D	4休		4			○							兼1	集中
		小計(23科目)	—	1	60	0		—		0	0	0	0	0	兼1	—
	インターンシップ	インターンシップ	2②～④		1		○								兼1	
		企業協働プロジェクト	2①～④		2			○							兼1	
		小計(2科目)	—	0	3	0		—		0	0	0	0	0	兼1	—
	全学教養ゼミナール	全学教養ゼミナール1	1①～②		2		○								兼8	メディア
		全学教養ゼミナール2	1③～④		2		○								兼3	メディア
		小計(2科目)	—	0	4	0		—		0	0	0	0	0	兼10	—
	寄付講座	武蔵野市自由講座	1③～④		2		○								兼13	オムニバス
		証券ビジネス論	2③～④		2		○								兼1	
		小計(2科目)	—	0	4	0		—		0	0	0	0	0	兼14	—
学科科目	サステナビリティ基幹科目	サステナビリティ学と創造的学び	1①	1				○		2	2					共同
		アカデミックスキル入門	1②	2				○							兼1	
		サステナビリティ学基礎A	1①	2			○				1					
		サステナビリティ学基礎B	1①	2			○			2						オムニバス
		環境倫理・環境正義	1②	2			○								兼1	
		環境エネルギー論	1③	2			○								兼1	
		資源循環論	1④	2			○					1				
		サステナビリティ思考入門	2①	2			○			1	2					オムニバス
		環境福祉学	2②	2			○			1						
		環境政策論	2③	2			○			1						
		環境経済学	2・3③		2		○								兼1	
		サステナブルライフスタイル論	2・3④		2		○								兼1	
		環境保全生態学	2①	2			○					1				
		環境地球化学	2②	2			○				1					
		水とサステナビリティ	2・3①		2		○								兼1	
		食とサステナビリティ	2・3②		2		○								兼1	
		小計(16科目)	—	23	8	0		—		5	3	2	0	0	兼7	—
	ソーシャルデザイン科目	ソーシャルデザイン事例研究	2・3①		2		○				1					
		サステナブルデザイン思考	2・3②		2			○			1					
		システム思考と学習する組織	2・3③		2		○								兼1	
		共創型リーダーシップ論	2・3休		2			○							兼1	集中
		シビックアクション論	2・3③		2			○							兼1	
		ファシリテーション演習	2・3①		2			○							兼1	
		メディア表現演習	2・3②		2			○							兼1	
		社会調査法	2・3①		2			○							兼1	
		ソーシャルビジネス論	2・3④		2		○				1					
		サステナブル経営論	2・3①		2		○			1						
		サステナビリティ戦略演習	2・3②		2			○		1					兼1	オムニバス
		コミュニティデザイン論	2・3③		2		○				1					
		持続可能な地域づくり論	2・3④		2		○			1						
		交渉と合意形成	2・3③		2			○							兼1	
		環境心理学	2・3②		2		○			1						
		ESD論	2・3④		2		○			1					兼1	オムニバス
		小計(16科目)	—	0	32	0		—		3	1	0	0	0	兼9	—

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
学科科目	環境エンジニアリング科目	環境統計学	2①		2			○				1			兼1	オムニバス
		環境材料学	2・3③		2		○			1						
		環境気象学	2・3③		2		○			1						
		生物多様性保全特論	3②		2		○					1			兼1	オムニバス
		環境分析化学	2・3②		2		○				1					
		CAD演習	2・3①		2			○				1				
		GIS・測量演習	2・3①		2			○				1				
		環境調査演習A	3①		2			○			1					
		環境調査演習B	2・3②		2			○				1			兼1	オムニバス
		環境調査演習C	3②		2			○		1						
		サステナビリティリスク学	2・3④		2		○				1					
		ライフサイクルアセスメント論	2・3③		2		○			1						
		カーボンマネジメント演習	2・3④		2			○		1					兼1	
		資源循環マネジメント演習	2・3③		2			○				1				
		持続可能技術特論1	2・3④		2		○								兼1	
		持続可能技術特論2	2・3②		2		○			1						
		小計(16科目)	—	0	32	0		—		3	1	2	0	0	兼5	—
	プロジェクト科目	サステナビリティプロジェクト入門	1②	2				○			1				兼1	オムニバス
		サステナビリティプロジェクト1	1後	4				○		5	3	2			兼1	
		サステナビリティプロジェクト2	2前	4				○		5	3	2			兼1	
		サステナビリティプロジェクト3	2後	4				○		5	3	2			兼1	
		サステナビリティプロジェクト4	3前	4				○		5	3	2			兼1	
		サステナビリティ研究1	3後	4				○		5	3	2				
		サステナビリティ研究2	4前	4				○		5	3	2				
		卒業論文	4後		4			○		5	3	2				
		小計(8科目)	—	26	4	0		—		5	3	2	0	0	兼2	—
	社会連携科目	サステナビリティ学社会実践演習A	1・2・3・4通		1			○		5	3	2				
		サステナビリティ学社会実践演習B	1・2・3・4通		1			○		5	3	2				
		サステナビリティ学社会実践演習C	1・2・3・4通		2			○		5	3	2				
		サステナビリティ学社会実践演習D	1・2・3・4通		2			○		5	3	2				
		サステナビリティ学社会実践演習E	1・2・3・4通		4			○		5	3	2				
		サステナビリティ学総合演習	1・2・3・4通		1			○		1	1	1				
		小計(6科目)	—	0	11	0		—		5	3	2	0	0	0	—
	サステナビリティ先端科目	サステナビリティ学特殊授業A	1・2・3・4通		2		○								兼1	
		サステナビリティ学特殊授業B	1・2・3・4通		2		○								兼1	
		サステナビリティ学特殊授業C	1・2・3・4通		2		○								兼1	
		サステナビリティ学特殊授業D	1・2・3・4通		1		○								兼1	
		サステナビリティ学特殊授業E	1・2・3・4通		1		○								兼1	
		小計(5科目)	—	0	8	0		—		0	0	0	0	0	兼5	—
	総合研究	総合研究A	1・2・3・4通		1			○		5	3	2				
		総合研究B	1・2・3・4通		2			○		5	3	2				
		総合研究C	1・2・3・4通		4			○		5	3	2				
		小計(3科目)	—	0	7	0		—		5	3	2	0	0	0	—
合計 (169科目)			—	65	235	0		—		6	3	2	0	0	兼114	—

学位又は称号	学士(サステナビリティ学)	学位又は学科の分野	工学関係、社会学・社会福祉学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
共通科目は、必修16単位。学科科目は、必修49単位を含めて87単位。自由選択単位は21単位以上。自由選択単位は、共通科目、学科科目、5大学単位認定科目、他学部・他学科の学科科目の単位、学校教育法施行規則第143条の2に定める教育関係共同利用拠点として認定された他大学の公開授業及び成果に基づき単位認定される科目をあてることができる。	1学年の学期区分	4学期
	1学期の授業期間	7週
	1時限の授業時間	100分

別記様式第2号（その2の1）

武蔵野キャンパス

（用紙　日本産業規格A4縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（工学部サステナビリティ学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
共通科目	スポーツ・身体	スポーツと身体科学	1①～②		1			○							兼7	オムニバス
		小計（1科目）	―	0	1	0	―			0	0	0	0	0	兼7	―
合計（1科目）			―	0	1	0	―			0	0	0	0	0	兼7	―

学位又は称号	学士（サステナビリティ学）	学位又は学科の分野	工学関係、社会学・社会福祉学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
共通科目は、必修16単位。学科科目は、必修49単位を含めて87単位。自由選択単位は21単位以上。自由選択単位は、共通科目、学科科目、5大学単位認定科目、他学部・他学科の学科科目の単位、学校教育法施行規則第143条の2に定める教育関係共同利用拠点として認定された他大学の公開授業及び成果に基づき単位認定される科目をあてることができる。	1学年の学期区分	4学期
	1学期の授業期間	7週
	1時限の授業時間	100分

別記様式第2号(その2の1)

(用紙　日本工業規格A4縦型)

教　育　課　程　等　の　概　要

(工学部　環境システム学科)

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
共通科目	建学	仏教(生き方を考える)基礎	1③～④	2			○								兼1	メディア
		仏教(生き方を考える)発展	3①～②	2			○								兼1	
		小計(2科目)	—	4	0	0	—			0	0	0	0	0	兼1	—
	スポーツ・身体	スポーツと身体科学	1①～②		1			○							兼7	オムニバス
		フィールド・スポーツ	2①～④		1			○							兼1	集中
		小計(2科目)	—	0	2	0	—			0	0	0	0	0	兼7	—
	情報	データサイエンス基礎	1①	1				○							兼1	メディア
		人工知能基礎	1②	1				○							兼1	メディア
		メディアリテラシー	1③・④		1			○							兼4	メディア
		情報技法基礎	1③・④		1			○							兼3	メディア
		情報技法発展A	2①・②		1			○							兼1	メディア
		情報技法発展B	2②～③		1			○							兼1	メディア
		情報技法発展C	2②～③		1			○							兼1	メディア
		プログラミング基礎	1③・④		1			○							兼1	メディア
		プログラミング発展A	2①・②		1			○							兼1	メディア
		プログラミング発展B	2②～③		1			○							兼1	メディア
		人工知能技術と社会	2③～④		1			○							兼2	メディア
		機械学習活用1	2④		1			○							兼1	メディア
		機械学習活用2	2④		1			○							兼1	メディア
		データサイエンス活用1	2④		1			○							兼1	メディア
		データサイエンス活用2	2④		1			○							兼1	メディア
		メディアデザイン	2④		1			○							兼1	メディア
		サービスデザイン	2④		1			○							兼1	
		人工知能実践プロジェクト	3①～②		2			○							兼1	
		小計(18科目)	—	2	17	0	—			0	0	0	0	0	兼10	—
	外国語	英語基礎A	1①～②	2				○							兼8	
		英語基礎B	1①～②		1			○							兼4	
		英語基礎C	1③～④	2				○							兼8	
		英語基礎D	1③～④		1			○							兼4	
		英語発展A	2①～②		1			○							兼2	
		英語発展B	2①～②		1			○							兼4	
		英語発展C	2③～④		1			○							兼3	
		英語発展D	2③～④		1			○							兼4	
		英語綜合A	3①～②		1			○							兼2	
		英語綜合B	3③～④		1			○							兼2	
		中国語基礎1	1①～②		1			○							兼4	メディア
		中国語基礎2	1③～④		1			○							兼4	メディア
		中国語発展1	2①～②		1			○							兼1	メディア
		中国語発展2	2①～②		1			○							兼1	メディア
		フランス語基礎1	1①～②		1			○							兼1	メディア
		フランス語基礎2	1③～④		1			○							兼1	メディア
		フランス語発展1	2①～②		1			○							兼1	メディア
		フランス語発展2	2①～②		1			○							兼1	メディア
		ドイツ語基礎1	1①～②		1			○							兼1	メディア
		ドイツ語基礎2	1③～④		1			○							兼1	メディア
		ドイツ語発展1	2①～②		1			○							兼1	メディア
		ドイツ語発展2	2①～②		1			○							兼1	メディア
		スペイン語基礎1	1①～②		1			○							兼2	メディア
		スペイン語基礎2	1③～④		1			○							兼2	メディア
		スペイン語発展1	2①～②		1			○							兼1	メディア
		スペイン語発展2	2①～②		1			○							兼1	メディア
		韓国語基礎1	1①～②		1			○							兼3	メディア
		韓国語基礎2	1③～④		1			○							兼3	メディア
		韓国語発展1	2①～②		1			○							兼2	メディア
		韓国語発展2	2①～②		1			○							兼2	メディア
		留学準備1	1①～②		1			○							兼1	
		留学準備2	1①～②		1			○							兼1	
		英語資格・検定試験対策1	1①・②		1			○							兼1	
		英語資格・検定試験対策2	1①・②・③		1			○							兼1	
		小計(34科目)	—	4	32	0	—			0	0	0	0	0	兼34	—
	教養日本語	日本語リテラシー	1②	1			○								兼2	メディア
		日本語基礎A	1①		1			○							兼6	
		日本語基礎B	1②		1			○							兼6	
		日本語基礎C	1③		1			○							兼6	
		日本語基礎D	1④		1			○							兼6	
		日本語発展A	2①		1			○							兼2	
		日本語発展B	2②		1			○							兼2	
		日本語発展C	2③		1			○							兼2	
		日本語発展D	2④		1			○							兼2	
		日本事情	1③～④		2		○								兼1	
		小計(10科目)	—	1	10	0	—			0	0	0	0	0	兼8	—

別記様式第2号（その2の1）

（用紙　日本工業規格A4縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（工学部　環境システム学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
共通科目	CHP	SDGs基礎	1①	1			○								兼6	メディア
		SDGs発展1	1②	1			○								兼6	メディア
		SDGs発展2	1③	1			○								兼7	メディア
		SDGs発展3	1④	1			○					1			兼4	メディア
		SDGs特講	3①～②		2			○							兼1	
		小計（5科目）	—	4	2	0		—		0	0	1	0	0	兼19	—
	フィールド・スタディーズ	フィールド・スタディーズ	1休	1			○								兼1	集中
		フィールド・スタディーズ1	1休		1			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ2	1休		2			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ3	1休		3			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ4	1休		4			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展1A	1休		1			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展1B	1休		2			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展1C	1休		3			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展1D	1休		4			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展2A	2休		1			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展2B	2休		2			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展2C	2休		3			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展2D	2休		4			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展2E	2休		5			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展3A	3休		1			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展3B	3休		2			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展3C	3休		3			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展3D	3休		4			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展3E	3休		5			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展4A	4休		1			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展4B	4休		2			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展4C	4休		3			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展4D	4休		4			○							兼1	集中
		小計（23科目）	—	1	60	0		—		0	0	0	0	0	兼2	—
	インターンシップ	インターンシップ	2②～④		1		○								兼1	
		企業協働プロジェクト	2①～④		2			○							兼1	
		小計（2科目）	—	0	3	0		—		0	0	0	0	0	兼1	—
	全学教養ゼミナール	全学教養ゼミナール1	1①～②		2		○								兼8	メディア
		全学教養ゼミナール2	1③～④		2		○								兼3	メディア
		小計（2科目）	—	0	4	0		—		0	0	0	0	0	兼10	—
	寄付講座	武蔵野市自由講座	1③～④		2		○								兼1	
		証券ビジネス論	2③～④		2		○								兼1	
		小計（2科目）	—	0	4	0		—		0	0	0	0	0	兼2	—
	教職関連	日本国憲法	2①～②		2		○								兼1	
		小計（1科目）	—	0	2	0		—		0	0	0	0	0	兼1	—
学科科目	学科基礎科目	環境システム学初年次ゼミナール	1①～②	2				○		5	2	2				オムニバス
		環境問題概論1	1①	2			○			1						
		環境問題概論2	1②	2			○			1	2	1				オムニバス
		環境英語入門1	1①～②	1				○							兼1	
		環境英語入門2	1③～④	1				○							兼1	
		環境科学基礎A	1①	1				○			1				兼2	オムニバス
		環境科学基礎B	1②	1				○			1				兼2	オムニバス
		環境科学基礎C	1③	1				○			1				兼2	オムニバス
		小計（8科目）	—	11	0	0		—		5	2	2			兼3	—
	学科基幹科目	環境エネルギー概論	1③	2			○				1					
		環境マネジメント論	2④	2			○			1						
		生態系マネジメント	2④	2			○					1				
		環境心理学	2②		2		○			1						
		地球史	2②		2		○								兼1	
		化学概論1	2②		2		○			1						
		地学概論1	2①		2		○								兼1	
		生物学概論1	2②		2		○								兼1	
		環境英語1	2①～②		2		○								兼1	
		調査統計法	3①		2		○								兼1	
		環境リサイクル論	1②	2			○					1				
		環境システム学基礎ゼミナール	2④	1				○		5	2	2				
		環境政策論	2②		2		○			1						
		環境経済学	2④		2		○								兼1	

別記様式第2号（その2の1）

（用紙　日本工業規格A4縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（工学部　環境システム学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
学科科目	学科基幹科目	化学概論2	2③		2		○				1				兼1	オムニバス
		地学概論2	2②		2		○								兼1	
		生物学概論2	2③～④		2		○			1						
		環境英語2	2③～④		2		○								兼1	
		食環境学	2④		2		○								兼1	
		環境科学基礎実験	2②～④		2				○	1	1				兼4	オムニバス
		水環境学	2②		2		○								兼1	
		環境システム学ゼミナール1	3①～②	2				○		5	2	2				
		環境マネジメントシステム論	3③		2		○								兼1	
		分子生態学	3②		2		○								兼1	
		景観生態学	3③		2		○					1				
		環境物理学	3③		2		○								兼1	
		ライフサイクルアセスメント	3②		2		○			1						
		環境思想	3①		2		○								兼1	
		環境システム思考	2①	2			○				2	1				オムニバス
		環境教育論	3③		2		○								兼1	
		環境倫理	1③		2		○								兼1	
		エコプロダクツ	3④		2		○					1				
		環境システム学ゼミナール2	3③～④	2				○		5	2	2				
		持続可能社会論	3①	2			○				1					
		社会技術論	3④		2		○								兼1	
		エコマテリアル	2③		2		○			1						
		資源エネルギー論	2②		2		○								兼1	
		環境経営論	3④		2		○			1						
		国際環境論	3④		2		○								兼1	
		環境リスク論	3②		2		○				1					
		環境地球化学	2③		2		○				1					
		小計（41科目）	—	17	64	0	—			5	2	2			兼20	—
	学科展開科目	環境プロジェクト入門	1③～④		2			○			1				兼1	オムニバス
		環境モニタリング1	2③～④		2			○		1						
		環境システム学特殊授業1	1③～④		2		○			5	2	2				オムニバス
		環境システム学特殊授業2	2③～④		2		○								兼1	集中
		環境システム学特殊授業3	2①		2		○								兼1	
		環境システム学特殊授業4	2③		1		○								兼1	
		環境システム学特殊授業5	2②～③		1		○					1			兼1	集中 オムニバス
		環境プロジェクト1A	2①～②		2			○		2	2	2			兼2	オムニバス
		環境プロジェクト1B	2③～④		2			○		2	2	2			兼2	オムニバス
		環境モニタリング2	3②～④		2		○				1					集中
		化学実験（コンピュータ活用を含む）	3①～②		2				○		1				兼1	オムニバス
		物理学実験（コンピュータ活用を含む）	3③～④		2				○	1					兼1	オムニバス
		環境分析化学	3①		2		○				1					
		生物学特論1	3①～②		2		○			1						
		環境英語3	3①～②		2		○								兼1	
		環境モニタリング3	3①～②		2			○				1				
		生物学実験（コンピュータ活用を含む）	3③～④		2				○	1						
		環境材料化学	3④		2		○			1						
		生物学特論2	3③～④		2		○			1						
		環境英語4	3③～④		2		○								兼1	
		環境アセスメント	3③		2		○								兼1	
		ローカルガバナンス論	3④		2		○								兼1	
		地学実験（コンピュータ活用を含む）	3②～④		2				○						兼2	オムニバス
		環境学総合演習	3①～④		2			○		1	1	1				集中 オムニバス

別記様式第2号（その2の1）

（用紙　日本工業規格A4縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（工学部　環境システム学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
学科科目	学科展開科目	環境インターンシップ1	2①～④		2			○		1	1	1				集中 オムニバス
		環境インターンシップ2	3①～④		2			○		1	1	1				集中 オムニバス
		環境インターンシップ3	3①～④		2			○		1	1	1				集中 オムニバス
		自然環境教育演習	3②		2			○		1					兼1	集中 オムニバス
		環境プロジェクト2A	3①～②		2			○		2	2	2			兼2	オムニバス
		環境プロジェクト2B	3③～④		2			○		2	2	2			兼2	オムニバス
		環境工学特講	3①		2		○			1						
		小計（31科目）	—	0	60	0	—			5	2	2			兼14	—
	総合科目	総合研究基礎1	1･2･3･4①～④		1				○	5	2	2				
		総合研究基礎2	1･2･3･4①～④		1				○	5	2	2				
		総合研究1	1･2･3･4①～④		2				○	5	2	2				
		総合研究2	1･2･3･4①～④		2				○	5	2	2				
		総合研究3	1･2･3･4①～④		4				○	5	2	2				
		小計（5科目）	—	0	10	0	—			5	2	2				—
	卒業研究	卒業研究	4①～②	2				○		5	2	2				
		卒業論文	4③～④		4			○		5	2	2				
		小計（2科目）	—	2	4	0	—			5	2	2				—
合計（188科目）			—	46	274	0	—			5	2	2			兼121	—

学位又は称号	学士（環境システム学）	学位又は学科の分野	工学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
環境システム学科の共通科目は、必修16単位。学科科目は、必修30単位を含めて72単位。自由選択単位は36単位以上の合計124単位以上修得する。自由選択単位は、共通科目、学科科目、教職課程科目等の資格取得科目、5大学単位認定科目、他学部･他学科の学科科目の単位、学校教育法施行規則第143条の2に定める教育関係共同利用拠点として認定された他大学の公開授業をあてることができる。	1学年の学期区分	4学期
	1学期の授業期間	7週
	1時限の授業時間	100分

別記様式第2号(その2の1)

(用紙　日本工業規格A4縦型)

教　育　課　程　等　の　概　要

(工学部　数理工学科)

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
共通科目	建学	仏教(生き方を考える)基礎	1③～④	2			○								兼1	メディア
		仏教(生き方を考える)発展	3①～②	2			○								兼1	
		小計(2科目)	—	4	0	0		—		0	0	0	0	0	兼1	—
	スポーツ・身体	スポーツと身体科学	1①～②		1			○							兼7	オムニバス
		フィールド・スポーツ	2①～④		1			○							兼1	集中
		小計(2科目)	—	0	2	0		—		0	0	0	0	0	兼7	—
	情報	データサイエンス基礎	1①	1				○							兼1	メディア
		人工知能基礎	1②	1				○							兼1	メディア
		メディアリテラシー	1③・④		1			○							兼4	メディア
		情報技法基礎	1③・④		1			○							兼4	メディア
		情報技法発展A	2①・②		1			○							兼1	メディア
		情報技法発展B	2②～③		1			○							兼1	メディア
		情報技法発展C	2②～③		1			○							兼1	メディア
		プログラミング基礎	1③・④		1			○							兼1	メディア
		プログラミング発展A	2①・②		1			○							兼1	メディア
		プログラミング発展B	2②～③		1			○							兼1	メディア
		人工知能技術と社会	2③～④		1			○							兼2	メディア
		機械学習活用1	2④		1			○							兼1	メディア
		機械学習活用2	2④		1			○							兼1	メディア
		データサイエンス活用1	2④		1			○							兼1	メディア
		データサイエンス活用2	2④		1			○							兼1	メディア
		メディアデザイン	2④		1			○							兼1	メディア
		サービスデザイン	2④		1			○							兼1	
		人工知能実践プロジェクト	3①～②		2			○							兼1	
		小計(18科目)	—	2	17	0		—		0	0	0	0	0	兼11	—
	外国語	英語基礎A	1①～②	2				○							兼8	
		英語基礎B	1①～②		1			○							兼4	
		英語基礎C	1③～④	2				○							兼8	
		英語基礎D	1③～④		1			○							兼4	
		英語発展A	2①～②		1			○							兼2	
		英語発展B	2①～②		1			○							兼4	
		英語発展C	2③～④		1			○							兼3	
		英語発展D	2③～④		1			○							兼4	
		英語綜合A	3①～②		1			○							兼2	
		英語綜合B	3③～④		1			○							兼2	
		中国語基礎1	1①～②		1			○							兼4	メディア
		中国語基礎2	1③～④		1			○							兼4	メディア
		中国語発展1	2①～②		1			○							兼1	メディア
		中国語発展2	2①～②		1			○							兼1	メディア
		フランス語基礎1	1①～②		1			○							兼1	メディア
		フランス語基礎2	1③～④		1			○							兼1	メディア
		フランス語発展1	2①～②		1			○							兼1	メディア
		フランス語発展2	2①～②		1			○							兼1	メディア
		ドイツ語基礎1	1①～②		1			○							兼1	メディア
		ドイツ語基礎2	1③～④		1			○							兼1	メディア
		ドイツ語発展1	2①～②		1			○							兼1	メディア
		ドイツ語発展2	2①～②		1			○							兼1	メディア
		スペイン語基礎1	1①～②		1			○							兼2	メディア
		スペイン語基礎2	1③～④		1			○							兼2	メディア
		スペイン語発展1	2①～②		1			○							兼1	メディア
		スペイン語発展2	2①～②		1			○							兼1	メディア
		韓国語基礎1	1①～②		1			○							兼3	メディア
		韓国語基礎2	1③～④		1			○							兼3	メディア
		韓国語発展1	2①～②		1			○							兼2	メディア
		韓国語発展2	2①～②		1			○							兼2	メディア
		留学準備1	1①～②		1			○							兼1	
		留学準備2	1①～②		1			○							兼1	
		英語資格・検定試験対策1	1①・②		1			○							兼1	
		英語資格・検定試験対策2	1①・②・③		1			○							兼1	
		小計(34科目)	—	4	32	0		—		0	0	0	0	0	兼32	—
	教養日本語	日本語リテラシー	1②	1			○								兼2	メディア
		日本語基礎A	1①		1			○							兼6	
		日本語基礎B	1②		1			○							兼6	
		日本語基礎C	1③		1			○							兼6	
		日本語基礎D	1④		1			○							兼6	
		日本語発展A	2①		1			○							兼2	
		日本語発展B	2②		1			○							兼2	
		日本語発展C	2③		1			○							兼2	
		日本語発展D	2④		1			○							兼2	
		日本事情	1③～④		2		○								兼1	
		小計(10科目)	—	1	10	0		—		0	0	0	0	0	兼9	—

別記様式第2号(その2の1)

(用紙　日本工業規格A4縦型)

教　育　課　程　等　の　概　要

(工学部　数理工学科)

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
共通科目	CHP	SDGs基礎	1①	1			○								兼5	メディア
		SDGs発展1	1②	1			○								兼5	メディア
		SDGs発展2	1③	1			○								兼5	メディア
		SDGs発展3	1④	1			○								兼5	メディア
		SDGs特講	3①～②		2			○							兼1	
		小計(5科目)	—	4	2	0		—		0	0	0	0	0	兼21	—
	フィールド・スタディーズ	フィールド・スタディーズ	1休	1			○								兼1	集中
		フィールド・スタディーズ1	1休		1			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ2	1休		2			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ3	1休		3			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ4	1休		4			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展1A	1休		1			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展1B	1休		2			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展1C	1休		3			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展1D	1休		4			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展2A	2休		1			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展2B	2休		2			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展2C	2休		3			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展2D	2休		4			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展2E	2休		5			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展3A	3休		1			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展3B	3休		2			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展3C	3休		3			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展3D	3休		4			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展3E	3休		5			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展4A	4休		1			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展4B	4休		2			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展4C	4休		3			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展4D	4休		4			○							兼1	集中
		小計(23科目)	—	1	60	0		—		0	0	0	0	0	兼2	—
	インターンシップ	インターンシップ	2②～④		1		○								兼1	
		企業協働プロジェクト	2①～④		2			○							兼1	
		小計(2科目)	—	0	3	0		—		0	0	0	0	0	兼1	—
	全学教養ゼミナール	全学教養ゼミナール1	1①～②		2		○								兼8	メディア
		全学教養ゼミナール2	1③～④		2		○								兼3	メディア
		小計(2科目)	—	0	4	0		—		0	0	0	0	0	兼11	—
	寄付講座	武蔵野市自由講座	1③～④		2		○								兼1	
		証券ビジネス論	2③～④		2		○								兼1	
		小計(2科目)	—	0	4	0		—		0	0	0	0	0	兼2	—
	教職関連	日本国憲法	2①～②		2		○								兼1	
		小計(1科目)	—	0	2	0		—		0	0	0	0	0	兼1	—
学科科目	学科基礎科目	数理工学入門	1①	2			○			1						
		線形代数1	1①～②	2			○			1						
		微積分1	1①～②	2			○			1						
		数学演習1	1①～②		1			○		1			1			オムニバス
		線形代数2	1③～④	2			○			1						
		線形代数2演習	1③～④		1			○					1		兼1	オムニバス
		微積分2	1③～④	2			○			1						
		微積分2演習	1③～④		1			○			1	1				オムニバス
		情報処理	1③		2		○			1			1			オムニバス
		プログラミング演習	1④		1			○		1			1			オムニバス
		基礎物理1	1①～②	2			○			1						
		基礎物理2	1③～④	2			○			1						
		線形代数3	2①～②	2			○			1						
		微積分3	2①～②	2			○					1				
		数学演習2	2①～②		1			○			1		1			オムニバス
		微分方程式1	2①～②	2			○					1				
		数理工学概論1	2④	2			○			7	1	1				オムニバス
		ベクトル解析	2①～②	2			○			1						
		複素解析	2③～④	2			○			1						
		アルゴリズム	2②		2		○			1						
		微分方程式2	2③		2		○			1						
		小計(21科目)	—	26	11	0		—		7	1	1	1		兼1	—
	学科基幹科目	数理工学実験1	2②～③		2			○							兼2	集中 オムニバス
		確率・統計	2③～④	2			○				1					
		応用代数	2③		2		○								兼1	
		数理物理	2③		2		○			1						
		数理工学実験2	2③～④		2			○		1					兼1	オムニバス
		数理統計学	2④		2		○				1					
		応用幾何	2④		2		○			1						
		情報理論	2②		2		○								兼1	

別記様式第2号（その2の1）

（用紙　日本工業規格A4縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（工学部　数理工学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
学科科目	学科基幹科目	数理工学概論2	3①	2			○			2						オムニバス
		応用複素解析	3②～③		2		○								兼1	集中
		グラフ理論入門	2②		2		○								兼1	
		数値解析	2④		2		○								兼1	
		環境・エネルギー工学	2①		2		○			1						
		知的財産論	2①		2		○			1						
		フーリエ解析	3①		2		○			1						
		多変量解析	3①		2		○			1						
		最適化理論	3①		2		○					1				
		量子力学とナノ工学	3③		2		○			1						
		機械学習	3③		2		○								兼1	
		システム工学	3④		2		○			1						
		応用微分方程式	3②		2		○								兼1	
		計画工学	3②～③		2		○								兼1	集中
		計算幾何学	3③		2		○								兼1	
		信号処理	3②～③		2		○								兼1	集中
		小計（24科目）	―	4	44	0	―			6	1	1			兼12	―
	学科展開科目	プロジェクト1	2①～④		4			○		2	1	1	1		兼1	オムニバス
		保険数学	3②		2		○								兼1	
		離散数理工学	3②		2		○				1					
		確率数理工学	3④		2		○								兼1	
		データベースと情報管理	3②～③		2		○								兼1	集中
		プロジェクト2	3①～④		4			○		2	1	1	1		兼1	オムニバス
		連続体力学	3②		2		○			1						
		生命情報学	3④		2		○			1						
		トポロジーとその応用	3①		2		○			1						
		金融工学	3②		2		○								兼1	集中
		小計（10科目）	―	0	24	0	―			4	1	1	1		兼4	―
	卒業研究	数理工学研究1	3①～②	2				○		6	1	1				
		数理工学研究2	3③～④	2				○		6	1	1				
		数理工学研究3	4①～②	2				○		6	1	1				
		卒業研究	4③～④	4				○		6	1	1				
		小計（4科目）	―	10	0	0	―			6	1	1				―
合計（160科目）			―	56	215	0	―			7	1	1	1		兼105	―

学位又は称号	学士（工学）	学位又は学科の分野	工学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
数理工学科の共通科目は、必修16単位。学科科目は、必修40単位を含めて78単位。自由選択単位は、30単位以上。自由選択単位は、共通科目、学科科目、教職課程科目等の資格取得科目、5大学単位認定科目、他学部・他学科の学科科目の単位をあてることができる。	1学年の学期区分	4学期
	1学期の授業期間	7週
	1時限の授業時間	100分

別記様式第2号（その2の1）

（用紙　日本工業規格A4縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（工学部　建築デザイン学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
共通科目	建学	仏教（生き方を考える）基礎	1③～④	2			○								兼1	メディア
		仏教（生き方を考える）発展	3①～②	2			○								兼1	
		小計（2科目）	—	4	0	0		—		0	0	0	0	0	兼1	—
	スポーツ・身体	スポーツと身体科学	1①～②		1			○							兼7	オムニバス
		フィールド・スポーツ	2①～④		1			○							兼1	集中
		小計（2科目）	—	0	2	0		—		0	0	0	0	0	兼7	—
	情報	データサイエンス基礎	1①	1				○							兼1	メディア
		人工知能基礎	1②	1				○							兼1	メディア
		メディアリテラシー	1③・④		1			○							兼2	メディア
		情報技法基礎	1③・④		1			○							兼4	メディア
		情報技法発展A	2①・②		1			○							兼1	メディア
		情報技法発展B	2②～③		1			○							兼1	メディア
		情報技法発展C	2②～③		1			○							兼1	メディア
		プログラミング基礎	1③・④		1			○							兼3	メディア
		プログラミング発展A	2①・②		1			○							兼2	メディア
		プログラミング発展B	2②～③		1			○							兼1	メディア
		人工知能技術と社会	2③～④		1			○							兼1	メディア
		機械学習活用1	2④		1			○							兼1	メディア
		機械学習活用2	2④		1			○							兼1	メディア
		データサイエンス活用1	2④		1			○							兼1	メディア
		データサイエンス活用2	2④		1			○							兼1	メディア
		メディアデザイン	2④		1			○							兼1	メディア
		サービスデザイン	2④		1			○							兼1	
		人工知能実践プロジェクト	3①～②		2			○							兼1	
		小計（18科目）	—	2	17	0		—		0	0	0	0	0	兼10	—
	外国語	英語基礎A	1①～②	2				○							兼8	
		英語基礎B	1①～②		1			○							兼5	
		英語基礎C	1③～④	2				○							兼8	
		英語基礎D	1③～④		1			○							兼5	
		英語発展A	2①～②		1			○							兼2	
		英語発展B	2①～②		1			○							兼5	
		英語発展C	2③～④		1			○							兼1	
		英語発展D	2③～④		1			○							兼5	
		英語綜合A	3①～②		1			○							兼2	
		英語綜合B	3③～④		1			○							兼2	
		中国語基礎1	1①～②		1			○							兼4	メディア
		中国語基礎2	1③～④		1			○							兼4	メディア
		中国語発展1	2①～②		1			○							兼1	メディア
		中国語発展2	2①～②		1			○							兼1	メディア
		フランス語基礎1	1①～②		1			○							兼1	メディア
		フランス語基礎2	1③～④		1			○							兼1	メディア
		フランス語発展1	2①～②		1			○							兼1	メディア
		フランス語発展2	2①～②		1			○							兼1	メディア
		ドイツ語基礎1	1①～②		1			○							兼2	メディア
		ドイツ語基礎2	1③～④		1			○							兼2	メディア
		ドイツ語発展1	2①～②		1			○							兼1	メディア
		ドイツ語発展2	2①～②		1			○							兼1	メディア
		スペイン語基礎1	1①～②		1			○							兼2	メディア
		スペイン語基礎2	1③～④		1			○							兼2	メディア
		スペイン語発展1	2①～②		1			○							兼1	メディア
		スペイン語発展2	2①～②		1			○							兼1	メディア
		韓国語基礎1	1①～②		1			○							兼3	メディア
		韓国語基礎2	1③～④		1			○							兼3	メディア
		韓国語発展1	2①～②		1			○							兼1	メディア
		韓国語発展2	2①～②		1			○							兼1	メディア
		留学準備1	1①～②		1			○							兼1	
		留学準備2	1①～②		1			○							兼1	
		英語資格・検定試験対策1	1①・②		1			○							兼1	
		英語資格・検定試験対策2	1①・②・③		1			○							兼1	
		小計（34科目）	—	4	32	0		—		0	0	0	0	0	兼28	—
	教養日本語	日本語リテラシー	1②	1			○								兼7	メディア
		日本語基礎A	1①		1			○							兼2	
		日本語基礎B	1②		1			○							兼2	
		日本語基礎C	1③		1			○							兼2	
		日本語基礎D	1④		1			○							兼2	
		日本語発展A	2①		1			○							兼1	
		日本語発展B	2②		1			○							兼1	
		日本語発展C	2③		1			○							兼1	
		日本語発展D	2④		1			○							兼1	
		日本事情	1③～④		2		○								兼1	
		小計（10科目）	—	1	10	0		—		0	0	0	0	0	兼11	—
	CHP	SDGs基礎	1①	1			○								兼7	メディア
		SDGs発展1	1②	1			○								兼8	メディア
		SDGs発展2	1③	1			○						1		兼7	メディア
		SDGs発展3	1④	1			○					1			兼6	メディア
		SDGs特講	3①～②		2			○							兼1	
		小計（5科目）	—	4	2	0		—		0	0	1	1	0	兼26	—

別記様式第2号（その2の1）

（用紙　日本工業規格A4縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（工学部　建築デザイン学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
共通科目	フィールド・スタディーズ	フィールド・スタディーズ	1休	1			○								兼1	集中
		フィールド・スタディーズ1	1休		1			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ2	1休		2			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ3	1休		3			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ4	1休		4			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展1A	1休		1			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展1B	1休		2			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展1C	1休		3			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展1D	1休		4			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展2A	2休		1			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展2B	2休		2			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展2C	2休		3			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展2D	2休		4			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展2E	2休		5			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展3A	3休		1			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展3B	3休		2			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展3C	3休		3			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展3D	3休		4			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展3E	3休		5			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展4A	4休		1			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展4B	4休		2			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展4C	4休		3			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展4D	4休		4			○							兼1	集中
		小計（23科目）	—	1	60	0		—		0	0	0	0	0	兼2	—
	インターンシップ	インターンシップ	2②～④		1		○								兼1	
		企業協働プロジェクト	2①～④		2			○							兼1	
		小計（2科目）	—	0	3	0		—		0	0	0	0	0	兼1	—
	全学教養ゼミナール	全学教養ゼミナール1	1①～②		2		○								兼9	メディア
		全学教養ゼミナール2	1③～④		2		○								兼3	メディア
		小計（2科目）	—	0	4	0		—		0	0	0	0	0	兼12	—
	寄付講座	武蔵野市自由講座	1③～④		2		○								兼1	
		証券ビジネス論	2③～④		2		○								兼1	
		小計（2科目）	—	0	4	0		—		0	0	0	0	0	兼2	—
学科科目	学科基礎科目	基礎デザイン1	1①～②	2				○							兼2	オムニバス
		空間表現論	1①	2			○			1						
		基礎ゼミ	1①～②	2				○		2	1		1			
		基礎デザイン2	1③～④	2				○				1			兼1	オムニバス
		デザインテクノロジー1	1③	2				○							兼2	
		デザインテクノロジー2	1④	2				○							兼2	
		小計（6科目）	—	12	0	0		—		2	1	1	1		兼5	—
	学科基幹科目	設計製図1	2①～②	4				○		1					兼4	
		建築計画	2②	2			○					1				
		デザインテクノロジー3	2①	2				○							兼2	
		デザインテクノロジー4	2②	2				○							兼2	
		設計製図2	2③～④	4				○				1			兼4	
		日本の建築	2③	2			○				1					
		設計方法論	2②	2			○			1						
		建築構造	2①	2			○				1					
		建築材料	3①～②	2			○								兼1	
		建築施工法	3①	2			○								兼1	
		建築法規	3④	2			○			1						
		建築学演習	3③～④	2				○		5	2	1	1			
		建築構造デザイン	3④	2			○				1					
		小計（13科目）	—	30	0	0		—		5	2	1	1		兼11	—
	学科展開科目	住居論	1①		2		○			1						
		住居史	1③		2		○								兼1	
		住宅衛生	1④		2		○			1						
		プロジェクト1	1③～④		2			○		5	2	1	1			
		西洋の建築	2③		2		○								兼1	
		建築と環境	2①		2		○			1						
		インテリアデザイン1	2③		2		○								兼1	
		構造力学1	2③～④		2			○		1						
		構造力学演習1	2③～④		2			○		1						
		デザインテクノロジー発展1	2③		2			○							兼2	
		デザインテクノロジー発展2	2④		2			○							兼2	
		環境工学	2③		2		○			1						
		建築環境行動	2④		2		○								兼1	
		プロジェクト2	2①～④		4			○		5	2	1	1			
		設計製図3	3①～②		4			○		1					兼4	
		建築景観論	3①～②		2		○			1						
		音環境	3④		2		○								兼1	
		建築設備1	3①		2		○								兼1	
		構造力学2	3①～②		2			○							兼1	
		構造力学演習2	3①～②		2			○							兼1	
		デザインテクノロジー発展3	3③		2			○							兼2	
		デザインテクノロジー発展4	3④		2			○							兼2	
		インテリアデザイン2	3①		2		○								兼1	

別記様式第2号（その2の1）

（用紙　日本工業規格A4縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（工学部　建築デザイン学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
学科科目	学科展開科目	都市防災	2②		2		○			1						
		都市環境	3②		2		○						1			
		設計製図4	3③～④		4			○		1					兼4	
		アジアの建築	3①		2		○				1					
		光環境	3②		2		○								兼1	
		建築設備2	3④		2		○								兼1	
		構造力学3	3③		2		○				1					
		環境デザイン	3③		2		○						1			
		空間とデザイン	3③		2		○								兼1	
		ランドスケープデザイン	3②		2			○							兼1	
		プロジェクト3	3④		4			○		5	2	1	1			
		建築環境論	3①～②		2		○			1						
		防災まちづくり論	3①		2		○			1						
		建築文化論	3①～②		2		○								兼2	
		プロジェクト4	4①		4			○		5	2	1	1			
		フィールド・スタディーズ発展1（建築）	1休		1			○		1						
		フィールド・スタディーズ発展2（建築）	1休		2			○		1						
		小計（40科目）	—	0	89	0	—			5	2	1	1	0	兼22	—
	卒研究業	卒業研究	4①～④	6				○		5	2	1	1			
		小計（1科目）	—	6	0	0	—			5	2	1	1			—
合計（160科目）			—	64	223	0	—			5	2	1	1		兼123	—

学位又は称号	学士（工学）	学位又は学科の分野	工学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
建築デザイン学科の共通科目は、必修16単位。学科科目は、必修48単位を含めて78単位。自由選択単位は、30単位以上。自由選択単位は、共通科目、学科科目、5大学単位認定科目、他学部・他学科の学科科目の単位をあてることができる。	1学年の学期区分	4学期
	1学期の授業期間	7週
	1時限の授業時間	100分

別記様式第2号(その2の1)

(用紙　日本工業規格A4縦型)

教　育　課　程　等　の　概　要

(データサイエンス学部　データサイエンス学科)

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
共通科目	建学	仏教(生き方を考える)基礎	1③～④	2			○								兼2	メディア
		仏教(生き方を考える)発展	3①～②	2			○								兼1	
		小計(2科目)	—	4	0	0		—		0	0	0	0	0	兼2	—
	スポーツ・身体	スポーツと身体科学	1①～②		1			○							兼7	オムニバス
		フィールド・スポーツ	2①～④		1			○							兼1	集中
		小計(2科目)	—	0	2	0		—		0	0	0	0	0	兼7	—
	情報	データサイエンス基礎	1①	1				○			1					メディア
		人工知能基礎	1②	1				○			1					メディア
		メディアリテラシー	1③・④		1			○			1				兼1	メディア
		情報技法基礎	1③・④		1			○		1					兼3	メディア
		情報技法発展A	2①・②		1			○							兼1	メディア
		情報技法発展B	2②～③		1			○		1						メディア
		情報技法発展C	2②～③		1			○							兼1	メディア
		プログラミング基礎	1③・④		1			○							兼1	メディア
		プログラミング発展A	2①・②		1			○					1			メディア
		プログラミング発展B	2②～③		1			○					1			メディア
		人工知能技術と社会	2③～④		1			○		2						メディア
		機械学習活用1	2④		1			○			1					メディア
		機械学習活用2	2④		1			○			1					メディア
		データサイエンス活用1	2④		1			○			1				兼1	メディア
		データサイエンス活用2	2④		1			○			1				兼1	メディア
		メディアデザイン	2④		1			○			1				兼1	メディア
		サービスデザイン	2④		1			○		1						
		人工知能実践プロジェクト	3①～②		2			○		1						
		小計(18科目)	—	2	17	0		—		2	2	0	1	0	兼3	—
	外国語	英語基礎A	1①～②	2				○							兼8	
		英語基礎B	1①～②		1			○							兼5	
		英語基礎C	1③～④	2				○							兼8	
		英語基礎D	1③～④		1			○							兼3	
		英語発展A	2①～②		1			○							兼2	
		英語発展B	2①～②		1			○							兼4	
		英語発展C	2③～④		1			○							兼3	
		英語発展D	2③～④		1			○							兼4	
		英語綜合A	3①～②		1			○							兼2	
		英語綜合B	3③～④		1			○							兼2	
		中国語基礎1	1①～②		1			○							兼4	メディア
		中国語基礎2	1③～④		1			○							兼4	メディア
		中国語発展1	2①～②		1			○							兼1	メディア
		中国語発展2	2①～②		1			○							兼1	メディア
		フランス語基礎1	1①～②		1			○							兼1	メディア
		フランス語基礎2	1③～④		1			○							兼1	メディア
		フランス語発展1	2①～②		1			○							兼1	メディア
		フランス語発展2	2①～②		1			○							兼1	メディア
		ドイツ語基礎1	1①～②		1			○							兼1	メディア
		ドイツ語基礎2	1③～④		1			○							兼1	メディア
		ドイツ語発展1	2①～②		1			○							兼1	メディア
		ドイツ語発展2	2①～②		1			○							兼1	メディア
		スペイン語基礎1	1①～②		1			○							兼2	メディア
		スペイン語基礎2	1③～④		1			○							兼2	メディア
		スペイン語発展1	2①～②		1			○							兼1	メディア
		スペイン語発展2	2①～②		1			○							兼1	メディア
		韓国語基礎1	1①～②		1			○							兼3	メディア
		韓国語基礎2	1③～④		1			○							兼3	メディア
		韓国語発展1	2①～②		1			○							兼2	メディア
		韓国語発展2	2①～②		1			○							兼2	メディア
		留学準備1	1①～②		1			○							兼1	
		留学準備2	1①～②		1			○							兼1	
		英語資格・検定試験対策1	1①・②		1			○							兼1	
		英語資格・検定試験対策2	1①・②・③		1			○							兼1	
		小計(34科目)	—	4	32	0		—		0	0	0	0	0	兼37	—
	教養日本語	日本語リテラシー	1②	1			○								兼7	メディア
		日本語基礎A	1①		1			○							兼6	
		日本語基礎B	1②		1			○							兼6	
		日本語基礎C	1③		1			○							兼6	
		日本語基礎D	1④		1			○							兼6	
		日本語発展A	2①		1			○							兼2	
		日本語発展B	2②		1			○							兼2	
		日本語発展C	2③		1			○							兼2	
		日本語発展D	2④		1			○							兼2	
		日本事情	1③～④		2		○								兼1	
		小計(10科目)	—	1	10	0		—		0	0	0	0	0	兼12	—

別記様式第2号(その2の1)

(用紙　日本工業規格A4縦型)

教　育　課　程　等　の　概　要

(データサイエンス学部　データサイエンス学科)

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
共通科目	CHP	SDGs基礎	1①	1			○			1					兼7	メディア
		SDGs発展1	1②	1			○						1		兼5	メディア
		SDGs発展2	1③	1			○						1		兼6	メディア
		SDGs発展3	1④	1			○								兼7	メディア
		SDGs特講	3①～②		2			○							兼1	
		小計(5科目)	—	4	2	0		—		1	0	0	1	0	兼21	—
	フィールド・スタディーズ	フィールド・スタディーズ	1休	1			○								兼1	集中
		フィールド・スタディーズ1	1休		1			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ2	1休		2			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ3	1休		3			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ4	1休		4			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展1A	1休		1			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展1B	1休		2			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展1C	1休		3			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展1D	1休		4			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展2A	2休		1			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展2B	2休		2			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展2C	2休		3			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展2D	2休		4			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展2E	2休		5			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展3A	3休		1			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展3B	3休		2			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展3C	3休		3			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展3D	3休		4			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展3E	3休		5			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展4A	4休		1			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展4B	4休		2			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展4C	4休		3			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展4D	4休		4			○							兼1	集中
		小計(23科目)	—	1	60	0		—		0	0	0	0	0	兼2	—
	インターンシップ	インターンシップ	2②～④		1		○								兼1	
		企業協働プロジェクト	2①～④		2			○							兼1	
		小計(2科目)	—	0	3	0		—		0	0	0	0	0	兼1	—
	全学教養ゼミナール	全学教養ゼミナール1	1①～②		2		○								兼9	メディア
		全学教養ゼミナール2	1③～④		2		○								兼3	メディア
		小計(2科目)	—	0	4	0		—		0	0	0	0	0	兼12	—
	寄付講座	武蔵野市自由講座	1③～④		2		○								兼1	
		証券ビジネス論	2③～④		2		○								兼1	
		小計(2科目)	—	0	4	0		—		0	0	0	0	0	兼2	—
学科科目	専門共通科目	データサイエンス学	1①～②	2			○			1						
		人類と人工知能(AI)	1③～④	2			○				1					
		メディアクリエーション・データデザイン演習Ⅰ	1①	1				○			1					
		メディアクリエーション・データデザイン演習Ⅱ	1②	1				○			1					
		データサイエンスプログラミング演習Ⅰ	1③	1				○			1					
		データサイエンスプログラミング演習Ⅱ	1④	1				○				1				
		データと数理Ⅰ	2①	2			○				1					
		データと数理Ⅱ	2②	2			○					1	1			オムニバス
		データと経済統計	1③	2			○					1				
		データと計量経済学	2③	2			○				1					
		ソーシャルイノベーションの起こし方	1①	2			○				1					
		グリーンエコノミー基礎	1②	2			○			1						
		サイバーフィジカルシステム	2④	2			○			1						
		機械学習と深層学習	1③	2			○				1					
		Webテクノロジ	2②	2			○				1					
		複合現実	2④	2			○								兼1	
		マーケティングデータ分析	2③～④	2			○				1					
		機械学習デザイン演習Ⅰ	2①	1				○				1				
		機械学習デザイン演習Ⅱ	2②	1				○			1					
		人工知能(AI)デザイン演習Ⅰ	2③	1				○			1					
		人工知能(AI)デザイン演習Ⅱ	2④	1				○				1				
		データサイエンス特論	3①	2			○			4						オムニバス
		情報経済特論	3②	2			○			1						
		データマイニング	3③	2			○				1					
		小計(24科目)	—	40	0	0		—		6	5	1	1		兼1	—
	専門コース科目 AIクリエーション・コース	人工知能(AI)テクノロジ	2①		2		○				1					
		マルチメディア知識ベース	3②		2		○			1	1					オムニバス
		人工知能(AI)・人間協調進化システム	3④		2		○				1					
		人工知能(AI)ゲームクリエーション	3③		2		○				1					
		ロボティクス・IoT	3②～③		2		○			1						集中
		サイバーセキュリティと人工知能(AI)	3④		2		○			1						
		小計(6科目)	—	0	12	0		—		2	2	0	0	0	兼0	—

別記様式第2号（その2の1）

（用紙　日本工業規格A4縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（データサイエンス学部　データサイエンス学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
学科科目	専門コース科目	AIアルゴリズムデザイン・コース	機械学習アルゴリズムデザイン	2②～③		2		○				1					集中
			データベースデザイン	3②～③		2		○				1					集中
			画像・音声認識システム	3③		2		○			1						
			テキストマイニング	3①		2		○			1						
			時空間データベース	3②		2		○			1						
			リアルワールド解析シミュレータ	3④		2		○			1						
			小計（6科目）	—	0	12	0	—			3	2	0	0	0	兼0	—
		ソーシャルイノベーション・コース	マーケティング・オートメーション	3④		2		○								兼1	
			人工知能(AI)社会の情報倫理	3③		2		○					1				
			社会・環境・ビジネスデザイン	3①		2		○				1					
			グローバル・ビジネス・ガバナンス	3③		2		○			1						
			ビジネスモデル創出	3③		2		○								兼1	
			社会・環境・ビジネスフィールドワーク	3②		2		○				1					
			小計（6科目）	—	0	12	0	—			1	1	1	0	0	兼1	—
		演習	専門コース演習Ⅰ（人工知能（AI）クリエーション）	3①	1				○		1	1					オムニバス
			専門コース演習Ⅱ（人工知能（AI）アルゴリズムデザイン）	3②	1				○		1	1					オムニバス
			専門コース演習Ⅲ（ソーシャルイノベーション）	3③	1				○		1	1					オムニバス
			小計（3科目）	—	3	0	0	—			3	3	0	0	0	兼0	—
	社会連携教育		社会連携活動概論	2①	1			○			1						
			データサイエンス社会実践学習（短期）	2①～④		1				○	1	1	1	1			集中　オムニバス
			データサイエンス社会実践学習（中期）	2①～④		2				○	1	1	1	1			集中　オムニバス
			データサイエンス社会実践学習（長期）	2①～④		3				○	1	1	1	1			集中　オムニバス
			データサイエンス社会実践学習（海外）	2①～④		4				○	2		1	1			集中　オムニバス
			小計（5科目）	—	1	10	0	—			3	1	1	1		兼0	—
	プロジェクト型科目		未来創造PJ-AⅠ	1③～④		4			○		7	5	1	2			オムニバス
			未来創造PJ-BⅠ	1③～④		2			○		7	5	1	2			オムニバス
			未来創造PJ-AⅡ	2①～②		4			○		7	5	1	2			オムニバス
			未来創造PJ-BⅡ	2①～②		2			○		7	5	1	2			オムニバス
			未来創造PJ-AⅢ	2③～④		4			○		7	5	1	2			オムニバス
			未来創造PJ-BⅢ	2③～④		2			○		7	5	1	2			オムニバス
			未来創造PJ-AⅣ	3①～②		4			○		7	5	1	2			オムニバス
			未来創造PJ-BⅣ	3①～②		2			○		7	5	1	2			オムニバス
			卒業論文創成課題	3③～④	2				○		7	5	1	2			オムニバス
			卒業論文Ⅰ	4①～②	4				○		7	5	1	2			オムニバス
			卒業論文Ⅱ	4③～④	4				○		7	5	1	2			オムニバス
			小計（11科目）	—	10	24	0	—			7	5	1	2	0	兼0	—
合計（161科目）				—	70	204	0				8	7	2	2	0	兼91	—

学位又は称号	学士（データサイエンス学）	学位又は学科の分野	工学関係、経済学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
共通科目は、必修16単位。学科科目は必修54単位を含めて87単位。自由選択単位は21単位以上の合計124単位以上修得する。自由選択単位は、共通科目、学科科目、5大学単位認定科目、他学部・他学科の学科科目の単位をあてることができる。多様なメディアを利用して行うデータサイエンス社会実践学修は（短期）1単位、（中期）2単位、（長期）3単位、（海外）4単位とし、データサイエンス学部学科科目の選択科目として履修することができる。	1学年の学期区分	4学期
	1学期の授業期間	7週
	1時限の授業時間	100分

別記様式第2号（その2の1）

（用紙　日本工業規格A4縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（人間科学部　人間科学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
共通科目	建学	仏教（生き方を考える）基礎	1③～④	2			○				1					メディア
		仏教（生き方を考える）発展	3①～②	2			○								兼1	
		小計（2科目）	—	4	0	0		—		0	1	0	0	0	兼1	—
	スポーツ・身体	スポーツと身体科学	1①～②		1			○							兼7	オムニバス
		フィールド・スポーツ	2①～④		1			○							兼1	集中
		小計（2科目）	—	0	2	0		—		0	0	0	0	0	兼7	—
	情報	データサイエンス基礎	1①	1				○							兼1	メディア
		人工知能基礎	1②	1				○							兼1	メディア
		メディアリテラシー	1③・④		1			○							兼2	メディア
		情報技法基礎	1③・④		1			○							兼4	メディア
		情報技法発展A	2①・②		1			○							兼1	メディア
		情報技法発展B	2②～③		1			○							兼1	メディア
		情報技法発展C	2②～③		1			○							兼1	メディア
		プログラミング基礎	1③・④		1			○							兼3	メディア
		プログラミング発展A	2①・②		1			○							兼2	メディア
		プログラミング発展B	2②～③		1			○							兼1	メディア
		人工知能技術と社会	2③～④		1			○							兼1	メディア
		機械学習活用1	2④		1			○							兼1	メディア
		機械学習活用2	2④		1			○							兼1	メディア
		データサイエンス活用1	2④		1			○							兼1	メディア
		データサイエンス活用2	2④		1			○							兼1	メディア
		メディアデザイン	2④		1			○							兼1	メディア
		サービスデザイン	2④		1			○							兼1	
		人工知能実践プロジェクト	3①～②		2			○							兼1	
		小計（18科目）	—	2	17	0		—		0	0	0	0	0	兼10	—
	外国語	英語基礎A	1①～②	2				○							兼10	
		英語基礎B	1①～②		1			○							兼4	
		英語基礎C	1③～④	2				○							兼10	
		英語基礎D	1③～④		1			○							兼4	
		英語発展A	2①～②		1			○							兼2	
		英語発展B	2①～②		1			○							兼2	
		英語発展C	2③～④		1			○							兼2	
		英語発展D	2③～④		1			○							兼2	
		英語綜合A	3①～②		1			○							兼2	
		英語綜合B	3③～④		1			○							兼2	
		中国語基礎1	1①～②		1			○							兼4	メディア
		中国語基礎2	1③～④		1			○							兼4	メディア
		中国語発展1	2①～②		1			○							兼1	メディア
		中国語発展2	2①～②		1			○							兼1	メディア
		フランス語基礎1	1①～②		1			○							兼1	メディア
		フランス語基礎2	1③～④		1			○							兼1	メディア
		フランス語発展1	2①～②		1			○							兼1	メディア
		フランス語発展2	2①～②		1			○							兼1	メディア
		ドイツ語基礎1	1①～②		1			○							兼1	メディア
		ドイツ語基礎2	1③～④		1			○							兼1	メディア
		ドイツ語発展1	2①～②		1			○							兼1	メディア
		ドイツ語発展2	2①～②		1			○							兼1	メディア
		スペイン語基礎1	1①～②		1			○							兼2	メディア
		スペイン語基礎2	1③～④		1			○							兼2	メディア
		スペイン語発展1	2①～②		1			○							兼1	メディア
		スペイン語発展2	2①～②		1			○							兼1	メディア
		韓国語基礎1	1①～②		1			○							兼3	メディア
		韓国語基礎2	1③～④		1			○							兼3	メディア
		韓国語発展1	2①～②		1			○							兼1	メディア
		韓国語発展2	2①～②		1			○							兼1	メディア
		留学準備1	1①～②		1			○							兼1	
		留学準備2	1①～②		1			○							兼1	
		英語資格・検定試験対策1	1①・②		1			○							兼1	
		英語資格・検定試験対策2	1①・②・③		1			○							兼1	
		小計（34科目）	—	4	32	0		—		0	0	0	0	0	兼29	—
	教養日本語	日本語リテラシー	1②	1			○								兼2	メディア
		日本語基礎A	1①		1			○							兼5	
		日本語基礎B	1②		1			○							兼6	
		日本語基礎C	1③		1			○							兼6	
		日本語基礎D	1④		1			○							兼6	
		日本語発展A	2①		1			○							兼1	
		日本語発展B	2②		1			○							兼1	
		日本語発展C	2③		1			○							兼1	
		日本語発展D	2④		1			○							兼1	
		日本事情	1③～④		2		○								兼1	
		小計（10科目）	—	1	10	0		—		0	0	0	0	0	兼9	—

別記様式第2号（その2の1）

（用紙　日本工業規格A4縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（人間科学部　人間科学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
共通科目	CHP	SDGs基礎	1①	1			○								兼9	メディア
		SDGs発展1	1②	1			○								兼6	メディア
		SDGs発展2	1③	1			○								兼7	メディア
		SDGs発展3	1④	1			○				1				兼4	メディア
		SDGs特講	3①～②		2			○							兼1	
		小計（5科目）	—	4	2	0		—		0	1	0	0	0	兼20	—
	フィールド・スタディーズ	フィールド・スタディーズ	1休	1			○								兼1	集中
		フィールド・スタディーズ1	1休		1			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ2	1休		2			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ3	1休		3			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ4	1休		4			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展1A	1休		1			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展1B	1休		2			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展1C	1休		3			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展1D	1休		4			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展2A	2休		1			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展2B	2休		2			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展2C	2休		3			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展2D	2休		4			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展2E	2休		5			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展3A	3休		1			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展3B	3休		2			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展3C	3休		3			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展3D	3休		4			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展3E	3休		5			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展4A	4休		1			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展4B	4休		2			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展4C	4休		3			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展4D	4休		4			○							兼1	集中
		小計（23科目）	—	1	60	0		—		0	0	0	0	0	兼2	—
	インターンシップ	インターンシップ	2②～④		1		○								兼1	
		企業協働プロジェクト	2①～④		2			○							兼1	
		小計（2科目）	—	0	3	0		—		0	0	0	0	0	兼1	—
	全学教養ゼミナール	全学教養ゼミナール1	1①～②		2		○								兼8	メディア
		全学教養ゼミナール2	1③～④		2		○								兼3	メディア
		小計（2科目）	—	0	4	0		—		0	0	0	0	0	兼10	—
	寄付講座	武蔵野市自由講座	1③～④		2		○								兼1	
		証券ビジネス論	2③～④		2		○								兼1	
		小計（2科目）	—	0	4	0		—		0	0	0	0	0	兼2	—
学科科目	学科基礎科目	人間学入門	1①～②	2			○			13	4	1	6			オムニバス
		人間科学基礎	1④	2			○			1						
		人間論基礎	2③～④	2			○			1						
		基礎ゼミ1	2①	1				○		8	3					オムニバス
		基礎ゼミ2	2③～④	1				○		7	3					
		心理学概論Ⅰ	1③	2			○			1						
		心理学概論Ⅱ	1④	2			○			1						
		心理学研究法	2②		2		○								兼1	
		心理学統計法	2③		2		○								兼1	
		メンタルヘルス論Ⅰ	1①	2			○								兼1	
		メンタルヘルス論Ⅱ	2③		2		○								兼1	
		対人コミュニケーション論	1③～④		2		○								兼1	
		小計（12科目）	—	14	8	0		—		13	4	1	6	0	兼4	—
	人間学基幹科目群	東洋思想論1	2①～②		2		○				1					
		東洋思想論2	2③～④		2		○				1					
		西洋思想論1	3①		2		○			1						
		西洋思想論2	3②		2		○			1						
		平和学	2②		2		○								兼1	
		宗教学概論	3③～④		2		○								兼1	
		仏教心理論	2休		2		○			1						
		死生学	3①		2		○								兼1	
		小計（8科目）	—	0	16	0		—		2	1	0	0	0	兼3	—
	臨床心理科目群	心理学実験1	2①～②		2				○						兼2	オムニバス
		心理学実験2	2③～④		2				○						兼2	オムニバス
		知覚・認知心理学	2④	2			○								兼1	
		感情・人格心理学	2③～④		2		○								兼1	
		学習・言語心理学	2③		2		○								兼1	
		臨床心理学概論	2①～②	2			○						1			
		発達心理学1	2①～②	2			○				1					
		発達心理学2	2③～④		2		○				1					
		人格心理学	1③～④		2		○								兼1	
		司法・犯罪心理学1	2②		2		○			1						
		司法・犯罪心理学2	2②～③		2		○			1						集中
		教育・学校心理学	1①～②		2		○								兼1	
		家族心理学	2④		2		○								兼1	
		心理的アセスメント	3③		2		○			1						

別記様式第2号(その2の1)

(用紙　日本工業規格A4縦型)

教　育　課　程　等　の　概　要

(人間科学部　人間科学科)

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
学科科目	臨床心理科目群	心理療法論(心理学的支援法)	3②		2		○			1						
		臨床心理学特殊演習	3①～④		2			○		2						オムニバス
		精神分析学	3③		2		○			1						
		英語文献研究	3①～②		2			○							兼1	
		カウンセリング演習	3①～②		1			○							兼1	
		心理演習	3①～②		1			○					1		兼1	
		公認心理師の職責	1①～②		2		○						1			
		心理実習1	3①～④		1				○	7	1		3			オムニバス　集中
		心理実習2	4①～④		1				○	7	1		3			オムニバス　集中
		小計(23科目)	—	6	36	0		—		7	1	0	3	0	兼9	—
	産業・社会科目群	社会学	1③～④	2			○			1						
		地域社会学	2②		2		○								兼1	
		家族社会学	2②		2		○			1						
		社会調査法	3②～③		2		○			1						集中
		社会調査実習	3③～④		2				○						兼1	
		社会・集団・家族心理学	2①～②	2			○								兼1	
		社会心理学	1③～④		2		○								兼1	
		対人行動論1	2③	2			○								兼1	
		対人行動論2	2④		2		○								兼1	
		産業・組織心理学	2④		2		○			1						
		集団心理学	2①～②		2		○								兼1	
		産業カウンセリング論	2②		2		○			1						
		コミュニティ心理学	2①		2		○								兼1	
		オフィス環境心理学	2休		2		○			1						
		文化心理学	3休		2		○			1						
		マスコミュニケーション論	3②		2		○								兼1	
		社会保障Ⅰ	3①		2		○								兼1	
		社会保障Ⅱ	3②		2		○								兼1	
		地域福祉論Ⅰ	3②～③		2		○								兼1	集中
		地域福祉論Ⅱ	3③		2		○								兼1	
		権利擁護を支える法制度	3②～③		2		○								兼1	集中
		社会福祉の原理と政策Ⅰ	2③		2		○								兼1	
		社会福祉の原理と政策Ⅱ	2④		2		○								兼1	
		関係行政論	2④		2		○								兼2	オムニバス　集中
		刑事司法と福祉	3①		2		○			1						
		小計(25科目)	—	6	44	0		—		3	0	0	0	0	兼13	—
	生命・健康科学科目群	生命科学1	1②	2			○			1						
		生命科学2	2③		2		○			1						
		生命科学実験演習1	3③		1				○	1						
		生命科学実験演習2	3④		1				○	1						
		自然人類学1	2②	2			○				1					
		自然人類学2	2③		2		○				1					
		生理実験演習1	3③		1				○						兼1	
		生理実験演習2	3④		1				○						兼1	
		脳と心1	1③		2		○								兼1	
		脳と心2	2④		2		○								兼1	
		統計推計学	3休		2		○			1						
		健康・医療心理学	3①～②	2			○			1						
		健康科学	2③～④		2		○								兼1	
		精神医学(精神疾患とその治療)Ⅰ	2①～②		2		○			1						
		精神医学(精神疾患とその治療)Ⅱ	2③～④		2		○			1						
		医学知識(人体の構造と機能及び疾病)	1③～④		2		○			1						
		心身医学	3④		2		○								兼1	
		障害者・障害児心理学	2④		2		○								兼1	
		福祉心理学	1④		2		○						1			
		神経・生理心理学	2③		2		○								兼1	
		スポーツ心理学	2休		2		○			1						
		生体適応論	2④		2		○								兼1	
		小計(22科目)	—	6	34	0		—		4	1	0	1	0	兼7	—
	精神保健福祉科目群	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	2③		2		○								兼1	
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2④		2		○								兼1	
		精神障害リハビリテーション論	3③～④		2		○								兼1	
		精神保健福祉の原理Ⅰ	2③		2		○			1						
		精神保健福祉の原理Ⅱ	2④		2		○			1						
		精神保健福祉制度論	2④		2		○								兼1	
		ソーシャルワーク論	1②		2		○			1						
		ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅰ	3①		2		○			1						
		ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅱ	3②		2		○			1						
		ソーシャルワーク演習	2③～④		1			○		1						
		ソーシャルワーク演習(専門)Ⅰ	3①～②		1			○		1						
		ソーシャルワーク演習(専門)Ⅱ	3③～④		1			○		1						
		ソーシャルワーク演習(専門)Ⅲ	4③～④		1			○		1			1			オムニバス
		ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	3③～④		1			○		1			1			オムニバス
		ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	4①～④		2			○		1			1			オムニバス

別記様式第2号（その2の1）

（用紙　日本工業規格A4縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（人間科学部　人間科学科）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
学科科目	健精神福祉保科目群	ソーシャルワーク実習	4①～④		4				○	1			1			オムニバス
		障害者福祉論	3①～②		2		○						1			
		小計（17科目）	—	0	31	0		—		1	0	0	1	0	兼2	—
	人間論演習	人間論演習	3①～④	2				○		9	3					オムニバス
		小計（1科目）	—	2	0	0		—		9	3	0	0	0	兼0	—
	フィールド・スタディーズ発展（学科）	フィールド・スタディーズ発展1（人間科学）	2①～④		3		○			1						集中
		フィールド・スタディーズ発展2（人間科学）	2休		3		○			1						
		小計（2科目）	—	0	6	0		—		1	0	0	0	0	—	—
	総合科目	人間科学プロジェクト1	2休		2			○		1						
		人間科学プロジェクト2	3休		2			○		1						
		総合研究1	2休		2			○		1						
		総合研究2	2休		2			○		1						
		International Lectures(Human Sciences)1	2休		1		○			1						
		International Lectures(Human Sciences)2	2②～③		1		○			1						集中
		小計（6科目）	—	0	10	0		—		2	0	0	0	0	—	—
	卒業研究	卒業論文	4①～④	2			○			9	3					
		卒業論文演習1	4①～②	1				○		9	3					
		卒業論文演習2	4③～④	1				○		9	3					
		小計（3科目）	—	4	0	0		—		9	3	0	0	0	兼0	—
合計（219科目）				54	319	0		—		13	4	1	6	0	兼116	—

学位又は称号	学士（人間学）	学位又は学科の分野	文学関係、社会学・社会福祉学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
必修16単位。学科科目は、必修38単位を含めて86単位。自由選択単位は、22単位以上の合計124単位以上修得する。自由選択単位は、共通科目、学科科目、資格取得科目、5大学単位認定科目、他学部・他学科の学科科目の単位をあてることができる。	1学年の学期区分	4学期
	1学期の授業期間	7週
	1時限の授業時間	100分

別記様式第2号(その2の1)

(用紙　日本工業規格A4縦型)

教　育　課　程　等　の　概　要

(人間科学部　社会福祉学科)

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
共通科目	建学	仏教(生き方を考える)基礎	1③～④	2			○								兼2	メディア
		仏教(生き方を考える)発展	3①～②	2			○								兼1	
		小計(2科目)	—	4	0	0	—			0	0	0	0	0	兼3	—
	スポーツ・身体	スポーツと身体科学	1①～②		1			○							兼7	オムニバス
		フィールド・スポーツ	2①～④		1			○							兼1	集中
		小計(2科目)	—	0	2	0	—			0	0	0	0	0	兼7	—
	情報	データサイエンス基礎	1①	1				○							兼1	メディア
		人工知能基礎	1②	1				○							兼1	メディア
		メディアリテラシー	1③・④		1			○							兼4	メディア
		情報技法基礎	1③・④		1			○							兼3	メディア
		情報技法発展A	2①・②		1			○							兼1	メディア
		情報技法発展B	2②～③		1			○							兼1	メディア
		情報技法発展C	2②～③		1			○							兼1	メディア
		プログラミング基礎	1③・④		1			○							兼3	メディア
		プログラミング発展A	2①・②		1			○							兼2	メディア
		プログラミング発展B	2②～③		1			○							兼1	メディア
		人工知能技術と社会	2③～④		1			○							兼1	メディア
		機械学習活用1	2④		1			○							兼1	メディア
		機械学習活用2	2④		1			○							兼1	メディア
		データサイエンス活用1	2④		1			○							兼1	メディア
		データサイエンス活用2	2④		1			○							兼1	メディア
		メディアデザイン	2④		1			○							兼1	メディア
		サービスデザイン	2④		1			○							兼1	
		人工知能実践プロジェクト	3①～②		2			○							兼1	
		小計(18科目)	—	2	17	0	—			0	0	0	0	0	兼11	—
	外国語	英語基礎A	1①～②	2				○			1				兼7	
		英語基礎B	1①～②		1			○							兼5	
		英語基礎C	1③～④	2				○			1				兼7	
		英語基礎D	1③～④		1			○							兼5	
		英語発展A	2①～②		1			○							兼2	
		英語発展B	2①～②		1			○							兼5	
		英語発展C	2③～④		1			○							兼1	
		英語発展D	2③～④		1			○							兼5	
		英語綜合A	3①～②		1			○			1				兼1	
		英語綜合B	3③～④		1			○			1				兼1	
		中国語基礎1	1①～②		1			○							兼4	メディア
		中国語基礎2	1③～④		1			○							兼4	メディア
		中国語発展1	2①～②		1			○							兼1	メディア
		中国語発展2	2①～②		1			○							兼1	メディア
		フランス語基礎1	1①～②		1			○							兼1	メディア
		フランス語基礎2	1③～④		1			○							兼1	メディア
		フランス語発展1	2①～②		1			○							兼1	メディア
		フランス語発展2	2①～②		1			○							兼1	メディア
		ドイツ語基礎1	1①～②		1			○							兼1	メディア
		ドイツ語基礎2	1③～④		1			○							兼1	メディア
		ドイツ語発展1	2①～②		1			○							兼1	メディア
		ドイツ語発展2	2①～②		1			○							兼1	メディア
		スペイン語基礎1	1①～②		1			○							兼2	メディア
		スペイン語基礎2	1③～④		1			○							兼2	メディア
		スペイン語発展1	2①～②		1			○							兼1	メディア
		スペイン語発展2	2①～②		1			○							兼1	メディア
		韓国語基礎1	1①～②		1			○							兼3	メディア
		韓国語基礎2	1③～④		1			○							兼3	メディア
		韓国語発展1	2①～②		1			○		1						メディア
		韓国語発展2	2①～②		1			○		1						メディア
		留学準備1	1①～②		1			○			1					
		留学準備2	1①～②		1			○			1					
		英語資格・検定試験対策1	1①・②		1			○			1					
		英語資格・検定試験対策2	1①・②・③		1			○			1					
		小計(34科目)	—	4	32	0	—			1	1	0	0	0	兼26	—
	教養日本語	日本語リテラシー	1②	1			○								兼7	メディア
		日本語基礎A	1①		1			○							兼2	
		日本語基礎B	1②		1			○							兼2	
		日本語基礎C	1③		1			○							兼2	
		日本語基礎D	1④		1			○							兼2	
		日本語発展A	2①		1			○							兼1	
		日本語発展B	2②		1			○							兼1	
		日本語発展C	2③		1			○							兼1	
		日本語発展D	2④		1			○							兼1	
		日本事情	1③～④		2		○								兼1	
		小計(10科目)	—	1	10	0	—			0	0	0	0	0	兼11	—

別記様式第2号(その2の1)

(用紙　日本工業規格A4縦型)

教　育　課　程　等　の　概　要

(人間科学部　社会福祉学科)

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
共通科目	CHP	SDGs基礎	1①	1			○			2					兼5	メディア
		SDGs発展1	1②	1			○			2					兼6	メディア
		SDGs発展2	1③	1			○								兼8	メディア
		SDGs発展3	1④	1			○								兼7	メディア
		SDGs特講	3①～②		2			○							兼1	
		小計(5科目)	—	4	2	0		—		3	0	0	0	0	兼25	—
	フィールド・スタディーズ	フィールド・スタディーズ	1休	1			○								兼1	集中
		フィールド・スタディーズ1	1休		1			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ2	1休		2			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ3	1休		3			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ4	1休		4			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展1A	1休		1			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展1B	1休		2			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展1C	1休		3			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展1D	1休		4			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展2A	2休		1			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展2B	2休		2			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展2C	2休		3			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展2D	2休		4			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展2E	2休		5			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展3A	3休		1			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展3B	3休		2			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展3C	3休		3			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展3D	3休		4			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展3E	3休		5			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展4A	4休		1			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展4B	4休		2			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展4C	4休		3			○							兼1	集中
		フィールド・スタディーズ発展4D	4休		4			○							兼1	集中
		小計(23科目)	—	1	60	0		—		0	0	0	0	0	兼2	—
	インターンシップ	インターンシップ	2②～④		1		○								兼1	
		企業協働プロジェクト	2①～④		2			○							兼1	
		小計(2科目)	—	0	3	0		—		0	0	0	0	0	兼1	—
	全学教養ゼミナール	全学教養ゼミナール1	1①～②		2		○								兼8	メディア
		全学教養ゼミナール2	1③～④		2		○								兼3	メディア
		小計(2科目)	—	0	4	0		—		0	0	0	0	0	兼10	—
	寄付講座	武蔵野市自由講座	1③～④		2		○			1						
		証券ビジネス論	2③～④		2		○								兼1	
		小計(2科目)	—	0	4	0		—		1	0	0	0	0	兼1	—
学科科目	社会福祉基盤形成科目群	ソーシャルワークの基盤と専門職1	1	2			○			1						
		ソーシャルワークの基盤と専門職2	1	2			○			1						
		ソーシャルワークの理論と方法1	1	2			○			1						
		ソーシャルワークの理論と方法2	1	2			○			1						
		地域福祉と包括的支援体制1	1	2			○								兼1	
		地域福祉と包括的支援体制2	1	2			○								兼1	
		コミュニティ・オーガナイジング論	3		2		○			1						
		ケースマネジメント論	3		2		○			1						
		ソーシャルワークの理論と方法3	2	2			○			1						
		ソーシャルワークの理論と方法4	2	2			○					1				
		社会福祉の原理と政策1	1	2			○			1						
		社会福祉の原理と政策2	1	2			○			1						
		小計(12科目)	—	20	4	0		—		6		1			兼2	—
	社会福祉実践領域科目群	高齢者福祉	2①	2			○			1						
		障害者福祉	2①	2			○			1						
		児童・家庭福祉	2④	2			○					1				
		貧困に対する支援	2①	2			○					1				
		保健医療と福祉	2②	2			○			1						
		ソーシャルアントレプレナー論	3		2		○			1						
		ファンドレイジング論	3		2		○			1						
		リハビリテーション論	2④		2		○								兼1	
		刑事司法と福祉	2③～④	2			○			1						
		家族福祉論	2休		2		○								兼1	
		女性福祉論	2④		2		○								兼1	
		スクールソーシャルワーク論	2③～④		2		○			1						
		多文化共生ソーシャルワーク論1	2③		2		○			1						
		多文化共生ソーシャルワーク論2	2④		2		○								兼1	
		小計(14科目)	—	12	16	0		—		5		2			兼4	—
	社会福祉政策科目群	福祉サービスの組織と経営	2③	2			○								兼1	
		社会保障1	2③	2			○								兼1	
		社会保障2	2④	2			○								兼1	
		社会福祉発達史	1④		2		○			1						
		小計(4科目)	—	6	2	0		—		1					兼2	—

別記様式第2号(その2の1)

(用紙　日本工業規格A4縦型)

教　育　課　程　等　の　概　要

(人間科学部　社会福祉学科)

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
学科科目	社会福祉関係科目群	社会学と社会システム	1①～②	2			○								兼1	
		危機介入論	3		2		○			1						
		生と死を考える福祉論	1③～④		2		○			1						
		心理学と心理的支援	1①～②	2			○								兼1	
		社会福祉調査の基礎	2④	2			○			1						
		フィールド実習指導1	3		2			○		1						
		フィールド実習指導2	3		2			○		1						
		フィールド実習1	3		2			○		1						
		フィールド実習2	3		2			○		1						
		医学概論	1③	2			○								兼1	
		権利擁護を支える法制度	3	2			○								兼1	
		発達心理学	3①		2		○								兼1	
		児童精神医学	3③～④		2		○								兼1	
		精神医学総論	3①～②		2		○								兼1	
		犯罪・非行心理学	3④		2		○								兼1	
		教育社会学	3		2		○			1						
		住環境論	1③		2		○								兼1	
		学校の制度	3③～④		2		○								兼1	
		生徒指導論	3③		2		○								兼1	
		精神保健の課題と支援	2①		2		○								兼1	
		小計(20科目)	—	10	30	0	—			2					兼11	—
	社会福祉実践研究力形成科目群	社会福祉基礎ゼミナール	1①～④	2			○			4		1				
		社会福祉発展ゼミナール	2①～④	2			○			6						
		ソーシャルワーク演習1	2①	2				○					2		兼8	
		ソーシャルワーク実習指導1	2③～④		2			○		8		2	2		兼1	
		ソーシャルワーク演習2	2②	2				○					2		兼8	
		ソーシャルワーク演習3	2③	2				○					2		兼8	
		海外ソーシャルワーク実習	2休		1			○		1						
		社会福祉専門ゼミナール1	3①～④	2			○			8		2	2		兼1	
		ソーシャルワーク演習4	2④	2				○					2		兼8	
		ソーシャルワーク実習指導2	3		2			○		8		2	2		兼1	
		ソーシャルワーク演習5	3		2			○					2		兼8	
		ソーシャルワーク実習指導3	3		2			○		8		2	2		兼1	
		ソーシャルワーク実習	3		5			○		6		1	1		兼3	
		社会福祉専門ゼミナール2	4①～④	2			○			8		2			兼1	
		スクールソーシャルワーク演習	4①		2			○		1						
		スクールソーシャルワーク実習指導	4①		2			○		1						
		スクールソーシャルワーク実習	4休		2			○		1						
		卒業研究	4①～④		2			○		8		2				
		小計(18科目)	—	16	22	0	—			8		2	2		兼10	—
	社会福祉実践力統合科目群	社会福祉職業論	3④		1		○			1						
		社会福祉特講1	4①		1		○			8		1				
		社会福祉特講2	4②		1		○			8		1				
		社会福祉特講3	4③		1		○			8		1				
		社会福祉特講4	4④		1		○			8		1				
		小計(5科目)	—	0	5	0	—			8		1				—
合計(173科目)			—	80	213		—			10	1	2	2		兼114	—

学位又は称号	学士(社会福祉学)	学位又は学科の分野	社会学・社会福祉学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
社会福祉学科の共通科目は、必修16単位。学科科目は必修64単位を含めて88単位。自由選択単位は、20単位以上。自由選択単位は、共通科目、学科科目、5大学単位認定科目、他学部・他学科の学科科目の単位をあてることができる。	1学年の学期区分	4学期
	1学期の授業期間	7週
	1時限の授業時間	100分

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（工学部サステナビリティ学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	建学	仏教（生き方を考える）基礎	学生が自らの「生き方」を考える機会を与える授業である。 本授業においては、その前提となる学祖・高楠順次郎の生涯と教育理念、及び、仏教の開祖である釈尊の思想を学ぶ。それらの学びを基礎にして、本学のブランドステートメントである「世界の幸せをカタチにする。」の実現に向けて、Happiness Creator（幸せの響創者）としての志を立て、仏教思想を基盤とした「生き方」を構想する。	
		仏教（生き方を考える）発展	「仏教（生き方を考える）基礎」で学んだ内容を踏まえ、本授業で改めて建学の精神に基づく自身の「生き方」を考え、その確立をはかる。 「世界は幸せか」を問い、取り組むべき課題を自ら見つける。この主体性を発揮するために、課題を中心に据え自分事として向き合う。縁起の世界観に基づき、無限につながり合っていくことを学ぶ。	
	スポーツ・身体	スポーツと身体科学	生涯にわたる心身の健康の維持増進に必要な知識と方法を、実技を通して獲得することを目的とする。 本授業は、全14回の授業からなる。授業の半分（６回）を「身体科学」として全員が、坐禅、ヨガ、筋力トレーニングを履修する。残りの半分（８回）は、「スポーツ科学５種目」（バスケットボール、バレーボール、サッカー、テニス、合気道）から１種目を選択して履修する。 （オムニバス方式/全14回） 前半（６回） （61　中村 剛/２回）ヨガ （71　大久保 寛之/２回）筋力トレーニング （80　久保田 智照/２回）坐禅 後半（８回）については、以下いずれかのクラスから選択する。 （61　中村 剛/８回）バスケットボール （66　青葉　真紀/８回）バレーボール （78　木下 悦子/８回）合気道 （95　高橋 徹/８回）テニス （124　山本 恵弥里/８回）サッカー	オムニバス方式
		フィールド・スポーツ	集中演習形式による各種の運動体験を通じて「健康・体力の維持増進を含めて、自己の身体及び身体運動のもつ意義」を考えると同時に、「社会的適応能力や社会発展のメカニズムに積極的に関わりうる能力の獲得」を企図し実現する。演習展開のすべての作業に学生が主体的に携わりながらPDCAサイクルを毎時間繰り返すことで、「自己理解」「他者理解」を深めるとともに、「コミュニケーション能力」を高め、創造力・実践力を高めていく。	
	情報	データサイエンス基礎	本授業は、目的に応じてデータを収集・管理・編集し、基本的なデータ処理関数を適用し、その結果を可視化・図式化し第三者に客観的エビデンスを示せるようになるデータサイエンスリテラシーを学習の到達目標とする。さらに、クラウドベースの文書表現ツールの活用法および動画レポートの作成、インターネット時代の情報倫理、自己防衛法などの情報リテラシーを学ぶ。 学習方法としてはグループ協調学習を基軸に進め、協働・プレゼンスキルなども副次的に身につける。	
		人工知能基礎	本授業は、人工知能の基本的な能力や社会応用の可能性について理解をするとともに人工知能ツールやサービスの利活用方法について体験的な学習を進め人工知能の利活用リテラシーを学ぶ。さらに、人工知能に代表される人間の知性を代行するサービスの社会的浸透が進むと働き方、職業、職種、社会生活がどのように変化しどのように対応して自分のキャリアを描くべきかを考えてもらう。 学習方法としてはグループ協調学習を基軸に進め、協働・プレゼンスキルなども副次的に身につける。	
		メディアリテラシー	WebからSNSに代表される個人が発信し、個人が利活用できる多様な社会メディアが溢れている時代で、個人はモバイル端末から直接不特定多数に向けて情報発信や不特定多数の情報ソースから情報を収集することができる環境に置かれている。 本授業では、これらの情報環境を前提にした、メディアを安全安心に、相互の権利やマナーを尊重して利活用できるスキルセットを実践的に理解し、自らメディアを通じた社会発信や利活用できる実践的なリテラシーを学ぶ。	
		情報技法基礎	目的に応じた情報（データ）の可視化と分析、仮説（アイディア）の創出、情報の論理的な図式化技法を学ぶ。具体的には、クラウドツールであるスプレッドシートや可視化ツールを活用し、情報・データを様々な形で可視化したり、情報を分類・比較したりすることを通じて、情報の新しい関係性（仮説）を発見する基本的な方法論と実践技法を学ぶ。さらに発見された仮説（アイディア）を論理的に表現・論証し、その論理構造が他者に伝わりやすい形で表現する手法（可視化・図式化）を学ぶ。これらの技法を学ぶことを通じて、他者に伝達したい主張の共通理解を得るために、情報分析による論証や論理的な説明の重要性と具体的な実践スキルを身につける。	
		情報技法発展Ａ	情報技法基礎の履修を前提に、データの統計的な分析法及び論理的な分析と表現手法についての学びを行う。いわゆる統計的思考及び論理的思考について実践的知識とスキルを学ぶ。問題を発見し、解決案を見出し、他者を説得するためには、エビデンスに基づいた主張と論理的な説得の構造が必要である。本授業では、情報技法基礎で学んだ分析スキルに加え、より高度な統計的手法を学ぶ。また論理的思考法では、観察された事象を論理的な構造として捉える論理構造の構築手法、論理構造の説得力のある表現手法について学ぶ。これらの学修を通じて、統計的思考及び論理的思考の実践的な思考法及びスキルを身につけると同時に、情報を正しく読む力、データに基づき論理的に主張する力、異なる考え方の間を論理的に埋めていくコミュニケーション力など、社会で求められる能力の基礎スキルを獲得することを狙いとする。	
		情報技法発展Ｂ	情報技法基礎の履修を前提に、質的データの収集方法やその分析表現方法及び情報（アイディア）の創出方法等について体系的・実践的に学ぶ。いわゆるデザイン思考についての実践的知識とスキルを学ぶ。質的データの収集・分析・表現方法については、社会調査法、観察方法の基本的な方法論とスキルセットを学ぶ。また、デザイン思考については、アイディアを創出し洗練化する基本的なプロセス、重要な概念・方法論について実践的なワークショップを通じて反復的に学ぶ。	
		情報技法発展Ｃ	情報技法基礎の履修を前提に、データの高度な分析や可視化の技法について専用の可視化・分析ツールを活用して行う。本授業では、BIツールと呼ばれるような、大量のデータをリアルタイムに可視化し、迅速な問題発見や意思決定を行うための技法を身につける。大量のデータの分析にあたり、まずはデータ自身の性質を把握するために可視化技法が最も基本となるスキルである。１つのデータを多角的に可視化することを通じて、データの本質を見出していく手法を学ぶ。また単に可視化するにとどまらず、AIツールなどと連動したデータのモデル化やシミュレーションを行い、現状のデータを理解する手法とともに、予測のための方法も学ぶ。	
		プログラミング基礎	ブロックを組み合わせることでコンピュータのキャラクターを動かしたり、IoTデバイスのランプや音をコントロールすることで、簡単なプログラムを作成する方法を学び、プログラミングの基本的な仕組みを理解する。授業ではプログラミングをするときに重要な問題解決手法（問題の分離、パターンの発見、抽象化、手順化）について学び、課題を解決するために必要な機能を自分で考え、プログラムで作成できる能力を身につける。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（工学部サステナビリティ学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	情報	プログラミング発展Ａ	AIを学ぶために必要なプログラミング言語の一つであるPythonを利用し、プログラミングの基礎、またAIの基本要素の一つである回帰モデルを作成する。プログラミングでは変数やリストディクショナリなどの基本型、算術及び比較演算子、またifやfor文などの制御型について学ぶ。また単回帰や重回帰などの線形回帰による分析方法について学び、Webサイトの広告費からクリック数を予測するプログラムを作成する。	
		プログラミング発展Ｂ	プログラミング発展Ａの履修を前提に、AIを学ぶために必要なプログラミング言語の一つであるPythonを利用した関数化、またヒストグラムや折れ線グラフなどを作成する可視化方法について学ぶ。またAIの学習アルゴリズムとして近年注目されているニューラルネットワークについて学び、基本的なアルゴリズムの一つであるパーセプトロンを実装して手書き文字を学習し、自分で書いた文字を分類するプログラムを作成する。	
		人工知能技術と社会	情報通信技術及び人工知能技術に関わる歴史と進化のあらまし、情報通信技術及び人工知能技術を利活用する上で必要となる重要概念や用語の理解をするとともに、重要な技術についてはその原理的な仕組みも学ぶ。 さらに、ビジネスから様々な生活シーンに展開される人工知能の社会的活用の現状と将来展望をケーススタディをベースに実践的に学ぶ。	
		機械学習活用１	人と会話をすることが可能なコンピュータを作りながら、人はどのように言葉を獲得しているのか、なぜ言葉を理解することができるのか、またコンピュータは人の言葉をどのように理解しているのか、コンピュータが理解できる会話とできない会話にはどのような違いがあるのかについて理解する。授業では質問応答システムをもとに、質問の解析、文書の検索、回答候補の抽出、回答を選択する仕組みについて学び、コンピュータがどのように人の質問を理解しているのかを学ぶ。更に人同士の会話の仕組みと比較し、現在のコンピュータでできていないこと、またできるようになるためにはどのような仕組みが必要なのかについて議論する。	
		機械学習活用２	周りを理解して人に教えることができるコンピュータを作りながら、人はどのように世界を見ているのか、なぜものを見て理解することができるのか、またコンピュータは世界をどのように理解しているのか、コンピュータが理解できる世界とできない世界にはどのような違いがあるのかについて理解する。授業では画像認識システムを元に、画像の特徴検出、物体検出、また物体の分類、シーンの認識について学び、コンピュータがどのように世界を理解しているのかを学ぶ。更に人がものを見て理解する仕組みと比較し、現在のコンピュータでできていないこと、またできるようになるためにはどのような仕組みが必要なのかについて議論する。	
		データサイエンス活用１	情報処理、人工知能、統計学などの情報科学系の知恵を理解し、使う力の育成を学習の到達目標とする。また、課題背景を理解したうえで、専門分野の課題を整理し、解決する力の育成も重視する。大学や企業で扱うのは「新しい」ことであり、いわゆる「正解」がないため、「適切な前提と適切な方法で導かれた結果は、きっと適切だろう」という判断の仕方をする必要がある。この授業では、適切な調査と適切な分析をするための実践的な能力を修得する。	
		データサイエンス活用２	データサイエンスを意味のある形に使えるようにし、実装、運用できるようにする力の育成を学習の到達目標とする。また、課題背景を理解したうえで、専門分野の課題を整理し、解決する力の育成も重視する。授業方法としては、ペアワークや、グループワークを念頭に、Google Classroomの「質問」機能や「課題」機能などのICTを活用して、授業中にリアルタイムで実施する双方向活動と、授業後に非同期で実施する双方向活動を進行する。	
		メディアデザイン	人工知能やデータサイエンスの技術を、様々な情報メディアで利活用する上で必要となるメディアの基本的な知識、スキルを実践的に学ぶ。 メディアとしては、Webメディアを取り上げる。Webメディアを構成する重要要素技術であるHTMLとHTMLを編集できるツールを扱う基礎スキルを習得して、Webメディアをデザインし、実運用できるようにする。さらに、動画メディア（MRなども）の作成・編集・発信ができる基礎的なスキルも学ぶ。	
		サービスデザイン	情報技法基礎、情報技法発展Ａ、情報技法発展Ｂ、プログラミング基礎、プログラミング発展Ａ、プログラミング発展Ｂの履修を前提とした内容である。基本は、サービスデザインの体系的な方法論・プロセスを実践的かつ体験的に学ぶ。 デザインするサービスは、モバイルアプリやWebサービスを想定して、アイディア創出からデザイン、プロトタイプ作成まで行うことを想定している実践的な内容である。プロトタイプとしては、ビデオプロトタイプ作成を目標にする。	
		人工知能実践プロジェクト	一連の情報科目の知識やスキルを集大成して、ユニークなアイディアを創出して、具体的にそのアイディアを具現化し、成果をアウトプットする実践的プロジェクト科目である。 一連の情報科目で学んだ先進的なツールの活用や方法論を駆使して、ＳＤＧｓに貢献できるようなユニークなアイディアをメディア、サービス、分析など、カタチのあるものとして集大成する総合的な演習活動である。	
	外国語	英語基礎Ａ	これからの英語学習の第一段階として、講読テキスト〈時事または文化的内容〉をしっかりと訳読しながら、基礎的な文法も確認して語彙力・読む力を高めていく。授業中に随時行うTOEIC-Bridgeワーク演習では、サブテキストの＜Reading＞の部分を、問題演習を徹底して、スコアアップに活かしていく。 基本文法の理解を確実にして読解力をつけること、自分にとって英語を学ぶ意味を明確にすること、英文を読解しながら幅広い考え方に触れ自己の思考力を向上させることを授業到達目標とする。	
		英語基礎Ｂ	これからの英語学習の第一段階として、視聴覚テキスト〈時事または文化的内容〉をしっかりと訳読しながら、基礎的な文法も確認して語彙力・聞く力を高めていく。授業中に随時行うTOEIC-Bridgeワーク演習では、サブテキストの＜Listening＞の部分を、問題演習を徹底して、スコアアップに活かしていく。 基本文法の理解を確実にして読解力をつけること、自分にとって英語を学ぶ意味を明確にすること、英文を読解しながら幅広い考え方に触れ自己の思考力を向上させることを授業到達目標とする。	
		英語基礎Ｃ	総合英語教材を使用して、日常的に「使える英語」の基本を学び、＜Reading & Listening＞という両技能の習得を目標にした授業展開をしていく。授業中に随時行うTOEIC-Bridge ワーク演習ではより実践的な問題演習を繰り返して、e-learning活用のワークブックとともにスコアアップをはかっていく。 基本文法の理解を確実にして読解力をつけること、自分にとって英語を学ぶ意味を明確にすること、英文を読解しながら幅広い考え方に触れ自己の思考力を向上させることを授業到達目標とする。	
		英語基礎Ｄ	この演習の中で学生はしっかりノートをとり単語の勉強を行っていく。またグループ発表等を通して、自分の考えを英語でまとめて発表することで、＜Speaking & Writing＞の英語スキル向上を図っていく。単語帳を作って定期的に更新し、それを小テストや他の英語クラスでも活用していくことを学生に求める。 小テストを実施し、学生はその結果を受けて自身の学習状況を把握していく。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（工学部サステナビリティ学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	外国語	英語発展Ａ	２年次は英語の自律学習の段階ととらえて、異文化英語教材を使用して日常的に「使える英語」のレベルを高めつつ、＜Reading & Listening＞という総合的な技能の習得を目標にした授業展開をしていく。演習中に随時行うTOEIC-IPワーク演習では、e-learning活用のワークブックとともに問題演習を徹底して、スコアアップをはかっていく。 １年次で身につけた基礎を元に大学での学びへの英文読解力・表現力を高め、英語への世界観を広げること、自身の専門分野で有効な英語を積極的に見つけていくこと、英語発展Ｂの授業とつながりながら、自分が英語で発信したい情報は何かをしっかりと考えることを授業到達目標とする。	
		英語発展Ｂ	グループワーク・発表・作文練習・毎週の問題演習等を通して＜Speaking & Writing＞の力を高めていく。新しい単語や文法等を書き込んで単語帳を作り、演習中のテストや他の英語クラスでも活用していくことを学生に求める。定期的に小テストを実施して、学生には自身の英語レベルを理解させる。教員は様々な手法・教材を用いて、学生の英語表現のスキル向上やTOEICスコアアップを図っていく。	
		英語発展Ｃ	英語発展Ａ・英語発展Ｂに引き続き、２年次は英語の自律学習の段階ととらえて、特色のある英語教材を使用して、日常的に「使える英語」のレベルを高めつつ、＜Reading & Listening＞という総合的な２つの技能の習得を目標にした授業展開をしていく。授業中に随時行うTOEIC-IPワーク演習では、e-learning活用のワークブックとともに模擬テストなどの問題演習を徹底して、スコアアップをはかっていく。 英語発展Ｄの授業とつなげながら徐々に難易度を上げ、専門分野で活用できる英語力を身につけること、英語発展Ａ・英語発展Ｂでの学習を継続して最終段階として英語を「自分のものにする」こと、２年間でどこまで「使える」ようになったか自分の力を把握し次の学びへ活かすことを授業到達目標とする。	
		英語発展Ｄ	英語発展Ａ・英語発展Ｂに引き続き、２年次は英語の自律学習の段階ととらえて、学部に即した英語教材を使用して、日常的に「使える英語」のレベルを高めつつ、特に＜Reading & Speaking＞（プレゼン）という重要な２つの技能の習得を目標にした授業展開をしていく。「英文を読み込むこと」そして「人前で簡単なプレゼンをすること」を実践する。授業中に随時行うTOEIC-IPワーク演習では、模擬テストなどの問題演習を徹底して行い、スコアアップをはかっていく。	
		英語綜合Ａ	以下の３クラスのうち、いずれかを選択する。 ≪TOEIC演習≫ TOEIC公開テストを受験するために徹底したレベルアップを図るクラスである。レベルの高いTOEIC問題集を活用しながら、実践的な応用能力を身につける。チャレンジしつつ、英語４技能の総合力を高めていく。 ≪Reading≫ 少しレベルの高い英文を読みこなしていく技能を身につける。徹底した講読演習を進めながら、英語４技能の総合力を高める。 ≪コミュニケーション≫ ディスカッションやディベートを中心とした演習を行う。	
		英語綜合Ｂ	以下の３クラスのうち、いずれかを選択する。 ≪TOEIC演習≫ TOEIC公開テストを受験するために徹底したレベルアップを図るクラスである。英語綜合Ａに引き続き、レベルの高いTOEIC問題集を活用しながら、実践的な応用能力を身につける。チャレンジしつつ、英語４技能の総合力を高めていく。 ≪Reading≫ 英語綜合Ａに引き続き、レベルの高い英文を読みこなしていく技能を身につける。徹底した講読演習を進めながら、英語４技能の総合力を高める。 ≪コミュニケーション≫ 英語綜合Ａに引き続き、ディスカッションやディベートを中心とした演習を行う。	
		中国語基礎１	【演習概要】ピンインを見て正しい発音ができる訓練をし、他者が発音した中国語の音を正しいピンインで把握することを通して、単語をはじめとして文章にいたるまでのリスニング能力を養う。また日本語文法と中国語文法の対応関係を理解できるようにする。 【到達目標】ピンインを見れば正しい発音ができるようになり、辞書をひいて円滑に自習できる基礎力をつくる。中国語の主要な文法に目を通して理解し、中国語文法の特徴を把握する。	
		中国語基礎２	【演習概要】中国語基礎１に続き、ピンインを見て正しい発音ができる訓練をし、他者が発音した中国語の音を正しいピンインで把握することを通して、単語から文章にいたるリスニング能力を養う。また日本語文法と中国語文法の対応関係を理解できるようにする。 【到達目標】ピンインを見れば正しい発音ができるようになり、辞書をひいて円滑に自習できる基礎力をつくる。中国語の主要な文法に目を通して理解し、中国語文法の特徴を把握する。	
		中国語発展１	【演習概要】中国語基礎１・中国語基礎２に続く中級の文法を、段階を追って無理なく理解できるようにする。実践的な中国語を反復して練習する。基礎文法を段階を追って無理なく理解できるようにする。演習中に反復練習をして、文法事項の完全習得を目標とする。毎週単語テストを行うため、復習は必須であり、予習として授業前に必ず本文の朗読練習を行うこととする。 【到達目標】中国語検定４級に合格できる中国語力を完全に身につけるとともに、３級合格も目指す。	
		中国語発展２	【演習概要】中国語発展１に続き、中級の文法を、段階を追って無理なく理解できるようにする。実践的な中国語を反復して練習する。基礎文法を段階を追って無理なく理解できるようにする。演習中に反復練習をして、文法事項の完全習得を目標とする。毎週単語テストを行うため、復習は必須であり、予習として演習前に必ず本文の朗読練習を行うこととする。 【到達目標】中国語検定４級に合格できる中国語力を完全に身につけるとともに、３級合格も目指す。	
		フランス語基礎１	【演習概要】テキストを使用し、文法の基礎を教え、様々な例文を補足して理解を深める。まずは、文法及び発音の規則に時間をかけ、習得させる。時事に関する話題や逸話などを取り入れ、フランス語に対する興味を高める。また、視聴覚教材を積極的に取り入れる。 【到達目標】初級の発音や文法を習得し、フランス語学習の基礎を形成する。また、フランス語学習の全体像を示し、フランス語習得のための道筋を示す。フランス語学習の意義を歴史の文化等の観点から教え、学習意欲を高める。	
		フランス語基礎２	【演習概要】発音、文法事項を丁寧に解説し、何度も練習を繰り返しながら、フランス語に慣れていく。しっかり習得できるように定期的に小テストを行う。ときにはシャンソンなど視聴覚教材も活用する。 【到達目標】初級文法を中心に、フランス語の基礎を習得することを目標とする。フランス語の発音やリズムに慣れ、聞く・話す・書く・読むという総合的なコミュニケーション能力を養い、言葉を通じてフランスの社会や文化にも関心を広げていく。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（工学部サステナビリティ学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	外国語	フランス語発展１	【演習概要】初等文法を踏まえた上で、さらに本格的な文法習得をする。発音の正確さと基礎を絶えず確認しながら、映画、小説・詩などを活用して、フランス語に対する感性を磨いていく。普段からの予習・復習を怠りなく行う。 【到達目標】１年で学んだ基礎を押さえた上で、さらなる表現の上達を目指す。映像・朗読CDなどの視聴覚資料などを用いながら、運用の多様性を獲得し、フランス語のニュアンスに触れうる感性を獲得することを目指す。	
		フランス語発展２	【演習概要】指定された教科書のテキストを読みながら文法事項を解説し、文の基本構造を説明する。フランス語で話したり、聞いて理解することにも注意を払う。また、仏検対策の練習も重ねていき、ときには視聴覚教材も活用する。 【到達目標】１年次に習った文法事項を確認しながら、フランス語の比較的やさしい文章を理解し、日常の出来事をフランス語で表現できるようになることが目標である。仏検４級に合格できるように文法を復習し基礎を固めていく。さらに、文章を通してフランスの社会や文化にも関心を広げる。	
		ドイツ語基礎１	ドイツ語圏の文学、音楽、哲学は言うに及ばず、近年ではエコ先進国として環境問題でも注目されている。サッカー等のスポーツやモダンアートもさかんである。またヨーロッパ連合EUの中でユーロ経済の重要な役割を担っている。ドイツ語圏は中世からの面影を残した街並みや、森と水の豊かな自然にも恵まれ一年中美しい観光国でもある。この演習ではドイツ語の基礎を、「ドイツ短期留学」を設定したCDの付いた教科書を用いて実践的な演習を通して学習する。	
		ドイツ語基礎２	ドイツ語圏の文学、音楽、哲学は言うに及ばず、近年ではエコ先進国として環境問題でも注目されている。サッカー等のスポーツやモダンアートもさかんである。またヨーロッパ連合EUの中でユーロ経済の重要な役割を担っている。ドイツ語圏は中世からの面影を残した街並みや、森と水の豊かな自然にも恵まれ一年中美しい観光国でもある。この演習ではドイツ語基礎１に続き、ドイツ語の基礎を、「ドイツ短期留学」を設定したCDの付いた教科書を用いて実践的な演習を通して学習する。	
		ドイツ語発展１	【演習概要】ドイツ語基礎１・ドイツ語基礎２で学んだ知識を復習しながら、できるだけ多くの文に触れることで、ドイツ語の表現力をつけていく演習である。具体的な「場面」を設定したワークブックとCDの付いた教科書を用いて演習形式で進めていく。教科書と並行して、１年次の復習を兼ねて、ドイツ語検定４級の準備も行う。 【到達目標】ドイツ語初級後期から中級の文法事項を習得し、表現力を向上させて、学年中にドイツ語検定４級合格のドイツ語能力を身につける事を目標とする。	
		ドイツ語発展２	【演習概要】ドイツ語基礎１・ドイツ語基礎２で学んだ知識を復習しながら、ドイツ語発展１とあわせ、できるだけ多くの文に触れることで、ドイツ語の表現力をつけていく演習である。具体的な「場面」を設定したワークブックとCDの付いた教科書を用いて演習形式で進めていく。教科書と並行して、１年次の復習を兼ねて、ドイツ語検定４級の準備も行う。 【到達目標】ドイツ語初級後期から中級の文法事項を習得し、表現力を向上させて、学年中にドイツ語検定４級合格のドイツ語能力を身につける事を目標とする。	
		スペイン語基礎１	はじめて習う言語のため、文字の読み方から、発音、語形変化、動詞の活用など、基本文法をていねいにしっかりと学ぶ。Gramatica（文法）、Dialogo（ダイアローグ）、キーフレーズ、会話練習を中心に進めていく。毎回、新出語や動詞の活用などの暗記テストを行い、また、１課終わるごとに小テストを行う。映像を見たり、音声を聴いたりする機会も設けていく。	
		スペイン語基礎２	スペイン語基礎１に引き続き、文字の読み方から、発音、語形変化、動詞の活用など、基本文法をていねいにしっかりと学ぶ。Gramatica（文法）、Dialogo（ダイアローグ）、キーフレーズ、会話練習を中心に進めていく。毎回、新出語や動詞の活用などの暗記テストを行い、また、１課終わるごとに小テストを行う。映像を見たり、音声を聴いたりする機会も設けていく。	
		スペイン語発展１	初級文法や表現を実習し、コミュニケーション中心の演習で口頭練習問題、日常会話、ロールプレイ等をする。スペイン語圏の文化や歴史、社会事情を知るための教材を取り入れ、視聴覚教材も適宜使用する。スペイン語基礎１・スペイン語基礎２の学習内容を定着させ、初級文法をひととおり身につける。日常のさまざまな場面での表現をおぼえ、簡単な文章を読み書きしたり、基本的な日常会話ができるようになる。過去のことについても話せるようになり、予定、願望、要求などを表せるようになる。スペイン語圏の文化を知り、視野を広げる。	
		スペイン語発展２	スペイン語発展１に引き続き初級文法や表現を実習し、コミュニケーション中心の演習で口頭練習問題、日常会話、ロールプレイ等をする。スペイン語圏の文化や歴史、社会事情を知るための教材を取り入れ、視聴覚教材も適宜使用する。日常のさまざまな場面での表現をおぼえ、簡単な文章を読み書きしたり、基本的な日常会話ができるようになる。過去のことについても話せるようになり、予定、願望、要求などを表せるようになる。スペイン語圏の文化を知り、視野を広げる。	
		韓国語基礎１	初習外国語として演習の効率をあげるために、テキストを使って授業を進める。最初ハングルの発音と書き方等の文字の初歩的な練習から始め、基礎的な文法と表現を学ぶ。 以下の力を身につけることを目標とする。 ・文字（ハングル）の読み書きができる。 ・正確な発音ができる。 ・簡単な自己紹介とあいさつができる。 ・文法が理解・活用でき、簡単な文章が読める。 ・初級の文型を活用した簡単な文章が書ける。	
		韓国語基礎２	韓国語の基本的な文法事項と表現を学ぶと共に、簡単な文章の読解、作文と会話の練習を行う。学習項目の文法と表現はドリルを多くして、読む・書く・話す総合的な力が身につくように進める。 以下の力を身につけることを目標とする。 ・基本的なあいさつができる。 ・正確な発音ができる。 ・辞書が使える。 ・初中級レベルの文法と文型が活用できる。 ・初級レベルの文章が読解でき、作文ができる。	
		韓国語発展１	基本的な文法事項と表現を学び、簡単な文章の読解、作文と会話の練習を行う。学んだ学習事項が確実に身につけられるように文法事項と関連表現のドリルを多くして、読む・書く・話す総合的な力が身につくように進める。 以下の力を身につけることを目標とする。 ・各課で提示された文型と表現が作文と会話で応用できる。 ・各課で提示された不規則活用、慣用表現などの文法事項が理解でき、活用できる。 ・中級前半レベルの文章の読解と作文ができる。 ・あいさつと、買い物・食事など生活に必要な簡単な会話ができる。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（工学部サステナビリティ学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	外国語	韓国語発展２	中級レベルの文章を読んで、関連する文法や表現を学習する。練習問題を通して関連表現を確実に覚え活用できるように十分な練習をする。文の内容と関連した韓国の文化、社会についてもとりあげ、理解が深まるように進める。 以下の力を身につけることを目標とする。 ・中級レベルの文法・文型が理解でき、活用できる。 ・言い回しや縮約形や省略形が理解できる。 ・中級レベルの文章が訳読でき、関連の文法・文型を活用した作文ができる。 ・あいさつと、買い物・食事・交通・銀行など生活で必要な簡単な会話ができる。	
		留学準備１	英語圏への留学に必要となる、IELTS試験対策を中心に、英語の４技能に係る能力向上を目指す。Speaking, Listening, Writing, Readingの４つの技能を同時に向上させるとともに、試験対策に必要なタイムマネージメントスキルも磨く。英語圏への留学を希望する学生にとっては、留学前の英語力向上として、また、留学から帰国した学生にとっては、英語力の維持と継続的な学習機会の場となる。	
		留学準備２	本授業では、到達目標をTOEIC公開テストにおけるスコア向上に絞る。TOEICに熱意のある学生に向けた効率的なスコア向上のためのテクニック、及び自宅での学習方法を中心として教授する。保持スコアのレベル別に「英語資格・検定試験対策１」、「英語資格・検定試験対策２」を開講し、学生のレベルに合わせた確実なスコア向上につなげる。対象学生の推奨保持TOEICスコアは500点以上とする。	
		英語資格・検定試験対策１	本授業では、到達目標をTOEIC公開テストにおけるスコア向上に絞る。TOEICに熱意のある学生に向けた効率的なスコア向上のためのテクニック、及び自宅での学習方法を中心として教授する。保持スコアのレベル別に「英語資格・検定試験対策１」、「英語資格・検定試験対策２」を開講し、学生のレベルに合わせた確実なスコア向上につなげる。対象学生の推奨保持TOEICスコアは400点以上とし、本演習修了時の目標TOEICスコアは730点とする。	
		英語資格・検定試験対策２	本授業では、到達目標をTOEIC公開テストにおけるスコア向上に絞る。TOEICに熱意のある学生に向けた効率的なスコア向上のためのテクニック、及び自宅での学習方法を中心として教授する。保持スコアのレベル別に「英語資格・検定試験対策１」、「英語資格・検定試験対策２」を開講し、学生のレベルに合わせた確実なスコア向上につなげる。対象学生の推奨保持TOEICスコアは400点以上とし、本演習修了時の目標TOEICスコアは550点とする。	
	教養日本語	日本語リテラシー	会話場面におけるリスニング能力を高め、場面に応じて適切に話す能力をつける。相手が述べた情報を正確に聞き取り、相手の意図や感情を正しく理解した上で、自分の言いたいことを相手に誤解されることなく伝えることのできる能力をつける。 本授業の到達目標は以下である。 ・自らの得意不得意を認識し、これから学ぶ専門との繋がりを考える　４年間の学びで専門性を高められるよう、長期目標と短期目標が立てられるようになる ・与えられる学びではなく、自ら楽しみ求めにいく学びにシフトできるようにする　苦手なことに関して、他者に助言などを求める勇気とつながりをもち、互いに学びを深め合えるようになる ・自己の得意不得意を認識し、得意分野を伸ばし、不得意分野を克服するための学習計画を戦略的に立てられるようになる　与えられたテーマに関して、「なぜそう思うのか」「他者と異なるポイントは何か」をじっくり考えられるようになる	
		日本語基礎Ａ	アカデミック・ジャパニーズを身につけるために必要な基礎的な部分を養成する。論理的思考力を養成する。 本授業の到達目標は以下である。 ・日々の生活の中から、日々の課題や物事を解決するためのヒントを見つけられる人物になる。 ・個別経験を抽象的な概念につなげ、汎用性をもった伝え方ができるようになる。他者につたえたい強力なメッセージを抽出し、メッセージを伝えるためにどのような資料を用いるべきかを検討できるようになる ・自分の発表テーマに関する資料を読む際に、筆者が特別の立場や視点から取り上げた、現代の問題に関する記事やレポートを理解できる。 ・主張、論争、議論を含むニュース、インタビュー、ドキュメンタリーからの抜粋を要約することができる。 ・理路整然と、論拠を並べ挙げることができる。 ・自分の関心のある分野に関連した広範囲な話題について、明確かつ詳細に述べ、プレゼンテーションができる。必要事項を補足しながら、関連事例をあげて、主張を強化、展開することができる。	
		日本語基礎Ｂ	文章による表現技術を養成する。的確な表現を使って正しい構造の文を書く能力や、構成のしっかりした論理的な文章を書く能力をつける。 本授業の到達目標は以下である。 ・長いレポートを執筆するための表現や、それを支える細かい文法について精査し、より正確に言語を使用する能力を身につける。　また、自身が能力を身につけるだけでなく、他者にわかりやすく説明できるような知識と説明力も身につける ・失敗や苦手なところ、曖昧なところをそのままにせず、じっくり調べて取り組む人物になる ・事象が生じた原因を探り、解決する力を養う　物事を解決するいくつかの方策を検討し、どのような伝え方が他者により良く伝わるか工夫する力を養う ・自分が関心を持つ様々な話題や問題点について、明瞭、詳細に書くことができる。 ・標準的なレイアウトや段落切りの慣例に従って、ある程度の長さのはっきりと理解できる文章を書くことができる。 ・いくつかの選択肢の利点と不利な点や、構成要素・特徴を挙げて説明できる。 ・　エッセイやレポートを書くときに、根拠を提示しながらある視点に賛成や反対の理由を挙げ、様々な選択肢の利点と不利な点を説明できる。	
		日本語基礎Ｃ	自分の専門分野について詳しく説明できるようになる。また、話をする相手に、自分の専門分野に興味をもってもらえる伝え方を身につける。１年次の集大成として専門書の読解を行い、２年次以降につながるより豊かな学びの基礎を築く。 ・部分的な情報に出会ったときに、それ以外の場所での学びとリンクさせながら総合的に捉えられる人物になる。 ・部分的な情報を総合的に捉える力を身につける　得た情報をそのまま話すのではなく、大きな枠組・詳細を区別しながら他者に伝えられるようになる ・発表準備の際に、そのテーマに関する　主張、論争、議論を含むニュース、インタビュー、ドキュメンタリーからの抜粋を要約することができる。 ・関連説明、根拠、コメントを述べることによって、議論で自分の意見を説明したり、維持したりできる。 ・原因や結果を推測し、異なるアプローチの利点と不利な点を比較考察しながら、論点や問題の概略をはっきりと述べることができる。 ・相手の発話を正しく理解したかどうかを確認するための質問ができ、あいまいな点の説明を求めることができる。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（工学部サステナビリティ学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	教養日本語	日本語基礎Ｄ	・興味のあることや社会的な問題について詳しく説明したり、自分の意見をわかりやすく述べたりする能力をつける。 ・話をしている相手に、興味を持ってもらえる能力をつける。 ・相手と異なる意見を述べるとき、意見交換ができる能力をつける。 １年次の成果物から自らの得意不得意を再認識し、これから学ぶ専門との繋がりを考える　３年以降のより専門性の高い学びに繋がるよう、長期目標と短期目標が立てられるようになる。 日々の生活の中で見つけた課題について、今後の予想を推測する知的好奇心と洞察力を持つ人物になる。	
		日本語発展Ａ	大学での研究活動のため、発表の聞き取りと発表・質疑応答のしかたを身につけ、うまく発表するためのテクニックを学ぶ。 データを批判的に読む力を身につけ、自らも興味に基づいた簡易調査を行えるようになる。 日々の生活の中で見つけた課題について、傾向を推測し調査する知的好奇心と実践力を持つ人物になる。 個別経験を抽象的な概念につなげ、傾向・要因を探るために考えて調査計画を立てられるようになる。また、自分が推測したことに関して、なぜそのような推測に至ったかを独自調査をもとに説明できるようになる。	
		日本語発展Ｂ	留学生活に必要な、アカデミックレベルの文章を書く技術を身につける。 短文の書き方、段落の作り方、いくつかの段落からなる長文の書き方を学ぶ。資料を利用した論理的なレポートの作成を行う。 独自の調査につなげるため、より専門的な書籍や論文を読解・整理し、体系的に他者に伝えられる。専門に関する他者の発表をクリティカルに聞き、疑問点を挙げたり、より深い議論になりそうな意見を述べたりし、他者の発表に貢献できる。また、それにより自分の考える力も磨くことができる。	
		日本語発展Ｃ	自分の専門分野について詳しく説明できるようになる。 話をする相手に、自分の専門分野に興味をもってもらえる伝え方を身につける。 専門的な資料をもとに、比較検討し、自分の見解をまとまった文字数のレポートにまとめられる。 専門的なディスカッションや質疑応答に対応できる能力を身につける。 自己の興味だけでなく、他者の調査についても興味を持て、積極的に議論に参加できる人物になる。 個別経験を抽象的な概念につなげ、複数の資料をもとに比較検討し、持論を展開する。 比較の軸を自分で決め、課題を整理できる。 抽象的な概念と具体事例の双方をいったりきたりしながら考察を深められる。	
		日本語発展Ｄ	現代日本を理解するために、時間軸（歴史的視点）、水平軸（地理的視点）で考える視点も加味し、現代の諸問題を扱う。 前半は、具体的なテーマとして、文化、教育、労働、農業、食糧、観光、宗教、防衛などからVTRや書籍、データで事例を示す。 後半は、小グループでテーマを設定し、文献等の調査や討論により焦点化された疑問や課題について、インタビューやアンケート調査により一定の結論をまとめ発表する。	
		日本事情	本授業では、国連におけるＳＤＧｓ制定の経緯にからめて、地球（世界）を取り巻く様々な課題を認識し、それらの課題と17の目標それぞれとの関連を学ぶ。実例として１つの目標を深く考察することも行う。本授業は初年次教育として情報・文献等の収集、情報の吟味と整理、大学レベルの学修の基本的な手続きと作法等を実地に学ぶ場とし、適宜グループ学習、プレゼンテーション等を取り入れる。	
	ＣＨＰ	ＳＤＧｓ基礎	17のＳＤＧｓのうち、（１）貧困　（４）　教育（５）ジェンダー（10）不平等（16）平和（17）実施手段の６つの目標について、専門的な立場からの講義を行う。分野に属する１つの目標を掘り下げたり、複数の目標について取り上げたりして、これらの目標をいかに実現できるかを真剣に考える場とする。 食品・飲料・消費財産業、製造業、金融サービス業、エネルギー・天然資源・化学産業、ヘルスケア・ライフサイエンス産業、運輸・輸送機器産業等、様々な業界で目標達成のためになされている具体的な取組の事例紹介を行う。 また、ＳＤＧｓ基礎で修得した情報・文献の収集、情報の吟味と整理を活用して、グループで設定した興味関心に応じて調査した内容発表を行う。	
		ＳＤＧｓ発展１	17のＳＤＧｓのうち、（２）飢餓（８）経済成長と雇用（９）インフラ・産業化・イノベーション（11）持続可能な都市（12）持続可能な消費と生産 の５つの目標について、専門的な立場からの講義を行う。分野に属する１つの目標を掘り下げたり、複数の目標について取り上げたりして、これらの目標をいかに実現できるかを真剣に考える場とする。 食品・飲料・消費財産業、製造業、金融サービス業、エネルギー・天然資源・化学産業、ヘルスケア・ライフサイエンス産業、運輸・輸送機器産業等、様々な業界で目標達成のためになされている具体的な取組の事例紹介を行う。 また、ＳＤＧｓ基礎・ＳＤＧｓ発展１で修得した情報・文献の収集、情報の吟味と整理を活用して、自らの興味関心に応じて調査した内容発表を行う。	
		ＳＤＧｓ発展２	17のＳＤＧｓのうち、（３）保健（６）水・衛生（７）エネルギー（13）気候変動（14）海洋資源（15）陸上資源 の６つの目標について、専門的な立場からの講義を行う。分野に属する１つの目標を掘り下げたり、複数の目標について取り上げたりして、これらの目標をいかに実現できるかを真剣に考える場とする。 食品・飲料・消費財産業、製造業、金融サービス業、エネルギー・天然資源・化学産業、ヘルスケア・ライフサイエンス産業、運輸・輸送機器産業等、様々な業界で目標達成のためになされている具体的な取組の事例紹介を行う。 また、ＳＤＧｓ基礎・ＳＤＧｓ発展１・ＳＤＧｓ発展２で修得した情報・文献の収集、情報の吟味と整理を活用して、調査した内容を分析し、提言ができるようになる。	
		ＳＤＧｓ発展３	世界に観察される様々な問題の解決を図り、将来の長きにわたって解決に向かう方向を維持して行くため、日々われわれが具体的に何に取り組み、何をなすべきか、現状認識を深めつつ、多角的・複眼的に考察することで実践への手がかりをつかむ演習授業である。 さらに「世界の幸せをカタチにする。」という本学のブランド・ステートメントを、ＳＤＧｓの17の目標を通じていかに実現できるかを真剣に考える場とする。	
		ＳＤＧｓ特講	プログラムから、自ら１つ選択し実践する。各プログラムの趣旨に沿って活動に参加した場合に、認定単位を付与する。なお、認定される単位数は、各プログラムの実施期間（実日数）により決定する。 （１）海外フィールドワーク （２）国内フィールドワーク （３）チームビルディング （４）地方創生プロジェクト＜ボランティア・農業体験・地域活性化支援＞ （５）体験学習 （６）学会・シンポジウム	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（工学部サステナビリティ学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	フィールド・スタディーズ	フィールド・スタディーズ	プログラムから、自ら１つ選択し実践する。各プログラムの趣旨に沿って活動に参加した場合に、認定単位を付与する。なお、認定される単位数は、各プログラムの実施期間（実日数）により決定する。 （１）海外フィールドワーク （２）国内フィールドワーク （３）チームビルディング （４）地方創生プロジェクト＜ボランティア・農業体験・地域活性化支援＞ （５）体験学習 （６）学会・シンポジウム	
		フィールド・スタディーズ１	プログラムの内から、自ら１つ選択し実践する。各プログラムの趣旨に沿って活動に参加した場合に、認定単位を付与する。なお、認定される単位数は、各プログラムの実施期間（実日数）により決定する。 本演習は、地方行政視察、他、１週間～２週間のプログラムが対象となる。プログラムによっては、事前及び事後学習を行う。	
		フィールド・スタディーズ２	プログラムの内から、自ら１つ選択し参加する。各プログラムの趣旨に沿って活動に参加し修了した場合に、認定単位を付与する。なお、プログラム参加後認定される単位数は、各プログラムの実施期間（実日数）により決定する。 本演習は、２週間～３週間のプログラムが対象となる。プログラムによっては、事前・事後学習を行う。	
		フィールド・スタディーズ３	プログラムの内から、自ら１つ選択し参加する。各プログラムの趣旨に沿って活動に参加し修了した場合に、認定単位を付与する。なお、プログラム参加後認定される単位数は、各プログラムの実施期間（実日数）により決定する。 本演習は、４週間以上のプログラムが対象となる。プログラムによっては、事前・事後学習を行う。	
		フィールド・スタディーズ４	プログラムの内から、自ら１つ選択し参加する。各プログラムの趣旨に沿って活動に参加し修了した場合に、認定単位を付与する。なお、プログラム参加後認定される単位数は、各プログラムの実施期間（実日数）により決定する。 本演習は、１カ月以上のプログラムが対象となる。プログラムによっては、事前・事後学習を行う。	
		フィールド・スタディーズ発展１Ａ	上級学年で受ける専門教育と社会とのつながりをより明確に理解し、社会の課題に対してＳＤＧｓの指標を実現するための解決策を提示していくことを本授業の目的とする。１年次の授業科目として開講する。事前・事後学習と18時間以上の学外学習を、合計で24時間以上実施し、単位認定を行う。	
		フィールド・スタディーズ発展１Ｂ	上級学年で受ける専門教育と社会とのつながりをより明確に理解し、社会の課題に対してＳＤＧｓの指標を実現するための解決策を提示していくことを本授業の目的とする。１年次の授業科目として開講する。事前・事後学習と36時間以上の学外学習を、合計で48時間以上実施し、単位認定を行う。	
		フィールド・スタディーズ発展１Ｃ	上級学年で受ける専門教育と社会とのつながりをより明確に理解し、社会の課題に対してＳＤＧｓの指標を実現するための解決策を提示していくことを本授業の目的とする。１年次の授業科目として開講する。事前・事後学習と54時間以上の学外学習を、合計で72時間以上実施し、単位認定を行う。	
		フィールド・スタディーズ発展１Ｄ	上級学年で受ける専門教育と社会とのつながりをより明確に理解し、社会の課題に対してＳＤＧｓの指標を実現するための解決策を提示していくことを本授業の目的とする。１年次の授業科目として開講する。事前・事後学習と72時間以上の学外学習を、合計で96時間以上実施し、単位認定を行う。	
		フィールド・スタディーズ発展２Ａ	上級学年で受ける専門教育と社会とのつながりをより明確に理解し、社会の課題に対してＳＤＧｓの指標を実現するための解決策を提示していくことを本授業の目的とする。２年次の授業科目として開講する。事前・事後学習と18時間以上の学外学習を、合計で24時間以上実施し、単位認定を行う。	
		フィールド・スタディーズ発展２Ｂ	上級学年で受ける専門教育と社会とのつながりをより明確に理解し、社会の課題に対してＳＤＧｓの指標を実現するための解決策を提示していくことを本授業の目的とする。２年次の授業科目として開講する。事前・事後学習と36時間以上の学外学習を、合計で48時間以上実施し、単位認定を行う。	
		フィールド・スタディーズ発展２Ｃ	上級学年で受ける専門教育と社会とのつながりをより明確に理解し、社会の課題に対してＳＤＧｓの指標を実現するための解決策を提示していくことを本授業の目的とする。２年次の授業科目として開講する。事前・事後学習と54時間以上の学外学習を、合計で72時間以上実施し、単位認定を行う。	
		フィールド・スタディーズ発展２Ｄ	上級学年で受ける専門教育と社会とのつながりをより明確に理解し、社会の課題に対してＳＤＧｓの指標を実現するための解決策を提示していくことを本授業の目的とする。２年次の授業科目として開講する。事前・事後学習と72時間以上の学外学習を、合計で96時間以上実施し、単位認定を行う。	
		フィールド・スタディーズ発展２Ｅ	上級学年で受ける専門教育と社会とのつながりをより明確に理解し、社会の課題に対してＳＤＧｓの指標を実現するための解決策を提示していくことを本授業の目的とする。２年次の授業科目として開講する。事前・事後学習と90時間以上の学外学習を、合計で120時間以上実施し、単位認定を行う。	
		フィールド・スタディーズ発展３Ａ	上級学年で受ける専門教育と社会とのつながりをより明確に理解し、社会の課題に対してＳＤＧｓの指標を実現するための解決策を提示していくことを本授業の目的とする。３年次の授業科目として開講する。事前・事後学習と18時間以上の学外学習を、合計で24時間以上実施し、単位認定を行う。	
		フィールド・スタディーズ発展３Ｂ	上級学年で受ける専門教育と社会とのつながりをより明確に理解し、社会の課題に対してＳＤＧｓの指標を実現するための解決策を提示していくことを本授業の目的とする。３年次の授業科目として開講する。事前・事後学習と36時間以上の学外学習を、合計で48時間以上実施し、単位認定を行う。	
		フィールド・スタディーズ発展３Ｃ	上級学年で受ける専門教育と社会とのつながりをより明確に理解し、社会の課題に対してＳＤＧｓの指標を実現するための解決策を提示していくことを本授業の目的とする。３年次の授業科目として開講する。事前・事後学習と54時間以上の学外学習を、合計で72時間以上実施し、単位認定を行う。	
		フィールド・スタディーズ発展３Ｄ	上級学年で受ける専門教育と社会とのつながりをより明確に理解し、社会の課題に対してＳＤＧｓの指標を実現するための解決策を提示していくことを本授業の目的とする。３年次の授業科目として開講する。事前・事後学習と72時間以上の学外学習を、合計で96時間以上実施し、単位認定を行う。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（工学部サステナビリティ学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	フィールド・スタディーズ	フィールド・スタディーズ発展３Ｅ	上級学年で受ける専門教育と社会とのつながりをより明確に理解し、社会の課題に対してＳＤＧｓの指標を実現するための解決策を提示していくことを本授業の目的とする。３年次の授業科目として開講する。事前・事後学習と90時間以上の学外学習を、合計で120時間以上実施し、単位認定を行う。	
		フィールド・スタディーズ発展４Ａ	上級学年で受ける専門教育と社会とのつながりをより明確に理解し、社会の課題に対してＳＤＧｓの指標を実現するための解決策を提示していくことを本授業の目的とする。４年次の授業科目として開講する。事前・事後学習と18時間以上の学外学習を、合計で24時間以上実施し、単位認定を行う。	
		フィールド・スタディーズ発展４Ｂ	上級学年で受ける専門教育と社会とのつながりをより明確に理解し、社会の課題に対してＳＤＧｓの指標を実現するための解決策を提示していくことを本授業の目的とする。４年次の授業科目として開講する。事前・事後学習と18時間以上の学外学習を、合計で24時間以上実施し、単位認定を行う。	
		フィールド・スタディーズ発展４Ｃ	上級学年で受ける専門教育と社会とのつながりをより明確に理解し、社会の課題に対してＳＤＧｓの指標を実現するための解決策を提示していくことを本授業の目的とする。４年次の授業科目として開講する。事前・事後学習と54時間以上の学外学習を、合計で72時間以上実施し、単位認定を行う。	
		フィールド・スタディーズ発展４Ｄ	上級学年で受ける専門教育と社会とのつながりをより明確に理解し、社会の課題に対してＳＤＧｓの指標を実現するための解決策を提示していくことを本授業の目的とする。４年次の授業科目として開講する。事前・事後学習と72時間以上の学外学習を、合計で96時間以上実施し、単位認定を行う。	
	インターンシップ	インターンシップ	効果的なインターンシップの実現のためには、社会で「働く」ことの意義や、就業に必要な心構え・知識・能力を理解するとともに、就業体験において最低限必要な基礎的能力を身につけなければならない。そのため、就業体験に必要な知識・技術等を総合的に学ぶ。具体的には、体験者を交えた働くことの意義に関するブレスト、自己分析・履歴書（企業への自己紹介書）、ソーシャル・スキル、企業・業界研究、実習目標の設定など、導入から応用実践的な内容まで及び、教育方法においてもアクティブ・ラーニングを取り入れている。	
		企業協働プロジェクト	本授業は、企業・自治体等と連携した教育を開発した上で実践する。本学の産学連携教育は、産業界側のニーズを取り入れながら、企業・自治体と協働開発で理論と実践を有機的に構成した教育プログラムを構築していくのが最大の特長であり、当該ゼミはその基幹科目である。ゼミでは「Think independently」「Search for Answers」を方針に、課題発見力育成を主眼とし徹底した事例研究を行う。	
	全学教養ゼミナール	全学教養ゼミナール１	本授業は、大学での専門教育の基盤となる知識を習得した上で、さらに学び視野を広げる力を身に付けることを目的とする。「思想・芸術」、「国際・地域」、「社会・制度」を主なテーマとする。専門教育とは異なるこれらのテーマについて学ぶことで、多様な価値観や多角的な視野を修得する。	
		全学教養ゼミナール２	本授業は、大学での専門教育の基盤となる知識を習得した上で、さらに学び視野を広げる力を身につけることを目的とする。「人間・環境」、「物質・生命」、「数理・情報」を主なテーマとする。専門教育とは異なるこれらのテーマについて学ぶことで、多様な価値観や多角的な視野を修得する。	
	寄付講座	武蔵野市自由講座	日本の教育は10年ごとに改訂される学習指導要領によりその後の教育の指針が示されている。直近では平成29（2017）年の改訂である。「知識・技能」という基礎的内容の修得は基本として押さえた上で、その活用に関する「思考力・判断力・表現力」の育成や「学びに向かう力や人間性」の育成を重視している。そして教育方法についても双方向型の主体的で対話的な教育方法として「アクティブラーニング」を推進している。本授業では、各分野からこの新しい学力観や教育方法によるこれからの教育について考えていく。 （オムニバス方式/全14回） （17　上岡　学/２回） ・世界と自分をつなぐＳＤＧｓ　持続可能な社会の実現を目指して ・日本の教育で大切にしてきたもの （27　櫻井　千佳子/１回）英語を通して見る世界、日本語を通して見る世界。楽しめる英語学習のヒント （32　生井　亮司/１回）哲学・対話、が開く世界 （35　樋口　昇/１回）　子ども主体の理科学習を創る。問題解決型の楽しい理科を求めて （42　今福　理博/１回）赤ちゃんの脳と心の発達から保育・教育を考える。 （43　小野　健太郎/１回）子どもの数学的思考をみとる。答えを求める算数からプロセスを語る算数へ （46　佐藤　克士/１回）“社会科＝暗記教科”脱却のヒント。有名実践家の授業実践から学ぶ社会科学習 （47　高牧　恵里/１回）子どもの音楽表現の可能性 （51　初谷　和行/１回）物語・小説の読み方。「語り手」概念から作品を解釈する。 （38　箕輪　潤子/１回）乳幼児期の遊びと学び （62　渡辺　英雄/１回）英語学習のための異文化理解―発音、単語、文法学習の先にあるもの。 （57　安達　光樹/１回）生涯スポーツとは。豊かな人生を送るために。 （104　常盤　隆/１回）生徒指導上の課題について。特にいじめの防止について。	オムニバス方式
		証券ビジネス論	激変する日本や世界の資本市場の全容と、投資のリスク＆リターンの考え方、株式投資・債券投資・グローバル証券投資・分散投資の方法などを実務の観点から解説する。証券会社社員をスピーカーとして招き、実例をおり込み講義を行う。経済情報の捉え方、金融資本市場の役割とその変化、証券投資のリスク・リターン、ポートフォリオ・マネジメント、債券市場の役割と投資、株式市場の役割と投資、投資信託の役割と仕組み、外国為替相場と変動要因、グローバル化する世界と資本市場の果たす役割、ライフプランニングとNISA等に触れる。	
学科科目	サステナビリティ基幹科目	サステナビリティ学と創造的学び	サステナビリティ学科の学びの導入として、入学直後の学生に対し集中的に実施する授業である。サステナビリティとは何か、なぜ世界でそれが求められるのかを体験的に学び、学修に対する意欲を高める。また、サステナビリティについて創造的、協働的に学ぶ基本コンピテンシーを育むことを目的として、問いと対話、傾聴と内省、共創とチーム学習についてワークショップ形式で体験する。	共同
		アカデミックスキル入門	知的探求、表現の基本的技法としてアカデミックスキルを学ぶ。具体的には、テーマや問いの設定、情報の収集や分析、それに基づいた思考と結論導出、文章化やプレゼンテーションなどの表現といった一連のプロセスを学ぶ。授業は演習形式で行い、学生はサステナビリティに関するテーマを設定し、調査、分析の一連のプロセスを経て自分なりの結論を導く。これらの過程を通じ、自ら問い、学ぶ姿勢を身につけるとともに、批判的思考や論理的思考、調査、統計、表現などのスキルを身につける。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（工学部サステナビリティ学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科科目	サステナビリティ基幹科目	サステナビリティ学基礎Ａ	サステナビリティ学の基礎として、持続可能な発展の概念や現代社会における課題や取り組みについて学ぶ。具体的には、ブルントラント委員会にはじまりＳＤＧｓにいたる持続可能な発展の概念の歴史、地球の有限性（プラネタリーバウンダリー）と持続可能な発展の原則、環境―経済―社会のつながりと現代社会のかかえる課題について学ぶ。そのうえで、持続可能な未来社会のビジョンを描き、それを実現するための方法について考える。授業は講義のほか、グループワークやディスカッションを随時行う。	
		サステナビリティ学基礎Ｂ	環境や社会のサステナビリティについて考えるためには、地球環境についての科学的理解が不可欠である。本授業では、現在指摘されている様々な地球環境問題について、主に自然科学の立場から、原因・現状・現在とられている対策・将来展望について、講義形式で概略を紹介する。具体的には、地球温暖化、オゾン層の破壊、環境基準と大気汚染・酸性雨・化石燃料、森林破壊、砂漠化、生物の絶滅と多様性の減少、人口・食糧問題などについて学ぶ。 （オムニバス方式/全14回） （1　門多　真理子/７回）　水質汚染、森林破壊、生物多様性、食料問題について担当する。 （5　三坂　育正/７回）　地球温暖化、オゾン層破壊、大気汚染について担当する。	オムニバス方式
		環境倫理・環境正義	20世紀後半、経済が高度成長するなかで発生した公害などの環境問題は、いまや地球全体のエコロジー危機が懸念されるほどにまで深刻化している。そして、人間社会と自然環境を一体的に捉えようとする試みが世界的に広がり、環境倫理が注目されている。本授業では、環境倫理に関わる動向や理論に着目しながら、人間と自然の関係及び人間相互の関係について考える。	
		環境エネルギー論	エネルギーと環境、社会のサステナビリティの関わりを理解するために必要な知識や考える能力を養う。具体的には、エネルギーに関する科学的知識、エネルギー資源・利用技術の工学的、経済学的知識、国内外のエネルギー政策や脱炭素に向けた動向、分散型エネルギーと地域社会との関わり（地域経済、エネルギー自治、コミュニティづくり等）について学ぶ。また、それらと日常的に触れるニュースや製品、サービスと結びつけて説明する力を養うとともに、サステナブルな社会における望ましいエネルギー利用のあり方を考える。授業は講義のほか、グループワークやディスカッションを随時行う。	
		資源循環論	持続可能な社会を構築するためには、資源を最大限に有効活用する必要がある。そのための基礎的な知識としてリユースやリサイクルなど、資源循環の基礎的な考え方を理解することを目的とする。具体的な方法として、配布資料など用いてリサイクルに関連する主要な法律や方法に関する講義を行うほか、講義で得られた知識を活用し、資源循環に関連する課題設定に対してグループワーク及び発表会を行う。	
		サステナビリティ思考入門	問題が複雑に絡み合い予測不可能な時代において、環境や社会のサステナビリティに関わる各種の問題を理解し、包括的視点から対策を考えるための思考法について学ぶ。具体的には、多数の要素が複雑に絡みあう問題をシステムとして理解し本質的な解決策を考えるシステム思考、人間活動が環境に与える影響を総合的にとらえ全体最適な解決策を考えるライフサイクル思考、不確実で予測の難しい状況下において社会のリスクを把握し最小化するリスクマネジメントの基本的考え方を学ぶ。授業は講義のほか、グループワークやディスカッションを随時行う。 （オムニバス方式/全14回） （4　髙橋　和枝/４回）　ライフサイクル思考について担当する。 （7　明石　修/６回）　システム思考について担当する。 （9　真名垣　聡/４回）　リスクマネジメントについて担当する。	オムニバス方式
		環境福祉学	現代の環境問題・社会経済問題における加害・被害、強者・弱者の構造を捉え、ＳＤＧｓの重要な理念である「社会的包摂（誰一人取り残さない）」の視点の重要性を学ぶ。さらに、環境問題と社会経済問題の相互関係、問題の根幹にある経済成長や効率性を追求する社会経済システムの問題を深く考える。そのうえで、環境問題と社会経済問題の同時解決の方法、すなわち環境と福祉（ウエルフェア、ウエルビーイング）を両立させる取り組みのあり方について、環境問題への取組みを通じた地域環境力の形成、リサイクル等の環境事業と障がい者福祉事業との共創、コミュニティ経済による支えあい、森林保全による人の保養等の実践事例を通じて学び、考える。	
		環境政策論	国及び地方自治体における環境政策の範囲や重点の変遷を学び、今日及び将来の環境政策が目指す目標（持続可能な発展）の規範を学ぶ。その目標を実現する政策の基本原則として、未然防止・予防原則、汚染者・生産者負担、参加と協働、補完性の原理等について、それらの必要性が生じてきた歴史的背景も含めて理解する。さらに、環境政策の担い手となる国・地方自治体、企業、NPO、市民の役割分担と連携の必要性、環境政策の手法である規制的手法、経済的手法、情報的手法、普及啓発・環境教育、自主的取組みとそれらのポリシーミックスのマネジメントの方法論について、実践事例を踏まえて具体的に学ぶ。これらを通じて、環境政策は法学、経済学、経営学、心理学、教育学等の理論を統合的に活用するものであること、また行政分野横断的な総合行政であることを知り、サステナビリティを目指すコーディネイター人材となるべく、自らのあり方を考える。	
		環境経済学	環境問題は自然科学的現象を通じて現れる社会・経済問題である。この授業では、環境問題、持続可能な発展問題が市場経済と密接に関連して生じてきていること、それを解決していくためにはどのような方策が必要であるかを、経済学的手法を中心に学ぶ。具体的には、外部性の存在やコモンズの悲劇など、市場の失敗のメカニズムやそれを克服する経済的手法、及び環境の価値評価手法について学んでいく。また、拡大生産者責任やカーボンプライシングなどの具体的な政策について経済学的視点から分析する。このような学習を通じ、現実の環境問題、持続可能な発展問題とその対策について経済学的に説明する能力を身につける。	
		サステナブルライフスタイル論	持続可能な社会への転換は、制度や企業活動と一体的にあるライフスタイルの転換と一体的にあるべきことから、ライフスタイルのあるべき姿やそれを実現する条件、支援施策等を考える。エシカル消費といった消費面の転換、さらには生産と消費を再統合するプロシューマー、自給自足・ミニマリスト・シェアリング等のスローライフ、AIやICT、ロボット等を使ったスマートライフ、自然回帰による地方暮らし等のライフスタイルの多様性な選択肢を知り、ライフスタイル選択のあり方を考える。	
		環境保全生態学	生態学や生態系の管理について保全生態学の観点から解説する。生態系と人間社会との関係をとらえながら、人為的影響によってもたらされた生物の多様性や生態系の消失や劣化及びその対策について学ぶ。前半は主に基礎的な生態学、生態系のしくみやその多様な機能について理解を深める。後半は持続可能な社会基盤の整備にむけた生態系サービスの分析・評価、またそのための国際・国内の社会的な目標・政策や実践事例について学ぶ。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（工学部サステナビリティ学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科科目	サステナビリティ基幹科目	環境地球化学	自然界へ放出されている多種多様な物質（微量元素や人為起源物質）の分布や循環過程を理解し、人間活動の影響を把握することで、持続可能な社会におけるものづくり（ＳＤＧｓ 12 つくる責任、つかう責任）において、特に環境回復・保全の観点から広く議論ができるようになることを目的とする。また講義を通して、地球化学、環境化学、分析化学と自然科学に関連する幅広い分野の知識を習得可能とすることを目指す。 具体的には、海洋プラスチック汚染やナノ粒子といった最新のトピックから農薬などの昔からある物質を取り上げそれぞれの現状や過去の状況について学修する。	
		水とサステナビリティ	水は万物の父といわれるように、我々の命や暮らし、経済活動などあらゆるものに関連している。本授業では、環境や社会のサステナビリティの観点から人が水とどのように関わっていくべきかを考える。特に、降った雨が流れ、ひと筋に収斂していく単位である「流域」をマネジメントの基本単位ととらえ、利水、治水、食料、森、エネルギーの視点からサステナブルな流域マネジメントについて学ぶ。さらに多様な主体が関連する流域マネジメントにおいて重要なスキルとして、「対話して行動するスキル」を学び、課題解決のための実践的アクションを考える。	
		食とサステナビリティ	食の生産、流通、消費による環境や社会への影響や相互作用について学ぶとともに、その解決方法について検討する。具体的には、人口と食糧需給の関係性、農業工業化の影響、グローバリゼーションと貿易、流通制度の課題、ライフスタイルの変化にともなう食糧構成の変化や食料廃棄の発生、問題解決のための方策として、アグロエコロジーの取り組みや、各種認証制度、企業の取り組みやサプライチェーン・マネジメント等について学ぶ。	
	ソーシャルデザイン科目	ソーシャルデザイン事例研究	ソーシャルデザインとは「社会的な課題の解決と同時に、新たな価値を創出する画期的な仕組みをつくること」である。サステナブルな社会の実現のためには社会の仕組みをアップデートすることが不可欠である。本授業では、ソーシャルデザインによる社会の仕組みのアップデート事例を多数紹介し、それらをレビューし、特徴を概括する。これにより、ソーシャルデザインをおこなうための考え方やパターンを導き出す。授業は講義のほか、グループワークやディスカッションを随時行う。	
		サステナブルデザイン思考	デザイン思考とは、ユーザーやクライアントの本質的なニーズを見つけ、アイデアを創出する思考方法である。本授業では、デザイン思考を実践するにあたり必要となる知識・能力について、演習を交えて学ぶ。具体的には、共感、問題定義、アイデア創出、プロトタイプ、テストというデザイン思考の基本プロセスを体験的に学ぶ。さらに、応用としてサステナブルな環境や社会、人の関係性をデザインするための考え方や手法について学ぶ。	
		システム思考と学習する組織	様々な要素が複雑に絡み合う問題を解決するためには、問題の複雑性を理解し効果的な働きかけをおこなう必要がある。本授業では、複雑な状況において問題構造を理解し、本質的な原因を見極めたうえで解決策をデザインするアプローチとしてシステム思考を学ぶ。具体的には、氷山モデルやループ図などの思考ツールを使いサステナビリティに関するさまざまな問題と解決策を考えていく。また、システム思考を基盤として、自己マスタリー、メンタル・モデル、共有ビジョン、チーム学習など、チームが効果的に変化を生み出すために必要なことについて学ぶ。	
		共創型リーダーシップ論	持続可能な地域/コミュニティづくりという長期的な関わり合いと働きかけが必要な「解のない課題」に伴走できる人に必要なリーダーシップについて学ぶ。具体的には、対話、グラフィック・ハーベスティング、人間の基本的ニーズの考え方、幸せを図る指標の作り方、ユーザー感性学、ESD（持続可能な開発のための教育）などを、解のない課題に求められる話し合いの形を体験し、振り返るという繰り返しから学ぶ。「解のない課題」に向き合うときに必要なシステム的なものの見方、グループで助け合いながら学びつけられるよう「多様性を認め合い、自分らしく過ごせる公平なコミュニティ」の形も探求する。	
		シビックアクション論	サステナビリティに関する社会課題を解決するためには、個人レベルの取り組み（例：個人の環境配慮行動）だけでなく、他者と協働し社会変化をおこす取り組みが必要となる。本授業では、市民が共に行動し、社会変化を生み出す方法としてコミュニティ・オーガナイジングについて学ぶ。具体的には、パブリック・ナラティブ、関係構築、戦略作り、リーダーシップ、コーチングなどについて体験的に学ぶことにより、自分たちで考え、仲間を集め、その輪を広げ、行動することにより課題を解決する能力を身につける。	
		ファシリテーション演習	ファシリテーションとは、単にグループ内の対話を促す会議ファシリテーションにはとどまらず、多様なステークホルダーを集め、その一人ひとりの主体性と経験知を引き出し、協調アクションを引き出すことである。ブレインストーミング、ワールドカフェ、「問いによる対話」ワークショップ、クイックプロトタイピング等と多岐にわたる、ファシリテーションの基本概念とスキルを学ぶ。	
		メディア表現演習	人を動かし、社会に変化を生み出していくためには、情報を伝え、コミュニケーションする能力が必要となる。本授業では、そのためのツールとしてポスター、映像、Webなどのメディアを取り上げ、それらのメディアを使ったコミュニケーションや表現の基本的考え方について学ぶ。さらに、演習形式で自分の作品を制作することを通じて基礎的な表現技法を身につける。この授業で身に着けた技法は、サステナビリティプロジェクトなどの授業において活用される。	
		社会調査法	社会調査とは何か、社会調査の多様な手法と使い分け、社会調査の実施における留意点を学ぶ。量的調査（アンケート調査）、質的調査（インタビュー調査）の基礎の両方を学んだうえで、特に量的調査については、ＳＤＧｓの17のゴールを参考にして、サステナビリティに関する具体的なテーマを設定し、アンケート調査票の設計と集計、分析、考察と提案、レポート作成までを一貫して調査演習を行なう。調査演習の成果となるレポートの要旨は、公表や発表を積極的に行い、社会調査の成果の社会的還元の意義を実感できるようにする。	
		ソーシャルビジネス論	ソーシャルビジネスとは、環境問題や貧困などの社会問題をビジネスという手段を用いて解決しようとするものである。本授業ではソーシャビジネスについて国内外の事例紹介するとともに、ソーシャルビジネスの性質や特徴、手法、現代社会における意義や役割等を学ぶ。さらに、関連領域として、地域の人が地域の資源を活かして行うコミュニティビジネスやローカル起業、及びそれによるサステナブルな地域経済や地域社会づくりについて事例を用いて学ぶ。	
		サステナブル経営論	持続可能な社会の形成に向け、企業が取り組んでいる「サステナブル経営」について、その基本的な考え方、目的と効果、取り組み内容等について学修する。企業におけるこれまでの地球環境問題及び社会問題（食品公害、消費者問題、人権問題、不正等）への対応を学び、問題対処からCSR（企業の社会的責任）、CSV（共有価値の創造）への変遷、具体的な実例を学ぶ。さらに、本業での社会貢献、ソーシャルビジネス、ＳＤＧｓへの取組みといった具体的な事例を学び、企業と地球環境・社会・地域との新たな関係を考える姿勢を身につける。また、環境及びサステナビリティに関する国内外の規格・ガイドライン（ISO14001、ISO26000、GRI等）を理解し、企業や組織が環境マネジメントとして取り組むべき事項についても学ぶ。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（工学部サステナビリティ学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科科目	ソーシャルデザイン科目	サステナビリティ戦略演習	気候変動などの地球環境問題への対応やＳＤＧｓの達成など社会的課題の解決に向け、企業や組織がさまざま取り組むなかで、今後重要となる戦略立案の手法や効果を評価する手法について、基本的な考え方及び理論の理解と、実際の企業事例の分析もくしは仮想的な活動の検討などの演習を通じて、より実践的な分析・評価能力の習得を目指す。環境問題や社会的課題への対応に対する戦略立案については「シナリオ分析」を、効果評価については「インパクト評価」について取り上げる。 （オムニバス方式/全14回） （3　白鳥　和彦　/ ７回）　戦略立案や効果評価の理論や手法 （101　鶴田　祥一郎　/ ７回）　事例分析	オムニバス方式
		コミュニティデザイン論	コミュニティデザインとは、人々のつながり方やつながるしくみをデザインすることである。あるいは、地域の人々が自ら地域の課題を発見し解決できるよう、場づくりやしくみをデザインの力で支援することである。この授業では、なぜいまつながりやコミュニティが求められるのか、社会の変化や現代社会がかかえる課題などの視点から考える。また、各地のコミュニティデザインの事例を紹介しながら、その特徴や手法について学ぶ。学んだ手法をつかって自分の関連する地域におけるコミュニティデザイン案を考える。	
		持続可能な地域づくり論	持続可能な地域づくりとは、地域特性に応じて、地域主体が地域資源を活用して行う環境・経済・社会の統合的発展のことである。特定の取り組みで完結するものではなく、取り組みを通じて、地域主体が学び地域内外の関係性を高めて、取り組みを普及・波及・連鎖をさせ、社会転換を実現してくプロセスをデザインすることが重要である。このような視点から、ＳＤＧｓ 未来都市、地域循環共生圏に取り組む国内の先進地域のケーススタディを行い、持続可能な地域づくりの実践の具体像、実践における課題、課題の克服方法を学ぶ。先進地域としては、カーボンゼロや気候変動適応に能動的に取組む地域、あるいはスマートコミュニティ、コンパクトシティ、MaaS （モビリティ・アズ・ア・サービス）、ジェンダー主導の地域づくり、フューチャーセンター、都市農山村連携、地産地消・自給自足等の取り組みに独自性がある地域を取り上げる。	
		交渉と合意形成	持続可能な社会を形成するには、人びとのあいだで異なる環境に対する価値観を調整し社会的合意形成へつなげるコミュニケーションが必要である。この授業では、異なる価値観をもつ人びとが共有できる価値や目標をみつけて交渉や合意形成を行う際の基本的な考え方について学ぶ。また、環境や科学技術の領域で実施されている社会的合意形成に関する事例研究から、マルチステークホルダー・プロセスやコミュニケーションデザインのあり方を学ぶ。	
		環境心理学	人間と環境との関係性を探究する学問パラダイムである環境心理学に関する最新の研究動向の把握と環境心理学的アプローチを理解するだけでなく、履修者が取り組むゼミ研究、卒業論文等において当該アプローチを適用した研究計画が遂行できるだけの研究手法を獲得することを目標とする。当該学問領域の主要な基本文献から厳選した都市環境を主題とした論文等に対する批判的レビューを端緒にした討論を通して、現代の環境心理学の可能性と限界を知る。さらに、環境心理学において適用事例が多い環境評価手法を系統的に理解した上で、代表的な環境評価手法を用いたワークショップ実習を通して応用実践力を身につける。	
		ＥＳＤ論	持続可能な開発は、私たちが暮らす地域の中でのみ取り組むべきもので、下からの積み上げによってのみ実現する（Fien & Tilbury, 2003）。このプロセスの中核を成すのが、「行動」と「学び」であり、その理論、方法論、実践の枠組みとなるのが環境教育・持続可能な開発のための教育（ESD）である。これらの教育は、狭義の環境保護のための学校教育だけを指すのでなく、課題の環境・経済・社会的側面のつながりを理解し、自分を取り巻く地域社会・世界をよりよく「変革」していくための、生涯にわたる学びと行動にむけた実践・研究・政策を網羅的に扱う分野である。この授業では、理論や歴史のほか、「地域」を主眼に、具体的な実践事例やその手法も取り上げて理解を深める。そして、履修者が生涯を通して、それぞれの立ち位置から学び、行動していくための基盤を一緒につくる機会とする。 （オムニバス方式/全14回） （6　村松　陸雄/８回）　ESDの理論と方法について担当する。 （88　佐藤　秀樹/６回）　社会実践と生涯学習について担当する。	オムニバス方式
	環境エンジニアリング科目	環境統計学	環境問題を捉える際、調査、また、推計・評価など多様な場面で統計処理が行われている。そこで、本授業では統計の基本的な原理を解説しつつ、アンケート、計測などにより独自の統計データの作成を行い、統計の基礎的な原理について理解を深める。更に、さまざまな環境に関連する統計（廃棄物、エネルギー等）を紹介し、各種統計が示す数値を理解することを目的とし、加えて、統計を応用した環境シミュレーションなどの手法についても学修する。 （オムニバス方式/全14回） （11　磯部　孝行/２回）　統計の理論と手法について担当する。 （72　小熊　みどり/12回）　データ収集と統計分析演習について担当する。	オムニバス方式
		環境材料学	材料を持続的に使用するためには、材料ごとに異なる特徴及び課題を理解し、ライフサイクルにわたる環境、社会への影響も考慮して選択することが必要である。この授業では、プラスチック、木材、金属など様々な材料についてそれぞれの性能と機能、環境設計について学び、限りある資源を有効利用するために必要な基礎知識を習得する。実物や映像などを用いて理解を深める他、外部講師による最先端の技術についても講演していただき、理解を深める。さらに、具体例として身近な製品（携帯電話等）の解体実習により、実社会で使用されている材料の特徴を学ぶ。	
		環境気象学	環境諸科学の一つとして位置づけられる気象学の概要を講義する気象学の入門科目である。「気候・気象学」や「気候変動論」のメカニズムを解説するとともに「大気環境シミュレーション」や「都市大気環境」などの先端的事例について一部紹介し、環境分野における気象学について学ぶ。	
		生物多様性保全特論	生物多様性が急速に失われているなか、それぞれ「遺伝子」、「種」、「生態系」の多様性の観点からその重要性と保全・管理について理解することが必要である。遺伝子の多様性や種の多様性を知る上で必要な遺伝情報を解析する方法やしくみについて学び、それらを基盤とした種の保全について理解を深める。さらに、健全な生態系の維持や生態系の修復のための管理手法におけるさまざまな技術について理解を深め、最近の研究事例などから考察する。 （オムニバス方式/全14回） （10　伊尾木　慶子/４回）　生態系の多様性の保全について担当する。 （93　鈴木　智也/10回）　種と遺伝子の多様性の保全について担当する。	オムニバス方式
		環境分析化学	様々な環境問題の現状を把握し、今後の対策を考えるためには、生物、大気、水、土壌・地下水、廃棄物などの環境の状況を正確に測定・分析することが必要となる。現代、その測定・分析技術は、従来の化学、物理といった学問領域を超え、生物多様性の調査、ウイルスの測定といった生物的な技術手法、海洋マイクロプラスチックなどの極微量測定技術など多岐にわたる。本授業では、工学的な環境エンジニアリングの見地から現在の測定・分析技術の原理、測定方法を従来の分析学の観点から学修する。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（工学部サステナビリティ学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科科目	環境エンジニアリング科目	ＣＡＤ演習	環境要素としてエネルギー、光、風、音などの要素がある。近年、CAD技術の発展により、エネルギーシミュレーションや昼光シミュレーション、さらには、風環境など、多様な環境シミュレーションが可能となっている。そこで、本科目では、住宅などの建物のモデリングを行うとともに、エネルギーシミュレーションや光環境のシミュレーションを行い、3DCADの環境シミュレーション手法を理解し、さらには、建物と環境についての関係性を学修することを目的とする。	
		ＧＩＳ・測量演習	自然環境の保全・管理のために必要な基礎的地形データを得る技術である測量について理解し、基本的な方法と機器の扱いを学ぶ。前半は機器を用いた距離・角度・高低差等を測る基礎的技術について習得するための実習を行う。また最新のICT技術を駆使した測量方法についても理解を深める。後半はGISを用いた自然環境に関する地理空間情報の扱いについて学び、公開されているさまざまなデータを用いた土地利用計画への応用について演習を行う。	
		環境調査演習Ａ	実験演習によって、対象となる環境質を把握するための基礎的な実験分析スキルを身につけると共に、河川、海洋といった野外での環境調査を通じて、様々な環境問題を理解し、解決策を提案する複合的能力を身につけることを目的とする。具体的には、環境分析化学と連動し、学修した様々な分析技術を、現場で採取した水や生物、大気の汚染状況を明らかにする。	
		環境調査演習Ｂ	自然環境の中でも特に森林調査の基礎的な調査分析スキルを身につけると共に、野外での環境調査を通じて様々な環境問題を理解し、解決策を提案する複合的能力を身につけることを目的とする。野外調査におけるリスクアセスメントや、調査用具のしくみ、使い方なども学ぶ。また実際に取得したデータをもとに論理的に考察を加える能力や解析ソフトの活用スキルを修得する。 （オムニバス方式/全14回） （10　伊尾木　慶子/７回）　森林調査の基礎的な調査分析手法について担当する。 （116　増澤　直/７回）　野外調査演習を担当する。	オムニバス方式
		環境調査演習Ｃ	身近な大気現象や都市の高温化、水循環や水質汚染など、主として気圏・水圏を対象とした環境情報に関する知識を習得することを目的に、モニタリングシステムなどの手法を用いた屋外での気象観測や屋内での実験、得られたデータの分析・作図や計算を通して、大気で起こるさまざまな現象の正しい理解や解釈ができる力を養う。	
		サステナビリティリスク学	「産業、人流、環境問題のグローバル化に伴い、予測の難しいリスクに重層的に囲まれ、さらに加速度的に肥大化している社会では、不測の事態や状況の変化にも柔軟に対応し、社会の機能を定量的に判断できる能力」が持続可能な社会の構築に求められる。本授業ではその能力をリスク学の観点から培うことを目的として講義をおこなう。具体的にはＳＤＧｓの17の目標に関連する事象（生態系、人健康、エネルギー、水害）を対象として取り上げ、その項目におけるリスク解析の方法、事例を用いた定量的な演算、異なる事象（トレードオフ）との評価方法について学修していく。	
		ライフサイクルアセスメント論	環境影響評価のうち定量評価手法として、国際標準化もなされているライフサイクルアセスメント（LCA）について、ライフサイクル思考から評価方法、用途まで学修する。自身でLCAの解釈や簡易な評価ができるレベルに達することを目的として、各種データの収集方法、インベントリ分析、インパクト評価、解析ソフトの使用方法について学ぶ。さらに、LCAケーススタディについてレビューを実施し、結果の解釈から今後のLCAの活用方法についてグループワークで検討する。	
		カーボンマネジメント演習	地球温暖化防止に向け企業等が取り組んでいるCO2削減について、CO2削減方策、削減ポテンシャル、CO2削減コストの評価等について学ぶ。エネルギーを使用する施設や設備機器のCO2排出量の算定、様々なCO2削減方法（省エネ、創エネ、新電力への切替え、エネルギーマネジメント、クレジット等）の理解、それらによる削減ポテンシャルやCO2削減コストの分析、投資対コストの分析などについて、国・自治体・企業等での実例もしくは仮想的な事例を用いた演習により実践的な分析能力の習得を目指す。また、サプライチェーンにおける温室効果ガス排出量算定方法であるScope１～３についての基本的な理解を目指す。	
		資源循環マネジメント演習	効率的な資源活用を考えるうえで、市場構造を読み解き廃棄物発生量、環境負荷削減量などを定量的に把握する必要がある。そこで、本授業では廃棄物処理業者や関連企業をゲストに議論し、廃棄物に係る文献調査及び統計などの調査を実践し、ライフサイクルアセスメント手法を用いた環境負荷削減ポテンシャル評価や経済評価などの実践的なスキルを演習にて学修する。	
		持続可能技術特論１	再生可能エネルギーは太陽光・風力・地熱・水力・バイオマス等の自然のエネルギーを利用したもので、利用時に二酸化炭素を発生しないカーボンニュートラルな燃料で脱炭素社会を形成するために必須である。 これらについて、それぞれのエネルギー変換反応(半導体を用いた光からの電流発生、流体によるタービン回転による発電、光合成等)で利用可能なエネルギーにするかを説明する。またそれぞれの特徴や、日本の国土での利用についても示す。	
		持続可能技術特論２	気候変動に代表される環境問題の影響が顕在化する中で、緩和・適応に向けた技術の開発や実践が進められている。本講義では、気候変動に伴う影響としての暑熱環境や水害などの自然災害への社会の取組みを事例として、自然環境や社会の解析・予測における最新の統計的・物理的手法を用いた技術（例：ビッグデータ、高性能センサー・バイタルセンサー等）を対象に、環境対策における最先端の技術・手法を学修していく。	
	プロジェクト科目	サステナビリティプロジェクト入門	サステナビリティ実現に向けた課題解決プロジェクトの手法を学ぶ。具体的には、テーマの設定から、プロジェクトのプランニング、実行、レビューのプロセスを体験的に学修する。学生は個人またはチームで設定したテーマについて、課題の発見、文献調査、ヒアリング、問題の分析、解決すべきイシューの特定、アイデア発想、プロトタイピング、プロジェクトの実施、成果やプロセスの検証、概念化といったことを体験的に学ぶ。 （オムニバス方式/全14回） （7　明石　修/７回）　プロジェクト手法について担当する。 （90　清水　謙/７回）　プロジェクトマネジメント、ケーススタディについて担当する。	オムニバス方式

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要				
（工学部サステナビリティ学科）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科科目	プロジェクト科目	サステナビリティプロジェクト１	現実の社会におけるサステナビリティに関する課題に対し、その解決を目指すプロジェクトを企画、実施するPBL型の授業である。学生は、担当教員が運営するラボに分かれ、そのラボの対象とする領域内でテーマを設定し、課題解決に挑む。サステナビリティプロジェクト入門で学んだ手法を用いてプロジェクトのプランニング、実行、レビューを行う。プロジェクトには、企業や地域社会と連携し現実社会の課題を解決する実践型プロジェクト及び、サステナビリティに関する先進的テーマについて、調査研究活動を行い成果をまとめる探求型プロジェクトがある。この科目では課題解決の方法を実践的に習得することを目的とする。 （2　白井　信雄　環境政策、持続可能なまちづくり） （3　白鳥　和彦　サステナビリティ経営、環境イノベーション、環境マーケティング） （4　髙橋　和枝　環境材料学、ライフサイクルアセスメント） （5　三坂　育正　環境気象学、気候変動適応策） （6　村松　陸雄　環境心理学、行動科学、ESD） （7　明石　修　　持続可能社会システム、社会変容） （8　鈴木　菜央　ソーシャルデザイン、メディアデザイン、コミュニティデザイン） （9　真名垣　聡　環境リスク制御・評価、環境影響評価、環境動態解析） （10　伊尾木　慶子　景観生態学、リモートセンシング、森林科学） （11　磯部　孝行　資源循環、環境材料、リサイクル技術） （117　松浦　廣樹　建築学、意匠、まちづくり）	
		サステナビリティプロジェクト２	現実の社会におけるサステナビリティに関する課題に対し、その解決を目指すプロジェクトを企画、実施するPBL型の授業である。学生は、担当教員が運営するラボに分かれ、そのラボの対象とする領域内でテーマを設定し、課題解決に挑む。サステナビリティプロジェクト入門で学んだ手法を用いてプロジェクトのプランニング、実行、レビューを行う。プロジェクトには、企業や地域社会と連携し現実社会の課題を解決する実践型プロジェクト及び、サステナビリティに関する先進的テーマについて調査研究活動を行い成果をまとめる探求型プロジェクトがある。この科目では課題解決の方法を実践的に習得することを目的とする。「サステナビリティプロジェクト２」では、「サステナビリティプロジェクト１」から取り組んできたプロジェクト活動の成果をまとめ、成果発表会で発表する。 （2　白井　信雄　環境政策、持続可能なまちづくり） （3　白鳥　和彦　サステナビリティ経営、環境イノベーション、環境マーケティング） （4　髙橋　和枝　環境材料学、ライフサイクルアセスメント） （5　三坂　育正　環境気象学、気候変動適応策） （6　村松　陸雄　環境心理学、行動科学、ESD） （7　明石　修　　持続可能社会システム、社会変容） （8　鈴木　菜央　ソーシャルデザイン、メディアデザイン、コミュニティデザイン） （9　真名垣　聡　環境リスク制御・評価、環境影響評価、環境動態解析） （10　伊尾木　慶子　景観生態学、リモートセンシング、森林科学） （11　磯部　孝行　資源循環、環境材料、リサイクル技術） （117　松浦　廣樹　建築学、意匠、まちづくり）	
		サステナビリティプロジェクト３	現実の社会におけるサステナビリティに関する課題に対し、その解決を目指すプロジェクトを企画、実施するPBL型の授業である。「サステナビリティプロジェクト３」では、「経験」「省察」「概念化」「試行」といった経験学習モデルを意識し、「サステナビリティプロジェクト２」までに行ったプロジェクト活動を振り返り、省察、概念化したうえで次のステップに進む。プロジェクトのテーマは、これまでのプロジェクト活動を深化、発展させるケースや、新たな課題やアプローチに挑戦するケースがある。また、２年目の活動に入り、より俯瞰的立場から、プロジェクトをリードしたり、チームをマネジメントしたりする経験を積む。 （2　白井　信雄　環境政策、持続可能なまちづくり） （3　白鳥　和彦　サステナビリティ経営、環境イノベーション、環境マーケティング） （4　髙橋　和枝　環境材料学、ライフサイクルアセスメント） （5　三坂　育正　環境気象学、気候変動適応策） （6　村松　陸雄　環境心理学、行動科学、ESD） （7　明石　修　　持続可能社会システム、社会変容） （8　鈴木　菜央　ソーシャルデザイン、メディアデザイン、コミュニティデザイン） （9　真名垣　聡　環境リスク制御・評価、環境影響評価、環境動態解析） （10　伊尾木　慶子　景観生態学、リモートセンシング、森林科学） （11　磯部　孝行　資源循環、環境材料、リサイクル技術） （117　松浦　廣樹　建築学、意匠、まちづくり）	
		サステナビリティプロジェクト４	現実の社会におけるサステナビリティに関する課題に対し、その解決を目指すプロジェクトを企画、実施するPBL型の授業である。「サステナビリティプロジェクト４」では、「サステナビリティプロジェクト３」に引き続きプロジェクト活動に取り組む。学期の最後には、２年間行ってきたプロジェクト活動の集大成として、成果発表会での発表、報告書の作成を行う。 （2　白井　信雄　環境政策、持続可能なまちづくり） （3　白鳥　和彦　サステナビリティ経営、環境イノベーション、環境マーケティング） （4　髙橋　和枝　環境材料学、ライフサイクルアセスメント） （5　三坂　育正　環境気象学、気候変動適応策） （6　村松　陸雄　環境心理学、行動科学、ESD） （7　明石　修　　持続可能社会システム、社会変容） （8　鈴木　菜央　ソーシャルデザイン、メディアデザイン、コミュニティデザイン） （9　真名垣　聡　環境リスク制御・評価、環境影響評価、環境動態解析） （10　伊尾木　慶子　景観生態学、リモートセンシング、森林科学） （11　磯部　孝行　資源循環、環境材料、リサイクル技術） （117　松浦　廣樹　建築学、意匠、まちづくり）	
		サステナビリティ研究１	環境や社会のサステナビリティに関するテーマを設定し、問いの設定から、調査分析、結果の提示といった一連の研究活動に取り組む。テーマはサステナビリティプロジェクトで行った活動のプロセスや成果の検証、概念化に取り組むものや、これまでの経験を活かして新たに設定するものもある。教員の指導の下、研究テーマを設定し、先行研究を調べ、研究計画を立案し、実行する。 （2　白井　信雄　環境政策、持続可能なまちづくり） （3　白鳥　和彦　サステナビリティ経営、環境イノベーション、環境マーケティング） （4　髙橋　和枝　環境材料学、ライフサイクルアセスメント） （5　三坂　育正　環境気象学、気候変動適応策） （6　村松　陸雄　環境心理学、行動科学、ESD） （7　明石　修　　持続可能社会システム、社会変容） （8　鈴木　菜央　ソーシャルデザイン、メディアデザイン、コミュニティデザイン） （9　真名垣　聡　環境リスク制御・評価、環境影響評価、環境動態解析） （10　伊尾木　慶子　景観生態学、リモートセンシング、森林科学） （11　磯部　孝行　資源循環、環境材料、リサイクル技術）	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（工学部サステナビリティ学科）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科科目	プロジェクト科目	サステナビリティ研究２	「サステナビリティ研究１」に引き続き、環境や社会のサステナビリティに関して設定したテーマについて、問いの設定から、調査分析、結果の提示といった一連の研究活動に取り組む。テーマはサステナビリティプロジェクトで行った活動のプロセスや成果の検証、概念化に取り組むものや、これまで経験を活かして新たに設定するものもある。教員の指導の下、研究テーマを設定し、先行研究を調べ、研究計画を立案し、実行する。 （2　白井　信雄　環境政策、持続可能なまちづくり） （3　白鳥　和彦　サステナビリティ経営、環境イノベーション、環境マーケティング） （4　髙橋　和枝　環境材料学、ライフサイクルアセスメント） （5　三坂　育正　環境気象学、気候変動適応策） （6　村松　陸雄　環境心理学、行動科学、ESD） （7　明石　修　　持続可能社会システム、社会変容） （8　鈴木　菜央　ソーシャルデザイン、メディアデザイン、コミュニティデザイン） （9　真名垣　聡　環境リスク制御・評価、環境影響評価、環境動態解析） （10　伊尾木　慶子　景観生態学、リモートセンシング、森林科学） （11　磯部　孝行　資源循環、環境材料、リサイクル技術）	
		卒業論文	「サステナビリティ研究１・２」の発展として、環境や社会のサステナビリティに関して設定したテーマについて研究をすすめ、視点、手法、結果等についてオリジナルな内容を含む論文を作成する。問いの設定から、調査分析、結果の考察、まとめにいたる一連の流れを論理的に表現することが求められる。また、研究内容を学科全体で行う卒業論文発表会で発表し、指導教員以外の教員の指導や他の履修者からの質問や指摘に対応する経験をする。一連の研究作業を通じ、問題設定能力、調査・分析力、論理的思考、文章構成力、プレゼンテーション能力を身につける。 （2　白井　信雄　環境政策、持続可能なまちづくり） （3　白鳥　和彦　サステナビリティ経営、環境イノベーション、環境マーケティング） （4　髙橋　和枝　環境材料学、ライフサイクルアセスメント） （5　三坂　育正　環境気象学、気候変動適応策） （6　村松　陸雄　環境心理学、行動科学、ESD） （7　明石　修　　持続可能社会システム、社会変容） （8　鈴木　菜央　ソーシャルデザイン、メディアデザイン、コミュニティデザイン） （9　真名垣　聡　環境リスク制御・評価、環境影響評価、環境動態解析） （10　伊尾木　慶子　景観生態学、リモートセンシング、森林科学） （11　磯部　孝行　資源循環、環境材料、リサイクル技術）	
	社会連携科目	サステナビリティ学社会実践演習Ａ	サステナビリティの諸課題に関する実践的知識やスキルを身につけることを目的として、学生が社会の現場に赴き実習等を行う。具体的には、学科が学外の各種セクター（企業、NPO、行政など）と連携し企画したプログラムにおいて、学生が実習や課題解決プロジェクトなどを行うことにより単位を認定する。教員は、学習計画立案、実施支援、学習報告を通じて学生の学習実践を支援する。45時間相当の学修時間に対して１単位を付与する。	
		サステナビリティ学社会実践演習Ｂ	サステナビリティの諸課題に関する実践的知識やスキルを身につけることを目的として、学生が社会の現場に赴き実習等を行う。具体的には、学科が学外の各種セクター（企業、NPO、行政など）と連携し企画したプログラムにおいて、学生が実習や課題解決プロジェクトなどを行うことにより単位を認定する。教員は、学習計画立案、実施支援、学習報告を通じて学生の学習実践を支援する。45時間相当の学修時間に対して１単位を付与する。	
		サステナビリティ学社会実践演習Ｃ	サステナビリティの諸課題に関する実践的知識やスキルを身につけることを目的として、学生が社会の現場に赴き実習等を行う。具体的には、学科が学外の各種セクター（企業、NPO、行政など）と連携し企画したプログラムにおいて、学生が実習や課題解決プロジェクトなどを行うことにより単位を認定する。教員は、学習計画立案、実施支援、学習報告を通じて学生の学習実践を支援する。90時間相当の学修時間に対して２単位を付与する。	
		サステナビリティ学社会実践演習Ｄ	サステナビリティの諸課題に関する実践的知識やスキルを身につけることを目的として、学生が社会の現場に赴き実習等を行う。具体的には、学科が学外の各種セクター（企業、NPO、行政など）と連携し企画したプログラムにおいて、学生が実習や課題解決プロジェクトなどを行うことにより単位を認定する。教員は、学習計画立案、実施支援、学習報告を通じて学生の学習実践を支援する。90時間相当の学修時間に対して２単位を付与する。	
		サステナビリティ学社会実践演習Ｅ	サステナビリティの諸課題に関する実践的知識やスキルを身につけることを目的として、学生が社会の現場に赴き実習等を行う。具体的には、学科が学外の各種セクター（企業、NPO、行政など）と連携し企画したプログラムにおいて、学生が実習や課題解決プロジェクトなどを行うことにより単位を認定する。教員は、学習計画立案、実施支援、学習報告を通じて学生の学習実践を支援する。180時間相当の学修時間に対して４単位を付与する。	
		サステナビリティ学総合演習	「サステナビリティ学社会実践演習Ａ～Ｅ」での経験を振り返り、まとめ、発表を行う。学外での活動を通じて得られた学びを真摯に振り返り、その成果や反省事項、自分の将来のキャリア展望などをまとめ、ポスター発表、口頭発表、レポート報告を行う。具体的経験を振り返り、それらを抽象化、概念化し、他者に伝えられるように表現をする活動を通じて、内省力、俯瞰力、表現力、コミュニケーション能力を身につける。	
	サステナビリティ先端科目	サステナビリティ学特殊授業Ａ	現在、サステナビリティは急速に世の中に浸透しており、新しい実践事例や概念、仕組みが次々と生まれている。また、科学や技術の発展にともない新たな問題が発見されたり、新しい解決策が提案されたりしている。本授業はそうした変化の速いサステナビリティ分野において、担当教員の専門性に応じ、最新のトピックスを設定し、企業やNPO、国や地域社会における先端的な取り組みや、新たな概念や仕組みなどについて学ぶ。	
		サステナビリティ学特殊授業Ｂ	現在、サステナビリティは急速に世の中に浸透しており、新しい実践事例や概念、仕組みが次々と生まれている。また、科学や技術の発展にともない新たな問題が発見されたり、新しい解決策が提案されたりしている。本授業はそうした変化の速いサステナビリティ分野において、担当教員の専門性に応じ、最新のトピックスを設定し、企業やNPO、国や地域社会における先端的な取り組みや、新たな概念や仕組みなどについて学ぶ。	
		サステナビリティ学特殊授業Ｃ	現在、サステナビリティは急速に世の中に浸透しており、新しい実践事例や概念、仕組みが次々と生まれている。また、科学や技術の発展にともない新たな問題が発見されたり、新しい解決策が提案されたりしている。本授業はそうした変化の速いサステナビリティ分野において、担当教員の専門性に応じ、最新のトピックスを設定し、企業やNPO、国や地域社会における先端的な取り組みや、新たな概念や仕組みなどについて学ぶ。	
		サステナビリティ学特殊授業Ｄ	現在、サステナビリティは急速に世の中に浸透しており、新しい実践事例や概念、仕組みが次々と生まれている。また、科学や技術の発展にともない新たな問題が発見されたり、新しい解決策が提案されたりしている。本授業はそうした変化の速いサステナビリティ分野において、担当教員の専門性に応じ、最新のトピックスを設定し、企業やNPO、国や地域社会における先端的な取り組みや、新たな概念や仕組みなどについて学ぶ。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要				
（工学部サステナビリティ学科）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
学科科目	サステナビリティ先端科目	サステナビリティ学特殊授業Ｅ	現在、サステナビリティは急速に世の中に浸透しており、新しい実践事例や概念、仕組みが次々と生まれている。また、科学や技術の発展にともない新たな問題が発見されたり、新しい解決策が提案されたりしている。本授業はそうした変化の速いサステナビリティ分野において、担当教員の専門性に応じ、最新のトピックスを設定し、企業やNPO、国や地域社会における先端的な取り組みや、新たな概念や仕組みなどについて学ぶ。	
	総合研究	総合研究Ａ	本学科の専門分野に関する学生の主体的学びに対し、その成果に応じて単位を認定する。これにより学生の自律的学びを授業側面から支援する。具体的には、学科の専門に直接的に関わる研究や学外での研修、学修体験等を行い、成果報告書・入賞等の成果が提出されているものに対して、大学設置基準の定める所定の学修の要件に相当する学修時間とともにその学修成果を単位認定する。学修時間に応じ、１単位を認定する。 （2　白井　信雄　環境政策、持続可能なまちづくり） （3　白鳥　和彦　サステナビリティ経営、環境イノベーション、環境マーケティング） （4　髙橋　和枝　環境材料学、ライフサイクルアセスメント） （5　三坂　育正　環境気象学、気候変動適応策） （6　村松　陸雄　環境心理学、行動科学、ESD） （7　明石　修　　持続可能社会システム、社会変容） （8　鈴木　菜央　ソーシャルデザイン、メディアデザイン、コミュニティデザイン） （9　真名垣　聡　環境リスク制御・評価、環境影響評価、環境動態解析） （10　伊尾木　慶子　景観生態学、リモートセンシング、森林科学） （11　磯部　孝行　資源循環、環境材料、リサイクル技術）	
		総合研究Ｂ	本学科の専門分野に関する学生の主体的学びに対し、その成果に応じて単位を認定する。これにより学生の自律的学びを授業側面から支援する。具体的には、学科の専門に直接的に関わる研究や学外での研修、学修体験等を行い、成果報告書・入賞等の成果が提出されているものに対して、大学設置基準の定める所定の学修の要件に相当する学修時間とともにその学修成果を単位認定する。学修時間に応じ、２単位を認定する。 （2　白井　信雄　環境政策、持続可能なまちづくり） （3　白鳥　和彦　サステナビリティ経営、環境イノベーション、環境マーケティング） （4　髙橋　和枝　環境材料学、ライフサイクルアセスメント） （5　三坂　育正　環境気象学、気候変動適応策） （6　村松　陸雄　環境心理学、行動科学、ESD） （7　明石　修　　持続可能社会システム、社会変容） （8　鈴木　菜央　ソーシャルデザイン、メディアデザイン、コミュニティデザイン） （9　真名垣　聡　環境リスク制御・評価、環境影響評価、環境動態解析） （10　伊尾木　慶子　景観生態学、リモートセンシング、森林科学） （11　磯部　孝行　資源循環、環境材料、リサイクル技術）	
		総合研究Ｃ	本学科の専門分野に関する学生の主体的学びに対し、その成果に応じて単位を認定する。これにより学生の自律的学びを授業側面から支援する。具体的には、学科の専門に直接的に関わる研究や学外での研修、学修体験等を行い、成果報告書・入賞等の成果が提出されているものに対して、大学設置基準の定める所定の学修の要件に相当する学修時間とともにその学修成果を単位認定する。学修時間に応じ、４単位を認定する。 （2　白井　信雄　環境政策、持続可能なまちづくり） （3　白鳥　和彦　サステナビリティ経営、環境イノベーション、環境マーケティング） （4　髙橋　和枝　環境材料学、ライフサイクルアセスメント） （5　三坂　育正　環境気象学、気候変動適応策） （6　村松　陸雄　環境心理学、行動科学、ESD） （7　明石　修　　持続可能社会システム、社会変容） （8　鈴木　菜央　ソーシャルデザイン、メディアデザイン、コミュニティデザイン） （9　真名垣　聡　環境リスク制御・評価、環境影響評価、環境動態解析） （10　伊尾木　慶子　景観生態学、リモートセンシング、森林科学） （11　磯部　孝行　資源循環、環境材料、リサイクル技術）	

学校法人武蔵野大学　設置認可等に関わる組織の移行表

令和4年度	入学定員	編入学定員		収容定員
武蔵野大学				
文学部				
日本文学文化学科	200	2年次	5	815
グローバル学部				
グローバルコミュニケーション学科	165	3年次	3	666
日本語コミュニケーション学科	80	3年次	5	330
グローバルビジネス学科	55	3年次	7	234
法学部				
法律学科	190	2年次	3	769
政治学科	100	2年次	3	409
経済学部				
経済学科	175	2年次	3	709
経営学部				
経営学科	220	2年次	3	889
会計ガバナンス学科	90	―		360
アントレプレナーシップ学部				
アントレプレナーシップ学科	60	―		240
データサイエンス学部				
データサイエンス学科	90	―		360
人間科学部				
人間科学科	215	2年次	2	866
社会福祉学科	145	2年次	4	592
工学部				
環境システム学科	70	―		280
数理工学科	60	―		240
建築デザイン学科	70	―		280
教育学部				
教育学科	120	―		480
幼児教育学科	100	―		400
薬学部				
薬学科	145	―		870
看護学部				
看護学科	125	―		500
通信教育部				
人間科学部				
人間科学科	250	3年次	700	2,400
教育学部				
教育学科	15	2年次	55	225
計	2,740	2年次	78	12,914
		3年次	715	

令和5年度	入学定員	編入学定員		収容定員	変更の事由
武蔵野大学					
文学部					
日本文学文化学科	200	2年次	5	815	
グローバル学部					
グローバルコミュニケーション学科	165	3年次	3	666	
日本語コミュニケーション学科	80	3年次	5	330	
グローバルビジネス学科	55	3年次	7	234	
法学部					
法律学科	190	2年次	3	769	
政治学科	100	2年次	3	409	
経済学部					
経済学科	175	2年次	3	709	
経営学部					
経営学科	220	2年次	3	889	
会計ガバナンス学科	90	―		360	
アントレプレナーシップ学部					
アントレプレナーシップ学科	60	―		240	
データサイエンス学部					
データサイエンス学科	90	―		360	
人間科学部					
人間科学科	215	2年次	2	866	
社会福祉学科	145	2年次	4	592	
工学部					
サステナビリティ学科	70	―		280	学科の設置（届出）
	0	―		0	令和5年4月学生募集停止
数理工学科	60	―		240	
建築デザイン学科	70	―		280	
教育学部					
教育学科	120	―		480	
幼児教育学科	100	―		400	
薬学部					
薬学科	145	―		870	
看護学部					
看護学科	125	―		500	
通信教育部					
人間科学部					
人間科学科	250	3年次	700	2,400	
教育学部					
教育学科	15	2年次	55	225	
計	2,740	2年次	78	12,914	
		3年次	715		

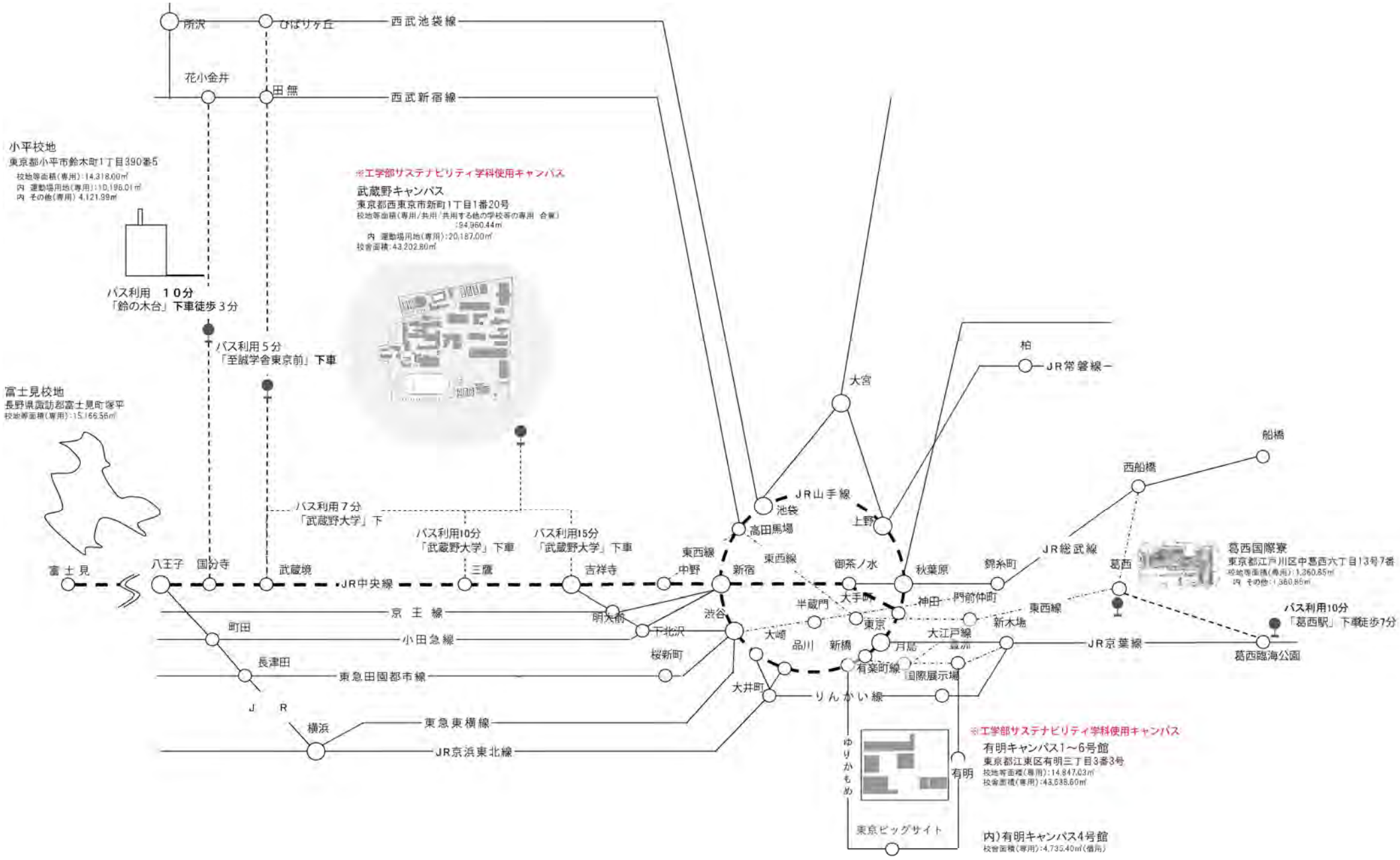
令和4年度	入学定員	編入学定員	収容定員
武蔵野大学大学院			
文学研究科			
日本文学専攻（修士課程）	7	―	14
日本文学専攻（博士後期課程）	2	―	6
言語文化研究科			
言語文化専攻（修士課程）	55	―	110
言語文化専攻（博士後期課程）	2	―	6
法学研究科			
ビジネス法務専攻（修士課程）	10	―	20
ビジネス法務専攻（博士後期課程）	3	―	9
政治経済学研究科			
政治経済学専攻（修士課程）	10	―	20
政治経済学専攻（博士後期課程）	3	―	9
経営学研究科			
会計学専攻（修士課程）	10	―	20
データサイエンス研究科			
データサイエンス専攻（修士課程）	10	―	20
データサイエンス専攻（博士後期課程）	3	―	9
人間社会研究科			
人間学専攻（修士課程）	30	―	60
人間学専攻（博士後期課程）	3	―	9
実践福祉学専攻（修士課程）	7	―	14
仏教学研究科			
仏教学専攻（修士課程）	5	―	10
仏教学専攻（博士後期課程）	2	―	6
工学研究科			
数理工学専攻（修士課程）	15	―	30
数理工学専攻（博士後期課程）	2	―	6
建築ﾃﾞｻﾞｲﾝ専攻（修士課程）	15	―	30
環境学研究科			
環境ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ専攻（修士課程）	10	―	20
環境ｼｽﾃﾑ専攻（博士後期課程）	2	―	6
教育学研究科			
教育学専攻（修士課程）	10	―	20
薬科学研究科			
薬科学専攻（修士課程）	5	―	10
薬科学専攻（博士後期課程）	5	―	15
看護学研究科			
看護学専攻（修士課程）	10	―	20
看護学専攻（博士後期課程）	3	―	9
通信教育部			
人間社会研究科			
人間学専攻（修士課程）	60	―	120
実践福祉学専攻（修士課程）	10	―	20
仏教学研究科			
仏教学専攻（修士課程）	20	―	40
環境学研究科			
環境ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ専攻（修士課程）	10	―	20
計	339		708

令和5年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
武蔵野大学大学院				
文学研究科				
日本文学専攻（修士課程）	7	―	14	
日本文学専攻（博士後期課程）	2	―	6	
言語文化研究科				
言語文化専攻（修士課程）	55	―	110	
言語文化専攻（博士後期課程）	2	―	6	
法学研究科				
ビジネス法務専攻（修士課程）	10	―	20	
ビジネス法務専攻（博士後期課程）	3	―	9	
政治経済学研究科				
政治経済学専攻（修士課程）	10	―	20	
政治経済学専攻（博士後期課程）	3	―	9	
経営学研究科				
会計学専攻（修士課程）	10	―	20	
データサイエンス研究科				
データサイエンス専攻（修士課程）	10	―	20	
データサイエンス専攻（博士後期課程）	3	―	9	
人間社会研究科				
人間学専攻（修士課程）	30	―	60	
人間学専攻（博士後期課程）	3	―	9	
実践福祉学専攻（修士課程）	7	―	14	
仏教学研究科				
仏教学専攻（修士課程）	5	―	10	
仏教学専攻（博士後期課程）	2	―	6	
工学研究科				
数理工学専攻（修士課程）	15	―	30	
数理工学専攻（博士後期課程）	2	―	6	
建築ﾃﾞｻﾞｲﾝ専攻（修士課程）	15	―	30	
環境学研究科				
環境ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ専攻（修士課程）	10	―	20	
環境ｼｽﾃﾑ専攻（博士後期課程）	2	―	6	
教育学研究科				
教育学専攻（修士課程）	10	―	20	
薬科学研究科				
薬科学専攻（修士課程）	5	―	10	
薬科学専攻（博士後期課程）	5	―	15	
看護学研究科				
看護学専攻（修士課程）	10	―	20	
看護学専攻（博士後期課程）	3	―	9	
通信教育部				
人間社会研究科				
人間学専攻（修士課程）	60	―	120	
実践福祉学専攻（修士課程）	10	―	20	
仏教学研究科				
仏教学専攻（修士課程）	20	―	40	
環境学研究科				
環境ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ専攻（修士課程）	10	―	20	
計	339		708	

都道府県内における学校法人武蔵野大学の位置

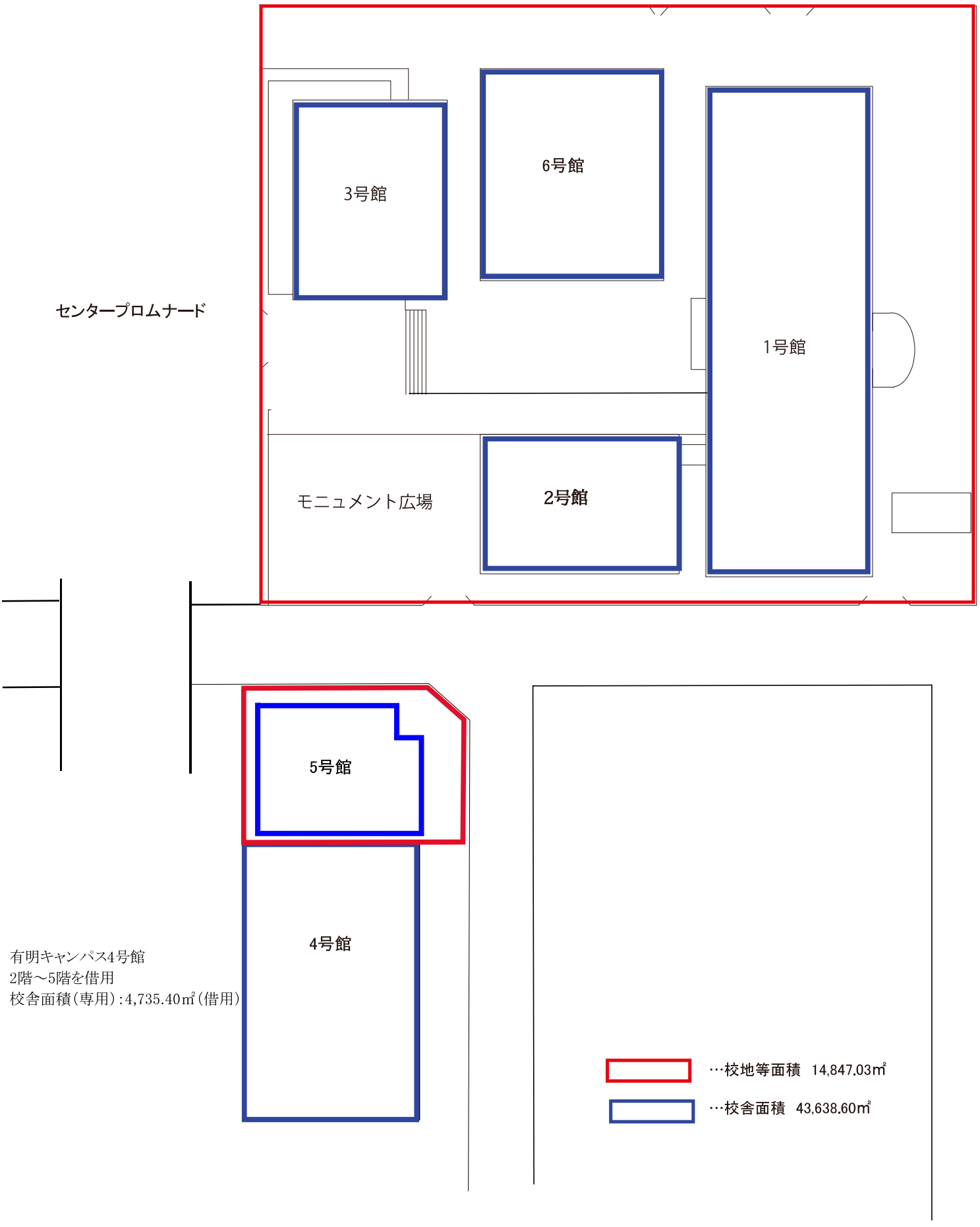
図面-1

私立大学の位置及び校地の状況を明らかにする図面



図面-2

学校法人　武蔵野大学
有明キャンパス　建物配置図 ※工学部サステナビリティ学科使用キャンパス

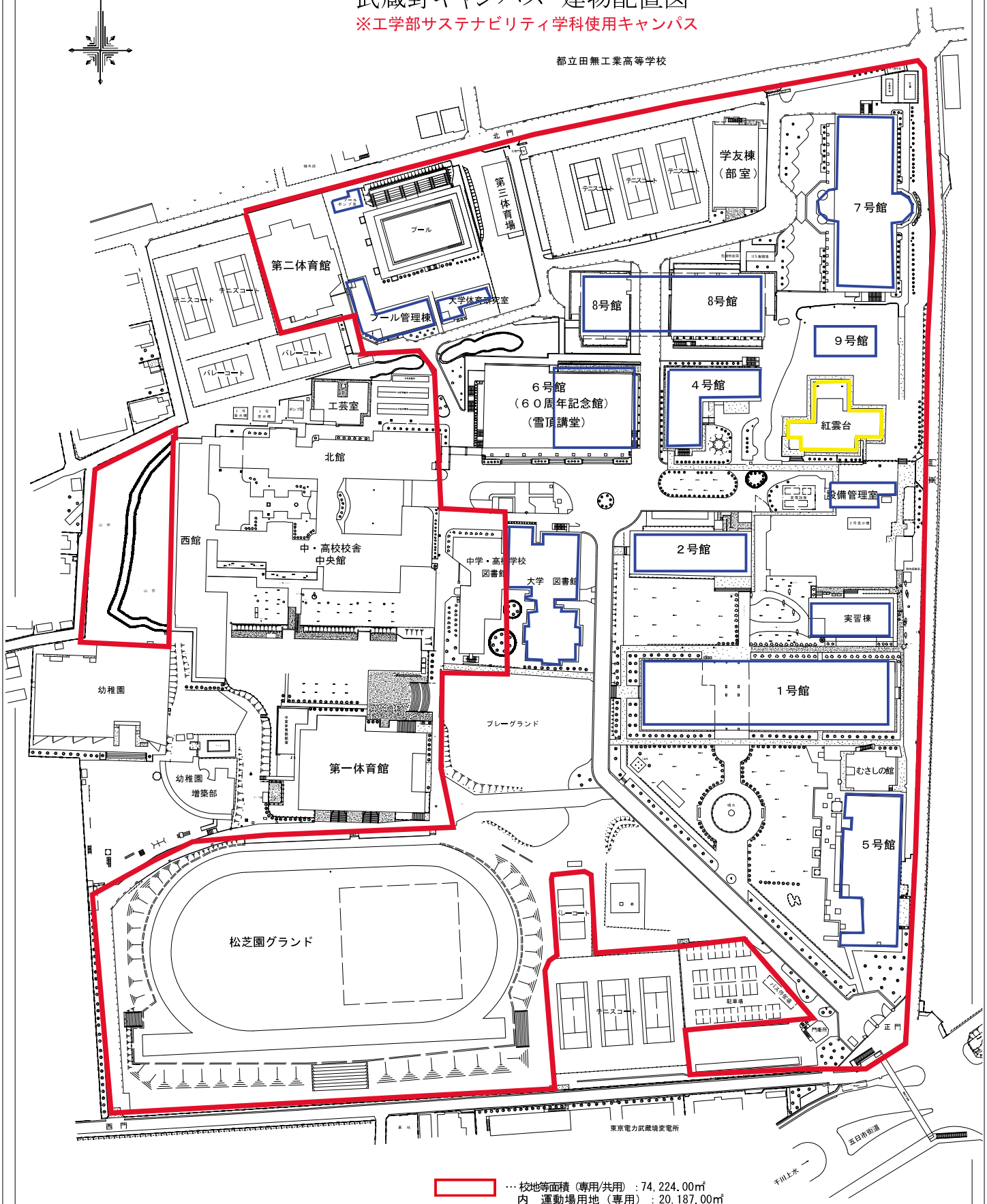


有明キャンパス4号館
2階～5階を借用
校舎面積（専用）：4,735.40㎡（借用）

図面-3

学校法人　武蔵野大学
武蔵野キャンパス　建物配置図

※工学部サステナビリティ学科使用キャンパス



…校地等面積（専用/共用）：74,224.00㎡
内　運動場用地（専用）：20,187.00㎡

…校舎面積（専用）43,202.80㎡

…校舎面積（共用）624.78㎡

平成１５年９月一部修正
平成１６年１２月一部修正　（８号館新築）
平成１８年５月一部修正　（学友棟新築）
平成２６年２月一部修正

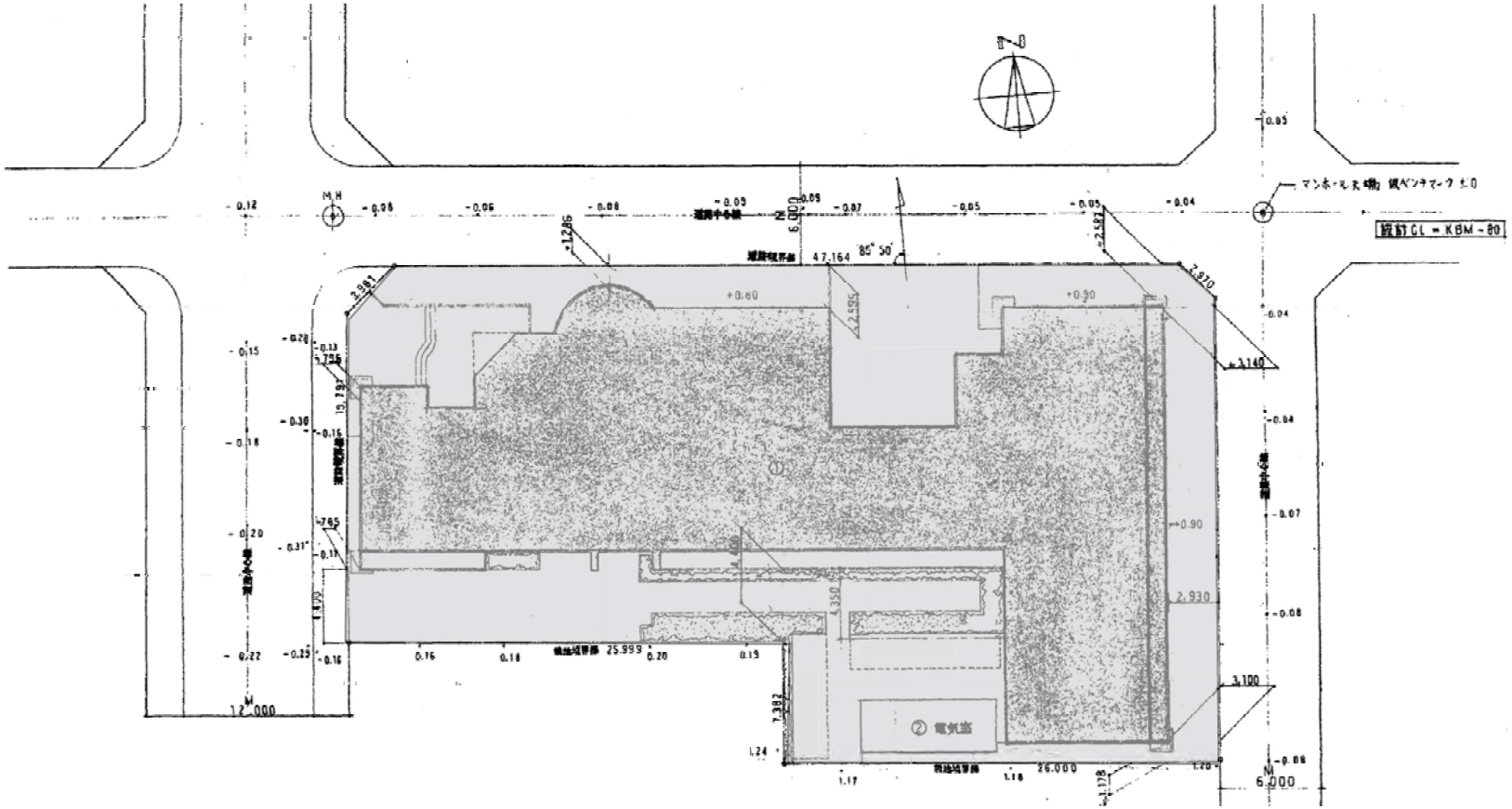
0m　10m　20m　30m　40m　50m

（この現況図は、１／２５０の縮少図である）

図面-4

学校法人　武蔵野大学
葛西国際寮　敷地図

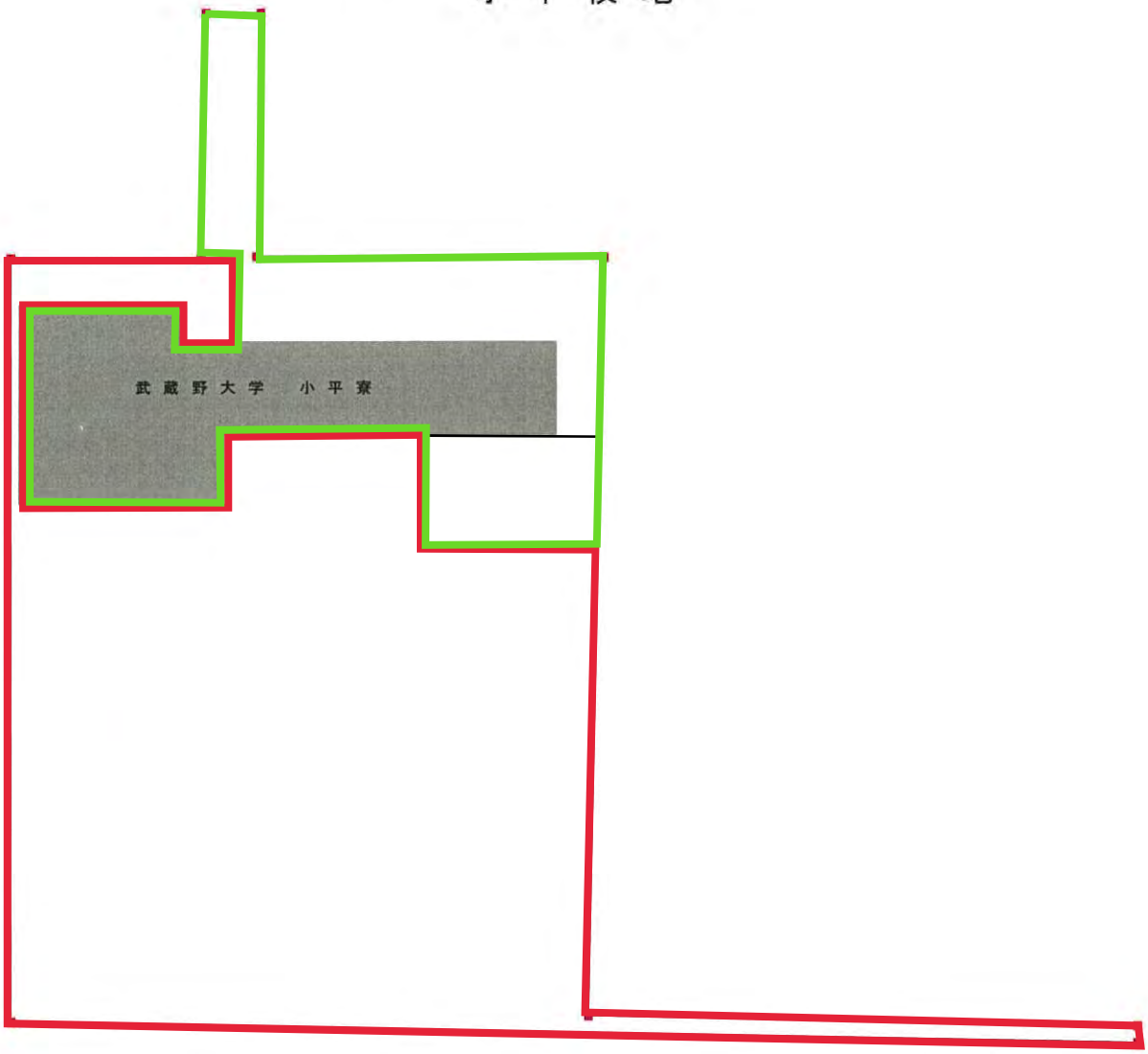
▭ ‥‥ 校地等面積「その他（専用）」：1,360.85㎡



図面-5

学校法人 武蔵野大学　建物配置図

小 平 校 地



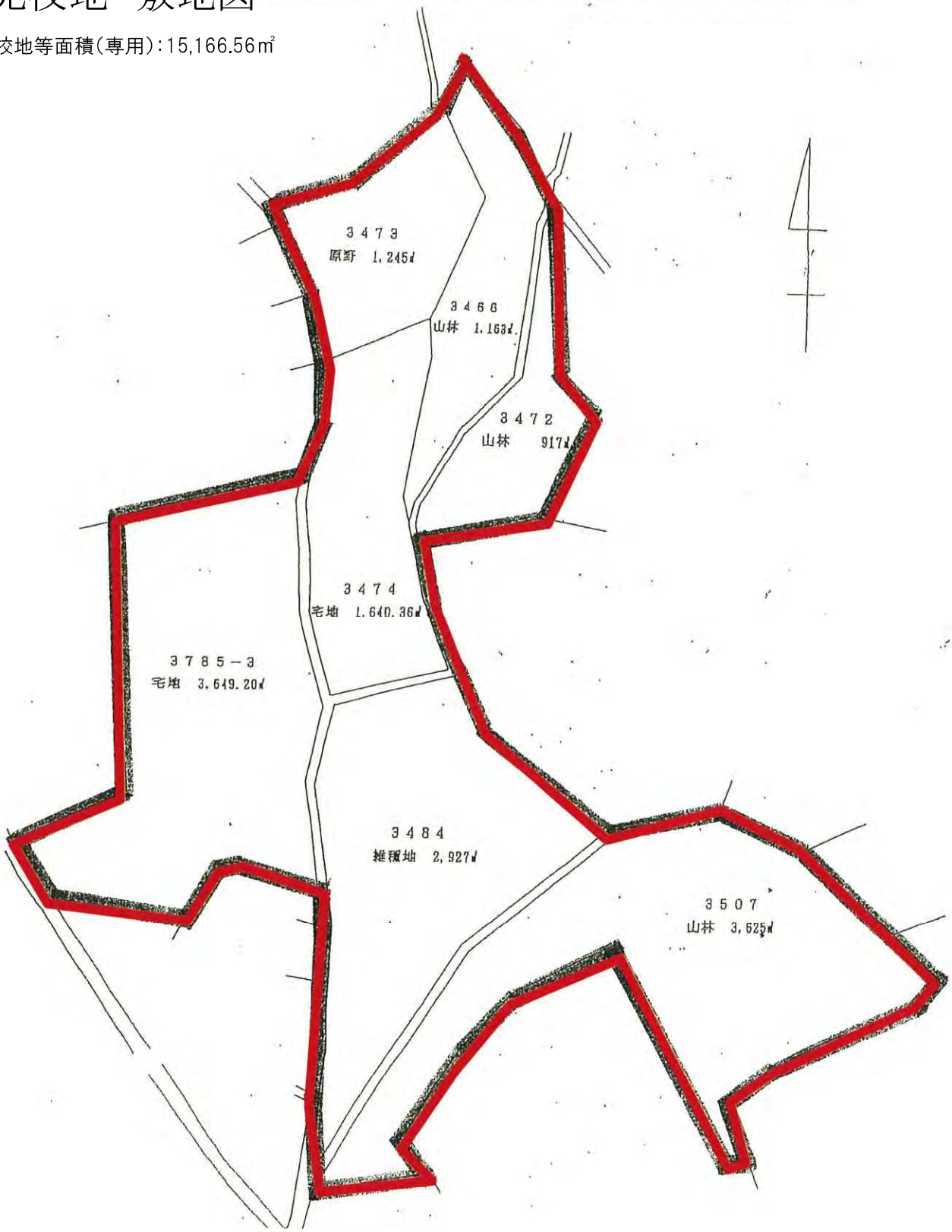
・・・・ 校地等面積「運動場用地（専用）」：10,196.01㎡

・・・・ 校地等面積「その他（専用）」：4,121.99㎡

図面-6

学校法人　武蔵野大学
富士見校地　敷地図

▭ ‥‥ 校地等面積(専用):15,166.56㎡



○武蔵野大学学則（案）

（昭和４０年　１月２５日）

改正	昭和４２年	１月２８日	昭和４４年	４月	１日
	昭和４５年	４月１０日	昭和４６年	４月	１日
	昭和４７年	４月　１日	昭和４８年	４月	１日
	昭和４９年	４月　１日	昭和５０年	４月	１日
	昭和５１年	４月　１日	昭和５２年	４月	１日
	昭和５３年	４月　１日	昭和５４年	４月	１日
	昭和５５年	４月　１日	昭和５６年	４月	１日
	昭和５７年	４月　１日	昭和５８年	４月	１日
	昭和５９年	４月　１日	昭和６０年	４月	１日
	昭和６１年	４月　１日	昭和６２年	４月	１日
	昭和６３年	４月　１日	平成　元年	４月	１日
	平成　２年	４月　１日	平成　３年	４月	１日
	平成　３年	７月　１日	平成　３年１０月		１日
	平成　４年	４月　１日	平成　５年	４月	１日
	平成　６年	４月　１日	平成　７年	４月	１日
	平成　８年	４月　１日	平成　９年	４月	１日
	平成１０年	４月　１日	平成１１年	４月	１日
	平成１２年	４月　１日	平成１３年	４月	１日
	平成１４年	４月　１日	平成１５年	４月	１日
	平成１６年	４月　１日	平成１７年	４月	１日
	平成１８年	４月　１日	平成１９年	４月	１日
	平成２０年	４月　１日	平成２１年	４月	１日
	平成２２年	４月　１日	平成２３年	４月	１日
	平成２４年	４月　１日	平成２５年	４月	１日
	平成２６年	４月　１日	平成２７年	４月	１日
	平成２８年	４月　１日	平成２９年	４月	１日
	平成３０年	４月　１日	平成３１年	４月	１日
	令和　２年	４月　１日	令和　３年	４月	１日
	令和　４年	４月　１日	令和　５年	４月	１日

第１章　総則

（名称）

第１条　本学は、武蔵野大学（以下「本学」という。）と称する。

（目的）

第２条　本学は、教育基本法及び学校教育法に準拠し、かつ、仏教精神を根幹として学識、情操、品性ともにすぐれた人格を育成するとともに、学問の研究を深め、世界の平和と人類の幸福に寄与することをもって目的とする。

２　各学部･学科の教育目的は次のとおりとする。

（１）　文学部

仏教精神を根幹として学識、情操、品性にすぐれた人格を育成するとともに、文学を学び、文化を理解し、社会で活躍できる表現・伝達能力を身につけた人材の育成を目的とする。

＜日本文学文化学科＞

日本文学及び日本文化を学ぶことを通じて豊かな感性を養い、読解力・表現力・創造力・批評力を身につけ、新しい文化を創造することのできる人材の育成を目的とする。

（２）　グローバル学部

仏教精神を根幹として学識、情操、品性にすぐれた人格を育成するとともに、複数の言語を駆使し、多様な学生や多文化との関わりの中で、広い視野をもってグローバルな視点から問題発見・課題解決ができる人材の育成を目的とする。

＜グローバルコミュニケーション学科＞

英語、中国語、日本語のうち、母語以外の２言語を駆使し、言語文化を中心とする知識を有し、グローバルな環境で活躍することのできる人材を育成する。

＜日本語コミュニケーション学科＞

日本語の高度なコミュニケーション能力と課題解決能力を有し、国際社会に日本

語と日本文化を発信するなど、グローバルに活躍できる人材を育成する。

＜グローバルビジネス学科＞

英語を含む複数の言語を駆使し、ビジネス社会でグローバルに活躍できる人材を育成する。

（３）　法学部

仏教精神を根幹として学識、情操、品性にすぐれた人格を育成するとともに、法律学又は政治学の専門的な知識を養い、普遍的なものの見方、考え方を身につけ、共生の視点を持って課題発見・解決のできる人材の育成を目的とする。

＜法律学科＞

幸福な生活の実現に役立つ実用的な法律知識と考え方を身につけることによって、共生の視点を持って持続可能な社会の形成に貢献できる人材を育成する。

＜政治学科＞

自分を取り巻く社会環境を理解し、公共精神と共生の視点をもった市民としての能力・技能を身につけることによって、持続可能な社会の形成に貢献できる人材を育成する。

（４）　経済学部

仏教精神を根幹として学識、情操、品性にすぐれた人格を育成するとともに、経済学の専門的な知識を養い、普遍的・科学的なものの見方、考え方を身につけ、共生の視点を持って課題発見・解決のできる人材の育成を目的とする。

＜経済学科＞

国際化した社会の中で、高い倫理観と共生の視点を持ち、社会貢献と自己実現を目指して、経済学の方法と知見によって普遍的・科学的なものの見方・考え方を修得することで、問題発見・解決ができ、国内外の企業や官公庁など幅広い分野での活躍ができる人材を育成する。

（５）　経営学部

仏教精神を根幹として、世界の幸せの実現に向け高い倫理観と共生の視点を育成するとともに、経営学及び会計学における専門知識と技能を修得し、多様で複雑化するビジネス分野及び非営利・公共分野等において、多様な諸問題を発見・解決できる実践的な能力を身につけた人材を育成する。

＜経営学科＞

変転著しい国際社会の中で、世界の幸せの実現に向け、高い倫理観と共生の視点を持ち、経営学を中心とした社会科学の知識と技能を修得し、組織人として、あるいは個人で、ビジネス分野を中心とした領域及びその他の様々な領域において、多様な諸問題を発見・解決できる実践的な能力を身につけた人材を育成する。

＜会計ガバナンス学科＞

国際化した社会の中で、高い倫理観と共生の視点を持ち、社会貢献と自己実現を目指して、会計言語を駆使し、営利組織・非営利組織を問わず、組織を批判的見地で分析できる知識を養い、国内外の企業等のビジネス分野及び非営利・公共分野等で活躍できる有為な人材、中小企業の事業承継者や経営幹部、並びに公認会計士、税理士等の専門人材を育成する。

（６）　アントレプレナーシップ学部

仏教精神を根幹として学識、情操、品性にすぐれた人格を育成するとともに、起業家精神（アントレプレナーシップ）を抱き、既存の枠を超えて新たな価値を創造できる実践的な能力を身につけた人材の育成を目的とする。

＜アントレプレナーシップ学科＞

変革期を迎え、予測困難で多様性に富んだ現代社会の中で、高い倫理観と好奇心をもって、世界の幸せのために未知なるものに挑戦しようという志、起業家精神（アントレプレナーシップ）を抱き、多様な背景を持つ人を巻き込みながら、既存の枠を超えて新たな価値を創造できる実践的な能力を身につけた人材を育成する。

（７）　データサイエンス学部

仏教精神を根幹として学識、情操、品性にすぐれた人格を育成するとともに、データ、メディアコンテンツ及びそれらの分析・統合による「知の創造」を対象とする新しい学術を志向し、多くの応用の発展を実現できる人材を養成する。

＜データサイエンス学科＞

ビッグデータ、人工知能・機械学習等の新領域の経済的、技術的基礎と応用を学習し、データ、メディアコンテンツの分析・統合により、ビッグデータの戦略的活用と意思決定が行える人材を養成する。

（８）　人間科学部

仏教精神を根幹として学識、情操、品性にすぐれた人格を育成するとともに、人間が直面する歴史的・社会的諸課題を、心理、生命、社会、福祉などの側面から科学的に理解し、実践的に解決できる人材の育成を目的とする。

＜人間科学科＞

人間の心理、生命、社会行動を科学的方法論に基づいて研究し、人間が直面する諸課題を人間尊重の立場にたって実践的に解決できる人材の育成を目的とする。

＜社会福祉学科＞

人と社会の共生を実現しようとする人格を育成するとともに、社会福祉又はこれに関連する実践的で専門的な知識と技術を持つ人材の育成を目的とする。

（９）　工学部

仏教精神を根幹として学識、情操、品性にすぐれた人格を育成するとともに、専門的な知識を養い、持続可能な社会構築に向けて主体的に参画し、工学的手法により課題解決のできる人材を養成する。

＜サステナビリティ学科＞

人類社会や地球環境のサステナビリティに対する深い理解に基づき、ソーシャルデザイン及び環境エンジニアリングの知識・方法・技術によって、サステナブルな世界の実現に貢献できる人材を養成する。

＜数理工学科＞

自然現象や社会現象をモデル化して理解し、システム設計に応用することができる人材や、大規模データから問題の本質を見抜くデータサイエンティスト等、数理工学の専門能力を身につけ、持続可能な社会構築に向けて主体的に参画する人材を育成する。

＜建築デザイン学科＞

建築の分野を中心に、持続可能な社会構築に向けてデザインできる専門的能力を活用して現代社会が直面する多様な課題を解決できる人材を育成する。

（１０）　教育学部

仏教精神を根幹として学識、情操、品性にすぐれた人格を育成するとともに、幅広い視野を持って教育及び教育支援に携わることのできる人材の育成を目的とする。

＜教育学科＞

児童生徒の成長・発達に関する知識を学習し、児童生徒を健やかに育むための技術と実践力を身につけ、教育とその支援活動を行える、高い人格と専門的な実践力・企画力をもった教育者の育成を目的とする。

＜幼児教育学科＞

人格教育に重きを置き、乳幼児期から児童期・青年期に至る発達全体を見通しながら、特に乳幼児期の子供の成長発達に関しての専門性の高い幼児教育者・保育者の育成を目的とする。

（１１）　薬学部

仏教精神を根幹として学識、情操、品性にすぐれた人格を育成するとともに、慈悲の心を持ち、多様な薬学関連分野で人々に貢献できる人材の育成を目的とする。

＜薬学科＞

６年一貫教育の趣旨を生かし、教養教育から基礎薬学教育、医療薬学教育へと系統的な教育を行うことで、医療人として高い倫理観と高度な専門知識を兼ね備えた

実践力のある薬剤師の育成を目的とする。

（１２）　看護学部

仏教精神を根幹として学識、情操、品性にすぐれた人格を育成するとともに、人の「生老病死」と看護は密接に関係することを認識し、人々の健康及び福祉の向上に貢献できる人材の育成を目的とする。

＜看護学科＞

深い人間理解を基盤に、高い倫理観と看護の専門的な知識及び技術を有する看護職の育成を目的とする。

（学長）

第２条の２　学長は、校務をつかさどり、所属職員を統督する。

２　教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるものについては、別に定める。

（自己点検・評価）

第３条　本学は、教育研究水準の向上を図り、前条の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検し、評価を行う。

２　点検、評価に関しての事項・体制については、別に定める。

（認証評価）

第３条の２　本学は、学校教育法に則り、文部科学大臣の認証を受けた者（認証評価機関）による評価（認証評価）を受けるものとする。

２　認証評価に関しての事項・体制については、別に定める。

（学部・学科及び学生定員）

第４条　本学に次の学部、学科及び専修を置き、定員は次のとおりとする。人間科学科における精神保健福祉士の定員は（　　）内のとおり定める。

学部	学　科　・　専　攻	入学定員	編入学定員		収容定員
			２年次	３年次	
文学部	日本文学文化学科	２００名	５名	－	８１５名
グローバル学部	グローバルコミュニケーション学科	１６５名	－	３名	６６６名
	日本語コミュニケーション学科	８０名	－	５名	３３０名
	グローバルビジネス学科	５５名	－	７名	２３４名
法学部	法律学科	１９０名	３名	－	７６９名
	政治学科	１００名	３名	－	４０９名
経済学部	経済学科	１７５名	３名	－	７０９名
経営学部	経営学科	２２０名	３名	－	８８９名
	会計ガバナンス学科	９０名	－	－	３６０名
アントレプレナーシップ学部	アントレプレナーシップ学科	６０名	－	－	２４０名
データサイエンス学部	データサイエンス学科	９０名	－	－	３６０名
人間科学部	人間科学科	２１５名（２０名）	２名	－	８６６名（８０名）
	社会福祉学科	１４５名	４名	－	５９２名

<table>
<tr><td rowspan="3">工学部</td><td colspan="2">サステナビリティ学科</td><td>７０名</td><td>－</td><td>－</td><td>２８０名</td></tr>
<tr><td colspan="2">数理工学科</td><td>６０名</td><td>－</td><td>－</td><td>２４０名</td></tr>
<tr><td colspan="2">建築デザイン学科</td><td>７０名</td><td>－</td><td>－</td><td>２８０名</td></tr>
<tr><td rowspan="5">教育学部</td><td rowspan="4">教育学科</td><td>初等コース</td><td rowspan="4">１２０名</td><td rowspan="4">－</td><td>－</td><td rowspan="4">４８０名</td></tr>
<tr><td>国語コース</td><td>－</td></tr>
<tr><td>英語コース</td><td>－</td></tr>
<tr><td>理科コース</td><td>－</td></tr>
<tr><td colspan="2">幼児教育学科</td><td>１００名</td><td>－</td><td>－</td><td>４００名</td></tr>
<tr><td>薬学部</td><td colspan="2">薬学科</td><td>１４５名</td><td>－</td><td>－</td><td>８７０名</td></tr>
<tr><td>看護学部</td><td colspan="2">看護学科</td><td>１２５名</td><td>－</td><td>－</td><td>５００名</td></tr>
</table>

（大学院）

第４条の２　本学に大学院を置く。

２　大学院に関する事項は、武蔵野大学大学院学則に定める。

（通信教育課程）

第４条の３　本学に通信教育部を置く。

２　通信教育部に関する事項は、武蔵野大学通信教育部学則及び武蔵野大学大学院通信教育部学則に定める。

（別科）

第４条の４　本学に別科（日本語教育課程）及び別科（介護福祉士養成課程）を置く。

２　別科に関する規程は、別に定める。

（専攻科）

第４条の５　本学に専攻科（言語聴覚士養成課程）を置く。

２　専攻科に関する規程は、別に定める。

第５条　（削除）

（修業年限及び在学期間）

第６条　各学科の修業年限は４年とし、在学期間は８年を超えることができない。ただし、薬学部薬学科においては、修業年限は６年とし、在学期間は１２年を超えることができない。

第２章　学年、学期及び休業日

（学年）

第７条　学年は、４月１日に始まり翌年３月３１日に終る。

（学期）

第８条　学年は、２学期又は４学期に分ける。

２　前項の学期の期間については、別に定める。

３　年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、３５週にわたることを原則とする。

（休業日）

第９条　休業日は、次のとおりとする。

（１）　日曜日

（２）　国民の祝日に関する法律に定めた日

（３）　本学創立記念日（５月２１日）

（４）　夏季休業、冬季休業、春季休業に関しては別に定める。

（５）　その他学長が必要と認めたときは、臨時に休業し、又は休業日に授業を行うことがある。

第３章　授業科目及び単位算定基準

（授業科目）

第１０条　本学には、次の授業科目を置く。

共通科目・学科科目

２　（削除）

３　前項により開講する授業科目の種類及び単位数は、別表（１）及び教育学部教育学科履修内規のとおりとする。

（資格課程の授業科目）

第１１条　前条に定めるほか、教職、司書、司書教諭、日本語教員養成、建築士、保育士、社会福祉士、精神保健福祉士及び保健師に関する授業科目を置く。

２　前項により開講する授業科目の種類及び単位数は、別表（２）～（４）、（６）及び（８）（９）（１０）（１１）（１２）のとおりとする。

（単位）

第１２条　各授業科目の単位数は、４５時間の学修を必要とする内容をもって１単位とすることを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算するものとする。

（１）　講義及び演習については、１５時間から３０時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって１単位とする。

（２）　実験、実習及び実技については、３０時間から４５時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって１単位とする。

（３）　前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究、卒業制作の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することができる。

２　学生が各年次にわたって適切に授業科目を履修するため、卒業の要件として学生が履修すべき単位数について、１年間に履修科目として登録できる単位数の上限を定める。

３　前項に定める単位数の上限は、別表（１）－３に定める。

４　所定の単位を優れた成績をもって修得した学生については、前項に定める上限を超えて履修科目の登録を認めることができる。

（メディアを利用して行う授業）

第１２条の２　本学において教育上有益と認めるときは、前条の授業を、多様なメディアを高度に利用して、教室等以外の場所で履修させることができる。

２　前項の授業の方法により修得する単位数は、卒業の要件として修得すべき単位数のうち６０単位を超えないものとする。

３　メディアを利用して行う授業科目及び授業方法については別に定める。

第４章　試験及び単位の認定

（単位の認定）

第１３条　１つの授業科目を履修した者に対しては、試験の上単位を与える。

２　各授業科目について授業時数の３分の１以上欠席した者は、その授業科目の単位の認定を受けることができない。

（追、再試験）

第１３条の２　病気その他やむを得ない事情により定期試験に欠席した者に対しては、追試験を行うことがある。

２　不合格の科目については、再試験を行うことがある。

３　追試験及び再試験の実施については別に定める。

（成績評価）

第１４条　試験の成績評価は、次のとおりとする。

Ｓ（１００点～９０点）、Ａ（８９点～８０点）、Ｂ（７９点～７０点）、

Ｃ（６９点～６０点)、Ｄ（５９点～０点)。
Ｃ以上を合格とし、Ｄは不合格とする。
第１５条　（削除）
第１６条　（削除）
第１７条　（削除）
第１８条　（削除）
（他大学等における学修）
第１９条　本学において教育上有益と認めるときは、他の大学又は短期大学との協議に基づき、学生に当該他大学又は短期大学の授業科目を履修させることができる。
２　前項の規定により履修した授業科目については、合計６０単位を超えない範囲で卒業要件の単位として認めることができる。
３　前２項は、国内外の大学等へ留学した場合にも適用する。
（大学以外の教育施設における学修）
第１９条の２　本学において教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を本学における授業科目の履修とみなし、単位を認めることができる。
２　前項により認めることができる単位数は、前条により本学において修得したものと認める単位数と合わせて６０単位を超えないものとする。
（入学前の既修得単位の認定）
第２０条　本学において教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）を本学に入学した後の本学における授業科目の履修により修得したとみなし単位を認めることができる。
２　前項により修得したものとみなして認めることのできる単位数は、編入学、転学等の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、第１９条及び前条による単位数と合わせて６０単位を超えないものとする。
３　前２項の単位認定の取り扱いについては、別に定める。
（外国人留学生の単位の読み替え）
第２１条　（削除）

第５章　卒業・学位授与及び資格の取得

（卒業の要件）
第２２条　卒業の要件は、文学部並びにグローバル学部、法学部、経済学部、経営学部、アントレプレナーシップ学部、データサイエンス学部、人間科学部、工学部、教育学部、看護学部は合計１２４単位以上、薬学部は合計２０５単位以上を修得していることとする。
（１）　文学部日本文学文化学科
日本文学文化学科の共通科目は、必修１６単位。学科科目は、必修４６単位を含めて７６単位。自由選択単位は、３２単位以上。自由選択単位は、共通科目、学科科目、教職課程科目等の資格取得科目、５大学単位認定科目、他学部・他学科の学科科目の単位をあてることができる。
（２）　グローバル学部グローバルコミュニケーション学科、日本語コミュニケーション学科、グローバルビジネス学科
グローバルコミュニケーション学科の共通科目は、必修１２単位。学科科目は、必修２４単位及び選択必修単位を含めて７５単位。自由選択単位は、３７単位以上。自由選択単位は、共通科目、学科科目、資格取得科目、５大学単位認定科目、他学部・他学科の学科科目の単位をあてることができる。
日本語コミュニケーション学科の共通科目は、必修１２単位。学科科目は、必修２３単位及び選択必修単位を含めて７９単位。自由選択単位は、３３単位以上。自由選択単位は、共通科目、学科科目、資格取得科目、５大学単位認定科目、他

学部・他学科の学科科目の単位をあてることができる。

グローバルビジネス学科の共通科目は、必修１１単位。学科科目は、必修２８単位及び選択必修単位を含めて９２単位。自由選択単位は、２１単位以上。自由選択単位は、共通科目、学科科目、５大学単位認定科目、他学部・他学科の学科科目の単位をあてることができる。

（３）　法学部法律学科、政治学科

法律学科の共通科目は、必修１６単位。学科科目は、必修３０単位を含めて８２単位。自由選択単位は、２６単位以上。自由選択単位は、共通科目、学科科目から所要単位以上に取得した単位、他学部・他学科の学科科目の単位をあてることができる。なお、育成プログラムについては別に定める。

政治学科の共通科目は、必修１６単位。学科科目は、必修３０単位を含めて８３単位。自由選択単位は、２５単位以上。ただし、卒業論文を履修しない者は、うち６単位は隣接科目群を除く学科科目とする。自由選択単位は、共通科目、学科科目から所要単位以上に取得した単位、他学部・他学科の学科科目の単位をあてることができる。なお、育成プログラムについては別に定める。

（４）　経済学部経済学科

経済学科の共通科目は、必修１６単位。学科科目は、８４単位。自由選択単位は、２４単位以上。自由選択単位は、共通科目、学科科目から所要単位以上に取得した単位、他学部・他学科の学科科目の単位をあてることができる。なお、育成プログラムについては別に定める。

（５）　経営学部経営学科、会計ガバナンス学科

経営学科の共通科目は、必修１６単位。学科科目は、必修２２単位を含めて７８単位。自由選択科目は、３０単位以上。自由選択単位は、共通科目、学科科目から所要単位以上に取得した単位、他学部・他学科の学科科目の単位をあてることができる。

会計ガバナンス学科の共通科目は、必修１６単位。学科科目は、必修２２単位を含めて８０単位。自由選択単位は、２８単位以上。自由選択単位は、共通科目、学科科目から所要単位以上に取得した単位、他学部・他学科の学科科目の単位をあてることができる。なお、育成プログラムについては別に定める。

（６）　アントレプレナーシップ学部アントレプレナーシップ学科

アントレプレナーシップ学科の共通科目は、必修１８単位。学科科目は、必修６６単位を含めて９７単位。自由選択単位は、9単位以上。自由選択単位は、共通科目、学科科目から所要単位以上に取得した単位、他学部・他学科の学科科目の単位をあてることができる。

（７）　データサイエンス学部データサイエンス学科

データサイエンス学科の共通科目は、必修１６単位。学科科目は必修５４単位を含めて８７単位。自由選択単位は２１単位以上。自由選択単位は、共通科目、学科科目、５大学単位認定科目、他学部・他学科の学科科目の単位をあてることができる。多様なメディアを利用して行うデータサイエンス社会実践学修は（短期）１単位、（中期）２単位、（長期）３単位、（海外）４単位とし、データサイエンス学部学科科目の選択科目として履修することができる。

（８）　人間科学部人間科学科、社会福祉学科

人間科学科の共通科目は、必修１６単位。学科科目は、必修３８単位を含めて８６単位。自由選択単位は、２２単位以上。自由選択単位は、共通科目、学科科目、資格取得科目、５大学単位認定科目、他学部・他学科の学科科目の単位をあてることができる。

社会福祉学科の共通科目は、必修１６単位。学科科目は必修６４単位を含めて８８単位。自由選択単位は、２０単位以上。自由選択単位は、共通科目、学科科目、５大学単位認定科目、他学部・他学科の学科科目の単位をあてることができる。

（９）　工学部 サステナビリティ学科、数理工学科、建築デザイン学科

サステナビリティ学科の共通科目は、必修１６単位。学科科目は、必修４９単位を含めて８７単位。自由選択単位は２１単位以上。自由選択単位は、共通科目、学科科目、５大学単位認定科目、他学部・他学科の学科科目の単位、学校教育法施行規則第１４３条の２に定める教育関係共同利用拠点として認定された他大学の公開授業及び成果に基づき単位認定される科目をあてることができる。

数理工学科の共通科目は、必修１６単位。学科科目は、必修４０単位を含めて７８単位。自由選択単位は、３０単位以上。自由選択単位は、共通科目、学科科目、教職課程科目等の資格取得科目、５大学単位認定科目、他学部・他学科の学科科目の単位をあてることができる。

建築デザイン学科の共通科目は、必修１６単位。学科科目は、必修４８単位を含めて７８単位。自由選択単位は、３０単位以上。自由選択単位は、共通科目、学科科目、５大学単位認定科目、他学部・他学科の学科科目の単位をあてることができる。

（１０）　教育学部教育学科、幼児教育学科

教育学科の共通科目は、必修１５単位。ただし、理科コースの共通科目は、必修１５単位を含めて１７単位。学科科目は、初等コースが必修５４単位を含めて７８単位、国語コースが必修７０単位を含めて８４単位、英語コースが必修５８単位を含めて７７単位、理科コースが必修６８単位を含めて９２単位。自由選択単位は、初等コースが３１単位以上、国語コースが２５単位以上、英語コースが３２単位以上、理科コースが１５単位以上。自由選択単位は、共通科目、学科科目、資格取得科目、５大学単位認定科目、他学部・他学科の学科科目の単位をあてることができる。

幼児教育学科の共通科目は、必修１５単位。学科科目は、必修６１単位を含めて８４単位。自由選択単位は、２５単位以上。自由選択単位は、共通科目、学科科目、資格取得科目、５大学単位認定科目、他学部・他学科の学科科目の単位をあてることができる。

（１１）　薬学部薬学科

薬学科の共通科目は、必修１４単位、学科科目は、必修１８５単位。自由選択単位は６単位以上。自由選択単位は、共通科目、学科科目、他学部・他学科の学科科目の単位をあてることができる。

（１２）　看護学部看護学科

看護学科の共通科目は、必修１５単位、学科科目は、必修１０１単位。自由選択単位は８単位以上。自由選択単位は、共通科目、学科科目、教職課程科目、他学部・他学科履修許可科目、通信教育部人間科学部の認定心理士科目の単位をあてることができる。

２　（削除）

３　（削除）

４　（削除）

５　第１項の規定にかかわらず、成果に基づき単位認定する科目の単位を卒業要件に含むことができる。これについては別に定める。

（学位）

第２２条の２　本学に４年以上（薬学部薬学科は６年以上）在学し（ただし、全ての学年で１年以上在籍すること）、前条第１項各号に定める単位を修得した者には、学長が教授会の意見を聴き、学長が卒業を認定し、次の学位を授与する。

文学部	日本文学文化学科	学士（文学）
グローバル学部	グローバルコミュニケーション学科	学士（グローバルコミュニケーション）
グローバル学部	日本語コミュニケーション学科	学士（日本語コミュニケーション）
グローバル学部	グローバルビジネス学科	学士（グローバルビジネス）

法学部	法律学科	学士（法律学）
法学部	政治学科	学士（政治学）
経済学部	経済学科	学士（経済学）
経営学部	経営学科	学士（経営学）
経営学部	会計ガバナンス学科	学士（会計学）
アントレプレナーシップ学部	アントレプレナーシップ学科	学士（ビジネス）
データサイエンス学部	データサイエンス学科	学士（データサイエンス学）
人間科学部	人間科学科	学士（人間学）
人間科学部	社会福祉学科	学士（社会福祉学）
工学部	サステナビリティ学科	学士（サステナビリティ学）
工学部	数理工学科	学士（工学）
工学部	建築デザイン学科	学士（工学）
教育学部	教育学科	学士（教育学）
教育学部	幼児教育学科	学士（幼児教育学）
薬学部	薬学科	学士（薬学）
看護学部	看護学科	学士（看護学）

２　前項の定めにかかわらず、３年以上在学し、卒業に必要な単位を優秀な成績で修得したと認める場合（薬学部薬学科を除く）には、前項を準用し、卒業させることができる。

（教員免許状の取得）

第２２条の３　教員免許状を取得しようとする者は、教育職員免許法及び同法施行規則に基づく本学所定の別表（２）の単位を修得しなければならない。ただし、教育学科及び幼児教育学科において教員免許状取得に要する単位の修得については、別表（１）の中に定める。

２　取得できる教員免許状の種類は、次のとおりとする。

文学部	日本文学文化学科	高等学校教諭１種免許状（国語・書道）
		中学校教諭１種免許状（国語）
工学部	数理工学科	高等学校教諭１種免許状（数学）
		中学校教諭１種免許状（数学）
教育学部	教育学科	高等学校教諭１種免許状（国語・書道）
		高等学校教諭１種免許状（英語）
		高等学校教諭１種免許状（理科）
		中学校教諭１種免許状（国語）
		中学校教諭１種免許状（英語）
		中学校教諭１種免許状（理科）
		小学校教諭１種免許状
	幼児教育学科	幼稚園教諭１種免許状
看護学部	看護学科	養護教諭１種免許状

（司書資格）

第２２条の４　司書の資格を得ようとする者は、図書館法施行規則に基づく本学所定の別表（３）の単位を修得しなければならない。

（司書教諭資格）

第２２条の５　司書教諭の資格を得ようとする者は、学校図書館司書教諭講習規程に基づく本学所定の別表（４）の単位を修得しなければならない。

（社会教育主事課程）

第２２条の６　（削除）

（日本語教員養成課程）

第２２条の７　日本語教員養成のための、課程の修了の認定を受けようとする者は、本学

所定の別表（６）の単位を修得しなければならない。
（一級建築士並びに二級建築士及び木造建築士）
第２２条の８　一級建築士並びに二級建築士及び木造建築士の受験資格を得ようとする者は、建築士法に基づく本学所定の別表（８）建築デザイン学科の単位を修得しなければならない。
（保育士）
第２２条の９　保育士の資格を得ようとする者は、児童福祉法施行規則に基づく本学所定の別表（９）の単位を修得し、幼児教育学科を卒業しなければならない。ただし、幼児教育学科卒業までの間に別表（９）の単位を修得できなかった者は、幼児教育学科卒業後、科目等履修生として単位を修得すれば、保育士資格を取得することができる。
（社会福祉士）
第２２条の１０　社会福祉士の受験資格を得ようとする者は、社会福祉士及び介護福祉士法に基づく本学所定の別表（１０）の単位を修得しなければならない。
（精神保健福祉士）
第２２条の１１　精神保健福祉士の受験資格を得ようとする者は、精神保健福祉士法に基づく本学所定の別表（１１）の単位を修得しなければならない。

第６章　入学、転入学、編入学、復学、再入学・復籍、休学、転部・転科・転専攻、留学、転学・退学及び除籍

（入学の時期）
第２３条　入学は原則として毎年１回、時期は学年の始めとする。ただし、必要とされる場合には、年に２回とし、時期は別に定める。
（入学資格）
第２４条　本学に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者でなければならない。
（１）　高等学校又は中等教育学校を卒業した者
（２）　通常の課程による１２年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む）
（３）　外国において学校教育における１２年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
（４）　文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
（５）　文部科学大臣の指定した者
（６）　文部科学大臣の行う大学入学資格検定に合格した者
（７）　本大学において、個別の入学資格審査により高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、１８歳に達した者
（出願）
第２５条　入学志願者は、本学所定の入学願書その他の書類に入学検定料を添えて、指定の期日までに提出しなければならない。
（選考）
第２６条　入学志願者に対して選考を行う。選考の方法等については、別に定める。
（手続き）
第２７条　合格した者は、本学所定の書類に学費を添えて指定の期日までに入学の手続きをしなければならない。
２　正当な理由なく前項の手続きをしない者は、合格を取り消すことがある。
（許可）
第２８条　合格した者のうちから、前条の手続きを行った者について学長が教授会の意見を聴き、入学を許可する。
２　（削除）
（保証人・緊急対応者）

第２９条　保証人は、父母又はこれにかわる者とし、他に１名緊急時に対応できる者（以下「緊急対応者」という。）を必要とする。
２　保証人は、その学生の在学中に生じた事項について責任を負うものとする。
３　緊急対応者は、原則として東京都及びその近県に在住する者とし、緊急時に対応できる者とする。
（氏名・住所等の変更）
第３０条　学生、保証人、緊急対応者の氏名、住所等連絡先が変更になったときは、その旨を速やかに届け出なければならない。
（保証人・緊急連絡先の変更）
第３１条　保証人、緊急対応者が変更になったときは、速やかに新たな保証人、緊急対応者を届け出なければならない。
（転入学）
第３１条の２　本学への転入学又は編入学を希望する者については、選考の上、学長が教授会の意見を聴き、これを許可することがある。
２　転入学に関する規程は、別に定める。
（編入学）
第３１条の３　編入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者でなければならない。
（１）　短期大学を卒業した者
（２）　大学の課程１年（３１単位以上）若しくは２年（６２単位以上）を修了した者
（３）　学士の学位を有する者
（４）　大学入学有資格者で、文部科学大臣の定めた基準（修業年限２年以上の課程修了に必要な総時間数 1700 時間以上）を満たす専修学校の専門課程を修了した者
（５）　旧専門学校（３年制）を卒業した者
（６）　高等専門学校（５年制）を卒業した者
（７）　国立大学養護教諭養成所（３年制課程）国立工業教員養成所を卒業した者
（８）　短期大学の課程１年（３１単位以上）を修了した者
（９）　３年以上の社会経験を有する者
（１０）　本学別科(日本語教育課程)において、科目等履修生として、所定の３５単位を修得し、かつ一定の成績を修めた者
（１１）　高等学校専攻科（修業年限２年以上で、その他の文部科学大臣が定める基準を満たす）を修了した者
２　編入学に関する規程は別に定める。
（復学）
第３１条の４　休学期間が満了した場合は、復学となる。ただし、病気によって休学の許可を受けた者は、医師の診断書を添えて所定の「復学願」を提出しなければならない。
２　復学の時期は、原則として学年始めとする。ただし、修業にさしつかえない場合は、他の時期でも許可することがある。
３　休学期間中に休学の事由がやみ、復学しようとする者は所定の「復学願」を提出しなければならない。
（再入学・復籍）
第３１条の５　退学又は除籍した者が３年以内に保証人連署にて再入学又は復籍を願い出たときは、選考の上、学長が教授会の意見を聴き、これを許可することがある。この場合において退学又は除籍以前の在学期間及び修得単位は所定の在学年限及び卒業所要単位に算入する。
２　再入学及び復籍の時期は、原則として学年始めとする。ただし、修業にさしつかえない場合は、他の時期でも許可することがある。
３　再入学及び復籍に関する規程は別に定める。
（休学）
第３２条　病気又はやむを得ない理由により２カ月以上修学できない者は、医師の診断書

又は詳細な理由を記載した保証人連署の休学願を提出し、学長の許可を得て休学することができる。
２　学長は病気等のため、修学が困難と認められる場合休学を命ずることができる。
（休学期間）
第３３条　休学期間は、原則として当該年度内とする。ただし、やむを得ない場合には、その期間を６カ月ごとに延長することができる。
２　休学の期間は、通算して３年を超えることができない。
３　休学期間は、在学年限に算入しない。
（転部・転科・転専攻）
第３３条の２　本学の学生が、大学の学部間への転部・転科・転専攻を願い出た場合において、それが教育上有益と認められるときは、学長がこれを許可することがある。
２　転部・転科・転専攻に関する規程は別に定める。
（留学）
第３３条の３　本学の学生が、国内外の大学、又はこれに相当する高等教育機関への留学を願い出た場合において、それが教育上有益と認められるときは、学長がこれを許可することがある。
２　留学に関する規程は、別に定める。
第３４条　（削除）
（退学・転学）
第３５条　退学又は転学を希望する者は、保証人連署の上、その理由を記載した願いを提出して学長の許可を受けなければならない。
第３６条　（削除）
第３７条　（削除）
（除籍）
第３８条　次の各号の一に該当する者は、除籍する。
（１）　在学期間が所定の年数を超えた者
（２）　第３３条第２項に定める年数を超えた者
（３）　授業料その他学費を滞納し催告してもなお納付しない者
（４）　薬学部及び看護学部においては、卒業年次を除く同一学年に２年在籍し、なお進級できない者。ただし、休学期間を除く。
（５）　死亡の届け出があった者
（６）　外国人留学生で、出入国管理及び難民認定法に定める在留資格を喪失した者
第３９条　（削除）
第４０条　（削除）

第７章　学費

（納入方法及び時期）
第４１条　本学の学費は、別表（７）のとおりとする。
特別な事由のある場合は、別に定めるところにより学費の減免を行うことができる。
学費の納入時期及び納入期限、延納については、別に定める。
第４２条　（削除）
（納入金の返還）
第４３条　既納の学費は、原則として返還しない。ただし、入学手続完了後、定められた期日までに入学辞退を申し出た者に対しては、入学金以外の納入金を返還することがある。
（休学中の学費）
第４４条　休学中の学費については、別に定める。
（留学中の学費）
第４５条　第３３条の３における留学中の学費は別に定める。
（学期途中の退学・転学の学費）

第４６条　学期の途中において退学又は転学をしようとする者は、その期の学費を納入しなければならない。
第４７条　（削除）
（転入学・編入学・再入学の学費）
第４８条　転入学、編入学又は再入学の場合の学費については別に定める。

第８章　教職員組織

（教職員組織）
第４９条　本学に次の教職員を置く。
（１）　学長
（２）　副学長
（３）　教授
（４）　准教授
（５）　講師
（６）　助教
（７）　助手
（８）　事務職員
（９）　技術職員
（１０）　労務職員
（名誉教授）
第４９条の２　本学に名誉教授の称号を設ける。
２　名誉教授に関する規程は別に定める。
（職務）
第５０条　教職員の職務は、学校教育法及び本学で定める規程による。

第９章　教授会及び委員会

（教授会の設置及び構成）
第５１条　学部に教授会を置く。教授会は学部長、学科長及び教授をもって構成する。ただし、学部長が必要と認めたときは構成員以外の教職員の出席をもとめることができる。
（招集及び議長）
第５２条　教授会は、原則としてあらかじめ議案を通知して学部長がこれを招集し、その議長　となる。学部長に事故があるときはあらかじめ学部長の指名した者が代行する。
（審議事項）
第５３条　教授会は、次に掲げる事項を審議する。
（１）　学生の入学、卒業及び課程の修了に関する事項
（２）　学位の授与に関する事項
（３）　前２号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定める事項
（４）　教育及び研究にかかわる規則及び組織に関する事項
（５）　教育課程及び履修方法に関する事項
（６）　学生の試験に関する事項
（７）　学生の休学、転学、退学に関する事項
（８）　学生の賞罰に関する事項
（９）　学生の厚生補導に関する事項
（１０）　その他教育及び研究に関する重要事項
（１１）　上記各号に関する諸規程の制定・改廃に関する事項
（１２）　学部運営上学部長が必要と認めた事項
２　前項第１号から第３号については、学長に意見を述べることとし、第４号以降については、学長の求めに応じ学長に意見を述べることができる。
３　教授会運営内規は別に定める。

（委員会）
第５４条　本学又は学部に教育、厚生補導、図書施設等に関して委員会を設けることができる。
２　委員会に関する規程は別に定める。

第１０章　付属施設

（付属施設）
第５５条　本学に付属の図書館を置く。
２　本学には、前項に定めるほか、付属の研究所、センター、その他必要な教育研究施設を置くことができる。
３　付属施設に関する規則は、別に定める。

第１１章　厚生、保健施設

（厚生・保健施設）
第５６条　本学の教職員、学生の保健医療及び厚生のため、医務室、休養室その他を設ける。

第１２章　学生寮

（学生寮）
第５７条　本学に学生寮を設ける。
２　学生寮に関する規程は別に定める。

第１３章　賞罰

（表彰）
第５８条　次の各号の一に該当する者に対し、学長は、これを賞することができる。
（１）　成績特に優秀なる者
（２）　品行方正にして他学生の模範となる者
２　前項以外にも、学長が特別に優秀と認めた者については、これを賞することができる。
（懲戒）
第５９条　本学の学則に背き又は本学の秩序を乱し、学生としての本分に反した行為のあるときは、学長はこれを懲戒する。懲戒は、譴責、停学及び退学とする。
２　前項の退学は次の各号の一に該当する者に対して行う。
（１）　性行不良で改善の見込みがないと認められた者
（２）　学業を怠り成績不良で成業の見込みがないと認められた者
（３）　正当な理由なくして出席が常でない者
（４）　著しく学生の本分に反し、本学の秩序を乱した者
３　第１項の懲戒が正式に決定するまでの期間、学長は当該学生に対し、自宅謹慎を命じることができる。なお、停学の懲戒を受けた場合、自宅謹慎期間を停学期間に含めることができる。
４　懲戒に関しては、別に定める。
第６０条　（削除）

第１４章　公開講座、研究生、科目等履修生、特別聴講学生及び外国人留学生

（公開講座）
第６１条　本学は、社会人の教養と文化の向上に資するため、公開講座を開催することができる。
（研究生）
第６２条　本学において特定の専門事項に関する研究に従事することを願い出た者には、選考の上、研究生として受入れを許可することがある。
２　研究生に関する規程は、別に定める。

３　研究生の研究料は別に定める。

（科目等履修生）

第６３条　授業科目の履修を願い出た者には、本学の教育に支障のない限りにおいて科目等履修生として受入れを許可することがある。

２　科目等履修生が履修した授業科目については、第１３条及び第１４条の規定により所定の単位を与えることができる。

３　科目等履修生に関する規程は、別に定める。

４　科目等履修生の履修料は別に定める。

（特別聴講学生）

第６４条　他の大学又は短期大学の学生で、本学において授業科目の履修を願い出た者には、当該他大学又は短期大学との協議に基づき、特別聴講学生として受入れを許可することがある。

２　特別聴講学生に関する規程は、別に定める。

３　特別聴講学生の受講料は別に定める。

（外国人留学生）

第６５条　外国人で、大学において教育を受ける目的をもって入国し、本学に入学を志願する者があるときは、選考の上、外国人留学生として入学を許可することがある。

２　外国人留学生に関する規程は、別に定める。

（学則の準用）

第６６条　研究生、科目等履修生、特別聴講学生及び外国人留学生には、別に規定するほか、本学則を準用する。ただし、研究生、科目等履修生及び特別聴講学生については、第６条、第２２条の２条第１項及び第２項を準用しない。

２　（削除）

３　（削除）

第１５章　育英奨学制度

（育英資金等）

第６７条　学業人格とも優秀で経済力に乏しい学生については選考の上、授業料免除及び本派本願寺育英資金制度その他の方法を講ずることがある。

附　則

昭和４０年１月２５日

昭和４２年１月２８日改正

昭和４４年４月　１日改正

昭和４５年４月１０日改正

昭和４６年４月１日改正。ただし、昭和４６年３月３１日以前から在学している者には、第１１条及び第３７条については、なお従前の例による。

昭和４７年４月１日改正。ただし、昭和４７年３月３１日以前から在学している者には、第３７条については、なお従前の例による。

昭和４８年４月１日改正。ただし、昭和４８年３月３１日以前から在学している者には、第３７条並びに第３８条については、なお従前の例による。

昭和４９年４月１日改正。ただし、昭和４９年３月３１日以前から在学している者には、第３７条並びに第３８条については、なお従前の例による。また、入学考査料については入学志願時から適用する。

昭和５０年４月１日改正。ただし、昭和５０年３月３１日以前から在学している者には、第３７条並びに第３８条については、なお従前の例による。

昭和５１年４月１日改正。ただし、昭和５１年３月３１日以前から在学している者には、第３７条並びに第３８条については、なお従前の例による。

昭和５２年４月１日改正。ただし、昭和５２年３月３１日以前から在学している者には、第３７条並びに第３８条については、なお従前の例による。

昭和５３年４月１日改正。ただし、昭和５３年３月３１日以前から在学している者には、第３７条並びに第３８条については、なお従前の例による。
昭和５４年４月１日改正。ただし、昭和５４年３月３１日以前から在学している者には、第３６条並びに第３７条については、なお従前の例による。
昭和５５年４月１日改正。ただし、昭和５５年３月３１日以前から在学している者には、第３６条並びに第３７条については、なお従前の例による。
昭和５６年４月１日改正。ただし、昭和５６年３月３１日以前から在学している者には、第３６条並びに第３７条については、なお従前の例による。
昭和５７年４月１日改正。ただし、昭和５７年３月３１日以前から在学している者には、第３６条並びに第３７条については、なお従前の例による。
昭和５８年４月１日改正。ただし、昭和５８年３月３１日以前から在学している者には、第３６条並びに第３７条については、なお従前の例による。

附　則（第９条第２項、第１８条、第１９条、第３１条第２項追加、第５１条改正、第９条第３項、第３１条一部改正）

この学則は、昭和５９年４月１日から施行する。

昭和５９年３月３１日以前から在学している者には、第３８条並びに第３９条については、なお従前の例による。

附　則（第３８条別表５一部改正）

この学則は、昭和６０年４月１日から施行する。

昭和６０年３月３１日以前から在学している者には、第３８条並びに第３９条については、なお従前の例による。

附　則（第９条第３項別表(1) 、別表(2) 、第３８条別表(5) 一部改正）

この学則は、昭和６１年４月１日から施行する。

昭和６１年３月３１日以前から在学している者には、第３８条並びに第３９条については、なお従前の例による。

附　則（第９条第３項別表(1) 、第３８条別表(5) 一部改正）

この学則は、昭和６２年４月１日から施行する。

昭和６２年３月３１日以前から在学している者には、第３８条並びに第３９条については、なお従前の例による。

附　則（第１８条、第５９条、第６３条第３項追加、第６３条第３項一部追加、第９条第３項別表(1) 、別表(2) 、第２１条第１項第２号、第４号、第３９条別表(5) 第６３条第１項一部改正）

この学則は、昭和６３年４月１日から施行する。

昭和６３年３月３１日以前から在学している者には、第３９条並びに第４０条については、なお従前の例による。

附　則（第８条、第９条第２項、第９条第３項別表(1) 及び別表(1)-2 、第１３条、第２０条、第３９条別表 (5)一部改正）

この学則は、平成元年４月１日から施行する。

平成元年３月３１日以前から在学している者には、第１３条、第３９条並びに第４０条については、なお従前の例による。

第３９条並びに第４０条別表 (5)のうち、平成元年３月３１日までに入学を許可された者に係る入学金については、なお従前の例による。

附　則（第２１条の２第２項一部改正）

この学則は、平成２年４月１日から施行する。ただし、平成２年３月３１日以前から在学している者には、第１３条、第２１条の２第２項、第３９条並びに第４０条については、なお従前の例による。

附　則（第９条第３項別表(1) 、第３９条別表(5) 一部改正）

この学則は、平成３年４月１日から施行する。ただし、平成３年３月３１日以前から在学している者には、第１３条、第２１条の２第２項、第３９条並びに第４０条については、なお従前の例による。

附　則（第２１条第３項一部改正）

この学則は、平成３年７月１日から施行する。ただし、平成３年３月３１日以前から在学している者には、第１３条、第２１条の２第２項、第３９条並びに第４０条については、なお従前の例による。

附　則（第３９条・第４０条別表(5) 一部改正）

この学則は、平成３年１０月１日から施行する。ただし、平成３年９月３０日までに納付する入学金、施設設備資金については、なお従前の例による。また、平成３年３月３１日以前から在学している者には、第１３条、第２１条の２第２項についてはなお従前の例による。

附　則（第４条、第３９条・第４０条別表(5) 一部改正、第４１条）

この学則は、平成４年４月１日から施行する。

第４条の規定にかかわらず平成４年度から平成１１年度までの入学定員は、次のとおりとする。

学　　部	学　　科	入　学　定　員
文　学　部	日　本　文　学　科	２００名
	英　米　文　学　科	２００名

平成４年３月３１日以前から在学している者には、第１３条、第３９条、第４０条第４１条については、なお従前の例による。

附　則（第３条追加、第５条、第８条第２項、第２４条、第４０条・第４１条別表(5)、第５９条、第６０条、第６１条、第６２条、第６３条、第６４条一部改正、第３９条・第４０条別表(5) 一部改正、第４１条）

この学則は、平成５年４月１日から施行する。平成５年３月３１日以前から在学している者には、第４０条、第４１条については、なお従前の例による。

附　則（第４０条・第４１条別表(5) 改正）

この学則は、平成６年４月１日から施行する。平成６年３月３１日以前から在学している者には、第４０条、第４１条については、なお従前の例による。

附　則（第４条、第５条、第１０条第３項別表(1)及び別表(1)-2、第１１条第２項別表(2)(3)(4) 、第１９条第３項追加、第２０条、第２１条、第２２条、第４０条・第４１条別表(5) 改正）

この学則は、平成７年４月１日から施行する。

第５条の規定にかかわらず平成７年度から平成１１年度までの入学定員は、次のとおりとする。

学　　部	学　　科	入　学　定　員
文　学　部	日　本　文　学　科	１５０名
	英　米　文　学　科	１５０名

また、平成７年３月３１日以前から在学している者には、第１０条第３項別表(1) 及び別表(1)-2 、第１１条第２項別表(2)(3)(4) 、第２０条、第２１条、第２２条については、なお従前の例による。

附　則（第１０条・第２２条の２別表(2) 一部追加、並びに第２項一部追加及び第２２条の５追加）

この学則は、平成８年４月１日から施行する。ただし、平成８年３月３１日以前から在学している者には、第４１条、第４２条については、なお従前の例による。

附　則（第１０条第３項別表(1)、第１１条、第２２条の２別表(2)、第２２条の３別表(3) 、第２２条の４別表(4) 、第２２条の５別表(5) 、第４１・第４２条別表(7) 、第５１条、第５２条、第５４条一部改正、第２２条の６及び別表(6)追加）

この学則は平成９年４月１日から施行する。ただし、平成９年３月３１日以前から在学している者には、第４１条、第４２条については、なお従前の例による。

附　則（第４条一部追加、第５条削除、第１０条第１項、第１０条第３項別表(1)及び別表(1)-2 一部追加、第１２条改正、第２０条第２項、第２１条、第２２条第１及び

３項、第２２条の２第２項、第４１条別表(7)、第５１条一部追加）

この学則は、平成１０年４月１日から施行する。ただし、平成１０年３月３１日以前から在学している者には、第４１条、第４２条については、なお従前の例による。

附　則（第４条、第１０条第１項及び第３項別表(1)-2 備考、第２０条第２項、第２１条、第２２条第１項及び第３項、第２２条の２別表(2)及び第２項、第２２条の４別表(4)、第２２条の６別表(6)、第４１条別表(7)、第５１条一部改正）

この学則は、平成１１年４月１日から施行する。ただし、平成１１年３月３１日以前から在学している者には、第４１条、第４２条については、なお従前の例による。

附　則（第４条、第１０条第１項及び第３項別表(1)、第２０条第２項、第２１条、第２２条第１項、第２２条の２第２項一部改正）

この学則は、平成１２年４月１日から施行する。ただし、平成１２年３月３１日以前から在学している者の学費は、第４１条、第４２条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

２　第４条の規定にかかわらず、平成１５年度までの入学定員は次のとおりとする。

年度等／学科	平成１２年度	平成１３年度	平成１４年度	平成１５年度
	入 学 定 員	入 学 定 員	入 学 定 員	入 学 定 員
日本語・日本文学科	２５５名	２３５名	２１５名	１９５名
英語・英米文学科	２６０名	２４５名	２３０名	２１５名

３　第２０条第２項については平成１２年度入学生から適用する。平成１２年３月３１日以前から在学している者については、なお従前の例による。

附　則（第１０条第３項別表（1)、第１１条第２項別表（2)、第２２条第４項、第２２条の２第２項一部改正）

この学則は、平成１３年４月１日から施行する。ただし、平成１３年３月３１日以前から在学している者の学費は、第４１条、第４２条の規定にかかわらず、なお従前の例による。第２２条第３項については、平成１３年度入学生から適用し、平成１３年３月３１日以前から在学している者については、なお従前の例による。

附　則（第３章 授業科目及び履修方法並びに単位算定基準、第１０条第３項別表(1)、第７章 学費 、第４１条別表(7)一部改正及び各条文を整理し、簡潔な「項目」の追加 ）

この学則は、平成１４年４月１日から施行する。ただし、平成１４年３月３１日以前から在学している者の学費は、第４１条規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則（第１章第１条、第２条、第４条、第４条の２、第４条の３、第３章第１０条第３項別表(1)、第１１条、第１１条第２項、第５章第２２条、第２２条第(1)(2)(3)号、第２２条の２、第２２条の３、第２２条の３第２項一部改正、第２２条の８、第２２条の９追加　改正）

１　この学則は、平成１５年４月１日から施行する。ただし、平成１５年３月３１日以前から在学している者の学費は、第４１条規定にかかわらず、なお従前の例による。

２　武蔵野女子大学は、平成１５年３月３１日現在、同大学（通信教育部を除く）に在学する者が、在学しなくなる日までの間、存続するものとする。

３　前項の期間、武蔵野大学の学長、その他の教職員は武蔵野女子大学の学長その他の教職員を兼ねるものとする。

４　第４条の規定にかかわらず、平成１６年度までの入学定員は次のとおりとする。

学 科・専 攻		平成１５年度	平成１６年度
環境学科	環境アメニティ専攻	６０名	６０名
	住環境専攻	６０名	６０名

附　則（第１章第４条、第３章第１０条第３項別表(1)、第５章第２２条、第２２条第(4)号、第２２条の２、第７章第４１条別表(7)一部追加、第６章第２４条一部改正）

この学則は、平成１６年４月１日から施行する。ただし、平成１６年３月３１日以前から在学している者の学費は、第４１条規定にかかわらず、なお従前の例による

附　則（第１章第４条、第３章第１０条第３項別表(1)、別表(1)-2、第１１条第２項別表(2)～(6)及び(8)(9)、第１２条第２・３項別表(1)-3、別表(7)備考、第４章第２１条別表(1)-2 備考、第５章２２条、２２条第(1)(2)(3)(4)号、第２２条の２、第７章第４１条別表(7)、第９章第５３条一部追加及び改正）

この学則は、平成１６年４月１日から施行する。ただし、平成１６年３月３１日以前から在学している者の学費は、第４１条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則（第１章第４条、第５章第２２条第(1)・(2)・(3)・(4)号、第６章第２４条一部改正）

この学則は、平成１７年４月１日から施行する。ただし、平成１７年３月３１日以前から在学している者の学費は、第４１条規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則（第４条、第６条、第１０条第３項別表(1)、第１２条第３項別表(1)-3、第２２条、第２２条第(4)号、第２２条の２、第２２条の３　一部改正、　第２２条第(5)号、第４１条別表(7)一部追加）

１　この学則は、平成１８年４月１日から施行する。ただし、平成１８年３月３１日以前から在学している者の学費は、第４１条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

２　薬学部薬学科において、平成１８年３月３１日以前から在学している者は、第６条、第１０条第３項別表(1)、第１２条第３項別表(1)-3、第２２条、第２２条第(4)号については、なお従前の例による。

附　則（第４条、第９条、第１０条第３項別表(1)、第１２条第３項別表(1)-3、第２２条、第２２条第(3)号、第２２条の２、第２２条の３別表(2)、及び第２項、第２２条の９、及び別表(9)、第４１条別表(7)、第４９条、第５１条 一部改正、第３８条第(4)号追加）

１　この学則は、平成１９年４月１日から施行する。ただし、平成１９年３月３１日以前から在学している者の学費は、第４１条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

２　第４９条第７号の助手の取扱については、当分の間(平成 22 年 3 月 31 日まで)従前の例による。

附　則（第２条第２項追加、第４条、第１０条第３項別表(1)・別表(1)-2、第１１条第２項別表(2)(3)(4)(6)(8)(9)、第１２条第３項別表(1)-3、第２１条、第２２条、第２２条の２、第２２条の３別表（2)、第２２条の３第２項、第２２条の４別表（3)、第２２条の５別表（4)、第２２条の７別表(6)、第２２条の８別表(8)、第２２条の９別表(9)、第４１条別表(7) 一部改正）

１　この学則は、平成２０年４月１日から施行する。ただし、平成２０年３月３１日以前から在学している者の学費は、第４１条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

２　平成２０年３月３１日以前から、現代社会学部現代社会学科に在学している者については、第４条、第１０条第３項別表(1)及び別表(1)-2、第１１条第２項別表(2)(3)(4)(6)、第１２条第３項別表(1)-3、第２１条、第２２条、第２２条第(2)号、第２２条の２、第２２条の３別表(2)、第２２条の３第２項、第４１条別表(7)の規定にかかわらず、なお、従前の例による。ただし、第２条第２項の学科の教育目的については、次のとおりとする。

〈現代社会学科〉

さまざまな課題をかかえる現代社会で、社会科学の専門的な知識を理解するとともに、他の分野との関わり合いを総合的に学び、自己の確立をめざし、多様な課題発見・解決できる人材の育成を目的とする。

附　則（第２条の２、第４条、第１０条第３項別表(1)及び別表(1)-2、第１１条第２項別表(2)(3)(4)(6)（9)（10)、第１２条第３項別表(1)-3、第２１条、第２２条、第２２条の２、第２２条の３別表(2)、第２２条の３第２項、第２２条の４別表（3)、第２２条の５別表（4)、第２２条の７別表（6)、第２２条の８別表（8)、第２２条の９別表（9)、第３１条の３、第３１条の４、第４１条別表(7)一部改正、第２２条の１０別表(10)、第３

１条の５追加）
１　この学則は、平成２１年４月１日から施行する。ただし、平成２１年３月３１日以前から在学している者の学費は、第４１条の規定にかかわらず、なお従前の例による。
２　第１２条（単位）人間関係学部児童学科については、講義１５時間、演習３０時間、学内実習３０時間、配属実習及び実技４５時間をもってそれぞれ１単位とする。
附　則（第２条第２項第（5）号、第４条、第１０条第３項別表(1)、別表(1)-2、第１１条第２項別表(2)(3)(4)(6)（8)(9)(10)、第１２条第３項別表１－（3)、第２２条、第２２条の３別表(2)、第２２条の４別表(3)、第２２条の５別表(4)、第２２条の７別表(6)、第２２条の８別表(8)、第２２条の９別表(9)、第２２条の１０別表(10)、第４１条別表(7)、第５９条第３項一部改正）
１　この学則は、平成２２年４月１日から施行する。ただし、平成２２年３月３１日以前から在学している者の学費は、第４１条の規定にかかわらず、なお従前の例による。
２　平成２２年３月３１日以前から、環境学部環境学科住環境専攻に在学している者については、第２条第２項第（5）号、第４条、第１０条第３項別表(1)、第１１条第２項別表(2)(3)(4)(6)、第１２条第３項別表１－（3)、第２２条、第２２条の３別表(2)、第２２条の8、第４１条別表(7)の規定にかかわらず、なお、従前の例による。
附　則（第４条の４　条文追加、第２条第２項、第４条、第１０条第３項別表(1)、別表(1)-2、第１１条第２項別表(2)(3)(4)(6)(8)(9)、第１２条第３項別表(1)-3、第２１条、第２２条、第２２条の２、第２２条の３別表(2)、第２項、第２２条の４別表(3)、第２２条の５別表(4)、第２２条の７別表(6)、第２２条の８別表(8)、第２２条の９別表(9)、第４１条別表(7)一部改正）
この学則は、平成２３年４月１日から施行する。ただし、平成２３年３月３１日以前から在学している者の学費は、第４１条の規定にかかわらず、なお従前の例による。
附　則（第１条、第２条第２項、第４条、第４条の３第２項、第１０条第３項別表(1)(1)-2、第１１条第１項、第２項別表(2)(3)(4)(6)(5)(8)(11)、第１２条第３項別表(1)-3、第２１条、第２２条第１項、第２２条の２、第２２条の３第１項別表(2)、第２項、第２２条の４別表(3)、第２２条の８別表(8)、第２９条、第３０条、第３１条、第３１条の３第１０号、第４１条別表(7)　一部変更、第２２条の１１追加）
この学則は、平成２４年４月１日から施行する。ただし、平成２４年３月３１日以前から在学している者については、第２条第２項、第４条、第１０条第３項別表(1)(1)-2、第１１条第１項、第２項別表(2)(3)(4)（5)(6)(8)(11)、第１２条第３項別表(1)-3、第２１条、第２２条第１項、第２２条の２、第２２条の３第１項別表(2)、第２項、第２２条の４別表(3)、第２２条の８別表(8)、第３１条の３第１項第１０号、第４１条別表(7)の規定にかかわらず、なお、従前の例による。
附　則（第４条、第１０条第３項別表(1)、第１１条第２項別表(11)、第４１条別表(7)　一部変更）
この学則は、平成２５年４月１日から施行する。ただし、平成２５年３月３１日以前から在学している者については、第４条、第１０条第３項別表(1)、第１１条第２項別表(11)の規定にかかわらず、なお、従前の例による。
附　則（第４条、第１０条第３項別表(1)、第１１条第２項別表(11)、第１２条第３項別表(1)-3、第２２条第１項、第２２条の３第１項別表(2)、第２項、第４１条別表(7)一部変更、第５８条第２項　追加）
１　この学則は、平成２５年４月１日から施行する。ただし、平成２５年３月３１日以前から在学している者については、第４条、第１１条第２項別表(11)、第２２条の３第２項、第４１条別表(7)の規定にかかわらず、なお、従前の例による。
２　薬学部の「一般用医薬品学実習」「生薬療法学実習」「病理学」「レギュラトリーサイエンス概論」「卒業研究１」「卒業研究２」「卒業研究３」「卒業研究４」を除き、平成２５年３月３１日以前から在学している者の授業科目については、第１０条第３項別表(1)の規定にかかわらず、なお、従前の例による。
３　平成２５年３月３１日以前から在学している者の卒業の要件については、第２２条第

１項の規定にかかわらず、なお、従前の例による。ただし、薬学部については、下表のとおりとする。

入学年度(平成)	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
卒業所要単位数	204.5	238	238	237	235

附　則（第２条第２項、第４条、第４条の５、第１０条第３項別表(1)(1)-2、第１１条第２項別表(2)(3)(4)(6)、第１２条第３項別表(1)-3、第２１条、第２２条第１項、第２２条の２、第２２条の３第１項別表(2)、第２項、第４１条別表(7)　一部変更、第４条の５　追加）

１　この学則は、平成２６年４月１日から施行する。ただし、平成２６年３月３１日以前から在学している者については、第２条第２項、第４条、第１０条第３項別表(1)(1)-2、第１１条第２項別表(2)(3)(4)(6)、第１２条第３項別表(1)-3、第２１条、第２２条第１項、第２２条の２、第２２条の３第１項別表(2)、第２項、第４１条別表(7)の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

２　政治経済学部政治経済学科及び政治経済学部経営学科は平成２６年度より募集を停止する。ただし、同学科は同学科の学生が在学しなくなる日までの間、存続するものとする。

附　則（第４条、第１０条第３項別表(1)、(1)-2、第１１条第２項別表(2)(6)(8)(9)(10)、第１２条第３項別表(1)-3、第２２条第１項、第２２条の３第１項別表(2)　一部変更）

この学則は、平成２６年４月１日から施行する。ただし、平成２６年３月３１日以前から在学している者については、第４条、第１０条第３項別表(1)、(1)-2、第１１条第２項別表(2)(6)(8)(9)(10)、第１２条第３項別表(1)-3、第２２条第１項、第２２条の３第１項別表(2)の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

附　則（第１０条第３項別表(1)　一部変更）

この学則は、平成２６年４月１日から施行する。ただし、平成２６年３月３１日以前から在学している者については、第１０条第３項別表(1)の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則（第２条、第４条、第１０条第３項別表(1)、(1)-2、第１２条第３項別表(1)―3、第２２条第１項、第２２条の３第２項、第４４条　一部変更）

１　この学則は、平成２６年４月１日から施行する。ただし、平成２６年３月３１日以前から在学している者については、第２条、第４条、第１０条第３項別表(1)-2、第１２条第３項別表(1)―3、第２２条第１項、第２２条の３第２項の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

２　薬学部の「卒業研究１」「卒業研究２」「卒業研究３」「卒業研究４」を除き、平成２６年３月３１日以前から在学している者の授業科目については、第１０条第３項別表(1)の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

附　則（第２条第２項、第４条、第１０条第３項別表(1)(1)-2、第１１条第２項別表(2)(3)(4)(6) (8)、第１２条第３項別表(1)-3、第２１条、第２２条第１項、第２２条の２、第２２条の３第１項別表(2)、第２項、第２２条の８、第４１条別表(7)　一部変更）

１　この学則は、平成２７年４月１日から施行する。ただし、平成２７年３月３１日以前から在学している者については、第２条第２項、第４条、第１０条第３項別表(1)(1)-2、第１１条第２項別表(2)(3)(4)(6) (8)、第１２条第３項別表(1)-3、第２１条、第２２条第１項、第２２条の２、第２２条の３第１項別表(2)、第２項、第２２条の８、第４１条別表(7)の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

２　環境学部環境学科は平成２７年度より募集を停止する。ただし、同学科は同学科の学生が在学しなくなる日までの間、存続するものとする。

附　則（第１０条第３項別表(1)、第２２条第１項　一部変更）

１　この学則は、平成２７年４月１日から施行する。ただし、薬学部薬学科において、平成２７年３月３１日以前から在学している者については、第１０条第３項別表(1)、第

２２条第１項の規定にかかわらず、なお、従前の例による。
２　グローバル・コミュニケーション学部グローバル・コミュニケーション学科、法学部法律学科、政治学科、経済学部経済学科、経営学科、人間科学部人間科学科において、平成２６年３月３１日以前から在学している者については、第１０条第３項別表(1)の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

附　則（第２条の２、第８条、第１０条第３項別表(1)(1)-2、第１１条第２項別表(2)(6)(8)(10)、第２２条、第２２条の２、第２８条、第３１条の２、第３１条の５、第３２条、第３３条、第３３条の２、第３３条の３、第４１条別表(7)、第５３条、第５８条、第５９条　一部変更）

１　この学則は、平成２７年４月１日から施行する。ただし、平成２７年３月３１日以前から在学している者については、第１１条第２項別表(2)(8)(10)、第４１条別表(7)（科目等履修生の４学期制の取扱いを除く）の規定にかかわらず、なお、従前の例による。
２　平成２６年３月３１日以前から在学している者については、第１０条第３項別表(1)-2、第１１条第２項別表(6)の規定にかかわらず、なお、従前の例による。
３　文学部日本文学文化学科、法学部法律学科、政治学科、経済学部経済学科、経営学科、人間科学部人間科学科、社会福祉学科、教育学部児童教育学科、薬学部薬学科において、平成２７年３月３１日以前から在学している者については、第１０条第３項別表(1)（共通科目の「オリンピック文化論」を除く）の規定にかかわらず、なお、従前の例による。
４　グローバル･コミュニケーション学部グローバル･コミュニケーション学科において、平成２６年３月３１日以前から在学している者については、第１０条第３項別表(1)（共通科目の「オリンピック文化論」を除く）の規定にかかわらず、なお、従前の例による。
５　看護学部看護学科において、平成２７年３月３１日以前から在学している者については、第１０条第３項別表(1)、第２２条第１項の規定にかかわらず、なお、従前の例による。また、第２２条第５項は適用しないものとする。
６　文学部日本文学文化学科、グローバル・コミュニケーション学部グローバル・コミュニケーション学科、法学部法律学科、政治学科、人間科学部人間科学科、社会福祉学科、教育学部児童教育学科、薬学部薬学科において、平成２７年３月３１日以前から在学している者については第２２条第１項（成果に基づき単位認定する科目の取扱いを除く）の規定にかかわらず、なお、従前の例による。
７　経済学部経済学科、経営学科において、平成２７年３月３１日以前から在学している者については第２２条第１項（自由選択科目の他学部・他学科の学科科目の取扱い及び成果に基づき単位認定する科目の取扱いを除く）の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

附　則（第２条第２項、第４条、第１０条第３項別表(1)(1)-2、第１１条第１項、第２項別表(2)(3)(4)(5)(6)、第１２条第３項別表(1)-3、第２１条、第２２条第１項、第２２条の２、第２２条の３第１項別表(2)、第２項、第２２条の６、第３８条、第４１条別表(7)　一部変更

１　この学則は、平成２８年４月１日から施行する。ただし、平成２８年３月３１日以前から在学している者については、第２条第２項、第４条、第１０条第３項別表(1)-2、第１１条第２項別表(3)(4)（教育学部を除く）(6)、第１２条第３項別表(1)-3、第２１条、第２２条第１項、第２２条の２、第２２条の３第１項別表(2)（「教職特殊研究Ａ」「教職特殊研究Ｂ」を除く）、第２項、第３８条、第４１条別表(7)の規定にかかわらず、なお、従前の例による。
２　グローバル・コミュニケーション学部グローバル・コミュニケーション学科は平成２８年度より募集を停止する。ただし、同学科は同学科の学生が在学しなくなる日までの間、存続するものとする。
３　グローバル・コミュニケーション学部グローバル・コミュニケーション学科、経済学部経営学科、教育学部児童教育学科において、平成２８年３月３１日以前から在籍している者については、第１０条第３項別表(1)の規定にかかわらず、なお従前の例による。
４　薬学部薬学科において、平成２７年４月１日以降に入学した者については、第１０条

第３項別表(1)（学科科目の「微生物医薬品学２」を除く）の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則（第２条第１項、第２項、第４条、第１０条第２項、第３項別表(1)、(1)-2、第１１条第２項別表(6)、第１２条第３項別表(1)-3、第２２条第１項第２号、第５号、第６号、第７号、第２２条の２第１項、第２項、第２３条、第３１条の４第１項、第４１条別表(7)、第６３条第２項　一部変更、第１２条第４項、第３１条の４第３項　追加）

１　この学則は、平成２８年４月１日から施行する。ただし、平成２８年３月３１日以前から在籍している者については、第２条第２項、第４条、第１１条第２項別表(6)、第１２条第３項、第２２条第１項第５号、第２３条、第４１条別表(7)の規定にかかわらず、なお従前の例による。

２　教育学部児童教育学科において、平成２７年３月３１日以前から在籍している者については、第２２条第１項第７号の学校教育専修理科コース及び学校教育専修保健体育コースの必修単位数の規定にかかわらず、なお従前の例による。

３　平成２８年３月３１日以前から在籍している者についての第１０条第３項別表(1)の適用については別に定める。

附　則（第４条、第１０条第３項別表(1)、第４１条別表(7)　一部変更）

この学則は、平成２９年４月１日から施行する。ただし、平成２９年３月３１日以前から在学している者については、第４条、第１０条第３項別表(1)、第４１条別表(7)の規定にかかわらず、なお、従前の例による。

附　則（第１０条第３項別表(1)、第１１条第２項別表(9)、第２２条第１項第１号、第３号、第４号、第５号、第６号、第７号、第８号、第９号　一部変更）

１　この学則は、平成２９年４月１日から施行する。ただし、平成２９年３月３１日以前から在籍している者については、第１１条第２項別表（9)、第２２条第１項第１号、第３号、第４号、第５号、第６号、第７号、第８号、第９号の規定にかかわらず、なお従前の例による。

２　平成２９年３月３１日以前から在籍している者についての第１０条第３項別表(1)の適用については別に定める。

附　則（第１０条第３項別表(1)、第１１条第２項別表(9)、第１２条第３項別表(1)－３、第２２条第１項第５号、第７号　一部変更）

１　この学則は、平成２９年４月１日から施行する。ただし、平成２９年３月３１日以前から在籍している者については、第１１条第２項別表(9)、第１２条第３項別表(1)－３、第２２条第１項第５号、第７号の規定にかかわらず、なお従前の例による。

２　平成２９年３月３１日以前から在籍している者についての第１０条第３項別表(1)の適用については別に定める。

附　則（第２条第２項、第４条の３第２項、第８条第１項、第１０条第３項別表(1)、(1)―２、第１１条第２項別表(2)、(3)、(4)、(6)、(8)、(9)、(10)、(11)、第２２条第１項、第５項、第２２条の２第１項、第２２条の９、第２４条、第２５条、第２７条第１項、第２９条第１項、第３１条の２第１項、第３１条の３第１項、第３２条第１項、第３３条第１項、第３５条、第５５条第２項　一部変更）

１　この学則は、平成２９年４月１日から施行する。ただし、平成２９年３月３１日以前から在籍している者については、第１１条別表(4)、第２２条第１項、第２２条の７、第２２条の９、第２２条の１０、第２２条の１１の規定にかかわらず、なお従前の例による。

２　平成２９年３月３１日以前から在籍している者についての第１０条第３項別表(1)の適用については別に定める。

附　則（第１０条第３項別表(1)、第４１条別表(7)　一部変更）

この学則は、平成３０年４月１日から施行する。ただし、平成３０年３月３１日以前から在籍している者については、第１０条第３項別表(1)、第４１条別表(7)の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則（第２条第２項、第４条、第１０条第３項別表(1)、第１１条第２項別表(3)、

第１２条第３項別表(1)―３、第２２条第１項、第２２条の２第１項、第４１条別表(7)

この学則は、平成３０年４月１日から施行する。ただし、平成３０年３月３１日以前から在籍している者については、第２条第２項、第４条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則（第２条第２項、第４条、第１０条第３項別表(1)、(1)－２、第１１条第２項別表(9)、第１２条第３項別表(1)－３、第２２条第１項、第２２条の２第１項、第２２条の３、第２２条の９、第４１条別表(7)　一部改正）

１　この学則は、平成３０年４月１日から施行する。ただし、平成３０年３月３１日以前から在籍している者については第２条第２項、第４条、第１０条第３項別表(1)－２、第１１条第２項別表(9)、第２２条第１項、第２２条の３、第２２条の９の規定にかかわらず、なお従前の例による。

２　平成３０年３月３１日以前から在籍している者についての第１０条第３項別表(1)、第１２条第３項別表(1)－３の適用については別に定める。

附　則（第１０条第３項別表(1)、第１１条第２項別表(9)、第２２条の２第１項　一部改正）

１　この学則は、平成３０年４月１日から施行する。

２　平成３０年３月３１日以前から在籍している者についての第２２条の２第１項の適用については別に定める。

附　則（第１０条第３項別表(1)、第１１条第２項別表(2)、(9)、第２２条の第１項一部改正）、第４１条別表(7)

この学則は、平成３１年４月１日から施行する。

附　則（第２条第２項、第４条、第１０条第３項、第１２条第３項別表(1)－３、第２２条第１項、第２２条の２第１項、第２２条の３第１項、第２項、第４１条別表(7)　一部改正）

１　この学則は、平成３１年４月１日から施行する。ただし、平成３１年３月３１日以前から在学している者については、第４条（教育学部児童教育学科の名称変更を除く）の規定にかかわらず、なお従前の例による。

２　平成３１年３月３１日以前から在籍している者についての第１０条第３項別表(1)の適用については、別に定める。

３　第２２条の２第１項の在籍要件及び第２２条の３第２項の教育学科の取得免許状については、平成３０年４月１日に遡って適用する。

附　則（第１０条第３項別表(1)、第１１条第２項別表(2)、第１２条第３項別表(1)－３、第２１条、第２２条第１項、第２２条の３第２項）

１　この学則は平成３１年４月１日から施行する。

２　第２１条外国人留学生の単位の読み替え及び第２２条１項日本事情に関する科目の単位については、平成２７年４月１日に遡って適用する。

附　則（第１２条の２　追加、第３８条　一部変更）

この学則は平成３１年４月１日から施行する。

附　則（第３条の２追加、第４条、第４条の４、第１０条第３項別表(1)、(1)-2、第１１条第２項別表(9)、第１２条第３項別表(1)－３、第２１条、第２２条第１項、第５１条　一部変更）

１　この学則は令和２年４月１日から施行する。

２　令和２年３月３１日以前から在籍している者についての第１０条第３項別表(1)の適用については、別に定める。

附　則（第２条第２項、第４条、第１０条第３項別表(1)、第１１条第２項別表(9)、第１２条第３項別表(1)-3、第２２条第１項、第２２条の２第１項、第２２条の３第１項第２項、第２２条の９、第４１条別表(7)　一部変更）

この学則は令和２年４月１日から施行する。ただし、令和２年３月３１日以前から在学している者については教育学部こども発達学科の名称変更を除き、第４条、第１０条第３項別表(1)、第１１条第２項別表(9)、第２２条第１項、第４１条別表(7)の規定にかかわら

ず、なお従前の例による。

附　則（第１０条第３項別表(1)、第１１条第２項別表(6)、第２２条第１項一部変更）

1　この学則は令和２年４月１日から施行する。

2　令和２年３月３１日以前から在籍している者についての第１０条第３項別表(1)、第１１条第２項別表(6)の適用については、別に定める。

附　則（第１０条第３項別表(1)、第２２条第１項一部変更）

1　この学則は令和２年４月１日から施行する。

2　令和２年３月３１日以前から在籍している者についての第１０条第３項別表(1)の適用については、別に定める。

附　則（第８条、第１０条第２項、第３項別表(1)及び別表(1)-2、第１１条別表(6)(8)(9)(10)、第１２条第３項別表(1)-3 一部変更、第２１条削除、第２２条第１項一部変更）

1　この学則は令和３年４月１日から施行する。

2　令和３年３月３１日以前から在籍している者についての第１０条第３項別表(1)の適用については、別に定める。

3　令和３年３月３１日以前から在籍している者については、第１０条第２項、第１０条第３項別表(1)-2、第１１条別表(6)(8)(9)(10)、第１２条第３項別表(1)-3、第２１条、第２２条第１項の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則（第２条第２項、第４条、第１０条第３項別表(1)、第１１条別表(11)、第１２条第３項別表(1)-3 一部変更、第２２条第１項、第２２条の２、第４１条別表(7)一部変更）

1　この学則は令和３年４月１日から施行する。

2　令和３年３月３１日以前から在籍している者についての第１０条第３項別表(1)の適用については、別に定める。

3　令和３年３月３１日以前から在籍している者については、第４条、第１１条別表(11)、第１２条第３項別表(1)-3、第４１条別表(7)の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則（第１０条第３項別表(1)、第２２条第１項 一部変更、第１１条別表（１２）追加）

1　この学則は令和４年４月１日から施行する。

2　令和４年３月３１日以前から在籍している者についての第１０条第３項別表(1)、第１１条別表（１２）の適用については、別に定める。

3　令和４年３月３１日以前から在籍している者については、第２２条第１項の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則（第１０条第３項別表（１）、第１１条第２項別表（１２）一部変更）

1　この学則は令和４年４月１日から施行する。

2　令和４年３月３１日以前から在籍している者についての第１０条第３項別表(1)、第１１条第２項別表（１２）の適用については、別に定める。

附　則（第１０条第３項別表（１）、第１１条第２項別表（２）、（３）、（８）、（９変更）

1　この学則は令和４年４月１日から施行する。

2　令和４年３月３１日以前から在籍している者についての第１０条第３項別表（１）、第１１条第２項別表（２）、（３）、（８）、（９）の適用については、別に定める。

3　第１１条第２項別表（８）備考欄に記載の二級・木造建築士指定科目に係る必要単位数については、令和２年３月１日以降に受験するすべての学生に適用する。

附　則（第２条第２項、第４条、第１０条第３項別表（１）、第１１条第２項別表（２）、第１２条第３項別表（１）－３、第２２条、第２２条の２、第２２条の３、第４１条別表（７）一部変更）

1　この学則は令和５年４月１日から施行する。

2　令和５年３月３１日以前から在籍している者についての第１０条第３項別表（１）

の適用については、別に定める。

3　工学部環境システム学科は令和５年度より募集を停止する。ただし、同学科は同学科の学生が在学しなくなる日までの間、存続するものとする。

文学部日本文学文化学科

別表（1）

区分 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
文学部 日本文学文化学科	〔共通科目〕			
	【建学】			
	仏教（生き方を考える）基礎	2		
	仏教（生き方を考える）発展	2		
	【スポーツ・身体】			
	スポーツと身体科学		1	
	フィールド・スポーツ		1	
	【情報】			
	データサイエンス基礎	1		
	人工知能基礎	1		
	メディアリテラシー		1	
	情報技法基礎		1	
	情報技法発展Ａ		1	
	情報技法発展Ｂ		1	
	情報技法発展Ｃ		1	
	プログラミング基礎		1	
	プログラミング発展Ａ		1	
	プログラミング発展Ｂ		1	
	人工知能技術と社会		1	
	機械学習活用１		1	
	機械学習活用２		1	
	データサイエンス活用１		1	
	データサイエンス活用２		1	
	メディアデザイン		1	
	サービスデザイン		1	
	人工知能実践プロジェクト		2	
	【外国語】			
	英語基礎Ａ	2		
	英語基礎Ｂ		1	
	英語基礎Ｃ	2		
	英語基礎Ｄ		1	
	英語発展Ａ		1	
	英語発展Ｂ		1	
	英語発展Ｃ		1	
	英語発展Ｄ		1	
	英語綜合Ａ		1	
	英語綜合Ｂ		1	
	中国語基礎１		1	
	中国語基礎２		1	
	中国語発展１		1	
	中国語発展２		1	
	フランス語基礎１		1	
	フランス語基礎２		1	
	フランス語発展１		1	
	フランス語発展２		1	
	ドイツ語基礎１		1	
	ドイツ語基礎２		1	
	ドイツ語発展１		1	
	ドイツ語発展２		1	
	スペイン語基礎１		1	
	スペイン語基礎２		1	
	スペイン語発展１		1	

別表（1）

区分 / 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
	スペイン語発展２		1	
	韓国語基礎１		1	
	韓国語基礎２		1	
	韓国語発展１		1	
	韓国語発展２		1	
	留学準備１		1	
	留学準備２		1	
	英語資格・検定試験対策１		1	
	英語資格・検定試験対策２		1	
	【教養日本語】			
	日本語リテラシー	1		
	日本語基礎Ａ		1	留学生または日本語を母語としない学生は、外国語科目群の必修科目に代えることができる
	日本語基礎Ｂ		1	
	日本語基礎Ｃ		1	
	日本語基礎Ｄ		1	
	日本語発展Ａ		1	
	日本語発展Ｂ		1	
	日本語発展Ｃ		1	
	日本語発展Ｄ		1	
	日本事情		2	
	【ＣＨＰ】			
	ＳＤＧｓ基礎	1		
	ＳＤＧｓ発展１	1		
	ＳＤＧｓ発展２	1		
	ＳＤＧｓ発展３	1		
	ＳＤＧｓ特講		2	
	【フィールド・スタディーズ】			
	フィールド・スタディーズ	1		
	フィールド・スタディーズ１		1	
	フィールド・スタディーズ２		2	
	フィールド・スタディーズ３		3	
	フィールド・スタディーズ４		4	
	フィールド・スタディーズ発展１Ａ		1	
	フィールド・スタディーズ発展１Ｂ		2	
	フィールド・スタディーズ発展１Ｃ		3	
	フィールド・スタディーズ発展１Ｄ		4	
	フィールド・スタディーズ発展２Ａ		1	
	フィールド・スタディーズ発展２Ｂ		2	
	フィールド・スタディーズ発展２Ｃ		3	
	フィールド・スタディーズ発展２Ｄ		4	
	フィールド・スタディーズ発展２Ｅ		5	
	フィールド・スタディーズ発展３Ａ		1	
	フィールド・スタディーズ発展３Ｂ		2	
	フィールド・スタディーズ発展３Ｃ		3	
	フィールド・スタディーズ発展３Ｄ		4	
	フィールド・スタディーズ発展３Ｅ		5	
	フィールド・スタディーズ発展４Ａ		1	
	フィールド・スタディーズ発展４Ｂ		2	
	フィールド・スタディーズ発展４Ｃ		3	
	フィールド・スタディーズ発展４Ｄ		4	

文学部日本文学文化学科
別表（1）

区分 / 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
	【インターンシップ】			
	インターンシップ		1	
	企業協働プロジェクト		2	
	【全学教養ゼミナール】			
	全学教養ゼミナール１		2	
	全学教養ゼミナール２		2	
	【寄付講座】			
	武蔵野市自由講座		2	
	証券ビジネス論		2	
	〔教職関連〕			
	日本国憲法		2	教職必修
	〔学科科目〕			
	【学科基礎科目】			
	古代文学	2		
	中古文学	2		
	中世文学	2		
	近世文学	2		
	近代・現代文学	2		
	日本語学概論Ⅰ	2		
	日本語学概論Ⅱ	2		
	入門ゼミA	2		
	入門ゼミB	2		
	漢文学	2		
	日本文学史Ⅰ（古典）	2		
	日本文学史Ⅱ（近現代）	2		
	小説の歴史		2	
	武蔵野学	2		
	【学科展開科目】			
	プレゼミ1A	2		
	プレゼミ1B	2		
	プレゼミ2A	2		
	プレゼミ2B	2		
	ゼミA	2		
	ゼミB	2		
	日本文学文化研究調査実習Ⅰ		1	
	日本文学文化研究調査実習Ⅱ		1	
	日本文学文化研究調査実習Ⅲ		1	
	日本文学文化研究（日本書誌学と文献資料講読）		2	
	【卒業論文・卒業制作】			
	卒論ゼミ	4		
	卒業論文	4		
	【文学・語学コース】			
	日本文学特講Ⅰ（奈良時代の作家と作品）		2	
	日本文学特講Ⅱ（平安時代の作家と作品）		2	
	日本文学特講Ⅲ（鎌倉・室町時代の作家と作品）		2	
	日本文学特講Ⅳ（江戸時代の作家と作品）		2	
	日本文学特講Ⅴ（近代・現代の作家と作品）		2	

文学部日本文学文化学科
別表（1）

区分 / 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
	日本文学特講Ⅵ（戦前・戦後の作家と作品）		2	
	日本文学特講Ⅶ（児童文学の作家と作品）		2	
	日本文学研究Ⅰ（奈良時代の文学と文化）		2	
	日本文学研究Ⅱ（平安時代の文学と文化）		2	
	日本文学研究Ⅲ（鎌倉・室町時代の文学と文化）		2	
	日本文学研究Ⅳ（江戸時代の文学と文化）		2	
	日本文学研究Ⅴ（近代・現代の文学と文化）		2	
	日本文学研究Ⅵ（児童文学と詩の研究）		2	
	日本文学研究Ⅶ（近代・現代の文学と表現）		2	
	日本文学研究Ⅷ（近代・現代の文学と人生）		2	
	漢文学中国文学特講（漢文訓読学）		2	
	漢文学中国文学研究Ⅰ（和漢比較文学）		2	
	漢文学中国文学研究Ⅱ（日本漢文学）		2	
	日本語学特講（古代の日本語）		2	
	日本語学研究（近代の日本語）		2	
	【文化・創作・芸術コース】			
	創作入門Ⅰ		2	
	創作入門Ⅱ		2	
	日本の演劇（古典芸能）		2	
	書道基礎		2	
	日本文化特講Ⅰ（日本の祭りと民話）		2	
	日本文化特講Ⅱ（日本の生活文化）		2	
	日本文化研究Ⅰ（朗読・語りと舞台演出）		2	
	日本文化研究Ⅱ（演劇実践演習）		2	
	比較文学特講（外国文学）		2	
	創作基礎Ⅰ（小説Ⅰ）		2	
	創作基礎Ⅱ（小説Ⅱ）		2	
	創作基礎Ⅲ（俳句）		2	
	創作基礎Ⅳ（短歌）		2	
	創作基礎Ⅴ（現代詩）		2	
	創作基礎Ⅵ（児童文学）		2	
	創作基礎Ⅶ（絵本）		2	
	創作研究Ⅰ（小説Ⅰ）		2	
	創作研究Ⅱ（小説Ⅱ）		2	
	創作研究Ⅲ（俳句）		2	
	創作研究Ⅳ（短歌）		2	
	創作研究Ⅴ（現代詩）		2	
	書道学特講Ⅰ（書道漢字）		2	
	書道学特講Ⅱ（書道仮名）		2	
	書道学研究（書道応用）		2	
	書論・鑑賞		2	
	日文キャリア演習Ⅰ（編集デザイン）		2	
	日文キャリア演習Ⅱ（編集デザイン）		2	
	【副専攻】			
	日文特別ゼミⅠ		4	
	日文特別ゼミⅡ		4	
	日文特別ゼミⅢ		4	
	日文特別ゼミⅣ		4	

グローバル学部グローバルコミュニケーション学科

別表（1）

区分 / 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
グローバル学部グローバルコミュニケーション学科	〔共通科目〕			
	【建学】			
	仏教（生き方を考える）基礎	2		
	仏教（生き方を考える）発展	2		
	【スポーツ・身体】			
	スポーツと身体科学		1	
	フィールド・スポーツ		1	
	【情報】			
	データサイエンス基礎	1		
	人工知能基礎	1		
	メディアリテラシー		1	
	情報技法基礎		1	
	情報技法発展Ａ		1	
	情報技法発展Ｂ		1	
	情報技法発展Ｃ		1	
	プログラミング基礎		1	
	プログラミング発展Ａ		1	
	プログラミング発展Ｂ		1	
	人工知能技術と社会		1	
	機械学習活用１		1	
	機械学習活用２		1	
	データサイエンス活用１		1	
	データサイエンス活用２		1	
	メディアデザイン		1	
	サービスデザイン		1	
	人工知能実践プロジェクト		2	
	【外国語】			
	フランス語基礎１		1	
	フランス語基礎２		1	
	フランス語発展１		1	
	フランス語発展２		1	
	ドイツ語基礎１		1	
	ドイツ語基礎２		1	
	ドイツ語発展１		1	
	ドイツ語発展２		1	
	スペイン語基礎１		1	
	スペイン語基礎２		1	
	スペイン語発展１		1	
	スペイン語発展２		1	
	韓国語基礎１		1	
	韓国語基礎２		1	
	韓国語発展１		1	
	韓国語発展２		1	
	留学準備１		1	
	留学準備２		1	
	英語資格・検定試験対策１		1	

グローバル学部グローバルコミュニケーション学科

別表（1）

区分 / 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
	英語資格・検定試験対策２		1	
	【教養日本語】			
	日本語リテラシー	1		
	【ＣＨＰ】			
	ＳＤＧｓ基礎	1		
	ＳＤＧｓ発展１	1		
	ＳＤＧｓ発展２	1		
	ＳＤＧｓ発展３	1		
	ＳＤＧｓ特講		2	
	【フィールド・スタディーズ】			
	フィールド・スタディーズ	1		
	フィールド・スタディーズ１		1	
	フィールド・スタディーズ２		2	
	フィールド・スタディーズ３		3	
	フィールド・スタディーズ４		4	
	フィールド・スタディーズ発展１Ａ		1	
	フィールド・スタディーズ発展１Ｂ		2	
	フィールド・スタディーズ発展１Ｃ		3	
	フィールド・スタディーズ発展１Ｄ		4	
	フィールド・スタディーズ発展２Ａ		1	
	フィールド・スタディーズ発展２Ｂ		2	
	フィールド・スタディーズ発展２Ｃ		3	
	フィールド・スタディーズ発展２Ｄ		4	
	フィールド・スタディーズ発展２Ｅ		5	
	フィールド・スタディーズ発展３Ａ		1	
	フィールド・スタディーズ発展３Ｂ		2	
	フィールド・スタディーズ発展３Ｃ		3	
	フィールド・スタディーズ発展３Ｄ		4	
	フィールド・スタディーズ発展３Ｅ		5	
	フィールド・スタディーズ発展４Ａ		1	
	フィールド・スタディーズ発展４Ｂ		2	
	フィールド・スタディーズ発展４Ｃ		3	
	フィールド・スタディーズ発展４Ｄ		4	
	【インターンシップ】			
	インターンシップ		1	
	企業協働プロジェクト		2	
	【全学教養ゼミナール】			
	全学教養ゼミナール１		2	
	全学教養ゼミナール２		2	
	【寄付講座】			
	武蔵野市自由講座		2	
	証券ビジネス論		2	

グローバル学部グローバルコミュニケーション学科

別表（1）

区分 / 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
	〔学科科目〕			
	【言語演習科目】			
	〈日本語科目群〉			
	日本語１Ａ		1	８単位選択必修（留学生のみ）
	日本語１Ｂ		1	
	日本語１Ｃ		1	
	日本語１Ｄ		1	
	日本語２Ａ		1	
	日本語２Ｂ		1	
	日本語２Ｃ		1	
	日本語２Ｄ		1	
	〈中国語科目群〉			
	中国語１Ａ		1	１６単位選択必修（留学生は除く）
	中国語１Ｂ		1	
	中国語１Ｃ		1	
	中国語１Ｄ		1	
	中国語２Ａ		1	
	中国語２Ｂ		1	
	中国語２Ｃ		1	
	中国語２Ｄ		1	
	中国語３Ａ		1	
	中国語３Ｂ		1	
	中国語資格試験演習（初級）１		1	
	中国語資格試験演習（初級）２		1	
	中国語資格試験演習（初級）３		1	
	中国語資格試験演習（中級）１		1	
	中国語資格試験演習（中級）２		1	
	中国語資格試験演習（中級）３		1	
	〈英語科目群〉			
	English for Qualifications A	1		
	English for Qualifications B	1		
	English for Qualifications C	1		
	English for Qualifications D	1		
	Practical Communication A	1		
	Practical Communication B	1		
	Practical Communication C	1		
	Practical Communication D	1		
	Integrated Skills for Qualifications A	1		
	Integrated Skills for Qualifications B	1		
	Integrated Skills for Qualifications C	1		
	Integrated Skills for Qualifications D	1		
	Integrated Skills for Communication A	1		
	Integrated Skills for Communication B	1		
	Integrated Skills for Communication C	1		
	Integrated Skills for Communication D	1		
	英語資格試験演習Ａ		2	
	英語資格試験演習Ｂ		2	

グローバル学部グローバルコミュニケーション学科

別表（1）

区分 / 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
	英語資格試験演習C		2	
	英語資格試験演習D		2	
	Advanced Skills for Communication A		2	
	Advanced Skills for Communication B		2	
	<English Study Abroad Program>			
	EAP Beginner 1		4	
	EAP Beginner 2		4	
	EAP Beginner 3		4	
	EAP Intermediate 1		4	
	EAP Intermediate 2		4	
	EAP Intermediate 3		4	
	EAP Advanced 1		4	16単位
	EAP Advanced 2		4	選択必修
	EAP Advanced 3		4	
	EAP Masters 1		4	
	EAP Masters 2		4	
	EAP Masters 3		4	
	EAP Masters 4		4	
	EAP Masters 5		4	
	EAP Masters 6		4	
	EAP Masters 7		4	
	Undergraduate Courses 1		2	
	Undergraduate Courses 2		2	
	Undergraduate Courses 3		3	
	Undergraduate Courses 4		4	
	Undergraduate Courses 5		5	
	Undergraduate Courses 6		10	
	Undergraduate Courses 7		10	
	【学科基礎科目】			
	基礎ゼミ	1		
	プレゼミ	1		
	【多文化共修科目】			
	グローバルスタディーズ/Global Studies	2		
	キャリアデザイン入門	2		
	異文化コミュニケーション概論	2		
	【学科専門科目】			
	<翻訳・通訳科目群>			
	英語翻訳演習A		2	
	英語翻訳演習B		2	
	英語翻訳演習C		2	
	英語翻訳演習D		2	
	英語通訳演習A		2	
	英語通訳演習B		2	
	英語通訳演習C		2	
	英語通訳演習D		2	

グローバル学部グローバルコミュニケーション学科
別表（1）

区分 / 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
	中国語翻訳演習A		2	
	中国語翻訳演習B		2	
	中国語翻訳演習C		2	
	中国語翻訳演習D		2	
	中国語通訳演習A		2	
	中国語通訳演習B		2	
	中国語通訳演習C		2	
	中国語通訳演習D		2	
	〈言語・文化科目群〉			
	中国研究（文化文学）初級A		2	
	中国研究（文化文学）初級B		2	
	中国研究（文化文学）中級A		2	
	中国研究（文化文学）中級B		2	
	中国研究（文化文学）中級C		2	
	中国研究（文化文学）中級D		2	
	中国研究（文化文学）上級A		2	
	中国研究（文化文学）上級B		2	
	中国研究（文化文学）上級C		2	
	中国研究（文化文学）上級D		2	
	Communication Studies A		2	
	Communication Studies B		2	
	Area Studies US A		2	
	Area Studies US B		2	
	Area Studies UK A		2	
	Area Studies UK B		2	
	Area Studies China A		2	
	Area Studies China B		2	
	Area Studies Ad Hoc A		2	
	Area Studies Ad Hoc B		2	
	Global Media Literacy A		2	
	Global Media Literacy B		2	
	Media English A		2	
	Media English B		2	
	EFL Reading A		2	
	EFL Reading B		2	
	EFL Reading C		2	
	EFL Reading D		2	
	Literary Texts, Critical Methods A		2	
	Literary Texts, Critical Methods B		2	
	English and Film Studies A		2	
	English and Film Studies B		2	
	Academic Reading A		2	
	Academic Reading B		2	
	Academic Reading C		2	
	Academic Reading D		2	
	Language Acquisition A		2	
	Language Acquisition B		2	
	Sociolinguistics A		2	

グローバル学部グローバルコミュニケーション学科

別表（1）

区分 / 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
	Sociolinguistics B		2	
	World Englishes A		2	
	World Englishes B		2	
	Comparative Culture A		2	
	Comparative Culture B		2	
	Cultural Studies A		2	
	Cultural Studies B		2	
	〈学部隣接科目群〉			
	日本研究（政治・社会）A		2	
	日本研究（政治・社会）B		2	
	日本研究（政治・社会）C		2	
	日本研究（政治・社会）D		2	
	日本研究（文化・文学・サブカルチャー）A		2	
	日本研究（文化・文学・サブカルチャー）B		2	
	日本研究（文化・文学・サブカルチャー）C		2	
	日本研究（文化・文学・サブカルチャー）D		2	
	日本研究（歴史・地域・メディア）A		2	
	日本研究（歴史・地域・メディア）B		2	
	日本研究（歴史・地域・メディア）C		2	
	日本研究（歴史・地域・メディア）D		2	
	〈特別講義〉			
	特別講義 A		1	
	特別講義 B		1	
	特別講義 C		1	
	特別講義 D		1	
	〈ゼミ/Ｓｅｍｉｎａｒ〉			
	ゼミ/Seminar A		2	ゼミ/Seminar（計8単位）又は課題研究演習（計8単位）のいずれかを選択必修
	ゼミ/Seminar B		2	
	ゼミ/Seminar C		2	
	ゼミ/Seminar D		2	
	課題研究演習A		2	
	課題研究演習B		2	
	課題研究演習C		2	
	課題研究演習D		2	
	卒業論文/Research Project		4	

グローバル学部日本語コミュニケーション学科

別表（1）

区分 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
グローバル学部日本語コミュニケーション学科	〔共通科目〕			
	【建学】			
	仏教（生き方を考える）基礎	2		
	仏教（生き方を考える）発展	2		
	【スポーツ・身体】			
	スポーツと身体科学		1	
	フィールド・スポーツ		1	
	【情報】			
	データサイエンス基礎	1		
	人工知能基礎	1		
	メディアリテラシー		1	
	情報技法基礎		1	
	情報技法発展Ａ		1	
	情報技法発展Ｂ		1	
	情報技法発展Ｃ		1	
	プログラミング基礎		1	
	プログラミング発展Ａ		1	
	プログラミング発展Ｂ		1	
	人工知能技術と社会		1	
	機械学習活用１		1	
	機械学習活用２		1	
	データサイエンス活用１		1	
	データサイエンス活用２		1	
	メディアデザイン		1	
	サービスデザイン		1	
	人工知能実践プロジェクト		2	
	【外国語】			
	フランス語基礎１		1	
	フランス語基礎２		1	
	フランス語発展１		1	
	フランス語発展２		1	
	ドイツ語基礎１		1	
	ドイツ語基礎２		1	
	ドイツ語発展１		1	
	ドイツ語発展２		1	
	スペイン語基礎１		1	
	スペイン語基礎２		1	
	スペイン語発展１		1	
	スペイン語発展２		1	
	韓国語基礎１		1	
	韓国語基礎２		1	
	韓国語発展１		1	
	韓国語発展２		1	
	留学準備１		1	
	留学準備２		1	
	英語資格・検定試験対策１		1	

グローバル学部日本語コミュニケーション学科
別表（1）

区分 / 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
	英語資格・検定試験対策２		1	
	【教養日本語】			
	日本語リテラシー	1		
	【ＣＨＰ】			
	ＳＤＧｓ基礎	1		
	ＳＤＧｓ発展１	1		
	ＳＤＧｓ発展２	1		
	ＳＤＧｓ発展３	1		
	ＳＤＧｓ特講		2	
	【フィールド・スタディーズ】			
	フィールド・スタディーズ	1		
	フィールド・スタディーズ１		1	
	フィールド・スタディーズ２		2	
	フィールド・スタディーズ３		3	
	フィールド・スタディーズ４		4	
	フィールド・スタディーズ発展１Ａ		1	
	フィールド・スタディーズ発展１Ｂ		2	
	フィールド・スタディーズ発展１Ｃ		3	
	フィールド・スタディーズ発展１Ｄ		4	
	フィールド・スタディーズ発展２Ａ		1	
	フィールド・スタディーズ発展２Ｂ		2	
	フィールド・スタディーズ発展２Ｃ		3	
	フィールド・スタディーズ発展２Ｄ		4	
	フィールド・スタディーズ発展２Ｅ		5	
	フィールド・スタディーズ発展３Ａ		1	
	フィールド・スタディーズ発展３Ｂ		2	
	フィールド・スタディーズ発展３Ｃ		3	
	フィールド・スタディーズ発展３Ｄ		4	
	フィールド・スタディーズ発展３Ｅ		5	
	フィールド・スタディーズ発展４Ａ		1	
	フィールド・スタディーズ発展４Ｂ		2	
	フィールド・スタディーズ発展４Ｃ		3	
	フィールド・スタディーズ発展４Ｄ		4	
	【インターンシップ】			
	インターンシップ		1	
	企業協働プロジェクト		2	
	【全学教養ゼミナール】			
	全学教養ゼミナール１		2	
	全学教養ゼミナール２		2	
	【寄付講座】			
	武蔵野市自由講座		2	
	証券ビジネス論		2	

グローバル学部日本語コミュニケーション学科

別表（1）

区分 / 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
	〔学科科目〕			学科科目は、必修19単位及び選択必修単位を含めて75単位以上修得する。
	【言語演習科目】			
	〈日本語科目群〉			
	日本語１Ａ		1	日本語科目群及び観光・ビジネス日本語科目群から１６単位選択必修（留学生のみ）
	日本語１Ｂ		1	
	日本語１Ｃ		1	
	日本語１Ｄ		1	
	日本語２Ａ		1	
	日本語２Ｂ		1	
	日本語２Ｃ		1	
	日本語２Ｄ		1	
	〈英語科目群〉			
	English for Qualifications 1A		1	２４単位選択必修(留学生は除く)
	English for Qualifications 1B		1	
	English for Qualifications 1C		1	
	English for Qualifications 1D		1	
	English for Qualifications 2A		1	
	English for Qualifications 2B		1	
	English for Qualifications 2C		1	
	English for Qualifications 2D		1	
	English for Qualifications 3A		1	
	English for Qualifications 3B		1	
	English for Qualifications 3C		1	
	English for Qualifications 3D		1	
	Practical Communication 1A		1	
	Practical Communication 1B		1	
	Practical Communication 1C		1	
	Practical Communication 1D		1	
	Practical Communication 2A		1	
	Practical Communication 2B		1	
	Practical Communication 2C		1	
	Practical Communication 2D		1	
	Practical Communication 3A		1	
	Practical Communication 3B		1	
	Practical Communication 3C		1	
	Practical Communication 3D		1	
	Remedial English A		1	
	Remedial English B		1	
	英語資格試験演習Ａ		2	
	英語資格試験演習Ｂ		2	
	英語資格試験演習Ｃ		2	
	英語資格試験演習Ｄ		2	
	基礎英語 A		1	
	基礎英語 B		1	
	基礎英語 C		1	
	基礎英語 D		1	

グローバル学部日本語コミュニケーション学科

別表（1）

区分 / 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
	〈中国語科目群〉			
	中国語１Ａ		1	
	中国語１Ｂ		1	
	中国語１Ｃ		1	
	中国語１Ｄ		1	
	中国語２Ａ		1	
	中国語２Ｂ		1	
	中国語２Ｃ		1	
	中国語２Ｄ		1	
	中国語３Ａ		1	
	中国語３Ｂ		1	
	中国語３Ｃ		1	
	中国語３Ｄ		1	
	中国語資格試験演習１Ａ		1	
	中国語資格試験演習１Ｂ		1	
	中国語資格試験演習２Ａ		1	
	中国語資格試験演習２Ｂ		1	
	【学科基礎科目】			
	基礎ゼミ	1		
	プレゼミＡ	1		
	プレゼミＢ	1		
	【多文化共修科目】			
	グローバルスタディーズ/Global Studies	2		
	グローバルプロジェクト/Global Project	2		
	海外インターンシップ1（基礎）		2	
	海外インターンシップ2（基礎）		3	
	海外インターンシップ3（基礎）		4	
	海外インターンシップ4（発展）		2	
	海外インターンシップ5（発展）		3	
	海外インターンシップ6（発展）		4	
	【学科専門科目】			
	〈日本語教員養成科目群〉			
	異文化コミュニケーションＡ		2	
	異文化コミュニケーションＢ		2	
	日本語学概論	2		
	音声学基礎A		2	
	音声学基礎B		2	
	第二言語習得理論A		2	
	第二言語習得理論B		2	
	日本語教授法概論A		2	
	日本語教授法概論B		2	
	日本語教育実習		4	
	日本語実践教育A		2	
	日本語実践教育B		2	
	日本語教育文法A		2	
	日本語教育文法B		2	

グローバル学部日本語コミュニケーション学科

別表（1）

区分 / 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
	日本語学各論A		2	
	日本語学各論B		2	
	日本語教育学各論A		2	
	日本語教育学各論B		2	
	〈観光・ビジネス日本語科目群〉			
	実用日本語1A		1	観光・ビジネス日本語科目群及び日本語科目群から１６単位選択必修（留学生のみ）
	実用日本語1B		1	
	実用日本語1C		1	
	実用日本語1D		1	
	実用日本語2A		1	
	実用日本語2B		1	
	実用日本語2C		1	
	実用日本語2D		1	
	観光学概論	2		
	日本研究（経済・経営）A		2	
	日本研究（経済・経営）B		2	
	日本研究（経済・経営）C		2	
	日本研究（経済・経営）D		2	
	日本研究（政治・社会）A		2	
	日本研究（政治・社会）B		2	
	日本研究（政治・社会）C		2	
	日本研究（政治・社会）D		2	
	日本研究（観光・ビジネス）A		2	
	日本研究（観光・ビジネス）B		2	
	日本研究（観光・ビジネス）C		2	
	日本研究（観光・ビジネス）D		2	
	〈サブカルチャー・メディア科目群〉			
	日本研究（文化・文学・サブカルチャー）A		2	
	日本研究（文化・文学・サブカルチャー）B		2	
	日本研究（文化・文学・サブカルチャー）C		2	
	日本研究（文化・文学・サブカルチャー）D		2	
	日本研究（教育とサブカルチャー）A		2	
	日本研究（教育とサブカルチャー）B		2	
	日本研究（教育とサブカルチャー）C		2	
	日本研究（教育とサブカルチャー）D		2	
	日本研究（歴史・地域・メディア）A		2	
	日本研究（歴史・地域・メディア）B		2	
	日本研究（歴史・地域・メディア）C		2	
	日本研究（歴史・地域・メディア）D		2	
	〈特別講義〉			
	特別講義 A		1	
	特別講義 B		1	
	特別講義 C		1	
	特別講義 D		1	

グローバル学部日本語コミュニケーション学科

別表（1）

区分 学科	授業科目	単位数		備考
		必修	選択	
	〈ゼミ/Ｓｅｍｉｎａｒ〉			
	ゼミ/Seminar A	2		
	ゼミ/Seminar B	2		
	ゼミ/Seminar C	2		
	ゼミ/Seminar D	2		
	卒業論文/Research Project	4		

グローバル学部グローバルビジネス学科

別表（1）

区分 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
グローバル学部グローバルビジネス学科	〔共通科目〕			
	【建学】			
	仏教（生き方を考える）基礎	2		
	仏教（生き方を考える）発展	2		
	【スポーツ・身体】			
	スポーツと身体科学		1	
	フィールド・スポーツ		1	
	【情報】			
	データサイエンス基礎	1		
	人工知能基礎	1		
	メディアリテラシー		1	
	情報技法基礎		1	
	情報技法発展Ａ		1	
	情報技法発展Ｂ		1	
	情報技法発展Ｃ		1	
	プログラミング基礎		1	
	プログラミング発展Ａ		1	
	プログラミング発展Ｂ		1	
	人工知能技術と社会		1	
	機械学習活用１		1	
	機械学習活用２		1	
	データサイエンス活用１		1	
	データサイエンス活用２		1	
	メディアデザイン		1	
	サービスデザイン		1	
	人工知能実践プロジェクト		2	
	【外国語】			
	フランス語基礎１		1	
	フランス語基礎２		1	
	フランス語発展１		1	
	フランス語発展２		1	
	ドイツ語基礎１		1	
	ドイツ語基礎２		1	
	ドイツ語発展１		1	
	ドイツ語発展２		1	
	スペイン語基礎１		1	
	スペイン語基礎２		1	
	スペイン語発展１		1	
	スペイン語発展２		1	
	韓国語基礎１		1	
	韓国語基礎２		1	
	韓国語発展１		1	
	韓国語発展２		1	
	留学準備１		1	
	留学準備２		1	
	英語資格・検定試験対策１		1	

グローバル学部グローバルビジネス学科

別表（1）

区分 / 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
	英語資格・検定試験対策２		1	
	【教養日本語】			
	日本語リテラシー		1	
	【ＣＨＰ】			
	ＳＤＧｓ基礎	1		
	ＳＤＧｓ発展１	1		
	ＳＤＧｓ発展２	1		
	ＳＤＧｓ発展３	1		
	ＳＤＧｓ特講		2	
	【フィールド・スタディーズ】			
	フィールド・スタディーズ	1		
	フィールド・スタディーズ１		1	
	フィールド・スタディーズ２		2	
	フィールド・スタディーズ３		3	
	フィールド・スタディーズ４		4	
	フィールド・スタディーズ発展１Ａ		1	
	フィールド・スタディーズ発展１Ｂ		2	
	フィールド・スタディーズ発展１Ｃ		3	
	フィールド・スタディーズ発展１Ｄ		4	
	フィールド・スタディーズ発展２Ａ		1	
	フィールド・スタディーズ発展２Ｂ		2	
	フィールド・スタディーズ発展２Ｃ		3	
	フィールド・スタディーズ発展２Ｄ		4	
	フィールド・スタディーズ発展２Ｅ		5	
	フィールド・スタディーズ発展３Ａ		1	
	フィールド・スタディーズ発展３Ｂ		2	
	フィールド・スタディーズ発展３Ｃ		3	
	フィールド・スタディーズ発展３Ｄ		4	
	フィールド・スタディーズ発展３Ｅ		5	
	フィールド・スタディーズ発展４Ａ		1	
	フィールド・スタディーズ発展４Ｂ		2	
	フィールド・スタディーズ発展４Ｃ		3	
	フィールド・スタディーズ発展４Ｄ		4	
	【インターンシップ】			
	インターンシップ		1	
	企業協働プロジェクト		2	
	【全学教養ゼミナール】			
	全学教養ゼミナール１		2	
	全学教養ゼミナール２		2	
	【寄付講座】			
	武蔵野市自由講座		2	
	証券ビジネス論		2	

グローバル学部グローバルビジネス学科

別表（1）

区分 / 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
	〔学科科目〕			
	【言語演習科目】			
	〈中国語科目群〉			
	中国語１Ａ		1	１６単位選択必修(留学生は除く)
	中国語１Ｂ		1	
	中国語１Ｃ		1	
	中国語１Ｄ		1	
	中国語２Ａ		1	
	中国語２Ｂ		1	
	中国語２Ｃ		1	
	中国語２Ｄ		1	
	中国語３Ａ		1	
	中国語３Ｂ		1	
	中国語３Ｃ		1	
	中国語３Ｄ		1	
	中国語資格試験演習１Ａ		1	
	中国語資格試験演習１Ｂ		1	
	中国語資格試験演習２Ａ		1	
	中国語資格試験演習２Ｂ		1	
	ビジネス中国語Ａ		1	
	ビジネス中国語Ｂ		1	
	ビジネス中国語Ｃ		1	
	ビジネス中国語Ｄ		1	
	〈英語科目群〉			
	English for Qualifications 1A		1	１６単位選択必修 (学科の定める基準により、他の学科科目をもって代えることができる)
	English for Qualifications 1B		1	
	English for Qualifications 1C		1	
	English for Qualifications 1D		1	
	English for Qualifications 2A		1	
	English for Qualifications 2B		1	
	English for Qualifications 2C		1	
	English for Qualifications 2D		1	
	English for Qualifications 3A		1	
	English for Qualifications 3B		1	
	English for Qualifications 3C		1	
	English for Qualifications 3D		1	
	Practical Communication 1A		1	
	Practical Communication 1B		1	
	Practical Communication 1C		1	
	Practical Communication 1D		1	
	Practical Communication 2A		1	
	Practical Communication 2B		1	
	Practical Communication 2C		1	
	Practical Communication 2D		1	
	Practical Communication 3A		1	
	Practical Communication 3B		1	
	Practical Communication 3C		1	
	Practical Communication 3D		1	

グローバル学部グローバルビジネス学科

別表（1）

区分 / 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
	Reading for Business Studies		1	
	Business Writing		1	
	Business Presentation		1	
	Business Meeting		1	
	〈日本語科目群〉			
	基礎日本語１Ａ		1	
	基礎日本語１Ｂ		1	
	基礎日本語１Ｃ		1	
	基礎日本語１Ｄ		1	
	基礎日本語１Ｅ		1	
	基礎日本語１Ｆ		1	
	基礎日本語１Ｇ		1	
	基礎日本語１Ｈ		1	８単位選択必修（留学生のみ）
	日本語１Ａ		1	
	日本語１Ｂ		1	
	日本語１Ｃ		1	
	日本語１Ｄ		1	
	日本語２Ａ		1	
	日本語２Ｂ		1	
	日本語２Ｃ		1	
	日本語２Ｄ		1	
	実用日本語１Ａ		1	
	実用日本語１Ｂ		1	
	実用日本語１Ｃ		1	
	実用日本語１Ｄ		1	
	実用日本語２Ａ		1	
	実用日本語２Ｂ		1	
	実用日本語２Ｃ		1	
	実用日本語２Ｄ		1	
	日本語資格試験演習Ａ		1	
	日本語資格試験演習Ｂ		1	
	日本語資格試験演習Ｃ		1	
	日本語資格試験演習Ｄ		1	
	【学科基礎科目】			
	基礎ゼミ/Fundamental Seminar	1		
	プレゼミA/Pre-seminar A	1		
	プレゼミB/Pre-seminar B	1		
	Career Design	1		
	【多文化共修科目】			
	グローバルスタディーズ/Global Studies	2		
	グローバルプロジェクト/Global Project	2		
	【ビジネス科目】			
	Introduction to Business Studies A	2		
	Introduction to Business Studies B	2		
	Management A	2		

グローバル学部グローバルビジネス学科

別表（1）

区分 / 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
	Management B	2		
	Accounting A		2	
	Accounting B		2	
	Accounting Advanced A		2	
	Accounting Advanced B		2	
	Research Method for Business Studies		2	
	Problem-Solving and Decision-Making		2	
	Finance A		2	
	Finance B		2	
	Management in Japan		2	
	Digital Economy		2	
	Statistics for Business Studies A		2	
	Statistics for Business Studies B		2	
	Managerial Accounting A		2	
	Managerial Accounting B		2	
	Organizational Behavior A		2	
	Organizational Behavior B		2	
	Business Economics A		2	３２単位選択必修
	Business Economics B		2	
	Global Trading A		2	
	Global Trading B		2	
	Financial Services A		2	
	Financial Services B		2	
	Hospitality A		2	
	Hospitality B		2	
	Marketing in Global Business A		2	
	Marketing in Global Business B		2	
	Advanced Marketing in Global Business A		2	
	Advanced Marketing in Global Business B		2	
	Digital Marketing		2	
	Strategy in Global Business A		2	
	Strategy in Global Business B		2	
	China Business Studies A		2	
	China Business Studies B		2	
	Emerging Markets		2	
	International Business Law and Ethics		2	
	Internship A		1	
	Internship B		1	
	Internship C		2	
	Internship D		4	
	Entrepreneurship		2	
	International Lectures 1 (GB)		1	
	International Lectures 2 (GB)		1	
	International Lectures 3 (GB)		1	
	International Lectures 4 (GB)		1	
	【学科専門科目】			
	〈学部隣接科目群〉			
	英語資格試験演習A/Practical Exercises for English Qualifications A		2	

グローバル学部グローバルビジネス学科

別表（1）

区分 / 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
	英語資格試験演習B/Practical Exercises for English Qualifications B		2	
	英語資格試験演習C/Practical Exercises for English Qualifications C		2	
	英語資格試験演習D/Practical Exercises for English Qualifications D		2	
	異文化コミュニケーションA/Cross-cultural Communication A		2	
	異文化コミュニケーションB/Cross-cultural Communication B		2	
	〈特別講義〉			
	特別講義/Special Lectures A		1	
	特別講義/Special Lectures B		1	
	特別講義/Special Lectures C		1	
	特別講義/Special Lectures D		1	
	〈ゼミ/Ｓｅｍｉｎａｒ〉			
	ゼミ/Seminar A	2		
	ゼミ/Seminar B	2		
	ゼミ/Seminar C	2		
	ゼミ/Seminar D	2		
	卒業論文/Research Project for Graduation Thesis	4		

法学部法律学科

別表（1）

区分 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
法学部 法律学科	〔共通科目〕			
	【建学】			
	仏教（生き方を考える）基礎	2		
	仏教（生き方を考える）発展	2		
	【スポーツ・身体】			
	スポーツと身体科学		1	
	フィールド・スポーツ		1	
	【情報】			
	データサイエンス基礎	1		
	人工知能基礎	1		
	メディアリテラシー		1	
	情報技法基礎		1	
	情報技法発展Ａ		1	
	情報技法発展Ｂ		1	
	情報技法発展Ｃ		1	
	プログラミング基礎		1	
	プログラミング発展Ａ		1	
	プログラミング発展Ｂ		1	
	人工知能技術と社会		1	
	機械学習活用１		1	
	機械学習活用２		1	
	データサイエンス活用１		1	
	データサイエンス活用２		1	
	メディアデザイン		1	
	サービスデザイン		1	
	人工知能実践プロジェクト		2	
	【外国語】			
	英語基礎Ａ	2		
	英語基礎Ｂ		1	
	英語基礎Ｃ	2		
	英語基礎Ｄ		1	
	英語発展Ａ		1	
	英語発展Ｂ		1	
	英語発展Ｃ		1	
	英語発展Ｄ		1	
	英語綜合Ａ		1	
	英語綜合Ｂ		1	
	中国語基礎１		1	
	中国語基礎２		1	
	中国語発展１		1	
	中国語発展２		1	
	フランス語基礎１		1	
	フランス語基礎２		1	
	フランス語発展１		1	
	フランス語発展２		1	
	ドイツ語基礎１		1	
	ドイツ語基礎２		1	
	ドイツ語発展１		1	
	ドイツ語発展２		1	
	スペイン語基礎１		1	
	スペイン語基礎２		1	

法学部法律学科
別表（1）

区分 / 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
	スペイン語発展１		1	
	スペイン語発展２		1	
	韓国語基礎１		1	
	韓国語基礎２		1	
	韓国語発展１		1	
	韓国語発展２		1	
	留学準備１		1	
	留学準備２		1	
	英語資格・検定試験対策１		1	
	英語資格・検定試験対策２		1	
	【教養日本語】			
	日本語リテラシー	1		
	日本語基礎Ａ		1	留学生または日本語を母語としない学生は、外国語科目群の必修科目に代えることができる
	日本語基礎Ｂ		1	
	日本語基礎Ｃ		1	
	日本語基礎Ｄ		1	
	日本語発展Ａ		1	
	日本語発展Ｂ		1	
	日本語発展Ｃ		1	
	日本語発展Ｄ		1	
	日本事情		2	
	【ＣＨＰ】			
	ＳＤＧｓ基礎	1		
	ＳＤＧｓ発展１	1		
	ＳＤＧｓ発展２	1		
	ＳＤＧｓ発展３	1		
	ＳＤＧｓ特講		2	
	【フィールド・スタディーズ】			
	フィールド・スタディーズ	1		
	フィールド・スタディーズ１		1	
	フィールド・スタディーズ２		2	
	フィールド・スタディーズ３		3	
	フィールド・スタディーズ４		4	
	フィールド・スタディーズ発展１Ａ		1	
	フィールド・スタディーズ発展１Ｂ		2	
	フィールド・スタディーズ発展１Ｃ		3	
	フィールド・スタディーズ発展１Ｄ		4	
	フィールド・スタディーズ発展２Ａ		1	
	フィールド・スタディーズ発展２Ｂ		2	
	フィールド・スタディーズ発展２Ｃ		3	
	フィールド・スタディーズ発展２Ｄ		4	
	フィールド・スタディーズ発展２Ｅ		5	
	フィールド・スタディーズ発展３Ａ		1	
	フィールド・スタディーズ発展３Ｂ		2	
	フィールド・スタディーズ発展３Ｃ		3	
	フィールド・スタディーズ発展３Ｄ		4	
	フィールド・スタディーズ発展３Ｅ		5	
	フィールド・スタディーズ発展４Ａ		1	
	フィールド・スタディーズ発展４Ｂ		2	
	フィールド・スタディーズ発展４Ｃ		3	
	フィールド・スタディーズ発展４Ｄ		4	

法学部法律学科
別表（1）

区分 / 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
	【インターンシップ】			
	インターンシップ		1	
	企業協働プロジェクト		2	
	【全学教養ゼミナール】			
	全学教養ゼミナール１		2	
	全学教養ゼミナール２		2	
	【寄付講座】			
	武蔵野市自由講座		2	
	証券ビジネス論		2	
	〔学科科目〕			
	【基礎科目群】			
	法学１（法学の基礎）	2		
	法学２（法学概論）	2		
	民法１Ａ（総則）	2		
	民法１Ｂ（総則）	2		
	憲法１（統治）	2		
	憲法２（人権）	2		
	刑法１（総論）	2		
	【基幹科目群】			
	民法２Ａ（物権）		2	２０単位以上選択必修
	民法２Ｂ（担保物権）		2	
	民法３Ａ（債権各論）		2	
	民法３Ｂ（債権各論）		2	
	民法４Ａ（債権総論）		2	
	民法４Ｂ（債権総論）		2	
	民法５Ａ（親族法）		2	
	民法５Ｂ（相続法）		2	
	民事訴訟法１		2	
	民事訴訟法２		2	
	刑法２（各論）		2	
	刑法３（各論）		2	
	刑事訴訟法１		2	
	刑事訴訟法２		2	
	会社法１		2	
	会社法２		2	
	企業法総論		2	
	【展開科目群】			
	＜行政法＞			
	行政法１（総論①）		2	
	行政法２（総論②）		2	
	行政救済法		2	
	租税法１		2	
	租税法２		2	
	地方自治法１（自治の法と制度）		2	
	地方自治法２（自治体政策法務論）		2	
	社会安全論Ａ		2	
	社会安全論Ｂ		2	

法学部法律学科

別表（1）

区分 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
	＜国際関係法＞			
	国際法１		2	
	国際機構論		2	
	国際法２		2	１４単位以上選択必修
	国際私法		2	
	英米法		2	
	アジア法（中国法・韓国法）		2	
	アジア法（東南アジア法）		2	
	＜現代社会関係法＞			
	労働法１		2	
	労働法２		2	
	社会保障法		2	
	企業取引法		2	
	経済法（独禁法）		2	
	知的財産法		2	
	消費者法		2	
	金融法		2	
	ＩＴ関係法		2	
	情報法		2	
	マーケティング法		2	
	刑事政策		2	
	高齢化社会と法		2	
	執行・保全・倒産法		2	
	比較取引法		2	
	共生の法律学		2	
	不動産評価論（東京都不動産鑑定士協会寄付講座）		2	
	＜法曹養成関係法＞			
	民法演習		2	
	憲法演習		2	
	刑法演習		2	
	＜英語＞			
	法律学文献講読(英語)		2	
	ビジネス法律英語		2	
	International Lectures 1(Law)		1	
	International Lectures 2(Law)		1	
	International Lectures 3(Law)		1	
	International Lectures 4(Law)		1	
	＜中国語＞			
	日本民事法１（法学の基礎、民法総則）		2	
	日本民事法２（物権法、契約法、不法行為法）		2	
	日本民事法３（担保物権法、債権総論）		2	
	日本民事法４（会社法、知財法）		2	
	【エクスターンシップ】			
	企業エクスターンシップ	2		
	【資格対策科目群】			
	資格ガイダンス	2		
	キャリア開発		2	
	地方公務員特殊研究１		4	
	地方公務員特殊研究２		4	
	地方公務員特殊研究３		4	
	地方公務員特殊研究４		4	

法学部法律学科

別表（1）

区分 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
	【アカデミック・スキル科目】			
	プレゼミ	2		
	プレゼンゼミ		2	
	【最先端研究】			
	ゼミナール１	2		
	ゼミナール２	2		
	ゼミナール３	2		
	ゼミナール４	2		
	卒業論文	2		
	【隣接科目群】			
	＜政治学＞			
	政治学史１		2	
	政治学史２		2	
	現代政治理論１		2	
	現代政治理論２		2	
	日本政治論		2	
	立法過程論		2	
	政策過程論		2	
	計量政治学		2	
	行政学		2	
	公共政策論１		2	
	公共政策論２		2	
	公共選択論		2	
	地方自治		2	
	公共管理論		2	
	国際関係論		2	
	International Lectures 1(Politics)		1	
	International Lectures 2(Politics)		1	
	International Lectures 3(Politics)		1	
	International Lectures 4(Politics)		1	
	＜経済学＞			
	ミクロ経済学１		2	平成２７年度以前入学生のみ
	ミクロ経済学２		2	平成２７年度以前入学生のみ
	マクロ経済学１		2	平成２７年度以前入学生のみ
	マクロ経済学２		2	平成２７年度以前入学生のみ
	財政学１		2	
	財政学２		2	
	経済政策論		2	
	経済学Ｓ１（経済学入門）		2	
	経済学Ｓ２（ミクロ経済学）		2	
	経済学Ｓ３（ミクロ経済学）		2	
	経済学Ｓ４（マクロ経済学）		2	
	経済学Ｓ５（マクロ経済学）		2	
	＜経営学・会計学＞			
	経営学入門		2	
	会計学入門		2	
	企業と社会		2	
	経営学基礎		2	
	金融論１		2	
	金融論２		2	
	マーケティング１		2	
	マーケティング２		2	

法学部法律学科

別表（1）

区分 学科	授業科目	単位数		備考
		必修	選択	
	中小企業マネジメント		2	
	経営戦略１		2	
	経営戦略２		2	
	財務会計１		2	
	財務会計２		2	
	【育成プログラム】			
	国家公務員育成プログラム１		1	
	国家公務員育成プログラム２		1	
	国家公務員育成プログラム３		1	
	国家公務員育成プログラム４		1	
	育成プログラム１		1	
	育成プログラム２		2	
	育成プログラム３		3	
	育成プログラム４		4	
	育成プログラム５		5	
	育成プログラム６		6	
	育成プログラム７		8	

法学部政治学科

別表（1）

区分 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
法学部 政治学科	〔共通科目〕			
	【建学】			
	仏教（生き方を考える）基礎	2		
	仏教（生き方を考える）発展	2		
	【スポーツ・身体】			
	スポーツと身体科学		1	
	フィールド・スポーツ		1	
	【情報】			
	データサイエンス基礎	1		
	人工知能基礎	1		
	メディアリテラシー		1	
	情報技法基礎		1	
	情報技法発展Ａ		1	
	情報技法発展Ｂ		1	
	情報技法発展Ｃ		1	
	プログラミング基礎		1	
	プログラミング発展Ａ		1	
	プログラミング発展Ｂ		1	
	人工知能技術と社会		1	
	機械学習活用１		1	
	機械学習活用２		1	
	データサイエンス活用１		1	
	データサイエンス活用２		1	
	メディアデザイン		1	
	サービスデザイン		1	
	人工知能実践プロジェクト		2	
	【外国語】			
	英語基礎Ａ	2		
	英語基礎Ｂ		1	
	英語基礎Ｃ	2		
	英語基礎Ｄ		1	
	英語発展Ａ		1	
	英語発展Ｂ		1	
	英語発展Ｃ		1	
	英語発展Ｄ		1	
	英語綜合Ａ		1	
	英語綜合Ｂ		1	
	中国語基礎１		1	
	中国語基礎２		1	
	中国語発展１		1	
	中国語発展２		1	
	フランス語基礎１		1	
	フランス語基礎２		1	
	フランス語発展１		1	
	フランス語発展２		1	
	ドイツ語基礎１		1	

法学部政治学科
別表（1）

区分 / 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
	ドイツ語基礎２		1	
	ドイツ語発展１		1	
	ドイツ語発展２		1	
	スペイン語基礎１		1	
	スペイン語基礎２		1	
	スペイン語発展１		1	
	スペイン語発展２		1	
	韓国語基礎１		1	
	韓国語基礎２		1	
	韓国語発展１		1	
	韓国語発展２		1	
	留学準備１		1	
	留学準備２		1	
	英語資格・検定試験対策１		1	
	英語資格・検定試験対策２		1	
	【教養日本語】			
	日本語リテラシー	1		
	日本語基礎Ａ		1	留学生または日本語を母語としない学生は、外国語科目群の必修科目に代えることができる
	日本語基礎Ｂ		1	
	日本語基礎Ｃ		1	
	日本語基礎Ｄ		1	
	日本語発展Ａ		1	
	日本語発展Ｂ		1	
	日本語発展Ｃ		1	
	日本語発展Ｄ		1	
	日本事情		2	
	【ＣＨＰ】			
	ＳＤＧｓ基礎	1		
	ＳＤＧｓ発展１	1		
	ＳＤＧｓ発展２	1		
	ＳＤＧｓ発展３	1		
	ＳＤＧｓ特講		2	
	【フィールド・スタディーズ】			
	フィールド・スタディーズ	1		
	フィールド・スタディーズ１		1	
	フィールド・スタディーズ２		2	
	フィールド・スタディーズ３		3	
	フィールド・スタディーズ４		4	
	フィールド・スタディーズ発展１Ａ		1	
	フィールド・スタディーズ発展１Ｂ		2	
	フィールド・スタディーズ発展１Ｃ		3	
	フィールド・スタディーズ発展１Ｄ		4	
	フィールド・スタディーズ発展２Ａ		1	
	フィールド・スタディーズ発展２Ｂ		2	
	フィールド・スタディーズ発展２Ｃ		3	
	フィールド・スタディーズ発展２Ｄ		4	

法学部政治学科
別表（1）

区分 / 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
	フィールド・スタディーズ発展２Ｅ		5	
	フィールド・スタディーズ発展３Ａ		1	
	フィールド・スタディーズ発展３Ｂ		2	
	フィールド・スタディーズ発展３Ｃ		3	
	フィールド・スタディーズ発展３Ｄ		4	
	フィールド・スタディーズ発展３Ｅ		5	
	フィールド・スタディーズ発展４Ａ		1	
	フィールド・スタディーズ発展４Ｂ		2	
	フィールド・スタディーズ発展４Ｃ		3	
	フィールド・スタディーズ発展４Ｄ		4	
	【インターンシップ】			
	インターンシップ		1	
	企業協働プロジェクト		2	
	【全学教養ゼミナール】			
	全学教養ゼミナール１		2	
	全学教養ゼミナール２		2	
	【寄付講座】			
	武蔵野市自由講座		2	
	証券ビジネス論		2	
	〔学科科目〕			
	【基礎科目群】			
	政治学原論１	2		
	政治学原論２	2		
	日本政治論基礎	2		
	国際政治学基礎	2		
	憲法１（統治）	2		
	憲法２（人権）	2		
	地方政府研究１		1	
	地方政府研究２		1	
	International Lectures 1(Politics)		1	
	International Lectures 2(Politics)		1	
	International Lectures 3(Politics)		1	
	International Lectures 4(Politics)		1	
	【基幹科目群】			
	＜歴史･理論＞			
	政治学史１	2		
	政治学史２	2		
	日本政治外交史１		2	
	日本政治外交史２		2	
	西洋政治史１		2	
	西洋政治史２		2	
	政治学基礎文献講読１		2	
	政治学英語文献講読１		2	
	＜日本政治・政治過程＞			

法学部政治学科
別表（1）

区分 / 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
	日本政治論		2	１２単位を選択必修。そのうち、政治学基礎文献講読１～３から１科目選択必修、政治学英語文献講読１～３から１科目選択必修。
	行政学		2	
	公共政策論１		2	
	公共政策論２		2	
	計量政治学		2	
	政治学基礎文献講読２		2	
	政治学英語文献講読２		2	
	選挙特殊研究１		2	
	選挙特殊研究２		2	
	選挙特殊研究３		2	
	＜国際政治・地域研究＞			
	国際政治学１		2	
	国際政治学２		2	
	比較政治学		2	
	平和学		2	
	外交政策論		2	
	アメリカ政治論		2	
	ヨーロッパ政治論		2	
	政治学基礎文献講読３		2	
	政治学英語文献講読３		2	
	【展開科目群】			
	＜歴史･理論＞			
	日本政治思想史１		2	８単位選択必修
	日本政治思想史２		2	
	現代政治理論１		2	
	現代政治理論２		2	
	公共選択論		2	
	コミュニケーションの政治理論		2	
	政治史・政治理論演習１		2	
	政治史・政治理論演習２		2	
	＜日本政治・政治過程＞			
	公共管理論		2	
	政治心理学		2	
	政治社会学		2	
	立法過程論		2	
	政策過程論		2	
	選挙分析		2	
	地方自治		2	
	日本政治・政治過程演習１		2	
	日本政治・政治過程演習２		2	
	＜国際政治・地域研究＞			
	国際関係論		2	
	アジア政治論		2	
	中国政治論		2	
	中東政治論		2	
	アフリカ政治論		2	
	国際政治・地域研究演習１		2	
	国際政治・地域研究演習２		2	

法学部政治学科
別表（1）

区分 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
	＜政治学特殊研究＞			
	政治学特殊研究１		2	
	政治学特殊研究２		2	
	政治学特殊研究３		2	
	【資格対策科目群】			
	キャリア開発		2	
	地方公務員特殊研究１		4	
	地方公務員特殊研究２		4	
	地方公務員特殊研究３		4	
	地方公務員特殊研究４		4	
	【アカデミック・スキル科目】			
	初年次ゼミ	2		
	プレゼミ	2		
	プレゼンゼミ	2		
	【最先端研究】			
	ゼミナール１	2		
	ゼミナール２	2		
	ゼミナール３	2		
	ゼミナール４	2		
	卒業論文		6	
	【隣接科目群】			
	＜法律学＞			
	法学１（法学の基礎）		2	
	法学２（法学概論）		2	
	民法１Ａ（総則）		2	
	民法１Ｂ（総則）		2	
	民法２Ａ（物権）		2	
	民法２Ｂ（担保物権）		2	平成２７年度以前入学生のみ
	民法３Ａ（債権各論）		2	
	民法３Ｂ（債権各論）		2	
	民法４Ａ（債権総論）		2	
	民法４Ｂ（債権総論）		2	
	民法５Ａ（親族法）		2	
	民法５Ｂ（相続法）		2	
	行政法１（総論①）		2	
	行政法２（総論②）		2	
	行政救済法		2	
	国際法１		2	
	国際法２		2	
	国際機構論		2	
	企業法総論		2	
	労働法１		2	
	労働法２		2	
	社会保障法		2	
	刑法１（総論）		2	

法学部政治学科

別表（１）

区分 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
	刑法２（各論）		2	
	会社法１		2	
	会社法２		2	
	刑法３（各論）		2	
	民法Ｓ１(総則)		2	
	民法Ｓ２(物権法・担保物権法)		2	
	民法Ｓ３(債権各論)		2	
	民法Ｓ４(債権総論)		2	
	International Lectures 1(Law)		1	
	International Lectures 2(Law)		1	
	International Lectures 3(Law)		1	
	International Lectures 4(Law)		1	
	＜経済学＞			
	ミクロ経済学１		2	平成２７年度以前入学生のみ
	ミクロ経済学２		2	平成２７年度以前入学生のみ
	マクロ経済学１		2	平成２７年度以前入学生のみ
	マクロ経済学２		2	平成２７年度以前入学生のみ
	財政学１		2	
	財政学２		2	
	経済政策論		2	
	経済学Ｓ１（経済学入門）		2	
	経済学Ｓ２（ミクロ経済学）		2	
	経済学Ｓ３（ミクロ経済学）		2	
	経済学Ｓ４（マクロ経済学）		2	
	経済学Ｓ５（マクロ経済学）		2	
	【育成プログラム】			
	国家公務員育成プログラム１		1	
	国家公務員育成プログラム２		1	
	国家公務員育成プログラム３		1	
	国家公務員育成プログラム４		1	
	育成プログラム１		1	
	育成プログラム２		2	
	育成プログラム３		3	
	育成プログラム４		4	
	育成プログラム５		5	
	育成プログラム６		6	
	育成プログラム７		8	

経済学部経済学科

別表（1）

区分 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
経済学部 経済学科	〔共通科目〕			
	【建学】			
	仏教（生き方を考える）基礎	2		
	仏教（生き方を考える）発展	2		
	【スポーツ・身体】			
	スポーツと身体科学		1	
	フィールド・スポーツ		1	
	【情報】			
	データサイエンス基礎	1		
	人工知能基礎	1		
	メディアリテラシー		1	
	情報技法基礎		1	
	情報技法発展Ａ		1	
	情報技法発展Ｂ		1	
	情報技法発展Ｃ		1	
	プログラミング基礎		1	
	プログラミング発展Ａ		1	
	プログラミング発展Ｂ		1	
	人工知能技術と社会		1	
	機械学習活用１		1	
	機械学習活用２		1	
	データサイエンス活用１		1	
	データサイエンス活用２		1	
	メディアデザイン		1	
	サービスデザイン		1	
	人工知能実践プロジェクト		2	
	【外国語】			
	英語基礎Ａ	2		
	英語基礎Ｂ		1	
	英語基礎Ｃ	2		
	英語基礎Ｄ		1	
	英語発展Ａ		1	
	英語発展Ｂ		1	
	英語発展Ｃ		1	
	英語発展Ｄ		1	
	英語綜合Ａ		1	
	英語綜合Ｂ		1	
	中国語基礎１		1	
	中国語基礎２		1	
	中国語発展１		1	
	中国語発展２		1	
	フランス語基礎１		1	
	フランス語基礎２		1	
	フランス語発展１		1	
	フランス語発展２		1	
	ドイツ語基礎１		1	

別表（1）

区分 / 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
	ドイツ語基礎２		1	
	ドイツ語発展１		1	
	ドイツ語発展２		1	
	スペイン語基礎１		1	
	スペイン語基礎２		1	
	スペイン語発展１		1	
	スペイン語発展２		1	
	韓国語基礎１		1	
	韓国語基礎２		1	
	韓国語発展１		1	
	韓国語発展２		1	
	留学準備１		1	
	留学準備２		1	
	英語資格・検定試験対策１		1	
	英語資格・検定試験対策２		1	
	【教養日本語】			
	日本語リテラシー	1		
	日本語基礎Ａ		1	留学生または日本語を母語としない学生は、外国語科目群の必修科目に代えることができる
	日本語基礎Ｂ		1	
	日本語基礎Ｃ		1	
	日本語基礎Ｄ		1	
	日本語発展Ａ		1	
	日本語発展Ｂ		1	
	日本語発展Ｃ		1	
	日本語発展Ｄ		1	
	日本事情		2	
	【ＣＨＰ】			
	ＳＤＧｓ基礎	1		
	ＳＤＧｓ発展１	1		
	ＳＤＧｓ発展２	1		
	ＳＤＧｓ発展３	1		
	ＳＤＧｓ特講		2	
	【フィールド・スタディーズ】			
	フィールド・スタディーズ	1		
	フィールド・スタディーズ１		1	
	フィールド・スタディーズ２		2	
	フィールド・スタディーズ３		3	
	フィールド・スタディーズ４		4	
	フィールド・スタディーズ発展１Ａ		1	
	フィールド・スタディーズ発展１Ｂ		2	
	フィールド・スタディーズ発展１Ｃ		3	
	フィールド・スタディーズ発展１Ｄ		4	
	フィールド・スタディーズ発展２Ａ		1	
	フィールド・スタディーズ発展２Ｂ		2	
	フィールド・スタディーズ発展２Ｃ		3	
	フィールド・スタディーズ発展２Ｄ		4	

別表（1）

区分 / 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
	フィールド・スタディーズ発展２Ｅ		5	
	フィールド・スタディーズ発展３Ａ		1	
	フィールド・スタディーズ発展３Ｂ		2	
	フィールド・スタディーズ発展３Ｃ		3	
	フィールド・スタディーズ発展３Ｄ		4	
	フィールド・スタディーズ発展３Ｅ		5	
	フィールド・スタディーズ発展４Ａ		1	
	フィールド・スタディーズ発展４Ｂ		2	
	フィールド・スタディーズ発展４Ｃ		3	
	フィールド・スタディーズ発展４Ｄ		4	
	【インターンシップ】			
	インターンシップ		1	
	企業協働プロジェクト		2	
	【全学教養ゼミナール】			
	全学教養ゼミナール１		2	
	全学教養ゼミナール２		2	
	【寄付講座】			
	武蔵野市自由講座		2	
	証券ビジネス論		2	
	〔学科科目〕			
	【基礎科目群】			
	経済学基礎１		2	
	経済学基礎２		1	
	初年次ゼミ		1	
	経済学入門		2	
	経済学と数学		1	
	経済学のための数学		2	
	統計学１		2	
	統計学２		2	
	データ分析入門		2	
	大学での学び方を考える		1	
	ミクロ経済学入門１		2	
	ミクロ経済学入門２		2	
	マクロ経済学入門１		2	
	マクロ経済学入門２		2	
	【基幹科目群】			
	中級ミクロ経済学１		2	
	中級ミクロ経済学２		2	
	中級マクロ経済学１		2	
	中級マクロ経済学２		2	
	ゲーム理論１		2	
	ゲーム理論２		2	
	計量経済学１		2	
	計量経済学２		2	

経済学部経済学科

別表（１）

区分 / 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
	国際経済史１		2	
	国際経済史２		2	
	英語で学ぶ経済学１		2	
	英語で学ぶ経済学２		2	
	経済学プレゼミ		2	
	【展開科目群】			
	データで学ぶ世界経済		2	
	データで学ぶ日本経済史		2	
	現代経済史１		2	
	現代経済史２		2	
	経済思想史１		2	
	経済思想史２		2	
	財政学１		2	
	財政学２		2	
	日本経済論		2	
	公共経済学１		2	
	公共経済学２		2	
	経済政策論		2	
	産業組織論１		2	
	産業組織論２		2	６０単位選択必修
	国際貿易論１		2	（うち３０単位は基礎科目群・基幹
	国際貿易論２		2	科目群より履修）
	金融論１		2	
	金融論２		2	
	国際金融論１		2	
	国際金融論２		2	
	労働経済学１		2	
	労働経済学２		2	
	環境経済学１		2	
	環境経済学２		2	
	金融システム論		2	
	行動経済学		2	
	途上国の経済分析		2	
	都市経済学		2	
	【応用科目群】			
	経済学特殊研究Ａ		2	
	経済学特殊研究Ｂ		2	
	【最先端研究】			
	ゼミナール１		2	
	ゼミナール２		2	
	ゼミナール３		2	
	ゼミナール４		2	
	卒業論文		4	
	【経営・会計科目群】			
	経営学入門		2	

経済学部経済学科

別表（１）

区分 / 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
	経営学基礎		2	
	フィナンシャル・プランニング論１		2	
	フィナンシャル・プランニング論２		2	
	会計学入門		2	
	簿記１		2	
	簿記２		2	
	【資格対策科目群】			
	キャリア開発		2	
	地方公務員特殊研究１		4	
	地方公務員特殊研究２		4	
	地方公務員特殊研究３		4	
	地方公務員特殊研究４		4	
	【隣接科目群】			
	＜法律学＞			
	法学１（法学の基礎）		2	
	法学２（法学概論）		2	
	憲法１（統治）		2	
	憲法２（人権）		2	
	民法１Ａ（総則）		2	
	民法１Ｂ（総則）		2	
	民法２Ａ（物権）		2	
	民法２Ｂ（担保物権）		2	平成２７年度以前入学生のみ
	民法３Ａ（債権各論）		2	
	民法３Ｂ（債権各論）		2	
	民法４Ａ（債権総論）		2	
	民法４Ｂ（債権総論）		2	
	民法５Ａ（親族法）		2	
	民法５Ｂ（相続法）		2	
	行政法１（総論①）		2	
	行政法２（総論②）		2	
	民法Ｓ１(総則)		2	
	民法Ｓ２(物権法・担保物権法)		2	
	民法Ｓ３(債権各論)		2	
	民法Ｓ４(債権総論)		2	
	＜政治学＞			
	政治学原論１		2	
	政治学原論２		2	
	日本政治論		2	
	国際政治学１		2	
	国際政治学２		2	
	政治学史１		2	
	政治学史２		2	
	行政学		2	
	公共政策論１		2	
	公共政策論２		2	

経済学部経済学科

別表（１）

区分 学科	授業科目	単位数		備考
		必修	選択	
	【育成プログラム】			
	国家公務員育成プログラム１		1	
	国家公務員育成プログラム２		1	
	国家公務員育成プログラム３		1	
	国家公務員育成プログラム４		1	
	育成プログラム１		1	
	育成プログラム２		2	
	育成プログラム３		3	
	育成プログラム４		4	
	育成プログラム５		5	
	育成プログラム６		6	
	育成プログラム７		8	

経営学部経営学科

別表（1）

区分 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
経営学部 経営学科	〔共通科目〕			
	【建学】			
	仏教（生き方を考える）基礎	2		
	仏教（生き方を考える）発展	2		
	【スポーツ・身体】			
	スポーツと身体科学		1	
	フィールド・スポーツ		1	
	【情報】			
	データサイエンス基礎	1		
	人工知能基礎	1		
	メディアリテラシー		1	
	情報技法基礎		1	
	情報技法発展Ａ		1	
	情報技法発展Ｂ		1	
	情報技法発展Ｃ		1	
	プログラミング基礎		1	
	プログラミング発展Ａ		1	
	プログラミング発展Ｂ		1	
	人工知能技術と社会		1	
	機械学習活用１		1	
	機械学習活用２		1	
	データサイエンス活用１		1	
	データサイエンス活用２		1	
	メディアデザイン		1	
	サービスデザイン		1	
	人工知能実践プロジェクト		2	
	【外国語】			
	英語基礎Ａ	2		
	英語基礎Ｂ		1	
	英語基礎Ｃ	2		
	英語基礎Ｄ		1	
	英語発展Ａ		1	
	英語発展Ｂ		1	
	英語発展Ｃ		1	
	英語発展Ｄ		1	
	英語綜合Ａ		1	
	英語綜合Ｂ		1	
	中国語基礎１		1	
	中国語基礎２		1	
	中国語発展１		1	
	中国語発展２		1	
	フランス語基礎１		1	
	フランス語基礎２		1	
	フランス語発展１		1	
	フランス語発展２		1	
	ドイツ語基礎１		1	
	ドイツ語基礎２		1	

経営学部経営学科
別表（1）

区分 / 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
	ドイツ語発展１		1	
	ドイツ語発展２		1	
	スペイン語基礎１		1	
	スペイン語基礎２		1	
	スペイン語発展１		1	
	スペイン語発展２		1	
	韓国語基礎１		1	
	韓国語基礎２		1	
	韓国語発展１		1	
	韓国語発展２		1	
	留学準備１		1	
	留学準備２		1	
	英語資格・検定試験対策１		1	
	英語資格・検定試験対策２		1	
	【教養日本語】			
	日本語リテラシー	1		
	日本語基礎Ａ		1	留学生または日本語を母語としない学生は、外国語科目群の必修科目に代えることができる
	日本語基礎Ｂ		1	
	日本語基礎Ｃ		1	
	日本語基礎Ｄ		1	
	日本語発展Ａ		1	
	日本語発展Ｂ		1	
	日本語発展Ｃ		1	
	日本語発展Ｄ		1	
	日本事情		2	
	【ＣＨＰ】			
	ＳＤＧｓ基礎	1		
	ＳＤＧｓ発展１	1		
	ＳＤＧｓ発展２	1		
	ＳＤＧｓ発展３	1		
	ＳＤＧｓ特講		2	
	【フィールド・スタディーズ】			
	フィールド・スタディーズ	1		
	フィールド・スタディーズ１		1	
	フィールド・スタディーズ２		2	
	フィールド・スタディーズ３		3	
	フィールド・スタディーズ４		4	
	フィールド・スタディーズ発展１Ａ		1	
	フィールド・スタディーズ発展１Ｂ		2	
	フィールド・スタディーズ発展１Ｃ		3	
	フィールド・スタディーズ発展１Ｄ		4	
	フィールド・スタディーズ発展２Ａ		1	
	フィールド・スタディーズ発展２Ｂ		2	
	フィールド・スタディーズ発展２Ｃ		3	
	フィールド・スタディーズ発展２Ｄ		4	
	フィールド・スタディーズ発展２Ｅ		5	
	フィールド・スタディーズ発展３Ａ		1	

別表（1）

区分 / 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
	フィールド・スタディーズ発展３Ｂ		2	
	フィールド・スタディーズ発展３Ｃ		3	
	フィールド・スタディーズ発展３Ｄ		4	
	フィールド・スタディーズ発展３Ｅ		5	
	フィールド・スタディーズ発展４Ａ		1	
	フィールド・スタディーズ発展４Ｂ		2	
	フィールド・スタディーズ発展４Ｃ		3	
	フィールド・スタディーズ発展４Ｄ		4	
	【インターンシップ】			
	インターンシップ		1	
	企業協働プロジェクト		2	
	【全学教養ゼミナール】			
	全学教養ゼミナール１		2	
	全学教養ゼミナール２		2	
	【寄付講座】			
	武蔵野市自由講座		2	
	証券ビジネス論		2	
	〔学科科目〕			
	【基礎科目群】			
	経営学入門	2		
	経営学基礎	2		
	経営学への招待A	2		
	経営学への招待B	2		
	経営フィールドワーク入門	2		
	グループコミュニケーション１	2		
	ＩＣＴと研究調査		2	
	会計学入門		2	
	経済学入門		2	
	【基幹科目群】			
	経営研究入門Ａ	1		
	経営研究入門Ｂ	1		
	経営戦略１		2	
	経営戦略２		2	
	経営戦略分析		2	
	イノベーションマネジメント		2	
	マーケティング１		2	
	マーケティング２		2	
	流通経済		2	
	組織行動		2	
	経営組織		2	
	セルフマネジメント		2	
	経営のための会計入門		2	
	財務会計１		2	
	財務会計２		2	

経営学部経営学科

別表（1）

区分 / 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
	中小企業マネジメント		2	３０単位以上選択必修
	コーポレート・ガバナンス論１		2	
	企業倫理		2	
	企業と社会		2	
	経営史		2	
	質的研究調査		2	
	量的研究調査		2	
	アート＆テクノロジーＡ		2	
	アート＆テクノロジーＢ		2	
	グループコミュニケーション２Ａ		2	
	グループコミュニケーション２Ｂ		2	
	ワールドビジネス		2	
	第一次産業論		1	
	第二次産業論Ａ		1	
	第二次産業論Ｂ		1	
	第三次産業論		1	
	観光産業論		1	
	ＩＣＴ産業論		1	
	コンテンツ産業論		1	
	バイオ産業論		1	
	【展開科目群】			
	経営フィールドワークＡ		2	８単位以上選択必修
	経営フィールドワークＢ		2	
	発展・経営戦略１		2	
	発展・経営戦略２		2	
	発展・イノベーションマネジメント		2	
	発展・マーケティング１		2	
	発展・マーケティング２		2	
	発展・流通経済		2	
	発展・組織行動		2	
	発展・中小企業マネジメント		2	
	発展・量的研究調査		2	
	ビジネスデザイン		2	
	人材マネジメント		2	
	組織コミュニケーション		2	
	コンフリクトマネジメント		2	
	経営者と社会		2	
	コーポレート・ガバナンス論２		2	
	ＣＳＲ論		2	
	経営学と未来		2	
	フィナンシャル・プランニング論１		2	
	フィナンシャル・プランニング論２		2	
	経営管理と会計		2	
	企業経営とファイナンス		2	
	観光交通		2	
	エリアマネジメント		2	
	エリア産業		2	
	エリアガバナンス		2	
	グローバルマネジメント		2	

経営学部経営学科

別表（1）

区分 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
	ビジネスイングリッシュ		2	
	現代ビジネス１		2	
	現代ビジネス２		2	
	International Lectures 1[Biz]		1	
	International Lectures 2[Biz]		1	
	International Lectures 3[Biz]		1	
	International Lectures 4[Biz]		1	
	【応用科目群】			
	応用経営学Ａ		2	
	応用経営学Ｂ		2	
	応用経営学Ｃ		2	
	応用経営学Ｄ		2	
	【最先端研究】			
	ゼミナール１	2		
	ゼミナール２	2		
	経営研究		2	
	ゼミナール３	2		
	ゼミナール４	2		
	卒業研究		4	

経営学部会計ガバナンス学科

別表（1）

区分 学科	授業科目	単位数 必修	選択	備考
経営学部 会計ガバナンス 学科	〔共通科目〕			
	【建学】			
	仏教（生き方を考える）基礎	2		
	仏教（生き方を考える）発展	2		
	【スポーツ・身体】			
	スポーツと身体科学		1	
	フィールド・スポーツ		1	
	【情報】			
	データサイエンス基礎	1		
	人工知能基礎	1		
	メディアリテラシー		1	
	情報技法基礎		1	
	情報技法発展Ａ		1	
	情報技法発展Ｂ		1	
	情報技法発展Ｃ		1	
	プログラミング基礎		1	
	プログラミング発展Ａ		1	
	プログラミング発展Ｂ		1	
	人工知能技術と社会		1	
	機械学習活用１		1	
	機械学習活用２		1	
	データサイエンス活用１		1	
	データサイエンス活用２		1	
	メディアデザイン		1	
	サービスデザイン		1	
	人工知能実践プロジェクト		2	
	【外国語】			
	英語基礎Ａ	2		
	英語基礎Ｂ		1	
	英語基礎Ｃ	2		
	英語基礎Ｄ		1	
	英語発展Ａ		1	
	英語発展Ｂ		1	
	英語発展Ｃ		1	
	英語発展Ｄ		1	
	英語綜合Ａ		1	
	英語綜合Ｂ		1	
	中国語基礎１		1	
	中国語基礎２		1	
	中国語発展１		1	
	中国語発展２		1	
	フランス語基礎１		1	
	フランス語基礎２		1	
	フランス語発展１		1	
	フランス語発展２		1	
	ドイツ語基礎１		1	
	ドイツ語基礎２		1	

経営学部会計ガバナンス学科
別表（1）

区分 / 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
	ドイツ語発展１		1	
	ドイツ語発展２		1	
	スペイン語基礎１		1	
	スペイン語基礎２		1	
	スペイン語発展１		1	
	スペイン語発展２		1	
	韓国語基礎１		1	
	韓国語基礎２		1	
	韓国語発展１		1	
	韓国語発展２		1	
	留学準備１		1	
	留学準備２		1	
	英語資格・検定試験対策１		1	
	英語資格・検定試験対策２		1	
	【教養日本語】			
	日本語リテラシー	1		
	日本語基礎Ａ		1	留学生または日本語を母語としない学生は、外国語科目群の必修科目に代えることができる
	日本語基礎Ｂ		1	
	日本語基礎Ｃ		1	
	日本語基礎Ｄ		1	
	日本語発展Ａ		1	
	日本語発展Ｂ		1	
	日本語発展Ｃ		1	
	日本語発展Ｄ		1	
	日本事情		2	
	【ＣＨＰ】			
	ＳＤＧｓ基礎	1		
	ＳＤＧｓ発展１	1		
	ＳＤＧｓ発展２	1		
	ＳＤＧｓ発展３	1		
	ＳＤＧｓ特講		2	
	【フィールド・スタディーズ】			
	フィールド・スタディーズ	1		
	フィールド・スタディーズ１		1	
	フィールド・スタディーズ２		2	
	フィールド・スタディーズ３		3	
	フィールド・スタディーズ４		4	
	フィールド・スタディーズ発展１Ａ		1	
	フィールド・スタディーズ発展１Ｂ		2	
	フィールド・スタディーズ発展１Ｃ		3	
	フィールド・スタディーズ発展１Ｄ		4	
	フィールド・スタディーズ発展２Ａ		1	
	フィールド・スタディーズ発展２Ｂ		2	
	フィールド・スタディーズ発展２Ｃ		3	
	フィールド・スタディーズ発展２Ｄ		4	
	フィールド・スタディーズ発展２Ｅ		5	
	フィールド・スタディーズ発展３Ａ		1	

経営学部会計ガバナンス学科
別表（1）

区分 / 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
	フィールド・スタディーズ発展３Ｂ		2	
	フィールド・スタディーズ発展３Ｃ		3	
	フィールド・スタディーズ発展３Ｄ		4	
	フィールド・スタディーズ発展３Ｅ		5	
	フィールド・スタディーズ発展４Ａ		1	
	フィールド・スタディーズ発展４Ｂ		2	
	フィールド・スタディーズ発展４Ｃ		3	
	フィールド・スタディーズ発展４Ｄ		4	
	【インターンシップ】			
	インターンシップ		1	
	企業協働プロジェクト		2	
	【全学教養ゼミナール】			
	全学教養ゼミナール１		2	
	全学教養ゼミナール２		2	
	【寄付講座】			
	武蔵野市自由講座		2	
	証券ビジネス論		2	
	〔学科科目〕			
	【基礎科目群】			
	会計人と倫理	4		
	簿記１	2		
	簿記２	2		
	会計学入門	2		
	経営学入門		2	
	経済学入門		2	
	【基幹科目群】			
	簿記３		2	
	簿記４		2	
	工業簿記１		2	
	工業簿記２		2	
	原価計算１		2	
	原価計算２		2	
	財務会計１		2	
	財務会計２		2	
	管理会計１		2	
	管理会計２		2	
	コーポレート・ガバナンス論１		2	
	企業と社会		2	
	企業倫理		2	
	【展開科目群】			
	共生原理		2	
	アドバンス簿記１		2	
	アドバンス簿記２		2	
	財務会計３		2	

経営学部会計ガバナンス学科
別表（1）

区分 / 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
	財務会計４		2	
	連結会計		2	
	管理会計３		2	
	管理会計４		2	
	コーポレート・ファイナンス論		2	
	国際財務報告論		2	
	監査論		2	
	非営利会計論１		2	
	非営利会計論２		2	
	公会計論１		2	
	公会計論２		2	
	租税法１		2	
	租税法２		2	
	税務会計１		2	
	税務会計２		2	
	コーポレート・ガバナンス論２		2	
	ＣＳＲ論		2	
	統合報告書論１		2	
	統合報告書論２		2	
	会計データ分析１		2	
	会計データ分析２		2	
	会計インターンシップ		2	
	金融論１		2	
	金融論２		2	
	フィナンシャル・プランニング論１		2	
	フィナンシャル・プランニング論２		2	
	【応用科目群】			
	会計学特殊研究Ａ		2	
	会計学特殊研究Ｂ		2	
	【課題研究】			
	プレゼミ１	2		
	プレゼミ２	2		
	ゼミナール１	2		
	ゼミナール２	2		
	ゼミナール３	2		
	ゼミナール４	2		
	卒業論文		4	
	【資格科目群】			
	地方公務員特殊研究１		4	
	地方公務員特殊研究２		4	
	地方公務員特殊研究３		4	
	地方公務員特殊研究４		4	
	民法Ｓ１（総則）		2	
	民法Ｓ２（物権法・担保物権法）		2	
	民法Ｓ３（債権各論）		2	
	民法Ｓ４（債権総論）		2	
	経済学Ｓ１（経済学入門）		2	

経営学部会計ガバナンス学科

別表（1）

区分 学科	授業科目	単位数		備考
		必修	選択	
	経済学Ｓ２（ミクロ経済学）		2	
	経済学Ｓ３（ミクロ経済学）		2	
	経済学Ｓ４（マクロ経済学）		2	
	経済学Ｓ５（マクロ経済学）		2	
	キャリア開発		2	
	【育成プログラム】			
	公認会計士・税理士育成プログラム１		1	
	公認会計士・税理士育成プログラム２		4	
	公認会計士・税理士育成プログラム３		4	
	公認会計士・税理士育成プログラム４		4	

アントレプレナーシップ学科

別表（1）

区分 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
ｱﾝﾄﾚﾌﾟﾚﾅｰｼｯﾌﾟ学部	〔共通科目〕			
ｱﾝﾄﾚﾌﾟﾚﾅｰｼｯﾌﾟ学科	【建学】			
	仏教（生き方を考える）基礎	2		
	仏教（生き方を考える）発展	2		
	【スポーツ・身体】			
	スポーツと身体科学		1	
	フィールド・スポーツ		1	
	【情報】			
	データサイエンス基礎	1		
	人工知能基礎	1		
	メディアリテラシー		1	
	情報技法基礎	1		
	情報技法発展Ａ		1	
	情報技法発展Ｂ		1	
	情報技法発展Ｃ		1	
	プログラミング基礎	1		
	プログラミング発展Ａ		1	
	プログラミング発展Ｂ		1	
	人工知能技術と社会		1	
	機械学習活用１		1	
	機械学習活用２		1	
	データサイエンス活用１		1	
	データサイエンス活用２		1	
	メディアデザイン		1	
	サービスデザイン		1	
	人工知能実践プロジェクト		2	
	【外国語】			
	英語基礎Ａ	2		
	英語基礎Ｂ		1	
	英語基礎Ｃ	2		
	英語基礎Ｄ		1	
	英語発展Ａ		1	
	英語発展Ｂ		1	
	英語発展Ｃ		1	
	英語発展Ｄ		1	
	英語綜合Ａ		1	
	英語綜合Ｂ		1	
	中国語基礎１		1	

アントレプレナーシップ学科

別表（1）

区分 / 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
	中国語基礎２		1	
	中国語発展１		1	
	中国語発展２		1	
	フランス語基礎１		1	
	フランス語基礎２		1	
	フランス語発展１		1	
	フランス語発展２		1	
	ドイツ語基礎１		1	
	ドイツ語基礎２		1	
	ドイツ語発展１		1	
	ドイツ語発展２		1	
	スペイン語基礎１		1	
	スペイン語基礎２		1	
	スペイン語発展１		1	
	スペイン語発展２		1	
	韓国語基礎１		1	
	韓国語基礎２		1	
	韓国語発展１		1	
	韓国語発展２		1	
	留学準備１		1	
	留学準備２		1	
	英語資格・検定試験対策１		1	
	英語資格・検定試験対策２		1	
	【教養日本語】			
	日本語リテラシー	1		
	日本語基礎Ａ		1	留学生または日本語を母語としない学生は、外国語科目群の必修科目に代えることができる
	日本語基礎Ｂ		1	
	日本語基礎Ｃ		1	
	日本語基礎Ｄ		1	
	日本語発展Ａ		1	
	日本語発展Ｂ		1	
	日本語発展Ｃ		1	
	日本語発展Ｄ		1	
	日本事情		2	
	【ＣＨＰ】			
	ＳＤＧｓ基礎	1		
	ＳＤＧｓ発展１	1		
	ＳＤＧｓ発展２	1		
	ＳＤＧｓ発展３	1		

アントレプレナーシップ学科
別表（1）

区分 / 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
	ＳＤＧｓ特講		2	
	【フィールド・スタディーズ】			
	フィールド・スタディーズ	1		
	フィールド・スタディーズ１		1	
	フィールド・スタディーズ２		2	
	フィールド・スタディーズ３		3	
	フィールド・スタディーズ４		4	
	フィールド・スタディーズ発展１Ａ		1	
	フィールド・スタディーズ発展１Ｂ		2	
	フィールド・スタディーズ発展１Ｃ		3	
	フィールド・スタディーズ発展１Ｄ		4	
	フィールド・スタディーズ発展２Ａ		1	
	フィールド・スタディーズ発展２Ｂ		2	
	フィールド・スタディーズ発展２Ｃ		3	
	フィールド・スタディーズ発展２Ｄ		4	
	フィールド・スタディーズ発展２Ｅ		5	
	フィールド・スタディーズ発展３Ａ		1	
	フィールド・スタディーズ発展３Ｂ		2	
	フィールド・スタディーズ発展３Ｃ		3	
	フィールド・スタディーズ発展３Ｄ		4	
	フィールド・スタディーズ発展３Ｅ		5	
	フィールド・スタディーズ発展４Ａ		1	
	フィールド・スタディーズ発展４Ｂ		2	
	フィールド・スタディーズ発展４Ｃ		3	
	フィールド・スタディーズ発展４Ｄ		4	
	【インターンシップ】			
	インターンシップ		1	
	企業協働プロジェクト		2	
	【全学教養ゼミナール】			
	全学教養ゼミナール１		2	
	全学教養ゼミナール２		2	
	【寄付講座】			
	武蔵野市自由講座		2	
	証券ビジネス論		2	

アントレプレナーシップ学科

別表（1）

区分 / 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
	〔学科科目〕			
	【マインド科目】			
	キャリアデザイン１	1		
	キャリアデザイン２	1		
	キャリアデザイン３		1	１単位選択必修
	幸福学		1	
	好奇心醸成		1	
	未来構想	1		
	事業と哲学	2		
	倫理観１	1		
	倫理観２	1		
	女性とアントレプレナーシップ		1	２単位選択必修
	政治と社会		1	
	地域課題と事業創造		1	
	デザインと事業創造		1	
	科学技術と事業創造		1	
	グローバルアントレプレナー（海外研修）	1		
	情報編集力	1		
	アントレプレナーシップ１Ａ	1		
	アントレプレナーシップ１Ｂ	1		
	アントレプレナーシップ２Ａ	1		
	アントレプレナーシップ２Ｂ	1		
	アントレプレナーシップ２Ｃ	1		
	アントレプレナーシップ２Ｄ	1		
	アントレプレナーシップ３Ａ	1		
	アントレプレナーシップ３Ｂ	1		
	アントレプレナーシップ３Ｃ	1		
	アントレプレナーシップ３Ｄ	1		
	アントレプレナーシップ４Ａ	1		
	アントレプレナーシップ４Ｂ	1		
	アントレプレナーシップ４Ｃ	1		
	アントレプレナーシップ４Ｄ	1		
	【事業推進科目】			
	クリティカルシンキング基礎	2		
	クリティカルシンキング１		2	２単位選択必修
	クリティカルシンキング２		2	
	課題解決プロセス１		1	１単位選択必修
	課題解決プロセス２		1	
	ビジネスモデル研究基礎	1		
	インターネットビジネス基礎	1		

アントレプレナーシップ学科

別表（1）

区分 / 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
	領域別Ｔｅｃｈ研究Ａ		1	２単位選択必修
	領域別Ｔｅｃｈ研究Ｂ		1	
	領域別Ｔｅｃｈ研究Ｃ		1	
	領域別Ｔｅｃｈ研究Ｄ		1	
	アフターデジタルの課題解決	1		
	事業計画Ａ		2	２単位選択必修
	事業計画Ｂ		2	
	プロトタイピングＡ		1	１単位選択必修
	プロトタイピングＢ		1	
	コミュニケーション基礎		1	
	コーチング		1	１単位選択必修
	プレゼンテーション		1	
	チーム・プロジェクトマネジメント		1	
	ファイナンス・アカウンティング基礎		1	
	ファイナンスＡ		1	コミュニケーション基礎、ファイナンス・アカウンティング基礎、リーガル基礎、マーケティング基礎から２単位選択必修
	ファイナンスＢ		1	
	リーガル基礎		1	
	マーケティング基礎		1	
	マーケティングＡ		1	１単位選択必修
	マーケティングＢ		1	
	マーケティングＣ		1	
	グローバルマネジメント		1	
	リーダーシップとマネジメント		1	
	組織・人事マネジメント		1	
	【実践科目】			
	プロジェクト入門	1		
	インターンシップ（領域別Ｔｅｃｈ研究）	1		
	インターンシップＡ		2	
	インターンシップＢ		3	
	インターンシップＣ		4	
	プロジェクト基礎Ａ	2		
	プロジェクト基礎Ｂ	2		
	プロジェクト基礎Ｃ	2		
	プロジェクト応用Ａ	4		
	プロジェクト応用Ｂ	4		
	プロジェクト発展Ａ	4		
	プロジェクト発展Ｂ	4		
	プロジェクト発展Ｃ	4		
	プロジェクト発展Ｄ	4		
	プロジェクト発展Ｅ		1	

アントレプレナーシップ学科

別表（1）

区分 学科	授業科目	単位数		備考
		必修	選択	
	プロジェクト発展Ｆ		2	
	プロジェクト発展Ｇ		3	
	プロジェクト発展Ｈ		4	
	【ゼミナール科目】			
	ゼミナール１	2		
	ゼミナール２	2		
	ゼミナール３	2		
	ゼミナール４		2	
	ゼミナール５		2	

ﾃﾞｰﾀｻｲｴﾝｽ学部ﾃﾞｰﾀｻｲｴﾝｽ学科
別表（1）

区分 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
ﾃﾞｰﾀｻｲｴﾝｽ学部 ﾃﾞｰﾀｻｲｴﾝｽ学科	〔共通科目〕			
	【建学】			
	仏教（生き方を考える）基礎	2		
	仏教（生き方を考える）発展	2		
	【スポーツ・身体】			
	スポーツと身体科学		1	
	フィールド・スポーツ		1	
	【情報】			
	データサイエンス基礎	1		
	人工知能基礎	1		
	メディアリテラシー		1	
	情報技法基礎		1	
	情報技法発展Ａ		1	
	情報技法発展Ｂ		1	
	情報技法発展Ｃ		1	
	プログラミング基礎		1	
	プログラミング発展Ａ		1	
	プログラミング発展Ｂ		1	
	人工知能技術と社会		1	
	機械学習活用１		1	
	機械学習活用２		1	
	データサイエンス活用１		1	
	データサイエンス活用２		1	
	メディアデザイン		1	
	サービスデザイン		1	
	人工知能実践プロジェクト		2	
	【外国語】			
	英語基礎Ａ	2		
	英語基礎Ｂ		1	
	英語基礎Ｃ	2		
	英語基礎Ｄ		1	
	英語発展Ａ		1	
	英語発展Ｂ		1	
	英語発展Ｃ		1	
	英語発展Ｄ		1	
	英語綜合Ａ		1	
	英語綜合Ｂ		1	
	中国語基礎１		1	
	中国語基礎２		1	
	中国語発展１		1	
	中国語発展２		1	
	フランス語基礎１		1	
	フランス語基礎２		1	
	フランス語発展１		1	
	フランス語発展２		1	
	ドイツ語基礎１		1	
	ドイツ語基礎２		1	

別表（1）

区分 / 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
	ドイツ語発展１		1	
	ドイツ語発展２		1	
	スペイン語基礎１		1	
	スペイン語基礎２		1	
	スペイン語発展１		1	
	スペイン語発展２		1	
	韓国語基礎１		1	
	韓国語基礎２		1	
	韓国語発展１		1	
	韓国語発展２		1	
	留学準備１		1	
	留学準備２		1	
	英語資格・検定試験対策１		1	
	英語資格・検定試験対策２		1	
	【教養日本語】			
	日本語リテラシー	1		
	日本語基礎Ａ		1	留学生または日本語を母語としない学生は、外国語科目群の必修科目に代えることができる
	日本語基礎Ｂ		1	
	日本語基礎Ｃ		1	
	日本語基礎Ｄ		1	
	日本語発展Ａ		1	
	日本語発展Ｂ		1	
	日本語発展Ｃ		1	
	日本語発展Ｄ		1	
	日本事情		2	
	【ＣＨＰ】			
	ＳＤＧｓ基礎	1		
	ＳＤＧｓ発展１	1		
	ＳＤＧｓ発展２	1		
	ＳＤＧｓ発展３	1		
	ＳＤＧｓ特講		2	
	【フィールド・スタディーズ】			
	フィールド・スタディーズ	1		
	フィールド・スタディーズ１		1	
	フィールド・スタディーズ２		2	
	フィールド・スタディーズ３		3	
	フィールド・スタディーズ４		4	
	フィールド・スタディーズ発展１Ａ		1	
	フィールド・スタディーズ発展１Ｂ		2	
	フィールド・スタディーズ発展１Ｃ		3	
	フィールド・スタディーズ発展１Ｄ		4	
	フィールド・スタディーズ発展２Ａ		1	
	フィールド・スタディーズ発展２Ｂ		2	
	フィールド・スタディーズ発展２Ｃ		3	
	フィールド・スタディーズ発展２Ｄ		4	
	フィールド・スタディーズ発展２Ｅ		5	
	フィールド・スタディーズ発展３Ａ		1	

別表（1）

区分 / 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
	フィールド・スタディーズ発展３Ｂ		2	
	フィールド・スタディーズ発展３Ｃ		3	
	フィールド・スタディーズ発展３Ｄ		4	
	フィールド・スタディーズ発展３Ｅ		5	
	フィールド・スタディーズ発展４Ａ		1	
	フィールド・スタディーズ発展４Ｂ		2	
	フィールド・スタディーズ発展４Ｃ		3	
	フィールド・スタディーズ発展４Ｄ		4	
	【インターンシップ】			
	インターンシップ		1	
	企業協働プロジェクト		2	
	【全学教養ゼミナール】			
	全学教養ゼミナール１		2	
	全学教養ゼミナール２		2	
	【寄付講座】			
	武蔵野市自由講座		2	
	証券ビジネス論		2	
	〔学科科目〕			
	【専門共通科目】			
	データサイエンス学	2		
	人類と人工知能（AI）	2		
	メディアクリエーション・データデザイン演習Ⅰ	1		
	メディアクリエーション・データデザイン演習Ⅱ	1		
	データサイエンスプログラミング演習Ⅰ	1		
	データサイエンスプログラミング演習Ⅱ	1		
	データと数理Ⅰ	2		
	データと数理Ⅱ	2		
	データと経済統計	2		
	データと計量経済学	2		
	ソーシャルイノベーションの起こし方	2		
	グリーンエコノミー基礎	2		
	サイバーフィジカルシステム	2		
	機械学習と深層学習	2		
	Webテクノロジ	2		
	複合現実	2		
	マーケティングデータ分析	2		
	機械学習デザイン演習Ⅰ	1		
	機械学習デザイン演習Ⅱ	1		
	人工知能(AI)デザイン演習Ⅰ	1		
	人工知能(AI)デザイン演習Ⅱ	1		
	データサイエンス特論	2		オムニバス
	情報経済特論	2		
	データマイニング	2		

別表（1）

区分 / 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
	【専門コース科目】			
	〈AIクリエーション・コース〉			
	人工知能(AI)テクノロジ		2	
	マルチメディア知識ベース		2	
	人工知能(AI)・人間協調進化システム		2	
	人工知能(AI)ゲームクリエーション		2	
	ロボティクス・IoT		2	
	サイバーセキュリティと人工知能(AI)		2	
	〈AIアルゴリズムデザイン・コース〉			
	機械学習アルゴリズムデザイン		2	
	データベースデザイン		2	
	画像・音声認識システム		2	
	テキストマイニング		2	
	時空間データベース		2	
	リアルワールド解析シミュレータ		2	
	〈ソーシャルイノベーション・コース〉			
	マーケティング・オートメーション		2	
	人工知能(AI)社会の情報倫理		2	
	社会・環境・ビジネスデザイン		2	
	グローバル・ビジネス・ガバナンス		2	
	ビジネスモデル創出		2	
	社会・環境・ビジネスフィールドワーク		2	
	〈演習〉			
	専門コース演習Ⅰ(人工知能（AI）クリエーション)	1		オムニバス
	専門コース演習Ⅱ(人工知能（AI）アルゴリズムデザイン)	1		オムニバス
	専門コース演習Ⅲ（ソーシャルイノベーション)	1		オムニバス
	【社会連携型教育】			
	社会連携活動概論	1		
	データサイエンス社会実践学習（短期）		1	メディア
	データサイエンス社会実践学習（中期）		2	メディア
	データサイエンス社会実践学習（長期）		3	メディア
	データサイエンス社会実践学習（海外）		4	メディア
	【プロジェクト型科目】			
	未来創造PJ-AⅠ		4	
	未来創造PJ-BⅠ		2	
	未来創造PJ-AⅡ		4	
	未来創造PJ-BⅡ		2	
	未来創造PJ-AⅢ		4	
	未来創造PJ-BⅢ		2	
	未来創造PJ-AⅣ		4	
	未来創造PJ-BⅣ		2	
	卒業論文創成課題	2		
	卒業論文Ⅰ	4		
	卒業論文Ⅱ	4		

人間科学部人間科学科
別表（1）

区分 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
人間科学部 人間科学科	〔共通科目〕			
	【建学】			
	仏教（生き方を考える）基礎	2		
	仏教（生き方を考える）発展	2		
	【スポーツ・身体】			
	スポーツと身体科学		1	
	フィールド・スポーツ		1	
	【情報】			
	データサイエンス基礎	1		
	人工知能基礎	1		
	メディアリテラシー		1	
	情報技法基礎		1	
	情報技法発展Ａ		1	
	情報技法発展Ｂ		1	
	情報技法発展Ｃ		1	
	プログラミング基礎		1	
	プログラミング発展Ａ		1	
	プログラミング発展Ｂ		1	
	人工知能技術と社会		1	
	機械学習活用１		1	
	機械学習活用２		1	
	データサイエンス活用１		1	
	データサイエンス活用２		1	
	メディアデザイン		1	
	サービスデザイン		1	
	人工知能実践プロジェクト		2	
	【外国語】			
	英語基礎Ａ	2		
	英語基礎Ｂ		1	
	英語基礎Ｃ	2		
	英語基礎Ｄ		1	
	英語発展Ａ		1	
	英語発展Ｂ		1	
	英語発展Ｃ		1	
	英語発展Ｄ		1	
	英語綜合Ａ		1	
	英語綜合Ｂ		1	
	中国語基礎１		1	
	中国語基礎２		1	
	中国語発展１		1	
	中国語発展２		1	
	フランス語基礎１		1	
	フランス語基礎２		1	
	フランス語発展１		1	
	フランス語発展２		1	
	ドイツ語基礎１		1	

人間科学部人間科学科
別表（1）

区分 / 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
	ドイツ語基礎２		1	
	ドイツ語発展１		1	
	ドイツ語発展２		1	
	スペイン語基礎１		1	
	スペイン語基礎２		1	
	スペイン語発展１		1	
	スペイン語発展２		1	
	韓国語基礎１		1	
	韓国語基礎２		1	
	韓国語発展１		1	
	韓国語発展２		1	
	留学準備１		1	
	留学準備２		1	
	英語資格・検定試験対策１		1	
	英語資格・検定試験対策２		1	
	【教養日本語】			
	日本語リテラシー	1		
	日本語基礎Ａ		1	留学生または日本語を母語としない学生は、外国語科目群の必修科目に代えることができる
	日本語基礎Ｂ		1	
	日本語基礎Ｃ		1	
	日本語基礎Ｄ		1	
	日本語発展Ａ		1	
	日本語発展Ｂ		1	
	日本語発展Ｃ		1	
	日本語発展Ｄ		1	
	日本事情		2	
	【ＣＨＰ】			
	ＳＤＧｓ基礎	1		
	ＳＤＧｓ発展１	1		
	ＳＤＧｓ発展２	1		
	ＳＤＧｓ発展３	1		
	ＳＤＧｓ特講		2	
	【フィールド・スタディーズ】			
	フィールド・スタディーズ	1		
	フィールド・スタディーズ１		1	
	フィールド・スタディーズ２		2	
	フィールド・スタディーズ３		3	
	フィールド・スタディーズ４		4	
	フィールド・スタディーズ発展１Ａ		1	
	フィールド・スタディーズ発展１Ｂ		2	
	フィールド・スタディーズ発展１Ｃ		3	
	フィールド・スタディーズ発展１Ｄ		4	
	フィールド・スタディーズ発展２Ａ		1	
	フィールド・スタディーズ発展２Ｂ		2	
	フィールド・スタディーズ発展２Ｃ		3	
	フィールド・スタディーズ発展２Ｄ		4	

人間科学部人間科学科
別表（1）

区分 / 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
	フィールド・スタディーズ発展２Ｅ		5	
	フィールド・スタディーズ発展３Ａ		1	
	フィールド・スタディーズ発展３Ｂ		2	
	フィールド・スタディーズ発展３Ｃ		3	
	フィールド・スタディーズ発展３Ｄ		4	
	フィールド・スタディーズ発展３Ｅ		5	
	フィールド・スタディーズ発展４Ａ		1	
	フィールド・スタディーズ発展４Ｂ		2	
	フィールド・スタディーズ発展４Ｃ		3	
	フィールド・スタディーズ発展４Ｄ		4	
	【インターンシップ】			
	インターンシップ		1	
	企業協働プロジェクト		2	
	【全学教養ゼミナール】			
	全学教養ゼミナール１		2	
	全学教養ゼミナール２		2	
	【寄付講座】			
	武蔵野市自由講座		2	
	証券ビジネス論		2	
	〔学科科目〕			
	【学科基礎科目】			
	人間学入門	2		
	人間科学基礎	2		
	人間論基礎	2		
	基礎ゼミ１	1		
	基礎ゼミ２	1		
	心理学概論Ⅰ	2		
	心理学概論Ⅱ	2		
	心理学研究法		2	
	心理学統計法		2	
	メンタルヘルス論Ⅰ	2		
	メンタルヘルス論Ⅱ		2	
	対人コミュニケーション論		2	
	【人間学基幹科目群】			
	東洋思想論１		2	
	東洋思想論２		2	
	西洋思想論１		2	
	西洋思想論２		2	
	平和学		2	
	宗教学概論		2	
	仏教心理論		2	【人間学基幹科目群】の中から8単位選択必修
	死生学		2	

人間科学部人間科学科
別表（1）

区分 / 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
	【臨床心理科目群】			
	心理学実験１		2	
	心理学実験２		2	
	知覚・認知心理学	2		
	感情・人格心理学		2	
	学習・言語心理学		2	
	臨床心理学概論	2		
	発達心理学１	2		
	発達心理学２		2	
	人格心理学		2	
	司法・犯罪心理学１		2	
	司法・犯罪心理学２		2	
	教育・学校心理学		2	
	家族心理学		2	
	心理的アセスメント		2	
	心理療法論（心理学的支援法）		2	
	臨床心理学特殊演習		2	
	精神分析学		2	
	英語文献研究		2	
	カウンセリング演習		1	
	心理演習		1	
	公認心理師の職責		2	
	心理実習１		1	
	心理実習２		1	
	【産業・社会科目群】			
	社会学	2		
	地域社会学		2	
	家族社会学		2	
	社会調査法		2	
	社会調査実習		2	
	社会・集団・家族心理学	2		
	社会心理学		2	
	対人行動論１	2		
	対人行動論２		2	
	産業・組織心理学		2	
	集団心理学		2	
	産業カウンセリング論		2	
	コミュニティ心理学		2	
	オフィス環境心理学		2	
	文化心理学		2	
	マスコミュニケーション論		2	
	社会保障Ⅰ		2	
	社会保障Ⅱ		2	
	地域福祉論Ⅰ		2	
	地域福祉論Ⅱ		2	
	権利擁護を支える法制度		2	
	社会福祉の原理と政策Ⅰ		2	
	社会福祉の原理と政策Ⅱ		2	

人間科学部人間科学科
別表（1）

区分 / 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
	関係行政論		2	
	刑事司法と福祉		2	
	【生命・健康科学科目群】			
	生命科学１	2		
	生命科学２		2	
	生命科学実験演習１		1	
	生命科学実験演習２		1	
	自然人類学１	2		
	自然人類学２		2	
	生理実験演習１		1	
	生理実験演習２		1	
	脳と心１		2	
	脳と心２		2	
	統計推計学		2	
	健康・医療心理学	2		
	健康科学		2	
	精神医学(精神疾患とその治療) Ⅰ		2	
	精神医学(精神疾患とその治療) Ⅱ		2	
	医学知識（人体の構造と機能及び疾病）		2	
	心身医学		2	
	障害者・障害児心理学		2	
	福祉心理学		2	
	神経・生理心理学		2	
	スポーツ心理学		2	
	生体適応論		2	
	【精神保健福祉科目群】			
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ		2	
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ		2	
	精神障害リハビリテーション論		2	
	精神保健福祉の原理Ⅰ		2	
	精神保健福祉の原理Ⅱ		2	
	精神保健福祉制度論		2	
	ソーシャルワーク論		2	
	ソーシャルワークの理論と方法(専門) Ⅰ		2	
	ソーシャルワークの理論と方法(専門) Ⅱ		2	
	ソーシャルワーク演習		1	
	ソーシャルワーク演習(専門) Ⅰ		1	
	ソーシャルワーク演習(専門) Ⅱ		1	
	ソーシャルワーク演習(専門) Ⅲ		1	
	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ		1	
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ		2	
	ソーシャルワーク実習		4	
	障害者福祉論		2	
	【人間論演習】			
	人間論演習	2		

人間科学部人間科学科
別表（1）

区分 学科	授業科目	単位数		備考
		必修	選択	
	【フィールド・スタディーズ発展（学科）】			
	フィールド・スタディーズ発展１（人間科学）		3	
	フィールド・スタディーズ発展２（人間科学）		3	
	【総合科目】			
	人間科学プロジェクト１		2	
	人間科学プロジェクト２		2	
	総合研究１		2	
	総合研究２		2	
	International Lectures(Human Sciences)1		1	
	International Lectures(Human Sciences)2		1	
	【卒業研究】			
	卒業論文	2		
	卒業論文演習１	1		
	卒業論文演習２	1		

人間科学部社会福祉学科

別表（1）

区分 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
人間科学部 社会福祉学科	〔共通科目〕			
	【建学】			
	仏教（生き方を考える）基礎	2		
	仏教（生き方を考える）発展	2		
	【スポーツ・身体】			
	スポーツと身体科学		1	
	フィールド・スポーツ		1	
	【情報】			
	データサイエンス基礎	1		
	人工知能基礎	1		
	メディアリテラシー		1	
	情報技法基礎		1	
	情報技法発展Ａ		1	
	情報技法発展Ｂ		1	
	情報技法発展Ｃ		1	
	プログラミング基礎		1	
	プログラミング発展Ａ		1	
	プログラミング発展Ｂ		1	
	人工知能技術と社会		1	
	機械学習活用１		1	
	機械学習活用２		1	
	データサイエンス活用１		1	
	データサイエンス活用２		1	
	メディアデザイン		1	
	サービスデザイン		1	
	人工知能実践プロジェクト		2	
	【外国語】			
	英語基礎Ａ	2		
	英語基礎Ｂ		1	
	英語基礎Ｃ	2		
	英語基礎Ｄ		1	
	英語発展Ａ		1	
	英語発展Ｂ		1	
	英語発展Ｃ		1	
	英語発展Ｄ		1	
	英語綜合Ａ		1	
	英語綜合Ｂ		1	
	中国語基礎１		1	
	中国語基礎２		1	
	中国語発展１		1	
	中国語発展２		1	
	フランス語基礎１		1	
	フランス語基礎２		1	
	フランス語発展１		1	
	フランス語発展２		1	
	ドイツ語基礎１		1	

人間科学部社会福祉学科
別表（１）

区分 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
	ドイツ語基礎２		1	
	ドイツ語発展１		1	
	ドイツ語発展２		1	
	スペイン語基礎１		1	
	スペイン語基礎２		1	
	スペイン語発展１		1	
	スペイン語発展２		1	
	韓国語基礎１		1	
	韓国語基礎２		1	
	韓国語発展１		1	
	韓国語発展２		1	
	留学準備１		1	
	留学準備２		1	
	英語資格・検定試験対策１		1	
	英語資格・検定試験対策２		1	
	【教養日本語】			
	日本語リテラシー	1		
	日本語基礎Ａ		1	留学生または日本語を母語としない学生は、外国語科目群の必修科目に代えることができる
	日本語基礎Ｂ		1	
	日本語基礎Ｃ		1	
	日本語基礎Ｄ		1	
	日本語発展Ａ		1	
	日本語発展Ｂ		1	
	日本語発展Ｃ		1	
	日本語発展Ｄ		1	
	日本事情		2	
	【ＣＨＰ】			
	ＳＤＧｓ基礎	1		
	ＳＤＧｓ発展１	1		
	ＳＤＧｓ発展２	1		
	ＳＤＧｓ発展３	1		
	ＳＤＧｓ特講		2	
	【フィールド・スタディーズ】			
	フィールド・スタディーズ	1		
	フィールド・スタディーズ１		1	
	フィールド・スタディーズ２		2	
	フィールド・スタディーズ３		3	
	フィールド・スタディーズ４		4	
	フィールド・スタディーズ発展１Ａ		1	
	フィールド・スタディーズ発展１Ｂ		2	
	フィールド・スタディーズ発展１Ｃ		3	
	フィールド・スタディーズ発展１Ｄ		4	
	フィールド・スタディーズ発展２Ａ		1	
	フィールド・スタディーズ発展２Ｂ		2	
	フィールド・スタディーズ発展２Ｃ		3	
	フィールド・スタディーズ発展２Ｄ		4	

人間科学部社会福祉学科
別表（1）

区分 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
	フィールド・スタディーズ発展２Ｅ		5	
	フィールド・スタディーズ発展３Ａ		1	
	フィールド・スタディーズ発展３Ｂ		2	
	フィールド・スタディーズ発展３Ｃ		3	
	フィールド・スタディーズ発展３Ｄ		4	
	フィールド・スタディーズ発展３Ｅ		5	
	フィールド・スタディーズ発展４Ａ		1	
	フィールド・スタディーズ発展４Ｂ		2	
	フィールド・スタディーズ発展４Ｃ		3	
	フィールド・スタディーズ発展４Ｄ		4	
	【インターンシップ】			
	インターンシップ		1	
	企業協働プロジェクト		2	
	【全学教養ゼミナール】			
	全学教養ゼミナール１		2	
	全学教養ゼミナール２		2	
	【寄付講座】			
	武蔵野市自由講座		2	
	証券ビジネス論		2	
	〔学科科目〕			
	【社会福祉基盤形成科目群】			
	ソーシャルワークの基盤と専門職１	2		
	ソーシャルワークの基盤と専門職２	2		
	ソーシャルワークの理論と方法１	2		
	ソーシャルワークの理論と方法２	2		
	地域福祉と包括的支援体制１	2		
	地域福祉と包括的支援体制２	2		
	コミュニティ・オーガナイジング論		2	
	ケースマネジメント論		2	
	ソーシャルワークの理論と方法３	2		
	ソーシャルワークの理論と方法４	2		
	社会福祉の原理と政策１	2		
	社会福祉の原理と政策２	2		
	【社会福祉実践領域科目群】			
	高齢者福祉	2		
	障害者福祉	2		
	児童・家庭福祉	2		
	貧困に対する支援	2		
	保健医療と福祉	2		
	ソーシャルアントレプレナー論		2	
	ファンドレイジング論		2	
	リハビリテーション論		2	
	刑事司法と福祉	2		
	家族福祉論		2	

人間科学部社会福祉学科
別表（1）

区分 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
	女性福祉論		2	
	スクールソーシャルワーク論		2	
	多文化共生ソーシャルワーク論１		2	
	多文化共生ソーシャルワーク論２		2	
	【社会福祉制度政策科目群】			
	福祉サービスの組織と経営	2		
	社会保障１	2		
	社会保障２	2		
	社会福祉発達史		2	
	【社会福祉関係科目群】			
	社会学と社会システム	2		
	危機介入論		2	
	生と死を考える福祉論		2	
	心理学と心理的支援	2		
	社会福祉調査の基礎	2		
	フィールド実習指導１		2	
	フィールド実習指導２		2	
	フィールド実習１		2	
	フィールド実習２		2	
	医学概論	2		
	権利擁護を支える法制度	2		
	発達心理学		2	
	児童精神医学		2	
	精神医学総論		2	
	犯罪・非行心理学		2	
	教育社会学		2	
	住環境論		2	
	学校の制度		2	
	生徒指導論		2	
	精神保健の課題と支援		2	
	【社会福祉実践研究力形成科目群】			
	社会福祉基礎ゼミナール	2		
	社会福祉発展ゼミナール	2		
	ソーシャルワーク演習１	2		
	ソーシャルワーク実習指導１		2	
	ソーシャルワーク演習２	2		
	ソーシャルワーク演習３	2		
	海外ソーシャルワーク実習		1	
	社会福祉専門ゼミナール１	2		
	ソーシャルワーク演習４	2		
	ソーシャルワーク実習指導２		2	
	ソーシャルワーク演習５		2	
	ソーシャルワーク実習指導３		2	
	ソーシャルワーク実習		5	
	社会福祉専門ゼミナール２	2		
	スクールソーシャルワーク演習		2	

人間科学部社会福祉学科
別表（１）

区分 学科	授業科目	単位数		備考
		必修	選択	
	スクールソーシャルワーク実習指導		2	
	スクールソーシャルワーク実習		2	
	卒業研究		2	
	【社会福祉実践力統合科目群】			
	社会福祉職業論		1	
	社会福祉特講１		1	
	社会福祉特講２		1	
	社会福祉特講３		1	
	社会福祉特講４		1	

工学部サステナビリティ学科

別表（1）

区分 学科	授業科目	授業年次	単位数 必修	単位数 選択	備考
工学部 サステナビリティ学科	〔共通科目〕				
	【建学】				
	仏教（生き方を考える）基礎	1	2		
	仏教（生き方を考える）発展	3	2		
	【スポーツ・身体】				
	スポーツと身体科学	1		1	
	フィールド・スポーツ	2		1	
	【情報】				
	データサイエンス基礎	1	1		
	人工知能基礎	1	1		
	メディアリテラシー	1		1	
	情報技法基礎	1		1	
	情報技法発展Ａ	2		1	
	情報技法発展Ｂ	2		1	
	情報技法発展Ｃ	2		1	
	プログラミング基礎	1		1	
	プログラミング発展Ａ	2		1	
	プログラミング発展Ｂ	2		1	
	人工知能技術と社会	2		1	
	機械学習活用１	2		1	
	機械学習活用２	2		1	
	データサイエンス活用１	2		1	
	データサイエンス活用２	2		1	
	メディアデザイン	2		1	
	サービスデザイン	2		1	
	人工知能実践プロジェクト	3		2	
	【外国語】				
	英語基礎Ａ	1	2		
	英語基礎Ｂ	1		1	
	英語基礎Ｃ	1	2		
	英語基礎Ｄ	1		1	
	英語発展Ａ	2		1	
	英語発展Ｂ	2		1	
	英語発展Ｃ	2		1	
	英語発展Ｄ	2		1	
	英語綜合Ａ	3		1	
	英語綜合Ｂ	3		1	
	中国語基礎１	1		1	
	中国語基礎２	1		1	
	中国語発展１	2		1	
	中国語発展２	2		1	
	フランス語基礎１	1		1	
	フランス語基礎２	1		1	
	フランス語発展１	2		1	
	フランス語発展２	2		1	
	ドイツ語基礎１	1		1	
	ドイツ語基礎２	1		1	
	ドイツ語発展１	2		1	
	ドイツ語発展２	2		1	
	スペイン語基礎１	1		1	
	スペイン語基礎２	1		1	
	スペイン語発展１	2		1	
	スペイン語発展２	2		1	
	韓国語基礎１	1		1	
	韓国語基礎２	1		1	
	韓国語発展１	2		1	

工学部サステナビリティ学科
別表（1）

区分 / 学科	授業科目	授業年次	単位数 必修	単位数 選択	備考
	韓国語発展２	2		1	
	留学準備１	1		1	
	留学準備２	1		1	
	英語資格・検定試験対策１	1		1	
	英語資格・検定試験対策２	1		1	
	【教養日本語】				
	日本語リテラシー	1	1		
	日本語基礎Ａ	1		1	留学生または日本語を母語としない学生は、外国語科目群の必修科目に代えることができる
	日本語基礎Ｂ	1		1	
	日本語基礎Ｃ	1		1	
	日本語基礎Ｄ	1		1	
	日本語発展Ａ	2		1	
	日本語発展Ｂ	2		1	
	日本語発展Ｃ	2		1	
	日本語発展Ｄ	2		1	
	日本事情	1		2	
	【ＣＨＰ】				
	ＳＤＧｓ基礎	1	1		
	ＳＤＧｓ発展１	1	1		
	ＳＤＧｓ発展２	1	1		
	ＳＤＧｓ発展３	1	1		
	ＳＤＧｓ特講	3		2	
	【フィールド・スタディーズ】				
	フィールド・スタディーズ	1	1		
	フィールド・スタディーズ１	1		1	
	フィールド・スタディーズ２	1		2	
	フィールド・スタディーズ３	1		3	
	フィールド・スタディーズ４	1		4	
	フィールド・スタディーズ発展１Ａ	1		1	
	フィールド・スタディーズ発展１Ｂ	1		2	
	フィールド・スタディーズ発展１Ｃ	1		3	
	フィールド・スタディーズ発展１Ｄ	1		4	
	フィールド・スタディーズ発展２Ａ	2		1	
	フィールド・スタディーズ発展２Ｂ	2		2	
	フィールド・スタディーズ発展２Ｃ	2		3	
	フィールド・スタディーズ発展２Ｄ	2		4	
	フィールド・スタディーズ発展２Ｅ	2		5	
	フィールド・スタディーズ発展３Ａ	3		1	
	フィールド・スタディーズ発展３Ｂ	3		2	
	フィールド・スタディーズ発展３Ｃ	3		3	
	フィールド・スタディーズ発展３Ｄ	3		4	
	フィールド・スタディーズ発展３Ｅ	3		5	
	フィールド・スタディーズ発展４Ａ	4		1	
	フィールド・スタディーズ発展４Ｂ	4		2	
	フィールド・スタディーズ発展４Ｃ	4		3	
	フィールド・スタディーズ発展４Ｄ	4		4	
	【インターンシップ】				
	インターンシップ	2		1	
	企業協働プロジェクト	2		2	
	【全学教養ゼミナール】				
	全学教養ゼミナール１	1		2	
	全学教養ゼミナール２	1		2	

工学部サステナビリティ学科
別表（1）

区分 / 学科	授業科目	授業年次	単位数 必修	単位数 選択	備考
	【寄付講座】				
	武蔵野市自由講座	1		2	
	証券ビジネス論	2		2	
	〔学科科目〕				
	【サステナビリティ基幹科目】				
	サステナビリティ学と創造的学び	1	1		
	アカデミックスキル入門	1	2		
	サステナビリティ学基礎Ａ	1	2		
	サステナビリティ学基礎Ｂ	1	2		
	環境倫理・環境正義	1	2		
	環境エネルギー論	1	2		
	資源循環論	1	2		
	サステナビリティ思考入門	2	2		
	環境福祉学	2	2		
	環境政策論	2	2		
	環境経済学	2･3		2	
	サステナブルライフスタイル論	2･3		2	
	環境保全生態学	2	2		
	環境地球化学	2	2		
	水とサステナビリティ	2･3		2	
	食とサステナビリティ	2･3		2	
	【ソーシャルデザイン科目】				
	ソーシャルデザイン事例研究	2･3		2	
	サステナブルデザイン思考	2･3		2	
	システム思考と学習する組織	2･3		2	
	共創型リーダーシップ論	2･3		2	
	シビックアクション論	2･3		2	
	ファシリテーション演習	2･3		2	
	メディア表現演習	2･3		2	
	社会調査法	2･3		2	
	ソーシャルビジネス論	2･3		2	
	サステナブル経営論	2･3		2	
	サステナビリティ戦略演習	2･3		2	
	コミュニティデザイン論	2･3		2	
	持続可能な地域づくり論	2･3		2	
	交渉と合意形成	2･3		2	
	環境心理学	2･3		2	
	ＥＳＤ論	2･3		2	
	【環境エンジニアリング科目】				
	環境統計学	2		2	
	環境材料学	2･3		2	
	環境気象学	2･3		2	
	生物多様性保全特論	3		2	
	環境分析化学	2･3		2	
	ＣＡＤ演習	2･3		2	
	ＧＩＳ・測量演習	2･3		2	
	環境調査演習Ａ	3		2	
	環境調査演習Ｂ	2･3		2	
	環境調査演習Ｃ	3		2	
	サステナビリティリスク学	2･3		2	
	ライフサイクルアセスメント論	2･3		2	
	カーボンマネジメント演習	2･3		2	
	資源循環マネジメント演習	2･3		2	
	持続可能技術特論１	2･3		2	
	持続可能技術特論２	2･3		2	

工学部サステナビリティ学科

別表（1）

区分 学科	授業科目	授業年次	単位数 必修	単位数 選択	備考
	【プロジェクト科目】				
	サステナビリティプロジェクト入門	1	2		
	サステナビリティプロジェクト１	1	4		
	サステナビリティプロジェクト２	2	4		
	サステナビリティプロジェクト３	2	4		
	サステナビリティプロジェクト４	3	4		
	サステナビリティ研究１	3	4		
	サステナビリティ研究２	4	4		
	卒業論文	4		4	
	【社会連携科目】				
	サステナビリティ学社会実践演習Ａ	1･2･3･4		1	
	サステナビリティ学社会実践演習Ｂ	1･2･3･4		1	
	サステナビリティ学社会実践演習Ｃ	1･2･3･4		2	
	サステナビリティ学社会実践演習Ｄ	1･2･3･4		2	
	サステナビリティ学社会実践演習Ｅ	1･2･3･4		4	
	サステナビリティ学総合演習	1･2･3･4		1	
	【サステナビリティ先端科目】				
	サステナビリティ学特殊授業Ａ	1･2･3･4		2	
	サステナビリティ学特殊授業Ｂ	1･2･3･4		2	
	サステナビリティ学特殊授業Ｃ	1･2･3･4		2	
	サステナビリティ学特殊授業Ｄ	1･2･3･4		1	
	サステナビリティ学特殊授業Ｅ	1･2･3･4		1	
	【総合研究】				
	総合研究Ａ	1･2･3･4		1	
	総合研究Ｂ	1･2･3･4		2	
	総合研究Ｃ	1･2･3･4		4	

工学部数理工学科

別表（1）

区分 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
工学部 数理工学科	〔共通科目〕			
	【建学】			
	仏教（生き方を考える）基礎	2		
	仏教（生き方を考える）発展	2		
	【スポーツ・身体】			
	スポーツと身体科学		1	
	フィールド・スポーツ		1	
	【情報】			
	データサイエンス基礎	1		
	人工知能基礎	1		
	メディアリテラシー		1	
	情報技法基礎		1	
	情報技法発展Ａ		1	
	情報技法発展Ｂ		1	
	情報技法発展Ｃ		1	
	プログラミング基礎		1	
	プログラミング発展Ａ		1	
	プログラミング発展Ｂ		1	
	人工知能技術と社会		1	
	機械学習活用１		1	
	機械学習活用２		1	
	データサイエンス活用１		1	
	データサイエンス活用２		1	
	メディアデザイン		1	
	サービスデザイン		1	
	人工知能実践プロジェクト		2	
	【外国語】			
	英語基礎Ａ	2		
	英語基礎Ｂ		1	
	英語基礎Ｃ	2		
	英語基礎Ｄ		1	
	英語発展Ａ		1	
	英語発展Ｂ		1	
	英語発展Ｃ		1	
	英語発展Ｄ		1	
	英語綜合Ａ		1	
	英語綜合Ｂ		1	
	中国語基礎１		1	
	中国語基礎２		1	
	中国語発展１		1	
	中国語発展２		1	
	フランス語基礎１		1	
	フランス語基礎２		1	
	フランス語発展１		1	
	フランス語発展２		1	
	ドイツ語基礎１		1	
	ドイツ語基礎２		1	
	ドイツ語発展１		1	
	ドイツ語発展２		1	
	スペイン語基礎１		1	
	スペイン語基礎２		1	

工学部数理工学科

別表（1）

区分 / 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
	スペイン語発展１		1	
	スペイン語発展２		1	
	韓国語基礎１		1	
	韓国語基礎２		1	
	韓国語発展１		1	
	韓国語発展２		1	
	留学準備１		1	
	留学準備２		1	
	英語資格・検定試験対策１		1	
	英語資格・検定試験対策２		1	
	【教養日本語】			
	日本語リテラシー	1		
	日本語基礎Ａ		1	留学生または日本語を母語としない学生は、外国語科目群の必修科目に代えることができる
	日本語基礎Ｂ		1	
	日本語基礎Ｃ		1	
	日本語基礎Ｄ		1	
	日本語発展Ａ		1	
	日本語発展Ｂ		1	
	日本語発展Ｃ		1	
	日本語発展Ｄ		1	
	日本事情		2	
	【ＣＨＰ】			
	ＳＤＧｓ基礎	1		
	ＳＤＧｓ発展１	1		
	ＳＤＧｓ発展２	1		
	ＳＤＧｓ発展３	1		
	ＳＤＧｓ特講		2	
	【フィールド・スタディーズ】			
	フィールド・スタディーズ	1		
	フィールド・スタディーズ１		1	
	フィールド・スタディーズ２		2	
	フィールド・スタディーズ３		3	
	フィールド・スタディーズ４		4	
	フィールド・スタディーズ発展１Ａ		1	
	フィールド・スタディーズ発展１Ｂ		2	
	フィールド・スタディーズ発展１Ｃ		3	
	フィールド・スタディーズ発展１Ｄ		4	
	フィールド・スタディーズ発展２Ａ		1	
	フィールド・スタディーズ発展２Ｂ		2	
	フィールド・スタディーズ発展２Ｃ		3	
	フィールド・スタディーズ発展２Ｄ		4	
	フィールド・スタディーズ発展２Ｅ		5	
	フィールド・スタディーズ発展３Ａ		1	
	フィールド・スタディーズ発展３Ｂ		2	
	フィールド・スタディーズ発展３Ｃ		3	
	フィールド・スタディーズ発展３Ｄ		4	
	フィールド・スタディーズ発展３Ｅ		5	
	フィールド・スタディーズ発展４Ａ		1	
	フィールド・スタディーズ発展４Ｂ		2	
	フィールド・スタディーズ発展４Ｃ		3	
	フィールド・スタディーズ発展４Ｄ		4	

工学部数理工学科
別表（1）

区分 / 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
	【インターンシップ】			
	インターンシップ		1	
	企業協働プロジェクト		2	
	【全学教養ゼミナール】			
	全学教養ゼミナール１		2	
	全学教養ゼミナール２		2	
	【寄付講座】			
	武蔵野市自由講座		2	
	証券ビジネス論		2	
	〔教職関連〕			
	日本国憲法		2	教職必修
	〔学科科目〕			
	【学科基礎科目】			
	数理工学入門	2		
	線形代数１	2		
	微積分１	2		
	数学演習１		1	
	線形代数２	2		
	線形代数２演習		1	
	微積分２	2		
	微積分２演習		1	
	情報処理		2	
	プログラミング演習		1	
	基礎物理１	2		
	基礎物理２	2		
	線形代数３	2		
	微積分３	2		
	数学演習２		1	
	微分方程式１	2		
	数理工学概論１	2		
	ベクトル解析	2		
	複素解析	2		
	アルゴリズム		2	
	微分方程式２		2	
	【学科基幹科目】			
	数理工学実験１		2	
	確率・統計	2		
	応用代数		2	
	数理物理		2	
	数理工学実験２		2	
	数理統計学		2	
	応用幾何		2	
	情報理論		2	
	数理工学概論２	2		
	応用複素解析		2	
	グラフ理論入門		2	
	数値解析		2	
	環境・エネルギー工学		2	

工学部数理工学科

別表（1）

区分 学科	授業科目	単位数		備考
		必修	選択	
	知的財産論		2	
	フーリエ解析		2	
	多変量解析		2	
	最適化理論		2	
	量子力学とナノ工学		2	
	機械学習		2	
	システム工学		2	
	応用微分方程式		2	
	計画工学		2	
	計算幾何学		2	
	信号処理		2	
	【学科展開科目】			
	プロジェクト１		4	
	保険数学		2	
	離散数理工学		2	
	確率数理工学		2	
	データベースと情報管理		2	
	プロジェクト２		4	
	連続体力学		2	
	生命情報学		2	
	トポロジーとその応用		2	
	金融工学		2	
	【卒業研究】			
	数理工学研究１	2		
	数理工学研究２	2		
	数理工学研究３	2		
	卒業研究	4		

工学部建築デザイン学科

別表（1）

区分 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
工学部 建築デザイン学科	〔共通科目〕			
	【建学】			
	仏教（生き方を考える）基礎	2		
	仏教（生き方を考える）発展	2		
	【スポーツ・身体】			
	スポーツと身体科学		1	
	フィールド・スポーツ		1	
	【情報】			
	データサイエンス基礎	1		
	人工知能基礎	1		
	メディアリテラシー		1	
	情報技法基礎		1	
	情報技法発展Ａ		1	
	情報技法発展Ｂ		1	
	情報技法発展Ｃ		1	
	プログラミング基礎		1	
	プログラミング発展Ａ		1	
	プログラミング発展Ｂ		1	
	人工知能技術と社会		1	
	機械学習活用１		1	
	機械学習活用２		1	
	データサイエンス活用１		1	
	データサイエンス活用２		1	
	メディアデザイン		1	
	サービスデザイン		1	
	人工知能実践プロジェクト		2	
	【外国語】			
	英語基礎Ａ	2		
	英語基礎Ｂ		1	
	英語基礎Ｃ	2		
	英語基礎Ｄ		1	
	英語発展Ａ		1	
	英語発展Ｂ		1	
	英語発展Ｃ		1	
	英語発展Ｄ		1	
	英語綜合Ａ		1	
	英語綜合Ｂ		1	
	中国語基礎１		1	
	中国語基礎２		1	
	中国語発展１		1	
	中国語発展２		1	
	フランス語基礎１		1	
	フランス語基礎２		1	
	フランス語発展１		1	
	フランス語発展２		1	
	ドイツ語基礎１		1	
	ドイツ語基礎２		1	
	ドイツ語発展１		1	
	ドイツ語発展２		1	
	スペイン語基礎１		1	
	スペイン語基礎２		1	

工学部建築デザイン学科

別表（1）

区分 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
	スペイン語発展１		1	
	スペイン語発展２		1	
	韓国語基礎１		1	
	韓国語基礎２		1	
	韓国語発展１		1	
	韓国語発展２		1	
	留学準備１		1	
	留学準備２		1	
	英語資格・検定試験対策１		1	
	英語資格・検定試験対策２		1	
	【教養日本語】			
	日本語リテラシー	1		
	日本語基礎Ａ		1	留学生または日本語を母語としない学生は、外国語科目群の必修科目に代えることができる
	日本語基礎Ｂ		1	
	日本語基礎Ｃ		1	
	日本語基礎Ｄ		1	
	日本語発展Ａ		1	
	日本語発展Ｂ		1	
	日本語発展Ｃ		1	
	日本語発展Ｄ		1	
	日本事情		2	
	【ＣＨＰ】			
	ＳＤＧｓ基礎	1		
	ＳＤＧｓ発展１	1		
	ＳＤＧｓ発展２	1		
	ＳＤＧｓ発展３	1		
	ＳＤＧｓ特講		2	
	【フィールド・スタディーズ】			
	フィールド・スタディーズ	1		
	フィールド・スタディーズ１		1	
	フィールド・スタディーズ２		2	
	フィールド・スタディーズ３		3	
	フィールド・スタディーズ４		4	
	フィールド・スタディーズ発展１Ａ		1	
	フィールド・スタディーズ発展１Ｂ		2	
	フィールド・スタディーズ発展１Ｃ		3	
	フィールド・スタディーズ発展１Ｄ		4	
	フィールド・スタディーズ発展２Ａ		1	
	フィールド・スタディーズ発展２Ｂ		2	
	フィールド・スタディーズ発展２Ｃ		3	
	フィールド・スタディーズ発展２Ｄ		4	
	フィールド・スタディーズ発展２Ｅ		5	
	フィールド・スタディーズ発展３Ａ		1	
	フィールド・スタディーズ発展３Ｂ		2	
	フィールド・スタディーズ発展３Ｃ		3	
	フィールド・スタディーズ発展３Ｄ		4	
	フィールド・スタディーズ発展３Ｅ		5	
	フィールド・スタディーズ発展４Ａ		1	
	フィールド・スタディーズ発展４Ｂ		2	
	フィールド・スタディーズ発展４Ｃ		3	
	フィールド・スタディーズ発展４Ｄ		4	

工学部建築デザイン学科

別表（1）

区分 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
	【インターンシップ】			
	インターンシップ		1	
	企業協働プロジェクト		2	
	【全学教養ゼミナール】			
	全学教養ゼミナール１		2	
	全学教養ゼミナール２		2	
	【寄付講座】			
	武蔵野市自由講座		2	
	証券ビジネス論		2	
	〔学科科目〕			
	【学科基礎科目】			
	基礎デザイン１	2		
	空間表現論	2		
	基礎ゼミ	2		
	基礎デザイン２	2		
	デザインテクノロジー１	2		
	デザインテクノロジー２	2		
	【学科基幹科目】			
	設計製図１	4		
	建築計画	2		
	デザインテクノロジー３	2		
	デザインテクノロジー４	2		
	設計製図２	4		
	日本の建築	2		
	設計方法論	2		
	建築構造	2		
	建築材料	2		
	建築施工法	2		
	建築法規	2		
	建築学演習	2		
	建築構造デザイン	2		
	【学科展開科目】			
	住居論		2	
	住居史		2	
	住宅衛生		2	
	プロジェクト１		2	
	西洋の建築		2	
	建築と環境		2	
	インテリアデザイン１		2	
	構造力学１		2	
	構造力学演習１		2	
	デザインテクノロジー発展１		2	
	デザインテクノロジー発展２		2	
	環境工学		2	
	建築環境行動		2	
	プロジェクト２		4	
	設計製図３		4	
	建築景観論		2	

工学部建築デザイン学科

別表（1）

区分 学科	授業科目	単位数		備考
		必修	選択	
	音環境		2	
	建築設備１		2	
	構造力学２		2	
	構造力学演習２		2	
	デザインテクノロジー発展３		2	
	デザインテクノロジー発展４		2	
	インテリアデザイン２		2	
	都市防災		2	
	都市環境		2	
	設計製図４		4	
	アジアの建築		2	
	光環境		2	
	建築設備２		2	
	構造力学３		2	
	環境デザイン		2	
	空間とデザイン		2	
	ランドスケープデザイン		2	
	プロジェクト３		4	
	建築環境論		2	
	防災まちづくり論		2	
	建築文化論		2	
	プロジェクト４		4	
	フィールド・スタディーズ発展１（建築）		1	
	フィールド・スタディーズ発展２（建築）		2	
	【卒業研究】			
	卒業研究	6		

教育学部教育学科

別表（1）

区分 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
教育学部 教育学科	〔共通科目〕			
	【建学】			
	仏教（生き方を考える）基礎	2		
	仏教（生き方を考える）発展	2		
	【スポーツ・身体】			
	スポーツと身体科学		1	学校教育専修理科コースは２単位選択必修
	フィールド・スポーツ		1	
	体育講義		1	
	【情報】			
	データサイエンス基礎	1		
	人工知能基礎	1		
	メディアリテラシー		1	
	情報技法基礎		1	
	情報技法発展Ａ		1	
	情報技法発展Ｂ		1	
	情報技法発展Ｃ		1	
	プログラミング基礎		1	
	プログラミング発展Ａ		1	
	プログラミング発展Ｂ		1	
	人工知能技術と社会		1	
	機械学習活用１		1	
	機械学習活用２		1	
	データサイエンス活用１		1	
	データサイエンス活用２		1	
	メディアデザイン		1	
	サービスデザイン		1	
	人工知能実践プロジェクト		2	
	【外国語】			
	英語基礎Ａ	2		
	英語基礎Ｂ		1	
	英語基礎Ｃ	2		
	英語基礎Ｄ		1	
	英語発展Ａ		1	
	英語発展Ｂ		1	
	英語発展Ｃ		1	
	英語発展Ｄ		1	
	英語綜合Ａ		1	
	英語綜合Ｂ		1	
	中国語基礎１		1	
	中国語基礎２		1	
	中国語発展１		1	
	中国語発展２		1	
	フランス語基礎１		1	
	フランス語基礎２		1	
	フランス語発展１		1	
	フランス語発展２		1	
	ドイツ語基礎１		1	
	ドイツ語基礎２		1	
	ドイツ語発展１		1	
	ドイツ語発展２		1	

教育学部教育学科
別表（１）

区分 / 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
	スペイン語基礎１		1	
	スペイン語基礎２		1	
	スペイン語発展１		1	
	スペイン語発展２		1	
	韓国語基礎１		1	
	韓国語基礎２		1	
	韓国語発展１		1	
	韓国語発展２		1	
	留学準備１		1	
	留学準備２		1	
	英語資格・検定試験対策１		1	
	英語資格・検定試験対策２		1	
	【教養日本語】			
	日本語基礎Ａ		1	留学生または日本語を母語としない学生は、外国語科目群の必修科目に代えることができる
	日本語基礎Ｂ		1	
	日本語基礎Ｃ		1	
	日本語基礎Ｄ		1	
	日本語発展Ａ		1	
	日本語発展Ｂ		1	
	日本語発展Ｃ		1	
	日本語発展Ｄ		1	
	日本事情		2	
	【ＣＨＰ】			
	ＳＤＧｓ基礎	1		
	ＳＤＧｓ発展１	1		
	ＳＤＧｓ発展２	1		
	ＳＤＧｓ発展３	1		
	ＳＤＧｓ特講		2	
	【フィールド・スタディーズ】			
	フィールド・スタディーズ	1		
	フィールド・スタディーズ１		1	
	フィールド・スタディーズ２		2	
	フィールド・スタディーズ３		3	
	フィールド・スタディーズ４		4	
	フィールド・スタディーズ発展１Ａ		1	
	フィールド・スタディーズ発展１Ｂ		2	
	フィールド・スタディーズ発展１Ｃ		3	
	フィールド・スタディーズ発展１Ｄ		4	
	フィールド・スタディーズ発展２Ａ		1	
	フィールド・スタディーズ発展２Ｂ		2	
	フィールド・スタディーズ発展２Ｃ		3	
	フィールド・スタディーズ発展２Ｄ		4	
	フィールド・スタディーズ発展２Ｅ		5	
	フィールド・スタディーズ発展３Ａ		1	
	フィールド・スタディーズ発展３Ｂ		2	
	フィールド・スタディーズ発展３Ｃ		3	
	フィールド・スタディーズ発展３Ｄ		4	
	フィールド・スタディーズ発展３Ｅ		5	
	フィールド・スタディーズ発展４Ａ		1	
	フィールド・スタディーズ発展４Ｂ		2	

教育学部教育学科
別表（1）

区分 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
	フィールド・スタディーズ発展４Ｃ		3	
	フィールド・スタディーズ発展４Ｄ		4	
	【インターンシップ】			
	インターンシップ		1	
	企業協働プロジェクト		2	
	【全学教養ゼミナール】			
	全学教養ゼミナール１		2	
	全学教養ゼミナール２		2	
	【寄付講座】			
	武蔵野市自由講座		2	
	証券ビジネス論		2	
	〔教職関連〕			
	日本国憲法		2	教職必修
	〔学科科目〕			
	【学科基礎科目】			
	教育学入門ゼミ		2	コースごとの必修科目は教育学部教育学科履修内規の定めによる
	発達心理学		2	
	教育原理		2	
	教育心理学		2	
	【学科基幹科目】			
	教育学基礎ゼミ		2	
	教育学発展ゼミ		2	
	教職論		2	
	教育の制度		2	
	教育課程論		2	
	学級経営論		2	
	【学科展開科目】			
	＜福祉関連科目＞			
	社会福祉		2	
	児童家庭福祉		2	
	＜初等・中等教育関連科目群＞			
	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法		2	
	道徳教育の理論と方法		2	
	教育の方法と技術		2	
	生徒指導・進路指導論		2	
	教育相談		2	
	特別支援教育		2	
	＜指導法関連科目群＞			
	初等国語科指導法		2	
	初等社会科指導法		2	
	初等算数科指導法		2	
	初等理科指導法		2	
	初等生活科指導法		2	
	初等音楽科指導法		2	

教育学部教育学科
別表（1）

区分 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
	初等図画工作科指導法		2	
	初等家庭科指導法		2	
	初等体育科指導法		2	
	初等外国語（英語）指導法		2	
	国語科指導法Ａ		2	
	国語科指導法Ｂ		2	
	書道科指導法Ａ		2	
	書道科指導法Ｂ		2	
	英語科指導法Ａ		2	
	英語科指導法Ｂ		2	
	理科指導法Ⅰ		4	
	国語科教育法Ａ		2	
	国語科教育法Ｂ		2	
	書道科教育法		2	
	英語科教育法Ａ		2	
	英語科教育法Ｂ		2	
	理科指導法Ⅱ		4	
	＜教科・基礎技能関連科目群＞			
	国語（書写を含む。）		2	
	社会		2	
	算数		2	
	理科		2	
	生活		2	
	音楽Ａ		2	
	音楽Ｂ		2	
	図画工作Ａ		2	
	図画工作Ｂ		2	
	家庭		2	
	体育Ａ		2	
	体育Ｂ		2	
	初等外国語（英語）		2	
	日本語学概論Ａ		2	
	日本語学概論Ｂ		2	
	古代文学		2	
	中古文学		2	
	中世文学		2	
	近世文学		2	
	近代文学		2	
	現代文学		2	
	漢文学		2	
	書道		2	
	書道史		2	
	書論・鑑賞		2	
	英語学A		2	
	英語学B		2	
	英米文学・文化史A		2	
	英米文学・文化史B		2	
	Practical Communication A		2	
	Practical Communication B		2	
	Comprehensive English A		2	
	Comprehensive English B		2	
	Comprehensive English C		2	

教育学部教育学科
別表（１）

区分 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
	Comprehensive English D		2	
	異文化理解A		2	
	異文化理解B		2	
	物理学概論１		2	
	物理学概論２		2	
	物理学実験（コンピュータ活用を含む。）		2	
	化学概論１		2	
	化学概論２		2	
	化学実験（コンピュータ活用を含む。）		2	
	生物学概論１		2	
	生物学概論２		2	
	生物学実験（コンピュータ活用を含む。）		2	
	地学概論１		2	
	地学概論２		2	
	地学実験（コンピュータ活用を含む。）		2	
	理科実験指導論		2	
	＜教科・応用科目群＞			
	ＩＣＴ活用論Ａ		2	
	ＩＣＴ活用論Ｂ		2	
	Academic English		2	
	実用英語音声学		2	
	英語プレゼンテーション		2	
	科学基礎１		2	
	科学基礎２		2	
	物理学特論１		2	
	物理学特論２		2	
	化学特論１		2	
	化学特論２		2	
	生物学特論１		2	
	生物学特論２		2	
	地学特論１		2	
	地学特論２		2	
	環境教育学		2	
	自然環境教育演習１		2	
	自然環境教育演習２		2	
	＜グローバル教員養成科目群＞			
	グローバル教育概説		2	
	グローバル教育特論		2	
	２１世紀型スキル		2	
	【実習関係】			
	教育インターンシップゼミ		2	
	教育インターンシップ		2	
	教育海外研修		4	
	教育プレ実習		1	
	教育実習指導【小学校】		1	
	教育実習【小学校】		4	
	教育実習【中学校・高等学校】		3	
	教育実習【中学校】		2	
	教職実践演習（小・中・高）		2	

教育学部教育学科

別表（1）

区分 学科	授業科目	単位数		備考
		必修	選択	
	【卒業研究】 教育学総合ゼミ		2	

教育学部幼児教育学科

別表（1）

区分 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
教育学部 幼児教育学科	〔共通科目〕			
	【建学】			
	仏教（生き方を考える）基礎	2		
	仏教（生き方を考える）発展	2		
	【スポーツ・身体】			
	スポーツと身体科学		1	
	フィールド・スポーツ		1	
	体育講義		1	
	【情報】			
	データサイエンス基礎	1		
	人工知能基礎	1		
	メディアリテラシー		1	
	情報技法基礎		1	
	情報技法発展Ａ		1	
	情報技法発展Ｂ		1	
	情報技法発展Ｃ		1	
	プログラミング基礎		1	
	プログラミング発展Ａ		1	
	プログラミング発展Ｂ		1	
	人工知能技術と社会		1	
	機械学習活用１		1	
	機械学習活用２		1	
	データサイエンス活用１		1	
	データサイエンス活用２		1	
	メディアデザイン		1	
	サービスデザイン		1	
	人工知能実践プロジェクト		2	
	【外国語】			
	英語基礎Ａ	2		
	英語基礎Ｂ		1	
	英語基礎Ｃ	2		
	英語基礎Ｄ		1	
	英語発展Ａ		1	
	英語発展Ｂ		1	
	英語発展Ｃ		1	
	英語発展Ｄ		1	
	英語綜合Ａ		1	
	英語綜合Ｂ		1	
	中国語基礎１		1	
	中国語基礎２		1	
	中国語発展１		1	
	中国語発展２		1	
	フランス語基礎１		1	
	フランス語基礎２		1	
	フランス語発展１		1	
	フランス語発展２		1	
	ドイツ語基礎１		1	

教育学部幼児教育学科

別表（1）

区分 / 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
	ドイツ語基礎２		1	
	ドイツ語発展１		1	
	ドイツ語発展２		1	
	スペイン語基礎１		1	
	スペイン語基礎２		1	
	スペイン語発展１		1	
	スペイン語発展２		1	
	韓国語基礎１		1	
	韓国語基礎２		1	
	韓国語発展１		1	
	韓国語発展２		1	
	留学準備１		1	
	留学準備２		1	
	英語資格・検定試験対策１		1	
	英語資格・検定試験対策２		1	
	【教養日本語】			
	日本語基礎Ａ		1	留学生または日本語を母語としない学生は、外国語科目群の必修科目に代えることができる
	日本語基礎Ｂ		1	
	日本語基礎Ｃ		1	
	日本語基礎Ｄ		1	
	日本語発展Ａ		1	
	日本語発展Ｂ		1	
	日本語発展Ｃ		1	
	日本語発展Ｄ		1	
	日本事情		2	
	【ＣＨＰ】			
	ＳＤＧｓ基礎	1		
	ＳＤＧｓ発展１	1		
	ＳＤＧｓ発展２	1		
	ＳＤＧｓ発展３	1		
	ＳＤＧｓ特講		2	
	【フィールド・スタディーズ】			
	フィールド・スタディーズ	1		
	フィールド・スタディーズ１		1	
	フィールド・スタディーズ２		2	
	フィールド・スタディーズ３		3	
	フィールド・スタディーズ４		4	
	フィールド・スタディーズ発展１Ａ		1	
	フィールド・スタディーズ発展１Ｂ		2	
	フィールド・スタディーズ発展１Ｃ		3	
	フィールド・スタディーズ発展１Ｄ		4	
	フィールド・スタディーズ発展２Ａ		1	
	フィールド・スタディーズ発展２Ｂ		2	
	フィールド・スタディーズ発展２Ｃ		3	
	フィールド・スタディーズ発展２Ｄ		4	
	フィールド・スタディーズ発展２Ｅ		5	
	フィールド・スタディーズ発展３Ａ		1	

教育学部幼児教育学科
別表（1）

区分 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
	フィールド・スタディーズ発展３Ｂ		2	
	フィールド・スタディーズ発展３Ｃ		3	
	フィールド・スタディーズ発展３Ｄ		4	
	フィールド・スタディーズ発展３Ｅ		5	
	フィールド・スタディーズ発展４Ａ		1	
	フィールド・スタディーズ発展４Ｂ		2	
	フィールド・スタディーズ発展４Ｃ		3	
	フィールド・スタディーズ発展４Ｄ		4	
	【インターンシップ】			
	インターンシップ		1	
	企業協働プロジェクト		2	
	【全学教養ゼミナール】			
	全学教養ゼミナール１		2	
	全学教養ゼミナール２		2	
	【寄付講座】			
	武蔵野市自由講座		2	
	証券ビジネス論		2	
	〔教職関連〕			
	日本国憲法		2	教職必修
	〔学科科目〕			
	【学科基礎科目】			
	幼児教育学入門ゼミ	2		
	発達心理学１（保・幼）	2		
	保育原理	2		
	教育原理１（保・幼）	2		
	【学科基幹科目】			
	幼児教育学基礎ゼミ	2		
	幼児教育学発展ゼミ	2		
	教育心理学（幼）	2		
	教職論（保育者論）	2		
	教育課程論（保・幼）	2		
	発達心理学２（保・幼）		2	
	教育の制度（幼）	2		
	教育原理２		2	
	【学科展開科目】			
	＜保育・幼児教育関連科目群＞			
	社会福祉	2		
	子ども家庭福祉	2		
	社会的養護１	2		
	子どもの保健	2		
	子どもの健康と安全	1		
	子どもの食と栄養	2		
	子ども家庭支援論	2		

教育学部幼児教育学科

別表（1）

区分 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
	乳児保育１	2		
	乳児保育２	1		
	特別支援教育（保・幼）	2		
	社会的養護２	1		
	教育の方法と技術（幼）	2		
	幼児理解と教育相談（幼）	2		
	仏教保育論		2	
	保幼小接続論		2	
	＜発達・子育て支援科目群＞			
	地域子育てネットワーク論		2	
	音楽療法		2	
	保育インターンシップ		2	
	児童心理臨床		2	
	子育て支援	1		
	子どもの理解と援助	1		
	発達検査法		1	
	芸術療法		1	
	病児保育論		2	
	＜領域及び保育内容指導法関連科目群＞			
	保育内容指導法（健康）		2	
	保育内容指導法（人間関係）		2	
	保育内容指導法（環境）		2	
	保育内容指導法（言葉）		2	
	保育内容指導法（身体表現）１	1		
	保育内容指導法（身体表現）２		1	
	保育内容指導法（造形表現）１	1		
	保育内容指導法（造形表現）２		1	
	保育内容指導法（音楽表現）１	1		
	保育内容指導法（音楽表現）２		1	
	保育内容総論	1		
	保育内容（健康）	1		
	保育内容（人間関係）	1		
	保育内容（環境）	1		
	保育内容（言葉）	1		
	保育内容（表現）	1		
	＜領域関連専門科目群＞			
	音楽１	2		
	音楽２		2	
	造形１（保・幼）	1		
	造形２（保・幼）		1	
	造形３（保・幼）		1	
	造形４（保・幼）		1	
	体育１（保・幼）	1		
	体育２（保・幼）		1	
	体育３（保・幼）		2	
	児童文学		2	
	児童文化	1		

教育学部幼児教育学科

別表（1）

区分 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
	＜グローバル教員養成科目群＞			
	グローバル教育概説	2		
	グローバル教育特論		2	
	２１世紀型スキル		2	
	児童英語		1	
	国際保育論		2	
	【実習関係科目】			
	保育・教育海外研修		2	
	プレ実習（保育内容の理解と方法）		1	
	幼児教育プロジェクト１		2	
	幼児教育プロジェクト２		2	
	幼児教育プロジェクト３		2	
	教育実習指導【幼稚園】		1	
	教育実習【幼稚園】		4	
	保育実習指導１（保育所）		1	
	保育実習指導１(施設)		1	
	保育実習指導２		1	
	保育実習指導３		1	
	保育実習１（保育所）		2	
	保育実習１(施設)		2	
	保育実習２		2	
	保育実習３		2	
	教職実践演習（幼）		2	
	保育実践演習（幼児教育学総合ゼミ）		2	
	【卒業研究】			
	卒業研究		2	

薬学部薬学科

別表（1）

区分 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
薬学部 薬学科	〔共通科目〕			
	【建学】			
	仏教（生き方を考える）基礎	2		
	仏教（生き方を考える）発展	2		
	【スポーツ・身体】			
	スポーツと身体科学		1	
	フィールド・スポーツ		1	
	【情報】			
	データサイエンス基礎	1		
	人工知能基礎	1		
	メディアリテラシー		1	
	情報技法基礎		1	
	情報技法発展Ａ		1	
	情報技法発展Ｂ		1	
	情報技法発展Ｃ		1	
	プログラミング基礎		1	
	プログラミング発展Ａ		1	
	プログラミング発展Ｂ		1	
	人工知能技術と社会		1	
	機械学習活用１		1	
	機械学習活用２		1	
	データサイエンス活用１		1	
	データサイエンス活用２		1	
	メディアデザイン		1	
	サービスデザイン		1	
	人工知能実践プロジェクト		2	
	【外国語】			
	英語基礎Ａ	2		
	英語基礎Ｂ		1	
	英語基礎Ｃ	2		
	英語基礎Ｄ		1	
	英語発展Ａ		1	
	英語発展Ｂ		1	
	英語発展Ｃ		1	
	英語発展Ｄ		1	
	英語綜合Ａ		1	
	英語綜合Ｂ		1	
	中国語基礎１		1	
	中国語基礎２		1	
	中国語発展１		1	
	中国語発展２		1	
	フランス語基礎１		1	
	フランス語基礎２		1	
	フランス語発展１		1	
	フランス語発展２		1	
	ドイツ語基礎１		1	
	ドイツ語基礎２		1	
	ドイツ語発展１		1	
	ドイツ語発展２		1	
	スペイン語基礎１		1	

薬学部薬学科
別表（1）

区分 / 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
	スペイン語基礎２		1	
	スペイン語発展１		1	
	スペイン語発展２		1	
	韓国語基礎１		1	
	韓国語基礎２		1	
	韓国語発展１		1	
	韓国語発展２		1	
	留学準備１		1	
	留学準備２		1	
	英語資格・検定試験対策１		1	
	英語資格・検定試験対策２		1	
	【ＣＨＰ】			
	ＳＤＧｓ基礎	1		
	ＳＤＧｓ発展１	1		
	ＳＤＧｓ発展２	1		
	ＳＤＧｓ発展３	1		
	ＳＤＧｓ特講		2	
	【フィールド・スタディーズ】			
	フィールド・スタディーズ		1	
	フィールド・スタディーズ１		1	
	フィールド・スタディーズ２		2	
	フィールド・スタディーズ３		3	
	フィールド・スタディーズ４		4	
	フィールド・スタディーズ発展１Ａ		1	
	フィールド・スタディーズ発展１Ｂ		2	
	フィールド・スタディーズ発展１Ｃ		3	
	フィールド・スタディーズ発展１Ｄ		4	
	フィールド・スタディーズ発展２Ａ		1	
	フィールド・スタディーズ発展２Ｂ		2	
	フィールド・スタディーズ発展２Ｃ		3	
	フィールド・スタディーズ発展２Ｄ		4	
	フィールド・スタディーズ発展２Ｅ		5	
	フィールド・スタディーズ発展３Ａ		1	
	フィールド・スタディーズ発展３Ｂ		2	
	フィールド・スタディーズ発展３Ｃ		3	
	フィールド・スタディーズ発展３Ｄ		4	
	フィールド・スタディーズ発展３Ｅ		5	
	フィールド・スタディーズ発展４Ａ		1	
	フィールド・スタディーズ発展４Ｂ		2	
	フィールド・スタディーズ発展４Ｃ		3	
	フィールド・スタディーズ発展４Ｄ		4	
	【全学教養ゼミナール】			
	全学教養ゼミナール１		2	
	全学教養ゼミナール２		2	
	【寄付講座】			
	武蔵野市自由講座		2	
	【学科科目】			
	＜薬学準備教育科目＞			

薬学部薬学科
別表（1）

区分 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
	基礎物理学	2		
	薬学物理化学	2		
	薬学数学１	2		
	薬学数学２	2		
	薬学統計学	2		
	基礎化学	2		
	薬学化学１	2		
	薬学化学２	2		
	基礎生物学	2		
	薬学生物学	2		
	医療統計学･生物学的試験法		2	
	生命倫理・医療倫理学	2		
	死生学	2		
	＜薬学基幹科目＞			
	薬学概論・レギュラトリーサイエンス概論	1		
	早期体験実習	1		
	薬学総合演習１	3		
	薬学総合演習２	2		
	薬学総合演習３	4		
	卒業研究１	8		
	卒業研究２	8		
	研究者養成コース薬学研究		2	
	＜物理系薬学を学ぶ＞			
	医薬品分析化学１	2		
	医薬品分析化学２	2		
	医薬品物理化学	2		
	放射性医薬品学	1		
	物理系実験実習１	1		
	物理系実験実習２	1		
	＜化学系薬学を学ぶ＞			
	有機化学１	2		
	有機化学２	2		
	有機化学３	2		
	有機化学４	2		
	生薬化学１	1		
	生薬化学２	2		
	化学系実験実習１	1		
	化学系実験実習２	1		
	＜生物系薬学を学ぶ＞			
	解剖学１	2		
	解剖学２	2		
	生理学１	2		
	生理学２	2		
	生化学１	2		
	生化学２	2		
	分子生物学	2		
	微生物医薬品学１	2		
	微生物医薬品学２	2		
	生物系実験実習１	1		

薬学部薬学科
別表（1）

区分 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
	生物系実験実習２	1		
	生物系実験実習３	1		
	＜衛生薬学を学ぶ＞			
	栄養代謝化学	2		
	食品衛生学	2		
	環境衛生学１	2		
	環境衛生学２	2		
	公衆衛生学	2		
	衛生薬学実験実習	1		
	＜医療薬学を学ぶ＞			
	薬理学１	2		
	薬理学２	2		
	薬理学３	2		
	薬効安全性学	1		
	薬物療法学１	2		
	薬物療法学２	2		
	薬物動態学１	2		
	薬物動態学２	2		
	物理薬剤学	2		
	製剤学	2		
	天然薬物学	1		
	一般用医薬品学	2		
	医薬品情報学	1		
	薬業経済学	1		
	病態学１	2		
	病態学２	2		
	医薬品開発学	2		
	臨床生化学・臨床検査学	2		
	医療薬学実験実習１	1		
	医療薬学実験実習２	1		
	医療薬学実験実習３	1		
	医療薬学実験実習４	1		
	漢方治療学		1	
	薬局経営論		1	
	＜薬学臨床を学ぶ＞			
	臨床薬剤学１	2		
	臨床薬剤学２	2		
	薬剤疫学	1		
	臨床薬学	2		
	臨床調剤学	2		
	臨床薬物治療学	2		
	基礎調剤実習	1		
	臨床調剤学実習	1		
	事前実習	4		
	病院薬局実務実習	12		
	保険薬局実務実習	12		
	＜法規・制度を学ぶ＞			
	薬事行政(制度)・関係法規	2		

薬学部薬学科
別表（1）

区分 学科	授業科目	単位数		備考
		必修	選択	
	＜香粧薬学系科目を学ぶ＞			
	香粧品学概論		1	
	香粧品学１		2	
	香粧品学２		2	
	＜製薬産業系科目を学ぶ＞			
	製薬産業論		1	
	化粧品産業論		1	
	臨床開発各論		1	
	＜キャリア開発科目＞			
	キャリアデザイン１	1		
	キャリアデザイン２		1	
	インターンシップ１（企業）		1	
	インターンシップ２（病院・薬局）		1	
	＜グローバル薬学科目＞			
	薬学英語１		1	
	薬学英語２		1	
	薬学英語３		1	
	International Lectures 1(pharm)		1	
	International Lectures 2(pharm)		1	

看護学部看護学科

別表（1）

区分 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
看護学部 看護学科	〔共通科目〕			
	【建学】			
	仏教（生き方を考える）基礎	2		
	仏教（生き方を考える）発展	2		
	【スポーツ・身体】			
	スポーツと身体科学		1	
	フィールド・スポーツ		1	
	【情報】			
	データサイエンス基礎	1		
	人工知能基礎	1		
	メディアリテラシー		1	
	情報技法基礎		1	
	情報技法発展Ａ		1	
	情報技法発展Ｂ		1	
	情報技法発展Ｃ		1	
	プログラミング基礎		1	
	プログラミング発展Ａ		1	
	プログラミング発展Ｂ		1	
	人工知能技術と社会		1	
	機械学習活用１		1	
	機械学習活用２		1	
	データサイエンス活用１		1	
	データサイエンス活用２		1	
	メディアデザイン		1	
	サービスデザイン		1	
	人工知能実践プロジェクト		2	
	【外国語】			
	英語基礎Ａ	2		
	英語基礎Ｂ		1	
	英語基礎Ｃ	2		
	英語基礎Ｄ		1	
	英語発展Ａ		1	
	英語発展Ｂ		1	
	英語発展Ｃ		1	
	英語発展Ｄ		1	
	英語綜合Ａ		1	
	英語綜合Ｂ		1	
	中国語基礎１		1	
	中国語基礎２		1	
	中国語発展１		1	
	中国語発展２		1	
	フランス語基礎１		1	
	フランス語基礎２		1	
	フランス語発展１		1	
	フランス語発展２		1	
	ドイツ語基礎１		1	
	ドイツ語基礎２		1	
	ドイツ語発展１		1	
	ドイツ語発展２		1	
	スペイン語基礎１		1	
	スペイン語基礎２		1	

看護学部看護学科
別表（1）

区分 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
	スペイン語発展１		1	
	スペイン語発展２		1	
	韓国語基礎１		1	
	韓国語基礎２		1	
	韓国語発展１		1	
	韓国語発展２		1	
	留学準備１		1	
	留学準備２		1	
	英語資格・検定試験対策１		1	
	英語資格・検定試験対策２		1	
	【ＣＨＰ】			
	ＳＤＧｓ基礎	1		
	ＳＤＧｓ発展１	1		
	ＳＤＧｓ発展２	1		
	ＳＤＧｓ発展３	1		
	ＳＤＧｓ特講		2	
	【フィールド・スタディーズ】			
	フィールド・スタディーズ	1		
	フィールド・スタディーズ１		1	
	フィールド・スタディーズ２		2	
	フィールド・スタディーズ３		3	
	フィールド・スタディーズ４		4	
	フィールド・スタディーズ発展１Ａ		1	
	フィールド・スタディーズ発展１Ｂ		2	
	フィールド・スタディーズ発展１Ｃ		3	
	フィールド・スタディーズ発展１Ｄ		4	
	フィールド・スタディーズ発展２Ａ		1	
	フィールド・スタディーズ発展２Ｂ		2	
	フィールド・スタディーズ発展２Ｃ		3	
	フィールド・スタディーズ発展２Ｄ		4	
	フィールド・スタディーズ発展２Ｅ		5	
	フィールド・スタディーズ発展３Ａ		1	
	フィールド・スタディーズ発展３Ｂ		2	
	フィールド・スタディーズ発展３Ｃ		3	
	フィールド・スタディーズ発展３Ｄ		4	
	フィールド・スタディーズ発展３Ｅ		5	
	フィールド・スタディーズ発展４Ａ		1	
	フィールド・スタディーズ発展４Ｂ		2	
	フィールド・スタディーズ発展４Ｃ		3	
	フィールド・スタディーズ発展４Ｄ		4	
	【インターンシップ】			
	インターンシップ		1	
	企業協働プロジェクト		2	
	【全学教養ゼミナール】			
	全学教養ゼミナール１		2	
	全学教養ゼミナール２		2	
	【寄付講座】			
	武蔵野市自由講座		2	

看護学部看護学科
別表（1）

区分 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
	【学科教養科目】			
	日本国憲法		2	教職必修
	社会学		2	
	基礎生物		2	
	基礎化学		2	
	心理学の基礎１		2	
	心理学の基礎２		2	
	人間工学		2	
	ケアマネジメント論		2	
	家族関係論		2	
	死生学		2	
	フィールド・スタディーズ発展（看護）		4	
	〔学科科目〕			
	【専門基礎科目】			
	体の働き１（形態）	1		
	体の働き２（機能）	1		
	病理学	2		
	疾病治療論１（急性期）	2		
	疾病治療論２（慢性期）	2		
	疾病治療論３（母子）	2		
	疾病治療論４（感染と免疫）	1		
	疾病治療論５（精神）	1		
	栄養学	1		
	薬理学	2		
	公衆衛生学	2		
	疫学総論	2		
	保健統計学	2		
	保健医療福祉行政論	2		
	保健医療福祉行政論２		1	保健師は必修
	生命倫理・医療倫理学	1		
	健康保健学		2	
	健康環境論		2	
	臨床栄養学		1	養護教諭は必修
	精神保健論		1	
	むさしのＩＰＥ（保健医療福祉専門職と社会の連携教育）		1	
	セクシュアリティ論		1	
	【看護学・看護実践の基礎】			
	看護学概論	2		
	看護政策論	1		
	基礎看護実習	3		
	基礎看護実践論１（看護実践の基礎）	1		
	基礎看護実践論２（ﾍﾙｽｱｾｽﾒﾝﾄ技術）	2		
	基礎看護実践論３（基本技術・診療技術）	1		
	基礎看護実践論４（生活行動援助技術）	2		
	基礎看護実践論５（シミュレーション）	1		
	看護倫理	1		
	【健康増進・予防と看護】			
	ヘルスプロモーション概論１（個人・家族・集団・地域）	1		
	ヘルスプロモーション概論２（リプロダクティブヘルス・小児期）	2		
	ヘルスプロモーション概論３（成人期・老年期）	2		

看護学部看護学科
別表（1）

区分 / 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
	ヘルスプロモーション各論１（リプロダクティブヘルス）	2		
	ヘルスプロモーション各論２（家族）	1		
	ヘルスプロモーション演習１（基本看護技術）	1		
	ヘルスプロモーション演習２（リプロダクティブヘルス看護技術）	1		
	ヘルスプロモーション演習３（シミュレーション）	1		
	ヘルスプロモーション実習１（個人・家族・集団・地域）	3		
	ヘルスプロモーション実習２（リプロダクティブヘルス）	2		
	【健康段階における看護】			
	＜急性期における看護＞			
	急性期看護概論	1		
	急性期小児看護論	1		
	急性期成人看護論	1		
	急性期老年看護論	1		
	急性期精神看護論	1		
	急性期看護演習１（成人看護・老年看護）	2		
	急性期看護演習２（小児看護・精神看護）	1		
	急性期看護演習３（シミュレーション）	1		
	急性期看護実習１（成人看護・老年看護）	3		
	急性期看護実習２（小児看護）	1		
	＜慢性期における看護＞			
	慢性期看護概論	1		
	慢性期小児看護論	1		
	慢性期成人看護論	1		
	慢性期老年看護論	1		
	慢性期精神看護論	1		
	在宅看護論	1		
	慢性期看護演習１（基本看護技術）	2		
	慢性期看護演習２（在宅看護技術）	1		
	慢性期看護演習３（シミュレーション）	1		
	慢性期看護実習１（成人看護・老年看護）	3		
	慢性期看護実習２（精神看護）	2		
	慢性期看護実習３（在宅看護）	1		
	【集団・地域の健康問題に関わる看護】			
	地域看護論	2		
	地域看護論演習	1		
	地域看護論実習	2		
	公衆衛生看護管理論		1	保健師は必修
	公衆衛生看護診断論演習		1	保健師は必修
	公衆衛生看護論実習		4	保健師は必修
	【看護統合】			
	看護研究１	1		
	看護研究２	3		
	看護ゼミ	1		
	災害看護１（基礎編）	1		
	災害看護２（実践編）	1		
	エンドオブライフケア	1		
	看護管理・政策論	1		
	総合看護演習	1		
	統合実習	3		

看護学部看護学科

別表（1）

区分 学科	授業科目	単位数		備考
		必修	選択	
	【自由選択科目】			
	［心理コース］			
	認知心理学１		2	認定心理士は必修
	認知心理学２		2	
	カウンセリング論		2	
	心理療法論		2	
	［医薬コース］			
	薬物療法学		1	
	臨床医薬品概説		2	
	医療美粧論		1	
	生薬療法（漢方）		1	
	一般用医薬品学		1	
	［養護教諭コース］			
	養護概説		2	養護教諭は必修
	学校保健		2	

別表(1)－3　　（第12条関係）

上限単位数

文 学 部	1年生	2年生	3年生	4年生	合　計
日本文学文化学科	40	44	44	32	160単位
編入生(同系)			40	40	
編入生(異系)			40	40	

グローバル学部	1年生	2年生	3年生	4年生	合　計
グローバルコミュニケーション学科	40	40	40	40	160単位
日本語コミュニケーション学科	40	40	40	40	160単位
グローバルビジネス学科	40	40	40	40	160単位
編入生(同系)			40	40	
編入生(異系)			40	40	

備考　4月以外に入学した者の履修上限単位数については別に定める。

法学部	1年生	2年生	3年生	4年生	合　計
法律学科	40	44	44	32	160単位
政治学科	40	40	40	40	160単位
編入生(同系)			40	40	
編入生(異系)			40	40	

経済学部	1年生	2年生	3年生	4年生	合　計
経済学科	40	40	40	40	160単位
編入生(同系)			40	40	
編入生(異系)			40	40	

経営学部	1年生	2年生	3年生	4年生	合　計
経営学科	40	40	40	40	160単位
会計ガバナンス学科	40	40	40	40	160単位
編入生(同系)			40	40	
編入生(異系)			40	40	

アントレプレナーシップ学部	1年生	2年生	3年生	4年生	合　計
アントレプレナーシップ学科	40	40	40	40	160単位

データサイエンス学部	1年生	2年生	3年生	4年生	合　計
データサイエンス学科	40	42	44	34	160単位

人間科学部	1年生	2年生	3年生	4年生	合　計
人間科学科	40	42	42	36	160単位
社会福祉学科	44	42	39	35	160単位
編入生(同系)			40	40	
編入生(異系)			40	40	

工学部	1年生	2年生	3年生	4年生	合　計
サステナビリティ学科	40	40	40	40	160単位
数理工学科	40	40	40	40	160単位
建築デザイン学科	36	46	46	32	160単位
編入生(同系)			40	40	
編入生(異系)			40	40	

教育学部	1年生	2年生	3年生	4年生	合　計
教育学科	50	58	54	32	194単位
幼児教育学科	47	44	44	32	167単位
編入生(同系)			40	40	
編入生(異系)			40	40	

別表(1)－3　　(第12条関係)

上限単位数

備考　上限単位数に含めない科目は別に定める。

薬学部薬学科(6年制)及び看護学部看護学科は履修科目の上限を各学年50単位以内とする。
ただし、薬学部薬学科(6年制)の1年生については履修上限を56単位以内とする。

文学部日本文学文化学科及び法学部法律学科に平成30年3月31日以前から在籍している者については、別に定める。

別表（２）

教職に関する科目

区分 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
文学部 工学部 （数理工学科のみ） 看護学部	〔教育の基礎的理解に関する科目等〕			
	教師論	2		
	教職特殊研究A		2	
	教職特殊研究B		4	
	教育原理	2		
	発達と学習	2		
	学校の制度	2		
	特別支援教育	2		
	教育課程論	2		
	国語科指導法A		2	必修（免許状取得科目を履修）
	国語科指導法B		2	
	書道科指導法A		2	
	書道科指導法B		2	
	理科指導法		4	
	数学科指導法A		2	
	数学科指導法B		2	
	国語科教育法A		2	一部必修（免許状取得科目を履修）
	国語科教育法B		2	
	書道科教育法		2	
	理科教育法		4	
	数学科教育法A		2	
	数学科教育法B		2	
	道徳教育の理論と方法		2	必修（中1種免）
	道徳教育の理論と方法（総合的な学習の時間及び特別活動を含む）		2	必修（看護学部）
	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法		2	必修（看護学部を除く）
	教育方法論	2		
	生徒指導・進路指導論	2		
	教育相談（カウンセリングを含む）	2		
	教育実習 Ⅰ		3	必修（中1種免・高1種免）
	教育実習 Ⅱ		2	必修（中1種免）
	養護実習		5	必修（看護学部）
	教職実践演習（中・高）		2	必修（中1種免・高1種免）
	教職実践演習（養護教諭）		2	必修（看護学部）

別表（３）

司書に関する科目

区分 学部	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
文学部 グローバル学部 (ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科のみ) 法学部 経済学部 (経済学科のみ) 人間科学部	〔司書に関する科目〕			
	生涯学習概論	2		
	図書館概論	2		
	図書館情報技術論	2		
	図書館制度・経営論	2		
	図書館サービス概論	2		
	情報サービス論	2		
	情報サービス演習Ⅰ	1		
	情報サービス演習Ⅱ	1		
	図書館情報資源概論	2		
	情報資源組織論	2		
	情報資源組織演習Ⅰ	1		
	情報資源組織演習Ⅱ	1		
	児童サービス論	2		
	図書館情報資源特論		2	2科目(4単位) 選択必修
	図書・図書館史		2	
	図書館基礎特論		2	

別表(4)

司書教諭に関する科目

区分 学部	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
文学部 教育学部	〔司書教諭に関する科目〕			
	学校経営と学校図書館	2		
	学校図書館メディアの構成	2		
	学習指導と学校図書館	2		
	読書と豊かな人間性	2		
	情報メディアの活用	2		

別表（6）

区分 学科	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
グローバル学部 (日本語コミュニケーション学科のみ)	〔日本語教員養成に関する科目〕			
	【社会・文化・地域】			
	日本研究（歴史・地域・メディア）A		2	2単位選択必修
	日本研究（歴史・地域・メディア）B		2	
	日本研究（歴史・地域・メディア）C		2	
	日本研究（歴史・地域・メディア）D		2	
	【言語と社会】			
	異文化コミュニケーションA	2		
	異文化コミュニケーションB	2		
	【言語と心理】			
	第二言語習得理論A	2		
	第二言語習得理論B	2		
	【言語と教育】			
	日本語教授法概論A	2		
	日本語教授法概論B	2		
	日本語実践教育A		2	2単位選択必修
	日本語実践教育B		2	
	日本語教育学各論A		2	
	日本語教育学各論B		2	
	日本語教育実習	4		
	【言語一般】			
	日本語学概論	2		
	日本語学各論A		2	4単位選択必修
	日本語学各論B		2	
	音声学基礎A		2	
	音声学基礎B		2	
	日本語教育文法A		2	
	日本語教育文法B		2	

別表 (7)学費

〔文学部日本文学文化学科〕

学　　費	金　　額
入　学　金	180,000　円
授　業　料	770,000　円
教 育 充 実 費	178,000　円

〔グローバル学部グローバルコミュニケーション学科、グローバルビジネス学科〕

学　　費	金　　額
入　学　金	180,000　円
授　業　料	870,000　円
教 育 充 実 費	250,000　円

〔グローバル学部日本語コミュニケーション学科〕

学　　費	金　　額
入　学　金	180,000　円
授　業　料	770,000　円
教 育 充 実 費	250,000　円

〔法学部法律学科、政治学科〕

学　　費	金　　額
入　学　金	180,000　円
授　業　料	820,000　円
教 育 充 実 費	178,000　円

〔経済学部経済学科〕

学　　費	金　　額
入　学　金	180,000　円
授　業　料	770,000　円
教 育 充 実 費	178,000　円

〔経営学部経営学科、会計ガバナンス学科〕

学　　費	金　　額
入　学　金	180,000　円
授　業　料	770,000　円
教 育 充 実 費	178,000　円

〔アントレプレナーシップ学部アントレプレナーシップ学科〕

学　　費	金　　額
入　学　金	180,000　円
授　業　料	770,000　円
教 育 充 実 費	260,000　円

〔データサイエンス学部データサイエンス学科〕

学　　費	金　　額
入　学　金	180,000　円
授　業　料	970,000　円
教 育 充 実 費	260,000　円

〔人間科学部人間科学科、社会福祉学科〕

学　　費	金　　額
入　学　金	180,000　円
授　業　料	820,000　円
教 育 充 実 費	178,000　円

別表 (7)学費

〔工学部サステナビリティ学科〕

学　　費	金　　額
入　学　金	180,000　円
授　業　料	1,020,000　円
教 育 充 実 費	275,000　円

〔工学部数理工学科〕

学　　費	金　　額
入　学　金	180,000　円
授　業　料	1,100,000　円
教 育 充 実 費	325,000　円

〔工学部建築デザイン学科〕

学　　費	金　　額
入　学　金	180,000　円
授　業　料	990,000　円
教 育 充 実 費	330,000　円

〔教育学部教育学科〕

学　　費	金　　額
入　学　金	180,000　円
授　業　料	870,000　円
教 育 充 実 費	222,000　円

〔教育学部幼児教育学科〕

学　　費	金　　額
入　学　金	180,000　円
授　業　料	820,000　円
教 育 充 実 費	222,000　円

〔薬学部薬学科〕

学　　費	金　　額
入　学　金	180,000　円
授　業　料	1,400,000　円
教 育 充 実 費	470,000　円

〔看護学部看護学科〕

学　　費	金　　額
入　学　金	180,000　円
授　業　料	1,220,000　円
教 育 充 実 費	300,000　円

1. 授業料は2年次以降据え置きとし、前期分、後期分の2期に分納する。
2. 教育充実費については、2年次以降 日本文学文化学科、法律学科、政治学科、経済学科、経営学科、会計ガバナンス学科は年額278,000円、グローバルコミュニケーション学科、日本語コミュニケーション学科、グローバルビジネス学科は年額350,000円、アントレプレナーシップ学科、データサイエンス学科は年額360,000円、社会福祉学科は年額278,000円、人間科学科は年額278,000円、サステナビリティ学科は年額275,000円、数理工学科は年額325,000円、教育学科、幼児教育学科は年額312,000円、薬学科は年額530,000円、看護学科は400,000円、建築デザイン学科は、2年次に年額380,000円、3年次以降に年額450,000円を前期分、後期分の2期に分納する。
3. 実費弁償分の実験実習料については、別に定める。
4. (削除)
5. 科目等履修生の履修料は、通年1科目について30,000円(半期及び4学期制の科目は半額)とする。
   単位(資格)取得の場合は通年1科目について70,000円(半期及び4学期制の科目は半額)とする。
6. 同一法人卒業生の入学金については別に定める。

別表(8)

一級建築士並びに二級建築士及び木造建築士受験資格取得に係る科目

専門分野	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
建築設計製図	基礎デザイン2	2		一級建築士指定科目として7単位以上修得 二級・木造建築士指定科目として3単位以上修得
	設計製図1	4		
	設計製図2	4		
	設計製図3		4	
	設計製図4		4	
建築計画	住居史		2	一級建築士指定科目として7単位以上修得 二級・木造建築士指定科目として2単位以上修得
	住居論		2	
	西洋の建築		2	
	アジアの建築		2	
	日本の建築	2		
	建築景観論		2	
	設計方法論	2		
	建築計画	2		
建築環境工学	光環境		2	一級建築士指定科目として2単位以上修得
	音環境		2	
	建築と環境		2	
建築設備	建築設備1		2	一級建築士指定科目として2単位以上修得
	建築設備2		2	
	建築環境論		2	
構造力学	構造力学1		2	一級建築士指定科目として4単位以上修得 二級・木造建築士指定科目として3単位以上修得
	構造力学演習1		2	
	構造力学2		2	
	構造力学演習2		2	
	構造力学3		2	
建築一般構造	建築構造	2		一級建築士指定科として3単位以上修得
	建築構造デザイン	2		
建築材料	建築材料	2		一級建築士指定科目として2単位以上修得
建築生産	建築施工法	2		一級建築士指定科目として2単位以上修得 二級・木造建築士指定科目として1単位以上修得
建築法規	建築法規	2		一級建築士指定科目として1単位以上修得 二級・木造建築士指定科目として1単位以上修得
その他	デザインテクノロジー発展1		2	一級建築士指定科目として、上記区分ごとの単位を含め、実務経験2年は60単位以上、3年は50～59単位、4年は40～49単位修得 二級・木造建築士指定科目として、上記区分ごとの単位を含め、実務経験0年は40単位以上、1年が30～39単位、2年は20～29単位修得
	デザインテクノロジー発展2		2	
	デザインテクノロジー発展3		2	
	デザインテクノロジー発展4		2	
	住宅衛生		2	
	インテリアデザイン1		2	
	インテリアデザイン2		2	
	都市防災		2	
	都市環境		2	
	防災まちづくり論		2	
	建築文化論		2	

別表（９）

保　育　士　資　格　課　程　科　目

告示※による教科目 系列	告示※による教科目 教科目	告示※による教科目 単位数		授業科目名	単位数 必修	単位数 選択	授業時間数（時間）	開講学年	授業形態	備考
教養科目	外国語、体育以外の科目	10以上	6以上	仏教（生き方を考える）基礎	2		30	1	講義	
				仏教（生き方を考える）発展	2		30	3	講義	
				データサイエンス基礎	1		30	1	演習	
				人工知能基礎	1		30	1	演習	
	外国語（演習）		2以上	英語基礎Ａ	2		30	1	演習	
				英語基礎Ｃ	2		30	1	演習	
	体育（講義）		1	体育講義	1		15	1	講義	
	体育（実技）		1	スポーツと身体科学	1		30	1	実技	
必修科目 保育の本質・目的に関する科目	保育原理（講義）	2		保育原理	2		30	1	講義	
	教育原理（講義）	2		教育原理１（保・幼）	2		30	1	講義	
	子ども家庭福祉（講義）	2		子ども家庭福祉	2		30	2	講義	
	社会福祉（講義）	2		社会福祉	2		30	2	講義	
	子ども家庭支援論（講義）	2		子ども家庭支援論	2		30	3	講義	
	社会的養護1（講義）	2		社会的養護1	2		30	2	講義	
	保育者論（講義）	2		教職論（保育者論）	2		30	1	講義	
保育の対象の理解に関する科目	保育の心理学（講義）	2		発達心理学１（保・幼）	2		30	1	講義	
	子ども家庭支援の心理学（講義）	2		発達心理学２（保・幼）	2		30	2	講義	
	子どもの理解と援助（演習）	1		子どもの理解と援助	1		30	3	演習	
	子どもの保健（講義）	2		子どもの保健	2		30	2	講義	
	子どもの食と栄養（演習）	2		子どもの食と栄養	2		60	3	演習	
保育の内容・方法に関する科目	保育の計画と評価（講義）	2		教育課程論（保・幼）	2		30	2	講義	
	保育内容総論（演習）	1		保育内容総論	1		30	1	演習	
	保育内容演習（演習）	5		保育内容（健康）	1		30	2	演習	
				保育内容（人間関係）	1		30	1	演習	
				保育内容（環境）	1		30	1	演習	
				保育内容（言葉）	1		30	1	演習	
				保育内容（表現）	1		30	1	演習	
	保育内容の理解と方法（演習）	4		プレ実習（保育内容の理解と方法）	1		30	1	演習	
				保育内容指導法（身体表現）1	1		30	2	演習	
				保育内容指導法（造形表現）1	1		30	2	演習	
				保育内容指導法（音楽表現）1	1		30	2	演習	
				児童文化	1		30	1	演習	
必修科目 保育の内容・方法に関する科目	乳児保育Ⅰ（講義）	2		乳児保育１	2		30	2	講義	
	乳児保育Ⅱ（演習）	1		乳児保育２	1		30	3	演習	
	子どもの健康と安全（演習）	1		子どもの健康と安全	1		30	3	演習	
	障害児保育（演習）	2		特別支援教育（保・幼）	2		60	3	演習	
	社会的養護Ⅱ（演習）	1		社会的養護２	1		30	3	演習	
	子育て支援（演習）	1		子育て支援	1		30	3	演習	
保育実習	保育実習Ⅰ（実習）	4		保育実習１（保育所）	2		90	3	実習	配属実習45時間(1単位あたり)
				保育実習１（施設）	2		90	2	実習	配属実習45時間(1単位あたり)
	保育実習指導Ⅰ（演習）	2		保育実習指導１（保育所）	1		30	3	演習	
				保育実習指導１（施設）	1		30	2	演習	
総合演習	保育実践演習（演習）	2		保育実践演習（幼児教育学総合ゼミ）	2		60	4	演習	
選択必修科目 保育の本質・目的に関する科目	各指定保育士養成施設において設定	18以上		仏教保育論		2	30	1	講義	保育実習２・保育実習指導２（３単位）又は保育実習３・保育実習指導３（３単位）を含め、９単位以上
保育の対象の理解に関する科目				地域子育てネットワーク論		2	30	4	講義	
保育の内容・方法に関する科目				児童文学		2	30	3	講義	
				保育内容指導法（健康）		2	30	3	講義	
				保育内容指導法（人間関係）		2	30	3	講義	
				保育内容指導法（環境）		2	30	3	講義	
				保育内容指導法（言葉）		2	30	2	講義	
				保育内容指導法（身体表現）2		1	30	2	演習	
				保育内容指導法（造形表現）2		1	30	2	演習	
				保育内容指導法（音楽表現）2		1	30	2	演習	
				音楽１		2	60	1	演習	
				音楽２		2	60	3	演習	
				造形１（保・幼）		1	30	1	演習	
				造形２（保・幼）		1	30	1	演習	
				造形３（保・幼）		1	30	3	演習	
				造形４（保・幼）		1	30	3	演習	
				体育１（保・幼）		1	30	1	演習	
				体育２（保・幼）		1	30	2	演習	
				体育３（保・幼）		2	30	3	講義	
保育実習	保育実習Ⅱ又は保育実習Ⅲ		2以上	保育実習２		2	90	3	実習	配属実習45時間(1単位あたり)
				保育実習３		2	90	3	実習	配属実習45時間(1単位あたり)
	保育実習指導Ⅱ又は保育実習指導Ⅲ		1以上	保育実習指導２		1	30	3	演習	
				保育実習指導３		1	30	3	演習	

※児童福祉法施行規則第６条の２第１項第３号の指定保育士養成施設の修業教科目及び単位数並びに履修方法（厚生労働省告示第百九十八号）

別表(10)

社会福祉士受験資格取得に係る科目

指定科目名	開講科目名	授業形態	単位 必修	単位 選択	必要時間数(h)	備考
人・社会・生活と福祉の理解に関する知識と方法						
医学概論	医学概論	講義	2		30	
心理学と心理的支援	心理学と心理的支援	講義	2		30	
社会学と社会システム	社会学と社会システム	講義	2		30	
社会福祉の原理と政策	社会福祉の原理と政策1	講義	2		30	
	社会福祉の原理と政策2	講義	2		30	
社会福祉調査の基礎	社会福祉調査の基礎	講義	2		30	
総合的かつ包括的な相談援助の理念と方法に関する知識と技術						
ソーシャルワークの基盤と専門職	ソーシャルワークの基盤と専門職1	講義	2		30	
ソーシャルワークの基盤と専門職(専門)	ソーシャルワークの基盤と専門職2	講義	2		30	
ソーシャルワークの理論と方法	ソーシャルワークの理論と方法1	講義	2		30	
	ソーシャルワークの理論と方法2	講義	2		30	
ソーシャルワークの理論と方法(専門)	ソーシャルワークの理論と方法3	講義	2		30	
	ソーシャルワークの理論と方法4	講義	2		30	
地域福祉の基盤整備と開発に関する知識と技術						
地域福祉と包括的支援体制	地域福祉と包括的支援体制1	講義	2		30	
	地域福祉と包括的支援体制2	講義	2		30	
福祉サービスの組織と経営	福祉サービスの組織と経営	講義	2		30	
サービスに関する知識						
社会保障	社会保障1	講義	2		30	
	社会保障2	講義	2		30	
高齢者福祉	高齢者福祉	講義	2		30	
障害者福祉	障害者福祉	講義	2		30	
児童・家庭福祉	児童・家庭福祉	講義	2		30	
貧困に対する支援	貧困に対する支援	講義	2		30	
保健医療と福祉	保健医療と福祉	講義	2		30	
権利擁護を支える法制度	権利擁護を支える法制度	講義	2		30	
刑事司法と福祉	刑事司法と福祉	講義	2		30	
実習・演習						
ソーシャルワーク演習	ソーシャルワーク演習1	演習	2		30	
ソーシャルワーク演習(専門)	ソーシャルワーク演習2	演習	2		30	
	ソーシャルワーク演習3	演習	2		30	
	ソーシャルワーク演習4	演習	2		30	
	ソーシャルワーク演習5	演習		2	30	
ソーシャルワーク実習指導	ソーシャルワーク実習指導1	実習		2	30	
	ソーシャルワーク実習指導2	実習		2	30	
	ソーシャルワーク実習指導3	実習		2	30	
ソーシャルワーク実習	ソーシャルワーク実習	実習		5	240	

別表(11)

精 神 保 健 福 祉 士 受 験 資 格 取 得 に 係 る 科 目

指定科目名	開講科目名	授業形態	単位 必修	単位 選択	必要時間数(h)	備考
共通科目						
医学概論	医学知識(人体の構造と機能及び疾病)	講義	2		30	「心理学概論Ⅰ」「心理学概論Ⅱ」については両方履修することで1科目とみなす ※「心理学概論Ⅰ」「心理学概論Ⅱ」は学科指定科目
心理学と心理的支援	心理学概論Ⅰ	講義	2		30	
	心理学概論Ⅱ	講義	2			
社会学と社会システム	社会学	講義	2		30	
社会福祉の原理と政策	社会福祉の原理と政策Ⅰ	講義	2		30	
	社会福祉の原理と政策Ⅱ	講義	2		30	
地域福祉と包括的支援体制	地域福祉論Ⅰ	講義	2		30	
	地域福祉論Ⅱ	講義	2		30	
社会保障	社会保障Ⅰ	講義	2		30	
	社会保障Ⅱ	講義	2		30	
障害者福祉	障害者福祉論	講義	2		30	
権利擁護を支える法制度	権利擁護を支える法制度	講義	2		30	
刑事司法と福祉	刑事司法と福祉	講義	2		30	
社会福祉調査の基礎	社会調査法	講義	2		30	
専門科目						
精神医学と精神医療	精神医学(精神疾患とその治療)Ⅰ	講義	2		30	
	精神医学(精神疾患とその治療)Ⅱ	講義	2		30	
現代の精神保健の課題と支援	メンタルヘルス論Ⅰ	講義	2		30	
	メンタルヘルス論Ⅱ	講義	2		30	
ソーシャルワークの基盤と専門職	ソーシャルワーク論	講義	2		30	
精神保健福祉の原理	精神保健福祉の原理Ⅰ	講義	2		30	
	精神保健福祉の原理Ⅱ	講義	2		30	
ソーシャルワークの理論と方法	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	講義	2		30	
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	講義	2		30	
ソーシャルワークの理論と方法(専門)	ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅰ	講義	2		30	
	ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅱ	講義	2		30	
精神障害リハビリテーション論	精神障害リハビリテーション論	講義	2		30	
精神保健福祉制度論	精神保健福祉制度論	講義	2		30	
実習・演習						
ソーシャルワーク演習	ソーシャルワーク演習	演習	1		30	
ソーシャルワーク演習(専門)	ソーシャルワーク演習(専門)Ⅰ	演習	1		30	
	ソーシャルワーク演習(専門)Ⅱ	演習	1		30	
	ソーシャルワーク演習(専門)Ⅲ	演習	1		30	
ソーシャルワーク実習指導	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	実習	1		30	
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	実習	2		60	
ソーシャルワーク実習	ソーシャルワーク実習	実習	4		210	

別表(12)

保 健 師 受 験 資 格 取 得 に 係 る 科 目

指定規則に定める科目	授 業 科 目	単位数		備考
		必修	選択	
公衆衛生看護学概論	地域看護論	2		
公衆衛生看護学	ヘルスプロモーション概論１（個人・家族・集団・地域）	1		
	ヘルスプロモーション概論2(リプロダクティブヘルス・小児期)	2		
	ヘルスプロモーション概論3(成人期・老年期)	2		
	ヘルスプロモーション各論２（家族）	1		
	ヘルスプロモーション演習１（基本看護技術）	1		
	ヘルスプロモーション演習３（シミュレーション）	1		
	在宅看護論	1		
	地域看護論演習	1		
	公衆衛生看護管理論	1		
	公衆衛生看護診断論演習	1		
	災害看護１（基礎編）	1		
	災害看護２（実践編）	1		
疫学	疫学総論	2		
保健統計学	保健統計学	2		
保健医療福祉行政論	保健医療福祉行政論	2		
	保健医療福祉行政論２	1		
臨地実習	公衆衛生看護論実習	4		
	地域看護論実習	2		

○工学部教授会運営内規

（平成２７年　４月　１日）
改正　令和　２年　６月　１日

第１条　この内規は、武蔵野大学学則（以下「学則」という。）第５３条第３項に基づき、工学部の教授会運営に必要な事項について定める。

第２条　教授会は構成員の２分の１以上の出席がなければ議事を開き議決することができない。この場合、公務による出張中の者及び休職中の者は、構成員の定数には加えないものとする。

第３条　教授会開催にあたっては、あらかじめ議案を通知し、円滑な審議を図るものとする。

第４条　教授会は充分な審議のすえ、その総意を得られず可否いずれとも決し難いときに限り、無記名投票をもって議決するものとする。この場合の議決は出席者の過半数をもって行い、可否同数のときは議長の決するところによる。

第５条　学校教育法施行規則（以下「施行規則」という。）第１４３条第２項に基づき、学則第５３条第１項第３号に含まれる教員の資格認定に関する事項については、教員資格審査委員会（以下「委員会」という。）をもって行う。なお、教養教育担当教員に関しては教養教育部会で行う。

２　委員会は、次の者をもって構成する。
（１）　学部長
（２）　学科長
（３）　教授会の推薦による教授２名
（４）　教員資格認定対象者の専攻分野における他学部又は学外の学識経験者複数名、この委員は理事長・学部長と協議して学長が委嘱する。

３　委員会の運営内規は、別に定める。

第６条　教授会は学則第５３条第１項に定める審議事項のうち次の事項に限って、以下の者を教授会に出席させるものとする。
（１）　同項第６号の学業評価に関する事項については、准教授及び専任講師
（２）　同項第８号及び第９号の学生生活に関する事項については、准教授及び専任講師

第７条　施行規則第１４３条第２項に基づき、学則第５３条第１項に定める審議事項のうち、同項第４号及び第１０号の事項は代議員会の議決をもって教授会の議決に代えることができる。

２　代議員会は、次の者をもって構成する。
（１）　学部長
（２）　学科長
（３）　教授会の推薦による教授２名、この代議員の任期は２年とする。

３　代議員会の運営内規は別に定める。

第８条　学則第５３条第１項第１号に定める学生の入学に関する事項については、入学者選考委員会の議決をもって教授会の議決に代えることができる。

２　入学者選考委員会は、次の者をもって構成する。
（１）　学部長
（２）　学科長
（３）　入試実務委員

３　入学者選考委員会の運営内規は別に定める。

第９条　この内規の改廃は、教授会の議を経て学部長が行う。

附　則
この内規は、平成２７年４月１日から施行する。

附　則（専務理事及び学院長並びに学内理事者会の廃止に伴う規程改正規程制定による改正）

この内規は、令和２年６月１日から施行する。

○工学部教員資格審査委員会内規

（平成２７年　４月　１日）
改正　令和　２年　４月　１日　　令和　２年　６月　１日

第１条　この内規は、工学部教授会運営内規第５条第３項に基づき、工学部の教員資格認定に必要な事項について定める。
第２条　教員資格審査委員会（以下「委員会」という。）は、武蔵野大学教員の任用に関する規程（以下「規程」という。）第８条第２項に定める理事長の了承を得て開催する。
第３条　委員会は、学部長が招集し議長となる。学部長に事故あるときは、あらかじめ学部長が指名した者がその職務を代行する。
第４条　委員会は、委員の３分の２以上の出席をもって成立し、無記名投票の多数決をもって審査を決する。
第５条　教員資格は、規程第４条から第７条に定めるほか、別表１から別表３までに定める基準点を満たす者とする。
第６条　教員資格審査は、教員資格認定対象者の教育研究業績及び担当予定科目の教育方法の内容により審査するものとする。
２　担当予定科目の教育方法の内容の審査は、委員会における教員資格認定対象者の発表によるものとする。この場合において、理事長・学長は委員会に出席することができる。
第７条　委員会は、教員資格審査の結果について、教授会に報告しなければならない。
第８条　委員会の庶務は、学部事務課が行う。
第９条　この内規の改廃は、代議員会の議を経て学部長が行う。

附 則
この内規は、平成２７年４月１日から施行する。
附 則（別表１、３改正）
この内規は、令和２年４月１日から施行する。
附　則（専務理事及び学院長並びに学内理事者会の廃止に伴う規程改正規程制定による改正）
この内規は、令和２年６月１日から施行する。

別表１
a）採用時の基準点　（通算期間）

	教育点	研究業績点	計
教授（通算期間）	35点まで	15点以上	50点以上
准教授（通算期間）	15点まで	15点以上	30点以上
専任講師（通算期間）	5点まで	15点以上	20点以上
助教（通算期間）	5点まで	10点以上	15点以上
助手（通算期間）	3点以上		3点以上
非常勤講師（通算期間）	5点まで	5点以上	10点以上

なお、企業、官公庁等の出身者で教育研究上の業績のない者を採用する場合は、その職務上の実績をもって教育研究業績に代えることができるものとする。

b）昇任時の基準点

	教育点	研究業績点	計
教授（准教授在任期間）	10点まで	10点以上	20点以上
准教授（講師在任期間）	5点まで	5点以上	10点以上
専任講師（助教在任期間）	3点まで	3点以上	5点以上

基準点は、別表２の「教育点」、別表３「業績点」によるものとする。

別表２

a）採用時の教育点

大学等の教育機関	常勤	2点
大学等の教育機関	非常勤	1点
その他の教育機関	常勤・非常勤	0.5点

註）採用時の教育点は１年についての標準点とし、同一期間に複数の教育機関が重なる場合は、得点上位のものをカウントする。

b）昇任時の教育点（社会活動を含む）

教学管理職	2点
学科長	1点
委員会委員長（相当するものを含む）	1点
委員会委員　（相当するものを含む）	0.5点
学内外の講座等の担当	0.5点～1点
アドバイザー	0.5点
基準超過授業（1コマについて） （大学院の授業担当）	0.5点
学会理事等（１学会について）	1点
大学が有益と認めた社会活動・教育活動	0.5点～1点

註）昇任時の教育点は１年についての標準点とする。

別表３

a）自然科学の業績点

項目			点数
学会の発行する学会誌	欧文誌	※１件	2～5
〃	欧文誌　審査なし	※１件	1～2
〃	邦文誌	※１件	1～3
〃	邦文誌　審査なし	※１件	0.5
その他の研究機関等の発行する学術雑誌又は、 研究報告書に掲載した論文（講座要旨集を含まない）		※１件	1～2
学術研究図書（単著）		１件	2～5
〃　（共著）		※１件	1～3
教育啓蒙図書（単著）		１件	1～2
〃　（共著）		※１件	0.5～1
実験講義テキスト（公刊）		※１件	0.5～1
学術調査・委託試験調査による研究報告書		※１件	0.5～1
学術研究成果による受賞		※１件	1～3
学術研究成果による特許		※１件	1～3
国内、国外における特筆すべき活動による成果			1～3
研究紀要		※１件	1～2
準学術誌登載の学術記事・教育啓蒙記事		※１件	0.5～1
国際学会における発表		※１件	1～2
学会における発表		※１件	0.3～1
当該専門分野における学術・研究図書の翻訳刊行物		※１件	0.2～1
当該専門分野における業務・研究暦1年ごとに			0.5
当該専門分野における資格取得			0.5～3
博士学位の取得			2～5
修士学位の取得			1

※ 主たる研究者でないものは上記点数の半分とする。

ｂ）人文・社会科学の業績点

項目	点数
学術研究図書（単著）　１件	2～5
〃　（共著）　※１件	1～3
教育啓蒙図書（単著）　１件	1～2
〃　（共著）　※１件	0.5～1
大学・学会・研究機関などの発行する学術雑誌等に掲載した論文　※１件	1～3
学術研究調査の報告論文　※１件	0.5～1
研究紀要　※１件	1～2
準学術誌の論文　※１件	0.5～2
雑誌の論文（啓蒙論文含む）　※１件	0.5～2
学会発表（オリジナルな資料・文献等に基づいた科学性がチェックされる権威ある学会）　※１件	1～2
権威ある学会賞又は出版文化賞　１件	2～3
当該専門分野における学術・研究図書の翻訳刊行物　※１件	0.2～1
当該専門分野における資格取得	0.5～3
博士学位の取得	2～5
修士学位の取得	1

※ 主たる研究者でないものは上記点数の半分とする。

ｃ）芸術・技能の業績点

項目	点数
大学・学会・研究機関に相当する権威の認められた機関の審査を経た発表作品又は認められた技能　１件	1～3
芸術・技能（体育・スポーツを含む）に関しての学術著書に相当する刊行図書（単著）　１件	2～5
〃　（共著）　※１件	1～3
教育啓蒙図書（単著）　１件	1～2
〃　（共著）　※１件	0.5～1
芸術・技能の専門雑誌に記載された論文・作品　１件	1～2
公開された作品展　１件	1～2
芸術・技能の権威ある機関の賞を得た作品又は技能　１件	1～3
当該専門分野における学術・研究図書の翻訳刊行物　※１件	0.2～1
研究紀要　※１件	1～2
準学術誌の論文　※１件	1
雑誌の論文（啓蒙論文含む）　※１件	0.5～2
学会における発表　※１件	0.5
当該専門分野における特殊な技芸および技術の業績　１件	0.2～0.5
当該専門分野における業務暦1年ごとに	0.5
当該専門分野における資格取得	0.5～3
博士学位の取得	2～5
修士学位の取得	1

※主たる研究者でないものは上記点数の半分とする。

a)、b)、c)　共、特に秀れていると認められた論文、著書、作品、技能に対しては、別途１～５点を加えることができる。
a)、b)、c)　共、博士と修士の学位取得点数を合算することはできない。

○工学部代議員会運営内規

（平成２７年　４月　１日）
改正　令和　２年　６月　１日

第１条　この内規は、工学部教授会運営内規第７条第３項に基づき、工学部の代議員会の運営に必要な事項について定める。
第２条　代議員会は、必要に応じて開催する。
第３条　代議員会は、学部長が招集し議長となる。学部長に事故あるときは、あらかじめ学部長が指名したものがその職務を代行する。
第４条　代議員会は、次の事項について審議決定する。
（１）　教授会並びに教員資格審査委員会に付議する議案に関する事項
（２）　教授会から審議を付託された事項
（３）　理事長及び学長から諮問された事項
（４）　学部長から提案された事項
（５）　その他学部の運営に必要な事項
第５条　代議員会は、代議員会の審議の結果について、教授会に報告しなければならない
第６条　代議員会の庶務は、学部事務課が行う。
第７条　この内規の改廃は、代議員会の議を経て学部長が行う。

附　則
この内規は、平成２７年４月１日から施行する。
附　則（専務理事及び学院長並びに学内理事者会の廃止に伴う規程改正規程制定による改正）
この内規は、令和２年６月１日から施行する。

○入学者選考委員会運営内規

（平成２４年　４月　１日）

第１条　この内規は、各学部の入学者選考委員会（以下「選考委員会」という。）の運営について必要な事項を定める。

第２条　選考委員会は、入学試験採点終了後速やかに行うものとする。

第３条　選考委員会は、各学部長が招集し議長となる。

第４条　選考委員会は、入学者の選考について審議決定する。
２　各学部長は、審議結果について速やかに学長に報告しなければならない。

第５条　各学部長は、審議結果について教授会に報告しなければならない。

第６条　選考委員会の庶務は、企画部入試センター事務課が行う。

第７条　この内規の改廃は、教授会の意見を聞き学部長会議の議を経て学長が行う。

附　則
この内規は、平成２４年４月１日から施行する。

設置の趣旨等を記載した書類　目次

１．設置の趣旨及び必要性　p.1
（１）本学の教育理念及び沿革　p.1
（２）工学部サステナビリティ学科の設置の必要性について　p.1
（３）育成する人材・教育研究上の目的・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）　p.2
（４）組織として研究対象とする中心的な学問分野　p.4
（５）教育研究上の具体的な到達目標等　p.4
２．学部・学科等の特色　p.4
３．学部・学科等の名称及び学位の名称　p.6
（１）学部・学科・学位名・英語名称　p.6
（２）当該名称とする理由　p.6
４．教育課程の編成の考え方及び特色　p.7
（１）教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）　p.7
（２）共通科目の編成　p.7
（３）学科科目の編成　p.8
５．教育方法、履修指導方法及び卒業要件　p.10
６．多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修させる場合の具体的計画　p.11
７．企業実習や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画　p.12
８．入学者選抜の概要　p.14
（１）基本的な考え方（アドミッション・ポリシー）　p.14
（２）入試内容　p.14
９．教員組織の編成の考え方及び特色　p.17
10．施設、設備等の整備計画　p.17
（１）校地・運動場の整備計画　p.17
（２）校舎等施設の整備計画　p.18
（３）図書等の資料及び図書館の整備計画　p.18
11．２以上の校地において教育研究を行う場合の具体的計画　p.20
12．管理運営　p.20
13．自己点検・評価　p.21
14．情報の公表　p.23
15．教育内容等の改善を図るための組織的な研修等　p.24
16．社会的・職業的自立に関する指導等及び体制　p.26
（１）教育課程内の取組について　p.26
（２）教育課程外の取組について　p.27
（３）適切な体制の整備について　p.27

１．設置の趣旨及び必要性

（１）本学の教育理念及び沿革

本学は、大正 13 年に創設された武蔵野女子学院を母体としており、創設者高楠順次郎博士の「仏教主義により、未来の母性たるべき女子の智能を啓き、以てその徳を涵養する」という建学の精神に基づき昭和 40 年度に文学部を設置して以来、時代とともに変遷する多様な社会ニーズに対応しながら、専門的知識・能力を有する人材を養成し、社会貢献を行ってきた。また、その間、平成 15 年度には校名を武蔵野女子大学から武蔵野大学に変更し、平成 16 年４月からは男女共同参画社会の実現に向けて、全学部を男女共学とした。平成 24 年４月１日には法人名を学校法人武蔵野大学に変更し、東京都江東区有明の臨海副都心に有明キャンパスを開設し、立地を活かして企業や官公庁との産官学連携や国内外の教育研究機関との交流等を推進している。現在、通学制 12 学部 13 研究科、通信制２学部３研究科を擁する総合大学であり、更なる教育研究の充実に向けて努力している。

また、平成 28 年度より「世界の幸せをカタチにする。」を本学のブランドステートメントとしている。世界の幸せをカタチにするために、学生、教職員、本学に関わりのあるすべての人々が「感性」を磨き合い、「知恵」を開き合い、「響創力」を高め合うことを推進している。この３つの要素は、学生、教職員、本学に関わりのあるすべての人々が目指すべき姿であるとともに、あらゆる場面でどのように意思決定し、行動すべきか示す指針である。また、このブランドステートメントは、2050 年の未来に向けて本学に課された使命を果たしていく決意の表明である。

（２）工学部サステナビリティ学科の設置の必要性について

現在、人類は、エネルギーや物質の大量生産・大量消費の仕組みに支えられ、空前の物質的豊かさを享受している。同時に、20 世紀後半以降の人間活動の大加速（グレート・アクセラレーション）は、気候変動、生物多様性の危機、化学物質による環境汚染などの深刻な地球環境問題をもたらした。人間の及ぼす影響が地球生態系の許容量を超えていることは科学者の指摘するところであり**【資料１】**、このままの状態が続けば生命の基盤としての地球環境の持続可能性（サステナビリティ）が危ぶまれる。一方で、人間の形成する社会の内部においても、数多くの問題が存在する。貧困や飢餓、衛生、福祉などは世界的に大きな問題であり、また、日本においては、人口減少、少子高齢化、地方の衰退など、社会の基盤を揺るがす変化の只中にある。このような状況において、社会や地球環境のサステナビリティは、現代に暮らす我々の最重要課題のひとつであるといえる。

社会と地球環境の諸問題は、複雑に絡み合っている。例えば、気候変動は生態系保全などの他の環境問題とつながり、さらには、貧困や飢餓、衛生、安全保障などの社会問

題とつながっている。問題間にはトレードオフの関係が存在する場合もあり、ある問題の解決策が別の問題を引き起こすこともある。それゆえ、サステナビリティの課題は、個別分野における部分最適的な対策では解決することはできず、分野横断的に全体を俯瞰し、問題や関連要素のつながりを理解し、統合的アプローチにより解決を図る必要がある。このことは国連の『持続可能な開発のための 2030 アジェンダ』においても強調されており、サステナビリティを軸に社会や環境の複雑な問題を読み解き、分野横断的アプローチにより課題解決をする能力を備えた人材の育成が急務である。具体的には、エネルギー、水、食、資源循環、生態系、福祉、経済、政策、倫理などのサステナビリティ関連諸分野についての幅広い知識を修得し、かつ、システム思考、ライフサイクル思考、リスクマネジメントなどについての考え方を身につけ、分野横断的視点から問題をとらえる能力を持つ人材の育成が必要である。

また、サステナビリティを具体的に推進していくためには、企業や行政、市民社会などの現場レベルで具体的な解決策を考案し、実装する人材の育成が強く求められている。具体的には、ソフト面から変化を生み出す社会技術、すなわち企業や国、自治体などの現場で、多様で幅広い関係者との対話や協働を通じてサステナビリティを推進する仕組みの構築や、新規事業を生み出し実装するソーシャルデザインの知識とスキルが求められる。また、データサイエンスやＡＩの基本的知識とスキルを身につけたうえで、環境問題に対する工学的な解決策を考案するための能力、すなわち環境を調査、分析し、シミュレーションや設計などにより実現可能な解決策を検討し、提案する環境エンジニアリングの知識とスキルが求められる。

以上のように、サステナビリティという人類最大の課題を克服するためには、このようなソーシャルデザインと環境エンジニアリングの知識とスキルを有し、社会において具体的な変化を起こすことができる人材を育成する必要がある。そうした社会的要請に応えるため、臨海副都心に位置し、企業や官公庁との産官学連携や国内外の教育研究機関との交流等を推進している有明キャンパスに、令和５年度より工学部サステナビリティ学科を設置する。

（３）育成する人材・教育研究上の目的・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

① 育成する人材

人類社会や地球環境のサステナビリティに対する深い理解に基づき、ソーシャルデザイン及び環境エンジニアリングの知識・方法・技術によって、サステナブルな世界の実現に貢献できる人材を養成する。

② 教育研究上の目的

サステナビリティに対する理解を深め、ソーシャルデザイン及び環境エンジニアリングの知識・方法・技術を身につけることによって、サステナブルな世界を実現するための課題解決ができる実践的な能力を習得させる。

③ 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本学全体のディプロマ・ポリシーは、『「アクティブな知」を獲得し、創造的に思考・表現する力を備えて、世界の課題に立ち向かう』としている。理論と実践を有機的に組み合わせ基礎課程と専門課程で構成される教育課程及び課題研究やＰＢＬ（Project Based Learning）、ディスカッション、ケーススタディ、プレゼンテーション等、学生の能動的な学修を取り入れたアクティブラーニング等を通じ、「学びの基礎力を基盤とした専門能力」「他者と自己を理解し、自発的に踏み出す力」「課題を多角的に捉え、創造的に考える力」「多様な人々のなかで、自らの考えを表現・発信する力」の４つの力を身につけ、「アクティブな知」を獲得していく。

本学科では、本学のディプロマ・ポリシーに則り、また、高い倫理観と専門知識を兼ね備えた有為な人材を輩出するという教育目標に基づき、学士課程教育を通じて以下の基準を満たす者に学位を授与する。

＜サステナビリティ学科ディプロマ・ポリシー＞

Ⅰ．知識・専門性【学びの基礎力を基盤とした専門能力】
① 自ら教養・基礎学力を修得し、自立的・主体的に学ぶことができる。【教養・基礎学力】 ② データ分析/ＡＩ活用や、プログラミングの基礎を身につけ、課題解決に活用することができる。【教養・基礎学力】 ③ 人類社会や地球環境のサステナビリティに対する深い理解を有する。【専門能力】 ④ ソーシャルデザイン及び環境エンジニアリングに関する知識・方法・技術を習得している。【専門能力】
Ⅱ．関心・態度・人格【他者と自己を理解し、自発的に踏み出す力】
① 自己と他者を理解し、多様性を認め合い、自分らしく過ごせる公平な関係性を築くことができる。【自己認識力・他者理解力】 ② よりよい世界の実現のために取り組むべき課題を見つけることができる。【課題発見力】 ③ 変化する時代において、問い、学び、挑戦し続ける姿勢を持つ。【主体性】 ④ 社会・環境の課題に対する具体的な解決策を考え、実行することができる。【実行力】 ⑤ 高い倫理観を持ち、サステナブルな世界の実現に向け、考え、行動することができる。【人格形成・使命感】
Ⅲ．思考・判断【課題を多角的に捉え、創造的に考える力】
① 必要な情報を収集し、批判的、論理的思考をもって物事を分析することができる。【情報分析力・論理的思考力】 ② 多面的に物事をとらえ、包括的視点から意思決定を行うことができる。【判断力】 ③ 解決すべき課題の問題構造を理解し、本質的な原因を見極めたうえで解決策をデザインすることができる。【課題解決力】 ④ 与えられた条件下で課題解決にむけたアイデアを創造的に考えることができる。【創造的思考力】
Ⅳ．実践的スキル・表現 【多様な人々のなかで、自らの考えを表現・発信する力】
① 言葉やその他の方法で、他者と意思の疎通をしたり、情報共有をしたりすることができる。【コミュニケーション力】

② 自分の伝えたいことを、文章や図表、画像や映像などを使って適切に表現することができる。【表現力】 ③ 対話や協働を通じて、人や組織が望ましい方向へと進むようリードすることができる。【傾聴力・リーダーシップ・チームワーク力】

（４）組織として研究対象とする中心的な学問分野

本学科が研究対象とする中心的な学問分野は、社会学及び工学の分野である。

社会学では特に、サステナビリティを推進する仕組みの構築や新規事業を生み出し実装するソーシャルデザインの知識とスキルの分野である。工学では特に、課題解決策を検討する環境エンジニアリングの知識とスキルの分野である。

（５）教育研究上の具体的な到達目標等

本学科では、教育研究上の具体的な到達目標として、卒業後の具体的な進路を以下のとおり想定している。

・企業や国・自治体、ＮＰＯなどのサステナビリティ推進担当者
・環境関連企業や製造業・サービス業の環境エンジニア
・大学院進学

今やサステナビリティ推進は環境専門企業のみならず、業種を問わない多様な企業・自治体等から必要とされている。本学科では、サステナビリティに対する理解を深め、ソーシャルデザイン及び環境エンジニアリングの知識・方法・技術を身につけることによって、サステナブルな世界を実現するための課題解決に向けて具体的に行動することができる人材を育成する。

２.学部・学科等の特色

中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」の提言する「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」を踏まえ、本学科では仏教精神を根幹として学識、情操、品性にすぐれた人格を育成するとともに、人類社会や地球環境のサステナビリティに対する深い理解に基づき、ソーシャルデザイン及び環境エンジニアリングの知識・方法・技術によって、サステナブルな世界の実現に貢献できる人材を養成する。

本学科の主な特色は、以下の４点である。

①ＰＢＬ（Project Based Learning）を中心とした学び

サステナブルな社会づくりは人類の直面する答えのない課題であることから、それに取り組むには自ら問い、学び、創造的に解決策を考える能力が必要となる。その能力を身につけるため、本学科ではＰＢＬをカリキュラムの中心に据える。学生たちは１年次から３年次にかけてプロジェクト科目において、社会のリアルな課題に向き合い、その解決に挑戦する。本科目は他の科目と有機的につながっており、プロジェクトに必要な基礎知識や

考え方、スキルを専門科目で修得する。そのようなカリキュラム設計にすることで、学生たちは活きた専門知識やスキルを身につけていく。また、教員は学生の主体的な研究や学外での学修体験を積極的に支援する。これにより、学生は自らの興味関心や問題意識にしたがって、自律的に学び続ける姿勢を身につける。３年次後期から４年次にかけては、それまでのプロジェクトや授業、様々な体験からの学びを活かして、自ら問いを立て研究活動を行っていく。

② サステナビリティの基礎力を養う「サステナビリティ基幹科目」

サステナビリティの学問・研究は広い分野にわたるため、基礎的な知識や考え方をしっかりと修得したうえで応用的分野に展開していく必要がある。特に大事なことは、サステナビリティとは何かということについての本質的理解である。そのために、１、２年次に配置するサステナビリティ基幹科目において、サステナビリティの概念、人と自然の関係性や倫理、自然科学的基礎を身につける。そのうえで、エネルギー、水、食、資源循環、生態系、福祉、政策、経済といったサステナビリティ関連主要分野の知識や理論を学ぶ。さらには、相互に絡み合う複雑な問題を理解し、包括的視点から対策を考える思考法を身につける。具体的には、システム思考、環境影響の総体をとらえるライフサイクル思考、不確実な状況下においてリスクの最小化をはかるリスクマネジメントの考え方を身につける。これらの学びが本学科での学びの土台となる。

③「ソーシャルデザイン」と「環境エンジニアリング」の２つの分野

社会の中でサステナビリティを推進するためには、企業や国・自治体、ＮＰＯなどの現場で具体的な解決策を提案するための実践的知識とスキルが求められる。本学科では、「ソーシャルデザイン」と「環境エンジニアリング」の２つの分野（履修モデル）を設定し、学生が選択的に実践的知識とスキルが修得できるようにしている。

ソーシャルデザイン科目では、多様な主体との対話や協働により社会や組織の仕組みをデザインし実装する能力を身につける。具体的には、企業、地域、人（教育・心理）を主な領域として、それぞれの領域で変化を生み出すための知識とスキルを学ぶ。企業系科目では、サステナブル経営やソーシャルビジネス、地域系科目では、持続可能な地域づくりやコミュニティデザイン、教育・心理系科目ではＥＳＤ（Education for Sustainable Development）や環境心理などについて学ぶ。また全体に共通して、他者と協働して変化を起こすための実践的スキルである共創型リーダーシップ、ファシリテーション、合意形成、メディア表現などを学ぶ。

環境エンジニアリング科目では、工学的アプローチにより環境の調査、分析、管理を行う能力を身につける。具体的には、エネルギー・気候変動、資源循環、化学物質管理、自然環境の４つの領域について学ぶ。エネルギー・気候変動系科目では、環境気象学やカーボンマネジメント手法、資源循環系科目ではライフサイクルアセスメントや資源循環マネ

ジメント手法、化学物質管理系科目ではリスク評価や管理手法、自然環境系科目では遺伝子、種、生態系の多様性の保全や管理手法などについて学ぶ。また全体に共通して、環境調査手法、統計学、地理情報システム（ＧＩＳ）、コンピュータ支援設計（ＣＡＤ）などの実践的スキルを学ぶ。

これらの科目で学んだ知識やスキルを、プロジェクト科目において現実の社会、環境課題の解決に取り組む過程で活用することにより、学生たちの中で確かな能力として、より活きた知識やスキルへとなっていく。

④ 情報副専攻コース(ＡＩ活用エキスパートコース)の履修の推奨

全学共通基礎課程に設定されているＡＩ活用エキスパートコースの履修を奨励する。データサイエンス及び人工知能の基礎的知識とスキル、論理的思考・デザイン思考・データ思考などの情報技法、プログラミングリテラシーなどの基盤的な技法を身につける。学科での学びにＡＩ活用のスキルを併せ持つことで、より高い実践力を習得させることができると考える。

なお、本コースのうち、入門科目として位置付けている「データサイエンス基礎」「人工知能基礎」は文部科学省の「数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム（リテラシーレベル）」にも認定されている。

３.学部・学科等の名称及び学位の名称

（１）学部・学科・学位名・英語名称

学部名：工学部　［Faculty of Engineering］
学科名：サステナビリティ学科　［Department of Sustainability Studies］
学位名：学士（サステナビリティ学）［Bachelor of Sustainability Studies］

（２）当該名称とする理由

サステナビリティは、環境、社会、経済の３つの観点から世の中を持続可能にしていくという考えであり、2015 年９月に国連サミットでＳＤＧｓ（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）が採択されて以降、世界的にサステナビリティに対する注目と関心が高まり、社会全体に広く浸透してきている。

それに伴い、多様な課題について具体的な解決策を実践し、さらにはそれを牽引していく人材の養成が求められる。

この社会的な要請に応えるため、人類社会や地球環境のサステナビリティに対する深い理解に基づき、サステナブルな世界の実現に貢献できる人材の養成を目的に、本学科をサステナビリティ学科とし、学位名称を学士（サステナビリティ学）とする。英語名称については、世界的にも広く用いられている Sustainability Studies を採用し、学科名称を Department of Sustainability Studies、学位名称を Bachelor of

Sustainability Studies とする。

日本国内では法政大学人間環境学部が英語名称として Faculty of Sustainability Studies を用いている他、米国イリノイ州にある Roosevelt University では Bachelor of Arts in Sustainability Studies、同じくイリノイ州の Dominican University には Bachelor of Professional Studies in Sustainability Studies の学位が存在し、国際的にも通用性があるといえる。

なお、学部の名称については、本学科の基礎となる学科は工学部環境システム学科であり、工学的なアプローチによる教育研究手法を一部継続して行うことから、工学部サステナビリティ学科とする。

４.教育課程の編成の考え方及び特色

（１）教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）

本学科の教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）を達成するために、教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）を**【資料２】**のとおり体系的に編成する。

（２）共通科目の編成

共通科目の全学共通基礎課程「武蔵野ＩＮＩＴＩＡＬ」を令和３年度から導入しており、本学科も他学部等と同様に「武蔵野ＩＮＩＴＩＡＬ」を導入する。

「武蔵野ＩＮＩＴＩＡＬ」は、平成 20 年 12 月 24 日の中央教育審議会答申「学士課程教育の構築に向けて」において、教育課程の体系化・構造化、バランスのとれたコミュニケーション能力の養成等、一方的な知識・技能を教え込むのではなく、豊かな人間性や課題探求能力の養成に配慮することが学士課程教育の質の維持・向上に向けた改革の方策として挙げられていることに鑑み、大学初年次の教育の質の向上を目指したものである。

具体的には、『建学』『スポーツ・身体』『情報』『外国語』『教養日本語』『ＣＨＰ（Creating Happiness Program）』『フィールド・スタディーズ』『インターンシップ』等の科目群から構成される。心とからだ、学修の基礎、外国語、自己理解・他者理解の４つの分野をバランスよく配置し、少人数制のゼミナールや授業を通じてグループワークやプレゼンテーション等の訓練を重ね、アクティブラーニングを積極的に導入することで、より実践的なコミュニケーション力やチームワーク形成力等を養う。

『建学』科目群では、「仏教（生き方を考える）基礎」「仏教（生き方を考える）発展」を必修科目として開講し、本学の建学の精神である仏教精神を学び、人と人との関係、人と社会との関係を大局的に捉え、健全にして品性のある人格の養成を行う。

『スポーツ・身体』科目群では、身体運動の実践的学習を通じて、健康・体力の維持増進等の自己の身体及び身体運動のもつ意義を考えると同時に、社会的適応能力や社会発展のメカニズムに積極的に関わりうる能力の獲得を企図し実現する。

『情報』科目群では、副専攻コースを設置し、データ／ＡＩやツールを活かせる、データ活用教育の強化を図る。全学１年次必修科目「データサイエンス基礎」「人工知能基礎」に加え、２年次は「情報技法発展Ａ・Ｂ・Ｃ」や「プログラミング発展Ａ・Ｂ」「機械学習活用１・２」「データサイエンス活用１・２」の発展科目を選択必修とする。２年次以降は情報副専攻コースの履修を推奨し、３年次には「人工知能実践プロジェクト」で専門性と実践での活用力を高める。

『外国語』『教養日本語』科目群では、バランスのとれたコミュニケーション能力の養成を目指し、自然言語である外国語の運用能力、アカデミックスキルとしての日本語能力の修得等コミュニケーションスキルの向上を目的とした教育を行う。

『ＣＨＰ（Creating Happiness Program）』科目群では、ＳＤＧｓについて学ぶ。「ＳＤＧｓ基礎」で、世界の課題とＳＤＧｓの 17 の目標の関連性について学び、「ＳＤＧｓ発展１・２・３」で、分野ごとに深く掘り下げ、サステナブルな世界をいかに実現できるかを考え、近未来の社会を展望する力を養う。

『フィールド・スタディーズ』科目群では、入学直後の２学期から夏休み期間を中心に学外（国内、海外）で学ぶ学外学修プログラムを実践し、地方や世界が直面する課題に気づき、解決するための想像力、実践力等を養う。

『インターンシップ』科目群では、社会で“働く”ことの意義や、就業に必要な心構え・知識・能力を理解するとともに、就業体験において最低限必要な基礎的能力や知識・技術等を総合的に学ぶ。

（３）学科科目の編成

ディプロマ・ポリシーを達成するためのカリキュラム・ポリシーに基づき、学科科目は、『サステナビリティ基幹科目』『ソーシャルデザイン科目』『環境エンジニアリング科目』『プロジェクト科目』『社会連携科目』『サステナビリティ先端科目』『総合研究』の７つの科目群に分類し、体系的に編成する。

『サステナビリティ基幹科目』は、サステナビリティの本質を理解し基礎的な知識や考え方を修得することを目的としている。「サステナビリティ学基礎Ａ・Ｂ」では、サステナビリティの概念や歴史、地球の有限性（プラネタリーバウンダリー）と現代社会のかかえる課題、自然科学的基礎について学ぶ。「環境倫理・環境正義」では、人と自然の関係性や環境と社会的公正について学ぶ。そのうえで、「環境エネルギー論」「資源循環論」「環境福祉学」「環境政策論」「環境経済学」「環境保全生態学」「環境地球化学」「水とサステナビリティ」「食とサステナビリティ」「環境福祉学」といった科目で、エネルギー、水、食、資源循環、生態系、福祉、政策、経済などのサステナビリティ関連諸分野の知識や理論を学ぶ。さらには、「サステナビリティ思考入門」において、相互に絡み合う複雑な問題を理解し、包括的視点から対策を考えるための思考法であるシステム思考やライフサイクル思考についての基礎を学ぶ。また、「サステナビ

リティ学と創造的学び」「アカデミックスキル入門」において、自ら問い、学び、探求する技法を身につける。これらの知識やスキルを土台として、課題解決のための応用的な学びへと展開する。

『ソーシャルデザイン科目』では、多様な主体との協働や仕組みのデザインによりサステナビリティを推進する方法を学ぶ。「ソーシャルデザイン事例研究」では、国内外の事例を通じて、ソーシャルデザインの考え方や手法について学ぶ。さらに、企業、地域、人（教育・心理）の領域におけるサステナビリティ推進の方法を学ぶ。具体的には、「サステナブル経営論」「ソーシャルビジネス論」などの科目で、企業活動やビジネスセクターにおけるサステナビリティの推進、「持続可能な地域づくり論」「コミュニティデザイン論」において地域やコミュニティづくりを通じたサステナビリティ推進、「環境心理学」「ＥＳＤ論」において教育や人の行動変化を通じたサステナビリティ推進について学ぶ。また、他者と協働して変化を起こすための実践的スキルを、「共創型リーダーシップ論」「ファシリテーション演習」「メディア表現演習」「交渉と合意形成」等において学ぶ。

『環境エンジニアリング科目』では、工学的アプローチによる環境の調査、分析、管理の方法を学ぶ。具体的には、「環境統計学」「ＣＡＤ演習」「ＧＩＳ・測量演習」「環境調査演習Ａ・Ｂ・Ｃ」等を通じて、環境調査、データ分析、環境設計等についての手法を身につける。さらに、気候変動、資源循環、化学物質管理、自然環境の４つの領域での環境対策手法を学ぶ。具体的には、「環境気象学」「カーボンマネジメント演習」で気候変動の緩和と適応の両面からの対策について、「ライフサイクルアセスメント論」、「資源循環マネジメント演習」で資源の有効利用に向けた環境影響評価やマネジメント手法について、「環境分析科学」「サステナビリティリスク学」で化学物質の分析やリスク評価手法について、「生物多様性保全特論」では遺伝子、種、生態系の多様性の保全、管理手法について学ぶ。

『プロジェクト科目』は、本学科のカリキュラムの中心となるものである。現実の社会、環境問題に対して、当事者意識を持ち、創造的に解決することができる能力を身につけることを目的としたプロジェクトベースドラーニング型の科目である。１年次前期の「サステナビリティプロジェクト入門」においてプロジェクトによる社会、環境課題解決の手法を学び、その後、１年次後期～３年次前期の「サステナビリティプロジェクト１～４」において、現実の課題と向き合いその解決に挑戦する。授業は、担当教員の運営するラボ（研究室）に分かれ、少人数制で行われる。学生は、当該ラボの対象とする領域内でテーマを設定し、課題解決に挑む。プロジェクトは大きく実践型プロジェクト（企業や地域社会と連携し、現実社会の課題を解決するプロジェクト）と探求型プロジェクト（サステナビリティに関する先進的テーマについて、調査研究活動、技術開発するプロジェクト）があり、それぞれの方法で課題解決を目指す。プロジェクトを実施する過程で、他の専門科目で学んだソーシャルデザインや環境エンジニアリングの知識

やスキルを活用していく。学修活動は、経験－内省－教訓－実践の経験学習サイクルを重視し、このサイクルを短期間で回すことで成長を促す。３年次後期から４年次にかけては、「サステナビリティ研究」「卒業論文」に取り組む。テーマはこれまでのプロジェクト活動の経験を活かし、課題解決手法やプロセスの一般化、成果の検証等に取り組むものや、これまで経験を活かして新たに設定するものもある。教員の指導の下、研究テーマを設定し、問いの設定から、研究計画立案、調査分析、結果の考察を行う。４年次後期には、４年間の集大成として学修成果を形にする。学術的な成果物として形にする学生は「卒業論文」を履修し、研究成果を学術論文にまとめる。より実践的な方法で学びを形にする学生は、社会的インパクトのあるプロジェクト等を実施し、その成果を「総合研究Ａ～Ｃ」等で報告書にまとめる。

『社会連携科目』は、サステナビリティの諸課題に関する実践的知識やスキルを身につけることを目的として、学生が社会の現場に赴き実習等を行う科目である。具体的には、学科が学外の各種セクター（企業、ＮＰＯ、行政等）と連携し企画したプログラムにおいて、学生が実習や課題解決プロジェクト等を行うことにより単位を認定する。

『サステナビリティ先端科目』は、変化の速いサステナビリティ分野において、最新のトピックスを設定し、企業やＮＰＯ、国や地域社会における先端的な取り組みや、あらたな概念や仕組みなどについて学ぶ。現実の社会での最先端の動きや知見を学ぶことで、『プロジェクト科目』の課題設定や、解決策の考案に役立てていく。

『総合研究』は、サステナビリティの専門分野に関して学生が主体的に知識やスキルを修得することを目的とした科目である。具体的には、学科の専門に直接的に関わる研究や学外での研修、学修体験等を行い、成果報告書・入賞等の成果が提出されたものに対して、大学設置基準の定める所定の学修の要件に相当する学修時間とともにその学修成果を単位認定する。学習活動により、学生は自らの興味関心や問題意識にしたがって、自律的に学び、探求する姿勢を身につける。

５. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

本学科の教育、履修指導として、カリキュラム・ポリシーに従って、以下の履修モデルを設定する**【資料３】**。

履修モデル１	ソーシャルデザインコース
企業や国・自治体、ＮＰＯなどにおけるサステナビリティ推進担当者や大学院進学を進路として想定し、サステナビリティを推進する仕組みの構築や新規事業の企画、多様な主体との協働を行う能力を養成するために、ソーシャルデザインに関する知識・方法・技術を学ぶ。	
履修モデル２	環境エンジニアリングコース

環境関連企業や製造業・サービス業の環境エンジニアや大学院進学を進路として想定し、工学的アプローチによる環境の調査、分析、管理を行う能力を養成するために、環境エンジニアリングに関する知識・方法・技術を学ぶ。

全ての履修モデルにおいて、共通科目は必修 16 単位、学科科目は必修 49 単位を含めて 87 単位、自由選択単位 21 単位以上の合計 124 単位を卒業要件とする。

卒業要件に関連する事項としては、本学では各学年で年間に取得できる単位数に上限を定めた「ＣＡＰ制」を全学的に導入している。本学科での履修科目の登録の上限は、１年次 40 単位、２年次 40 単位、３年次 40 単位、４年次 40 単位とする。この制度は、学生各人が自身の適性や希望する進路に従って厳選した科目一つひとつの学修に充分なコミットメントをもって取組むことにより、高度な専門能力を修得することを目的とするものである。この方針に従い、アドバイザーは各学生に対し履修すべき科目・単位についてきめ細かな履修指導を行う。

本学科は留学生の入学も予定している。在籍管理は学生支援課及び国際課、履修指導は学務課、怪我や体調管理は保健室、心や友人関係の悩み相談等は学生相談室が行う他、留学生の全般的なサポート役は国際課が担う。また、留学生ノート（International Student Handbook）を発行し、在留手続きや学生生活、日本における日常生活のルール等を指導する。

在学期間における成績平均値（「ＧＰＡ」）が 2.00 以上であることを、卒業要件として適用する。本学では、既に全学的に学習到達目標（ミニマム・リクワイアメント）が設定されており、上述のＣＡＰ制と合わせて、学生個々人の学修目標の明確化を促すものである。なお、ＧＰＡは各科目で得た評価をポイントに置き換えたものであり、計算式は以下のとおりである。

ＧＰＡ計算式

$$\frac{\text{科目単位数}\times\text{成績ポイント（S=4.0、A=3.0、B=2.0、C=1.0、D=0.0、X=0.0）}}{\text{総履修単位数}}$$

※合格（S、A、B、C）、不合格（D、X）

※D は合格と認められる最低限の成績（60 点）に未到達。
X は出席不良、評価不能。

本学科では、サステナブルな世界を実現するための具体的な課題を用いたプロジェクト型授業及び研究活動を行うが、各プロジェクトの学生数を専任教員１名あたり１学年６～７名とし、きめ細かな学生指導や相談に適した体制を取る。

６．多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修させる場合の具体的計画

本学では、武蔵野ＩＮＩＴＩＡＬを中心に、教育効果に影響が生じない科目に限り、オンライン授業を導入している。また、本学学則において以下のとおり規定している。

【学則抜粋】

（メディアを利用して行う授業）

第１２条の２　本学において教育上有益と認めるときは、前条の授業を、多様なメディアを高度に利用して、教室等以外の場所で履修させることができる。

２　前項の授業の方法により修得する単位数は、卒業の要件として修得すべき単位数のうち６０単位を超えないものとする。

３　メディアを利用して行う授業科目及び授業方法については別に定める。

規程にて定めているとおり自宅等でも履修できることとするが、インターネット環境等が整わない学生や、学内でも履修することが可能となるよう、空き教室の他、オンライン学修スペースとして有明キャンパスには９室（全 1,078 席）を用意しているほか、クリエイティブ・ラーニング・スクエアでも授業の受講ができるよう、環境を整備している。

オンライン授業の実施にあたっては、対面授業と同様シラバスに詳細を明記し、授業内外においてインターネット上で質疑応答や意見交換を行う場を設けているほか、各教員はオフィスアワーを設け、履修相談や学修指導を併せておこなうことができるよう、配慮している。

なお、オンライン授業を実施する科目は全 49 単位であり、全て履修した場合であっても 60 単位を上回ることはない。

７. 企業実習や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画

学外学修については、以下のとおり実施する。

No	科目区分		授業科目の名称	配当年次	必修/選択/自由
1	共通科目	フィールド・スタディーズ	フィールド・スタディーズ	１休	必修
			フィールド・スタディーズ１～４	１休	選択
2			フィールド・スタディーズ発展１Ａ～４Ｄ	1･2･3･4 休	選択
3		インターンシップ	インターンシップ	2②～④	選択
4	学科科目	社会連携科目	サステナビリティ学社会実践演習Ａ～Ｅ	1･2･3･4 通	選択

①「フィールド・スタディーズ」「フィールド・スタディーズ１～４」

ア　実習先の確保の状況
「北海道東川町役場 地方行政フィールドワーク」「はばたけ秋田県上小阿仁村！」「小金井市　地域の寄り合い所　また明日」等のプログラムで構成する**【資料４】**。令和３年度については、他学科含め２千５百名程度の受入枠を確保している。

イ　実習先との連携体制
各受入団体と連携し、本学の担当教職員が実習中に同行、巡回するとともに、実習前や実習後に実習内容についてヒアリング及び振り返りを行うことで連携を図っている。
ウ　成績評価体制及び単位認定方法
実習ノート及びプログラムの求める到達度目標、実習期間等を踏まえ、総合的に評価する。
エ　その他特記事項
プログラム実施期間により、「フィールド・スタディーズ１～４」に分かれている。

②「フィールド・スタディーズ発展１Ａ～４Ｄ」

ア　実習先の確保の状況
「映像制作表現プログラム（基礎）」「仏教を学び、仏教から学ぶＦＳ」「“商い”を知る」等のプログラムで構成する**【資料５】**。令和３年度については、全学科の学生を対象に270 名程度の受入枠を確保している。
イ　実習先との連携体制
各受入団体と本学の担当教職員は、実習前や実習後に実習内容についてヒアリング及び振り返りを行うことで連携を図っている。
ウ　成績評価体制及び単位認定方法
プログラムの求める到達度目標、実習期間等を踏まえ、総合的に評価する。
エ　その他特記事項
プログラム実施時間により、「フィールド・スタディーズ発展１Ａ～４Ｄ」に分かれている。

③「インターンシップ」

ア　実習先の確保の状況
例年、ホテル、旅行会社、官公庁、小売等の国内約 50 社と連携している。他学科含め 130 名強を確保している。令和３年度については、コロナ禍の影響にもかかわらず、22 社の受入が可能となった**【資料６】**。
イ　実習先との連携体制
実習中の記録となる実習ノートに実習先の担当者からコメント・評価をいただくとともに、本学の担当教職員が実習後訪問し、実習内容についてヒアリングを行うことで連携を図っている。状況に応じて担当教職員が新規の実習先を中心に視察を行うことで、翌年度以降の提携等に向けて連携を図っている。令和３年度については、コロナ禍の影響にて訪問はせず、必要に応じてオンラインにて対応した。
ウ　成績評価体制及び単位認定方法
実習ノート及び実習先での評価・目標の達成度、フォローアップ授業により、国内インターンシップ専門委員会で総合的に評価する。

④「サステナビリティ学社会実践演習Ａ～Ｅ」

ア　実習先の確保の状況
企業、行政、ＮＰＯなど 19 カ所で実習を行う予定である**【資料７】**。
イ　実習先との連携体制
受け入れ団体と実習内容やプログラムの確認、実習後のフォローアップを行うことで連携を図る。当該実習先は本学科の基礎となる環境システム学科での実習の受け入れ先でもあり、連携を継続させることが可能である。
ウ　成績評価体制及び単位認定方法

成績評価及び単位認定については、実習ノート及び実習先での評価・目標の達成度を踏まえ、総合的に評価する。

８. 入学者選抜の概要

（１）基本的な考え方（アドミッション・ポリシー）

本学科では、人類社会や地球環境のサステナビリティに対する深い理解に基づき、ソーシャルデザイン及び環境エンジニアリングの知識・方法・技術によって、サステナブルな世界の実現に貢献できる人材を養成する。したがって、入学者には以下のとおりアドミッション・ポリシーを定め、入学者を受け入れる。

＜サステナビリティ学科アドミッション・ポリシー＞

志向性： 将来の進路	具体的な進路として以下の将来像を描く者 ・企業や国・自治体、ＮＰＯなどにおけるサステナビリティ推進担当者 ・環境関連企業や製造業・サービス業の環境エンジニア ・大学院進学
期待する能力： 知識・専門性	【高等学校で履修するのが望ましい教科・科目】 数学、理科の基礎学力に加え、英語、社会、情報などの均衡のとれた学力を身につけている者 【スキル等】 総合的学習を通じて、課題発見・解決能力やコミュニケーション能力を身につけていることが望ましい
期待する能力： 関心・態度･人格	サステナブルな世界の実現へ熱意を有し、主体的に社会参画し、社会・環境の課題解決に意欲を有する者
期待する能力： 思考・判断	・さまざまな事象に対して、それを当たり前ととらえず、問いを立てることができる力 ・さまざまな知識や情報を組み合わせ、自分なりの考えを構築することができる力
期待する能力： 実践的スキル・表現	・自分の考えを論理的に他者に伝えることができる表現力 ・他者と協力して物事を行うことができるコミュニケーション能力

（２）入試内容

アドミッション・ポリシーに基づき、学修を積み上げていくのに必要な学力及び教育課程に積極的に取組む姿勢を有しているかを重視し、以下の通りの入学者選抜を計画している。

【出願資格】（共通）※外国人を対象とした入試を除く。

・高等学校（特別支援学校の高等部含む、以下同じ。）若しくは中等教育学校を卒業

した者及び入学予定前年度３月卒業見込みの者

・通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者及び入学予定前年度３月修了見込みの者

・高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者、入学予定前年度３月 31 日までにこれに該当する見込みのある者

１）一般選抜

募集人員	25 名
時期	２月を中心に数回実施
試験内容	学力検査：英語、国語、数学、物理、化学、生物、世界史、日本史、政治・経済、情報の教科・科目のうち、２科目～３科目を選択

２）大学入学共通テスト利用選抜

募集人員	10 名
時期	12 月から３月にかけて出願期間を設けている。学力検査は１月の大学入学共通テストのみ
出願基準	共通テストの定められた科目を受験していること
試験内容	・共通テスト結果を利用し、特に書類審査や面接等は行わない ・英語（必須）に加え、国語、地理歴史・公民、数学、理科のうち２科目～５科目を選択

３）総合型選抜

募集人員	10 名
時期	10 月～12 月の間に数回実施
出願基準	・定められた課題等を提出できる者 ・定められた資格等を有する者
試験内容	書類審査、面接、プレゼンテーション、能力・適性、基礎学力等に関する検査

４）推薦選抜

【募集人員】25 名

ⅰ）公募制学校推薦型選抜

時期	11 月実施
出願基準	高等学校の成績指定
試験内容	書類審査、面接

ⅱ）系列校学校推薦型選抜

時期	11 月実施
出願基準	高等学校の成績指定
試験内容	書類審査

ⅲ）指定校学校推薦型選抜

時期	11 月実施
出願基準	高等学校の成績指定
試験内容	書類審査

５）特別選抜

【募集人員】若干名

ｉ）帰国生選抜

時期	10 月実施
出願基準	日本国籍を有し、入学予定年度 4 月 1 日現在 18 歳に達する者で、次の各項のいずれかに該当する者。 Ａ．外国の高等学校に最終学年を含め２年以上継続して在籍し卒業（修了）した者。または、入学予定前年度3月31日までに卒業（修了）見込みの者。 Ｂ．外国の中学・高等学校で継続して２年以上教育を受け、入学予定前年度３月 31 日までに日本の高等学校（中等教育学校含む）を卒業見込みの者、もしくは文部科学大臣が行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者（大学入学資格検定に合格した者を含む）及び入学予定前年度３月 31 日までに合格見込みの者で、卒業時点で帰国後原則として２年以内の者。 Ｃ．文部科学大臣が、高等学校の課程と同等の課程またはそれに相当する課程を有すると認定した在外教育施設に２年以上在籍した者。 Ｄ．国際バカロレア資格取得者など本学が適当と認めた者。
試験内容	書類審査、面接

ⅱ）社会人選抜

時期	２月実施
出願基準	入学予定年度４月１日現在 22 歳に達する者で出願時点で１年以上の社会経験を有し、次の各項のいずれかに該当する者。 Ａ．入学予定前年度の４年前の３月以前に高等学校（中等教育学校含む）を卒業した者、もしくは文部科学大臣が行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者（大学入学資格検定に合格した者を含む）及び入学予定前年度３月 31 日までに合格見込みの者 Ｂ．通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者。 Ｃ．学校教育法施行規則第１５０条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者。
試験内容	書類審査、面接

６）外国人を対象とした選抜

募集人員	若干名
時期	11 月、12 月、２月、３月実施
出願基準	（外国人共通） 以下Ａ～Ｄのすべての項目を満たす者 Ａ．日本国籍を有しない者 Ｂ．次の⑵～⑷のいずれかに該当する者 ⑵日本国の内外を問わず学校教育における１２年以上の課程を修了した者（入学予定前年度３月までに修了見込みの者、「飛級」により通常の課程を 12 年未満で修了した者を含む）。ただし日本の教育制度に基づく中学校・高等学校の在籍期間が通算３年以内の者。 ⑶外国における 12 年の教育課程修了相当の学力認定試験に合格し、入学予定前年度 3 月 31 日までに 18 歳に達する者。 ⑷外国における１２年未満の教育課程を修了した者で、文部科学大臣の指定

	する準備教育課程を修了（見込み）した者。 ⑾高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められ、入学予定前年度 3 月 31 日までに 18 歳に達する者。 C．本学在学中の学費・生活費を支弁する能力を有する者。 D．独立行政法人日本学生支援機構が実施する日本留学試験の指定された科目を受験し、その得点結果を提出できる者。
試験内容	学力検査、面接、書類審査

９. 教員組織の編成の考え方及び特色

専任教員は 11 人の専任教員（うち６名は教授）から構成されている。教員数の設置基準を満たしたうえで、年齢構成にも配慮しながら、教育研究上の優れた業績を有する者をそれぞれ適切に配置して、きめ細やかな専門教育・指導を行っていく。

また、本学科は「ソーシャルデザイン」及び「環境エンジニアリング」を２つの柱として教育課程を構成しているが、両分野にバランスよく専任教員を配置している。

ソーシャルデザイン分野は、実務経験の豊富な教員を含め、地域や社会、環境経営に関する専門家を配置し、環境エンジニアリング分野は環境資源や気象学等の分野における教育研究経験の豊富な教員で組織している。

本学科では、サステナブルな社会を実現するための知識、技術を習得することを目標としており、実務経験と研究、それぞれの高い専門性と実績を有する教員組織は効果的であると考える。

教員の年齢構成について、開設年度の年齢で 60 代４名、50 代２名、40 代４名、30 代１名の計 11 名であり完成年度の３月 31 日には 60 代４名、50 代３名、40 代３名（１名は退職予定）となるが、教育研究水準の維持向上及び活性化に支障がない構成になっている。定年に関する学内規程**【資料８】**では、大学教員の定年は 65 歳、大学院を担当している場合には 70 歳まで延長が可能としている。完成年度までに２名が定年を迎えるが、うち１名は、大学院担当をしているため 70 歳まで延長が可能であり、１名の教員については、その後任を本学科開設と同時に前倒して採用することで学科運営に支障を生じないよう対応する。

10. 施設、設備等の整備計画

（１）校地・運動場の整備計画

本学科は４年間を通じて原則有明キャンパスで学修する。敷地内には学習施設の他、図書館やコンピュータ室等の情報サービス施設や食堂、売店等の福利厚生施設も全て同敷地内にあり、本学科の学生は現在の教育環境をそのまま利用する。

学生の休息その他の利用のため、開放的な中庭やベンチといった休息の場を整備しており、有明キャンパス３号館１階、５号館１階には開放的な学生ホールを設け、多くの学生が余裕をもって休息、交流その他に利用している。

有明キャンパスは運動場を有しないことから、やむを得ず全学共通基礎課程（武蔵野

ＩＮＩＴＩＡＬ）の選択科目として１年次開講の「スポーツと身体科学」のみ、武蔵野キャンパス（東京都西東京市）の体育館等にて行う。武蔵野キャンパスには、20,187.00 ㎡の運動場用地（専用）、専用の体育館として第二体育館（939.65 ㎡）及び第三体育場（234.27 ㎡）の他、体育の授業利用に十分なランニングコースを有するグランドや放送設備等も備えている。有明・武蔵野キャンパスは共に東京都内に位置し、キャンパス間の移動は電車・バスにて 90 分程度である。当該科目の前後に必修科目は配置しない時間割を設定し、学生の履修に問題がないよう配慮する。

（２）校舎等施設の整備計画

本学科の教育課程、学生人数等の体制で運営するためには、専任教員の研究室、授業を実施するための教室が必要であり、校舎等施設については、４年間を通じて原則有明キャンパス（東京都江東区）を利用する。

必要な教員研究室について、１人１室の研究室を４号館等に用意する。専任教員 11 名が入居し、各研究室で個別研究指導や学生の個別面談を行う。研究室の前にはプロジェクト指導や卒業論文指導など少人数のグループで指導できるスペースを設けており、ＰＢＬ型での授業の効果的な運用が期待できる。なお、これらのスペースは既存の環境システム学科の施設設備を引き継ぐものであり、新たな整備は予定していない。

本学科の時間割案は**【資料９】**のとおりである。１時限当たりの使用教室数は最大 14 室（１学期金曜日３限及び２学期金曜日３限、１年 13 クラス、２年１クラス）を予定しており、これは改組前の環境システム学科での最大使用教室数とほぼ同数である。本学科設置後も教育を行うに十分な教室を備えており、本学科を含め他学部学科等の教育研究にも支障がない。

また、２号館１階の「クリエイティブ・ラーニング・スクエア」（９時 00 分～19 時 30 分開室）や、２階図書館の「ラーニング・コモンズ」（８時 30 分～20 時 00 分開室）も利用可能であり、これらの施設は、学生の主体的な自学自習及びグループ学習を支援する施設として全学生が自由に使うことができる施設である。

（３）図書等の資料及び図書館の整備計画

本学は、総合大学として、既に文学部、グローバル学部、法学部、経済学部、経営学部、アントレプレナーシップ学部、データサイエンス学部、人間科学部、工学部、教育学部、薬学部、看護学部の 12 学部及び大学院文学研究科、言語文化研究科、法学研究科、政治経済学研究科、データサイエンス研究科、経営学研究科、人間社会研究科、仏教学研究科、環境学研究科、工学研究科、教育学研究科、薬科学研究科、看護学研究科の 13 研究科、さらには各学部に研究所を設置している。教育研究に必要な図書・文献については既に十分所蔵しており、これらの図書等を有効に活用する。また、必要に応じて更なる充実を図っていく予定である。

本学では、約 3,500 タイトルの学術雑誌(そのうち、Elsevier、Springer Nature、Wiley、American Chemical Society 等主な出版社の電子ジャーナル約 2,000 タイトル)の閲覧が可能である。また、本学科の学生が教育研究に必要と考えられる「環境社会学研究」「人間と環境」「地域活性研究」「Ergonomics」「Behavioural Public Policy」等 66 種のジャーナルを整備している**【資料 10】**。

データベースにおいては、国内の総合データベース「日経 BP」「日経テレコン 21」等をそろえ、海外の新聞データベース「EBSCOhost Newspaper SourcePLUS」「ProQuest New York Times」等とともに各種学習・研究のサポートをしている。さらに、雑誌記事検索・全文データベース・書籍情報として、「Scopus」「EBSCOhost Business Source Elite」、「EconLit」等の利用が可能である。また、電子書籍の導入も積極的に進めており国内の学術系電子書籍約 3,100 タイトル、海外の学術系電子書籍 5,900 タイトル以上が閲覧可能である。

本学図書館では、学生が来館時に閲覧・借用できることに加え、以下のサービスを提供することで、自宅での学習・研究にも配慮する。

（ｉ）インターネットによる蔵書検索
インターネットに接続していれば、本学の図書館WEBから、本学図書館の蔵書（約45万冊）を検索することが可能である。また、該当の図書が貸出中であるかどうかも同時に確認することができる。
（ⅱ）貸出予約
希望する図書が貸出中の場合、当該図書が返却された後に優先的に利用できる制度を設け、学生は、貸出窓口あるいは図書館のホームページ上から予約申込をし、当該図書が返却された後、来館により貸出を可能にする。
（ⅲ）２キャンパス間のシャトル便サービス
両キャンパスに所蔵する図書資料についても、相互に予約・貸出ができる図書館システム機能を導入し、キャンパス間の定期便等で相互に資料の転送を行い利用者サービスの向上を行っている。
（ⅳ）文献複写
既に本学所蔵の図書・雑誌については、著作権法に反しない範囲で文献複写サービスを行っているが、学生が検索した結果、本学に所蔵していない図書資料については、他大学図書館等に文献複写・資料貸借の依頼をすることを可能にする。平成29年度からは海外の雑誌資料の文献複写サービスであるReprintsDeskを導入した。
（ｖ）他大学等の図書館の閲覧案内
本学図書館では、他大学図書館のほか、国立国会図書館をはじめとした全国の公共図書館の情報も学生に提供する。学生が検索した結果、本学に所蔵していない図書資料については、レファレンスカウンターでの申込により、当該大学図書館を検索し、閲覧の依頼を可能とする。 また、国立国会図書館でデジタル化した図書や雑誌のうち、絶版等で現在手に入らない約153万点について、国立国会図書館館の承認を受け平成26年６月から両キャンパス図書館で「デジタル化資料送信サービス」（閲覧・複写）の運用を開始した。
（ⅵ）文献調査、事項調査
学生が希望する研究分野・テーマに関する文献調査、事項調査に対応する。メールでも受け付けている。
（ⅶ）全資料の開架化
有明キャンパスの図書館は貴重書以外のすべての図書資料を開架図書として自由に閲

覧、貸出が可能である。大学院の学生については、学術雑誌バックナンバーの貸出にも対応している。 　武蔵野キャンパスの図書館は、一般図書、基本文献等については、開架図書として自由に閲覧、貸出が可能である。
（viii）研究閲覧室の設置
有明キャンパスの図書館には、296席の閲覧室がある。また、館内には34台のパソコン（うち12台は館内貸出用ノートパソコン）を有する。これにより、学生がインターネットを利用し、研究に必要な情報の収集及び論文作成を行うことを可能にする。 　武蔵野キャンパスの図書館には、600席を有する閲覧室があり、館内には50台のパソコン（うち10台は館内貸出用ノートパソコン）を有する。また、両キャンパス図書館とも館内には無線ＬＡＮの環境が整備されており、学生が持ち込んだノートパソコン、タブレット端末等で、インターネットを利用して、研究に必要な情報の収集及び論文作成を行うことを可能にする。
（ix）電子リソースの遠隔地利用
本学では図書館の電子化を積極的に推進しており、教職員及び学生を対象に自宅からのデータベース利用を実現すべく、リモートアクセスソフトを導入し、運用している。

11.　２以上の校地において教育研究を行う場合の具体的計画

前述のとおり、全学共通基礎課程（武蔵野ＩＮＩＴＩＡＬ）の選択科目として１年次開講の「スポーツと身体科学」のみ武蔵野キャンパスの運動場にて行う。有明・武蔵野キャンパスは共に東京都内に位置し、キャンパス間の移動は電車・バスにて 90 分程度であるが、当該科目の前後に必修科目は配置しない時間割を設定することで、学生の履修に問題がないよう配慮する。本学科の専任教員は全員有明キャンパスに所属し、「スポーツと身体科学」は武蔵野キャンパスに在籍する兼担教員及び兼任講師が担当する。本学科所属の専任教員が武蔵野キャンパスにいないこととなるが、開講科目は１年次の武蔵野ＩＮＩＴＩＡＬ選択科目１科目のみであり、学科の教育研究上での支障はない。施設設備面においても、両キャンパスに、自習室、学生の主体的な自学自習及びグループ学習に利用できるクリエイティブ・ラーニング・スクエア等の教育研究施設、図書館やＰＣ教室等の情報サービス施設、食堂、売店等の福利厚生施設があり、教員の教育研究及び学生の学修に支障はない。

12. 管理運営

サステナビリティ学科が属する工学部に教授会及び代議員会を設け、学部学科に関する運営を行う。教授会は教授をもって構成する。ただし、学部長が必要と認めたときは構成員以外の教職員の出席を求めることができる。また、原則としてあらかじめ議案を通知して、学部長がこれを招集しその議長となる。なお、学部長に事故があるときは、あらかじめ学部長の指名した者が代行する。

月１回を目安に教授会を開催し、工学部に関する次の各号に掲げる事項を審議する。

（１）学生の入学、卒業及び課程の修了に関する事項

（２）学位の授与に関する事項

（３）前２号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定める事項
（４）教育及び研究にかかわる規則及び組織に関する事項
（５）教育課程及び履修方法に関する事項
（６）学生の試験に関する事項
（７）学生の休学、転学、退学に関する事項
（８）学生の賞罰に関する事項
（９）学生の厚生補導に関する事項
（１０）その他教育及び研究に関する重要事項
（１１）上記各号に関する諸規程の制定・改廃に関する事項
（１２）学部運営上学部長が必要と認めた事項

上記の（４）及び（１０）の事項は代議員会の議決をもって、また、（１）の学生の入学に関する事項は入学者選考委員会の議決をもって、教授会の議決に代えることができるものとする。

代議員会は、学部長、学科長、教授会の推薦による教授２名（この代議員の任期は２年とする）をもって構成する。代議員会は、必要に応じて月１回を目安に開催し、学部長が招集し議長となる。学部長に事故があるときは、あらかじめ学部長が指名したものがその職務を代行する。代議員会は、次の事項について審議し、その決定について教授会に報告するものとする。

（１）教授会並びに教員資格審査委員会に付議する議案に関する事項
（２）教授会から審議を付託された事項
（３）学院長及び学長から諮問された事項
（４）学部長から提案された事項
（５）その他学部の運営に必要な事項

13. 自己点検・評価

① 実施方法

本学の自己点検・評価は、教育改革推進会議で定めた方針に従い、武蔵野大学自己点検・評価委員会（以下「自己点検・評価委員会」という。）が主体となって全学的に点検・評価を行っている。また、平成 24 年度から各学部・研究科及び事務局等に自己点検・評価小委員会を置き、各学部・研究科・部局内の点検・評価を行っている。

直近では、平成 30 年度において、平成 28 年度～平成 30 年度の本学の取組について自己点検・評価を実施し、自己点検・評価報告書を作成した。令和元年度には武蔵野大学外部評価委員会（以下「外部評価委員会」という。）を立ち上げ、この自己点検・評価報告書に基づいた外部評価を行い、客観的な評価による教育水準の向上に取り組んでいる。さらに、令和３年度からは、大学独自に定めた自己点検・評価チェックシートに基

づく点検・評価活動を導入した。これは、今後毎年実施する予定である。

また、自己点検・評価の一環として学生による授業評価を平成10年に開始し、以降、原則的に毎年実施している。結果については教員に通知し、授業の改善・水準向上に役立てている。平成 27 年度からは、授業評価に対する授業改善の取組を実質化させるべく、全学科・全科目(実習・実技・少人数授業を除く)を対象とした教員アンケートを実施し、自己評価と授業改善案を提出させている。平成28年度からは授業評価の対象を大学院科目にも拡大し、これを継続して実施している。

② 実施体制

平成４年に学則を改正し、自己点検・評価に関する規程を設けた。これに基づき、自己点検・評価委員会を設置し、その下に専門事項を点検・評価するための専門委員会として、複数の自己点検・評価小委員会を設けている。平成30年度には自己点検諸規程の見直しを行い、「武蔵野大学自己点検・評価規程」、「武蔵野大学自己点検・評価委員会規程」「武蔵野大学外部評価委員会規程」の制定・改正を行うとともに、自己点検・評価の方針を定める責任主体を教育改革推進会議と定めて「武蔵野大学教育改革推進会議規程」を改正した。

なお、自己点検・評価委員会は、議題に応じ毎年度１～３回程度、自己点検・評価小員会は毎年行う点検・評価活動に基づき年に１回は必ず開催している。

③ 点検・評価の進め方

【教育改革推進会議】 点検・評価の方針を定める。
【自己点検・評価委員会】 点検・評価の実施方法を策定し大学全体の点検・評価を行うとともに、各学部・研究科等の自己点検・評価小委員会が行う点検・評価を統括し報告書を作成する。
【自己点検・評価小委員会】 点検方針、基準、実施方法に基づき、各学部・研究科における点検・評価を実施する。
【外部評価委員会】 自己点検・評価委員会が行う自己点検・評価について検証及び評価を行い、評価結果を教育改革推進会議に報告する。

④ 評価項目

「武蔵野大学自己点検・評価規程」において、評価項目を次のように定めている。

１）建学の精神、教育理念・目的、２）内部質保証、３）教育研究組織、４）教育課程・学習成果、５）学生の受け入れ、６）教員・教員組織、７）学生支援、８）教育研究等環境、９）社会連携・社会貢献、１０）大学運営・財務、１１）その他

⑤ 結果の活用

自己点検・評価報告書は大学ホームページで公開している（https://www.musashino-u.ac.jp/guide/information/inspection.html）。自己点検・評価委員会及び外部評価委員会からの報告を受けて教育改革推進会議で改善が必要と認めた事項については、その事項を所管する部局・事務局に対し、改善を要請する。また、自己点検・評価小委員会において改善が必要と認められた事項については、各学部長・研究科長を中心に改善を図っている。

⑥ 第三者評価への取組

平成18年７月に（公財）日本高等教育評価機構による認証評価の実施を受け、平成19年３月に同機構が定める大学評価基準を満たしていると認定された。また、平成24年度と令和元年度には（公財）大学基準協会による認証評価を受審し、それぞれ平成25年３月、令和２年３月に同協会が定める大学基準に適合していると認定された。なお、いずれの認証評価においても是正勧告は受けていない。また、これらの評価結果並びに自己点検・評価報告書は大学のホームページで公開している。

14. 情報の公表

仏教主義による人格教育という明確な建学の精神を掲げ、その精神のもとに独自の特色ある教育を展開し、社会の各方面で活躍する実践的な人材を育成している本学においては、社会から信頼・支持され、期待される大学になることを何より重要かつ必要不可欠とし、高等教育機関としての社会的役割を堅実に果たしていくことが最も重要であると考えている。

そのために、教育力の向上、その裏付けとなる研究水準の維持・向上、社会貢献力の強化に、不断の努力を傾注することはもちろんのこと、本学の現状を示す情報を積極的に公開し、社会からの批判的意見や評価を真摯に受け止め、日々、改革・前進に努めることとしている。

本学では、前述の方針及び社会に対する説明責任を果たし、教育と研究の質の維持向上を図るため、学校教育法第 113 条及び学校教育法施行規則第 172 条の２に基づき、教育研究活動等の情報を公表している。

公表している情報については、本学ホームページ上に「公開情報一覧」としてまとめて掲載している（https://www.musashino-u.ac.jp/guide/information/）。なお、公開情報の項目及びその掲載箇所については、**【資料 11】**のとおりである。

また、ホームページの他、以下の冊子等を作成し、学内教職員をはじめ全国の大学・研究機関、官公庁等に配布し、教員の教育研究についての情報公開を行っている。

・「大学紀要」
・「学内学会誌」
・「センター報」「研究所報」「年報」（附置機関の教育研究活動状況）

・「自己点検・評価報告書」：平成 30 年度刊行

さらに、授業評価の結果についてもホームページ上で公開している。評価のための設問項目は各年度により改訂を加えているが、令和２年度については以下に示すとおりで公開している。

授業評価の実施概要	調査目的／対象科目／調査方法／調査時期／対象者数・回答者数・回答率
調査内容	・履修目的とシラバスの機能について ・授業の内容について ・授業への態度・学修準備について(主体性・学修時間・理解度) ・科目別到達目標の達成度 ・学科別の独自設問

15. 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

本学では、平成10年12月に全学一斉による授業評価を実施し、調査結果を各教員に報告した。この全学調査を契機に、個々の教員が授業内容・授業手法の研究、開発に着手し、シラバス作成や授業運営への反映とともに、学部・学科単位でＦＤ活動が拡大していった。平成16年の全学部男女共学化並びに薬学部設置を契機に、大学改革をより積極的に推進させ、新設学部着任の教員中心に綿密な学部・学科の授業構成が練られ、それに伴う授業改善の回路が定着していった。並行して学内では新設学部に対し原則学部完成年度に至るまで、「運営委員会」が開催され、学部・学科の自律的な授業改善の試みに対する進捗確認と同時に、新設学部における教育の質保証、更に教職員連携、関わる職員の能力開発の在り方が議論された。

令和４年３月現在で12学部20学科、13大学院研究科、通信教育部２学部３研究科、１専攻科と２別科、24研究所・センターに本学は拡大したが、これは全学的なＦＤ活動と教職協働、職員の能力開発により、その実効性が担保されてきた。

① ＦＤ研修

令和３年度は、全学ＦＤ研修を３回開催した。昨今の新型コロナウイルス感染症の状況等に鑑み動画での配信となったが、いずれの回も教職員ともに理解度の高い研修機会になっている（事後アンケート：「とても理解できた」＋「概ね理解できた」の割合は全て95％以上）。さらに、目的別ＦＤとして、情報セキュリティに関するe-Learning研修や対面式のワークショップ型ＦＤ研修を実施した。e-Learning研修の理解度は99％、ワークショップ型研修（各学科代表者１名以上、及び希望者のみ参加）の満足度は100％であった。

また全学的なＦＤ活動以外にも、学科ＦＤ、研究科ＦＤや学生ＦＤを実施している。これらは、学修者本位の教育へ転換するべく、各学科・研究科主体のＦＤ活動を推進し、各学科・研究科の教育活動を充実させることや、学生の授業への主体的参加を引き出すための課題、ノウハウ、スキルの学科・研究科内での共有を目的とした活動であ

る。

令和３年度武蔵野大学全学ＦＤ研修実施一覧

	タイトル	動画配信期間
第１回	・オンライン授業の効果的な実施方法について（人間科学科事例発表） ・オンラインを活用したスパイラル型授業（教育学科事例発表） ・情報副専攻：ＡＩ活用エキスパートコース概要説明	令和３年５月21日 ～６月30日 ［追加配信］ ７月21日～８月６日
第２回	・学生の状態を可視化するGPS-Academic受検結果ご報告と今後のご活用に向けて ・外部アセスメントツールの活用とキャリア形成支援	令和３年９月21日 ～11月５日
第３回	・発達障害とその支援のありかたを考える	令和４年１月14日 （同時配信） ［追加配信］ １月26日～２月28日

令和４年度も複数回の全学ＦＤ研修及び目的別ＦＤ、そして各学科・教科グループ、研究科ＦＤを開催予定である。本学の新たな学びのスタイル「響学スパイラル」の先行取組事例の共有や、ハラスメント研修、また新たなワークショップ型研修等を検討している。

このほか、教職協働の取り組みとして、2024 年の法人創立１００周年に向けた記念事業にかかる委員会や、2050 年の未来を眺望した中長期計画の計画・推進委員会などが挙げられる。特に中長期計画においては、「自己と世界を問う」「未来の世界を創る Creative な実践者の輩出」「ＡＩ世界を先導するＭＵＳＩＣ（Smart Intelligence）」「Global & Universal」「MU-GEN（Musashino University GENerations）につながる Infinite Linking」という５つのチャレンジを掲げ、チャレンジ毎に設置された委員会において具体的な目標設定や事業計画を立案し、令和３年度からは目標達成のための具体的施策に着手し始めている。特に、「自己と世界を問う」において検討され生み出された本学独自の学びのスタイル「響学スパイラル」は、今後の教育改革施策を検討していくうえで指針となるものであり、同時に教育活動を自己点検するためのガイドラインとしても重要な成果といえる。同様に、いずれのチャレンジにおいても、委員会においては教員・職員の双方から建設的な意見が出されており、課題を多角的に捉えながら教育改革を実践できる創造的な職能開発の場となっている。

② ＳＤ研修

令和３年度の大学職員のＳＤについては、帰属意識の向上、個々のビジネススキル向

上、管理職の評価能力向上を目的に、「建学の精神涵養研修」、「ビジネスセミナー研修」、「評価者研修」、「ハラスメント防止研修」を実施した。

「建学の精神涵養研修」は、全職員を対象に、カテゴリーに分けて建学の精神研修動画の配信を行い、習熟度テストを実施した。

「ビジネスセミナー研修」は、全職員を対象に、ＳＭＢＣコンサルティング株式会社主催のビジネスセミナーの受講を実施した。

「評価者研修」は、管理職を対象に、株式会社エデュースによる評価者研修を実施した。

「ハラスメント防止研修」は、役職者を対象に、一般社団法人日本ハラスメントカウンセラー協会によるハラスメント防止研修を実施した。

令和４年度以降の大学職員のＳＤについては、法人事務局の長期計画で「組織の活性化と職場環境改善の推進」、中期計画として「人事・組織の活性化」を掲げ、その上で事業計画における「人事に関する計画の取り組み」として人事制度の見直しを行っており、導入予定の資格制度に連動した新たな職員研修制度を構築すべく現在検討している。

16. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

（１）教育課程内の取組について

本学では、令和３年度から初年次を中心とした全学共通基礎課程「武蔵野ＩＮＩＴＩＡＬ」を導入している。「武蔵野ＩＮＩＴＩＡＬ」は、『(知識・体系等の)基礎・共通基盤』を意味し、専門的な分野を学ぶ前にまず自己基礎力を養う。その上で、少人数制のゼミナールや授業を通じてグループワークやプレゼンテーション等のアカデミックスキルの修得訓練を重ね、より実践的なコミュニケーション力やチームワーク形成力、思考力等を養う。また、学士課程の質の維持・向上を目指すものとして、一方的な知識・技能を教え込むのではなく、学生に自ら成長させる「場」を提供することで、社会で活躍するための汎用的な力を身に付け、豊かな人間性や課題探求能力等の養成を目的としている。

社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う教育課程について、共通科目において該当する授業科目は『建学』科目の「仏教（生き方を考える）基礎」「仏教（生き方を考える）発展」、『フィールド・スタディーズ』科目の「フィールド・スタディーズ」「フィールド・スタディーズ１～４」「フィールド・スタディーズ発展１Ａ～１Ｄ」「フィールド・スタディーズ発展２Ａ～２Ｅ」「フィールド・スタディーズ発展３Ａ～３Ｅ」「フィールド・スタディーズ発展４Ａ～４Ｄ」、及び『インターンシップ』科目の「インターンシップ」「企業協働プロジェクト」である**【資料 12】**。１年次では、「仏教（生き方を考える）基礎」において自らの生き方を見つめ、大学生活や学習をしていく中で自身のキャリアについて考える授業を行う。また、『フィールド・スタ

ディーズ』科目において、１年次から４年次の夏休み期間を中心に学外（国内、海外）で学ぶ学外学修プログラムを実践し、地方や世界が直面する課題に気づき、解決するための想像力、実践力等を養う。２年次では「インターンシップ」「企業協働プロジェクト」を軸に体験活動を通じ、職業に必要な知識・技能を修得し、自らの適性等に応じ主体的に進路を選択する能力を養成している。これらの科目では、学生の能動性を引き出し、自己成長していくための“自己発見”“社会と他者への気付き”“再定義”等のプロセスを経て、“学修姿勢”を形成させる契機としている。さらに、３年次では「仏教（生き方を考える）発展」にて、１年次に考えた生き方を改めて見つめなおし、その確立をはかる。

学科科目では、「サステナビリティプロジェクト１～４」において社会課題解決にグループで取り組むことで、自ら考え、主体的に行動する力、チームで働く力を身につける。またプロジェクトの学修過程で身につける経験－内省－教訓－実践のサイクルは変化の激しい時代において、学び続け自らをアップデートする姿勢へとつながる。また、「サステナビリティ社会連携演習Ａ～Ｅ」での企業、ＮＰＯ、行政などの現場における実習経験は、卒業後のキャリアイメージの形成につながる**【資料 12】**。

（２）教育課程外の取組について

全学生を対象に、進路ガイダンス及び就職支援、資格取得支援を行っている。就職支援においては求人票の公開や就職支援ガイダンスの実施、キャリアアドバイザー（就職相談員）による学生相談対応をはじめ、学内合同企業説明会、模擬面接対策講座、ＳＰＩ試験対策講座等も開講している。資格取得に関しては、資格取得対策講座を開講している（令和３年度）。また、ＴＯＥＩＣ試験や各種外国語検定試験を学内で実施し、学生の資格・検定試験の受験機会の促進に努めている。加えて外国語検定試験合格者、ＴＯＥＩＣ高得点取得者等に対して奨励金を授与する制度や、大学が指定する合格難易度の高い資格に関しては奨学金を給付する制度を設けている。

（３）適切な体制の整備について

オンラインシステム「ＭＵＳＣＡＴ」上に、学生ポートフォリオシステム「学生カルテ」を構築し、学生と教職員が相互に目標の確認をしながら、学修成果・行動実績・志向の変化を蓄積しつつ、キャリア記録を作成する。加えて、各クラスの指導教員は、定期的に担当する学生と個人面談を行い、学生一人ひとりに対し、より適切な指導・助言できる体制を整えている。

授業外での学生のサポート体制として、オンラインチャットツールでの学生の個別フォローを行い、また、海外等の遠隔地からのゲストスピーカー出講をオンラインで行う等、オンラインツールを活用することで、学生サポートやカリキュラムの充実を図っていく。

さらに令和３年８月、キャリア開発部長をセンター長とし、学生支援部長を含む教職員（センター員）から成る「武蔵野大学キャリアセンター」を開設した。当センターにおいて、キャリア教育及び就職支援に関する基本計画の策定、推進・検証、キャリア教育の企画及び実施、及び学生面談等を行い、学生の社会的・職業的自立を図るために必要な能力の育成に向けたサポートを行っている。

以　上

資料目次

資料１　環境省「平成 30 年度　環境・循環型社会・生物多様性白書」・・・・・・・・・ ｐ．１

資料２　ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの関連性・・・・・・・・・・・・ ｐ．３

資料３　工学部サステナビリティ学科　履修モデル・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ｐ．４

資料４　実習先一覧（共通科目「フィールド・スタディーズ」「フィールド・スタディーズ１～４」）・・ ｐ．６

資料５　実習先一覧（共通科目「フィールド・スタディーズ発展１Ａ～４Ｄ」）・・ ｐ．11

資料６　インターンシップ先一覧（共通科目「インターンシップ」）・・・・・・・・・・・ ｐ．13

資料７　研修先一覧（学科科目「サステナビリティ学社会実装演習Ａ～Ｅ」）・・・ ｐ．14

資料８　学校法人武蔵野大学定年規程・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ｐ．15

資料９　工学部サステナビリティ学科　時間割（案）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ｐ．18

資料 10　工学部学サステナビリティ学科設置に係る学術雑誌整備一覧・・・・・・・・・・ ｐ．23

資料 11　公開情報及び掲載先一覧・・ ｐ．24

資料 12　社会的・職業的自立に関係する授業科目一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ｐ．25

第１章　第五次環境基本計画に至る持続可能な社会への潮流

世界人口は70億人を突破し、2050年には98億人に達すると予測されています。人間活動に伴う地球環境への負荷はますます増大し、人類の生存基盤である地球環境は存続の危機に瀕しています。こうした危機感を背景に、2015年に「持続可能な開発目標（SDGs）※1」と「パリ協定※2」が採択されました。世界は持続可能な社会に向けた大きな転換点を迎えています。

一方、我が国は、本格的な人口減少・少子高齢化を迎えています。地方から都市への人口流出が継続し、地方の活力の低下によって、里地里山など豊かな自然環境が失われつつあります。

2018年４月に閣議決定した第五次環境基本計画では、そうした国際・国内情勢に的確に対応するため、SDGsの考え方も活用し、環境・経済・社会の統合的向上を具体化することで、将来にわたって質の高い生活をもたらす「新たな成長」につなげることを目指しています。

第１章では、「持続可能な開発目標（SDGs）」や「パリ協定」を踏まえた国内外の動向を概観するとともに、その道しるべとなる、第五次環境基本計画が目指す、持続可能な社会の方向性を解説します。

第１節　持続可能な社会に向けたパラダイムシフト

１　地球環境の危機

（1）地球の限界（プラネタリー・バウンダリー）

アフリカ、アジア諸国を中心に世界人口は増大しており、世界的な天然資源・エネルギー、水、食料等の需要拡大を招き、今後、我が国経済にも大きな影響を及ぼす可能性があります。地球規模での人口増加や経済規模の拡大の中で、人間活動に伴う地球環境の悪化はますます深刻となり、地球の生命維持システムは存続の危機に瀕しています。

人間活動による地球システムへの影響を客観的に評価する方法の一例として、地球の限界（プラネタリー・バウンダリー）という注目すべき研究があります。その研究によれば、地球の変化に関する各項目について、人間が安全に活動できる範囲内にとどまれば人間社会は発展し繁栄できるが、境界※3を越えることがあれば、人間が依存する自然資源に対して回復不可能な変化が引き起こされるとされています。この研究が対象としている９つの環境要素のうち、種の絶滅の速度と窒素・リンの循環については、不確実性の領域を超えて高リスクの領域にあり、また、気候変動と土地利用変化については、リスクが増大する不確実性の領域に達していると分析されています（図1-1-1）。このような地球の限界の中で、豊かな暮らしをいかに追求するかが、この研究成果から求められています。

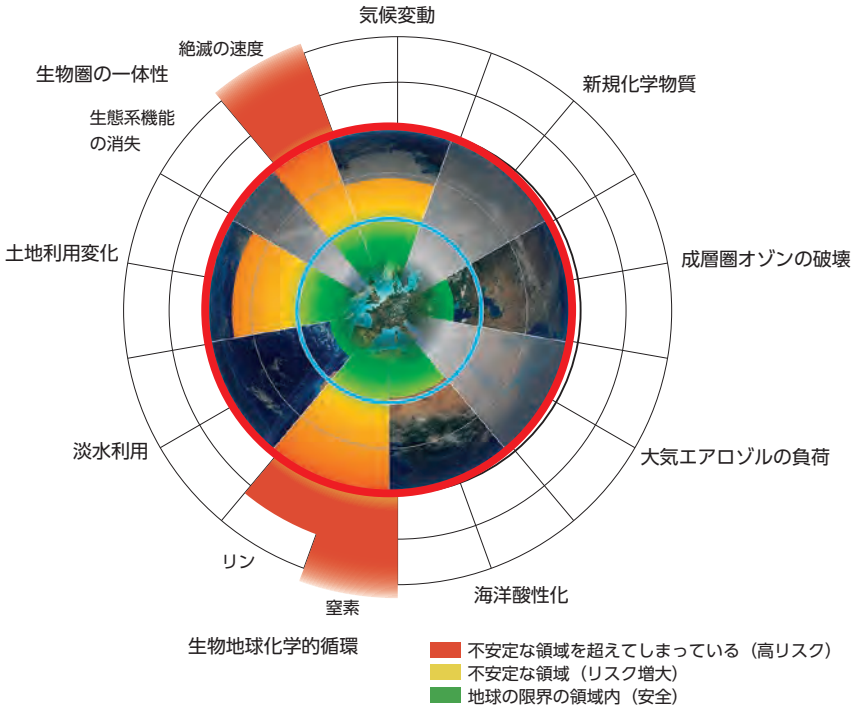
※1：2015年９月の国連総会において採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さない（leave no one behind）ことを誓っている。

※2：2015年12月の気候変動枠組条約第21回締約国会議（COP21）で採択された気候変動に関する国際枠組み。世界全体の平均気温の上昇を2℃より十分下方に抑えるとともに、1.5℃に抑える努力を追求すること、そのために、今世紀後半に人為的な温室効果ガス排出の実質ゼロ（人為的な温室効果ガス排出量と吸収量を均衡させること）を目指している。

※3：どの水準を「境界」とすべきかは、自然科学的知見のみによって決定されるものではなく、自然科学的知見を踏まえて、どの程度のリスクまで許容できるのかという社会的及び政策的な判断を要する。同研究における境界については、保守的・リスク回避的なアプローチにより設定されている。

プラネタリー・バウンダリーが指摘する「気候変動」、「生物多様性」、「土地利用の変化」、「窒素の生物地球化学的循環」の危機の現状を以下に概観します。

図1-1-1　地球の限界（プラネタリー・バウンダリー）による地球の状況

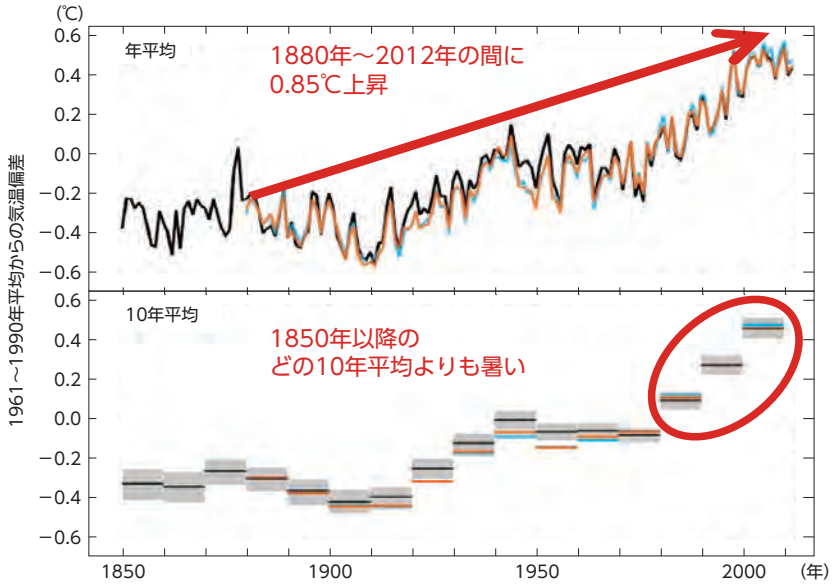


資料：Will Steffen et al.「Guiding human development on a changing planet」

(2) 気候変動リスクの顕在化

気候変動に関する政府間パネル（IPCC）の第5次評価報告書によると、気候システムの温暖化には疑う余地がなく、1950年代以降、観測された変化の多くは数十年から数千年間にわたり前例がないものであるとされています。1986～2005年の平均と比較すると、陸域と海上を合わせた世界平均地上気温は、1880年～2012年の間に0.85℃上昇しています。また、最近30年における10年ごとの平均気温は、いずれも1850年以降のどの10年間よりも平均気温が高くなっています（図1-1-2）。さらに、ここ数十年、気候変動は全ての大陸と海洋にわたり、自然及び人間システムに影響を与えており、気候変動の影響の証拠は、自然システムに最も強くかつ最も包括的に現れているとしています（図1-1-3）。

図1-1-2　世界平均地上気温の偏差（1850年～2012年）



注：線の色の違いは、使用している観測データの違い。
資料：気候変動に関する政府間パネル（IPCC）「第5次評価報告書第1作業部会報告書」より環境省作成

【出展】
環境省．"平成30年版 環境・循環型社会・生物多様性白書". https://www.env.go.jp/policy/hakusyo/h30/pdf.html,
第1章　第五次環境基本計画に至る持続可能な社会への潮流, p. 4-5.

資料2
本文７ページ参照

ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの関連性

	ディプロマ・ポリシー（DP）	カリキュラム・ポリシー（CP）
知識・専門性 【学びの基礎力を基盤とした専門能力】	自ら教養・基礎学力を修得し、自立的・主体的に学ぶことができる。 【教養・基礎学力】	1年次より全学共通基礎課程である「武蔵野INITIAL」を履修します。武蔵野 INITIAL は、学部・学科での専門教育に先だって、大学レベルでの学びとは何かをはじめに学ぶプログラムです。人生を生きる智慧としての幅広い教養を身につける機会を提供します。「武蔵野INITIAL」には、『建学』『スポーツ・身体』『情報』『外国語』『教養日本語』『CHP（Creating Happiness Program）』「フィールド・スタディーズ」「インターンシップ」「全学教養ゼミナール」そして「寄付講座」などの科目群があります。これら科目群は「知識・専門性」「関心・態度・人格」「思考・判断」「実践的スキル・表現」に横断的に関わるところに大きな特色を有します。
	データ分析/AI活用や、プログラミングの基礎を身につけ、課題解決に活用することができる。 【教養・基礎学力】	本学科では全学共通基礎課程の情報副専攻コース（AI活用エキスパートコース）の履修を推奨し、1年次に「データサイエンス基礎」「人工知能基礎」「情報技能基礎」「プログラミング基礎」を学び、2年次には「人工知能技術と社会」、「情報技法発展」、「機械学習活用」、「データサイエンス活用」、「メディアデザイン」「サービスデザイン」といった科目を学びます。3年次には「人工知能実践プロジェクト」を履修することで実践での活用力を高めます。
	人類社会や地球環境のサステナビリティに対する深い理解を有する。 【専門能力】	1年次の入学直後に、サステナビリティとは何かを集中的に学ぶためのワークショップ「サステナビリティ学と創造的学び」を受講します。その後、1年次では「サステナビリティ学基礎A・B」、「環境倫理・環境正義」、2・3年次では「サステナビリティ思考入門」、「環境福祉学」、「サステナブルライフスタイル論」といった科目でサステナビリティに関する包括的な理解を深めます。また、環境、社会のサステナビリティを考える上で重要な個別分野として「環境エネルギー論」「資源循環論」「環境保全生態学」「環境地球化学」「環境政策論」「環境経済学」「水とサステナビリティ」「食とサステナビリティ」について学びます。
	ソーシャルデザイン及び環境エンジニアリングに関する知識・方法・技術を習得している。 【専門能力】	2年次になると、ソーシャルデザインと環境エンジニアリングの分野の専門科目の学びが始まります。ソーシャルデザイン分野では、「ソーシャルビジネス論」などのビジネス・経営系科目、「持続可能な地域づくり論」などの地域・コミュニティ系科目、「ESD論」などの教育・心理系科目を学んで行きます。また社会に変化を生み出す方法として「シビックアクション論」等を学びます。環境エンジニアリング分野では、「カーボンマネジメント演習」等のエネルギー・気候変動系科目、、「資源循環マネジメント演習」などの資源循環系科目、「サステナビリティリスク学」などの化学物質化学物質・リスク系科目、「生物多様性保全特論」などの自然環境系の科目を学んでいきます。また、「CAD演習」、「GIS・測量演習」、「環境調査演習A・B・C」といった科目で環境調査や設計の技術を身につけます。変化の早いサステナビリティ分野の最新の事例等は、「サステナビリティ学特殊授業」で学びます。
関心・態度・人格 【他者と自己を理解し、自発的に踏み出す力】	自己と他者を理解し、多様性を認め合い、自分らしく過ごせる公平な関係性を築くことができる。 【自己認識力・他者理解力】	1年次の「サステナビリティ学と創造的学び」において、自己認識、内省、傾聴、対話を体験します。さらに、2・3年時の「共創型リーダーシップ論」では、多様性を認め合い、共創する関係性づくりを学びます。その学びを「サステナビリティプロジェクト1・2・3・4」で他者との協働体験に活かすことで、より確かな能力として身につけます。
	よりよい世界の実現のために取り組むべき課題を見つけることができる。 【課題発見力】	1年次の「サステナビリティプロジェクト入門」と2年次の「システム思考と学習する組織」において、問題を分析し、真に解決すべき課題を見つける方法について学びます。その学びを、「サステナビリティプロジェクト1・2・3・4」や「サステナビリティ学社会実践演習A・B・C・D・E」での現実社会の課題発見に活かすことで、より確かな能力として身につけます。
	変化する時代において、問い、学び、挑戦し続ける姿勢を持つ。 【主体性】	1年次～3年次の「サステナビリティプロジェクト1・2・3・4」において、現実の社会課題に向き合い、主体的に考え行動する体験をします。また、課題解決のために必要な知識やスキルを自律的に学び習得する体験を通じて自ら学ぶ姿勢を身につけます。 また、学外等で自主的に行った学びに対し、「総合研究A・B・C」で単位認定することにより、学生の主体的な学びを支援します。
	社会・環境の課題に対する具体的な解決策を考え、実行することができる。 【実行力】	「サステナビリティプロジェクト1・2・3・4」において、現実の課題解決を行っていく過程でさまざまな困難に直面します。それらの困難に向き合い、粘り強く解決策を考え、実行する経験を積んでいきます。
	高い倫理観を持ち、サステナブルな世界の実現に向け、考え、行動することができる。 【人格形成・使命感】	1年次に「環境倫理・環境正義」において、人間と自然の関係および人間相互の関係のあり方について深く考えます。1～3年次に行う「サステナビリティプロジェクト1・2・3・4」では、現実社会の問題に向き合い、課題解決に取り組む経験を通して、サステナブルな社会に向けて考え、行動する姿勢を養います。
思考・判断 【課題を多角的に捉え、創造的に考える力】	必要な情報を収集し、批判的、論理的思考をもって物事を分析することができる。【情報分析力・論理的思考力】	1年次に「アカデミックスキル入門」を履修し、情報の収集や分析、それにもとづいた思考と結論導出を学びます。2年生以降では「環境統計学」「社会調査法」といった授業で、調査によるデータ収集やそれを用いた分析の手法を学びます。ここで身につけた情報分析力や論理的思考力を、「サステナビリティプロジェクト1・2・3・4」や「サステナビリティ研究1・2」「卒業論文」で活用することで、より確かな能力として身につけます。
	多面的に物事をとらえ、包括的視点から意思決定を行うことができる。 【判断力】	2年次に「サステナビリティ思考入門」を履修し、包括的視点から対策を考える思考法として、システム思考、ライフサイクル思考、リスクマネジメントの考え方を学びます。
	解決すべき課題の問題構造を理解し、本質的な原因を見極めたうえで解決策をデザインすることができる。 【課題解決力】	2・3年次の「システム思考と学習する組織」において、問題構造を理解し、解決策をデザインするアプローチとしてシステム思考を学びます。また、「サステナビリティプロジェクト入門」及び「サステナビリティプロジェクト1・2・3・4」において、課題解決の方法について学ぶとともに、現実社会での課題解決に実際に取り組むことにより課題解決力を高めます。
	与えられた条件下で課題解決にむけたアイデアを創造的に考えることができる。【創造的思考力】	2・3年次の「サステナブルデザイン思考」で、共感・問題定義・アイデア創出・プロトタイプ・テストといったプロセスを通じて、アイデア創出の方法を学びます。その学びを「サステナビリティプロジェクト1・2・3・4」での企画立案時に活用することで、より確かな能力として身につけます。
実践的スキル・表現 【多様な人々のなかで、自らの考えを表現・発信する力】	言葉やその他の方法で、他者と意思の疎通をしたり、情報共有をしたりすることができる。 【コミュニケーション力】	1年次の「アカデミックスキル入門」で、情報の収集や分析の結果得られた結論を文章やグラフ、表を用いて表現することを学びます。また、2・3年次の「メディア表現演習」で、ポスター、映像、Webなどのメディアを使ったコミュニケーションや表現を学びます。 これらの学びを「サステナビリティプロジェクト1・2・3・4」や「サステナビリティ研究1・2」「卒業論文」で活用することで、より確かな能力として身につけます。
	自分の伝えたいことを、文章や図表、画像や映像などを使って適切に表現することができる。 【表現力】	
	対話や協働を通じて、人や組織が望ましい方向へと進むようリードすることができる。 【傾聴力・リーダーシップ・チームワーク力】	サステナブルな社会を実現するためには多様な主体の共創により未来を生み出す必要があります。そのような共創を支援するリーダーシップのあり方について2・3年次に「共創型リーダーシップ論」を学びます。

工学部サステナビリティ学科　履修モデル

履修モデルとは、将来の進路や目的に合わせて学年ごとに何を学ぶかを示すための代表的なモデルです。必ずご自身で、学習希望に履修条件、履修上限単位数（CAP）、卒業要件を考慮し履修計画を立ててください。また、時間割上記載の学年で履修できない場合があります。

モデル1　ソーシャルデザインコース 【進路イメージ】企業や国・自治体、NPOなどにおけるサステナビリティ推進担当者、大学院進学

科目区分			1年		2年		3年		4年	
共通科目（27）	必修（16）	建学（4）	★ 仏教（生き方を考える）基礎	2			★ 仏教（生き方を考える）発展	2		
		情報（2）	★ データサイエンス基礎	1						
			★ 人工知能基礎	1						
		外国語（4）	★ 英語基礎A	2						
			★ 英語基礎C	2						
		教養日本語（1）	★ 日本語リテラシー	1						
		CHP（4）	★ SDGs基礎	1						
			★ SDGs発展1	1						
			★ SDGs発展2	1						
			★ SDGs発展3	1						
		フィールド・スタディーズ科目（1）	★ フィールド・スタディーズ	1						
	選択必修（11）	情報（11）	メディアリテラシー	1	情報技法発展A	1	人工知能実践プロジェクト	2		
			情報技法基礎	1	情報技法発展B	1				
			プログラミング基礎	1	人工知能技術と社会	1				
					データサイエンス活用1	1				
					データサイエンス活用2	1				
					メディアデザイン	1				
学科科目（97）	必修（49）	サステナビリティ基幹科目（23）	★ サステナビリティ学と創造的学び	1	★ サステナビリティ思考入門	2				
			★ アカデミックスキル入門	2	★ 環境福祉学	2				
			★ サステナビリティ学基礎A	2	★ 環境政策論	2				
			★ サステナビリティ学基礎B	2	★ 環境保全生態学	2				
			★ 環境倫理・環境正義	2	★ 環境地球化学	2				
			★ 環境エネルギー論	2						
			★ 資源循環論	2						
		プロジェクト科目（26）	★ サステナビリティプロジェクト入門	2	★ サステナビリティプロジェクト2	4	★ サステナビリティプロジェクト4	4	★ サステナビリティ研究2	4
			★ サステナビリティプロジェクト1	4	★ サステナビリティプロジェクト3	4	★ サステナビリティ研究1	4		
	選択必修（48）	サステナビリティ基幹科目（4）			環境経済学	2				
					サステナブルライフスタイル論	2				
		ソーシャルデザイン科目（24）			ソーシャルデザイン事例研究	2	共創型リーダーシップ論	2		
					サステナブルデザイン思考	2	シビックアクション論	2		
					システム思考と学習する組織	2	ファシリテーション演習	2		
					社会調査法	2	ソーシャルビジネス論	2		
							サステナブル経営論	2		
							サステナビリティ戦略演習	2		
							コミュニティデザイン論	2		
							持続可能な地域づくり論	2		
		環境エンジニアリング科目（6）					環境統計学	2		
							カーボンマネジメント演習	2		
							資源循環マネジメント演習	2		
		プロジェクト科目（4）							卒業論文	4
		サステナビリティ先端科目（6）	サステナビリティ学特殊授業A	2	サステナビリティ学特殊授業B	2	サステナビリティ学特殊授業C	2		
		社会連携科目（3）	サステナビリティ学社会実践演習A	1	サステナビリティ学社会実践演習C	2				
		総合研究（1）					総合研究A	1		
履修モデル　計			39		40		37		8	
CAP（履修上限単位数）			40		40		40		40	
卒業所要単位数			合計124単位以上							

注意）卒業所要単位数は別途、卒業所要単位表も必ず確認し、必修科目や指定された科目の履修漏れが無い★＝必修科目

モデル2　環境エンジニアリングコース 【進路イメージ】環境関連企業や製造業・サービス業の環境エンジニア、大学院進学

科目区分			1年		2年		3年		4年	
共通科目（27）	必修（16）	建学（4）	★　仏教（生き方を考える）基礎	2			★　仏教（生き方を考える）発展	2		
		情報（2）	★　データサイエンス基礎	1						
			★　人工知能基礎	1						
		外国語（4）	★　英語基礎A	2						
			★　英語基礎C	2						
		教養日本語（1）	★　日本語リテラシー	1						
		CHP（4）	★　SDGs基礎	1						
			★　SDGs発展1	1						
			★　SDGs発展2	1						
			★　SDGs発展3	1						
		フィールド・スタディーズ科目（1）	★　フィールド・スタディーズ	1						
	選択必修（11）	情報（11）	メディアリテラシー	1	情報技法発展A	1	人工知能実践プロジェクト	2		
			情報技法基礎	1	情報技法発展B	1				
			プログラミング基礎	1	人工知能技術と社会	1				
					データサイエンス活用1	1				
					データサイエンス活用2	1				
					メディアデザイン	1				
学科科目（97）	必修（49）	サステナビリティ基幹科目（23）	★　サステナビリティ学と創造的学び	1	★　サステナビリティ思考入門	2				
			★　アカデミックスキル入門	2	★　環境福祉学	2				
			★　サステナビリティ学基礎A	2	★　環境政策論	2				
			★　サステナビリティ学基礎B	2	★　環境保全生態学	2				
			★　環境倫理・環境正義	2	★　環境地球化学	2				
			★　環境エネルギー論	2						
			★　資源循環論	2						
		プロジェクト科目（26）	★　サステナビリティプロジェクト入門	2	★　サステナビリティプロジェクト2	4	★　サステナビリティプロジェクト4	4	★　サステナビリティ研究2	4
			★　サステナビリティプロジェクト1	4	★　サステナビリティプロジェクト3	4	★　サステナビリティ研究1	4		
	選択必修（48）	サステナビリティ基幹科目（4）			水とサステナビリティ	2				
					食とサステナビリティ	2				
		ソーシャルデザイン科目（6）					サステナブルデザイン思考	2		
							サステナブル経営論	2		
							サステナビリティ戦略演習	2		
		環境エンジニアリング科目（24）			環境統計学	2	CAD演習	2		
					ライフサイクルアセスメント論	2	GIS・測量演習	2		
					カーボンマネジメント演習	2	持続可能技術特論1	2		
					資源循環マネジメント演習	2	環境材料学	2		
							生物多様性保全特論	2		
							環境分析化学	2		
							環境調査演習A	2		
							サステナビリティリスク学	2		
		プロジェクト科目（4）							卒業論文	4
		サステナビリティ先端科目（6）	サステナビリティ学特殊授業A	2	サステナビリティ学特殊授業B	2	サステナビリティ学特殊授業C	2		
		社会連携科目（3）	サステナビリティ学社会実践演習A	1	サステナビリティ学社会実践演習C	2				
		総合研究（1）					総合研究A	1		
履修モデル　計			39		40		37		8	
CAP（履修上限単位数）			40		40		40		40	
卒業所要単位数			合計124単位以上							

注意）卒業所要単位数は別途、卒業所要単位表も必ず確認し、必修科目や指定された科目の履修漏れが無し★＝必修科目

令和３年度実習先一覧（共通科目「フィールド・スタディーズ」「フィールド・スタディーズ１～４」）

No	プログラム名	概要	所在地	受入可能人数（人）	日程	科目
1	日本の「神様」めぐり	日本人にとっての祈りとはどのようなものなのかを日本人の祈りの現場をめぐることで、日本人の心性への理解、しいては広く人間を理解する。	オンライン	200	3日間	フィールド・スタディーズ
2	江戸東京　都市史の試み	私たちの住んでいる東京を歩き、その成り立ちを学ぶことで、私たちの歴史が祖先たちによってどのように織りなされてきたのか、どう書かれ、記憶されてきたのかといった、人間の固有の属性である「歴史」について理解を深め、この世界の結びつき、支えあいの姿に目を開いていく。	オンライン	200	3日間	フィールド・スタディーズ
3	仏さまとの出会い	東国庶民の仏教信仰をテーマにして、東京から日帰り圏での仏教信仰の実態を見学し、地域の人々の結びつきや信仰を通じた支えあいについて気づきを深めていく。	オンライン	200	3日間	フィールド・スタディーズ
4	隣のアジア人	外国人労働者の背後にある文化、家族、思いなどを共生者としての視点から見聞きさせてもらい、これからの多文化社会のありようを学ぶ。	オンライン	100	3日間	フィールド・スタディーズ
5	人間とその営為	人間社会の総合的な理解・実感を、多方面にわたる専門分野を持つ教員の知識・見識を総合的に学ぶ。	オンライン	150	１週間	フィールド・スタディーズ
6	台湾入門～台湾を楽しみ、台湾を学ぶ～	台湾の現地事情や歴史、日台の絆と結びつき、日台関係論など、複数の視点から台湾という土地を見つめ、学ぶ。同時に、台湾について学ぶことで、冷静でかつ客観的な国際感覚を培養し、見聞を広めることも目的とする。	オンライン	50	１週間	フィールド・スタディーズ
7	台湾南部「琉球」スタディツアー ―高雄・屏東・台南から“つながり”を考える―	台湾の複雑な民族と言語について、それが形成された歴史的背景や、そうした多文化性が生み出す台湾の魅力について学ぶ。協定大学である大仁科技大学応用日語系（日本語学科）学生とのオンライン交流会をはじめ、台湾南部（高雄、小琉球／屏東、台南）をオンラインで散策する。	オンライン	50	１週間	フィールド・スタディーズ
8	きらめく仏塔の都	タイの環境と今・タイ人のくらし・タイの歴史と美術・タイ語・タイの観光などについて、現地にいる日本人教員とオンラインで学修する。	オンライン	100	１週間	フィールド・スタディーズ
9	ハリーポッター＆シャーロックホームズからイギリス文学を学ぶ旅	ハリー・ポッターとシャーロック・ホームズを通してイギリスの文学、そして物語の背景にあるイギリスの文化、歴史などについて学ぶ。	オンライン	40	１週間	フィールド・スタディーズ
10	世界を牽引するIT産業都市上海の今	オンラインで現地の専門家等との交流を通じ、中国の経済を牽引する都市・上海を中心として、IT産業の中でテーマを設定し、中国での各企業の現状やサービスの展開方法などを学ぶ。	オンライン	30	１週間	フィールド・スタディーズ
11	東京でマレーシア・ボルネオ島の熱帯林と人々の関わりを学ぶ	マレーシア・ボルネオ島の自然や野生生物の保全について現地の専門家によるオンライン講義（日本語通訳含む）を通じて学ぶ。また、板橋区立熱帯環境植物園を訪れ、実際に熱帯林に生息する植物や動物について見学する。現地の人々の暮らしと熱帯林の関わりについても地域研究の専門家も招いて伺い、ディスカッションを行う。	オンライン	30	１週間	フィールド・スタディーズ
12	グローバル教育オンライン研修	アメリカの学校の様子や、現地の日本人教育学部教授や現地教員による講演などを聞き、アメリカの教育現場を学ぶ。また、同時にベトナムの教育現場も学び、違いを比較し学ぶ。	オンライン	30	１週間	フィールド・スタディーズ
13	Online カンボジアSDGｓ研修	カンボジアには、教育・福祉・労働など様々な社会問題がある。それらの社会問題の背景としてある内戦について現地の社会起業家よりソーシャルビジネスの観点から学び、研修最終日に「自分たちは何ができるか」を社会起業家に発表する。	オンライン	40	１週間	フィールド・スタディーズ
14	海外医療・福祉・薬学オンライン研修	アメリカ在住の日本人看護師・日本人心理カウンセラー等の講演や、ベトナムで活躍している日本人医療従事者からの業界最前線の話を聴くことで、アメリカの医療、ベトナムの医療を学ぶ。	オンライン	30	１週間	フィールド・スタディーズ
15	正解のないオンライン講座：カナダのSDGsの取り組み～オーロラ・福祉・海洋保全・自然を学ぶ～	カナダにおける海洋保全、福祉、オーロラ、文化などのキーワードを例として学ぶと共に、SDGsとの関連性も考え、学修する。	オンライン	20	１週間	フィールド・スタディーズ
16	江東区児童館インターンシップ（南砂児童館）	江東区内にある児童館での来館者対応や、児童館に遊びに来た児童と遊んだり、遊具の片付け、掃除などの日常業務補助、こども達のイベント運営補助等を行う。	東京23区	2	１週間	フィールド・スタディーズ
17	Field Study in English　(FSiE)	Explore career development opportunities by attending more than three events such as a public seminar, forum, symposium, job fair and so forth to be offered in English. 英語で提供される公開セミナー、フォーラム、シンポジウム、就職説明会などの3つ以上のイベントに参加して、キャリア開発の機会を探る。	東京23区	70	１週間	フィールド・スタディーズ

No	プログラム名	概要	所在地	受入可能人数（人）	日程	科目
18	TOKYO GLOBAL GATEWAY　体験英語学習＋途上国社会問題解決ﾌｨｰﾙﾄﾞｽﾀﾃﾞｨｰ	東京お台場にある英語体験型施設「TOKYO GLOBAL GATEWAY」で1日コースのプログラムを体験する。イングリッシュスピーカーとの会話を通じて、英語でのコミュニケーション力と異文化理解力を強化する。その後、途上国の社会課題について理解を深め、解決策の創出に挑戦することを目的としたフィールドスタディを対面で3日間実施する。途上国へのインタビューのみオンラインで行い、途上国の課題をチームで考え、解決策を提案する。	東京23区	30	１週間	フィールド・スタディーズ
19	東京臨海副都心　まちの景観づくり活動　（花壇管理・球根植栽・クリーン活動）	2020東京大会の会場に隣接する都立公園で実施の「花と緑のおもてなしプロジェクト」に参加し、活動を通して「まちの景観づくり」に貢献するとともに、社会人との交流体験により個々のキャリア向上を図る。「サマーガーデン」の維持管理活動（花殻摘み、除草、灌水、花植えなど）を２日間実施し、その後景観をテーマに4箇所を訪問し課題（レポート）を提出する。	東京23区	300	１週間	フィールド・スタディーズ
20	ビジネスと国際協力～SDGｓ複数目標の達成に取り組む人々の「セルフ・デベロップメント」	インドの貧困州で児童労働などの問題も現存するオリッサ州、テランガナ州。綿花栽培についての講演等から、オーガニックコットン栽培やSDGs目標達成に取り組む人々について学ぶ。	宮城県東松島市	30	１週間	フィールド・スタディーズ
21	作陶における伝統の創造	陶芸家の指導の下、陶器を製作する。自分自身の手でものを作り出す喜びと、陶磁器に関わる人間の営みの歴史や陶磁器が生まれる原理などを学ぶ。	神奈川県秦野市	40	１週間	フィールド・スタディーズ
22	出入国在留管理・税関視察プログラム	出入国管理（人の出入り）及び税関（物の出入り）について制度を確認した上で、本プログラムを通じて見聞した課題を整理し、今後の行政や市民社会のありかたを検討することを目的とする。	東京２３区	40	１週間	フィールド・スタディーズ
23	山梨県西桂町地域活性化プロジェクト2022	地域活性化に向けて、西桂町を知り、町の人が大切にしているものを共に学び、動画や写真等をFacebookやInstagram等で発信する。	山梨県西桂町	10	１週間	フィールド・スタディーズ
24	武蔵野地区空き家等状況調査（西東京市）	西東京市の空き家等の状況調査を行う。市内をいくつかのエリアに分け、エリアごと空き家等の現地調査を実施し、地域の課題を含め、現況報告書を作成する。また、現況調査の結果を踏まえ、空き家問題に対する予防や利活用について提案を行う。	東京都西東京市	6	１週間	フィールド・スタディーズ
25	武蔵野地区空き家等状況調査（武蔵野市）	武蔵野市の空き家等の状況調査を行う。市内をいくつかのエリアに分け、エリアごとに空き家等の現地調査を実施し、地域の課題を含め、現況報告書を作成する。また、状況調査の結果を踏まえ、武蔵野市の空き家対策として、空き家の予防・適正管理・利活用に関する提案を行う。	東京都武蔵野市	30	１週間	フィールド・スタディーズ
26	仏教・築地・鎌倉FS	築地本願寺、鎌倉の古寺、博物館や美術館での実習を通じ、武蔵野大学の基盤となる建学・仏教の精神への理解を深める。	神奈川県鎌倉市 東京２３区	20	１週間	フィールド・スタディーズ
27	東京グリーン・キャンパス・プログラム　（東京に残された緑地での保全活動）	東京都は都内に残された里山を保全地域として指定し、保護している。里山は人が自然を利用することで保たれていた景観であり、維持していくためには、定期的に草刈りや伐木を行うなど、多くの人手が必要とする。本プログラムでは、実際に保全地域にて草刈り等の保全活動を実施し、作業の楽しさ、大変さを体験することを通じて、人と自然との関わりについて学ぶ。	東京都多摩市	30	１週間	フィールド・スタディーズ
28	身近なバリア（東京）	障害の有無にかかわらず全ての人が共に生きる社会（インクルーシブ社会）の推進にむけて、学外に足を運びながら、私たちの身近にあるバリアを理解し、そのバリアを克服するために必要とされる視点や行動を学ぶ。	東京２３区	50	１週間	フィールド・スタディーズ
29	武蔵野市福祉公社　高齢者福祉支援インターンシップ	社会活動センターの各種講座の運営を中心に、在宅介護・地域包括支援センター、住宅改修・福祉用具相談支援センター、デイサービスセンター、権利擁護センター、法人本部等の実務補助を行う。	東京２３区	2	４週間	[事前事後学修]フィールド・スタディーズ [学外学修]フィールド・スタディーズ４
30	千川福祉会　社会福祉施設サポートインターンシップ	就労継続支援B型事業所において、封入・封緘作業の支援・補助を行う。生活介護事業所においては、封入・封緘作業の支援・補助の他にアート活動の支援・補助なども行う。放課後等デイサービス事業においては、買い物・アート・運動などの活動支援・補助を行う。	千葉県千川市	8	４週間	[事前事後学修]フィールド・スタディーズ [学外学修]フィールド・スタディーズ４
31	江東区役所（江東区文化コミュニティ財団）文化事業インターンシップ（江東公会堂（ティアラこうとう））	1,200人の大ホールを擁する江東公会堂「ティアラこうとう」で開催されるコンサートや公園の準備を行い、舞台芸術がどのように運営されるかを知るとともに、人々の生活にとって文化や芸術がどのような意味を持つかを考える。	東京２３区	2	１０日間	[事前事後学修]フィールド・スタディーズ [学外学修]フィールド・スタディーズ１
32	小金井市役所　インターンシップ	東京都小金井市役所における一般的な市役所業務の補助や、公民館での事務等補助を行う。	東京都小金井市	2	４週間	[事前事後学修]フィールド・スタディーズ [学外学修]フィールド・スタディーズ４

No	プログラム名	概要	所在地	受入可能人数（人）	日程	科目
33	NPO法人　居場所コム （みんなの居場所づくり-コミュニティの醸成）	地域の高齢者コミュニティーや育児コミュニティーの支援を行う団体において、カフェ、布雑巾づくり、昔あそび、ビーズ教室、キッチン教室などの様々な講座の準備、受付等を行うことで、地域に暮らす子供からお年寄りまで様々な年代の交流活動の補助を行う。	福島県石巻市	3	4週間	[事前事後学修]フィールド・スタディーズ [学外学修]フィールド・スタディーズ4
34	江東区児童館インターンシップ（4児童館：亀戸・亀戸第三・東砂児童館・千田児童館）	江東区内にある児童館での来館者対応や、児童館に遊びに来た児童と遊んだり、遊具の片付け、掃除などの日常業務補助、こども達のイベント運営補助等を行う。	東京２３区	7	4週間	[事前事後学修]フィールド・スタディーズ [学外学修]フィールド・スタディーズ4
35	江東区児童館インターンシップ（4児童館：大島・亀戸第二・小名木川・東陽児童館）	江東区内にある児童館での来館者対応や、児童館に遊びに来た児童と遊んだり、遊具の片付け、掃除などの日常業務補助、こども達のイベント運営補助等を行う。	東京２３区	8	4週間	[事前事後学修]フィールド・スタディーズ [学外学修]フィールド・スタディーズ4
36	江東区児童館インターンシップ（2児童館：辰巳・塩浜児童館）	江東区内にある児童館での来館者対応や、児童館に遊びに来た児童と遊んだり、遊具の片付け、掃除などの日常業務補助、こども達のイベント運営補助等を行う。	東京２３区	3	2週間	[事前事後学修]フィールド・スタディーズ [学外学修]フィールド・スタディーズ2
37	小金井市観光まちおこし協会インターンシップ　（まちと遊びまちから学ぶインターンシップ）	まちの観光資源や地域の魅力発信の取り組みについて学習し、商店街や公共施設のイベントの体験実習を行うことで、まちの人々と交流し地域活動を体験する。	東京都小金井市	2	3週間	[事前事後学修]フィールド・スタディーズ [学外学修]フィールド・スタディーズ3
38	小金井市貫井北センター（NPO法人市民の図書館・公民館こがねい）インターンシップ	NPO法人運営の図書館・公民館において、日常業務やイベントの運営補助を行う。	東京都小金井市	2	4週間	[事前事後学修]フィールド・スタディーズ [学外学修]フィールド・スタディーズ4
39	小金井市　地域の寄り合い所 また明日	赤ちゃんからお年寄りまで、小中高生や地域の人も立ち寄る「また明日」にて地域の人々と交流する。乳幼児のお世話や、小中学生の話し相手、勉強の見守り、高齢者に寄り添いながらサポート業務を行う。	東京都小金井市	4	3週間	[事前事後学修]フィールド・スタディーズ [学外学修]フィールド・スタディーズ3
40	西東京市役所　インターンシップ　（サマー子ども教室）	実施小学校全児童を対象に、夏休みの居場所作りとしてカリキュラムを組み、体験学習を中心に1クール約20人の教室形式で工作・クッキング・企業の出前講座などの指導補助を行う。学生立案による企画事業や児童指導全般の指導なども予定している。また、サマー子ども教室の実施がない日は、市内児童館もしくは学童クラブで、児童指導補助として子どもたちの活動を援助する実習を行う。	東京都西東京市	5	3週間	[事前事後学修]フィールド・スタディーズ [学外学修]フィールド・スタディーズ3
41	西東京市役所　インターンシップ　（児童館ランチタイム）	西東京市内の児童館では、夏休み期間、家庭での孤食防止や居場所としてランチタイムを設けている。その児童館で夏休みを過ごす子どもへの指導を行う。	東京都西東京市	18	3週間	[事前事後学修]フィールド・スタディーズ [学外学修]フィールド・スタディーズ3
42	東京特別区人事厚生事務組合／特別区協議会 （東京23区特別区を知ってもらうプログラム）	特別区協議会（事業部）では、「情報」「研究」「教育」をキーワードに特別区の自治の発展につくす事業を行っている。三つの分野を全て体験することを前提に、東京大都市地域の歴史的な資料、古地図の目録の作成、行政資料を検索するための簡単なガイドの作成、 研究成果書(特別区制度の紹介)の整理、中高校生向けの特別区制度の紹介教材の作成、一般市民向け特別区の自治に関する講座・講演会・自治体間連携シンポジウムの運営等の補助業務を行う。また、東京23区施設区関連施設を取材し、記事を作成する。	東京２３区	2	4週間	[事前事後学修]フィールド・スタディーズ [学外学修]フィールド・スタディーズ4
43	大成建設	大成建設の工事現場にて、工事計画を基に実際に建物が建てられていく過程等、現場管理業務の流れを見学・体験し学修する。	東京２３区	2	3週間	[事前事後学修]フィールド・スタディーズ [学外学修]フィールド・スタディーズ3
44	長野県長野市　JAながの農業経済・流通体験インターン	農作業体験を通じ農産物の流通を体験・学修する。また、直売所において農業者から消費者へ直接販売する直売施設の流通を体験する。	長野県長野市	8	1週間	フィールド・スタディーズ
45	北海道東川町役場 地方行政フィールドワーク	35年前から写真文化を核とした町づくりを進め全国的にも珍しく人口が増加し、全国の自治体から注目されて元気のある町・北海道東川町役場で、数多くのユニークな施策に取り組んでいる行政の仕事を体験する。	北海道東川町	75	4日間	フィールド・スタディーズ
46	宮城県石巻市　放課後デイサービス(障がい児)あっぷるじゃんぷ石巻・あっぷるプラス	[あっぷるじゃんぷ] 障がい児（中高生）が利用し、様々な体験を通し社会で必要な基本を学び、生活面の自立の向上また就労体験を行う場である「あっぷるジャンプ」にて、活動の支援、スタッフ補助、活動の企画・実施をする。 [あっぷるぷらす] 日常生活に少し困難を生じている18歳以上の方が通う福祉サービス「あっぷるぷらす」において、生活訓練や就労訓練、自立支援、就労支援の対応・スタッフ補助を行う。 [未来サポート館] 3.11東日本大震災から防災学修をする。	宮城県石巻市	8	1週間	フィールド・スタディーズ
47	宮城県名取市 閖上(ゆりあげ)～3.11を忘れない～自分で考える防災プログラム	名取図書館震構造・震災蔵書見学、防災公園見学、防災住宅見学、閖上地区フィールド・ワーク、津波の被害者である語り部さんの講話、防災士や宮城県防災指導員による講話等により東日本大震災について学び、今後の防災・減災・復興のあり方を検討する。	宮城県石巻市	64	1週間	フィールド・スタディーズ
48	宮城県大崎市　世界農業遺産大崎耕土エコツアーから学ぶ歴史探訪サステイナブルな生き方	何世代にもわたり継承されてきた伝統的な農林水産業とそれを取り巻く自然（生物多様性）と文化を国際連合食糧農業機関（FAO）が世界農業遺産に認定した大崎耕土でのエコツアーを体験することで日本型SDGｓのモデルとしてサステイナブルな生き方の一つを学び、エネルギーの自給にも挑戦している生活も体験し、近未来の持続可能な生き方の心地よさを実感する。	宮崎県大崎市	40	1週間	フィールド・スタディーズ

No	プログラム名	概要	所在地	受入可能人数（人）	日程	科目
49	那須甲子の森　SDGs運動会 ～自然の中で感じる、学ぶ、考える～	那須甲子の森の自然の中でのフィールド・ワークを通じ、自然に触れ、ものつくりを体験しながら、SDGsや那須甲子の地域課題を考える。	栃木県那須甲子	12	１週間	フィールド・スタディーズ
50	八丈島　島の人々との交流及び観光モニター活動	東京都の離島である八丈島を訪れ、フィールド・ワークや老人ホーム等での活動や交流を通して、現地の環境・観光・教育について理解を深める。	東京都八丈島町	24	１週間	フィールド・スタディーズ
51	のじりこマルシェ 英語インターン（長野県信濃町）	国内ホームステイで外国人と触れ合いながら、語学学習や文化を学び、海外の人と就労体験（外国人経営の宿泊施設での就労体験）を行う。	長野県信濃町	6	１週間	フィールド・スタディーズ
52	長野県信濃町における地域産業の体験と課題発掘	実際に農業を体験し、地方産業やこれからの農業ビジネス、６次産業化などについて考える。また、信濃町の産業、観光、環境などを調査し、課題や利用可能な町の資産を発掘して信濃町の地域活性化のための企画をチームで作り発表する。	長野県信濃町	20	１週間	フィールド・スタディーズ
53	武蔵野大学×長野県信濃町 実体験！地方発掘プロジェクト	町内の事業所などに協力を仰ぎ、信濃町の生活に根付いた人々とコミュニケーションをとりながら、信濃町の歴史、産業等を学び、そこから地域の活性化に繋がるPR動画を作成する。	長野県信濃町	5	１週間	フィールド・スタディーズ
54	ＪＡながの収穫前～収穫後作業体験プログラム	「日本一のりんごの町」を目指している飯綱町は、りんごの生産、加工、販売に力をいれて町づくりを行っている。飯綱町の主要産業である「農業」の現場を、実際に見て体験することで、学生の視点での農業の現状・課題・未来を感じて、考える。また、ログハウスでの共同生活で、学生同士や地域の農家の方との交流を深める。	長野県飯綱町	20	１週間	フィールド・スタディーズ
55	世界文化遺産富士山エコツアーから学ぶ自然共生サステイナブルな生き方	富士山麓のキャンプ場を本拠地として世界遺産となっている富士山の自然、歴史、文化をエコツアーを体験し、また自治体、NGO、自然学校、農林業、観光業などを訪ねることで、サステナブルな生き方について学ぶ。	山梨県各地域	40	１週間	フィールド・スタディーズ
56	京都・西本願寺を中心とした仏教フィールド・スタディーズ ～仏教思想・仏教文化の源流を探る～	京都・西本願寺の宿泊施設に滞在し、お寺の活動や、茶道・坐禅などの体験を通して、仏教が日本の日常生活や伝統文化に深く浸透していることを学ぶ。	京都府京都市	30	１週間	フィールド・スタディーズ
57	ビハーラ活動フィールドスタディーズ	浄土真宗本願寺派（西本願寺）が設立母体で、僧侶が常駐する緩和ケアの病院でのプログラム。がん末期の患者さんへの全人的ケアについて学び、特に死から生をみつめるなかで、死にゆく最後までその人らしく生き抜くことをどのように支えることができるかを学ぶ。	京都府京都市	20	１週間	フィールド・スタディーズ
58	沖縄に学ぶ	沖縄県を訪れ、沖縄の文化的独自性と政治的地位について学ぶ。	沖縄県各地域	20	１週間	フィールド・スタディーズ
59	日本文化 海の道	福岡県対馬から福岡市・大阪・奈良を巡り、日本文化の成り立ちについて学ぶ。	福岡県・大阪府ほか	20	１週間	フィールド・スタディーズ
60	東方の華	福岡・大阪・京都・長野・東京の16寺院を訪問し、日本に花開いた仏教の諸相を学ぶ。	福岡県・大阪府ほか	20	１週間	フィールド・スタディーズ
61	秋田県鹿角市地域ＤＭＯ体験プロジェクト	北東北の中心に位置する十和田八幡平国立公園に抱かれ、世界遺産１件、ユネスコ無形文化遺産2件を有する自然と伝統文化に恵まれた鹿角市において、本市の主力産業である観光産業に関する調査研究活動を通じて、地域の魅力を発信しながら観光客の増加に結びつけるための戦略的な地域活性化策について学ぶ。	秋田県鹿角市	10	４週間	[事前事後学修]フィールド・スタディーズ [学外学修]フィールド・スタディーズ４
62	はばたけ秋田県上小阿仁村！ 人口2,200人の小さな村にある魅力を見つける	少子高齢化が進む秋田県上小阿仁村での高齢者福祉施設での支援活動、自然環境、食文化等を体験し、上小阿仁村を今よりも活性化するためには、どのような取組みをすればよいか考える。	秋田県上小阿仁村	6	４週間	[事前事後学修]フィールド・スタディーズ [学外学修]フィールド・スタディーズ４
63	徳島県阿南市 加茂谷地区　田舎暮らし丸ごと体験実習	徳島県阿南市加茂谷地区を訪問し、現地のイベント参加や農作業体験を通して、交流活動や地域理解を深める。現地農家・地域おこし協力隊・加茂谷元気なまちづくり会の協力を仰ぎながら、現地の状況や課題について学ぶ。更に、グループワーク等を通じて、解決策や新たな提案を行い、インプットからアウトプットを実現する。	徳島県阿南市	12	２週間	[事前事後学修]フィールド・スタディーズ [学外学修]フィールド・スタディーズ２
64	福岡県大川市　モノ作りの魅力発信プロジェクト	国内有数の家具の生産地である福岡県大川市にて、自身のデザインによる家具作りを通し、大川市のモノ作りや地方都市の魅力を学び、発信する。	福岡県大川市	6	４週間	[事前事後学修]フィールド・スタディーズ [学外学修]フィールド・スタディーズ４
65	はばたけ秋田県上小阿仁村！ 人口2,200人の小さな村にある魅力を見つける	少子高齢化が進む秋田県上小阿仁村での高齢者福祉施設での支援活動、自然環境、食文化等を体験し、上小阿仁村を今よりも活性化するためには、どのような取組みをすればよいか考える。	秋田県上小阿仁村	８（予定）	２週間	[事前事後学修]フィールド・スタディーズ [学外学修]フィールド・スタディーズ２

No	プログラム名	概要	所在地	受入可能人数（人）	日程	科目
66	福島県猪苗代町　レイクサイドホテルみなとや・グリーンハウス	○ホテル「レイクサイドみなとや」や農家での体験活動を通して、猪苗代地域の活性化に取り組むホテルと農家の経営や運営の実際を実感をもって理解する。 ○猪苗代の人・自然・産業・歴史に親しみ、そのよさや魅力を理解するとともに、地域のホテル・農家の取り組みについて、学生の目線からさらに改善する方策等を思考・検討して、提案できるようにする。 ○学外学修の活動に主体的・能動的に取り組むとともに、チームで学修する互いのよさを生かしながら活動し、自分の生き方を考えられるようにする。 ○上記のねらい実現のため、事前授業では、猪苗代・会津地域の地理的歴史的な環境、ホテル業務、農家の仕事の基礎的な理解に取り組み、各自の学外学修の課題設定につなげる。 事後授業では、学修内容をふり返り、整理・まとめ・表現する活動を通して、学修の意味理解や自覚を深める。	福島県猪苗代町	4	4週間	[事前事後学修]フィールド・スタディーズ [学外学修]フィールド・スタディーズ4
67	山形県大石田町　「そばの里大石田町の歴史と文化・未来に向かって」（仮）	大石田町の歴史と文化を学ぶとともに、観光資源である「そば」についてそば店での接客補助などを通して理解を深める。また、町最大のイベントである「大石田まつり　最上川花火大会」の準備補助や当日の運営補助を体験する。更に、地域おこし協力隊とともに活動し、修学期間の最後に町の活性化につながる提案を行う。	山形県大石田町	6	3週間	[事前事後学修]フィールド・スタディーズ [学外学修]フィールド・スタディーズ3
68	鹿児島県徳之島　SDGｓ未来都市「徳之島」海と山と生きるシマの文化エコツーリズム体験	鹿児島県徳之島町は内閣府の「SDGs未来都市」にも選定されており、持続可能な島を目指し、様々な取り組みを推進中である。世界自然遺産登録も目指しているこの島にある山（さん）という歴史ある集落をフィールドに、人と自然が共生してきた集落の知恵や生活文化を掘り起こし、エコツーリズムのモニタリングを行う。また、島民の方々へのインタビュー取材等も実施し、自らの体験や改善案を発信するフィールドワークを行う。	鹿児島県徳之島町	10	2週間	[事前事後学修]フィールド・スタディーズ [学外学修]フィールド・スタディーズ2
69	グローバル・ビジネス研修（アメリカLA）	アメリカ・ロサンゼルスを訪問し、ビジネス講演会、企業見学、アメリカ在住ビジネスパーソンの講演、現地在住日本人ビジネスパーソンとともにセミナーなどを実施する。	アメリカ	20	1週間	フィールド・スタディーズ
70	白象の国（タイ）	タイでの仏教施設や文化施設の訪問、サイアム大学学生との交流を行う。	タイ	20	1週間	フィールド・スタディーズ

令和３年度実習先一覧（共通科目「フィールド・スタディーズ発展１Ａ～４Ｄ」）

No	プログラム名	概要	所在地	受入可能人数(人)	日程	科目
1	映像制作表現プログラム（基礎）	基礎的な映像製作（企画、シナリオ、演出、制作、撮影、編集など）の習得を目的とし、西東京市と連携を取り、自治体の個性を活かした映画制作を行う。	東京都西東京市	15	8～9月： 10日間程度	フィールド・スタディーズ発展2D
2	映像制作表現プログラム（応用）	映像製作の習得にとどまらず、映像文化の歴史を踏まえながらも、新たな価値を生み出す創造者を育成することを目的とし、西東京市と連携を取り、自治体の個性を活かした映画制作を行う。	東京都西東京市	15	8～9月： 10日間程度	フィールド・スタディーズ発展3D
3	学生が取材編集する中堅企業のCSR・SDGsを指向した経営戦略	企業が取り組むCSR及びSDGsのレクチャーに加え、将来重要となる企業経営の視点（SDGs等）から企業の経営戦略を立案する。上記活動を通し、実践的に企業の非財務価値を理解する。更に、実際に中堅企業のCSR・SDGsレポートや関連動画を作成し、企業のメディア戦略についても実践する。CSR・SDGsレポートを作成することで、企業の非財務価値を理解し、将来重要となる企業経営の視点（SDGs等）を理解できる人材を育成する。	ニッセイエブロ株式会社	10	8月下旬～12月上旬： 毎月4日程度	フィールド・スタディーズ発展2C
4	仏教を学び，仏教から学ぶFS	仏教に関連する様々な分野の学修を通して、新たな視点から自己と世界を見る。	首都圏の寺院,博物館,美術館	10	前期～夏季休暇期間：5日間程度	フィールド・スタディーズ発展２B
5	“商い”を知る	本学有明キャンパスにあるロハスカフェ有明にて、企画から交渉、経理、決算にいたるまで商いをトータル的に経験する。モノを売り買いする事の楽しさや難しさ、責任などについて学ぶ。	ロハスカフェ有明	10	8～9月： 10日間程度	フィールド・スタディーズ発展2B
6	「働きがい」を創り出す人材になる	①人事部門等で働く人々へのインタビューを通して、会社が求める人材像を理解する、②ワークショップ等に参加することを通して、自分分析のためのメソッドを理解する、という2つの目標を置く。さらに、そこで身に着けた知識やメソッドを応用して、「働きがい」を創り出せる人材になることを最終的な目的とする。	・企業合同説明会（有明等） ・㈱日本能率協会マネジメントセンター（日本橋） ・サントリー武蔵野ビール工場（府中） ・ワークショップ開催（有明）	10	夏季休暇期間～3学期： 14時間程度	フィールド・スタディーズ発展２A
7	長野県信濃町の地域活性化企画Ⅰ	長野県信濃町における地域活性化を考える。日本の地域経済、産業、地方行政に触れて、地方活性化の企画を作成する。2週間程度（60時間）の学外学修を行う。	長野県上水内郡信濃町	8	夏季・春休休暇期間： 各6日間程度	フィールド・スタディーズ発展２D
8	長野県信濃町の地域活性化企画Ⅱ	長野県信濃町における地域活性化を考える。発展FS基礎で学んだことに基づき日本の地域経済、産業、地方行政について考察し提言をまとめる。提言は論文としてまとめ、提出する。2週間程度（60時間）の学外学修を行う。	長野県上水内郡信濃町	4	夏季・春休休暇期間： 各6日間程度	フィールド・スタディーズ発展３D
9	長野県信濃町の地域活性化企画Ⅲ	長野県信濃町における地域活性化を考える。発展FS応用で学んだことに基づき日本の地域経済、産業、地方行政について考察し提言をまとめる。提言は論文としてまとめ、提出する。2週間程度（60時間）の学外学修を行う。基礎、応用を学ぶ学生の指導的立場となり、他者の理解と向上に努める。3年間を通して人のつながりについて深く学ぶ。	長野県上水内郡信濃町	2	夏季休暇期間： 10日間程度	フィールド・スタディーズ発展４D
10	鹿角市中心市街地活性化	鹿角市の中高生とチームを組み、一緒に鹿角のステークホルダーにインタビューし、ワークショップを行う。社会的課題について主体的に取り組む方法を実体験するとともに、鹿角市の課題解決にも貢献する。	秋田県鹿角市 中心市街地	10	8月： 8日間程度	フィールド・スタディーズ発展２B
11	鹿角市UIターン者の起業活動に関する研究プログラム	UIターンの経営者にインタビュー調査を行い、地方で事業を起こすために必要な視点や考え方、知識を学ぶ。また、インタビューから事業課題を聞き出し、ワークショップなどを通して解決策を考えてまとめ、鹿角市の皆さんの前で発表する。	秋田県鹿角市 （鹿角市内のＵＩターン起業家等）	10	9月：6日間程度	フィールド・スタディーズ発展２B
12	むさしの英語村	日本語の使用を極力制限した中で総合的に英語の運用能力を磨く。パターン練習、ディクテーションなどの基本的な訓練から、スピーチや映画、歌などを使った訓練等を行う。	国立オリンピック記念青少年総合センター	20	夏季休暇期間： 7日間程度	フィールド・スタディーズ発展２B
13	コピーライティング応用	広告・ブランディング分野で働くコピーライターの技術やノウハウを学び、情報のアウトプット力（取材やヒアリングにより情報を集め、整理し、伝わるように言語化、編集、発信する力）を高める。特に応用では実践的な活動を行う。	新潟県燕市	8	8～9月： 10日間程度	フィールド・スタディーズ発展3C
14	もっと沖縄	沖縄について基礎的な理解と興味のある学生を対象に、さらに深い沖縄探求の道を提供する。講師二人はそれぞれ文化面と政治社会面からアプローチする。	沖縄県	20	夏季休暇期間： 6日間程度	フィールド・スタディーズ発展２B
15	作陶における伝統の創造II	陶芸家の指導の下、陶器を製作する。自分自身の手でものを作り出す喜びと、陶磁器に関わる人間の営みの歴史や陶磁器が生まれる原理などを学ぶ。	神奈川県秦野市	40	2月：1週間程度 ※オンライン学外学修含む	フィールド・スタディーズ発展1A
16	コピーライティング基礎	広告・ブランディング分野で働くコピーライターの技術やノウハウを学び、情報のアウトプット力（取材やヒアリングにより情報を集め、整理し、伝わるように言語化、編集、発信する力）を高める。	新潟県燕市	10	2月： 10日間程度	フィールド・スタディーズ発展２C

No	プログラム名	概要	所在地	受入可能人数(人)	日程	科目
17	ヘリテージツーリズム：和歌山の古道を歩く	和歌山大学が主催し、例年、スペイン・サンティアゴ大学も参加して行われる。「和歌山の参詣道を歩く」ことを通じて「環境と精神文化」を基盤とする持続可能な「スローツーリズム」について学ぶことを目的とする。世界遺産地「熊野古道中辺路」を歩き、自然の持つ精神文化に触れると同時に、観光開発の基礎要素～来訪者の動機、地域住民との関わり、リスク管理を含む、プランニング、マネジメント、マーケティングなどについて議論する。	和歌山県 熊野古道中辺路	2	1月： 4日間程度	フィールド・スタディーズ発展２B
18	台湾ホテルインターンシップ	Students are expected to experience the major hotel operation division including Front Office, Sales and Marketing, Purchasing or Food and Beverage departments in a real hotel setting. Students are able to apply the theories learnt in the class and practice their language skills. フロントオフィス、販売およびマーケティング、購買または食品および飲料部門を含む主要なホテル運営部門を体験する。クラスで学んだ理論を応用し、語学力の習得も目指す。	台湾桃園市住都 大飯店 (Chuto Plaza Hotel)	8	2～3月： 3週間程度	フィールド・スタディーズ発展２D
19	魅惑のタイ語（タイ語初級講座）	タイ語の基礎的な理解のある学生を対象にタイ語の表記法を講義し、併せてタイを中心とした東南アジア諸国の文化について解説する。	タイ	20	春季期間： 7日間程度	フィールド・スタディーズ発展１B
20	台湾から日本、そして世界を学ぶ	台湾を中心としたアジアの歴史、台湾と日本とのかかわり、そしてアジア地域における現在の国際関係や外交論を学ぶ。過去のみならず、現在の台湾社会にも注目し、幅広い世界観を育成する。また、日本統治時代に実施された都市計画や現在の街づくりの現場を学び、さらに、インバウンド・アウトバウンド事業のヒントとなりそうなポイントも視察。地方都市の活性化や、よりよい社会を創造する指針についても考察する。	台湾（台北に限らず、地方都市なども訪問）	15	2月～3月上旬： 10日間程度	フィールド・スタディーズ発展２B
21	しあわせを考えるプロジェクト～ブータンとの交流を通じて、しあわせを再考する～	「しあわせの国」と言われるブータンとの共同プロジェクトを通して、人が生きていく上でのしあわせとは何かを多面的に考えることを目的とする。学生たちが実際にブータンで暮らす様々な人々に触れて学ぶことにより、社会や人々のしあわせに対する一面的な見方のあやうさに気づくとともに、ブータン社会が直面する課題をより深く理解し、共に解決していこうとする姿勢を身につける。	ブータン王国	12	春季休暇期間： 1週間程度	フィールド・スタディーズ発展２B
22	ギーク系データサイエンス人材によるスキルアップ・共創を目的とした遠隔・対面型グローバルSTEM EDUCATION & RESEARCHワークショップ	持続可能な生活様式の模索、スマートヴィレッジの実現、本質的な豊かさの追求を思考原点として、日本とブータンにおけるギーク系データサイエンスを志向する人材同士によるスキルアップ・共創を目的とした遠隔コラボレーション・対面型グローバルSTEM EDUCATION & RESEARCHワークショップを開催・実施する。国際協力機構（JICA）によるブータンについての調査データを用いて、（1）事前調査研究・日本との比較、（2）遠隔対話、（3）現地／オンラインでのワークショップを行う。データ計測・集計、データ分析、アクチュエータ駆動の一連の仕掛けの実習、研究成果報告を行う。ワークショップ開催成果（ドキュメント及びコンピュータ・プログラム）をブータン・日本の双方で発信・共有する。	ブータン王国	10	春季休暇期間： 1週間程度	フィールド・スタディーズ発展1A

本文13ページ参照

令和３年度インターンシップ先一覧（共通科目「インターンシップ」）

No.	業種	所在地	受入可能人数	留学生
1	不動産賃貸業	東京都西東京市	1	
2	卸売業	東京都武蔵野市	2	
3	建設業	神奈川県横浜市	1	
4	サービス業	東京都西東京市	65	○
5	製造業	東京都中央区	1	○
6	情報通信業	東京都世田谷区	1	
7	流通業	東京都目黒区	1	
8	情報通信業	東京都府中市	5	○
9	流通業	埼玉県さいたま市	2	
10	不動産賃貸業	東京都千代田区	14	○
11	情報通信業	東京都千代田区	4	
12	情報通信業	神奈川県横浜市	2	
13	建設業	東京都新宿区	1	
14	卸売業	東京都千代田区	1	
15	金属製品製造業	東京都武蔵村山市	2	○
16	サービス業	東京都千代田区	1	
17	一般機械器具製造業	東京都東久留米市	1	○
18	情報通信業	東京都千代田区	5	
19	建設業	東京都中央区	1	
20	サービス業	東京都武蔵野市	1	
21	官公庁	東京都武蔵野市	1	○
22	情報通信業	東京都新宿区	1	
		合計	114	

本文13ページ参照

研修先一覧（学科科目「サステナビリティ学社会実装演習A～E」）

No.	企業名	所在地	受入可能人数（人）
1	東京都環境局自然環境部		2
2	株式会社LIXIL		2
3	YKK AP株式会社		2
4	NPO法人 ネイチャーリーダー江東		10
5	RAUL株式会社		2
6	ミライト株式会社		2
7	特定非営利活動法人 エヌピーオーフュージョン長池		2
8	認定特定非営利活動法人 生態工房		4
9	株式会社佐藤農園		4
10	特定非営利活動法人 環境エネルギー政策研究所		2
11	特定非営利活動法人 樹木・環境ネットワーク協会		2
12	板橋区立エコポリスセンター		4
13	株式会社自然教育研究センター		2
14	ニッセイエブロ株式会社		2
15	NPO法人 那須高原自然学校		4
16	一般社団法人 サステイナビリティ人材開発機構		2
17	株式会社タケエイ		2
18	相羽建設株式会社		2
19	株式会社リーテム		2

○学校法人武蔵野大学定年規程

（昭和５０年　４月　１日）

改正　平成　元年　４月　１日　　平成　２年　３月　１日
平成　８年　９月１３日　　平成　９年　７月　１日
平成１２年　５月２９日　　平成１４年　３月１５日
平成１５年　５月２８日　　平成１７年　５月２７日
平成１９年１１月１９日　　平成２１年　３月２５日
平成２３年　５月２４日　　平成２５年　４月　１日
平成２６年　４月　１日　　平成２６年１１月２７日
平成２７年　３月２６日　　平成２９年　４月　１日
平成３０年　４月　１日　　平成３０年　５月２５日
平成３１年　４月　１日　　令和　２年　４月　１日
令和　２年　６月　１日　　令和　３年　４月　１日
令和　４年　５月２６日

第１条　専任教職員の定年を次のとおり定める。

（１）　大学
教員　　満６５歳

（２）　高等学校、中学校
教員　　満６５歳

（３）　幼稚園
教員　　満６０歳
ただし、管理職については、満６５歳とする。

（４）　こども園
職員　　満６０歳
ただし、管理職については、満６５歳とする。

（５）　事務
職員　　満６５歳

（６）　保育園
職員　　満６０歳
ただし、管理職については、満６５歳とする。

２　前項第１号の規定にかかわらず、大学院担当教員、大学の教員管理職及び付属施設の長にあっては、特に必要ある者について、常務理事会の了承を得て、１年毎に最長満７０歳まで定年を延長することができる。

３　幼稚園の教員で定年に達した者が継続して雇用を希望した場合は、幼稚園非常勤講師として雇用することができる。

４　こども園の職員で定年に達した者が継続して雇用を希望した場合は、非常勤嘱託職員として雇用することができる。

５　保育園の職員で定年に達した者が継続して雇用を希望した場合は、非常勤嘱託職員として雇用することができる。

６　学長及び事務局長について、任期中は第１項の規定を適用しないことができる。

第２条　定年により退職する時期は、定年に達した日の属する学年度の末日とする。

第３条　この規程の改廃は、理事会が行う。

附　則

１　この規程は、昭和５０年４月１日から施行する。

２　平成８年度設置認可申請にかかる新学部設置のため、理事会が特に必要と認めた教職員については、新学部の完成年度末までの間第１条の規定を適用しないことができる。

３　平成１２年度設置認可申請にかかる大学院人間社会･文化研究科の新専攻設置のため、理事会が特に必要と認めた教員については、新専攻の完成年度末までの間第１条の規定を適用しないことができる。

４　平成１５年度設置認可申請にかかる薬学部設置のため、理事会が特に必要と認めた教

員については、薬学部の完成年度末までの間、第１条の規定を適用しないことができる。
5　平成１７年度設置認可申請にかかる看護学部設置のため、理事会が特に必要と認めた教員については、看護学部の完成年度末までの間、第１条の規定を適用しないことができる。
6　平成２１年度設置認可申請にかかる大学院看護学研究科設置のため、理事会が特に必要と認めた教員については、大学院看護学研究科の完成年度末までの間、第１条の規定を適用しないことができる。
7　平成２３年度課程変更認可申請にかかる大学院看護学研究科看護学専攻(博士後期課程)設置のため、理事会が特に必要と認めた教員については、大学院看護学研究科看護学専攻（博士後期課程）の完成年度末までの間、第１条の規定を適用しないことができる。
8　平成２５年度設置届出にかかる法学部及び経済学部設置のため、理事会が特に必要と認めた教員については、法学部及び経済学部の完成年度末までの間、第１条の規定を適用しないことができる。
9　平成２６年度設置届出にかかる工学部設置のため、理事会が特に必要と認めた教員については、工学部の完成年度末までの間、第１条の規定を適用しないことができる。
１０　平成２７年度設置届出にかかるグローバル学部設置のため、理事会が特に必要と認めた教員については、グローバル学部の完成年度末までの間、第１条の規定を適用しないことができる。
１１　平成３０年度設置届出にかかる教育学部こども発達学科設置のため、理事会が特に必要と認めた教員については、教育学部こども発達学科の完成年度末までの間、第１条の規定を適用しないことができる。
１２　平成３１年度設置届出にかかるデータサイエンス学部データサイエンス学科設置のため、理事会が特に必要と認めた教員については、データサイエンス学部データサイエンス学科の完成年度末までの間、第１条の規定を適用しないことができる。
１３　平成３１年度設置届出にかかる経営学部設置のため、理事会が特に必要と認めた教員については、経営学部の完成年度末までの間、第１条の規定を適用しないことができる。
１４　令和３年度設置届出にかかる法学研究科ビジネス法務専攻（博士後期課程）設置のため、理事会が特に必要と認めた教員については、法学研究科ビジネス法務専攻（博士後期課程）の完成年度末までの間、第１条の規定を適用しないことができる。
１５　令和５年度開設の工学部サステナビリティ学科設置のため、理事会が特に必要と認めた教員については、工学部サステナビリティ学科の完成年度末までの間、第１条の規定を適用しないことができる。
１６　附則第２項から前項に規定する教職員の任期、給与等の勤務条件については、理事会が別に定める。

附　則　（第１条、第２条、第３条、附則改正、附帯議決削除）

この規程は、平成元年４月１日から施行する。

附　則　（第１条、附則改正）

1　この規程は、平成２年３月１日から施行する。
2　第１条において大学・短期大学部教授等（定年年齢満７０歳の者）が幼稚園の園長又は副園長を兼務する場合の定年年齢は、同条の定めにかかわらず満７０歳とする。
3　この規程施行の日に、第１条（２）に定める定年を超えている校長、副校長、主事、教頭がいる場合、それらの者の定年年齢は、同条の定めにかかわらずなお従前の例による。

附　則

1　この規程は、平成８年９月１３日から施行する。
2　この規程による改正後の定年規程附則第２項は、新学部設置に伴う新規採用の人事に限り適用するものとする。

附　則（附則改正）

この規程は、平成９年７月１日から施行する。

附　則（附則改正）
1　この規程は、平成１２年５月２９日から施行する。
2　学校法人武蔵野女子学院定年規程（就業規則第２３条）改正規程（平成８年９月１３日施行）の一部を次のように改正する。附則第２項中「及び第３項」及び「し、新学部の完成年度をもって削除」を削る。
3　定年規程附則第２項適用者の勤務条件に関する内規の一部を次のように改正する。第１条中「附則第３項」を「附則第４項」に改める。
附　則（第１条改正）
1　この規程は、平成１４年４月１日から施行する。
2　この規程施行の日の前日に在職し、改正前の第１条第１号の規定の適用を受けていた者については、改正後の第１条第１項第１号の規定にかかわらず、なお従前の例による。
附　則（附則改正）
この規程は、平成１５年５月２８日から施行する。
附　則（附則改正）
この規程は、平成１７年５月２７日から施行する
附　則（第１条改正）
1　この規程は、平成１９年１１月１９日から施行する。
2　この規程施行の日の前日に在職し、改正前の第１条第２項の規定の適用を受けていた者については、改正後の第１条第２項の規定にかかわらず、なお従前の例による。
附　則（附則改正）
この規程は、平成２１年３月２５日から施行する。
附　則（附則改正）
この規程は、平成２３年５月２４日から施行する。
附　則
この規程は、平成２５年４月１日から施行する。
附　則（附則改正）
この規程は、平成２６年４月１日から施行する。
附　則（附則改正）
この規程は、平成２６年１１月２７日から施行する。
附　則（附則改正）
この規程は、平成２７年３月２６日から施行する。
附　則（第１条改正）
この規程は、平成２９年４月１日から施行する。
附　則（第１条、附則改正）
この規程は、平成３０年４月１日から施行する。
附　則（附則改正）
この規程は、平成３０年５月２５日から施行する。
附　則（第１条改正）
この規程は、平成３１年４月１日から施行する。
附　則（附則改正）
この規程は、令和２年４月１日から施行する。
附　則（専務理事及び学院長並びに学内理事者会の廃止に伴う規程改正規程制定による改正）
この規程は、令和２年６月１日から施行する。
附　則（第１条改正）
この規程は、令和３年４月１日から施行する。
附　則（附則改正）
この規程は、令和４年５月２６日から施行する。

サステナビリティ学科　時間割（案）

1年生　有明キャンパス

【1学期】

曜日	月				火				水				木				金				土				不定期(集中・変則)開講		
時間	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	開講期
1	選択	外国語（中国語基礎1,フランス語基礎1、ドイツ語基礎1,スペイン語基礎1、韓国語基礎1）	オンライン（同時双方向型）	－	必修	サステナビリティ学基礎A	1-503	70					選択	英語基礎B	1-201、1-202、1-203、1-204、1-205、1-301、1-302、1-304	40	必修	サステナビリティ学基礎B	1-503	70					選択	サステナビリティ学社会実践演習A	通年不定期
2					必修	サステナビリティ学基礎A	1-503	70									必修	サステナビリティ学基礎B	1-503	70					選択	サステナビリティ学社会実践演習B	通年不定期
3					必修	サステナビリティ学と創造的学び	1-506	70	選択	スポーツと身体科学	グラウンド等	—					必修	英語基礎A	1-203、1-205、1-207、1-208、1-307、1-308、1-407、1-408、1-501、1-502、1-504、1-508、1-809	40～110					選択	サステナビリティ学社会実践演習C	通年不定期
4					必修	サステナビリティ学と創造的学び	1-506	70									選択	英語資格・検定試験対策2	1-202	40					選択	サステナビリティ学社会実践演習D	通年不定期
5	選択	全学教養ゼミナール1	オンライン（同時双方向型）	－	必修	データサイエンス基礎	オンライン（同時双方向型）	－					必修	SDGs基礎	オンライン（同時双方向型）	－	選択	日本語基礎A	1-304、1-305、1-502、1-504、1-505	40					選択	サステナビリティ学社会実践演習E	通年不定期
	選択	サステナビリティ学特殊授業A	1-306	35													選択	英語資格・検定試験対策1	1-202	40					選択	サステナビリティ学総合演習	通年不定期
																	選択	留学準備1	1-201	40					選択	総合研究A	通年不定期
6	選択	留学準備2	1-301	40	必修	データサイエンス基礎	オンライン（同時双方向型）	－									選択	日本語基礎A	1-304、1-305、1-502、1-504、1-505	40					選択	総合研究B	通年不定期
	選択	サステナビリティ学特殊授業A	1-306	35													選択	英語資格・検定試験対策1	1-202	40					選択	総合研究C	通年不定期
																	選択	留学準備1	1-201	40							

【2学期】

曜日	月				火				水				木				金				土				不定期(集中・変則)開講		
時間	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	開講期
1	選択	外国語（中国語基礎1,フランス語基礎1、ドイツ語基礎1,スペイン語基礎1、韓国語基礎1）	オンライン（同時双方向型）	－					必修	サステナビリティプロジェクト入門	1-303	70	選択	英語基礎B	1-201、1-202、1-203、1-204、1-205、1-301、1-302、1-304	40	必修	アカデミックスキル入門	1-503	70					必修	フィールド・スタディーズ	夏季集中
2					必修	SDGs発展1	オンライン（同時双方向型）	－	必修	サステナビリティプロジェクト入門	1-303	70	必修	日本語リテラシー	オンライン（同時双方向型）	－	必修	アカデミックスキル入門	1-503	70					選択	フィールド・スタディーズ1・2・3・4、フィールド・スタディーズ発展1A・1B・1C・1D	夏季集中
3					必修	環境倫理・環境正義	1-503	70	選択	スポーツと身体科学	グラウンド等	—					必修	英語基礎A	1-203、1-205、1-207、1-208、1-307、1-308、1-407、1-408、1-501、1-502、1-504、1-508、1-809	40～110					選択	サステナビリティ学社会実践演習A	通年不定期
4					必修	環境倫理・環境正義	1-503	70									選択	英語資格・検定試験対策2	1-202	40					選択	サステナビリティ学社会実践演習B	通年不定期
5	選択	全学教養ゼミナール1	オンライン（同時双方向型）	－	必修	人工知能基礎	オンライン（同時双方向型）	－									選択	日本語基礎B	1-304、1-305、1-502、1-504、1-505	40					選択	サステナビリティ学社会実践演習C	通年不定期
	選択	サステナビリティ学特殊授業B	1-306	35													選択	英語資格・検定試験対策1	1-202	40					選択	サステナビリティ学社会実践演習D	通年不定期
																	選択	留学準備1	1-201	40					選択	サステナビリティ学社会実践演習E	通年不定期
6	選択	留学準備2	1-301	40	必修	人工知能基礎	オンライン（同時双方向型）	－									選択	日本語基礎B	1-304、1-305、1-502、1-504、1-505	40					選択	サステナビリティ学総合演習	通年不定期
	選択	サステナビリティ学特殊授業B	1-306	35													選択	英語資格・検定試験対策1	1-202	40					選択	総合研究A	通年不定期
																	選択	留学準備1	1-201	40					選択	総合研究B	通年不定期
																									選択	総合研究C	通年不定期

【3学期】

曜日	月				火				水				木				金				土				不定期(集中・変則)開講		
時間	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	開講期
1	選択	外国語（中国語基礎2,フランス語基礎2、ドイツ語基礎2,スペイン語基礎2、韓国語基礎2）	オンライン（同時双方向型）	－					必修	環境エネルギー論	1-506	70	選択	英語基礎D	1-201、1-202、1-203、1-204、1-205、1-301、1-302、1-304	40	選択	日本事情	オンライン（同時双方向型）	－	必修	フィールド・スタディーズ	オンライン（同時双方向型）	－	必修	フィールド・スタディーズ	夏季集中
2					必修	SDGs発展2	オンライン（同時双方向型）	－	必修	環境エネルギー論	1-506	70	選択	武蔵野市自由講座	4-403	129									選択	フィールド・スタディーズ1・2・3・4、フィールド・スタディーズ発展1A・1B・1C・1D	夏季集中
3	必修	サステナビリティプロジェクト1	1-702、1-708、1-709、1-801、1-805、1-806、1-807、1-903、1-904、1-906、3-301	70	必修	仏教（生き方を考える）基礎	オンライン（同時双方向型）	－	必修	サステナビリティプロジェクト1	1-702、1-708、1-709、1-801、1-805、1-806、1-807、1-903、1-904、1-906、3-301	70					必修	英語基礎C	1-203、1-501、1-502、1-504、1-505、1-803、1-809	40					選択	サステナビリティ学社会実践演習A	通年不定期
																									選択	サステナビリティ学社会実践演習B	通年不定期
4	必修	サステナビリティプロジェクト1	1-702、1-708、1-709、1-801、1-805、1-806、1-807、1-903、1-904、1-906、3-301	70	選択	情報技法基礎	オンライン（同時双方向型）	－	必修	サステナビリティプロジェクト1	1-702、1-708、1-709、1-801、1-805、1-806、1-807、1-903、1-904、1-906、3-301	70	選択	情報技法基礎	オンライン（同時双方向型）	－									選択	サステナビリティ学社会実践演習C	通年不定期
					選択	プログラミング基礎	オンライン（同時双方向型）	－					選択	プログラミング基礎	オンライン（同時双方向型）	－	選択	英語資格・検定試験対策2	1-202	40					選択	サステナビリティ学社会実践演習D	通年不定期
													選択	メディアリテラシー	オンライン（同時双方向型）	－									選択	サステナビリティ学社会実践演習E	通年不定期
5	選択	全学教養ゼミナール2	オンライン（同時双方向型）	－					選択	サステナビリティ学特殊授業C	1-306	35					選択	日本語基礎C	1-304、1-305、1-502、1-504、1-505	40					選択	サステナビリティ学総合演習	通年不定期
6									選択	サステナビリティ学特殊授業C	1-306	35					選択	日本語基礎C	1-304、1-305、1-502、1-504、1-505	40					選択	総合研究A	通年不定期
																									選択	総合研究B	通年不定期
																									選択	総合研究C	通年不定期

サステナビリティ学科　時間割（案）

【4学期】

曜日	月				火				水				木				金				土				不定期(集中・変則)開講		
時限	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	開講期
1	選択	外国語(中国語基礎2,フランス語基礎2,ドイツ語基礎2,スペイン語基礎2,韓国語基礎2)	オンライン(同時双方向型)	－					必修	資源循環論	1-506	70	選択	英語基礎D	1-201、1-202、1-203,1-204,1-205,1-301,1-302,1-304	40	選択	日本事情	オンライン(同時双方向型)	－					選択	サステナビリティ学社会実践演習A	通年不定期
2					必修	SDGs発展3	オンライン(同時双方向型)	－	必修	資源循環論	1-506	70	選択	武蔵野市自由講座	4-403	129									選択	サステナビリティ学社会実践演習B	通年不定期
3	必修	サステナビリティプロジェクト1	1-702,1-708,1-709,1-801,1-805,1-806,1-807,1-903,1-904,1-906,3-301	70	必修	仏教（生き方を考える）基礎	オンライン(同時双方向型)	－	必修	サステナビリティプロジェクト1	1-702,1-708,1-709,1-801,1-805,1-806,1-807,1-903,1-904,1-906,3-301	70					必修	英語基礎C	1-203,1-501,1-502,1-504,1-505,1-803,1-809	40					選択	サステナビリティ学社会実践演習C	通年不定期
																									選択	サステナビリティ学社会実践演習D	通年不定期
4	必修	サステナビリティプロジェクト1	1-702,1-708,1-709,1-801,1-805,1-806,1-807,1-903,1-904,1-906,3-301	70	選択	情報技法基礎	オンライン(同時双方向型)	－	必修	サステナビリティプロジェクト1	1-702,1-708,1-709,1-801,1-805,1-806,1-807,1-903,1-904,1-906,3-301	70	選択	情報技法基礎	オンライン(同時双方向型)	－									選択	サステナビリティ学社会実践演習E	通年不定期
					選択	プログラミング基礎	オンライン(同時双方向型)	－					選択	プログラミング基礎	オンライン(同時双方向型)	－									選択	サステナビリティ学総合演習	通年不定期
													選択	メディアリテラシー	オンライン(同時双方向型)	－									選択	総合研究A	通年不定期
5	選択	全学教養ゼミナール2	オンライン(同時双方向型)	－					選択	サステナビリティ学特殊授業D	1-306	35	選択	全学教養ゼミナール2	オンライン(同時双方向型)	－	選択	日本語基礎D	1-304,1-305,1-502,1-504,1-505	40					選択	総合研究B	通年不定期
6									選択	サステナビリティ学特殊授業E	1-406	35	選択	全学教養ゼミナール2	オンライン(同時双方向型)	－	選択	日本語基礎D	1-304,1-305,1-502,1-504,1-505	40					選択	総合研究C	通年不定期

2年生 有明キャンパス

【1学期】

曜日	月				火				水				木				金				土				不定期(集中・変則)開講		
時限	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	開講期
1	選択	水とサステナビリティ	1-303	35	選択	CAD演習	1-301	35	選択	ファシリテーション演習	1-303	35	選択	GIS・測量演習	1-401	35	必修	環境保全生態学	1-506	70					選択	フィールド・スポーツ	通年不定期
					選択	ソーシャルデザイン事例研究	1-302	35	選択	環境統計学	1-302	35	選択	サステナブル経営論	1-402	35									選択	サステナビリティ学社会実践演習A	通年不定期
2	選択	水とサステナビリティ	1-303	35	選択	CAD演習	1-301	35	選択	ファシリテーション演習	1-303	35	選択	GIS・測量演習	1-401	35	必修	環境保全生態学	1-506	70					選択	サステナビリティ学社会実践演習B	通年不定期
	選択	英語発展A	1-207、1-307、1-308、1-407、2-402	40～110	選択	ソーシャルデザイン事例研究	1-302	35	選択	環境統計学	1-302	35	選択	サステナブル経営論	1-402	35									選択	サステナビリティ学社会実践演習C	通年不定期
3	必修	サステナビリティプロジェクト2	1-702,1-708,1-709,1-801,1-805,1-806,1-807,1-903,1-904,1-906,3-301	70	選択	社会調査法	1-304	35	必修	サステナビリティプロジェクト2	1-702,1-708,1-709,1-801,1-805,1-806,1-807,1-903,1-904,1-906,3-301	70	選択	英語発展B	1-207、1-208、1-307、1-308、1-407、1-408	104～110	必修	サステナビリティ思考入門	1-503	70					選択	サステナビリティ学社会実践演習D	通年不定期
																									選択	サステナビリティ学社会実践演習E	通年不定期
4	必修	サステナビリティプロジェクト2	1-702,1-708,1-709,1-801,1-805,1-806,1-807,1-903,1-904,1-906,3-301	70	選択	社会調査法	1-304	35	必修	サステナビリティプロジェクト2	1-702,1-708,1-709,1-801,1-805,1-806,1-807,1-903,1-904,1-906,3-301	70					必修	サステナビリティ思考入門	1-503	70					選択	サステナビリティ学総合演習	通年不定期
5	選択	外国語(中国語発展1,フランス語発展1,ドイツ語発展1,スペイン語発展1、韓国語発展1)	オンライン(同時双方向型)	－	選択	日本語発展A	1-207、1-208	104					選択	情報技法発展A	オンライン(同時双方向型)	－									選択	総合研究A	通年不定期
	選択	外国語(中国語発展2,フランス語発展2,ドイツ語発展2,スペイン語発展2、韓国語発展2)	オンライン(同時双方向型)	－																					選択	総合研究B	通年不定期
	選択	サステナビリティ学特殊授業A	1-306	35																					選択	総合研究C	通年不定期
6	選択	プログラミング発展A	オンライン(同時双方向型)	－	選択	日本語発展A	1-207、1-208	104																			
	選択	サステナビリティ学特殊授業A	1-306	35																							

【2学期】

曜日	月				火				水				木				金				土				不定期(集中・変則)開講		
時限	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	開講期
1					選択	環境分析化学	1-303	35	選択	食とサステナビリティ	1-303	70	選択	環境調査演習B	1-303	35	必修	環境地球化学	1-506	70					選択	フィールド・スポーツ	通年不定期
					選択	サステナブルデザイン思考	1-403	35	選択	メディア表現演習	1-403	35	選択	環境心理学	1-403	35									選択	フィールド・スタディーズ発展2A・2B・2C・2D・2E	夏季集中
2					選択	環境分析化学	1-303	35	選択	食とサステナビリティ	1-303	70	選択	環境調査演習B	1-303	35	必修	環境地球化学	1-506	70					選択	共創型リーダーシップ論	夏季集中
	選択	英語発展A	1-207、1-307、1-308、1-407、2-402	40～110	選択	サステナブルデザイン思考	1-403	35	選択	メディア表現演習	1-403	35	選択	環境心理学	1-403	35									選択	サステナビリティ学社会実践演習A	通年不定期
3	必修	サステナビリティプロジェクト2	1-702,1-708,1-709,1-801,1-805,1-806,1-807,1-903,1-904,1-906,3-301	70	選択	サステナビリティ戦略演習	1-303	35	必修	サステナビリティプロジェクト2	1-702,1-708,1-709,1-801,1-805,1-806,1-807,1-903,1-904,1-906,3-301	70	選択	英語発展B	1-207、1-208、1-307、1-308、1-407、1-408	104～110	必修	環境福祉学	1-503	70					選択	サステナビリティ学社会実践演習B	通年不定期
													選択	持続可能技術特論2	1-503	35									選択	サステナビリティ学社会実践演習C	通年不定期
4	必修	サステナビリティプロジェクト2	1-702,1-708,1-709,1-801,1-805,1-806,1-807,1-903,1-904,1-906,3-301	70	選択	サステナビリティ戦略演習	1-303	35	必修	サステナビリティプロジェクト2	1-702,1-708,1-709,1-801,1-805,1-806,1-807,1-903,1-904,1-906,3-301	70	選択	持続可能技術特論2	1-503	35	必修	環境福祉学	1-503	70					選択	サステナビリティ学社会実践演習D	通年不定期
5	選択	外国語(中国語発展1,フランス語発展1,ドイツ語発展1,スペイン語発展1、韓国語発展1)	オンライン(同時双方向型)	－									選択	情報技法発展A	オンライン(同時双方向型)	－									選択	サステナビリティ学社会実践演習E	通年不定期
	選択	情報技法発展B	オンライン(同時双方向型)	－	選択	日本語発展B	1-207,1-208	104																	選択	サステナビリティ学総合演習	通年不定期
	選択	サステナビリティ学特殊授業B	1-204	35																					選択	総合研究A	通年不定期
6	選択	プログラミング発展A	オンライン(同時双方向型)	－									選択	プログラミング発展B	オンライン(同時双方向型)	－									選択	総合研究B	通年不定期
	選択	外国語(中国語発展2,フランス語発展2,ドイツ語発展2,スペイン語発展2、韓国語発展2)	オンライン(同時双方向型)	－	選択	日本語発展B	1-207,1-208	104																	選択	総合研究C	通年不定期
	選択	情報技法発展C	オンライン(同時双方向型)	－																							
	選択	サステナビリティ学特殊授業B	1-306	35																							

サステナビリティ学科　時間割（案）

【3学期】

曜日	月				火				水				木				金				土				不定期(集中・変則)開講		
時限	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	開講期
1	選択	環境経済学	1-303	70	選択	システム思考と学習する組織	1-303	35	選択	交渉と合意形成	1-303	35	選択	環境気象学	1-303	35	必修	環境政策論	1-503	70					選択	フィールド・スポーツ	通年不定期
					選択	資源循環マネジメント演習	1-403	35																	選択	フィールド・スタディーズ発展2A・2B・2C・2D・2E	夏季集中
2	選択	環境経済学	1-303	70	選択	システム思考と学習する組織	1-303	35	選択	交渉と合意形成	1-303	35	選択	環境気象学	1-303	35	必修	環境政策論	1-503	70					選択	共創型リーダーシップ論	夏季集中
	選択	英語発展C	1-201、1-307、1-308、1-407、2-402	40～110	選択	資源循環マネジメント演習	1-403	35																	選択	サステナビリティ学社会実践演習A	通年不定期
3	必修	サステナビリティプロジェクト3	1-702,1-708,1-709,1-801,1-805,1-806,1-807,1-903,1-904,1-906,3-301	70	選択	シビックアクション論	1-503	35	必修	サステナビリティプロジェクト3	1-702,1-708,1-709,1-801,1-805,1-806,1-807,1-903,1-904,1-906,3-301	70	選択	英語発展D	1-207、1-208、1-307、1-308、1-407、1-408	104～110	選択	コミュニティデザイン論	1-303	35					選択	サステナビリティ学社会実践演習B	通年不定期
					選択	ライフサイクルアセスメント論	1-506	35									選択	環境材料学	1-403	35					選択	サステナビリティ学社会実践演習C	通年不定期
4	必修	サステナビリティプロジェクト3	1-702,1-708,1-709,1-801,1-805,1-806,1-807,1-903,1-904,1-906,3-301	70	選択	シビックアクション論	1-503	35	必修	サステナビリティプロジェクト3	1-702,1-708,1-709,1-801,1-805,1-806,1-807,1-903,1-904,1-906,3-301	70	選択	証券ビジネス論	4-303	181	選択	コミュニティデザイン論	1-303	35					選択	サステナビリティ学社会実践演習D	通年不定期
					選択	ライフサイクルアセスメント論	1-506	35									選択	環境材料学	1-403	35					選択	サステナビリティ学社会実践演習E	通年不定期
5	選択	情報技法発展B	オンライン（同時双方向型）	－	選択	日本語発展C	1-207、1-208	104	選択	サステナビリティ学特殊授業C	1-306	35													選択	サステナビリティ学総合演習	通年不定期
	選択	人工知能技術と社会	オンライン（同時双方向型）	－																					選択	総合研究A	通年不定期
6	選択	情報技法発展C	オンライン（同時双方向型）	－	選択	日本語発展C	1-207、1-208	104	選択	サステナビリティ学特殊授業C	1-306	35	選択	プログラミング発展B	オンライン（同時双方向型）	－									選択	総合研究B	通年不定期
																									選択	総合研究C	通年不定期

【4学期】

曜日	月				火				水				木				金				土				不定期(集中・変則)開講		
時限	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	開講期
1					選択	サステナビリティリスク学	1-303	35	選択	ESD論	1-303	35	選択	サステナブルライフスタイル論	1-303	70	選択	持続可能な地域づくり論	1-303	35					選択	フィールド・スポーツ	通年不定期
									選択	持続可能技術特論1	1-403	35													選択	機械学習活用2	4学期不定期
2	選択	英語発展C	1-201、1-307、1-308、1-407、2-402	40～110	選択	サステナビリティリスク学	1-303	35	選択	ESD論	1-303	35	選択	サステナブルライフスタイル論	1-303	70	選択	持続可能な地域づくり論	1-303	35					選択	サステナビリティ学社会実践演習A	通年不定期
									選択	持続可能技術特論1	1-403	35													選択	サステナビリティ学社会実践演習B	通年不定期
3	必修	サステナビリティプロジェクト3	1-702,1-708,1-709,1-801,1-805,1-806,1-807,1-903,1-904,1-906,3-301	70	選択	ソーシャルビジネス論	1-403	35	必修	サステナビリティプロジェクト3	1-702,1-708,1-709,1-801,1-805,1-806,1-807,1-903,1-904,1-906,3-301	70	選択	英語発展D	1-207、1-208、1-307、1-308、1-407、1-408	104～110	選択	カーボンマネジメント演習	1-403	35					選択	サステナビリティ学社会実践演習C	通年不定期
																									選択	サステナビリティ学社会実践演習D	通年不定期
4	必修	サステナビリティプロジェクト3	1-702,1-708,1-709,1-801,1-805,1-806,1-807,1-903,1-904,1-906,3-301	70	選択	ソーシャルビジネス論	1-403	35	必修	サステナビリティプロジェクト3	1-702,1-708,1-709,1-801,1-805,1-806,1-807,1-903,1-904,1-906,3-301	70	選択	証券ビジネス論	4-303	181	選択	カーボンマネジメント演習	1-403	35					選択	サステナビリティ学社会実践演習E	通年不定期
5	選択	データサイエンス活用1	オンライン（同時双方向型）	－	選択	日本語発展D	1-207、1-208	104	選択	サステナビリティ学特殊授業D	1-306	35	選択	サービスデザイン	4-303	181									選択	サステナビリティ学総合演習	通年不定期
													選択	機械学習活用1	オンライン（同時双方向型）	－									選択	総合研究A	通年不定期
6					選択	日本語発展D	1-207、1-208	104	選択	サステナビリティ学特殊授業E	1-306	35	選択	メディアデザイン	オンライン（同時双方向型）	－									選択	総合研究B	通年不定期
	選択	データサイエンス活用2	オンライン（同時双方向型）	－	選択	人工知能技術と社会	オンライン（同時双方向型）	－																	選択	総合研究C	通年不定期

3年生 有明キャンパス

【1学期】

曜日	月				火				水				木				金				土				不定期(集中・変則)開講		
時限	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	開講期
1	選択	水とサステナビリティ	1-303	70	選択	CAD演習	1-301	35	選択	ファシリテーション演習	1-303	35	選択	GIS・測量演習	1-401	35									選択	サステナビリティ学社会実践演習A	通年不定期
					選択	ソーシャルデザイン事例研究	1-302	35					選択	サステナブル経営論	1-402	35									選択	サステナビリティ学社会実践演習B	通年不定期
2	選択	水とサステナビリティ	1-303	70	選択	CAD演習	1-301	35	選択	ファシリテーション演習	1-303	35	選択	GIS・測量演習	1-401	35	必修	仏教（生き方を考える）発展	1-206	128					選択	サステナビリティ学社会実践演習C	通年不定期
					選択	ソーシャルデザイン事例研究	1-302	35					選択	サステナブル経営論	1-402	35									選択	サステナビリティ学社会実践演習D	通年不定期
	選択	英語総合A	1-207、1-307、1-308、1-407、2-402	40～110	選択	SDGs特講	1-207、1-208、1-307、1-308、1-407、1-408	104～110																	選択	サステナビリティ学社会実践演習E	通年不定期
3	必修	サステナビリティプロジェクト4	1-702,1-708,1-709,1-801,1-805,1-806,1-807,1-903,1-904,1-906,3-301	70	選択	環境調査演習A	1-305	35	必修	サステナビリティプロジェクト4	1-702,1-708,1-709,1-801,1-805,1-806,1-807,1-903,1-904,1-906,3-301	70													選択	サステナビリティ学総合演習	通年不定期
					選択	社会調査法	1-304	35																	選択	総合研究A	通年不定期
4	必修	サステナビリティプロジェクト4	1-702,1-708,1-709,1-801,1-805,1-806,1-807,1-903,1-904,1-906,3-301	70	選択	環境調査演習A	1-305	35	必修	サステナビリティプロジェクト4	1-702,1-708,1-709,1-801,1-805,1-806,1-807,1-903,1-904,1-906,3-301	70													選択	総合研究B	通年不定期
					選択	社会調査法	1-304	35																	選択	総合研究C	通年不定期
5	選択	人工知能実践プロジェクト	5-401	120																							
	選択	サステナビリティ学特殊授業A	1-306	35																							
6	選択	サステナビリティ学特殊授業A	1-306	35																							

サステナビリティ学科　時間割（案）

【2学期】

曜日	月				火				水				木				金				土				不定期(集中・変則)開講		
時限	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	開講期
1					選択	環境分析化学	1-303	35	選択	食とサステナビリティ	1-303	70	選択	環境調査演習B	1-303	35									選択	フィールド・スタディーズ発展3A・3B・3C・3D・3E	夏季集中
					選択	サステナブルデザイン思考	1-403	35	選択	メディア表現演習	1-403	35	選択	環境心理学	1-403	35									選択	共創型リーダーシップ論	夏季集中
2					選択	環境分析化学	1-303	35	選択	食とサステナビリティ	1-303	70	選択	環境調査演習B	1-303	35	必修	仏教（生き方を考える）発展	1-206	128					選択	サステナビリティ学社会実践演習A	通年不定期
	選択	英語綜合A	1-207、1-307、1-308、1-407、2-402	40～110	選択	サステナブルデザイン思考	1-403	35	選択	メディア表現演習	1-403	35	選択	環境心理学	1-403	35									選択	サステナビリティ学社会実践演習B	通年不定期
					選択	SDGs特講	1-207、1-208、1-307、1-308、1-407、1-408	104～110																	選択	サステナビリティ学社会実践演習C	通年不定期
3	必修	サステナビリティプロジェクト4	1-702,1-708,1-709,1-801,1-805,1-806,1-807,1-903,1-904,1-906,3-301	70	選択	生物多様性保全特論	1-304	35	必修	サステナビリティプロジェクト4	1-702,1-708,1-709,1-801,1-805,1-806,1-807,1-903,1-904,1-906,3-301	70	選択	持続可能技術特論2	1-503	35									選択	サステナビリティ学社会実践演習D	通年不定期
					選択	サステナビリティ戦略演習	1-303	35					選択	環境調査演習C	1-305	35									選択	サステナビリティ学社会実践演習E	通年不定期
4	必修	サステナビリティプロジェクト4	1-702,1-708,1-709,1-801,1-805,1-806,1-807,1-903,1-904,1-906,3-301	70	選択	生物多様性保全特論	1-304	35	必修	サステナビリティプロジェクト4	1-702,1-708,1-709,1-801,1-805,1-806,1-807,1-903,1-904,1-906,3-301	70	選択	持続可能技術特論2	1-503	35									選択	サステナビリティ学総合演習	通年不定期
					選択	サステナビリティ戦略演習	1-303	35					選択	環境調査演習C	1-305	35									選択	総合研究A	通年不定期
5	選択	人工知能実践プロジェクト	5-401	120																					選択	総合研究B	通年不定期
	選択	サステナビリティ学特殊授業B	1-306	35																					選択	総合研究C	通年不定期
6	選択	サステナビリティ学特殊授業B	1-306	35																							

【3学期】

曜日	月				火				水				木				金				土				不定期(集中・変則)開講		
時限	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	開講期
1	選択	環境経済学	1-303	70	選択	システム思考と学習する組織	1-303	35	選択	交渉と合意形成	1-303	35	選択	環境気象学	1-303	35									選択	フィールド・スタディーズ発展3A・3B・3C・3D・3E	夏季集中
					選択	資源循環マネジメント演習	1-403	35																	選択	共創型リーダーシップ論	夏季集中
2	選択	環境経済学	1-303	70	選択	システム思考と学習する組織	1-303	35	選択	交渉と合意形成	1-303	35	選択	環境気象学	1-303	35									選択	サステナビリティ学社会実践演習A	通年不定期
					選択	資源循環マネジメント演習	1-403	35					選択	英語綜合B	1-207、1-307、1-308、1-407、2-402	40～110									選択	サステナビリティ学社会実践演習B	通年不定期
3	必修	サステナビリティ研究1	1-503	70	選択	シビックアクション論	1-503	35	必修	サステナビリティ研究1	1-503	70					選択	コミュニティデザイン論	1-303	35					選択	サステナビリティ学社会実践演習C	通年不定期
					選択	ライフサイクルアセスメント論	1-506	35									選択	環境材料学	1-403	35					選択	サステナビリティ学社会実践演習D	通年不定期
4	必修	サステナビリティ研究1	1-503	70	選択	シビックアクション論	1-503	35	必修	サステナビリティ研究1	1-503	70					選択	コミュニティデザイン論	1-303	35					選択	サステナビリティ学社会実践演習E	通年不定期
					選択	ライフサイクルアセスメント論	1-506	35									選択	環境材料学	1-403	35					選択	サステナビリティ学総合演習	通年不定期
5									選択	サステナビリティ学特殊授業C	1-306	35													選択	総合研究A	通年不定期
6									選択	サステナビリティ学特殊授業C	1-306	35													選択	総合研究B	通年不定期
																									選択	総合研究C	通年不定期

【4学期】

曜日	月				火				水				木				金				土				不定期(集中・変則)開講		
時限	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	開講期
1					選択	サステナビリティリスク学	1-303	35	選択	ESD論	1-303	35	選択	サステナブルライフスタイル論	1-303	70	選択	持続可能な地域づくり論	1-303	35					選択	サステナビリティ学社会実践演習A	通年不定期
									選択	持続可能技術特論1	1-403	35													選択	サステナビリティ学社会実践演習B	通年不定期
2					選択	サステナビリティリスク学	1-303	35	選択	ESD論	1-303	35	選択	サステナブルライフスタイル論	1-303	70	選択	持続可能な地域づくり論	1-303	35					選択	サステナビリティ学社会実践演習C	通年不定期
									選択	持続可能技術特論1	1-403	35	選択	英語綜合B	1-207、1-307、1-308、1-407、2-402	40～110									選択	サステナビリティ学社会実践演習D	通年不定期
3	必修	サステナビリティ研究1	1-503	70	選択	ソーシャルビジネス論	1-403	35	必修	サステナビリティ研究1	1-503	70					選択	カーボンマネジメント演習	1-403	35					選択	サステナビリティ学社会実践演習E	通年不定期
																									選択	サステナビリティ学総合演習	通年不定期
4	必修	サステナビリティ研究1	1-503	70	選択	ソーシャルビジネス論	1-403	35	必修	サステナビリティ研究1	1-503	70					選択	カーボンマネジメント演習	1-403	35					選択	総合研究A	通年不定期
5									選択	サステナビリティ学特殊授業D	1-306	35													選択	総合研究B	通年不定期
6									選択	サステナビリティ学特殊授業E	1-306	35													選択	総合研究C	通年不定期

サステナビリティ学科　時間割（案）

4年生 有明キャンパス

【1学期】

曜日	月				火				水				木				金				土				不定期(集中・変則)開講		
時限	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	開講期
1																									選択	サステナビリティ学社会実践演習A	通年不定期
																									選択	サステナビリティ学社会実践演習B	通年不定期
2																									選択	サステナビリティ学社会実践演習C	通年不定期
																									選択	サステナビリティ学社会実践演習D	通年不定期
3	必修	サステナビリティ研究2	1-503	70					必修	サステナビリティ研究2	1-503	70													選択	サステナビリティ学社会実践演習E	通年不定期
																									選択	サステナビリティ学総合演習	通年不定期
4	必修	サステナビリティ研究2	1-503	70					必修	サステナビリティ研究2	1-503	70													選択	総合研究A	通年不定期
5	選択	サステナビリティ学特殊授業A	1-306	35																					選択	総合研究B	通年不定期
6	選択	サステナビリティ学特殊授業A	1-306	35																					選択	総合研究C	通年不定期

【2学期】

曜日	月				火				水				木				金				土				不定期(集中・変則)開講		
時限	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	開講期
1																									選択	フィールド・スタディーズ発展4A・4B・4C・4D	夏季集中
																									選択	サステナビリティ学社会実践演習A	通年不定期
2																									選択	サステナビリティ学社会実践演習B	通年不定期
																									選択	サステナビリティ学社会実践演習C	通年不定期
3	必修	サステナビリティ研究2	1-503	70					必修	サステナビリティ研究2	1-503	70													選択	サステナビリティ学社会実践演習D	通年不定期
																									選択	サステナビリティ学社会実践演習E	通年不定期
4	必修	サステナビリティ研究2	1-503	70					必修	サステナビリティ研究2	1-503	70													選択	サステナビリティ学総合演習	通年不定期
5	選択	サステナビリティ学特殊授業B	1-306	35																					選択	総合研究A	通年不定期
6	選択	サステナビリティ学特殊授業B	1-306	35																					選択	総合研究B	通年不定期
																									選択	総合研究C	通年不定期

【3学期】

曜日	月				火				水				木				金				土				不定期(集中・変則)開講		
時限	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	開講期
1																									選択	フィールド・スタディーズ発展4A・4B・4C・4D	夏季集中」
																									選択	サステナビリティ学社会実践演習A	通年不定期
2																									選択	サステナビリティ学社会実践演習B	通年不定期
																									選択	サステナビリティ学社会実践演習C	通年不定期
3	選択	卒業論文	1-401	35					選択	卒業論文	1-401	35													選択	サステナビリティ学社会実践演習D	通年不定期
																									選択	サステナビリティ学社会実践演習E	通年不定期
4	選択	卒業論文	1-401	35					選択	卒業論文	1-401	35													選択	サステナビリティ学総合演習	通年不定期
5									選択	サステナビリティ学特殊授業C	1-306	35													選択	総合研究A	通年不定期
6									選択	サステナビリティ学特殊授業C	1-306	35													選択	総合研究B	通年不定期
																									選択	総合研究C	通年不定期

【4学期】

曜日	月				火				水				木				金				土				不定期(集中・変則)開講		
時限	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	教室	収容定員	必・選	科目名	開講期
1																									選択	サステナビリティ学社会実践演習A	通年不定期
																									選択	サステナビリティ学社会実践演習B	通年不定期
2																									選択	サステナビリティ学社会実践演習C	通年不定期
																									選択	サステナビリティ学社会実践演習D	通年不定期
3	選択	卒業論文	1-401	35					選択	卒業論文	1-401	35													選択	サステナビリティ学社会実践演習E	通年不定期
																									選択	サステナビリティ学総合演習	通年不定期
4	選択	卒業論文	1-401	35					選択	卒業論文	1-401	35													選択	総合研究A	通年不定期
5									選択	サステナビリティ学特殊授業D	1-306	35													選択	総合研究B	通年不定期
6									選択	サステナビリティ学特殊授業E	1-306	35													選択	総合研究C	通年不定期

工学部サステナビリティ学科設置に係る学術雑誌整備一覧

No.	タイトル	電子ジャーナル	外国書
1	科学朝日		
2	科學史研究		
3	科学史研究. 第II期		
4	科学史研究. 第Ⅲ期		
5	科学哲学		
6	サイエンス : Scientific American 日本版		
7	日経サイエンス : Scientific American 日本版		
8	数理科学		
9	自然		
10	土木建築工事画報（復刻版）		
11	環境と公害		
12	環境科学会誌		
13	環境教育		
14	環境社会学研究		
15	環境情報科学		
16	環境情報科学論文集		
17	水		
18	人間と環境		
19	日本LCA学会誌		
20	都市計画		
21	科学		
22	ニュートン		
23	地域活性研究		
24	地域社会学会年報		
25	事業構想 = Project design		
26	日本地域政策研究		
27	BIO-City（ビオシティ）		
28	環境ビジネス		
29	MERA journal		
30	National geographic = ナショナルジオグラフィック		
31	ソトコト		
32	Ergonomics		○
33	Environment and behavior		○
34	Journal of environmental psychology		○
35	National geographic		○
36	Nature		○
37	Scientific American. New series		○
38	AI & society		○
39	International game theory review		○
40	Environment		○
41	Umwelt und Planungsrecht : Zeitschrift für Wissenschaft und Praxis		○
42	Australian Journal of Environmental Education	○	○
43	Behavioural Public Policy	○	○
44	British Journal for the History of Science	○	○
45	Environment and Development Economics	○	○
46	Polar Record	○	○
47	Review of International Studies	○	○
48	Transnational Environmental Law	○	○
49	ACS applied energy materials	○	○
50	ACS applied nano materials	○	○
51	ACS Energy Letters	○	○
52	ACS nano	○	○
53	Archives of environmental contamination and toxicology	○	○
54	Chemical reviews	○	○
55	Energy & fuels	○	○
56	Environmental science & technology	○	○
57	Environmental Science & Technology Letters	○	○
58	Proceedings of National Academy of Sciences	○	○
59	Science	○	○
60	Transportation Science	○	○
61	Journal of Micromechanics and Microengineering	○	○
62	Measurement Science and Technology	○	○
63	Metrologia	○	○
64	Modelling and Simulation in Materials Science and Engineering	○	○
65	Nanotechnology	○	○
66	Smart Materials and Structures	○	○
	計	25	35

公開情報及び掲載先一覧

ア	大学の教育研究上の目的に関すること	https://www.musashino-u.ac.jp/academics/basic/purpose.html
イ	教育研究上の基本組織に関すること	https://www.musashino-u.ac.jp/guide/information/figure.html
ウ	教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること	https://www.musashino-u.ac.jp/guide/information/professor_profile.html
エ	入学者に関する受入れ方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること	
	アドミッション・ポリシー	【学部】 https://www.musashino-u.ac.jp/admission/faculty/policies.html 【研究科】 https://www.musashino-u.ac.jp/admission/graduate_school/policies.html
	学生数	https://www.musashino-u.ac.jp/guide/information/students.html
	就職状況	https://www.musashino-u.ac.jp/student-life/career/
オ	授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること	
	カリキュラム・ポリシー	https://www.musashino-u.ac.jp/academics/basic/policies/curriculumpolicy.html
	シラバス	https://muscat.musashino-u.ac.jp/portal/slbssrch.do
	履修要覧	https://risyuyouran.musashino-u.ac.jp/
カ	学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること	
	ディプロマ・ポリシー	https://www.musashino-u.ac.jp/academics/basic/policies/policies.html
	履修要覧	https://risyuyouran.musashino-u.ac.jp/
キ	校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること	
	キャンパス概要	【有明キャンパス】 https://www.musashino-u.ac.jp/guide/campus/ariake_campus.html 【武蔵野キャンパス】 https://www.musashino-u.ac.jp/guide/campus/musashino_campus.html
	図書館	https://www.musashino-u.ac.jp/library/
	研究所・センター等	https://www.musashino-u.ac.jp/research/laboratory/
	クラブ情報	https://www.musashino-u.ac.jp/student-life/campus_life/club/
	休息を行う環境	https://www.musashino-u.ac.jp/student-life/campus_life/faq/
	学生支援（生活面）	https://www.musashino-u.ac.jp/student-life/campus_life/faq/
	交通アクセス	【有明キャンパス】 https://www.musashino-u.ac.jp/ariake/ 【武蔵野キャンパス】 https://www.musashino-u.ac.jp/musashino/
ク	授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること	
	学費等納入金	https://www.musashino-u.ac.jp/student-life/fees/fees/
	学生寮費	https://www.musashino-u.ac.jp/student-life/life/dormitory/
ケ	大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること	
	修学・生活情報	https://www.musashino-u.ac.jp/student-life/learning/ https://www.musashino-u.ac.jp/student-life/life/
	就職・キャリア支援	https://www.musashino-u.ac.jp/student-life/career/
	就職支援プログラム	https://www.musashino-u.ac.jp/student-life/career/employment_support/employment_support.html
	心身健康支援	https://www.musashino-u.ac.jp/guide/facility/healthcare.html
	奨学金	https://www.musashino-u.ac.jp/student-life/fees/scholarship/
	資格取得支援	https://www.musashino-u.ac.jp/student-life/career/qualification.html
	留学生支援	https://www.musashino-u.ac.jp/international/international-students/
	障がいをもつ学生への支援	https://www.musashino-u.ac.jp/student-life/campus_life/faq/
コ	その他	
	大学の財務情報に関すること	https://www.musashino-u.ac.jp/guide/information/finance.html https://www.musashino-u.ac.jp/guide/information/
	学則等各種規程	https://www.musashino-u.ac.jp/guide/information/
	設置計画履行状況等報告書	https://www.musashino-u.ac.jp/guide/information/situation.html
	自己点検・評価報告書	https://www.musashino-u.ac.jp/guide/information/inspection.html
	認証評価の結果	https://www.musashino-u.ac.jp/guide/information/accredited.html

社会的・職業的自立に関係する授業科目一覧

科目区分		授業科目の名称	目的
共通科目	建学	仏教（生き方を考える）基礎	キャリアを考える
		仏教（生き方を考える）発展	キャリアを考える
	フィールド・スタディーズ	フィールド・スタディーズ	キャリアを考える
		フィールド・スタディーズ１	キャリアを考える
		フィールド・スタディーズ２	キャリアを考える
		フィールド・スタディーズ３	キャリアを考える
		フィールド・スタディーズ４	キャリアを考える
		フィールド・スタディーズ発展１Ａ	キャリアを考える
		フィールド・スタディーズ発展１Ｂ	キャリアを考える
		フィールド・スタディーズ発展１Ｃ	キャリアを考える
		フィールド・スタディーズ発展１Ｄ	キャリアを考える
		フィールド・スタディーズ発展２Ａ	キャリアを考える
		フィールド・スタディーズ発展２Ｂ	キャリアを考える
		フィールド・スタディーズ発展２Ｃ	キャリアを考える
		フィールド・スタディーズ発展２Ｄ	キャリアを考える
		フィールド・スタディーズ発展２Ｅ	キャリアを考える
		フィールド・スタディーズ発展３Ａ	キャリアを考える
		フィールド・スタディーズ発展３Ｂ	キャリアを考える
		フィールド・スタディーズ発展３Ｃ	キャリアを考える
		フィールド・スタディーズ発展３Ｄ	キャリアを考える
		フィールド・スタディーズ発展３Ｅ	キャリアを考える
		フィールド・スタディーズ発展４Ａ	キャリアを考える
		フィールド・スタディーズ発展４Ｂ	キャリアを考える
		フィールド・スタディーズ発展４Ｃ	キャリアを考える
		フィールド・スタディーズ発展４Ｄ	キャリアを考える
	インターンシップ	インターンシップ	就業体験
		企業協働プロジェクト	就業体験
学科科目	プロジェクト科目	サステナビリティプロジェクト１	就業体験
		サステナビリティプロジェクト２	就業体験
		サステナビリティプロジェクト３	就業体験
		サステナビリティプロジェクト４	就業体験
	社会連携科目	サステナビリティ社会連携演習Ａ	キャリアを考える
		サステナビリティ社会連携演習Ｂ	キャリアを考える
		サステナビリティ社会連携演習Ｃ	キャリアを考える
		サステナビリティ社会連携演習Ｄ	キャリアを考える
		サステナビリティ社会連携演習Ｅ	キャリアを考える

学生の確保の見通し等を記載した書類

目次

（１）学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

① 学生の確保の見通し･･･ ｐ．１

ア　定員充足の見込み･･･ ｐ．１

イ　定員充足の根拠となる客観的なデータの概要･････････････････････････････ ｐ．２

ウ　学生納付金の設定の考え方･･･ ｐ．５

② 学生確保に向けた具体的な取組状況･････････････････････････････････････ ｐ．５

（２）人材需要の動向等社会の要請

① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）･････････････････ ｐ．６

② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠･･･ ｐ．６

ア　各種統計調査･･･ ｐ．６

イ　企業・関係機関等への採用意向調査･････････････････････････････････････ ｐ．７

ウ　外国人留学生に関する卒業後の進路を踏まえた人材需要･････････････････････ ｐ．８

（１）学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

① 学生の確保の見通し

ア　定員充足の見込み

令和５年度、工学部環境システム学科を改組し、有明キャンパス（東京都江東区）に工学部サステナビリティ学科を設置する。従来の環境分野の知識とシステム的思考を持つ人材に加え、サステナビリティを軸に社会や環境の複雑な問題を読み解き、分野横断的アプローチにより課題解決をする能力を備えた人材の育成が急務となっている。このことは国連の『持続可能な開発のための 2030 アジェンダ』においても強調されている。そうした現代社会の変化・要請に応える文理融合型人材の育成のため、工学部環境システム学科を、工学と社会学を中心的な学問分野とするサステナビリティ学科に改組をする。

本学科は、人類社会や地球環境のサステナビリティに対する深い理解に基づき、ソーシャルデザイン及び環境エンジニアリングの知識・方法・技術によって、サステナブルな世界の実現に貢献できる人材を養成する。入学定員 70 人、収容定員 280 人とし、以下の考え方により設定した。

本学科では、サステナブルな世界を実現するための具体的な課題を用いたプロジェクト型授業及び教育研究活動を行うことから、専任教員を 11 名置き、きめ細かな学生指導を行う体制を取る。各プロジェクトの学生数を専任教員１名あたり一学年６～７名とすることが妥当と考え、入学定員 70 名、収容定員 280 名とした。

この定員を充足する見込みについては、（ｉ）既設の学部等の定員充足状況、(ii) 地域の人口動態調査及び志願動向調査、(iii) 同分野を有する近隣大学への志願動向調査、そして（iv）高校生・高校進路指導教員へのアンケート調査より検証した。

（ｉ）既設学部の工学部環境システム学科、同じく工学分野を含む文理融合型のデータサイエンス学部データサイエンス学科、及び、社会学分野の人間科学部人間科学科の過去５年間の入学定員超過率は平均 1.01、実質倍率の平均が工学分野で 6.5 倍、社会学分野で 4.2 倍と、安定的に学生を確保している。また、(ii) 地域の人口動態調査では、東京近郊については開設年度である令和５年度、開設４年後の令和９年度、さらに開設８年後の令和 13 年度まで 18 歳人口増が見込まれ、学校基本調査における「工学・その他」区分及び「社会科学・社会学」区分の学問分野への受験生の志願動向も安定している。そして、(iii) 近隣競合校３校について、志願者倍率で約９～20 倍と安定的な志願者を集めている。さらに、(iv) 高校生及び高校進路指導教員へのアンケート調査において、志望する生徒及び本学科開設を評価する教員が多いことがわかった。

これらの客観的なデータから、長期的かつ安定的に本学科の学生の確保を図ることができる見通しがあるといえる。

イ　定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

（ｉ）既設の学科と新設の工学部サステナビリティ学科との関連性及び既設学科の志願状況

本学科の研究対象となる中心的な学問分野は、工学及び社会学の分野である。本学科の基礎であり、学問分野が工学である本学工学部環境システム学科（平成 27 年度開設）の志願者数は、平成 29 年度に 560 人、平成 30 年度に 670 人、令和元年度に 1,070 人、令和２年度に 1,345 人、そして令和３年度に 1,149 人と、最近５年間の平均は 959 人である。同じく工学分野を含む文理融合型の本学データサイエンス学部データサイエンス学科（令和元年度開設）の志願者数は、令和元年度に 1,767 人、令和２年度に 2,224 人、そして令和３年度に 1,687 人と、開設から３年間の平均は 1,893 人である。２学科共に高い志願状況にあるといえる。また、実質倍率については、工学部環境システム学科が平成 29 年度 2.2 倍、平成 30 年度 2.6 倍、令和元年度 3.2 倍、令和２年度 3.8 倍、そして令和３年度 2.9 倍と最近５年間平均は 2.9 倍である。データサイエンス学部データサイエンス学科については、令和元年度 6.5 倍、そして令和２年度 7.8 倍、そして令和３年度 5.1 倍、と、開設から最近３年間の平均は 6.5 倍である。２学科共に、安定的に工学分野の入学者を確保できているといえる**【資料１】**。

社会学分野の本学人間科学部人間科学科（平成 11 年度開設）の志願者数は、平成 29 年度に 1,712 人、平成 30 年度に 1,953 人、令和元年度に 3,485 人、令和２年度に 3,367 人、そして令和３年度に 3,098 人、と、直近５年間の平均が 2,723 人と、こちらも高い志願状況にある。実質倍率については、平成 29 年度 3.3 倍、平成 30 年度 3.7 倍、令和元年度 5.6 倍、令和２年度 4.6 倍、そして令和３年度 3.7 倍と、最近５年間平均は 4.2 倍であり、安定的に社会学分野の入学者を確保できている**【資料１】**。

本学科は有明キャンパスにて教育研究を行うが、全学共通基礎課程（武蔵野ＩＮＩＴＩＡＬ）の選択科目として開講の「スポーツと身体科学」のみ武蔵野キャンパス（東京都西東京市）にて行う。本科目は選択の『スポーツ・身体』科目であり、本科目の前後に必修科目は配置しない時間割を設定することで、本科目の履修及び、学科の教育研究双方への影響は生じない。そのため、その開講場所が本学科の定員充足には影響しないと考えられる。

本学科は、外国人留学生の入学も想定している。近年、本学及び既設学科の留学生の志願者数及び入学者数は増加傾向にある。コロナ禍の令和３年度入試においても、対前年比 110％の志願者数であった。基礎となる学部等（工学部環境システム学科、データサイエンス学部データサイエンス学科、人間科学部人間科学科）においても、開設時より留学生は増加傾向にあり、本学科も含め本学では今後も外国人留学生の志願者数増が見込まれる**【資料２】**。

以上のとおり、過去５年の入学志願状況等を鑑みると、本学科の学問分野への興味・関心は高く、今後安定的に志願者数を確保できると考えられる。

（ii）公的機関等による地域の人口動態調査及び志願動向調査等

本学の学生の出身高校の都道府県所在地をみると、令和元年度から令和３年度の最近３年間で新入生の平均 65.3%が１都３県（東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県）の出身であり、割合が高い**【資料３】**。さらに、令和３年度学校基本調査から抜粋した人口動態によると、本学科を開設する令和５年度の大学入学予定者である令和３年度高校２年生の生徒数は、１都３県計 267,488 人である。また、本学科開設４年後の令和９年度大学入学予定者である令和３年度中学１年生の生徒数は１都３県計 294,232 人であり、令和５年度比約 110%となっている。さらに、本学科開設８年後の令和 13 年度大学入学予定者である令和３年度小学３年生の１都３県生徒数は 288,258 人である**【資料４】**。これらのデータから、少子化の中でも１都３県については 18 歳人口が開設時より当面減らないことが予想されている。以上のことから、大学進学率が現状維持であっても、開設時と同様の受験者数が見込まれる。

加えて、令和３年度学校基本調査の「関係学科別大学入学状況」**【資料５】**によると、本学科が該当する「工学・その他」区分の令和３年度の入学志願者数は 176,723 人、「社会科学・社会学」区分は 237,391 人で合計 414,114 人、前年比 35,072 人減、約 7.8%減となっている。しかし、平成 29 年度から令和３年度の志願者数を見てみると、近年は 42 万人程度の志願者で安定的に推移しているため、本学科の学問分野への受験生の志願動向からみても、定員充足の見込みは十分であるといえる。

（iii）近隣の競合大学の志願動向

近隣の競合大学を設定し、志願状況を調べた。

近隣競合校は「偏差値」「キャンパスの場所」を考慮し以下の方法で抽出した。まず、偏差値について、「私立大　2020 年度入試難易予想一覧表」（令和３年 11 月 18 日付河合塾発表）において、本学科の基礎となる工学部環境システム学科の偏差値は 42.5～47.5 と予想されている。したがって、本学の近隣競合校としては、偏差値 45.0～52.5 と予想されている大学を抽出した。次に、キャンパスの場所について、本学科は東京都江東区にある有明キャンパスで学ぶ。有明キャンパスは新宿駅を起点とする沿線上にあり、新宿駅から１時間以内でキャンパスに通学できることから、本学と同様に新宿駅から１時間程度で通学できるキャンパスのある大学を、近隣競合校候補として絞り込みを行った。そしてその中から、教育の特徴が類似する大学を「近隣競合校」として３大学抽出した。また、本学の目指すとこ

ろとなる偏差値 55.0 以上で、新宿から１時間程度で通学でき、教育の特徴が類似する大学を「偏差値上位校」として１大学抽出した。

「近隣競合校」の志願状況を見てみると**【資料６】**、安定的に約９～20 倍程度の志願者倍率があった。また、「偏差値上位校」においても、約 13～21 程度の志願者を集めており、高い志願状況にあるといえる。

（ⅳ）受験対象者等へのアンケート調査

本学科への受験生の志願動向を調査するため、受験生及び進路指導担当教員に対して令和３年 12 月～令和４年１月にアンケート調査を実施した。

アンケート調査対象校の抽出にあたっては、次の観点から行った。前述のとおり、本学の最近３年間の新入生の出身高校のうち、平均 65.3%が１都３県（東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県）に位置している。特に東京都の出身が 33.8%と最も割合が高い**【資料３】**。このことから、アンケートは、本学への進学実績がある東京都の私立及び都立高校の高校２年生を中心に実施することとした。

該当する 44 校にアンケート調査実施の依頼を行い、そのうち 5,275 人から有効回答を得ることができた。

アンケートの内容は、本学科についての説明**【資料７】**を読んだ上で、進学意向を選択するものとした**【資料８】**。

このアンケートの結果によると、「入学したい」または「検討したい」と回答した生徒は、回答者 5,275 人のうち「入学したい」51 人、「検討したい」330 人、合計 381 人（7.2%）であった**【資料９】**。本学への全入学者のうち、東京都出身者は、過去３年間平均で 33.8%であったことから、この 381 人を東京都からの進学意向数とみなし、全国の進学意向数として推計すると、1,127 人となる。また、「入学したい」と回答した 51 人を同様に全国の入学志願者数として割り返して推計すると、151 人となり、入学定員 70 人は十分充足されるものと考える。

また、「入学したい」と回答した 51 人のうち「文系」の生徒は 25 人、「理工系」の生徒は 23 人であり、入学を「検討したい」と回答した 330 人のうち「文系の生徒」は 163 人、「理工系」の生徒は 152 人であった。そのため、本学科は文系・理工系問わず進学意向者がいることが見込まれる。

加えて、同様に 44 校の進路指導担当教員を対象にアンケート調査を実施した**【資料 10】**。こちらのアンケートは 73 人から回答を得ることができた。回答集計結果**【資料 11】**によると、本学科への進学を「勧める」「多少は勧める」と回答した教員が 73 人中 54 人（74.0%）、受験生の進学ニーズが「ある」「多少はある」と回答した教員は 73 人中 62 人（84.9%）となり、高校教員の目から見ても高校生の進学ニーズがあると考えられる。

以上（ｉ）～（iv）から、本学科において定員充足の見込みは十分であるといえる。

ウ　学生納付金の設定の考え方

本学の学費設定に当たっては、学科の収容定員による学納金収入の見込みに対する教育研究費や施設設備費、教員人件費、図書費などの支出の見込みを踏まえ、学科としての採算性及び永続性を考慮している。さらに、他大学の学費の状況も参考にして、受験生や保護者に無理のない設定を行っている。

本学科は初年次納入金を 1,475,000 円と設定しており、前述の「近隣競合校」３校の 1,435,600～1,762,000 円**【資料６】**と同等または低く、経済的側面からも配慮している。そのため、学費の観点からも受験生及び保護者への訴求力はあるものと考えられる。

②学生確保に向けた具体的な取組状況

本学では、令和３年１月に「学校法人武蔵野大学入試戦略策定委員会」を置き、理事長を委員長とし、学長、経営企画担当常務理事、大学経営担当常務理事、中高経営担当常務理事、及び事務局長をもって委員会として組織している。本委員会において、入学志願者募集に関する基本方針、入学者選抜に関する基本方針、その他関連する重要事項の調整を審議決定している。

また、「学校法人武蔵野大学入試戦略策定委員会」のもとに、「武蔵野大学入試検討委員会」を設け、大学の入試に関する具体的な入学志願者募集や入試広報等に関する事項を審議し、学科等の協力を得て大学入試センター事務課が入学者選抜・入学志願者募集の事務、入試広報を行っている。

本学科の学生募集は、主に大学ＷＥＢサイトでの告知及び受験生向け大学パンフレット等の配布並びに、各種受験情報誌やＷＥＢサイト、ＳＮＳサイトへ大学情報や入試情報を掲載することにより行う予定である。

受験生向け大学パンフレットには、学部・学科の概要やカリキュラムをはじめ、就職情報、担当教員、在学生・卒業生の情報等を掲載し、入学後から卒業までの具体的なイメージが湧くように工夫している。

学内においては年５回程度のオープンキャンパスのほか、令和２年度からはＷＥＢ型企画を導入し、ＷＥＢオープンキャンパスサイトも開設している。大学・入試説明や模擬授業の動画、学科紹介サイト等を掲載し、年間通じて大学の学びに触れる機会を提供する。

このほか、本学教員による出張授業や教職員による高校訪問、進学相談会等も実施している。出張授業や進学相談会は、高校生の視野を広げ、学びへの動機づけや進路に対する意識を高める機会として活用されている。新型コロナウイルスの流行により一時控えていたが、新しい生活様式での学校教育活動の継続の指針に則り、令和４年度からは、主に１都３県の高等学校を対象に積極的な実施を予定している。

加えて、学部・学科情報や入試情報を掲載したダイレクトメールを発送するなど、多様な広報媒体を複合的に組み合わせたクロスメディア方式の効果もあり、資料請求者やオープンキャンパスへの予約者数は年々増加傾向にある**【資料 12】**。平成 30 年度以降の入試では、大学全体で実志願者数２万人以上を安定的に確保している。今後は、資料請求者やオープンキャンパス参加者などの接触者に対し、継続的なアプローチを図り出願への行動喚起を促進する施策を取り入れ、より効果的な学生募集を行う予定である。

その他本学科独自の取り組みとして、高校生向けのオンラインイベントの実施、学科特設サイトの開設、プレスリリース発信等、より訴求力の高い募集広報を展開していく。

（２）人材需要の動向等社会の要請

①人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

本学科では、人類社会や地球環境のサステナビリティに対する深い理解に基づき、ソーシャルデザイン及び環境エンジニアリングの知識・方法・技術によって、サステナブルな世界の実現に貢献できる人材の養成を目的とする。また、サステナビリティに対する理解を深め、ソーシャルデザイン及び環境エンジニアリングの知識・方法・技術を身につけることによって、サステナブルな世界を実現するための課題解決ができる実践的な能力を習得させる。

②上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

ア　各種統計調査

持続可能な開発目標（SDGs）は、「誰一人取り残さない」社会の実現を目指し、環境・社会・経済をめぐる広範な課題に世界全体が統合的に取り組むため、2015 年 9 月に国連で採択された『持続可能な開発のための 2030 アジェンダ』に掲げられたものである。SDGs 達成に向けた科学技術イノベーション（STI for SDGs）の推進のため、文部科学省は平成 30 年４月 17 日に「持続可能な開発目標達成のための科学技術イノベーション（STI for SDGs） の推進に関する基本方針」を策定した**【資料 13】**。その中で、「STI for SDGs の取組を継続的に充実・発展させていくためには、歴史的・国際的視点や地政学的な素養を有し、科学と国内外の政治・行政等の各セクターを越境しながら繋ぐことができる人材の育成・確保が必須である」と述べている。さらに、「人文・社会科学と自然科学との連携の重要性」について、「SDGs の達成は、社会、経済、制度、生活、価値観をも含めた様々な要素があいまって実現する面もあることから、人文・社会科学と自然科学との連携が重要である。加えて、地方創生の観点から、若年人口の減少などの持続性に係る課題解決に寄与するため、地域に自律的・持続的にイノベーションを生み出すシステムの構築が重要である」と続けている。

そして、具体的には、「ライフサイエンス分野」「環境エネルギー分野」「海洋地球分

野」「防災・減災分野」「人材育成」等の分野での取組が挙げられている。

サステナビリティは環境、社会、経済の３つの観点から世の中を持続可能にしていくという考えであり、国連サミットでSDGsが採択されて以降、世界的にサステナビリティに対する注目と関心が高まり、社会全体に広く浸透してきている。さらに、持続可能な開発目標（SDGs）推進本部が発表した「SDGs実施指針改定版」（平成28年12月発行、令和元年12月改定**【資料14】**によると、「それぞれの企業が経営戦略の中に SDGs を据え、個々の事業戦略に落とし込むことで、持続的な企業成長を図っていくことが重要である」とされている。そうした社会の変化に伴い、ESG（Environment（環境）・Social（社会）・Governance（ガバナンス））の企業における重要性は高まり、またESG投資の市場規模は年々拡大している。「Global Sustainable Investment Review 2020」によると、日本における2014年から2020年のESG投資額は168％増加している**【資料15】**。以上のことから、企業において環境的・社会的な観点で企業価値を高められるSDGsを担うサステナビリティ人材の確保が重要であるといえる。

本学科の教育課程は、①に挙げたとおり、「人類社会や地球環境のサステナビリティに対する深い理解に基づき、ソーシャルデザイン及び環境エンジニアリングの知識・方法・技術によって、サステナブルな世界の実現に貢献できる人材」の養成を目的としている。本学科の掲げる教育課程及びカリキュラムは、SDGs 実現のために必要な人材を輩出する学科であることから、養成する人材や教育目的が社会的、地域的人材需要の動向等を踏まえたものであるといえる。

イ　企業・関係機関等への採用意向調査

本学科生の卒業後の進路は、主に企業や国・自治体、NPOなどのサステナビリティ推進担当者、環境関連企業や製造業・サービス業の環境エンジニア、大学院進学等を想定している。そこで、本学科の育成する人材が活用できると考えられる企業の新卒採用人事担当者向けにアンケートを実施した**【資料16】**。本学科の基礎となる学科である工学部環境システム学科の卒業生の採用実績がある企業を中心に87社にアンケートを依頼し、52人から回答を得られた。回答結果によると、本学科に社会的ニーズが「ある」と回答した人事担当者が52人中32人（61.5％）、「多少はある」が16人（30.8％）であり、「ある」「多少ある」をあわせると92.3％であった。さらに、本学科で育成する人材を「採用したい」と回答した人事担当者が52人中21人（40.4％）、「採用してもよい」が29人（55.8％）であり、「採用したい」「採用してもよい」をあわせると96.2％となり、本学科卒業生への採用意向は高いといえる。また、「本学科で育成する人材は特にどの地域で必要だと考えるか」との質問には、52人中41人（78.8％）が「地域は問わない」と回答しており、SDGs 人材は東京をはじめとした首都圏のみならず、地方も含め広く全国で需要が見込まれているといえる**【資料17】**。

ウ　外国人留学生に関する卒業後の進路を踏まえた人材需要

本学科は、外国人留学生の入学も想定している。近年、本学の留学生の志願者数及び入学者数は増加傾向にある。また、2008 年に日本政府が策定した「留学生 30 万人計画」**【資料 18】**に基づき、本学及び本学科においても今後外国人留学生の増加を見込んでいる。コロナ禍の令和３年度入試においても、対前年比 110％の志願者数であった**【資料２】**。同時に外国人留学生の学部卒業生も増えており、平成 30 年度には 44 人、令和元年度には 90 人、令和２年度には 95 人が卒業し、うち平成 30 年度には 21 人(47.7％)、令和元年度には 40 人（44.4％)、そして令和２年度には 41 人（43.2％）が就職又は起業している。進学は平成 30 年度７人（15.9％)、令和元年度 12 人（13.3％)、そして令和２年度には９人（9.5％）であった。帰国を含む国外での就職・起業・進学は平成 30 年度１人（2.3％)、令和元年度６人（6.7％)、そして令和２年度には８人（8.4％）であった**【資料 19】**。

外国人留学生の卒業後の進路を踏まえ、本学では留学生向け「就職ガイダンス」「企業相談会」「先輩座談会」といった就職支援のイベントを開催している。本学科の外国人留学生に対してもこうした就職支援の取り組みを行うことで、サステナビリティ人材の需要に応えていく。

また、サステナブルな世界を実現するための具体的な課題を用いたプロジェクト型授業及び研究活動を行うことで、外国人留学生を含む学生が地域社会及び企業との連携・交流・人的ネットワークを深めるカリキュラム構成になっている。したがって、本学科の外国人留学生は、日本政府の掲げる「卒業生が日本社会に定着し活躍する」人材になり得ると考える。そのことから、本学科は、国内における外国人留学生の人材需要に対応しているといえる。

さらに、本学科の外国人留学生が国外での活躍を希望した場合でも、その需要は十分にあるといえる。持続可能な開発のための教育（ESD)推進の手引き**【資料 20】**によると、ESD は、「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」の目標 4「すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯教育の機会を促進する」のターゲット 4.7 に以下のとおり位置付けられている。

> 4.7　「2030　年までに、持続可能な開発のための教育及び持続可能なライフスタイル、人権、男女の平等、平和の文化及び非暴力の推進、グローバル・シチズンシップ、文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育を通して、全ての学習者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする。」

また、「ESD は、ターゲットの１つとして位置付けられているだけでなく、SDGs の 17 全ての目標の実現に寄与するものであることが 2017 年 12 月の第 74 回国連総会において確認されている」とされている。

このことから、本学科が育成する人材は、日本国内のみならず海外においても需要があり、外国人留学生の卒業後の進路も踏まえたものであるといえる。

以上のことから、本学科において育成する人材は社会的地域的な人材需要を踏まえたものであるといえる。

以　上

資料目次

資料１　武蔵野大学 既設学部の志願者等推移・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p．1
資料２　武蔵野大学 外国人留学生の志願者等推移・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p．2
資料３　令和元年度～令和３年度 出身高校都道府県別新入生数・・・・・・・・・・・・・・・・ p．3
資料４　人口動向(令和３年度学校基本調査より抜粋)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p．4
資料５　関係学科別大学入学状況（学校基本調査より抜粋）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p．5
資料６　近隣競合校 及び 偏差値上位校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p．6
資料７　武蔵野大学工学部サステナビリティ学科 アンケート説明資料・・・・・・・・・・ p．7
資料８　武蔵野大学工学部サステナビリティ学科についてのアンケート(高校生) p．8
資料９　高校生アンケートの結果・・ p．9
資料 10　武蔵野大学工学部サステナビリティ学科についてのアンケート（進路指導教員）・・・ p．11
資料 11　高校 進路指導教員向けアンケートの結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p．12
資料 12　オープンキャンパス予約者数、資料請求者数、実志願者数の推移・・・・・・ p．14
資料 13　持続可能な開発目標達成のための科学技術イノベーション（STI for SDGs）の推進に関する基本方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p．15
資料 14　SDGs 実施指針改定版・・ p．16
資料 15　Global Sustainable Investment Review 2020・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p．17
資料 16　武蔵野大学工学部サステナビリティ学科についてのアンケート（新卒採用人事担当者）・・ p．18
資料 17　企業・自治体等新卒採用担当者向けアンケートの結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p．19
資料 18　「留学生 30 万人計画」骨子の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p．21
資料 19　武蔵野大学 外国人留学生の卒業後の進路・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p．22
資料 20　持続可能な開発のための教育（ESD）推進の手引き・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p．23

学内資料（学外秘）のため省略する書類

１（書類等の題名）

武蔵野大学 既設学部の志願者数等推移（**【資料１】**）

２（出典）

本学大学入試センター事務課所持データ

３（その他の説明）

本内容は、学内資料（学外秘）であり、省略とする。

本文２、８ページ参照

武蔵野大学 外国人留学生の志願者数等推移

全学部学科合計

年度	志願者数（人）	合格者数（人）	入学者数（人）	志願者数対前年比率（%）
平成29年度	307	121	108	―
平成30年度	600	169	146	195%
令和元年度	628	195	167	105%
令和２年度	763	256	209	121%
令和３年度	839	284	199	110%

工学部環境システム学科

年度	志願者数（人）	合格者数（人）	入学者数（人）	志願者数対前年比率（%）
平成29年度	1	1	1	―
平成30年度	11	5	5	1100%
令和元年度	11	6	3	100%
令和２年度	14	7	6	127%
令和３年度	16	9	8	114%

データサイエンス学部データサイエンス学科

年度	志願者数（人）	合格者数（人）	入学者数（人）	志願者数対前年比率（%）
令和元年度	26	5	5	―
令和２年度	24	6	5	92%
令和３年度	33	12	10	138%

人間科学部人間科学科

年度	志願者数（人）	合格者数（人）	入学者数（人）	志願者数対前年比率（%）
平成29年度	7	7	7	―
平成30年度	53	19	18	757%
令和元年度	34	15	12	64%
令和２年度	77	24	19	226%
令和３年度	72	20	14	94%

学内資料（学外秘）のため省略する書類

１（書類等の題名）

令和元年度～令和３年度　出身高校都道府県別新入生数（**【資料３】**）

２（出典）

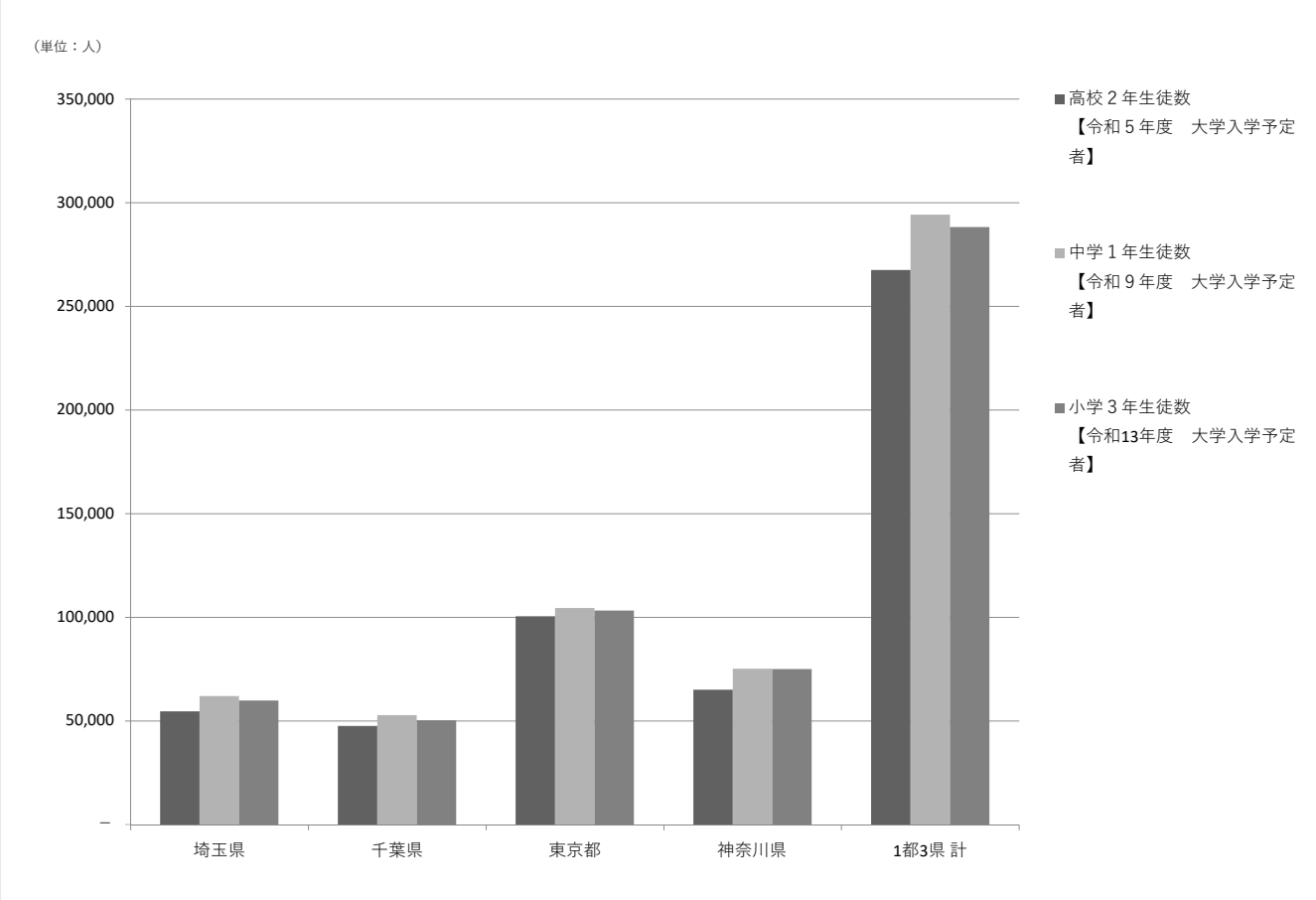
本学大学入試センター事務課所持データ

３（その他の説明）

本内容は、学内資料（学外秘）であり、省略とする。

人口動態（令和３年度学校基本調査より抜粋）

都県名	高校２年生徒数 【令和５年度　大学入学予定者】	中学１年生徒数 【令和９年度　大学入学予定者】	小学３年生徒数 【令和13年度　大学入学予定者】
埼玉県	54,535	61,963	59,827
千葉県	47,499	52,703	50,330
東京都	100,456	104,466	103,186
神奈川県	64,998	75,100	74,915
1都3県 計	267,488	294,232	288,258



資料５

本文３ページ参照

関係学科別大学入学状況（学校基本調査より抜粋）

「工学・その他」「社会科学・社会学」　平成29年度～令和３年度

分野	入学志願者（人）				
	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和２年度	令和３年度
工学・その他	151,157	163,263	183,488	190,193	176,723
社会科学・社会学	235,186	261,052	284,625	258,993	237,391
計	386,343	424,315	468,113	449,186	414,114

著作権者の許諾が得られない書類

１（書類等の題名）

近隣競合校 及び 偏差値上位校（**【資料６】**）

２（出典）

株式会社リクルートマーケティングパートナーズ

３（引用範囲）

「2020 年度一般入試・センター利用入試の傾向と分析【全体】」

分野系統別志願動向

第２章　分野系統別志願動向

４（その他の説明）

武蔵野大学工学部サステナビリティ学科の近隣競合校及び偏差値上位校の各年度の志願者数を引用し、志願者数を基に志願者倍率を算出した。

アンケートのお願い

武蔵野大学では令和5(2023)年4月、工学部サステナビリティ学科の開設を構想しています。本学科開設の参考としたく、以下の資料をお読みの上、アンケート回答にご協力をお願いいたします。

武蔵野大学工学部サステナビリティ学科

（令和５年設置構想中）

設置の理念／養成する人材像

【サステナビリティ／SDGsって？】
サステナビリティとは「持続可能性」のことです。環境・経済・社会の観点から、世界を持続可能なものにしていこう、という考えです。SDGs（持続可能な開発目標）は、環境を壊さず、資源を取り尽くさず、将来のために今の生活や社会をよりよいものに発展させていくための具体的な目標として、2015年に国連サミットで採択されたものです。

今、多くの国々、政府、企業、自治体などでこのSDGsの達成に向けた取り組みを進めています。
サステナビリティ学科では、SDGsを達成するために、どのような取り組みをしていくことが必要なのかを具体的に考え、取り組んでいくことができる人材を育成します。卒業後は、企業や自治体などでサステナビリティを推進したり、環境問題解決に向けた分析・研究を行うことを目指します。

特色１： SDGs を推進する２つの専門コース

ソーシャルデザインコース

サステナビリティ推進のための社会的仕組みのデザインや、それを実現するためのマネジメント手法について学びます。

目指す職業

企業、国・自治体、NPOなどでサステナビリティ推進のための新しい企画を提案するプランナー、プロジェクトを推進するコミュニケーター。

環境エンジニアリングコース

環境調査、分析、設計、シミュレーションなどの工学的技術やそれにもとづく環境評価・管理手法について学びます。

目指す職業

さまざまな環境問題を科学で解決する環境系の技術者・研究者として活躍する環境エンジニアリング人材。

特色２：実社会の課題に取り組むプロジェクト科目

グループや個人で、実社会の具体的な課題解決を目指す科目です。社会全体がキャンパスです！
〇実践型プロジェクト
　企業や地域社会と連携し、現実社会の課題を解決するプロジェクトを企画し、実施します。
〇 探求型プロジェクト
　サステナビリティに関する先進的テーマについて、調査研究活動、技術開発を行います。成果は学会発表や論文、企業への提案などとして外部へ発信します。

特色３：AIスキル科目

武蔵野大学の全学共通科目のAIスキル科目を履修します。
課題解決や分析に必要となる、データサイエンス、人工知能（AI）、プログラミングについて学ぶことができます。

学費・定員・交通アクセス

学費
（入学金、授業料等含む初年次納入金）

1,475,000円（予定）
※学費は現時点での予定であり、変更になる可能性があります

入学定員

70名

交通アクセス

有明キャンパス（東京都江東区）
りんかい線：国際展示場駅　徒歩7分
ゆりかもめ：東京ビッグサイト駅　徒歩6分

<競合他大学>
慶應義塾大学　環境情報学部環境情報学科
早稲田大学　創造理工学部環境資源工学科
法政大学　人間環境学部人間環境学科
芝浦工業大学　ｼｽﾃﾑ理工学部環境システム学科
東京都市大学　環境学部環境経営システム学科　など

高校生のみなさんへ

武蔵野大学工学部サステナビリティ学科についてのアンケート

武蔵野大学では令和5年（2023年）に工学部サステナビリティ学科の開設を構想しています。

本学の構想の参考とさせていただきたく、以下アンケートへの回答にご協力をお願いいたします。
なお、本アンケートの結果は工学部サステナビリティ学科開設の参考としてのみ利用し、それ以外の目的では利用いたしません。

本学科の概要をご覧いただいた上で、以下の質問にお答えください。

なお、アンケートはWEBからもご回答いただけます。
紙、WEBいずれかの方法でご回答くださいますよう、お願いいたします。

WEB回答フォーム（1月21日（金）まで）
https://forms.gle/dGJoDZgdRBhmhLbA8

問1．通っている高校の所在地を教えてください。

☐東京都　☐東京都以外の首都圏（茨城・千葉・埼玉・神奈川・栃木・群馬・山梨）　☐首都圏以外

問2．学年を教えてください。

☐高校1年生　☐高校2年生　☐高校3年生

問3．選択している（選択予定の）コース、もしくは目指す進路の分野を教えてください。

☐文系　☐理工系　☐その他（　　）

問4．武蔵野大学工学部サステナビリティ学科への入学を検討しますか。

☐入学したい　☐検討したい　☐あまり入学したくない　☐考えていない

問5．問4で「入学したい」もしくは「検討したい」と答えた方にお聞きします。
サステナビリティ学科に進学したら、将来は何になることを目指して勉強したいですか（複数回答可）。

☐ 企業や自治体において、環境対策やサステナビリティに関する企画・推進に携わりたい
☐ 環境系の専門企業で環境設計や環境分析に関する業務に携わりたい
☐ サステナビリティに関するNPOや新規事業を立ち上げたい
☐ 大学院に進学したい
☐ まだ分からないが、環境やサステナビリティに興味がある

ご協力ありがとうございました。

＜お問い合わせ＞
学校法人武蔵野大学 経営企画部法人企画課
TEL 03-5530-7404　平日のみ
E-Mail　kikaku@musashino-u.ac.jp

世界の幸せをカタチにする。
Creating Peace & Happiness for the World
武蔵野大学
Musashino University

高校生アンケートの結果

１．実施時期：令和３年 12 月 14 日～令和４年 1 月 31 日
２．対象：高校生（主に東京都の高校２年生）44 校
３．回答：高校生（主に東京都の高校２年生）5,275 人

４．アンケート結果

問１．通っている高校の所在地を教えてください。

回答	回答数	割合（%）
東京都	4,992	94.6%
東京都以外の首都圏（茨城・千葉・埼玉・神奈川・栃木・群馬・山梨）	9	0.2%
首都圏以外	274	5.2%
合計：	5,275	100%

問２．学年を教えてください。

回答	回答数	割合（%）
高校１年生	12	0.2%
高校２年生	5,249	99.5%
高校３年生	13	0.2%
無回答	1	0.0%
合計：	5,275	100%

問３．選択している（選択予定の）コース、もしくは目指す進路の分野を教えてください。

回答	回答数	割合（%）
文系	2,955	56.0%
理工系	1,909	36.2%
その他	411	7.8%
合計：	5,275	100%

問４．武蔵野大学工学部サステナビリティ学科への入学を検討しますか。

回答	回答数	割合（%）
入学したい	**51**	**1.0%**
検討したい	**330**	**6.3%**
あまり入学したくない	536	10.2%
考えていない	4,355	82.6%
無回答	3	0.1%
合計：	5,275	100%

問５．問４で「入学したい」もしくは「検討したい」と答えた方にお聞きします。サステナビリティ学科に進学したら、将来は何になることを目指して勉強したいですか（複数回答可）。

回答	回答数	割合（%）
企業や自治体において、環境対策やサステナビリティに関する企画・推進に携わりたい	116	24.4%
環境系の専門企業で環境設計や環境分析に関する業務に携わりたい	77	16.2%
サステナビリティに関する NPO や新規事業を立ち上げたい	41	8.6%
大学院に進学したい	51	10.7%
まだ分からないが、環境やサステナビリティに興味がある	177	37.2%
無回答	14	2.9%
合計：	476	100%

※割合（%）は小数点第２位で四捨五入しているため、各項目の合計が 100.0%にならない場合がある

進路指導の先生方へ

武蔵野大学工学部サステナビリティ学科についてのアンケート

武蔵野大学では令和５年（2023年）に工学部サステナビリティ学科の開設を構想しています。

本学の構想の参考とさせていただきたく、以下アンケートへの回答にご協力をお願いいたします。
なお、本アンケートの結果は工学部サステナビリティ学科開設の参考としてのみ利用し、それ以外の目的では利用いたしません。

本学科の概要をご覧いただいた上で、以下の質問にお答えください。

なお、アンケートはWEBからもご回答いただけます。
紙、WEBいずれかの方法でご回答くださいますよう、お願いいたします。

WEB回答フォーム（1月21日（金）まで）
https://forms.gle/LVehZFfrEwtmdv9x6

問１．貴校の所在地をお教えください。

☐東京都　☐東京都以外の首都圏（茨城・千葉・埼玉・神奈川・栃木・群馬・山梨）　☐首都圏以外

問２．新設するサステナビリティ学科の養成する人材像についてどのように評価されますか。

☐評価する　☐多少は評価する　☐あまり評価しない　☐評価しない

問３．当該学科における学修について、社会的ニーズがあるとお考えですか。

☐ある　☐多少はある　☐あまりない　☐ない

問４．当該学科への進学を勧めますか。

☐勧める　☐多少は勧める　☐あまり勧めない　☐勧めない

問５．当該学科に受験生の進学ニーズがあるとお考えですか。

☐ある　☐多少はある　☐あまりない　☐ない

ご協力ありがとうございました。

＜お問い合わせ＞
学校法人武蔵野大学 経営企画部法人企画課
TEL 03-5530-7404　平日のみ
E-Mail　kikaku@musashino-u.ac.jp

世界の幸せをカタチにする。
Creating Peace & Happiness for the World
武蔵野大学
Musashino University

高校 進路指導教員向けアンケートの結果

１．実施時期：令和３年 12 月 14 日～令和４年 1 月 31 日
２．対象：高校 進路指導教員　44 校
３．回答：高校 進路指導教員　73 人

（２）高校　進路指導教員

問１．貴校の所在地を教えてください。

東京都	61	83.6%
東京都以外の首都圏（茨城・千葉・埼玉・神奈川・栃木・群馬・山梨）	0	0%
首都圏以外	12	16.4%
合計：	73	100%

問２．新設するサステナビリティ学科の養成する人材像についてどのように評価されますか。

評価する	40	54.8%
多少は評価する	26	35.6%
あまり評価しない	4	5.5%
評価しない	3	4.1%
合計：	73	100%

問３．当該学科における学修について、社会的ニーズがあるとお考えですか。

ある	34	46.6%
多少はある	32	43.8%
あまりない	4	5.5%
ない	3	4.1%
合計：	73	100%

問４．当該学科への進学を勧めますか。

勧める	**14**	**19.2%**
多少は勧める	**40**	**54.8%**
あまり勧めない	14	19.2%
勧めない	4	5.5%
無回答	1	1.4%
合計：	73	100%

問５．当該学科に受験生の進学ニーズがあるとお考えですか。

ある	**18**	**24.7%**
多少はある	**44**	**60.3%**
あまりない	10	13.7%
ない	1	1.4%
合計：	73	100%

※割合（%）は小数点第２位で四捨五入しているため、各項目の合計が 100.0%にならない場合がある

学内資料（学外秘）のため省略する書類

１（書類等の題名）

オープンキャンパス予約者数、資料請求者数、実志願者数の推移（**【資料 12】**）

２（出典）

本学大学入試センター事務課所持データ

３（その他の説明）

本内容は、学内資料（学外秘）であり、省略とする。

持続可能な開発目標達成のための科学技術イノベーション（STI for SDGs）の推進に関する基本方針

平成３０年４月１７日
平成３０年８月３１日改訂
文　部　科　学　省

・STI for SDGs の取組を継続的に充実・発展させていくためには、歴史的・国際的視点や地政学的な素養を有し、科学と国内外の政治・行政等の各セクターを越境しながら繋ぐことができる人材の育成・確保が必須であること

○　また、STI for SDGs 施策を着実に推進するためには、それを担う人材の育成・確保が重要である。さらに、SDGs の達成は、社会、経済、制度、生活、価値観をも含めた様々な要素があいまって実現する面もあることから、人文・社会科学と自然科学との連携が重要である。加えて、地方創生の観点から、若年人口の減少などの持続性に係る課題解決に寄与するため、地域に自律的・持続的にイノベーションを生み出すシステムの構築が重要である。このため、これらを念頭に置いて検討を進める。

＜これまでの主な取組＞

○ライフサイエンス分野：感染症対策に資する海外研究拠点を活用した疫学研究や「顧みられない熱帯病」の予防、診断、創薬、治療法等の開発

○環境エネルギー分野：気候変動対策の基盤となる気候変動の予測からその影響に係る情報の創出までの科学的知見の創出・提供や革新的なエネルギー技術開発

○宇宙分野：国際機関との協力による洪水予警報システム構築、大気汚染監視、森林監視など衛星を活用した地球規模課題の解決に資する研究開発

○海洋地球分野：海洋の調査・観測技術等、海洋の適切な開発、利用及び管理を支える海洋科学技術の強化や、極域を含む全地球的な海洋調査

○防災・減災分野：全国をカバーする稠密な地震観測網の整備、地震・津波や火山、極端気象などの自然災害の予測技術の開発、官民の災害関連情報を収集、その情報の利活用手法の開発

○人材育成：若手研究者の育成、女性研究者や海外からの優れた研究者の活躍促進など科学技術イノベーションを担う多様な人材の育成・確保、次世代の STI を担う人材の育成

出展 https://www.mext.go.jp/a_menu/kagaku/kokusai/sdgs/__icsFiles/afieldfile/2018/08/31/1408737_2.pdf
（一部抜粋）

SDGs 実施指針改定版

平成 28 年 12 月 22 日
SDGs 推進本部決定
令和元年 12 月 20 日
一　部　改　定

（3）主なステークホルダーの役割

2030 アジェンダには、以下のように記されている。

「今日 2030 年への道を歩き出すのはこの『われら人民』である。我々の旅路は、政府、国会、国連システム、国際機関、地方政府、先住民、市民社会、ビジネス・民間セクター、科学者・学会、そしてすべての人々を取り込んでいくものである。」

上記のとおり、日本においても 2030 アジェンダの実施、モニタリング、フォローアップ・レビューに当たっては、省庁間や国と自治体の壁を越え、公共セクターと民間セクターの垣根も越えた形で、広範なステークホルダーとの連携を推進していくことが必要である。また、特定の社会課題への対応に当たっては、包摂性・参画型の原則を踏まえ、当事者団体の意見を十分に踏まえる必要がある。

ア　ビジネス

それぞれの企業が経営戦略の中に SDGs を据え、個々の事業戦略に落とし込むことで、持続的な企業成長を図っていくことが重要である。また、官民が連携し、企業が本業を含めた多様な取組を通じて SDGs 達成に貢献する機運を、国内外で醸成することが重要である。

出展 https://www.kantei.go.jp/jp/singi/sdgs/pdf/jisshi_shishin_r011220.pdf
（一部抜粋）

資料15
本文７ページ参照

FIGURE 3 **Growth of sustainable investing assets by region in local currency 2014-2020**

	2014	2016	2018	2020	GROWTH PER PERIOD GROWTH 2014-2016	GROWTH 2016-2018	GROWTH 2018-2020	COMPOUND ANNUAL GROWTH RATE (CARG) 2014-2020
Europe* (EUR)	€9,885	€11,045	€12,306	€10,730	12%	11%	-13%	1%
United States (USD)	$6,572	$8,723	$11,995	$17,081	33%	38%	42%	17%
Canada (CAD)	$1,011	$1,505	$2,132	$3,166	49%	42%	48%	21%
Australasia* (AUD)	$203	$707	$1,033	$1,295	248%	46%	25%	36%
Japan (JPY)	¥840	¥57,056	¥231,952	¥310,039	6,692%	307%	34%	168%

NOTE: Asset values are expressed in billions. New Zealand assets were converted to Australian dollars. In 2020, Europe includes Austria, Belgium, Bulgaria, Denmark, France, Germany, Greece, Italy, Spain, Netherlands, Poland, Portugal, Slovenia, Sweden, the UK, Norway, Switzerland, Liechtenstein. *Europe and Australasia have enacted significant changes in the way sustainable investment is defined in these regions, so direct comparisons between regions and with previous versions of this report are not easily made.

出展 http://www.gsi-alliance.org/wp-content/uploads/2021/08/GSIR-20201.pdf

企業等新卒採用責任者・ご担当者様

武蔵野大学工学部サステナビリティ学科についてのアンケート

武蔵野大学では令和５年（2023年）に工学部サステナビリティ学科の開設を構想しています。

本学の構想の参考とさせていただきたく、以下アンケートへの回答にご協力をお願いいたします。
なお、本アンケートの結果は工学部サステナビリティ学科開設の参考としてのみ利用し、それ以外の目的では利用いたしません。

本学科の概要をご覧いただいた上で、以下の質問にお答えください。

なお、アンケートはWEBからもご回答いただけます。
紙、WEBいずれかの方法でご回答くださいますよう、お願いいたします。

WEB回答フォーム（1月21日（金）まで）
https://forms.gle/Qqqb4qg3mLjEoxCj7

問1．新設するサステナビリティ学科の養成する人材像についてどのように評価されますか。

☐評価する　☐多少は評価する　☐あまり評価しない　☐評価しない

問2．当該学科における学修や養成する人材像について、社会的ニーズがあるとお考えですか。

☐ある　☐多少はある　☐あまりない　☐ない

問3．当該学科で育成する人材を、貴社で採用したいとお考えですか。

☐採用したい　☐採用してもよい　☐あまり採用したくない　☐採用する予定はない

問4．当該学科で育成する人材は特にどの地域で必要だとお考えですか。

☐東京及び首都圏　☐首都圏以外の地域　☐地域は問わない　☐必要ない

問5．（一般的に）卒業までに学生に特に身につけてほしい能力や資格はありますか。

（　　）

ご協力ありがとうございました。

＜お問い合わせ＞
学校法人武蔵野大学 経営企画部法人企画課
TEL 03-5530-7404　平日のみ
E-Mail　kikaku@musashino-u.ac.jp

世界の幸せをカタチにする。
Creating Peace & Happiness for the World
武蔵野大学
Musashino University

企業・自治体等新卒採用担当者向けアンケートの結果

１．実施時期：令和３年 12 月 14 日～令和４年１月 31 日
２．対象：企業・自治体等新卒採用担当者　87 社
３．回答：企業・自治体等新卒採用担当者　52 人

問１．新設するサステナビリティ学科の養成する人材像についてどのように評価されますか。

評価する	30	57.7%
多少は評価する	21	40.4%
あまり評価しない	0	0%
評価しない	0	0%
無回答	1	1.9%
合計：	52	100%

問２．当該学科における学修や養成する人材像について、社会的ニーズがあるとお考えですか。

ある	**32**	**61.5%**
多少はある	**16**	**30.8%**
あまりない	3	5.8%
ない	0	0%
無回答	1	1.9%
合計：	52	100%

問３．当該学科で育成する人材を、貴社で採用したいとお考えですか。

採用したい	**21**	**40.4%**
採用してもよい	**29**	**55.8%**
あまり採用したくない	0	0%
採用する予定はない	1	1.9%
無回答	1	1.9%
合計：	52	100%

問４．　当該学科で育成する人材は特にどの地域で必要だとお考えですか。

東京及び首都圏	8	15.4%
首都圏以外の地域	1	1.9%
地域は問わない	**41**	**78.9%**
必要ない	0	0%
無回答	2	3.8%
合計：	52	100%

※割合（%）は小数点第２位で四捨五入しているため、各項目の合計が 100.0%にならない場合がある

「留学生30万人計画」骨子の概要

ポイント

☆ 「グローバル戦略」展開の一環として2020年を目途に留学生受入れ30万人を目指す。
☆ 大学等の教育研究の国際競争力を高め、優れた留学生を戦略的に獲得。
☆ 関係省庁・機関等が総合的・有機的に連携して計画を推進

1. 日本留学への誘い

～日本留学への動機づけとワンストップサービスの展開～

母国であらゆる留学情報の入手を可能に！

○積極的留学情報発信
○留学相談強化
○海外での日本語教育の充実　など

大学等海外拠点 ―連携― 在外公館 ―連携― 独立行政法人海外事務所

2. 入試・入学・入国の入り口の改善

～日本留学の円滑化～

母国で入学手続きを可能に！

○大学の情報発信強化
○渡日前入学許可の推進
○各種手続きの渡日前決定促進
○大学の在籍管理徹底と入国審査等の簡素化　など

3. 大学等のグローバル化の推進

～魅力ある大学づくり～

国際色豊かなキャンパスに

○国際化拠点大学(30)の重点的育成
○英語のみによるコースの拡大
○ダブルディグリー、短期留学等の推進
○大学等の専門的な組織体制の強化　など

4. 受入れ環境づくり

～安心して勉学に専念できる環境への取組み～

○渡日1年以内は宿舎提供を可能に
○国費留学生制度等の改善・活用
○地域・企業等との交流支援・推進
○国内の日本語教育の充実
○留学生等への生活支援　など

宿舎　奨学金　交流支援　日本語　生活支援

5. 卒業・修了後の社会の受入れの推進

～日本の社会のグローバル化～

留学生の雇用の促進

○産学官が連携した就職支援や起業支援
○在留資格の明確化、在留期間の見直しの検討等
○帰国後のフォローアップの充実　など

企業 ―連携― 外務省・経済産業省・法務省・文部科学省・国土交通省・厚生労働省 ―連携― 地域

総合的有機的連携

留学

情報発信

情報発信

連携支援

連携

連携

就職

帰国

出展：https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/ryugaku/__icsFiles/afieldfile/2019/09/18/1420758_002.pdf

武蔵野大学 外国人留学生の卒業後の進路

卒業年度	外国人 学部卒業生数 （人）	全体			（うち国外）
		就職・起業 （人）	進学 （人）	その他 （人）※	就職・起業 ・進学 （人）
平成29年度	66	41	7	18	3
平成30年度	44	21	7	16	1
令和元年度	90	40	12	38	6
令和２年度	95	41	9	45	8

※その他：研究生・聴講生、家事従事・アルバイト、就職活動継続、各種試験再受験（公務員・教員等）、未定、不詳

持続可能な開発のための教育(ESD)
推進の手引

令和3年5月改訂

平成30年5月改訂

平成28年3月初版

文部科学省国際統括官付

日本ユネスコ国内委員会

出展 https://www.mext.go.jp/content/20210528-mxt_koktou01-100014715_1.pdf
（一部抜粋）

2. ESD の推進が求められる背景

■ SDGs の実現に貢献する ESD

ESD は、「地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて自ら行動を起こす力を身に付けるための教育」であると前述しましたが、これは、地球上で起きている様々な問題が、**遠い世界で起きていることではなく、自分の生活に関係していることを意識付けること**に力点をおくものです。地球規模の持続可能性に関わる問題は、地域社会の問題にもつながっています。だからこそ、**身近なところから行動を開始し、学びを実生活や社会の変容へとつなげることが ESD の本質**であり、グローバルとローカルが結びつくという感覚が重要となります。

この ESD は、2002 年の「持続可能な開発に関する世界首脳会議」で我が国が提唱した考え方であり、同年の第 57 回国連総会で採択された国際枠組み「国連持続可能な開発のための教育の 10 年」(2005-2014 年)や、2013 年の第 37 回ユネスコ総会で採択された「持続可能な開発のための教育(ESD)に関するグローバル・アクション・プログラム(GAP)」(2015-2019 年)に基づき、ユネスコを主導機関として国際的に取り組まれてきました。

2015 年 9 月にアメリカ合衆国・ニューヨークで実施された国連サミットにおいて、150 か国以上の首脳の参加により「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」が採択され、ここに「持続可能な開発目標(SDGs)」が掲げられました。これは、発展途上国のみならず先進国自身も取り組む 2016 年から 2030 年までの国際目標で、貧困や飢餓、エネルギー、気候変動、平和的社会など、持続可能な世界を実現するための 17 の目標と 169 のターゲットからなります。ESD は、このうち、目標 4「すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯教育の機会を促進する」のターゲット 4.7 に位置付けられました。

> 4.7 2030 年までに、**持続可能な開発のための教育**及び持続可能なライフスタイル、人権、男女の平等、平和の文化及び非暴力の推進、グローバル・シチズンシップ、文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育**を通して、全ての学習者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする**。

一方で、ESD は、ターゲットの 1 つとして位置付けられているだけでなく、**SDGs の 17 全ての目標の実現に寄与するもの**であることが 2017 年 12 月の第 74 回国連総会において確認されています。持続可能な社会の創り手を育成する ESD は、持続可能な開発目標を達成するために不可欠である質の高い教育の実現に貢献するものとされています。

別記様式第３号（その１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　　員　　名　　簿

学　長　の　氏　名　等						
調書番号	役職名	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	現　職 （就任年月）
－	学長	ニシモト　テルマ 西本　照真 ＜平成28年4月＞		博士 （文学）		武蔵野大学 学長 （平成28.4～令和6.3）

（注）　高等専門学校にあっては校長について記入すること。

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　員　の　氏　名　等

（工学部サステナビリティ学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
1	専	教授	ｶﾄﾞﾀ ﾏﾘｺ 門多　真理子 〈令和5年4月〉		農学博士		サステナビリティ学基礎B※	1①	1	1	武蔵野大学 工学部 環境システム学科 教授 (平成9.4)	5日
2	専	教授	ｼﾗｲ　ﾉﾌﾞｵ 白井　信雄 ＜令和5年4月＞		博士（工学）		サステナビリティ学と創造的学び	1①	1	1	山陽学園大学 地域ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ学部 教授 (平成30.4)	5日
							環境福祉学	2②	2	1		
							環境政策論	2③	2	1		
							持続可能な地域づくり論	2・3④	2	1		
							サステナビリティプロジェクト1	1後	4	1		
							サステナビリティプロジェクト2	2前	4	1		
							サステナビリティプロジェクト3	2後	4	1		
							サステナビリティプロジェクト4	3前	4	1		
							サステナビリティ研究1	3後	4	1		
							サステナビリティ研究2	4前	4	1		
							卒業論文	4後	4	1		
							サステナビリティ学社会実践演習A	1・2・3・4通	1	1		
							サステナビリティ学社会実践演習B	1・2・3・4通	1	1		
							サステナビリティ学社会実践演習C	1・2・3・4通	2	1		
							サステナビリティ学社会実践演習D	1・2・3・4通	2	1		
							サステナビリティ学社会実践演習E	1・2・3・4通	4	1		
							総合研究A	1・2・3・4通	1	1		
							総合研究B	1・2・3・4通	2	1		
							総合研究C	1・2・3・4通	4	1		
3	専	教授	ｼﾗﾄﾘ　ｶｽﾞﾋｺ 白鳥　和彦 〈令和5年4月〉		博士(経済学)		サステナブル経営論	2・3①	2	1	武蔵野大学 工学部 環境システム学科 教授 (令和2.4)	5日
							サステナビリティ戦略演習 ※	2・3②	1	1		
							カーボンマネジメント演習	2・3④	2	1		
							サステナビリティプロジェクト1	1後	4	1		
							サステナビリティプロジェクト2	2前	4	1		
							サステナビリティプロジェクト3	2後	4	1		
							サステナビリティプロジェクト4	3前	4	1		
							サステナビリティ研究1	3後	4	1		
							サステナビリティ研究2	4前	4	1		
							卒業論文	4後	4	1		
							サステナビリティ学社会実践演習A	1・2・3・4通	1	1		
							サステナビリティ学社会実践演習B	1・2・3・4通	1	1		
							サステナビリティ学社会実践演習C	1・2・3・4通	2	1		
							サステナビリティ学社会実践演習D	1・2・3・4通	2	1		
							サステナビリティ学社会実践演習E	1・2・3・4通	4	1		
							総合研究A	1・2・3・4通	1	1		
							総合研究B	1・2・3・4通	2	1		
							総合研究C	1・2・3・4通	4	1		
4	専	教授	ﾀｶﾊｼ ｶｽﾞｴ 髙橋　和枝 〈令和5年4月〉		博士（工学）		サステナビリティ思考入門※	2①	0.56	1	武蔵野大学 工学部 環境システム学科 教授 (平成29.4)	5日
							環境材料学	2・3③	2	1		
							ライフサイクルアセスメント論	2・3③	2	1		
							サステナビリティプロジェクト1	1後	4	1		
							サステナビリティプロジェクト2	2前	4	1		
							サステナビリティプロジェクト3	2後	4	1		
							サステナビリティプロジェクト4	3前	4	1		
							サステナビリティ研究1	3後	4	1		
							サステナビリティ研究2	4前	4	1		
							卒業論文	4後	4	1		
							サステナビリティ学社会実践演習A	1・2・3・4通	1	1		
							サステナビリティ学社会実践演習B	1・2・3・4通	1	1		
							サステナビリティ学社会実践演習C	1・2・3・4通	2	1		
							サステナビリティ学社会実践演習D	1・2・3・4通	2	1		
							サステナビリティ学社会実践演習E	1・2・3・4通	4	1		
							総合研究A	1・2・3・4通	1	1		
							総合研究B	1・2・3・4通	2	1		
							総合研究C	1・2・3・4通	4	1		

教　員　の　氏　名　等

（工学部サステナビリティ学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
5	専	教授	ﾐｻｶ ｲｸｾｲ 三坂　育正 〈令和5年4月〉		博士（工学）		サステナビリティ学基礎B※	1①	1	1	日本工業大学 建築学部 建築学科　教授 (平30.4)	5日
							環境気象学	2・3③	2	1		
							環境調査演習C	3②	2	1		
							持続可能技術特論２	2・3②	2	1		
							サステナビリティプロジェクト1	1後	4	1		
							サステナビリティプロジェクト2	2前	4	1		
							サステナビリティプロジェクト3	2後	4	1		
							サステナビリティプロジェクト4	3前	4	1		
							サステナビリティ研究1	3後	4	1		
							サステナビリティ研究2	4前	4	1		
							卒業論文	4後	4	1		
							サステナビリティ学社会実践演習A	1・2・3・4通	1	1		
							サステナビリティ学社会実践演習B	1・2・3・4通	1	1		
							サステナビリティ学社会実践演習C	1・2・3・4通	2	1		
							サステナビリティ学社会実践演習D	1・2・3・4通	2	1		
							サステナビリティ学社会実践演習E	1・2・3・4通	4	1		
							総合研究A	1・2・3・4通	1	1		
							総合研究B	1・2・3・4通	2	1		
							総合研究C	1・2・3・4通	4	1		
6	専	教授	ﾑﾗﾏﾂ ﾘｸｵ 村松　陸雄 〈令和5年4月〉		博士（工学）		サステナビリティ学と創造的学び	1①	1	1	武蔵野大学 工学部 環境システム学科 教授 (平成12.4)	5日
							環境心理学	2・3②	2	1		
							ESD論※	2・3④	1.14	1		
							サステナビリティプロジェクト1	1後	4	1		
							サステナビリティプロジェクト2	2前	4	1		
							サステナビリティプロジェクト3	2後	4	1		
							サステナビリティプロジェクト4	3前	4	1		
							サステナビリティ研究1	3後	4	1		
							サステナビリティ研究2	4前	4	1		
							卒業論文	4後	4	1		
							サステナビリティ学社会実践演習A	1・2・3・4通	1	1		
							サステナビリティ学社会実践演習B	1・2・3・4通	1	1		
							サステナビリティ学社会実践演習C	1・2・3・4通	2	1		
							サステナビリティ学社会実践演習D	1・2・3・4通	2	1		
							サステナビリティ学社会実践演習E	1・2・3・4通	4	1		
							サステナビリティ学総合演習	1・2・3・4通	1	1		
							総合研究A	1・2・3・4通	1	1		
							総合研究B	1・2・3・4通	2	1		
							総合研究C	1・2・3・4通	4	1		
7	専	准教授	ｱｶｼ ｵｻﾑ 明石　修 〈令和5年4月〉		博士（地球環境学）		サステナビリティ学と創造的学び	1①	1	1	武蔵野大学 工学部 環境システム学科 准教授 (平成24.4)	5日
							サステナビリティ学基礎A	1①	2	1		
							サステナビリティ思考入門※	2①	0.88	1		
							サステナビリティプロジェクト入門※	1②	1	1		
							サステナビリティプロジェクト1	1後	4	1		
							サステナビリティプロジェクト2	2前	4	1		
							サステナビリティプロジェクト3	2後	4	1		
							サステナビリティプロジェクト4	3前	4	1		
							サステナビリティ研究1	3後	4	1		
							サステナビリティ研究2	4前	4	1		
							卒業論文	4後	4	1		
							サステナビリティ学社会実践演習A	1・2・3・4通	1	1		
							サステナビリティ学社会実践演習B	1・2・3・4通	1	1		
							サステナビリティ学社会実践演習C	1・2・3・4通	2	1		
							サステナビリティ学社会実践演習D	1・2・3・4通	2	1		
							サステナビリティ学社会実践演習E	1・2・3・4通	4	1		
							サステナビリティ学総合演習	1・2・3・4通	1	1		
							総合研究A	1・2・3・4通	1	1		
							総合研究B	1・2・3・4通	2	1		
							総合研究C	1・2・3・4通	4	1		

教　員　の　氏　名　等

（工学部サステナビリティ学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
8	専	准教授	ｽｽﾞｷ　ﾅｵ 鈴木　菜央 ＜令和5年4月＞		学士（造形）		サステナビリティ学と創造的学び	1①	1	1	特定非営利活動法人グリーンズ代表理事（平成24.2）	5日
							ソーシャルデザイン事例研究	2・3①	2	1		
							サステナブルデザイン思考	2・3②	2	1		
							ソーシャルビジネス論	2・3④	2	1		
							コミュニティデザイン論	2・3③	2	1		
							サステナビリティプロジェクト1	1後	4	1		
							サステナビリティプロジェクト2	2前	4	1		
							サステナビリティプロジェクト3	2後	4	1		
							サステナビリティプロジェクト4	3前	4	1		
							サステナビリティ研究1	3後	4	1		
							サステナビリティ研究2	4前	4	1		
							卒業論文	4後	4	1		
							サステナビリティ学社会実践演習A	1・2・3・4通	1	1		
							サステナビリティ学社会実践演習B	1・2・3・4通	1	1		
							サステナビリティ学社会実践演習C	1・2・3・4通	2	1		
							サステナビリティ学社会実践演習D	1・2・3・4通	2	1		
							サステナビリティ学社会実践演習E	1・2・3・4通	4	1		
							総合研究A	1・2・3・4通	1	1		
							総合研究B	1・2・3・4通	2	1		
							総合研究C	1・2・3・4通	4	1		
9	専	准教授	ﾏﾅｶﾞｷ ｻﾄｼ 真名垣　聡 〈令和5年4月〉		博士(農学)		サステナビリティ思考入門※	2①	0.56	1	武蔵野大学工学部環境システム学科准教授（平成25.4）	5日
							環境地球化学	2②	2	1		
							環境分析化学	2・3②	2	1		
							環境調査演習A	3①	2	1		
							サステナビリティリスク学	2・3④	2	1		
							サステナビリティプロジェクト1	1後	4	1		
							サステナビリティプロジェクト2	2前	4	1		
							サステナビリティプロジェクト3	2後	4	1		
							サステナビリティプロジェクト4	3前	4	1		
							サステナビリティ研究1	3後	4	1		
							サステナビリティ研究2	4前	4	1		
							卒業論文	4後	4	1		
							サステナビリティ学社会実践演習A	1・2・3・4通	1	1		
							サステナビリティ学社会実践演習B	1・2・3・4通	1	1		
							サステナビリティ学社会実践演習C	1・2・3・4通	2	1		
							サステナビリティ学社会実践演習D	1・2・3・4通	2	1		
							サステナビリティ学社会実践演習E	1・2・3・4通	4	1		
							総合研究A	1・2・3・4通	1	1		
							総合研究B	1・2・3・4通	2	1		
							総合研究C	1・2・3・4通	4	1		
10	専	講師	ｲﾄｷ　ｹｲｺ 伊尾木　慶子 〈令和5年4月〉		博士(農学)		環境保全生態学	2①	2	1	武蔵野大学工学部環境システム学科講師（平成31.4）	5日
							生物多様性保全特論※	3②	0.58	1		
							GIS・測量演習	2・3①	2	1		
							環境調査演習B※	2・3②	1	1		
							サステナビリティプロジェクト1	1後	4	1		
							サステナビリティプロジェクト2	2前	4	1		
							サステナビリティプロジェクト3	2後	4	1		
							サステナビリティプロジェクト4	3前	4	1		
							サステナビリティ研究1	3後	4	1		
							サステナビリティ研究2	4前	4	1		
							卒業論文	4後	4	1		
							サステナビリティ学社会実践演習A	1・2・3・4通	1	1		
							サステナビリティ学社会実践演習B	1・2・3・4通	1	1		
							サステナビリティ学社会実践演習C	1・2・3・4通	2	1		
							サステナビリティ学社会実践演習D	1・2・3・4通	2	1		
							サステナビリティ学社会実践演習E	1・2・3・4通	4	1		
							総合研究A	1・2・3・4通	1	1		
							総合研究B	1・2・3・4通	2	1		
							総合研究C	1・2・3・4通	4	1		

教　員　の　氏　名　等

（工学部サステナビリティ学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
11	専	講師	ｲｿﾍﾞ ﾀｶﾕｷ 磯部　孝行 〈令和5年4月〉		博士（環境学）		資源循環論 環境統計学※ CAD演習 資源循環マネジメント演習 サステナビリティプロジェクト1 サステナビリティプロジェクト2 サステナビリティプロジェクト3 サステナビリティプロジェクト4 サステナビリティ研究1 サステナビリティ研究2 卒業論文 サステナビリティ学社会実践演習A サステナビリティ学社会実践演習B サステナビリティ学社会実践演習C サステナビリティ学社会実践演習D サステナビリティ学社会実践演習E サステナビリティ学総合演習 総合研究A 総合研究B 総合研究C	1④ 2① 2・3① 2・3③ 1後 2前 2後 3前 3後 4前 4後 1・2・3・4通 1・2・3・4通 1・2・3・4通 1・2・3・4通 1・2・3・4通 1・2・3・4通 1・2・3・4通 1・2・3・4通 1・2・3・4通	2 0.28 2 2 4 4 4 4 4 4 4 1 1 2 2 4 1 1 2 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	武蔵野大学 工学部 環境システム学科 講師 (平成28.4)	5日
12	兼担	教授	ｱﾙﾊﾞｰﾄ ﾁｬｰﾙｽﾞ ﾐｭﾗｰ ALBERT CHARLES MULLER 〈令和5年4月〉		文学博士		ＳＤＧｓ発展２ 全学教養ゼミナール１	1③ 1①～②	1 2	1 1	武蔵野大学 経営学部 教授 (平成31.4)	
13	兼担	教授	ｲ ﾋｮﾝｼﾞｭﾝ 李　賢晙 〈令和6年4月〉		博士(学術)		韓国語発展１ 韓国語発展２	2①～② 2①～②	1 1	1 1	武蔵野大学 人間科学部 教授 (令和3.4)	
14	兼担	教授	ｲﾁﾉｾ ﾏｻｷ 一ノ瀬　正樹 〈令和5年4月〉		博士（文学）		ＳＤＧｓ基礎	1①	1	1	武蔵野大学 人間科学部 教授 (平成30.4)	
15	兼担	教授	ｲｼｶﾞﾐ ｶｽﾞﾉﾘ 石上　和敬 〈令和5年4月〉		博士(文学)		ＳＤＧｓ発展３ 全学教養ゼミナール１	1④ 1①～②	1 2	1 1	武蔵野大学 経営学部 教授 (平成17.4)	
16	兼担	教授	ｲﾜﾀ ｺｳｿﾞｳ 岩田　弘三 〈令和5年4月〉		博士(教育学)		ＳＤＧｓ発展１ ＳＤＧｓ発展２ ＳＤＧｓ発展３	1② 1③ 1④	1 1 1	1 1 1	武蔵野大学 人間科学部 教授 (平成10.4)	
17	兼担	教授	ｳｴｵｶ ﾏﾅﾌﾞ 上岡　学 〈令和5年4月〉		修士（教育学）		武蔵野市自由講座※	1③～④	0.32	1	武蔵野大学 教育学部 教授 (平成20.4)	
18	兼担	教授	ｳﾙｼﾊﾗ ﾄｵﾙ 漆原　徹 〈令和5年4月〉		博士(史学)		ＳＤＧｓ発展２	1③	1	1	武蔵野大学 文学部 教授 (平成22.4)	
19	兼担	教授	ｴﾝﾄﾞｳ ﾕｳｽｹ 遠藤　祐介 〈令和6年4月〉		博士（文学）		中国語発展１ 中国語発展２	2①～② 2①～②	1 1	1 1	武蔵野大学 ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ学部 教授 (平成23.4)	
20	兼担	教授	ｵｵﾐ ﾄｼﾋﾛ 碧海　寿広 〈令和5年4月〉		社会学博士		日本事情 ＳＤＧｓ基礎 全学教養ゼミナール１	1③～④ 1① 1①～②	2 1 2	1 1 1	武蔵野大学 文学部 教授 (平成31.4)	
21	兼担	教授	ｵｵﾔﾏ ﾐﾁｺ 大山　みち子 〈令和5年4月〉		修士（教育学）※		ＳＤＧｓ基礎	1①	1	1	武蔵野大学 人間科学部 教授 (平成12.4)	
22	兼担	教授	ｶｾ ﾖｼｵ 加瀬　義夫 〈令和5年4月〉		薬学博士		ＳＤＧｓ発展３	1④	1	1	武蔵野大学 薬学部 教授 (平成29.4)	
23	兼担	教授	ｶﾄｳ ﾐﾁｺ 加藤　みち子 〈令和5年4月〉		博士（哲学）		全学教養ゼミナール１	1①～②	2	1	武蔵野大学 教授 (平成31.4)	
24	兼担	教授	ｶﾐﾊﾞﾔｼ ﾉﾘﾕｷ 上林　憲行 〈令和6年4月〉		工学博士		人工知能技術と社会 サービスデザイン 人工知能実践プロジェクト	2③～④ 2④ 3①～②	1 1 2	1 1 1	武蔵野大学 ﾃﾞｰﾀｻｲｴﾝｽ学部 教授 (平成30.4)	
25	兼担	教授	ｺﾆｼ ﾀｶｺ 小西　聖子 〈令和5年4月〉		博士（医学）		ＳＤＧｓ基礎	1①	1	1	武蔵野大学 人間科学部 教授 (平成11.4)	
26	兼担	教授	ｺﾆｼ ﾀﾂﾔ 小西　達也 〈令和5年4月〉		博士（教育学）		ＳＤＧｓ発展１	1②	1	1	武蔵野大学 看護学部 教授 (平成25.4)	
27	兼担	教授	ｻｸﾗｲ ﾁｶｺ 櫻井　千佳子 〈令和5年4月〉		・Master of Education【米国】(教育学) ・修士(文学)※		武蔵野市自由講座※	1③～④	0.14	1	武蔵野大学 ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ学部 教授 (平成21.4)	

教　員　の　氏　名　等

（工学部サステナビリティ学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
28	兼担	教授	ｽｶﾞﾜﾗ ｶﾂﾔ 菅原　克也 〈令和5年4月〉		文学修士 ※		フランス語発展１ フランス語発展２ ドイツ語発展１ ドイツ語発展２ スペイン語発展１ スペイン語発展２ 全学教養ゼミナール２	2①～② 2①～② 2①～② 2①～② 2①～② 2①～② 1③～④	1 1 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1	武蔵野大学 ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ学部 教授 (平成31.4)	
29	兼担	教授	ﾀｶｾ ﾋｻｼ 高瀬　央 〈令和5年4月〉		修士（商学）※		ＳＤＧｓ発展３	1④	1	1	武蔵野大学 経営学部 教授 (平成23.4)	
30	兼担	教授	ﾅｶﾞｲ ﾅｵﾐ 永井　尚美 〈令和5年4月〉		博士(薬学)		ＳＤＧｓ発展３	1④	1	1	武蔵野大学 薬学部 教授 (平成29.4)	
31	兼担	教授	ﾅｶｺﾞﾐ ｹｲｲﾁ 中込　啓一 〈令和5年4月〉		博士（薬学）、Doctor of Pharmacy【米国】		ＳＤＧｓ発展１ ＳＤＧｓ発展２ ＳＤＧｓ発展３	1② 1③ 1④	1 1 1	1 1 1	武蔵野大学 薬学部 教授 (平成18.4)	
32	兼担	教授	ﾅﾏｲ ﾘｮｳｼﾞ 生井　亮司 〈令和5年4月〉		博士(美術)		武蔵野市自由講座※	1③～④	0.14	1	武蔵野大学 教育学部 教授 (平成22.4)	
33	兼担	教授	ﾊﾔｼ　ｺｳｲﾁ 林　浩一 〈令和5年4月〉		博士（工学）		情報技法基礎 情報技法発展Ａ 情報技法発展Ｂ 情報技法発展Ｃ	1③・④ 2①・② 2②～③ 2②～③	1 1 1 1	1 1 1 1	武蔵野大学 ﾃﾞｰﾀｻｲｴﾝｽ学部 教授 (令和2.4)	
34	兼担	教授	ﾋｼﾞｶﾀ ﾀｶｵ 土方　貴雄 〈令和5年4月〉		博士（医学）		ＳＤＧｓ発展２	1③	1	1	武蔵野大学 薬学部 教授 (平成16.4)	
35	兼担	教授	ﾋｸﾞﾁ ﾉﾎﾞﾙ 樋口　昇 〈令和5年4月〉		教育学士		武蔵野市自由講座※	1③～④	0.14	1	武蔵野大学 教育学部 教授 (平成30.4)	
36	兼担	教授	ﾋﾛﾔ ｺｳ 廣谷　功 〈令和5年4月〉		薬学博士		ＳＤＧｓ発展２	1③	1	1	武蔵野大学 薬学部 教授 (平成23.4)	
37	兼担	教授	ﾏﾙｲ ﾋﾛｼ 丸井　浩 〈令和5年4月〉		博士（文学）		全学教養ゼミナール１	1①～②	2	1	武蔵野大学 経済学部 教授 (平成30.4)	
38	兼担	教授	ﾐﾉﾜ ｼﾞｭﾝｺ 箕輪　潤子 〈令和5年4月〉		修士（教育学）※		武蔵野市自由講座※	1③～④	0.14	1	武蔵野大学 教育学部 教授 (平成29.4)	
39	兼担	教授	ﾔﾏﾀﾞ ﾋﾄｼ 山田　均 〈令和5年4月〉		博士（文学）		フィールド・スタディーズ フィールド・スタディーズ１ フィールド・スタディーズ２ フィールド・スタディーズ３ フィールド・スタディーズ４ フィールド・スタディーズ発展１Ａ フィールド・スタディーズ発展１Ｂ フィールド・スタディーズ発展１Ｃ フィールド・スタディーズ発展１Ｄ フィールド・スタディーズ発展２Ａ フィールド・スタディーズ発展２Ｂ フィールド・スタディーズ発展２Ｃ フィールド・スタディーズ発展２Ｄ フィールド・スタディーズ発展２Ｅ フィールド・スタディーズ発展３Ａ フィールド・スタディーズ発展３Ｂ フィールド・スタディーズ発展３Ｃ フィールド・スタディーズ発展３Ｄ フィールド・スタディーズ発展３Ｅ フィールド・スタディーズ発展４Ａ フィールド・スタディーズ発展４Ｂ フィールド・スタディーズ発展４Ｃ フィールド・スタディーズ発展４Ｄ 全学教養ゼミナール１ 全学教養ゼミナール２	1休 1休 1休 1休 1休 1休 1休 1休 1休 2休 2休 2休 2休 2休 3休 3休 3休 3休 3休 4休 4休 4休 4休 1①～② 1③～④	1 1 2 3 4 1 2 3 4 1 2 3 4 5 1 2 3 4 5 1 2 3 4 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	武蔵野大学 経営学部 教授 (平成30.4)	
40	兼担	教授	ﾜﾀﾅﾍﾞ ｻﾄｼ 渡部　訓 〈令和6年4月〉		博士（経営学）		証券ビジネス論	2③～④	2	1	武蔵野大学 経営学部 教授 (平成22.4)	
41	兼担	教授	ﾜﾀﾅﾍﾞ ﾋﾛｼ 渡部　博志 〈令和6年4月〉		修士（経営学）※		ＳＤＧｓ特講 インターンシップ 企業協働プロジェクト	3①～② 2②～④ 2①～④	2 1 2	1 1 1	武蔵野大学 経営学部 教授 (平成23.4)	
42	兼担	准教授	ｲﾏﾌｸ ﾏｻﾋﾛ 今福　理博 〈令和5年4月〉		博士（教育学）		武蔵野市自由講座※	1③～④	0.14	1	武蔵野大学 教育学部 准教授 (平成30.4)	
43	兼担	准教授	ｵﾉ ｹﾝﾀﾛｳ 小野　健太郎 〈令和5年4月〉		修士（教育学）		武蔵野市自由講座※	1③～④	0.14	1	武蔵野大学 教育学部 准教授 (平成30.4)	
44	兼担	准教授	ｶﾐﾖｼ ｳｲﾁ 神吉　宇一 〈令和5年4月〉		言語文化学修士		ＳＤＧｓ発展１	1②	1	1	武蔵野大学 ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ学部 准教授 (平成28.4)	

教　員　の　氏　名　等

（工学部サステナビリティ学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
45	兼担	准教授	ｷｮｳ ｾｯｹﾂ 姜　雪潔 〈令和5年4月〉		博士(商学)		ＳＤＧｓ発展３	1④	1	1	武蔵野大学 経営学部 准教授 (平成30.4)	
46	兼担	准教授	ｻﾄｳ ｶﾂｼ 佐藤　克士 〈令和5年4月〉		博士（学校教育学）		武蔵野市自由講座※	1③～④	0.14	1	武蔵野大学 教育学部 准教授 (平成29.4)	
47	兼担	准教授	ﾀｶﾏｷ ｴﾘ 高牧　恵里 〈令和5年4月〉		修士（教育学）		武蔵野市自由講座※	1③～④	0.14	1	武蔵野大学 教育学部 准教授 (昭和60.4)	
48	兼担	准教授	ﾄｳｺﾞｳ ﾕﾀｶ 東郷　裕 〈令和5年4月〉		修士（文学）※		英語基礎Ａ 英語基礎Ｃ 英語発展Ａ 英語発展Ｂ 英語発展Ｃ 英語発展Ｄ 英語綜合Ａ 英語綜合Ｂ	1①～② 1③～④ 2①～② 2①～② 2③～④ 2③～④ 3①～② 3③～④	2 2 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	武蔵野大学 経済学部 准教授 (平成29.4)	
49	兼担	准教授	ﾅｶﾑﾗ ﾀｷﾞﾙ 中村　太戯留 〈令和5年4月〉		博士（学術）		メディアリテラシー データサイエンス活用１ データサイエンス活用２ メディアデザイン	1③・④ 2④ 2④ 2④	1 1 1 1	1 1 1 1	武蔵野大学 ﾃﾞｰﾀｻｲｴﾝｽ学部 准教授 (平成31.1)	
50	兼担	准教授	ﾆｲｻｸ ﾖｼｱｷ 新作　慶明 〈令和5年4月〉		博士（文学）		全学教養ゼミナール１	1①～②	2	1	武蔵野大学 経営学部 准教授 (平成27.4)	
51	兼担	准教授	ﾊﾂｶﾞｲ ｶｽﾞﾕｷ 初谷　和行 〈令和5年4月〉		修士（教育学）		武蔵野市自由講座※	1③～④	0.14	1	武蔵野大学 教育学部 准教授 (平成28.4)	
52	兼担	准教授	ﾋﾉ ｴｳﾝ 日野　慧運 〈令和5年4月〉		博士(文学)		仏教（生き方を考える）基礎	1③～④	2	1	武蔵野大学 人間科学部 准教授 (平成27.4)	
53	兼担	准教授	ﾋﾗﾀ ｼｭｳ 平田　秀 〈令和5年4月〉		博士（文学）		日本語基礎Ａ 日本語基礎Ｂ 日本語基礎Ｃ 日本語基礎Ｄ 日本語発展Ａ 日本語発展Ｂ 日本語発展Ｃ 日本語発展Ｄ 全学教養ゼミナール２	1① 1② 1③ 1④ 2① 2② 2③ 2④ 1③～④	1 1 1 1 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	武蔵野大学 ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ学部 准教授 (令和2.1)	
54	兼担	准教授	ﾏﾂｵｶ ﾋﾛｶｽﾞ 松岡　佑和 〈令和5年4月〉		博士（経済学）		ＳＤＧｓ基礎	1①	1	1	武蔵野大学 経済学部 准教授 (平成28.4)	
55	兼担	准教授	ﾏﾅｶ ﾜｶｴ 間中　和歌江 〈令和5年4月〉		文学修士		英語発展Ａ 英語発展Ｂ 英語発展Ｃ 英語発展Ｄ 英語綜合Ａ 英語綜合Ｂ 留学準備１ 留学準備２	2①～② 2①～② 2③～④ 2③～④ 3①～② 3③～④ 1①～② 1①～②	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	武蔵野大学 人間科学部 准教授 (平成28.4)	
56	兼担	准教授	ﾜﾀﾅﾍﾞ ﾉﾘﾌﾐ 渡邊　紀文 〈令和6年4月〉		博士（政策・メディア）		プログラミング発展Ｂ 機械学習活用１ 機械学習活用２	2②～③ 2④ 2④	1 1 1	1 1 1	武蔵野大学 ﾃﾞｰﾀｻｲｴﾝｽ学部 准教授 (平成31.1)	
57	兼担	講師	ｱﾀﾞﾁ ﾐﾂｷﾞ 安達　光樹 〈令和5年4月〉		修士（教育学）		武蔵野市自由講座※	1③～④	0.14	1	武蔵野大学 教育学部 講師 (平成30.4)	
58	兼担	講師	ｵｵｻｷ ｱﾔﾉ 大崎　理乃 〈令和5年4月〉		博士(学術)		メディアリテラシー	1③・④	1	1	武蔵野大学 ﾃﾞｰﾀｻｲｴﾝｽ学部 講師 (令和3.9)	
59	兼担	講師	ｺﾂﾞｶ ﾀｶｼ 小塚　高志 〈令和5年4月〉		PhD in Renaissance Studies【英国】博士（ﾙﾈｻﾝｽ文化学）		ＳＤＧｓ発展１	1②	1	1	武蔵野大学 ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ学部 講師 (平成20.4)	
60	兼担	講師	ﾅｶﾞｵ ｼｹﾞｷ 長尾　重輝 〈令和5年4月〉		修士（文学）※		仏教（生き方を考える）発展 全学教養ゼミナール１	3①～② 1①～②	2 2	1 1	武蔵野大学 文学部 講師 (平成26.4)	
61	兼担	講師	ﾅｶﾑﾗ ﾂﾖｼ 中村　剛 〈令和5年4月〉		修士(コーチ学)		スポーツと身体科学 ※ フィールド・スポーツ	1①～② 2①～④	0.58 1	1 1	武蔵野大学 教育学部 講師 (平成19.4)	

教　員　の　氏　名　等

（工学部サステナビリティ学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
62	兼担	講師	ﾜﾀﾅﾍﾞ ﾋﾃﾞｵ 渡辺　英雄 〈令和5年4月〉		博士（教育学）		武蔵野市自由講座※	1③～④	0.14	1	武蔵野大学 教育学部 講師 (令和2.4)	
63	兼担	助教	ｴﾝｻﾞｷ ﾕｳｷ 圓崎　祐貴 〈令和5年4月〉		博士（工学）		プログラミング基礎 プログラミング発展Ａ	1③・④ 2①・②	1 1	1 1	武蔵野大学 ﾃﾞｰﾀｻｲｴﾝｽ学部 助教 (令和2.4)	
64	兼担	助教	ｵｶﾀﾞ ﾘｮｳﾀﾛｳ 岡田　龍太郎 〈令和5年4月〉		博士（工学）		プログラミング基礎 プログラミング発展Ａ ＳＤＧｓ発展３	1③・④ 2①・② 1④	1 1 1	1 1 1	武蔵野大学 ﾃﾞｰﾀｻｲｴﾝｽ学部 助教 (令和2.4)	
65	兼担	助教	ｹｲ ｽﾞｲ 卿　瑞 〈令和5年4月〉		博士（経済学）		ＳＤＧｓ発展１ ＳＤＧｓ発展２	1② 1③	1 1	1 1	武蔵野大学 経済学部 助教 (令和2.4)	
66	兼任	講師	ｱｵﾊﾞ ﾏｷ 青葉　真紀 〈令和5年4月〉		修士（体育学）		スポーツと身体科学 ※	1①～②	0.58	1	武蔵野大学 非常勤講師 (平成19.4)	
67	兼任	講師	ｱｷﾓﾄ ｶｽﾞﾐ 秋元　和美 〈令和5年4月〉		修士(文学)		ドイツ語基礎１ ドイツ語基礎２	1①～② 1③～④	1 1	1 1	武蔵野大学 非常勤講師 (平成6.4)	
68	兼任	講師	ｱﾘｴ ｶｽﾞﾐ 有江　和美 〈令和5年4月〉		修士号(映画学・MA:Film and Television) 修士号(メディアコミュニケーション学・MA:Media and Communications) 【英国】		英語基礎Ｂ 英語基礎Ｄ	1①～② 1③～④	1 1	1 1	武蔵野大学 非常勤講師 (平成29.4)	
69	兼任	講師	ｲ ﾑｴ 伊　夢瑛 〈令和6年4月〉		MPhil in Environmental Change and Management MA in Land Economics 【英国】		環境経済学	2・3③	2	1	日本外務省経済局政策課 デジタル専門員 (令和3.4)	
70	兼任	講師	ｳﾁﾀﾞ ｼﾞｭﾝｺ 内田　じゅん子 〈令和5年4月〉		文学修士 ※		中国語基礎１ 中国語基礎２	1①～② 1③～④	1 1	1 1	武蔵野大学 非常勤講師 (平成8.4)	
71	兼任	講師	ｵｵｸﾎﾞ ﾋﾛﾕｷ 大久保　寛之 〈令和5年4月〉		修士（健康スポーツ） 修士（スポーツ医学）		スポーツと身体科学 ※	1①～②	0.14	1	武蔵野大学 非常勤講師 (平成27.4)	
72	兼任	講師	ｵｸﾞﾏ ﾐﾄﾞﾘ 小熊　みどり 〈令和5年4月〉		修士（理学）		アカデミックスキル入門 環境統計学※	1② 2①	2 1.72	1 1	武蔵野大学 非常勤講師 (令和2.4)	
73	兼任	講師	ｵﾉ ｱﾔｺ 小野　綾子 〈令和5年4月〉		博士（文学）		日本語基礎Ａ 日本語基礎Ｂ 日本語基礎Ｃ 日本語基礎Ｄ	1① 1② 1③ 1④	1 1 1 1	1 1 1 1	武蔵野大学 非常勤講師 (平成31.4)	
74	兼任	講師	ｶｹﾞﾔﾏ ﾅｵﾐ 影山　なおみ 〈令和5年4月〉		修士（文学科学） ※		英語基礎Ａ 英語基礎Ｃ	1①～② 1③～④	2 2	1 1	武蔵野大学 非常勤講師 (平成30.4)	
75	兼任	講師	ｶｼﾞ ﾋﾛﾐ 鍛治　広真 〈令和5年4月〉		修士（文学）		日本語リテラシー	1②	1	1	武蔵野大学 非常勤講師 (令和3.4)	
76	兼任	講師	ｶﾏﾀ ｶﾉｺ 鎌田　華乃子 〈令和6年4月〉		Master of Public Administration 【米国】		シビックアクション論	2・3③	2	1	特定非営利活動法人コミュニティ・オーガナイジング・ジャパン 理事 (平成29.8)	
77	兼任	講師	ｶﾜｶﾐ ﾄﾖﾕｷ 川上　豊幸 〈令和6年4月〉		博士（経済学）		食とサステナビリティ	2・3②	2	1	武蔵野大学 非常勤講師 (平成22.9)	
78	兼任	講師	ｷﾉｼﾀ ｴﾂｺ 木下　悦子 〈令和5年4月〉		学士（日本語教育）		スポーツと身体科学 ※	1①～②	0.58	1	武蔵野大学 非常勤講師 (令和2.4)	

教　員　の　氏　名　等

（工学部サステナビリティ学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
79	兼任	講師	ｷﾑ ﾋｮﾝｽ 金　鉉洙 〈令和5年4月〉		修士（学術）		韓国語基礎１ 韓国語基礎２	1①～② 1③～④	1 1	1 1	武蔵野大学 非常勤講師 (平成23.4)	
80	兼任	講師	ｸﾎﾞﾀ ﾁｼｮｳ 久保田　智照 〈令和5年4月〉		学士（経済学）		スポーツと身体科学 ※	1①～②	0.14	1	武蔵野大学 非常勤講師 (令和2.9)	
81	兼任	講師	ｸﾗﾓﾁ ﾏｽｺ 倉持　益子 〈令和5年4月〉		応用言語学博士		日本語基礎Ａ 日本語基礎Ｂ 日本語基礎Ｃ 日本語基礎Ｄ	1① 1② 1③ 1④	1 1 1 1	1 1 1 1	武蔵野大学 非常勤講師 (平成31.4)	
82	兼任	講師	ｺｻﾞｷ ﾄﾓｺ 小嵜　とも子 〈令和5年4月〉		修士（比較文化）※		英語基礎Ａ 英語基礎Ｃ	1①～② 1③～④	2 2	1 1	武蔵野大学 非常勤講師 (平成31.4)	
83	兼任	講師	ｺﾀｼﾞﾏ ｱﾔｺ 古田島　綾子 〈令和5年4月〉		文学修士		英語基礎Ａ 英語基礎Ｃ	1①～② 1③～④	2 2	1 1	武蔵野大学 非常勤講師 (平成30.4)	
84	兼任	講師	ｺﾀﾆ ﾅﾂｺ 小谷　奈津子 〈令和5年4月〉		修士（仏文学）		フランス語基礎１ フランス語基礎２	1①～② 1③～④	1 1	1 1	武蔵野大学 非常勤講師 (平成23.4)	
85	兼任	講師	ｻｲ ｷﾝｴｲ 斉　金英 〈令和5年4月〉		修士（人文科学）		中国語基礎１ 中国語基礎２	1①～② 1③～④	1 1	1 1	武蔵野大学 非常勤講師 (平成23.4)	
86	兼任	講師	ｻｲﾄｳ ﾉﾘﾋﾄ 斉藤　憲仁 〈令和5年4月〉		学士（造形学）		データサイエンス基礎 人工知能基礎 情報技法基礎	1① 1② 1③・④	1 1 1	1 1 1	武蔵野大学 非常勤講師 (平成22.9)	
87	兼任	講師	ｻｸﾗｷﾞ ﾕｳｼ 桜木　祐之 〈令和6年4月〉		文化学士		社会調査法	2・3①	2	1	株式会社インテージ (平成25.10)	
88	兼任	講師	ｻﾄｳ ﾋﾃﾞｷ 佐藤　秀樹 〈令和6年4月〉		博士（農学）		ESD論※	2・3④	0.86	1	江戸川大学 社会学部現代社会学科 専任講師 (平成31.4)	
89	兼任	講師	ｻﾄｳ ﾗﾅ 佐藤　らな 〈令和5年4月〉		修士（文学）		日本語基礎Ａ 日本語基礎Ｂ 日本語基礎Ｃ 日本語基礎Ｄ	1① 1② 1③ 1④	1 1 1 1	1 1 1 1	武蔵野大学 非常勤講師 (令和3.4)	
90	兼任	講師	ｼﾐｽﾞ ｹﾝ 清水　謙 〈令和5年4月〉		学士（経済学）））		サステナビリティプロジェクト入門※	1②	1	1	武蔵野大学 非常勤講師 (平成30.4)	
91	兼任	講師	ｼﾓｶﾜ ﾏｲｺ 下川　舞子 〈令和5年4月〉		修士（文学研究）		英語基礎Ａ 英語基礎Ｃ 英語資格・検定試験対策１ 英語資格・検定試験対策２	1①～② 1③～④ 1①・② 1①・②・③	2 2 1 1	1 1 1 1	武蔵野大学 非常勤講師 (令和2.4)	
92	兼任	講師	ｼﾞﾝﾅｲ ﾕｳｼﾞ 陣内　雄次 〈令和5年4月〉		博士（学術）		サステナビリティ学特殊授業D	1・2・3・4通	1	1	武蔵野大学 非常勤講師 (令和2.4)	
93	兼任	講師	ｽｽﾞｷ ﾄﾓﾔ 鈴木　智也 〈令和7年4月〉		博士（理学）		生物多様性保全特論※	3②	1.42	1	武蔵野大学 非常勤講師 (平成29.6)	
94	兼任	講師	ﾀｶｷﾞ ｺｽﾓ 高木　超 〈令和5年4月〉		公共政策修士（専門職）		サステナビリティ学特殊授業C	1・2・3・4通	2	1	慶應義塾大学 政策・メディア研究科 特任助教 (令和2.4)	
95	兼任	講師	ﾀｶﾊｼ ﾄｵﾙ 高橋　徹 〈令和5年4月〉		修士（スポーツ健康科学）		スポーツと身体科学 ※	1①～②	0.58	1	武蔵野大学 非常勤講師 (平成31.4)	
96	兼任	講師	ﾀﾅｶ ﾀｲﾁ 田中　太一 〈令和5年4月〉		修士（文学）		日本語基礎Ａ 日本語基礎Ｂ 日本語基礎Ｃ 日本語基礎Ｄ	1① 1② 1③ 1④	1 1 1 1	1 1 1 1	武蔵野大学 非常勤講師 (平成31.4)	
97	兼任	講師	ﾀﾑﾗ ﾏｻｱｷ 田村　雅昭 〈令和5年4月〉		学士（経済学）		英語基礎Ａ 英語基礎Ｃ	1①～② 1③～④	2 2	1 1	武蔵野大学 非常勤講師 (平成13.4)	
98	兼任	講師	ﾁｮﾝ ｼﾞｬﾝﾌﾝ 鄭　長勲 〈令和5年4月〉		修士(学術)		韓国語基礎１ 韓国語基礎２	1①～② 1③～④	1 1	1 1	武蔵野大学 非常勤講師 (平成15.4)	
99	兼任	講師	ﾂﾁﾔ ﾘｮｳ 土屋　亮 〈令和5年4月〉		修士（文学）※		スペイン語基礎１ スペイン語基礎２	1①～② 1③～④	1 1	1 1	武蔵野大学 非常勤講師 (平成31.4)	
100	兼任	講師	ﾂﾙｵｶ ｻﾔｶ 鶴岡　彩香 〈令和5年4月〉		学術修士		英語基礎Ｂ 英語基礎Ｄ	1①～② 1③～④	1 1	1 1	武蔵野大学 非常勤講師 (令和3.4)	
101	兼任	講師	ﾂﾙﾀ ｼｮｳｲﾁﾛｳ 鶴田　祥一郎 〈令和6年4月〉		学士（環境情報学）		サステナビリティ戦略演習※ カーボンマネジメント演習	2・3② 2・3④	1 2	1 1	一般社団法人サステナブル経営推進機構 コンサルティング事業部 主任研究員 (令和2.4)	

教　員　の　氏　名　等

（工学部サステナビリティ学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
102	兼任	講師	ﾃﾗﾀﾞ ﾄﾓｺ 寺田　倫子 〈令和5年4月〉		学士（外国文化）		情報技法基礎	1③・④	1	1	武蔵野大学 非常勤講師 (平成23.9)	
103	兼任	講師	ﾄ ｷﾝﾌｳ 杜　金楓 〈令和5年4月〉		修士（日本語教育）※		中国語基礎１ 中国語基礎２	1①～② 1③～④	1 1	1 1	武蔵野大学 非常勤講師 (平成24.4)	
104	兼任	講師	ﾄｷﾜ ﾀｶｼ 常盤　隆 〈令和5年4月〉		文学士		武蔵野市自由講座※	1③～④	0.14	1	武蔵野大学 非常勤講師 (令和3.7)	
105	兼任	講師	ﾅｼﾓﾄ ｷｼｺ 梨本　貴志子 〈令和5年4月〉		学士（文学）		英語基礎Ａ 英語基礎Ｃ	1①～② 1③～④	2 2	1 1	武蔵野大学 非常勤講師 (平成13.4)	
106	兼任	講師	ﾆｼﾀﾞ ﾖｼｺ 西田　佳子 〈令和5年4月〉		文学士		英語基礎Ａ 英語基礎Ｃ	1①～② 1③～④	2 2	1 1	武蔵野大学 非常勤講師 (平成30.4)	
107	兼任	講師	ﾈｶﾞﾐ ｱｷﾗ 根上　明 〈令和5年4月〉		農学士		サステナビリティ学特殊授業E	1・2・3・4通	1	1	武蔵野大学 非常勤講師 (平成22.4)	
108	兼任	講師	ﾊｼﾓﾄ ｼﾞｭﾝｼﾞ 橋本　淳司 〈令和6年4月〉		文学士		水とサステナビリティ	2・3①	2	1	武蔵野大学 非常勤講師 (平成27.4)	
109	兼任	講師	ﾊｾｶﾞﾜ ﾀｶｺ 長谷川　孝子 〈令和5年4月〉		Master of Applied Japanese Linguistics【豪州】		日本語基礎Ｂ 日本語基礎Ｃ 日本語基礎Ｄ	1② 1③ 1④	1 1 1	1 1 1	武蔵野大学 非常勤講師 (平成31.4)	
110	兼任	講師	ﾊﾝﾀﾞ ﾘｮｳﾀ 半田　涼太 〈令和5年4月〉		修士（文学）		英語基礎Ｂ 英語基礎Ｄ	1①～② 1③～④	1 1	1 1	武蔵野大学 非常勤講師 (令和2.4)	
111	兼任	講師	ﾌｼﾞｲ ﾚｲﾅ 藤井　礼奈 〈令和5年4月〉		地域研究修士※		スペイン語基礎１ スペイン語基礎２	1①～② 1③～④	1 1	1 1	武蔵野大学 非常勤講師 (平成28.4)	
112	兼任	講師	ﾌｼﾞｶﾜ ﾄﾓｺ 藤川　智子 〈令和5年4月〉		修士（文学）		韓国語基礎１ 韓国語基礎２	1①～② 1③～④	1 1	1 1	武蔵野大学 非常勤講師 (平成18.4)	
113	兼任	講師	ﾌｾ ﾓﾄｲ 布施　元 〈令和5年4月〉		博士（学術）		環境倫理・環境正義	1②	2	1	武蔵野大学 非常勤講師 (平成27.4)	
114	兼任	講師	ﾌﾞﾌ ｽﾃﾌｧﾝ Boeuf Stephane 〈令和5年4月〉		博士（生物学）		英語基礎Ｂ 英語基礎Ｄ	1①～② 1③～④	1 1	1 1	武蔵野大学 非常勤講師 (平成29.7)	
115	兼任	講師	ﾏｷﾊﾗ ﾕﾘｴ 牧原　百合江 〈令和5年4月〉		Master in Stratetig Leadership towards Sustainability【スウェーデン】		共創型リーダーシップ論 サステナビリティ学特殊授業B	2・3休 1・2・3・4通	2 2	1 1	武蔵野大学 非常勤講師 (令和2.5)	
116	兼任	講師	ﾏｽｻﾞﾜ ﾀﾀﾞｼ 増澤　直 〈令和6年4月〉		修士（教育学）		環境調査演習B※	2・3②	1	1	武蔵野大学 非常勤講師 (令和3.4)	
117	兼任	講師	ﾏﾂｳﾗ ﾋﾛｷ 松浦　廣樹 〈令和5年4月〉		修士（芸術学）		サステナビリティプロジェクト1 サステナビリティプロジェクト2 サステナビリティプロジェクト3 サステナビリティプロジェクト4	1後 2前 2後 3前	4 4 4 4	1 1 1 1	武蔵野大学 非常勤講師 (平成31.4)	
118	兼任	講師	ﾏﾂﾓﾄ ﾋﾃﾞｼ 松本　秀士 〈令和5年4月〉		博士（比較文明学）		中国語基礎１ 中国語基礎２	1①～② 1③～④	1 1	1 1	武蔵野大学 非常勤講師 (平成23.4)	
119	兼任	講師	ﾐｽﾞﾀﾆ（ﾀｶﾊﾞ） ｶｵﾘ 水谷（髙羽）　香織 〈令和6年4月〉		博士（工学）		交渉と合意形成	2・3③	2	1	パブリック・ハーツ株式会社 代表取締役 (平成18.6)	
120	兼任	講師	ﾐﾔﾀ ﾏｻﾋﾛ 宮田　真宏 〈令和5年4月〉		博士（工学）		情報技法基礎 プログラミング基礎	1③・④ 1③・④	1 1	1 1	武蔵野大学 非常勤講師 (令和1.9)	
121	兼任	講師	ﾓﾘ ﾏｻﾋﾛ 森　雅浩 〈令和6年4月〉		学士（社会科学）		ファシリテーション演習	2・3①	2	1	有限会社ビーネイチャー 代表取締役 (令和10.4)	
122	兼任	講師	ﾔﾏｼﾀ ﾉﾘｱｷ 山下　紀明 〈令和5年4月〉		修士（地球環境学）		環境エネルギー論	1③	2	1	武蔵野大学 非常勤講師 (令和2.4)	
123	兼任	講師	ﾔﾏｼﾀ ﾘｴｺ 山下　理恵子 〈令和5年4月〉		博士（言語文化）		英語基礎Ａ 英語基礎Ｃ	1①～② 1③～④	2 2	1 1	武蔵野大学 非常勤講師 (平成28.4)	
124	兼任	講師	ﾔﾏﾓﾄ ｴﾐﾘ 山本　恵弥里 〈令和5年4月〉		修士（体育学）※		スポーツと身体科学 ※	1①～②	0.58	1	武蔵野大学 非常勤講師 (平成24.4)	

教　員　の　氏　名　等

（工学部サステナビリティ学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
125	兼任	講師	ﾔﾏﾓﾄ ﾕｷ 山本　友紀 〈令和5年4月〉		博士(Doctor of Philosophy in Education)【米国】		英語基礎Ａ 英語基礎Ｃ	1①～② 1③～④	2 2	1 1	武蔵野大学 非常勤講師 (平成28.4)	
126	兼任	講師	ﾖｼﾀﾞ ｱﾔ 吉田　綾 〈令和6年4月〉		博士（工学）		サステナブルライフスタイル論	2・3④	2	1	国立研究開発法人国立環境研究所 資源循環領域　資源循環社会システム研究室 主任研究員 (平成27.4)	
127	兼任	講師	ﾜﾀﾞ ﾒｸﾞﾑ 和田　慈 〈令和5年4月〉		修士（文学）		日本語リテラシー	1②	1	1	武蔵野大学 非常勤講師 (平成26.4)	
128	兼任	講師	ﾌｸﾀﾆ ｱｷﾋﾛ 福谷　彰鴻(旭広) 〈令和6年4月〉		Master of Business Administration【英国】		システム思考と学習する組織	2・3③	2	1	Loohcs高等学院 特任講師 (令和3.4)	
129	兼任	講師	ﾊｾｶﾞﾜ ｻﾄｼ 長谷川　哲士 〈令和6年4月〉		学士（造形）		メディア表現演習	2・3②	2	1	武蔵野美術大学 非常勤講師 (令和2.4)	
130	兼任	講師	ﾋｴﾇｷ ｼｭﾝｲﾁ 稗貫　峻一 〈令和6年4月〉		博士（環境学）		持続可能技術特論１	2・3④	2	1	横浜国立大学 先端科学高等研究院 （リスク共生社会創造センター） IAS客員准教授 (平成30.4)	
131	兼任	講師	ﾜﾀﾅﾍﾞ ｲｻｵ 渡邉　功 〈令和5年4月〉		修士(サステイナビリティ学)		サステナビリティ学特殊授業A	1・2・3・4通	2	1	一般社団法人サステイナビリティ人材開発機構 事務局長 (平成30.8)	

（注）
1　教員の数に応じ，適宜枠を増やして記入すること。
2　私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合又は大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合は，この書類を作成する必要はない。
3　「申請に係る学部等に従事する週当たりの平均日数」の欄は，専任教員のみ記載すること。

別記様式第３号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

専任教員の年齢構成・学位保有状況

職　　位	学　　位	29 歳 以 下	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 歳 以 上	合　　計	備　　考
教　　授	博　　士	人	人	人	1人	2人	2人	人	5人	
	修　　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准 教 授	博　　士	人	人	1人	1人	人	人	人	2人	
	修　　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　　士	人	人	人	1人	人	人	人	1人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講　　師	博　　士	人	人	2人	人	人	人	人	2人	
	修　　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助　　教	博　　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修　　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合　　計	博　　士	人	人	3人	2人	2人	2人	人	9人	
	修　　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　　士	人	人	人	1人	人	人	人	1人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	

（注）
1　この書類は，申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。
2　この書類は，専任教員についてのみ，作成すること。
3　この書類は，申請又は届出に係る学部等の開設後，当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度における状況を記載すること。
4　専門職大学院若しくは専門職大学の前期課程を修了した者又は専門職大学又は専門職短期大学を卒業した者に対し授与された学位については，「その他」の欄にその数を記載し，「備考」の欄に，具体的な学位名称を付記すること。

別記様式第3号（その3）別添

（工学部　サステナビリティ学科）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏　名 〈就任予定年月〉	年齢	採用根拠等
3	専	教授	ｼﾗﾄﾘ　ｶｽﾞﾋｺ 白鳥　和彦 〈令和5年4月〉		学校法人武蔵野大学定年規程附則第15項 令和4年度第2回理事会（令和4年5月26日開催）にて承認